三重県埋蔵文化財調査報告　115－13

一般国道23号中勢道路（10工区）建設事業に伴う

# 蔵田遺跡発掘調査報告

1999・10

三重県埋蔵文化財センター

樽形瓲

噴砂

# 序

三重県の県庁所在地である津市は県の中央部に位置し、伊勢湾や鈴鹿山脈の豊かな自然環境と温暖な気候にも恵まれ、古来より多くの遺跡が営まれてきました。とくに安濃川左岸には、県内有数の弥生時代の遺跡である納所遺跡が所在しており、その豊富な出土品は全国的にも注目を集めています。

今回報告します蔵田遺跡は、納所遺跡の西方に位置しており一般国道23号中勢道路建設に先立って調査されたものです。蔵田遺跡からは弥生時代・古墳時代の集落をはじめ、自然流路や河道、またそれに付属する護岸施設や貯水施設が見つかり、当時から生活の場とされてきたことが明らかになりました。また条里地割に沿った平安時代末から鎌倉時代初頭頃の建物群の検出は、安濃川流域に行われた条里制を解明する上で貴重な成果と言えます。このような遺構や、初期須恵器をはじめ木製農具や建築部材など出土した遺物は、安濃川下流域の沖積地での当時の生活を知る上で重要な遺産と言えるでしょう。

遺跡は、現状保存が困難なため記録保存というかたちになりましたが、その記録を整理して報告書というかたちで世に公開することが私どもに課せられた重要な責務と考えています。今後、これらの成果が、各方面で活用されることを切に望んでやみません。

最後に、調査にあたり御協力いただいた関係諸機関および地元の皆様に厚くお礼申し上げますとともに、県民の皆様の文化財保護への一層の御理解や御協力を得られますことをお願い申し上げる次第です。

平成11年10月

三重県埋蔵文化財センター

所長　大井與生

# 例　　言

1．本書は、三重県津市納所町字蔵田ほかに所在する蔵田遺跡の発掘調査報告書である。

2．調査は、三重県教育委員会が建設省中部地方建設局から委託を受け、平成元年と平成７年に範囲確認調査を行い、平成６年度から平成８年度に本調査を実施した。また、整理・報告書作成業務は平成９年度から平成10年度にかけて行った。調査にかかる費用は、建設省中部地方建設局の全額負担によるものである。

3．調査の体制は下記のとおりである。
- 調査主体　三重県教育委員会
- 調査担当　三重県埋蔵文化財センター
- 調査協力　津市教育委員会　鈴鹿市教育委員会
- 現場作業　社団法人中部建設協会

4．蔵田遺跡の発掘調査は、平成元年度の範囲確認調査を浅生悦生・竹内英昭が、平成７年度の範囲確認調査を米山浩之が実施し、本調査は平成６年度に第１次調査を山本義浩・宮田勝功が、平成７年度に第２次調査を米山浩之・池端清行・宮田勝功が、平成８年度に第３次調査を米山浩之・山本義浩がそれぞれ担当した。市道部分の調査については、平成11年度以降に調査を予定している。

5．本書作成にかかる報文執筆者は、目次および文末にその氏名を記した。

6．発掘調査ならびに整理・報告書作成にあたっては、下記の方々に御指導・御教示を得ました。記して感謝の意を表します。（順不同・敬称略）

青木哲哉（立命館大学）・浅生悦生（津市立豊が丘小学校）・石野博信（徳島文理大学）・磯部克（県立松阪高校）・加藤元信　山田陽稔（三重県農業技術センター）・金原正明（天理大学付属天理参考館）・寒川　旭（通産省工業技術院地質調査所）・森　勇一（愛知県立明和高等学校）

7．蔵田遺跡については、すでに『一般国道23号中勢道路埋蔵文化財発掘調査概報』Ⅱ（三重県教育委員会・三重県埋蔵文化財センター　1990）および『同』Ⅶ～Ⅸ（三重県埋蔵文化財センター　1995～1997）、『中勢道路ニュース』№10・23・25・28に、その調査途中の概要を報告しているが、本書をもって正式報告とする。

8．本書に用いた地図および遺構実測図は、国土調査法の第Ⅵ座標系を基準とし、挿図の方位は全て座標北を示している。なお、当該遺跡の磁北は座標北からＮ６°30′Ｗ（平成４年）振れている。

9．本書で報告した記録および出土遺物は、三重県埋蔵文化財センターにおいて保管・管理している。

10．本書で用いた遺構表示略記号は、下記の通りである。なお遺構の名称・番号は、調査時点および調査途中の概報での呼称を踏襲せずに、新たに改称したものである。

ＳＡ　柱列　　ＳＢ　掘立柱建物　　ＳＤ　溝　　ＳＥ　井戸　　ＳＦ　焼土坑　　ＳＫ　土坑
ＳＲ　河道・自然流路　　Ｐit　柱穴・小穴　　ＳＺ　護岸施設・貯水施設・杭列

11．用語については、次の語句を用いた。
「つき」には、杯・坏があるが、杯を使用した。
「わん」には、碗・椀・碗があるが、山茶椀を陶器椀とし、灰釉陶器と共に椀を使用した。またこのほかの陶器製品や磁器製品には碗を使用した。

12．スキャニングによるデーター取り込みのため若干のひずみが生じています。
各図の縮尺率は、スケールバーを参照ください。

# 本 文 目 次


序
例言
目次
Ⅰ．前言 （米山・宮田） 1
1．調査にいたる経緯 1
2．調査の体制 1
3．調査の経過 4
4．調査の方法・遺構番号付与方法 6
5．記録・整理方法 6
6．調査日誌（抄） 6
Ⅱ．位置と環境 （宮田） 9
Ⅲ．地形と層序 （米山） 13
Ⅳ．縄文時代 （宮田） 21
Ⅴ．弥生時代 （米山） 23
1．掘立柱建物 23
2．柱列 27
3．方形周溝墓 27
4．焼土坑 31
5．土坑 31
6．溝・自然流路・杭列 36
7．小穴 38
8．包含層出土遺物 38
Ⅵ．古墳時代 （米山・宮田） 39
1．掘立柱建物 39
2．井戸 41
3．土坑 41
4．溝、河道・自然流路 48
5．小穴 84
6．包含層出土遺物 84
Ⅶ．飛鳥・奈良時代 （米山） 85
1．掘立柱建物 85
2．井戸 85
3．自然流路 87
4．包含層出土遺物 90
Ⅷ．平安時代以降 （宮田） 91
1．掘立柱建物 91
2．井戸 92
3．土坑 95
4．溝 96
5．包含層出土遺物 100
Ⅸ．その他 （宮田） 101
1．畦畔状遺構 101
2．牛の足跡 101
3．噴砂 102
Ⅹ．自然科学分析 105
1．放射性炭素$^{14}$Ｃ年代測定 （パリノ・サーヴェイ） 105
2．土壌分析および種実同定 （パリノ・サーヴェイ） 105
Ⅺ．遺構・遺物のまとめと考察 （米山・宮田） 135

# 挿図目次


第1図　中勢道路（8・9・10工区）内遺跡位置図 …… 2
第2図　調査区・試掘坑位置図 …… 5
第3図　大地区割図 …… 7
第4図　小地区割図 …… 7
第5図　遺跡位置図 …… 10
第6図　遺跡周辺地形図 …… 11
第7図　遺跡周辺微地形図 …… 13
第8図　土層断面図(1) …… 14
第9図　土層断面図(2) …… 15
第10図　土層断面図(3) …… 16
第11図　蔵田遺跡遺構図(1) …… 17～18
第12図　蔵田遺跡遺構図(2) …… 19～20
第13図　縄文土器出土位置図 …… 21
第14図　縄文土器拓影図・実測図 …… 22
第15図　弥生時代遺構略図 …… 23
第16図　ＳＢ１～７実測図 …… 24
第17図　ＳＢ２出土柱根実測図 …… 25
第18図　ＳＢ８～16・ＳＡ１～４実測図 …… 26
第19図　ＳＸ１実測図・遺物実測図 …… 28
第20図　弥生時代中期前葉土器分類図 …… 29
第21図　ＳＦ１実測図・出土遺物実測図 …… 30
第22図　ＳＫ１遺物出土状況図 …… 31
第23図　ＳＫ１出土遺物実測図 …… 32
第24図　ＳＫ２～９実測図 …… 34
第25図　ＳＫ３・４出土遺物実測図 …… 35
第26図　ＳＫ２・６～９出土遺物実測図 …… 35
第27図　ＳＫ10実測図・出土遺物実測図 …… 35
第28図　ＳＲ１出土遺物実測図 …… 36
第29図　ＳＺ１実測図 …… 36
第30図　ＳＤ４出土遺物実測図 …… 36
第31図　ＳＺ２実測図 …… 37
第32図　ＳＲ２出土遺物実測図 …… 37
第33図　ＳＲ２、ＳＺ１・２出土木製品実測図 …… 38
第34図　弥生時代小穴・包含層出土遺物実測図 …… 38
第35図　古墳時代遺構略図 …… 39
第36図　ＳＢ17～26実測図、ＳＢ23・26出土遺物実測図 …… 40
第37図　ＳＥ１実測図・出土遺物実測図 …… 42
第38図　ＳＫ11実測図・出土遺物実測図 …… 43
第39図　ＳＫ12実測図・出土遺物実測図 …… 43
第40図　ＳＫ13・14遺物出土状況図、ＳＫ14出土遺物実測図 …… 44
第41図　ＳＫ13出土遺物実測図 …… 45
第42図　ＳＫ15遺物出土状況図 …… 46
第43図　ＳＫ15出土遺物実測図 …… 47
第44図　ＳＲ３、ＳＤ４・８・９・10土層断面図 …… 48
第45図　ＳＲ３出土遺物実測図・拓影図(1) …… 49
第46図　ＳＲ３出土遺物実測図(2) …… 50
第47図　ＳＲ３出土遺物実測図(3) …… 51
第48図　ＳＲ３出土遺物実測図(4) …… 52
第49図　ＳＲ３、Ｐｉｔ２遺物出土状況図 …… 53
第50図　Ｐｉｔ２出土木製品実測図 …… 54
第51図　河道出土Ｓ字甕分類図 …… 54
第52図　河道出土高杯分類図 …… 54
第53図　ＳＺ３遺物出土状況図 …… 55
第54図　ＳＺ３出土木製品実測図 …… 56
第55図　ＳＲ４、ＳＲ１土層断面図 …… 57
第56図　ＳＲ４出土遺物実測図(1) …… 59
第57図　ＳＲ４出土遺物実測図(2) …… 60
第58図　ＳＲ４出土遺物実測図(3) …… 61
第59図　ＳＲ４出土石製品実測図 …… 62
第60図　ＳＲ４木製品出土状況図・出土木製品実測図 …… 62
第61図　ＳＲ５、ＳＤ８・９・10出土遺物実測図・拓影図 …… 63
第62図　ＳＺ４実測図・出土木製品実測図 …… 64
第63図　ＳＲ６出土遺物実測図 …… 65
第64図　ＳＲ７出土弥生時代遺物拓影図 …… 65
第65図　ＳＲ７土層断面図 …… 66
第66図　ＳＲ７出土弥生時代遺物実測図 …… 67
第67図　ＳＲ７出土古墳時代遺物実測図 …… 68
第68図　ＳＲ７出土石製品実測図 …… 69
第69図　ＳＲ７出土木製品実測図 …… 70
第70図　ＳＺ５実測図 …… 71
第71図　ＳＺ５出土木製品実測図 …… 72
第72図　ＳＺ６実測図・出土木製品実測図 …… 73
第73図　ＳＺ７実測図 …… 74
第74図　ＳＺ７出土木製品実測図 …… 75
第75図　ＳＺ７・８位置図 …… 75
第76図　ＳＺ８実測図 …… 75
第77図　ＳＲ８・９・10土層断面図 …… 76
第78図　ＳＲ８遺物出土状況図、ＳＺ９杭列実測図 …… 77
第79図　ＳＲ８出土遺物実測図(1) …… 78
第80図　ＳＲ８出土遺物実測図(2) …… 79
第81図　ＳＲ８、ＳＺ10出土木製品実測図 …… 80
第82図　ＳＲ８、ＳＺ９・10出土木製品実測図 …… 81
第83図　ＳＲ８、ＳＺ９出土木製品実測図 …… 82
第84図　ＳＺ10遺物出土状況図 …… 83
第85図　ＳＲ９出土遺物実測図 …… 83

第86図　ＳＤ13・14・15土層断面図 …… 84
第87図　古墳時代包含層出土遺物実測図 …… 84
第88図　飛鳥・奈良時代遺構略図 …… 85
第89図　ＳＢ27・28実測図 …… 85
第90図　ＳＥ２実測図・出土遺物実測図 …… 86
第91図　ＳＲ11実測図・遺物出土状況図 …… 88
第92図　ＳＲ11出土遺物実測図 …… 89
第93図　ＳＤ18～20実測図・出土遺物実測図 …… 90
第94図　飛鳥・奈良時代包含層出土遺物実測図 …… 90
第95図　平安時代以降遺構略図 …… 91
第96図　ＳＢ29実測図 …… 92
第97図　ＳＢ30実測図 …… 93
第98図　ＳＢ31実測図 …… 93
第99図　ＳＢ32・33実測図 …… 94
第100図　ＳＢ30根石出土状況 …… 95
第101図　ＳＥ３実測図・土層断面図 …… 96
第102図　ＳＥ３出土遺物実測図 …… 96
第103図　ＳＥ４実測図・土層断面図 …… 97
第104図　ＳＥ４出土遺物実測図 …… 97
第105図　ＳＫ16遺物出土状況図・土層断面図 …… 98
第106図　ＳＫ16出土遺物実測図 …… 98
第107図　ＳＤ29出土遺物実測図 …… 99
第108図　ＳＤ32出土遺物実測図 …… 99
第109図　ＳＤ36出土遺物実測図 …… 100
第110図　平安時代以降包含層出土遺物実測図 …… 100
第111図　その他遺構配置図 …… 101
第112図　畦畔状遺構実測図 …… 102
第113図　Ａ地区牛の足跡実測図 …… 102
第114図　Ｄ地区牛の足跡実測図 …… 102
第115図　縄文土器出土状況図 …… 102
第116図　噴砂実測図 …… 103
第117図　Ｂ地区東西トレンチ土層断面図 …… 104
第118図　分析試料採集地点 …… 109
第119図　弥生・古墳時代集落変遷図 …… 136
第120図　護岸施設・貯水施設等配置図 …… 139
第121図　ＳＲ８出土土器 …… 140
第122図　蔵田遺跡周辺条里推定図 …… 141
第123図　県内活断層分布図 …… 143

# 表　目　次

第１表　蔵田遺跡調査一覧表 …… 1
第２表　一般国道23号中勢道路内遺跡
調査経過・予定表 …… 3
第３表　調査区対照表 …… 6
第４表　蔵田遺跡Ｄ地区放射性炭素
年代測定結果 …… 108
第５表　土壌理科学分析結果 …… 108
第６表　弥生時代掘立柱建物・柱列一覧表 …… 110
第７表　古墳時代掘立柱建物一覧表 …… 111
第８表　飛鳥・奈良時代掘立柱建物一覧表 …… 111
第９表　平安・鎌倉時代掘立柱建物一覧表 …… 111
第10表　平安時代以降溝一覧表 …… 112
第11表　遺物観察表(1) …… 113
第12表　遺物観察表(2) …… 114
第13表　遺物観察表(3) …… 115
第14表　遺物観察表(4) …… 116
第15表　遺物観察表(5) …… 117
第16表　遺物観察表(6) …… 118
第17表　遺物観察表(7) …… 119
第18表　遺物観察表(8) …… 120
第19表　遺物観察表(9) …… 121
第20表　遺物観察表(10) …… 122
第21表　遺物観察表(11) …… 123
第22表　遺物観察表(12) …… 124
第23表　遺物観察表(13) …… 125
第24表　遺物観察表(14) …… 126
第25表　遺物観察表(15) …… 127
第26表　遺物観察表(16) …… 128
第27表　遺物観察表(17) …… 129
第28表　遺物観察表(18) …… 130
第29表　遺物観察表(19) …… 131
第30表　遺物観察表(20) …… 132
第31表　遺物観察表(21) …… 133
第32表　遺物観察表(22) …… 134
第33表　樽形土壙出土遺跡一覧 …… 138
第34表　ＳＲ８出土土器器種構成 …… 140
第35表　平安・鎌倉時代掘立柱建物方位 …… 142
第36表　平安時代以降溝方位 …… 142

# 図　版　目　次

ＰＬ－１　安東地区航空写真 …… 146
ＰＬ－２　遺跡遠景 …… 147
ＰＬ－３　調査前（Ｄ～Ｆ地区） …… 148
Ａ・Ｂ地区全景 …… 148
ＰＬ－４　Ｃ・Ｄ地区全景 …… 149
Ｅ・Ｆ地区全景 …… 149
ＰＬ－５　Ａ地区全景 …… 150
Ｂ地区全景 …… 150

ＰＬ－６　Ｃ地区全景 …… 151
Ｄ地区全景 …… 151
ＰＬ－７　Ｅ地区全景 …… 152
Ｆ地区全景 …… 152
ＰＬ－８　Ｃ地区中央部 …… 153
ＳＢ５ …… 153
ＰＬ－９　ＳＢ２・３ …… 154
ＳＢ２柱根出土状況 …… 154
ＰＬ－10　ＳＢ７ …… 155
ＳＢ10 …… 155
ＰＬ－11　ＳＢ８・９・11、ＳＡ４ …… 156
ＳＢ12 …… 156
ＰＬ－12　ＳＢ13・14 …… 157
ＳＢ15・16 …… 157
ＰＬ－13　ＳＸ１、ＳＫ５～８ …… 158
ＳＦ１検出状況 …… 158
ＳＦ１完掘状況 …… 158
ＰＬ－14　ＳＫ１遺物出土状況 …… 159
ＳＫ１完掘状況 …… 159
ＳＫ５ …… 159
ＳＫ９ …… 159
ＰＬ－15　ＳＤ４ …… 160
ＳＲ１ …… 160
ＳＺ１ …… 160
ＳＺ２ …… 160
ＰＬ－16　ＳＢ17 …… 161
ＳＢ18 …… 161
ＰＬ－17　ＳＢ19・20 …… 162
ＳＢ21 …… 162
ＰＬ－18　ＳＢ22 …… 163
ＳＢ23～26 …… 163
ＰＬ－19　ＳＥ１ …… 164
ＳＫ11遺物出土状況 …… 164
ＰＬ－20　ＳＫ13遺物出土状況 …… 165
ＳＫ15遺物出土状況 …… 165
ＰＬ－21　ＳＲ７ …… 166
ＳＲ８・９・10 …… 166
ＰＬ－22　ＳＺ５ …… 167
ＳＺ５杭列 …… 167
ＰＬ－23　ＳＺ６ …… 168
ＳＺ７ …… 168
ＰＬ－24　ＳＺ８ …… 169
ＳＺ９ …… 169
ＰＬ－25　ＳＲ８遺物出土状況 …… 170
ＳＲ８遺物出土状況拡大 …… 170
ＰＬ－26　ＳＲ３小型丸底壺出土状況 …… 171
ＳＲ４土師器甕・椀出土状況 …… 171
ＳＲ４風呂鍬出土状況 …… 171
ＳＲ７曲物底板出土状況 …… 171
ＳＲ７鍬柄出土状況 …… 171
ＳＲ８曲柄又鍬出土状況 …… 171
ＰＬ－27　ＳＢ27 …… 172
ＳＢ28 …… 172
ＰＬ－28　ＳＥ２ …… 173
ＳＥ２木組み …… 173
ＰＬ－29　ＳＲ11 …… 174
ＳＲ11遺物出土状況 …… 174
ＰＬ－30　ＳＢ29 …… 175
ＳＢ30 …… 175
ＰＬ－31　ＳＢ31 …… 176
ＳＢ32・33 …… 176
ＰＬ－32　ＳＥ３ …… 177
ＳＥ３土層断面 …… 177
ＰＬ－33　ＳＥ４ …… 178
ＳＥ４土層断面 …… 178
ＰＬ－34　Ｂ地区噴砂検出状況 …… 179
Ｂ地区噴砂断面 …… 179
ＰＬ－35　Ｂ地区縄文土器出土状況 …… 180
Ｄ地区東壁土層断面 …… 180
ＰＬ－36　縄文土器 …… 181
ＰＬ－37　ＳＸ１・ＳＦ１出土遺物 …… 182
ＰＬ－38　ＳＫ１・３・４・７・８出土遺物 …… 183
ＰＬ－39　ＳＲ２・ＳＤ４・ＳＢ23・ＳＥ１
・ＳＫ10～12出土遺物 …… 184
ＰＬ－40　ＳＫ13・14出土遺物 …… 185
ＰＬ－41　ＳＫ15出土遺物 …… 186
ＰＬ－42　ＳＲ３出土遺物１ …… 187
ＰＬ－43　ＳＲ３出土遺物２ …… 188
ＰＬ－44　ＳＲ４出土遺物１ …… 189
ＰＬ－45　ＳＲ４出土遺物２ …… 190
ＰＬ－46　ＳＤ８・９・12、
ＳＲ５・７出土遺物 …… 191
ＰＬ－47　ＳＲ７出土遺物 …… 192
ＰＬ－48　ＳＲ７出土遺物１ …… 193
ＰＬ－49　ＳＲ７出土遺物２ …… 194
ＰＬ－50　ＳＲ９、包含層出土遺物 …… 195
ＰＬ－51　ＳＥ２・ＳＲ11出土遺物 …… 196
ＰＬ－52　ＳＥ３・４、ＳＤ29・36、
包含層出土遺物 …… 197
ＰＬ－53　ＳＢ２・ＳＥ１
・ＳＺ２出土木製品 …… 198
ＰＬ－54　ＳＲ４・７・８、
ＳＥ２、Pit２出土木製品 …… 199
ＰＬ－55　ＳＥ２側板 …… 200
ＰＬ－56　種実 …… 201

# Ⅰ．前　　言

## 1　調査にいたる経緯

昭和58年4月に都市計画道路中勢バイパスとして鈴鹿市北玉垣町から一志郡三雲町までの33.8kmの区間が都市計画道路に決定された。

この道路は中勢地域の道路網を充実させるとともに総合的な地方都市交通体系の確立を図るためのもので、現国道23号の交通集中の緩和と周辺の適切な土地利用の誘導を目指し、地域の経済発展に寄与しようとするものである。

この中勢バイパス建設計画にかかる埋蔵文化財保護については、昭和57年1月に建設省から事業地内の埋蔵文化財の有無の照会を受け、三重県教育委員会が主体となり、関係する市町村教育委員会の協力を得て分布調査を昭和58年度に実施した。昭和59年5月に建設省へ分布調査結果を回答するとともに、建設省三重工事事務所、県道路建設課と今後の取扱いについて協議を重ねた。

中勢道路は、中勢バイパスの一環で、津市大里窪田町の主要地方道津関線から同市大字神戸の都市計画道路雲出野田線にいたる7.2kmの区間が昭和59年4月に事業採択された。この計画道路内の埋蔵文化財の遺跡数は、20遺跡を数え、一部未調査部分をのこすものの約117,000㎡の調査を終えている。（平成9年3月現在）

これらの埋蔵文化財の取扱いについては、建設省中部地方建設局三重工事事務所と三重県教育委員会文化課との間で協議し、現状保存が困難な遺跡について事前の発掘調査を実施し、記録保存を図ることとなった。

現地作業については、調査件数も多く調査面積も広大であるため、作業員の安定的確保と発掘調査の適正かつ円滑な推進を期して、建設省が社団法人中部建設協会に委託する方法を採用することとした。昭和63年4月に建設省中部地方建設局長と三重県知事および社団法人中部建設協会理事長の三者による協定を締結して発掘調査を実施することになった。

## 2　調査の体制

調査主体は三重県教育委員会で、調査担当は三重県埋蔵文化財センターである。調査にあたっては、「県教育委員会・市町村教育委員会職員人事交流実施要綱」に基づく協定を締結して、津市教育委員会および鈴鹿市教育委員会から派遣職員を得て調査体制を整えた。

本書に所収した蔵田遺跡については、平成元年度、平成6～8年度に現地調査を行い、平成9・10年度に整理業務および報告書の作成業務を実施した。その体制は以下のとおりである。

［平成元年度］

主幹兼調査第二課長　山澤義貴
第三係長　浅生悦生（津市教育委員会より派遣）
主　　事　増田安生・森川幸雄
主　　事　村木一弥（津市教育委員会より派遣）

| 番号 | 遺跡名・年次名 | 調査区分 | 所　在　地 | 調査面積（㎡） | 調査期間 | 調査担当者 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 38 | 蔵田遺跡 | 範囲確認調査 | 津市納所町字蔵田ほか | 608㎡ | 平成元年11月27日～<br>平成2年2月26日 | 浅生悦生<br>竹内英昭 | グリッド<br>35か所 |
| | 蔵田遺跡　第1次 | 本調査 | 津市納所町字蔵田ほか | 5,600㎡ | 平成6年8月22日～<br>平成7年1月26日 | 山本義浩<br>宮田勝功 | |
| | 蔵田遺跡　第2次 | 本調査 | 津市納所町字蔵田ほか | 6,810㎡ | 平成7年4月17日～<br>平成7年12月21日 | 米山浩之・池端清行<br>宮田勝功 | |
| | 蔵田遺跡 | 範囲確認調査 | 津市納所町字蔵田ほか | 748㎡ | 平成7年10月31日～<br>平成7年11月17日 | 米山浩之 | トレンチ<br>14か所 |
| | 蔵田遺跡　第3次 | 本調査 | 津市納所町字蔵田ほか | 3,300㎡ | 平成8年5月7日～<br>平成8年8月2日 | 山本義浩<br>米山浩之 | |

**第1表　蔵田遺跡調査一覧表**

**第１図　中勢道路（８～10工区）内遺跡位置図（１：50,000）**

（国土地理院１：25,000　椋本・白子・津西部・津東部）

| 工区 | | 遺跡名 | 調査対象面積（㎡） | | 調査年度 | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 範囲確認調査 | 本調査 | 昭和63 | 平成1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10予定 |
| 8工区 | 18 | 丸市遺跡 | 128 | − | | | | | | 範 | | | | | |
| | 19 | 山王遺跡 | 128 | − | | | | | | 範 | | | | | |
| | 20 | 内垣内遺跡 | 128 | − | | | | | | 範 | | | | | |
| | 21 | 天堤古墳 | 55 | − | | | | | | 範 | | | | | |
| | 22 | 河崎遺跡 | 256 | − | | | | | | 範 | | | | | |
| | 23 | 六大A遺跡 | 448 | 13,220 | | | | | | 範 | 範8,830 | 4,130 | 260 | | |
| 9工区 | 24 | 六大B遺跡 | 456 | 26,235 | 範 | | 17,525 | 3,420 | 範3,350 | 1,270 | 670 | | | | |
| | 25 | 橋垣内遺跡 | 176 | 12,000 | 範 | 7,000 | 4,925 | 75 | | | | | | | |
| | 26 | 大古曽遺跡 | 680 | 12,435 | 範 | | 範 | 5,160 | 範240 | 7,035 | | | | | |
| | 27 | 新池2号墳 | 198 | − | | | | | | | | | 範 | | |
| | 28 | 新池1号墳 | 20 | − | 範 | | | | | | | | | | |
| | 29 | 西岡古墳 | 70 | 2,000 | | | | 範 | 2,000 | | | | | | |
| | 30 | 西岡2号墳 | 30 | − | | | | 範 | | | | | | | |
| | 31 | 山籠遺跡 | 208 | 1,100 | 範 | 1,100 | | | | | | | | | |
| | 32 | 門脇北古墳 | | 1,100 | | 1,100 | | | | | | | | | |
| | 33 | コウゼンジ遺跡 | 80 | − | 範 | | | | | | | | | | |
| | 34 | 宮ノ前遺跡 | 144 | 2,800 | 範 | 2,700 | | | | 100 | | | | | |
| | 35 | 森山東遺跡 | 240 | 5,230 | 範4.230 | 1,000 | | | | | | | | | |
| | 36 | 太田遺跡 | 469 | 3,320 | 範3,320 | | | | | | | | | | |
| | 37 | 松ノ木遺跡 | 144 | 7,800 | 範 | 7,800 | | | | | | | | | |
| | 65 | 長遺跡 | 0 | 3,700 | | | | | | | | 3,700 | | | |
| 10工区 | 38 | 蔵田遺跡 | 1,356 | [16,100] | | 範 | | | | | 5,600 | 範6,810 | 3,300 | | 390 |
| | 39 | 位田遺跡 | 416 | 4,600 | | 範 | | | | | | | 4,600 | | |
| | 40 | 替田遺跡 | 432 | [10,060] | | 範 | | | | | | | 範6,620 | 3,140 | 300 |
| | 41 | 弐ノ坪遺跡 | 320 | 5,100 | | 範 | | | | | | | | 5,100 | |
| | 42 | 里前遺跡 | 256 | (3,000) | | 範 | | | | | | | 範 | | 3,000 |
| | 66 | 梁瀬遺跡 | 1,152 | (3,860) | | | | | | | | | 範 | 範 | 3,860 |
| | 43 | 鎌切3号墳 | − | − | | | | | | | | | | | |
| 範囲確認調査 | | | 7,990 | | 2,249 | 1,680 | 300 | 100 | 68 | 1,047 | 96 | 748 | 1,024 | 678 | |
| 本調査合計 | | | | 133,660 | 7,550 | 20,700 | 22,450 | 8,655 | 5,590 | 8,405 | 15,100 | 14,640 | 14,780 | 8,240 | 7,550 |

**第2表　一般国道23号中勢道路（8～10工区）内遺跡　調査経過・予定表**

範：範囲確認調査　〔 〕一部調査済　（ ）未調査　本調査面積に下層含まず（1998. 3）

臨時調査員　竹内英昭・油田秀紀
調査協力員　青木哲哉
調査補助員　横谷領子・宮澤織江・新井ゆう子
陰山誠一・清山　健・河村万里子
竹島直美・大西貴夫・川辺光則
森　貴子・谷口裕美・野間達也
江崎康裕
室内整理員　市川嘉子・畑ひろ子・小坂規美子
堀さや子・奥山晃子

[平成6年度]
主幹兼調査第二課長　伊藤克幸
主査兼第三係長　河北秀実
主　　事　本堂弘之・山本義浩・中川　明
技　　師　穂積裕昌
主　　事　宮田勝功・中村光司（津市教育委員会より派遣）
調査補助員　藤田有紀・川崎志乃・杉﨑淳子
田中美穂
室内整理員　市川嘉子・脇葉輝美・太田浩子
森川絹代・小坂規美子・鈴木　妙

[平成7年度]
主幹兼調査第二課長　伊藤克幸
主査兼第三係長　河北秀実
主　　事　宮田勝功・山本義浩
技　　師　穂積裕昌
主　　事　池端清行・米山浩之（津市教育委員会より派遣）
主　　事　筒井昭仁（鈴鹿市教育委員会より派遣）
調査補助員　川崎志乃・杉﨑淳子・田中美穂
中村友子
室内整理員　市川嘉子・脇葉輝美・黒川敬子
太田浩子・蒔田やよい・森川絹代
鈴木　妙
研　修　生　Eric Chen

[平成8年度]
主幹兼調査第二課長　山田　猛
主査兼第三係長　本堂弘之
主　　事　宮田勝功・山本義浩
技　　師　水橋公恵
主　　事　池端清行・米山浩之（津市教育委員会より派遣）
主　　事　筒井昭仁（鈴鹿市教育委員会より派遣）
調査補助員　井早智代・杉﨑淳子・坂下真弓
田中美穂・池野香代・森崎　豊
下畑典正
室内整理員　市川嘉子・黒川敬子・太田浩子
蒔田やよい・森川絹代・鈴木　妙
新田智子

[平成9年度]
主幹兼調査第二課長　山田　猛
主査兼第三係長　本堂弘之
主　　事　宮田勝功
技　　師　西村美幸・水橋公恵
主　　事　池端清行・米山浩之（津市教育委員会より派遣）
主　　事　筒井昭仁（鈴鹿市教育委員会より派遣）
調査補助員　田中美穂・池野香代・酒井巳紀子
坂下真弓・下畑典正
室内整理員　市川嘉子・黒川敬子・太田浩子
森川絹代・鈴木　妙・蒔田やよい
新田智子
研　修　生　Neky Cheung

[平成10年度]
主幹兼調査第二課長　吉水康夫
主査兼第三係長　本堂弘之
主　　事　宮田勝功
技　　師　西村美幸
主　　事　村木一弥・山口　格（津市教育委員会より派遣）
調査補助員　池野香代・酒井巳紀子・西脇智広
室内整理員　市川嘉子・黒川敬子・太田浩子
森川絹代・鈴木　妙・蒔田やよい
新田智子

### 3　調査の経過

蔵田遺跡の発掘調査は、範囲確認調査を平成元年度および平成7年度に、また本調査を平成6～8年度の3か年にわたって実施した。

平成元年度に行った範囲確認調査は、遺跡推定範囲に4m×4mの試掘坑を20mピッチで路線内の

東西幅杭に沿って設定し、合計で35か所の調査を行った。その結果、弥生から古墳時代、中世にわたる遺構・遺物が認められた。またプラントオパール分析を行い、水田遺構の存在の可能性が高い分析結果を得たため、低地部に水田跡が考えられた。調査の結果、本調査面積は約12,800㎡が必要と判断された。

平成6～8年度に実施した本調査は、各年度の調査区に現行水路や市道が横切るため、便宜的に調査区を北・南の2地区に分けて調査を行ったが、本報告書では、調査区の名称を変更して北から順にA～F地区として報告する。(第2図・第3表)

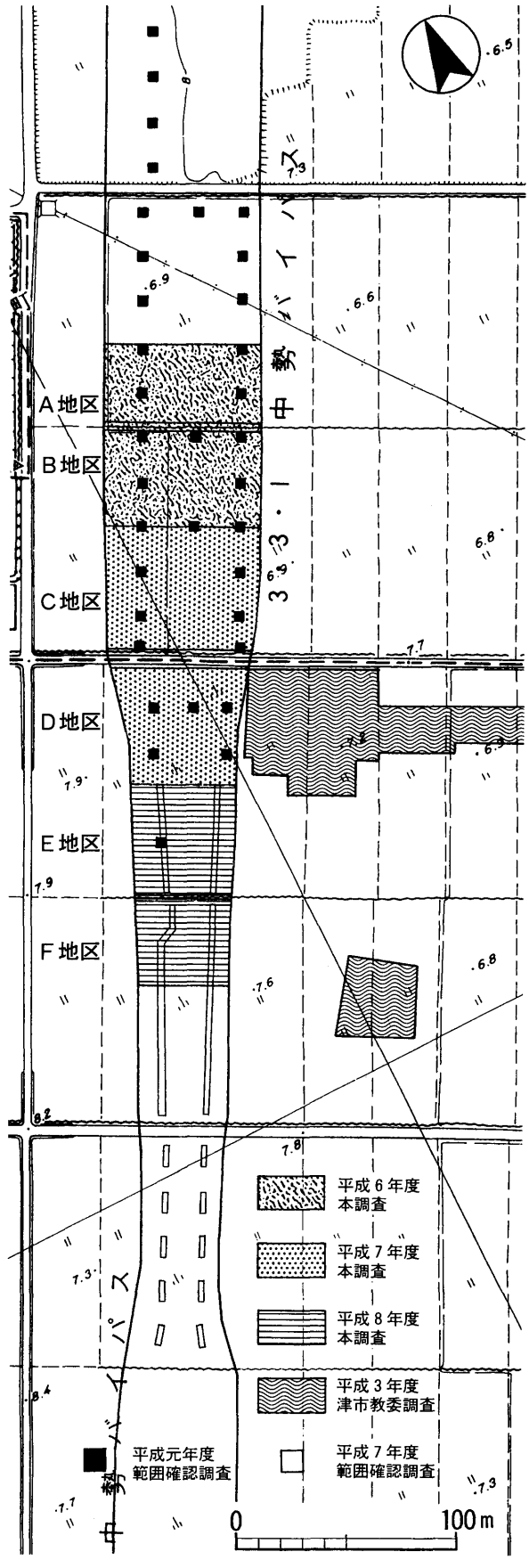
平成6年度のA・B地区は、A地区では水田跡が期待されたが、中世と思われる畦畔の一部にとどまった。しかし、牛の足跡を検出し水田の可能性が残る。B地区では弥生時代の土坑墓や弥生から古墳時代にかけての自然流路や土坑などを検出し、当該時期の土器や石器が出土した。また、下層からは地震の痕跡である噴砂が確認された。

平成7年度のC・D地区は、前年度の南に位置し、市道をはさんで北と南に地区が分かれる。調査は南のD地区から始め、弥生から古墳時代の河道や飛鳥時代の溝などを検出した。市道北のC地区では弥生から鎌倉時代にかけての掘立柱建物、弥生時代の土坑墓、前年度のB地区から続く弥生から古墳時代の自然流路を検出し、土坑からは初期須恵器が出土した。また、C地区で検出した平安から鎌倉時代の掘立柱建物は、条里方向に沿うものであった。

D地区の南側は、範囲確認調査の箇所が少なく、さらに遺構が南に延びると考えられるため幅2mのトレンチによる試掘調査を行った。その結果、ピット・溝等の遺構や土師器・須恵器・陶器椀等の古墳時代から中世の遺物が確認され、D地区の南側について新たに約3,600㎡の本調査が必要となった。

平成8年度に第3次調査としてD地区の南側をE・F地区として調査した。E地区で飛鳥時代の溝や奈良時代の掘立柱建物・井戸などを検出し、F地区では平安から鎌倉時代の条里方向に沿う掘立柱建物・溝や同時期の井戸を検出した。県下7例目の注口土器が出土して注目された。

平成6年度から3か年に及ぶ調査の結果、最終的な調査面積は約15,710㎡となった。なお、D・E地




第2図　調査区・試掘坑位置図（1：3,000）

区間の市道部分については、平成11年度以降に本調査の予定である。

**4　調査の方法・遺構番号付与方法**

調査にあたっては、蔵田遺跡全体で南北200ｍを越えるため、地区割りは大地区及び小地区を採用した（第３・４図)。方角は座標北を基準とし、大地区は国土座標第Ⅵ系に沿って100ｍ方格を区割りし、北から南に向かい２列にアルファベットの大文字でＡ～Ｈ区とした。さらに、小地区（グリッド）は、大地区の１区画を縦横それぞれ25等分し、北から南にアルファベットの大文字Ａ～Ｙを、西から東にアラビア数字の１～25をあて、その組み合わせで小地区名とした。

調査での遺構名称は略記号と番号を用いた。番号については、河道や自然流路など小地区（グリッド）を越える遺構は、各年度の調査区の中でアラビア数字の通し番号を与え、ピットについては小地区毎に通し番号を付与した。

遺物の取り上げに際しては、ラベルを用いた。ラベルには遺跡名と第何次調査かということを明記し、地区名については、各年度の調査区が北・南地区の２地区に分かれているため、北・南を明記し、大地区名と小地区名を記入した。また遺構欄には、遺構略記号と遺構番号を記入した。

（例；蔵田遺跡　２次　北　Ｆ－Ａ７　ＳＤ40）

| | 調　査　時 | 報　　告 |
|---|---|---|
| 第１次調査 | 北　地区 | Ａ　地区 |
| | 南　地区 | Ｂ　地区 |
| 第２次調査 | 北　地区 | Ｃ　地区 |
| | 南　地区 | Ｄ　地区 |
| 第３次調査 | 北　地区 | Ｅ　地区 |
| | 南　地区 | Ｆ　地区 |

**第３表　調査区対照表**

表土除去は重機（バックフォー）を用いたが、以後の掘削は全て人力で行った。また、遺跡が沖積地に立地するため、下層遺構の有無を確認するため各調査区で適宜箇所を設定してトレンチ調査を実施した。あわせて青木哲哉氏には、古環境の復元について依頼するとともに、地形及び土層について現地で指導を得た。

**5　記録・整理方法**

蔵田遺跡の調査記録は、調査区の遺構実測は基本的に航空写真測量によるが、遺構密度の薄いＡ・Ｂ地区については、平板測量（１／100）・遣り方測量（１／20）をおこなった。航空写真測量は、平面図・等高線図・遺構図の３種類を成果品とし、各１／100・１／50の縮尺の図面の計６種類を保管している。

各遺構・土層断面・遺物出土状況等の実測は、必要に応じて１／10や１／20等で作成した。

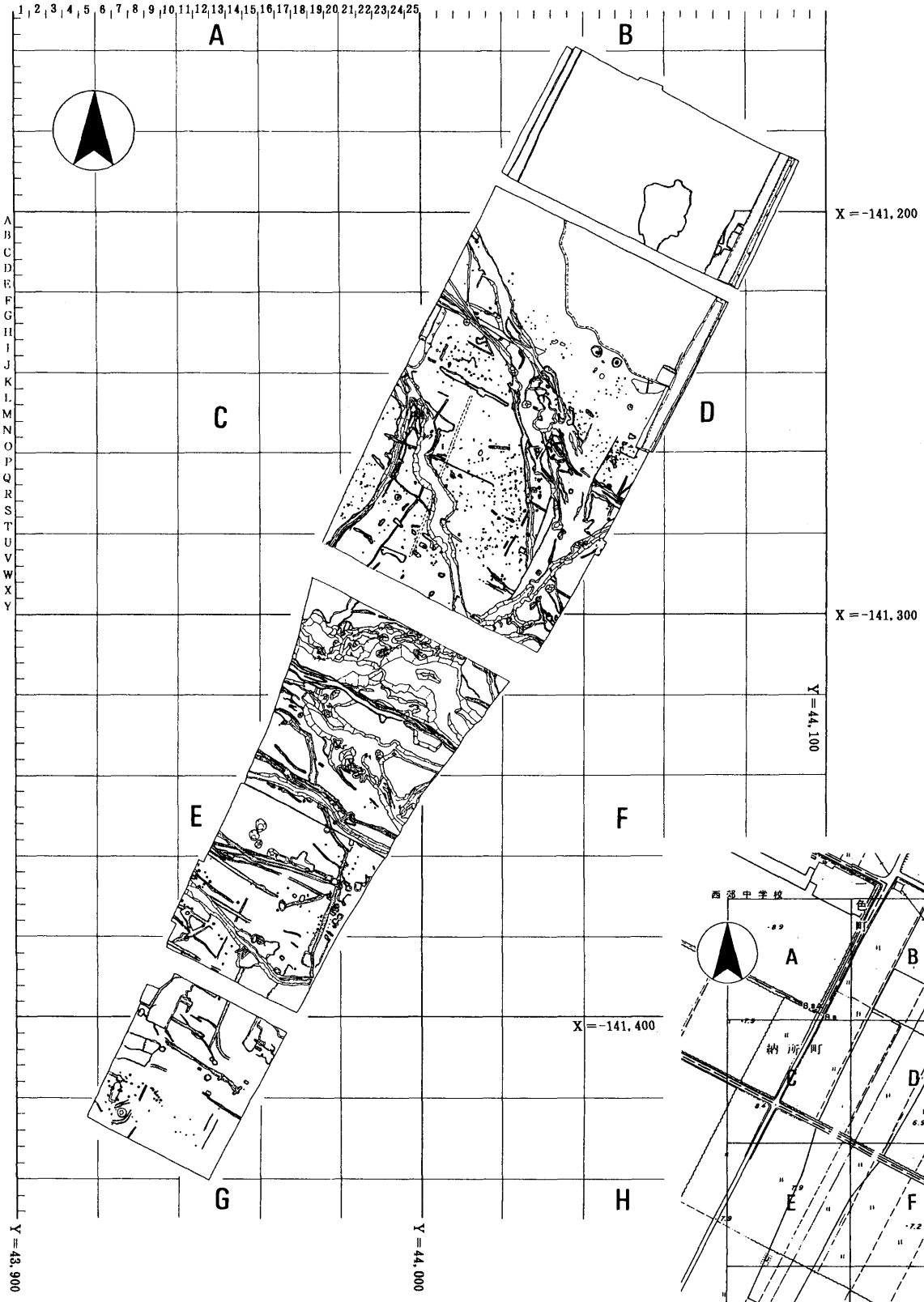
写真撮影は、重要な遺構については４×５判や６×９判のモノクロおよびカラーリバーサルをメインカメラとし、35㎜をサブカメラとして同一カットを撮影した。その他は35㎜判のモノクロおよびカラーリバーサルを用いた。広報用として重要なものは35㎜判のカラーネガを用いた。全ての写真には遺構・撮影方向などを記入した一覧表を作成している。

遺物については、実測した各遺物には「Ｒ」を付した整理番号を与えている。実測図１枚目の３番目の遺物の場合、「Ｒ 001－03」となる。これらの図面は、ファイルに収納し、報告番号、地区名、出土地区、遺構、層位などを記入したノートを作成している。

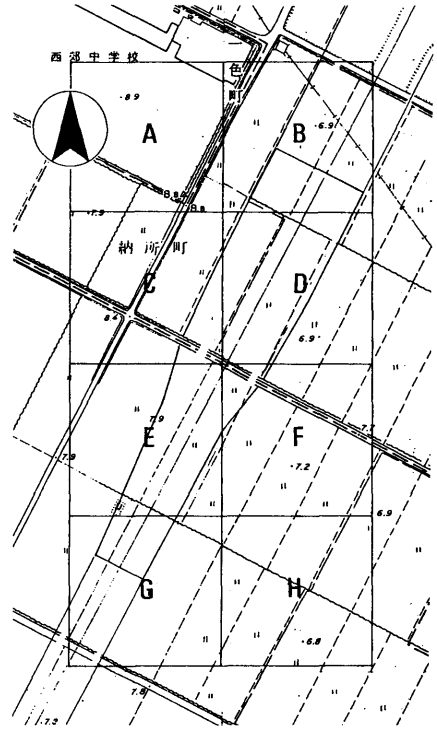
**6　調査日誌（抄）**

第１次調査（1994～1995年）

８／８　表土除去開始。
８／18　地区杭設定。
８／22　現場作業開始。トレンチ掘削。
８／25　Ｂ地区で自然流路ＳＲ３を検出。
９／１　Ｂ地区南端で溝を検出。
９／10　Ｂ地区で円形土坑を検出。Ｓ字甕出土。
９／14　Ａ地区で畦畔を検出。
９／19　Ｂ地区ＳＲ３より滑石製勾玉出土。
10／４　Ａ地区牛の足跡検出。
10／５　Ａ地区牛の足跡掘削。Ｂ地区ＳＫ14より滑




第4図　小地区割図（1 : 1,500）




第3図　大地区割図（1 : 1,000）

石製勾玉出土。
10／13 A地区牛の足跡写真撮影。
10／14 B地区SD14より石鏃出土。
10／18 B地区SK14・15写真撮影。
10／19 A地区牛の足跡を石膏型取り。
10／20 B地区SK14・15遺物取り上げ。
10／27 調査区写真撮影。
10／28 A地区平板測量。A地区トレンチ調査開始。B地区遺構写真撮影。
10／31 B地区遺構実測のため遣り方設定。
11／4 B地区実測開始。
11／8 B地区遺構実測終了
11／9 B地区遺構実測図に標高値書き入れ。
11／10 B地区調査区西半を平板測量。
11／14 A地区Aトレンチより縄文土器出土。
12／14 森勇一氏来所。噴砂と判断。
12／21 B地区東西トレンチから縄文時代後期深鉢出土。
1995年
1／12 B地区噴砂写真撮影。
1／23 B地区平板測量。
1／26 A・B地区現場調査終了。
第2次調査（1995年）
4／18 C地区から遺構検出・遺構掘削開始。
4／21 D地区のトレンチで河道SR7を確認。
4／24 SD29から陶器椀出土。
5／10 河道SR8南側に分流。
5／17 弥生時代の河道SR2検出。
5／18 古墳時代のSR8から高杯多数出土。SR2から建築部材出土。SR8から高杯・S字甕・二重口縁壺出土。
5／19 SR8・SR2出土状況写真撮影。
5／23 SR8出土状況図作成。
5／25 SD29平板測量。SR8からナスビ形農具出土。
6／2 SR7南側掘削開始。
6／6 SR7北側（大溝本流）掘削開始。北端部で弥生時代中期後葉の無頸壺出土。
6／7 SR7北端合流部で護岸施設検出。
6／20 SR7から垂木出土。
6／27 SR7から鍬柄出土。
7／10 SR7より鍬先、曲物底板など出土。
8／1 SR7から木組み遺構検出。
8／4 D地区写真撮影。
8／8 C地区調査開始。
8／9 西端部で根石をもつ掘立柱建物SB30検出。
8／23 井戸SE2検出、SB30に伴うものであろう。
8／25 D地区、航測図面の現地校正。SE2出土の曲物取り上げ。
9／1 SR8から鍬先出土。
9／4 D地区下層確認トレンチ掘削。
9／11 SF1検出、土器囲炉か。
9／21 井戸SE1検出。くり抜き井戸枠完存。掘立柱建物SB5確認。4×1間に棟持柱付きか。
9／29 3×2間の大型掘立柱建物SB19・20確認。
10／20 SK15から樽形土器出土。
10／31 遺構掘削終了。
11／1 範囲確認調査開始。
11／9 写真撮影開始。
11／10 航空写真撮影。遺構写真撮影。
11／17 調査終了。
12／2 現地説明会開催。約50名参加。
12／18 航測図面現地校正。柱穴断ち割り。下層確認トレンチ掘削。青木哲哉氏調査指導。
12／21 土層断面図作成。現地調査終了。
第3次調査（1996年）
5／7 調査開始。溝多数検出。
5／13 SR11から注口土器出土。
5／17 井戸SE21検出、井戸枠一段完存。
5／23 北東部の掘立柱建物SB15・16は弥生時代か。
5／28 西側拡張。掘立柱建物SB27は3×2間で確定。
6／3 F地区遺構検出開始。
6／7 西端部で土坑を伴う掘立柱建物SB32・33検出。
6／12 掘立柱建物SB32・33に伴う井戸と区画溝検出。
7／3 全景写真撮影。
7／12 航空写真測量実施。プレ現地説明会実施。
7／13 現地説明会開催。約140名参加。
8／1 図面現地校正。
8／2 柱穴掘形掘削、現地調査終了。

# Ⅱ．位置と環境

〔地理的環境〕

伊勢平野の西に連なる鈴鹿山脈の南部に位置する錫丈ヶ岳付近に源を発する安濃川は、東流して芸濃町忍田付近で平野部に流れ出て扇状地を形成する。方向を南東にかえて一部に河岸段丘を残しながら鮮新世から洪積世に形成された見当山（長岡）丘陵と半田丘陵の間を流れて、下流域に南北幅約３㎞程の肥沃な沖積平野を形成し、津市島崎町付近で伊勢湾に注ぐ。

支流には、長谷山の北麓を流れる穴倉川や左岸の見当山丘陵の南裾を流れる美濃屋川がある。一方、右岸には半田丘陵の北裾を岩田川が流れる。

集落は両岸の河岸段丘や自然堤防上に連なる。

蔵田遺跡（１）は、安濃川によって形成された沖積平野の下流域左岸に位置する。行政上は津市西郊の津市納所町字蔵田ほかに所在する。標高は6.9ｍから7.2ｍ前後で、付近は水田地帯である。

〔歴史的環境〕

ここでは安濃川流域を中心として歴史的環境について概述することにしたい。

旧石器時代の遺跡は現在のところ未確認である。遺物としては、見当山丘陵北側に所在する東浦遺跡[1]（２）で木葉形尖頭器が見つかっている。また大古曽遺跡[2]（３）でナイフ形石器や縦長剥片が出土している。津市周辺の旧石器時代は今後に検討される課題である。

縄文時代には、中流域左岸の大石遺跡[3]で中期後半の竪穴住居３棟が確認されている。また、蔵田遺跡の北にある松ノ木遺跡[4]（４）で、旧河道と竪穴住居を確認している。ともに晩期後半の五貫森式の深鉢が出土している。さらに納所遺跡[5]（５）でも晩期後半の土器が出土している。

弥生時代には、安濃川下流域の沖積地に前期から後期まで存続する拠点的集落である納所遺跡がある。

周辺には右岸の半田丘陵裾部に前期の土器や木製品が出土した上村遺跡[6]（６）をはじめ安濃川左岸の見当山丘陵南裾部には辻の内遺跡[7]（７）や亀井遺跡[8]（８）がある。中期後葉には見当山丘陵に長遺跡（９）や山籠遺跡[9]（10）が、半田丘陵裾部には後期の高松Ｃ遺跡[10]（11）、大ヶ瀬遺跡[11]（12）が見られる。また生産遺跡では、前期と後期の水田跡を検出した森山東遺跡[12]（13）で、その土壌基盤層から遠賀川系土器が出土している。津市教育委員会によって平成３年から４年にかけて調査された蔵田遺跡[13]では旧河道に伴う中期の井堰が検出されている。

墓制では、松ノ木遺跡で県下でも古い中期前半の方形周溝墓が見つかっているほか、安濃川左岸の位田遺跡[14]（14）でも下層から後期から古墳時代前期の方形周溝墓が検出されている。周辺の丘陵部には中期の倉谷弥生墳墓[15]（15）や後期の高松弥生墳墓（16）、大ヶ瀬弥生墳墓（17）などの方形台状墓が見られる。

古墳時代には、安濃川流域最古の古墳群として、坂本山古墳群[16]（18）がある。古式土師器が出土しており４世紀末から５世紀初めの築造とされる。５世紀には、中流域に造り出しをもつ方墳の明合古墳（19）、下流域に前方後円墳の池ノ谷古墳（20）が造られる。両墳は中流と下流の盟主的な古墳と言える。５世紀後半になるとおこし古墳（21）や鎌切１号・３号古墳（22・23）など前方後円墳が安濃川右岸の丘陵に造られる。６世紀以降の後期古墳では、見当山丘陵の東端に造られた鳥居古墳[17]（24）で横穴式石室に家形石棺が、君ヶ口古墳[18]（25）では横穴式木芯室が見られる。６世紀後半から７世紀になると長谷山東麓には県下有数の規模をもつ長谷山古墳群（26）があり、総数は約500基を数える。その一支群である平田古墳群[19]（27）が調査されている。集落では、右岸の丘陵部で中期の竪穴住居を検出した新畑遺跡[20]（28）のほか、調査された遺跡数は少なく今後に残された課題である。また生産遺跡では、右岸の半田丘陵には県下でも古い須恵器窯の久居（藤ヶ丘）古窯址群[21]（29）や須恵質の埴輪も焼いた併用窯の藤谷埴輪古窯址[22]（30）がある。また高茶屋大垣内遺跡[23]では竪穴住居や土師器焼成坑が検出されている。

飛鳥時代には、宮ノ前遺跡（31）で竪穴住居と伴に掘立柱建物が検出されている。安濃川流域ではこの時期の掘立柱建物は初例である。

一方、見当山丘陵を隔てた橋垣内遺跡[24]（32）では周囲を区画する溝をもつ地方集落としての性格をもち、

**第5図　遺跡位置図**（1：50,000）　（国土地理院　1：25,000　椋本・白子・津西部・津東部）

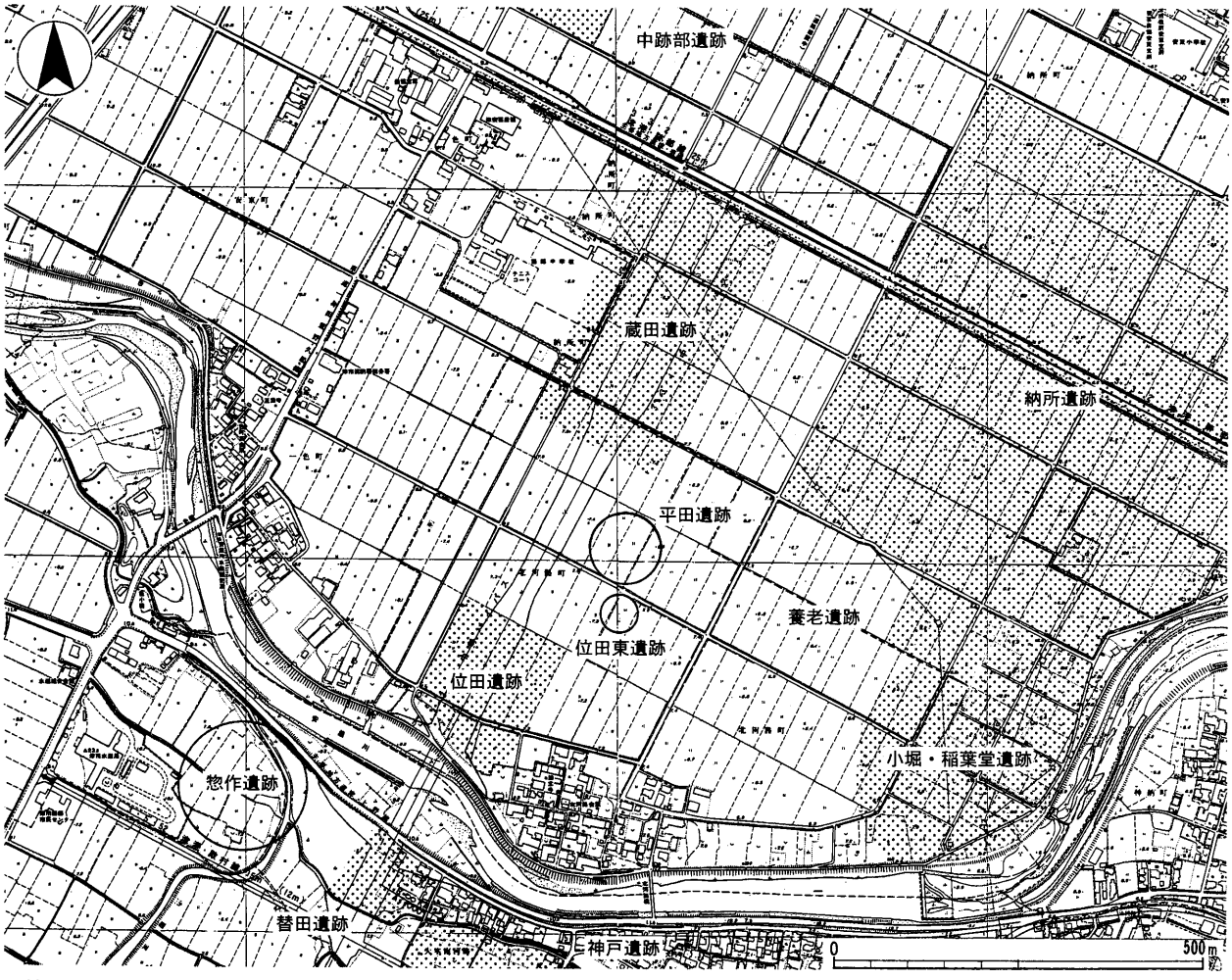
飛鳥時代には既に竪穴住居から掘立柱建物へ転換されている。また大古曽遺跡でも、飛鳥時代の掘立柱建物が検出され、また県道津関線を隔てた北の六大A遺跡（33）からは蹄脚硯や土管などが出土しており中央と結びついた豪族の館跡が期待されている。

奈良時代・平安時代には、安濃川中流右岸の段丘低位面の北浦遺跡[35]（34）で掘立柱建物が検出されている。また浄土寺南遺跡[36]（35）では奈良時代の竪穴住居群とともに平安時代の大型掘立柱建物が検出されており、緑釉陶器、陶硯の出土や井戸枠の形態などから一般集落というより地方官衙的な性格をもつとされる。下流域左岸の見当山丘陵の南裾に位置する宮ノ前遺跡では、平安時代末期から鎌倉時代初頭の区画溝と井戸を伴う掘立柱建物が見つかっている。位田遺跡では区画溝をともなう掘立柱建物が見つかっており、緑釉陶器や碁石の出土から豪族層の建物とされてる。また平安時代の道路遺構も検出されている。

見当山丘陵を隔てた毛無川流域の橋垣内遺跡では奈良時代の掘立柱建物群が、その北に隣接する六大B遺跡[37]（36）では平安時代の大型掘立柱建物を中心に計画的に配置された建物群が見つかっており、緑釉彩緑陶器をはじめ多くの緑釉陶器が出土している。また平城宮出土の木簡に「伊世国奄伎郡」（表）「久菩多里私部小□□」（裏）があり、このことから地方官衙の可能性が推測されている。

平安時代の古道としては、安濃川中流域左岸の松山遺跡[38]で平安京から伊勢神宮への古代の道路遺構と考えられる幅約4mの条里に斜向する計画的な直線道路が検出されている。『延喜式』に記されている五駅のうち鈴鹿駅から市村駅に向かう駅路の可能性もある。市村駅の推定地については諸説があるが、津市殿村付近とする説が有力視されている。

安濃川流域の条里制は、海岸線を基準にして北に対して約30°東に隔たっているとされる[39]。上流域左岸から下流域の沖積地に条里地割の名残りをとどめていたが、近年の土地区画整備により変貌してしまっ




**第6図　遺跡周辺地形図（1：10,000）**

た。安濃川流域の条里は、四天王寺所蔵の康平五年の「民部田所勧注状㉙」などの古文書をもとに条里が復元され、津市渋見町付近の「一条一塔世里」から安濃川上流の芸濃町忍田付近までの「二三条一忍田里」までの23条にわたり、東から西に条、北から南に向い里が施工され、坪並びは千鳥式とされる。六条・七条に渋見里や九条に四加茂里がみえ、四加茂里は現在の鹿毛にその名が残っている。六条から七条にあたる納所町一帯には、文書から平安時代には四天王寺の寺領が存在したことが伺える。

中世には納所町から北河路町一帯は伊勢神宮の神田であり、元徳元年（1329）の「安東郡専当沙汰文㉚」に記されている神田には「鳥加部」がみえ、その名は現在の小字、鳥壁にみられる。また「深見」「横井」「松本」があり、納所町に現在の小字名として残っている。また前文書には作人も書かれており納所全次郎など納所の地名を冠するものが多い。「勢陽雑記」によれば、行基の開設と伝える納所町地内にある神宮寺は、中世よりこの寺に属する伊勢神宮の神田は11村におよぶとあり、当時は在郡御倉と呼ばれ、付近の神宮領からの収納所となっていた。

（宮田）

〔註〕

① 清水正明・小林　秀『東浦遺跡・椋本南遺跡』三重県埋蔵文化財センター　1993
② 山口　格「大古曽遺跡」『大古曽遺跡・山籠遺跡・宮ノ前遺跡発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター　1995
③ 伊藤徳也・森川幸雄「Ⅲ．安芸郡芸濃町椋本　大石遺跡」『平成3年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告－第1分冊－』三重県埋蔵文化財センター　1992
④ 竹内英昭「松ノ木遺跡」『松ノ木遺跡・森山東遺跡・太田遺跡発掘調査報告書』三重県埋蔵文化財センター　1993
⑤ 伊藤久嗣・吉水康夫『納所遺跡－遺構と遺物－』三重県教育委員会　1980
⑥ 吉村利夫『上村遺跡発掘調査報告』津市教育委員会　1972
⑦ 伊藤克幸「辻の内遺跡」『昭和50年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』三重県教育委員会　1976
⑧ 谷本鋭次「津市河辺町　亀井遺跡」『昭和47年度県営圃場整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』三重県教育委員会　1973
⑨ 中村光司ほか「山籠遺跡」前掲載②同書
⑩ 谷本鋭次『高松弥生墳墓発掘調査報告』津市文化財保護協会　1970
⑪ 谷本鋭次・伊藤久嗣「山口遺跡・大ヶ瀬遺跡・平栄遺跡」『近畿自動車道埋蔵文化財調査報告Ⅰ』三重県教育委員会　1973
⑫ 倉田直純ほか「森山東遺跡」『松ノ木遺跡・森山東遺跡・太田遺跡発掘調査報告書』三重県埋蔵文化財センター　1993
⑬ 米山浩之「蔵田遺跡」『三重産業振興センター埋蔵文化財発掘調査概報』津市教育委員会　1993
⑭ 米山浩之「位田遺跡」『一般国道23号中勢道路埋蔵文化財発掘調査概報Ⅸ』三重県埋蔵文化財センター　1997
⑮ 田中秀和「倉谷弥生墳墓」現地説明会資料　1995
⑯ 小玉道明他「坂本山古墳群・坂本山中世墓群」津市教育委員会　1970
⑰ 両袖式横穴式石室で、開口部から投げ入れられたとされる金銅押出仏は特に注目される。
⑱ 萱室康光『君ヶ口古墳発掘調査報告』津市教育委員会　1974
⑲ 伊藤秋男ほか『平田古墳群』安濃町遺跡調査会　1987
⑳ 吉村利夫『新畑遺跡発掘調査報告』津市教育委員会　1973
㉑ 小玉道明・山沢義貴『久居古窯址群発掘調査報告』三重県教育委員会　1968
㉒ 橋本　滋「藤谷遺跡－埴輪古窯跡－」『津市民文化』第4号　津市教育委員会　1977
㉓ 三重県埋蔵文化財センター『高茶屋大垣内遺跡パンフレット』1998
㉔ 伊藤久嗣「安芸郡安濃町　北浦遺跡」『昭和53年度県営圃場整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』三重県教育委員会　1978
㉕ 中村信裕「安芸郡安濃町　浄土寺南遺跡」『昭和55年度県営圃場整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』三重県教育委員会　1981
㉖ 穂積裕昌ほか『橋垣内遺跡』三重県埋蔵文化財センター　1997
㉗ 森川幸雄・近藤　健「六大Ｂ遺跡」『一般国道23号　中勢道路埋蔵文化財発掘調査概報Ⅲ』三重県埋蔵文化財センター　1991
㉘ 久志本鉄也ほか『昭和63年度三重県埋蔵文化財年報18』三重県教育委員会　1988
㉙ 仲見秀雄「奄芸・安濃・一志郡の条里」『伊勢湾岸地域の古代条里制』東京堂出版　1979
㉚ 津市四天王寺文書『平安遺文』第980号
㉛ 群書類聚第22巻。

〔参考文献〕

・平松令三監修『日本の地名』平凡社　1988
・伊藤久嗣編『日本の古代遺跡』保育社　1996

# Ⅲ. 地形と層序

## 1　遺跡周辺の微地形

蔵田遺跡は、安濃川左岸に広がる沖積地内の微高地に立地する。ここでは遺跡周辺の微地形を第７図から見ていきたい。

遺跡付近では等高線が舌状に東側に張り出し、微高地であることは明らかであるが、その中央部は狭い谷地形（A）となっている。縄文時代後期ないし晩期の時期に南北２つの微高地が沖積作用によって形成され、その両者の間が取り残された状態となり谷地形となったと考えられる。この部分には弥生～古墳時代の河道が検出されている。微高地間の谷地形はさらに西側に延びていくことが確認できるが、微高地本体は周囲の地形に取り込まれ、その境界が判然としない。

また、遺跡の北側（B）では大きく等高線が西側に寄り谷地形であることがわかる。この付近の試掘調査ではシルトあるいは細砂層が厚く堆積し遺構の検出もなく、遺物の出土も見なかったと報告されている。南側（C）でも谷地形が認められ、試掘調査でも厚い粘質土の堆積を確認した。この付近は安濃川左岸の後背湿地と考えられる。

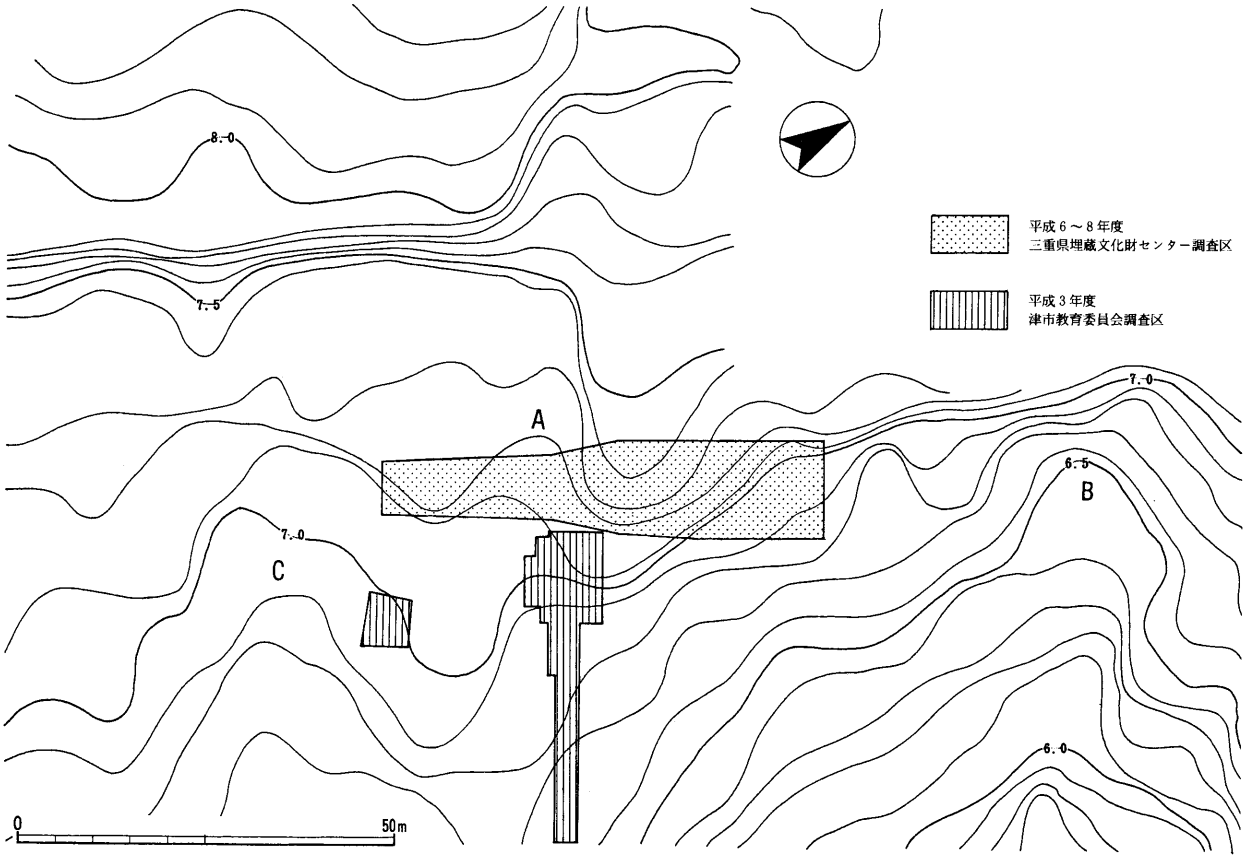
## 2　基本的層序

蔵田遺跡の層序は地区毎に異なるが、基本的には、Ⅰ層耕作土・旧耕作土、Ⅱ層褐色粘質土、Ⅲ層灰色シルト・灰褐色粗砂層である。

蔵田遺跡は微高地に立地するため後世の削平が著しく、弥生時代以降の遺構が検出されたＢ～Ｆ地区ではほとんどがⅠ層の耕作土あるいは旧耕作土直下が遺構検出面である。Ⅱ層の遺物包含層は、微高地斜面と考えられるＡ～Ｂ地区北東部以外では遺構検出面直上に部分的に残存するに過ぎない。また、Ｃ地区の南西部はわずかな窪地となっていて、弥生時代の遺物のみを含む包含層が存在し、その上面では平安時代末期の掘立柱建物が検出された。

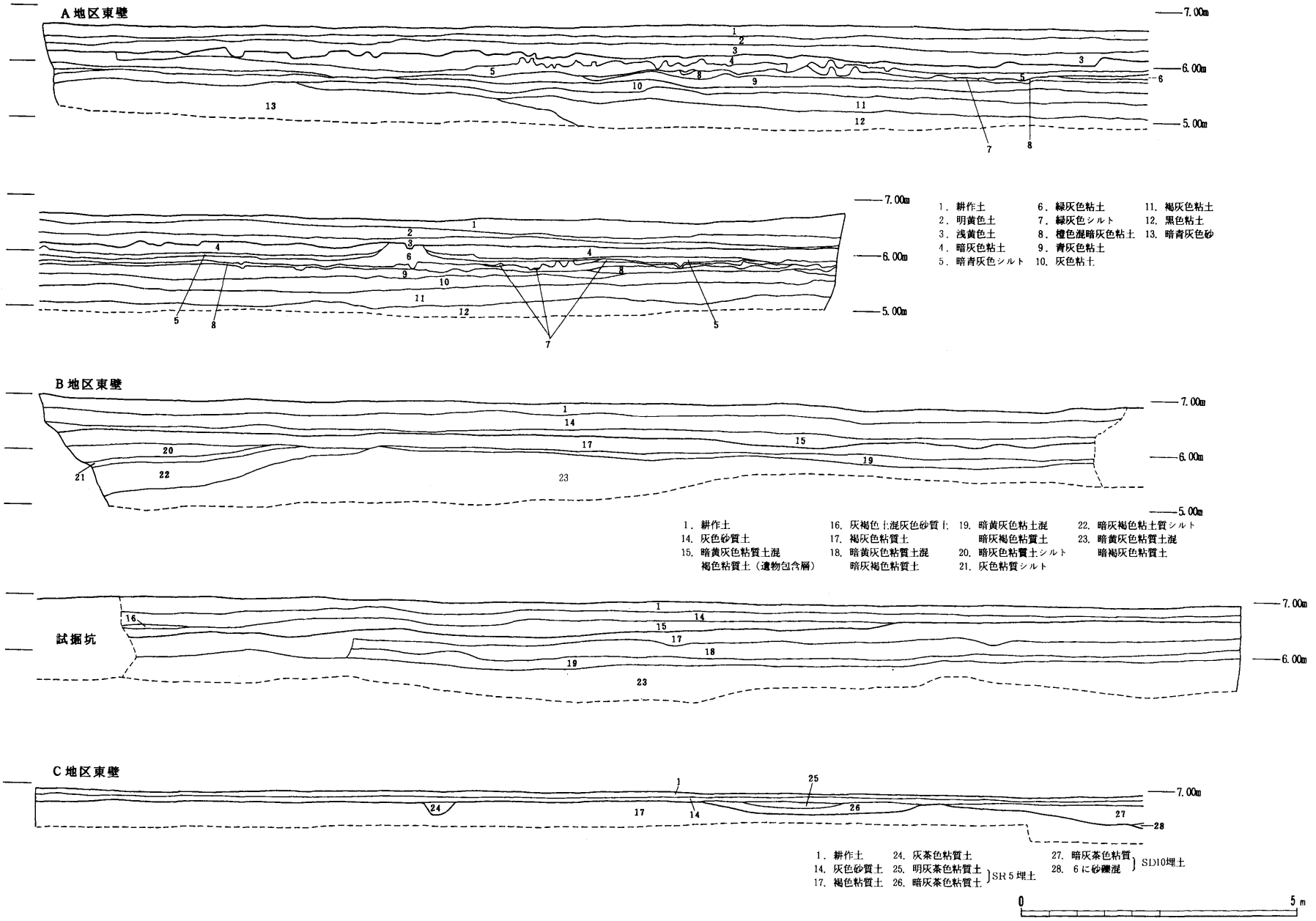
Ⅲ層は、沖積土と思われる灰色シルト層と洪水層と考えられる灰褐色粗砂層で、縄文時代後期から晩期の遺物を含んでいる。

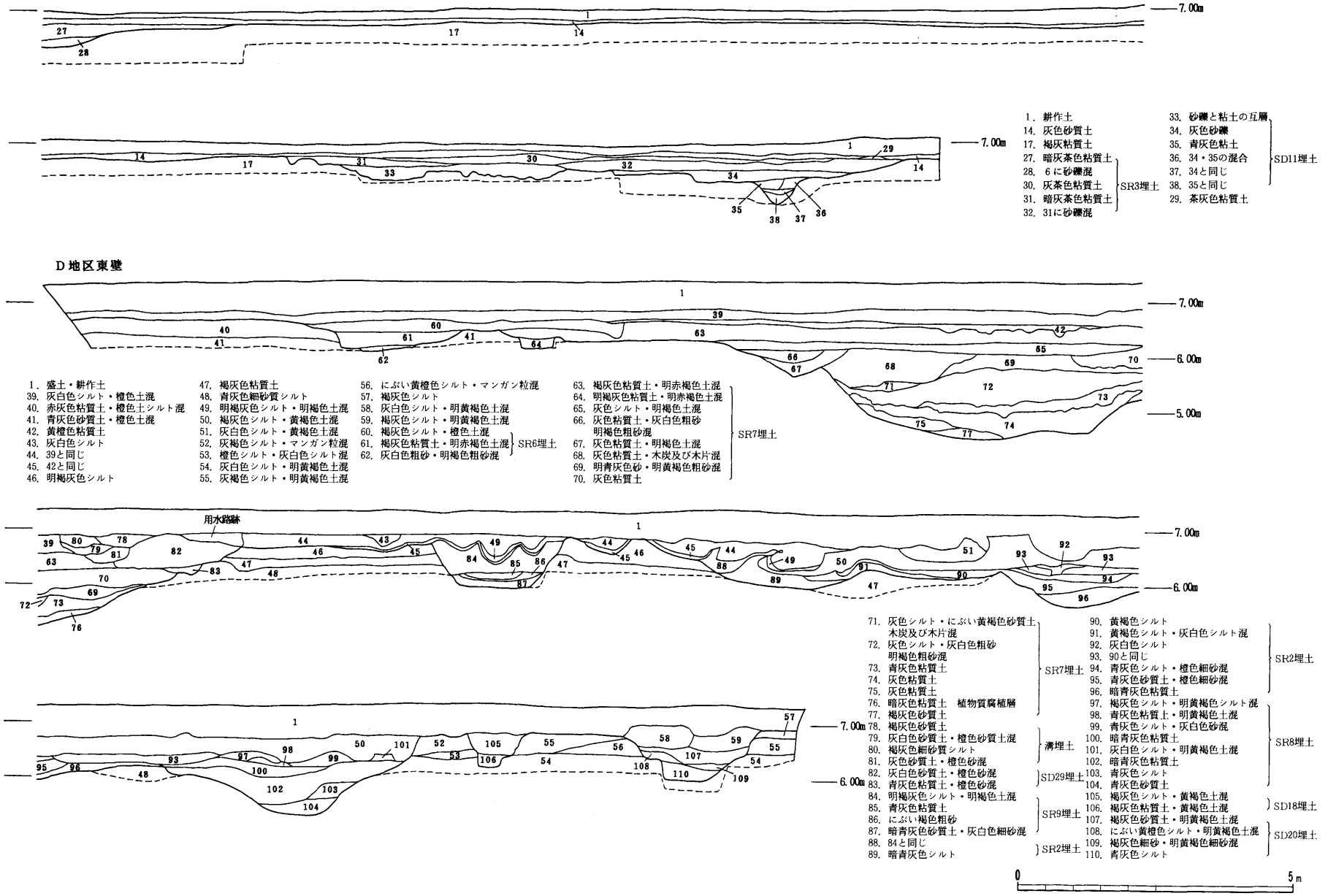
（米山）




第７図　遺跡周辺微地形図（１：10,000　県営圃場整備現況計画図より作図）

第８図　土層断面図（１）（１：100）





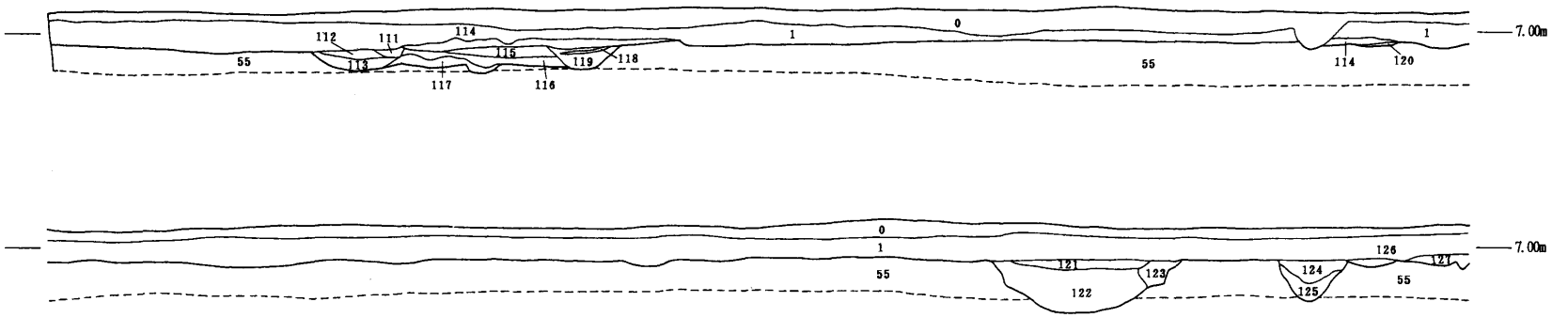

1．耕作土
14．灰色砂質土
17．褐灰粘質土
27．暗灰茶色粘質土
28．6に砂礫混
30．灰茶色粘質土
31．暗灰茶色粘質土
32．31に砂礫混
SR3埋土
33．砂礫と粘土の互層
34．灰色砂礫
35．青灰色粘土
36．34・35の混合
37．34と同じ
38．35と同じ
29．茶灰色粘質土
SD11埋土

1．盛土・耕作土
39．灰白色シルト・橙色土混
40．赤灰色粘質土・橙色土シルト混
41．青灰色砂質土・橙色土混
42．黄橙色粘質土
43．灰白色シルト
44．39と同じ
45．42と同じ
46．明褐灰色シルト
47．褐灰色粘質土
48．青灰色細砂質シルト
49．明褐灰色シルト・明褐色土混
50．褐灰色シルト・黄褐色土混
51．灰白色シルト・黄褐色土混
52．灰褐色シルト・マンガン粒混
53．橙色シルト・灰白色シルト混
54．灰白色シルト・明黄褐色土混
55．灰褐色シルト・明黄褐色土混
56．にぶい黄橙色シルト・マンガン粒混
57．褐灰色シルト
58．灰白色シルト・明黄褐色土混
59．褐灰色シルト・明黄褐色土混
60．褐灰色シルト・橙色土混
61．褐灰色粘質土・明赤褐色土混
62．灰白色粗砂・明褐色粗砂混
SR6埋土
63．褐灰色粘質土・明赤褐色土混
64．明褐灰色粘質土・明赤褐色土混
65．灰色シルト・明褐色土混
66．灰色粘質土・灰白色粗砂
明褐色粗砂混
67．灰色粘質土・明褐色土混
68．灰色粘質土・木炭及び木片混
69．明青灰色砂・明黄褐色粗砂混
70．灰色粘質土
SR7埋土

71．灰色シルト・にぶい黄褐色砂質土
木炭及び木片混
72．灰色シルト・灰白色粗砂
明褐色粗砂混
73．青灰色粘質土
74．灰色粘質土
75．灰色粘質土
76．暗灰色粘質土　植物質腐植層
77．褐灰色砂質土
78．褐灰色砂質土
SR7埋土
79．灰白色砂質土・橙色砂質土混
80．褐灰色細砂質シルト
81．灰色砂質土・橙色砂混
溝埋土
82．灰白色砂質土・橙色砂混
83．青灰色粘質土・橙色砂混
SD29埋土
84．明褐灰色シルト・明褐色土混
85．青灰色粘質土
86．にぶい褐色粗砂
87．暗青灰色砂質土・灰白色細砂混
SR9埋土
88．84と同じ
89．暗青灰色シルト
SR2埋土
90．黄褐色シルト
91．黄褐色シルト・灰白色シルト混
92．灰白色シルト
93．90と同じ
94．青灰色シルト・橙色細砂混
95．青灰色砂質土・橙色細砂混
96．暗青灰色粘質土
SR2埋土
97．褐灰色シルト・明黄褐色シルト混
98．青灰色粘質土・明黄褐色土混
99．青灰色シルト・灰白色砂混
100．暗青灰色粘質土
101．灰白色シルト・明黄褐色土混
102．暗青灰色粘質土
103．青灰色シルト
104．青灰色砂質土
SR8埋土
105．褐灰色シルト・黄褐色土混
106．褐灰色粘質土・黄褐色土混
SD18埋土
107．褐灰色砂質土・明黄褐色土混
108．にぶい黄橙色シルト・明黄褐色土混
109．褐灰色細砂・明黄褐色細砂混
110．青灰色シルト
SD20埋土

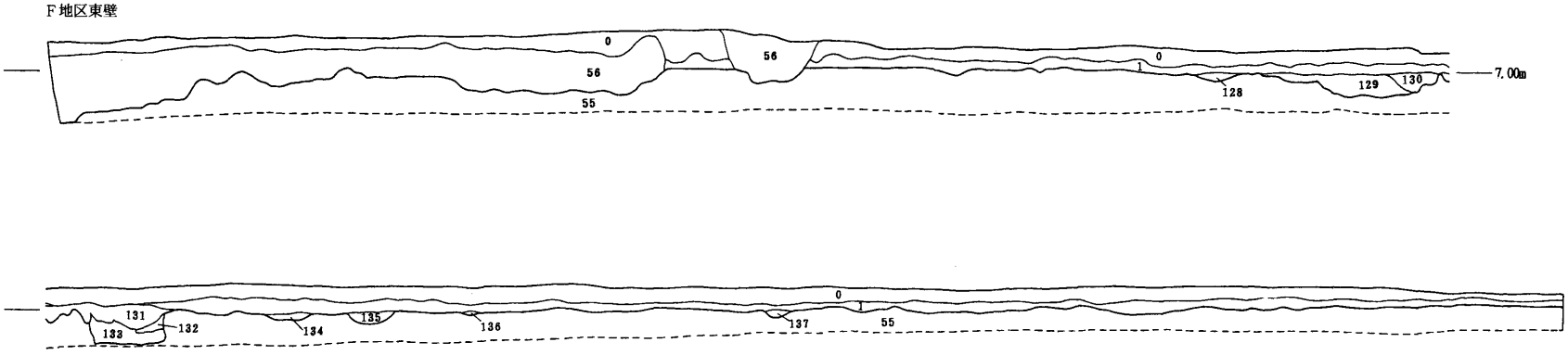
# 第10図　土層断面図（3）（1：100）

E地区東壁

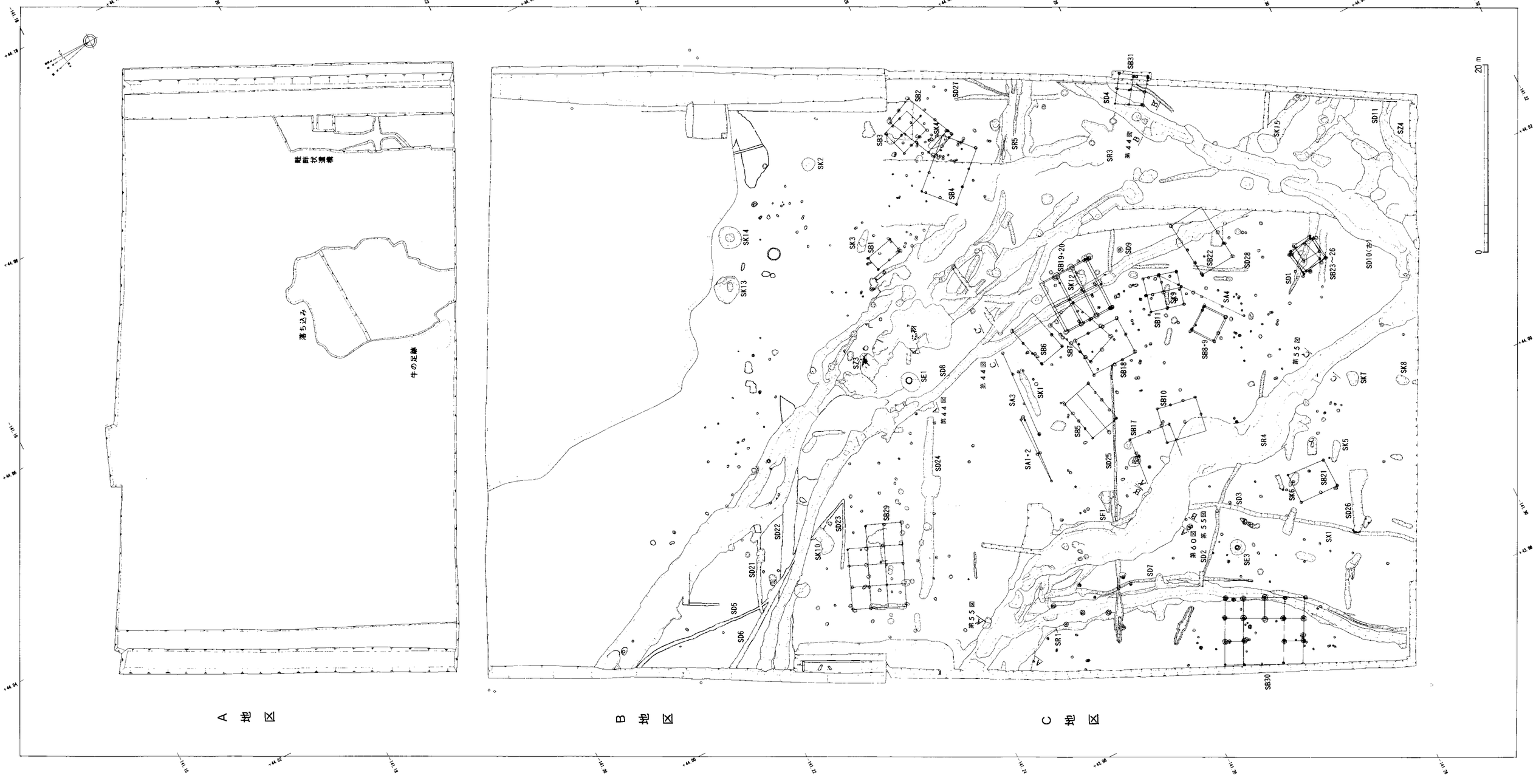



0. 盛土
1. 耕作土
55. にぶい黄橙色シルト
56. 攪乱
111. 灰褐色砂質土
112. 灰褐色土
113. にぶい黄褐色砂質土
114. 褐灰色粘質土
115. にぶい黄色土
116. 灰黄褐砂質土
117. 灰黄褐砂質土
118. 浅黄色土
119. 黄灰色土
120. 褐灰色シルト
121. 褐灰色砂質土
122. 灰黄色土　} SR11埋土
123. 灰黄褐色土－SR11埋土
124. 褐灰色砂質土
125. 褐灰色粘質土
126. 褐灰色粘質土
127. 褐灰色粘質土
128. 灰色粘質土
129. 灰色砂質土
130. 灰色粘質土
131. 灰色砂質土
132. 灰色砂質土　} SD36埋土
133. 三和土
134. 灰色粘質土
135. 褐灰色粘質土－SD37埋土
136. 灰色粘質土
137. 灰色粘質土

F地区東壁




0　5m




第11図　蔵田遺跡遺構図（1）（1：400）

第12図　蔵田遺跡遺構図（2）（1：400）

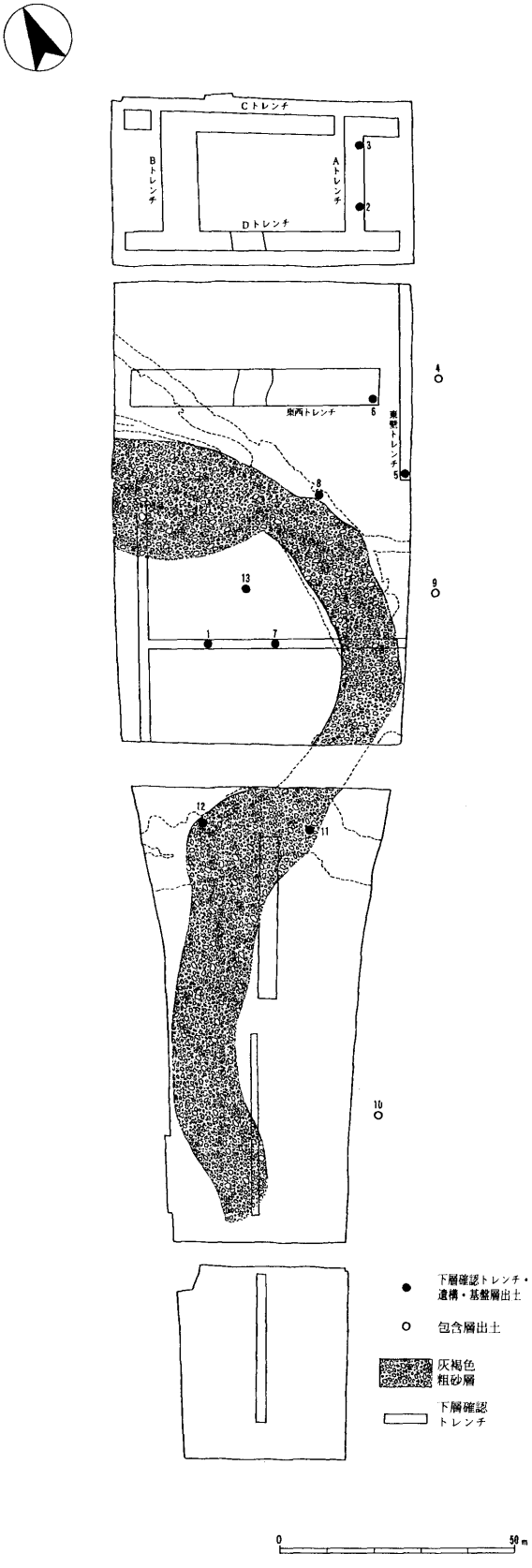
# Ⅳ. 縄文時代

この時代の遺構は検出されていない。遺物はＡ～Ｄ・Ｅ地区の自然流路や河道の遺構や包含層および下層確認トレンチから出土した。時期は縄文時代中期から晩期である。

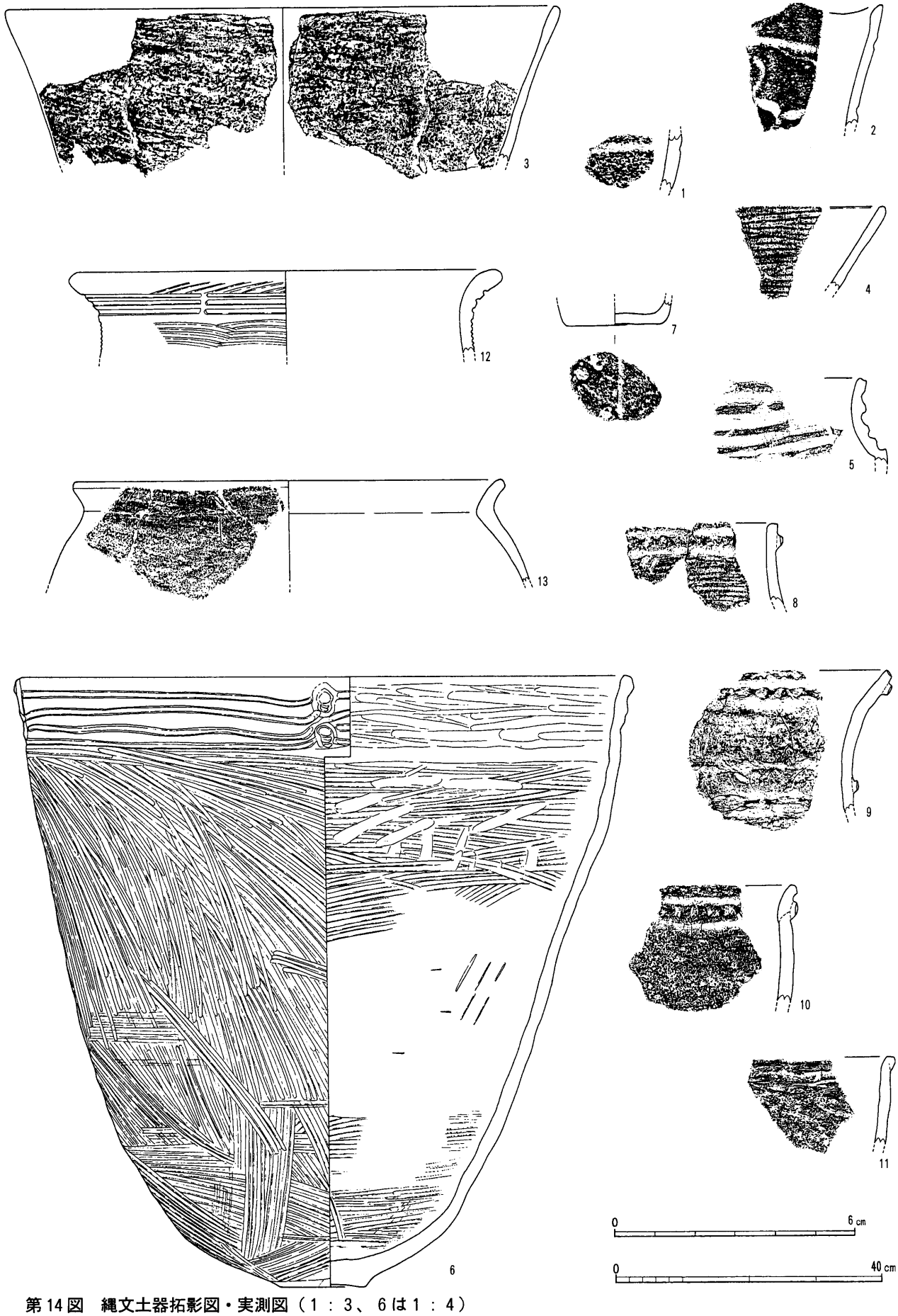
１～７は縄文時代中期から後期の土器である。１は沈線がみられ、中期前半にあたる。２は口縁部片で、中期末から後期初頭に相当しよう。３は口縁部から体部片で、外面には条痕調整がみられ後期の粗製土器であろう。４は深鉢の口縁部片で、外面に巻貝による条痕調整が見られる。後期に属そう。５は口縁部片で、頸部に段をもち外湾する口縁部には巻貝による４本の凹線を施す。６はＢ地区の下層調査のための東西トレンチから出土したもので、口縁部の一部を欠くがほぼ完形の深鉢である。口縁部には巻貝による４本の凹線を施した後に粘土塊の貼付けによる巻貝の扇状圧痕が２個みられる。５・６は後期末の宮滝式に属そう。７は小型壺で、底部には木葉痕がみられる。

８～13は晩期の土器である。８は口縁部片で、口縁部下の突帯にはヘラ状工具によるＤ字形の押圧がめぐり、突帯以下は二枚貝の条痕がみられる。晩期後半の滋賀里Ⅳ式併行ないし西之山式に属しよう。９は口縁部片で、口縁端部に刻み目、口縁部の下の突帯にはＤ字形の押圧がみられる。10は、９と同じく突帯にはＤ字形の押圧がみられる。９・10は五貫森式に属そう。11は外面をケズリで調整する浅鉢である。12は外面を条痕調整した後に口縁部の下に突帯を施し櫛状具により３条の沈線を施す。11・12は晩期末の馬見塚式に属そう。13は体部にヘラミガキがのこる。

縄文時代中期から後期の土器は、包含層出土の土器もあるが、概ねＡ～Ｃ地区の下層確認トレンチから出土したものである。また晩期の土器は、Ｂ・Ｃ地区のＳＲ３やＤ地区のＳＲ７およびＳＤ４の遺構、Ｃ地区の遺構基盤層や包含層から出土したものである。遺構から出土のものは磨滅が著しく混入と考えられる。Ｂ地区の南西から南に広がる灰褐色粗砂層は、このような土器の出土状況や層位から縄文時代晩期頃に形成されたものと考える。　（宮田）




**第13図　縄文土器出土位置図（１：1,500）**




第14図　縄文土器拓影図・実測図（1：3、6は1：4）

# V．弥生時代

この時代の遺構には掘立柱建物19棟、柱列3条、方形周溝墓1基、土坑10基、溝5条などがある。

北微高地では中期前葉の集落・墓域と後期初頭の集落が、南微高地でも弥生時代と推定される集落が確認された。両微高地間では、集落と同時期の河道やそれに伴う杭列がみられ、以前の調査ではその下流に井堰が検出されている。

## 1　掘立柱建物

蔵田遺跡では、33棟の掘立柱建物が検出されているが、当然柱穴出土遺物は少なく、中には全くないものもあり、明確に時期決定できるものは少ない。その中で今回、弥生時代の掘立柱建物と考えたのは以下の理由による。

1　B・C地区の場合、古墳時代・平安時代の掘立柱建物は方位にまとまりがみられ、これら以外は方位がN 10～40° W・N 10° E前後でまとまる。

2　形態的にもSB5のように弥生時代のものと考えられるものがある。

3　周囲の遺構には弥生時代のものが多くあり、古墳・平安時代以外のものは皆無である。

4　柱穴に遺物を含まないということは、逆に掘立柱建物構築当時、柱掘形に紛れ込むほど遺物包含層の形成が進んでいなかったということを示しており、その建物がその場所で最も最初に建てられた建物であると考えることも可能である。

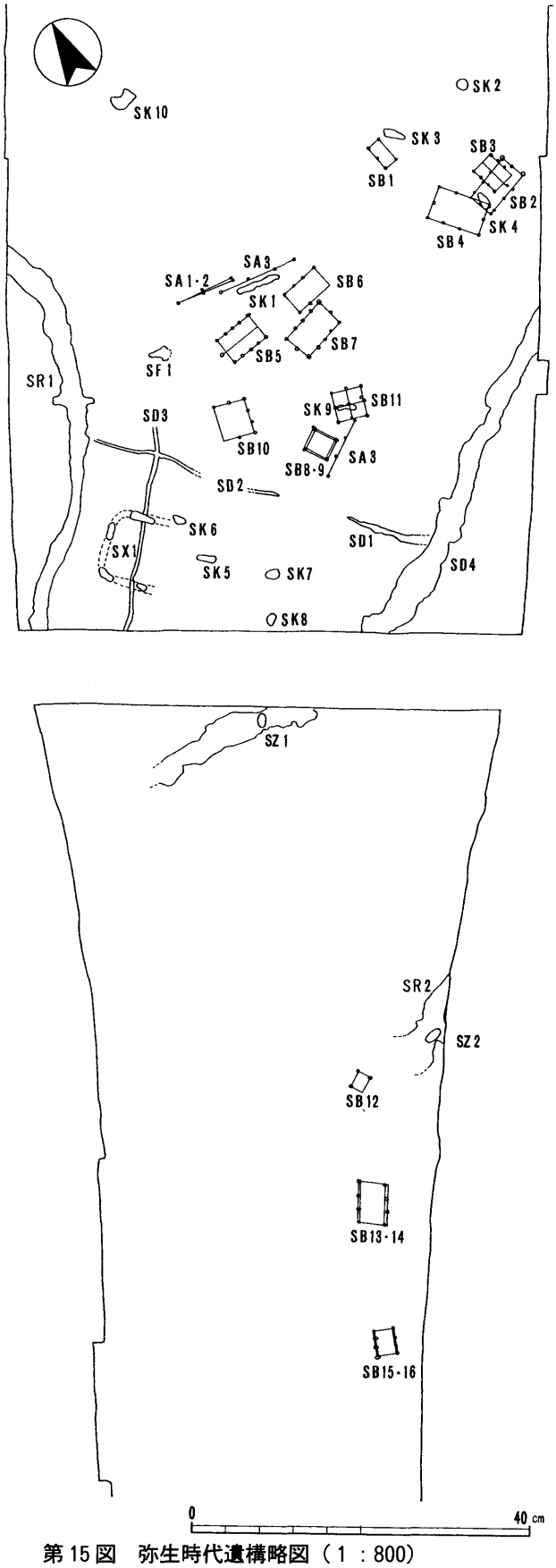
### SB1（第16図）

B・C地区にまたがって検出された桁行2間、梁行1間の南北棟（N 15° W）の側柱建物で、桁行東側の中央柱穴を欠く。桁行は3.2mで柱間1.6mの等間、梁行は1.7mである。柱掘形は20～40cm、深さ7～30cmで径10cmの柱痕跡を一部で確認した。

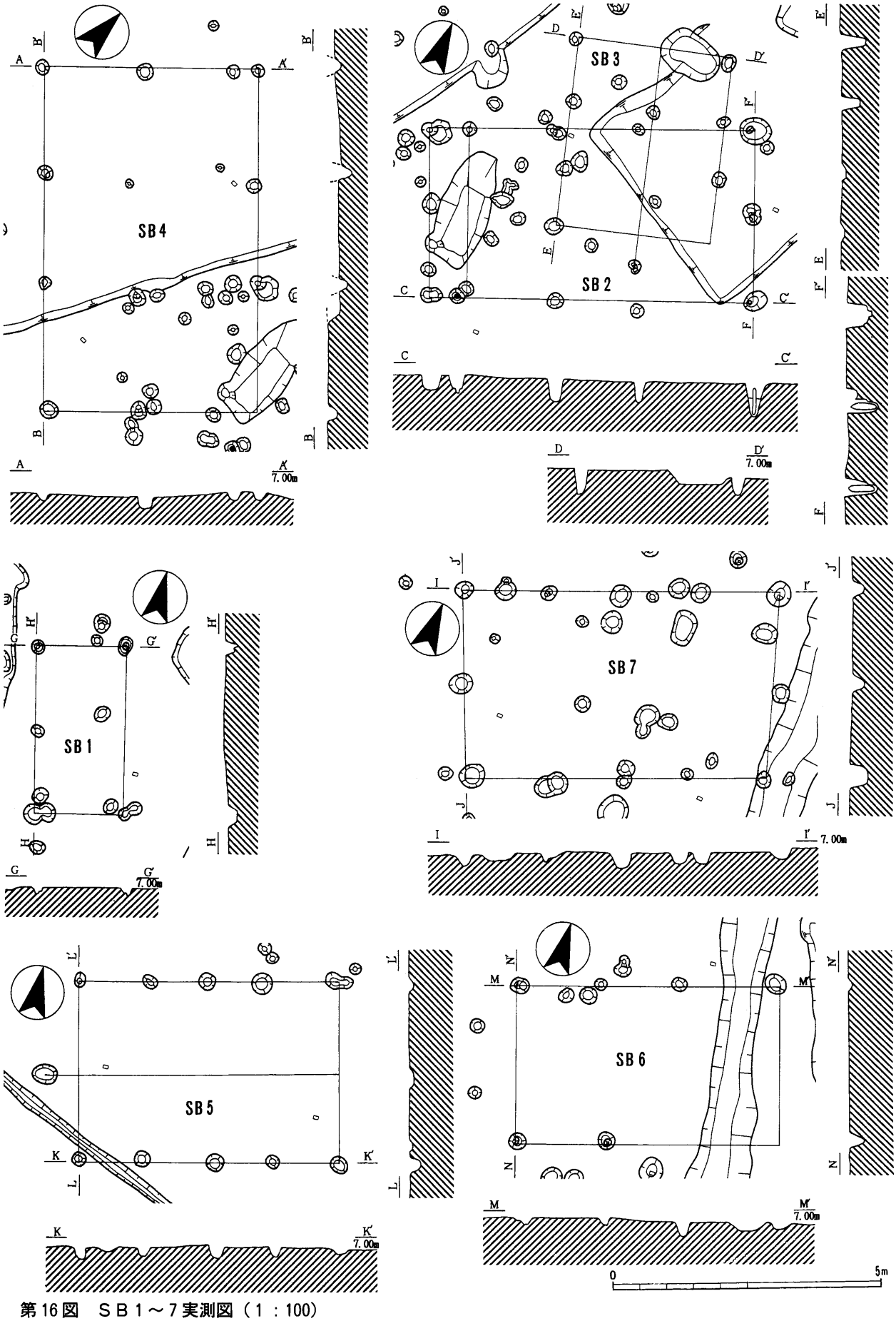
出土遺物はないが、棟方向からこの時期と考えた。

### SB2（第16・17図・PL－9・53）

C地区北東部で検出された。桁行3間、梁行2間の身舎に西面廂の付く東西棟（E 25° N）の建物と考えた。身舎桁行は5.3mで柱間が西から1.6＋1.6＋2.1mである。梁間は3.2mで 柱間1.6mの等間である。廂の柱間は0.6mである。柱掘形は径30～60cm、深さ15～60cmと比較的大きい。東側柱の2




第15図　弥生時代遺構略図（1：800）




第16図　ＳＢ１～７実測図（１：100）

柱穴には、径12cmほどの柱根（14・15）が遺存していた。

柱穴出土遺物は細片で時期は不明であるが、棟方向からこの時期と考えた。ＳＫ４との前後関係は不明である。

**ＳＢ３**（第16図・ＰＬ－９）

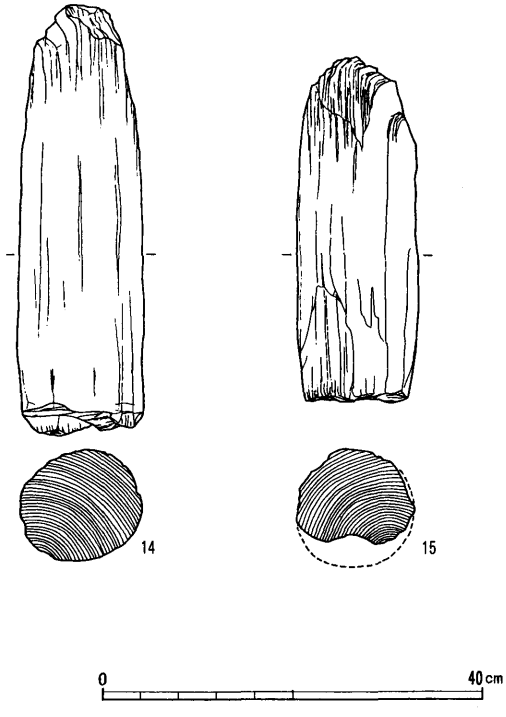
ＳＢ２と重複して検出された。南東隅柱穴を検出できなかったが、桁行３間、梁行１間の南北棟（Ｎ19° Ｗ）の側柱建物と考えられ、南側に独立棟持柱が伴う。桁行は3.6ｍで1.2ｍの等間、梁行は2.9ｍである。棟持柱は妻側から0.5ｍ離れている。柱掘形は径20～30cm、深さは40cm前後と比較的深いものが多いが、棟持柱は20cmと浅い。

柱穴出土遺物は細片で時期決定根拠を欠くが、柱掘形の形態と棟方向からこの時期と考えた。

**ＳＢ４**（第16図）

ＳＢ２の西側で検出された桁行３間、梁行２間の南北棟（Ｎ42° Ｗ）の側柱建物である。桁行は6.3ｍで2.1ｍ等間、梁行は3.9ｍで1.95ｍ等間である。柱掘形は径20～30cm、深さは削平されている部分が多いが20cm前後で、柱痕跡は確認できなかった。

柱穴出土遺物はなく、棟方向からこの時期と考えた。切り合い関係からはＳＢ２より新しいが、ＳＫ４との前後関係は不明である。




**第17図　ＳＢ２出土柱根実測図（１：８）**

**ＳＢ５**（第16図・ＰＬ－８）

Ｃ地区中央部で検出された桁行４間、梁行１間の東西棟（Ｅ12° Ｎ）の側柱建物である。西側に独立棟持柱が伴う。桁行4.8ｍで、柱間は1.2ｍの等間、梁行は3.3ｍである。棟持柱は妻側から0.6ｍ離れている。柱掘形は径20～40cm、深さ６～20cmで、柱痕跡は確認できなかった。

柱穴から遺物は出土していないが、形態から弥生時代の建物と考えられ、狭い柱間から倉庫の可能性が高い。

**ＳＢ６**（第16図）

Ｃ地区中央部で検出された桁行３間、梁行１間の東西棟（Ｅ16° Ｎ）の側柱建物であるが、南東側２柱穴を欠く。桁行は4.8ｍ。柱間は不等間で西から1.5＋1.5＋1.8ｍである。梁行は2.8ｍである。西妻部の0.8ｍ西側にある２小穴も梁方向に平行し、建物に伴う施設の可能性がある。柱掘形は径20～40cm、深さ７～24cmで、径10～15cmの柱痕跡が確認されたものもある。

柱穴出土遺物は細片で時期は不明であるが、棟方向がＳＢ５と近くこの時期と考えた。

**ＳＢ７**（第16図・ＰＬ－10）

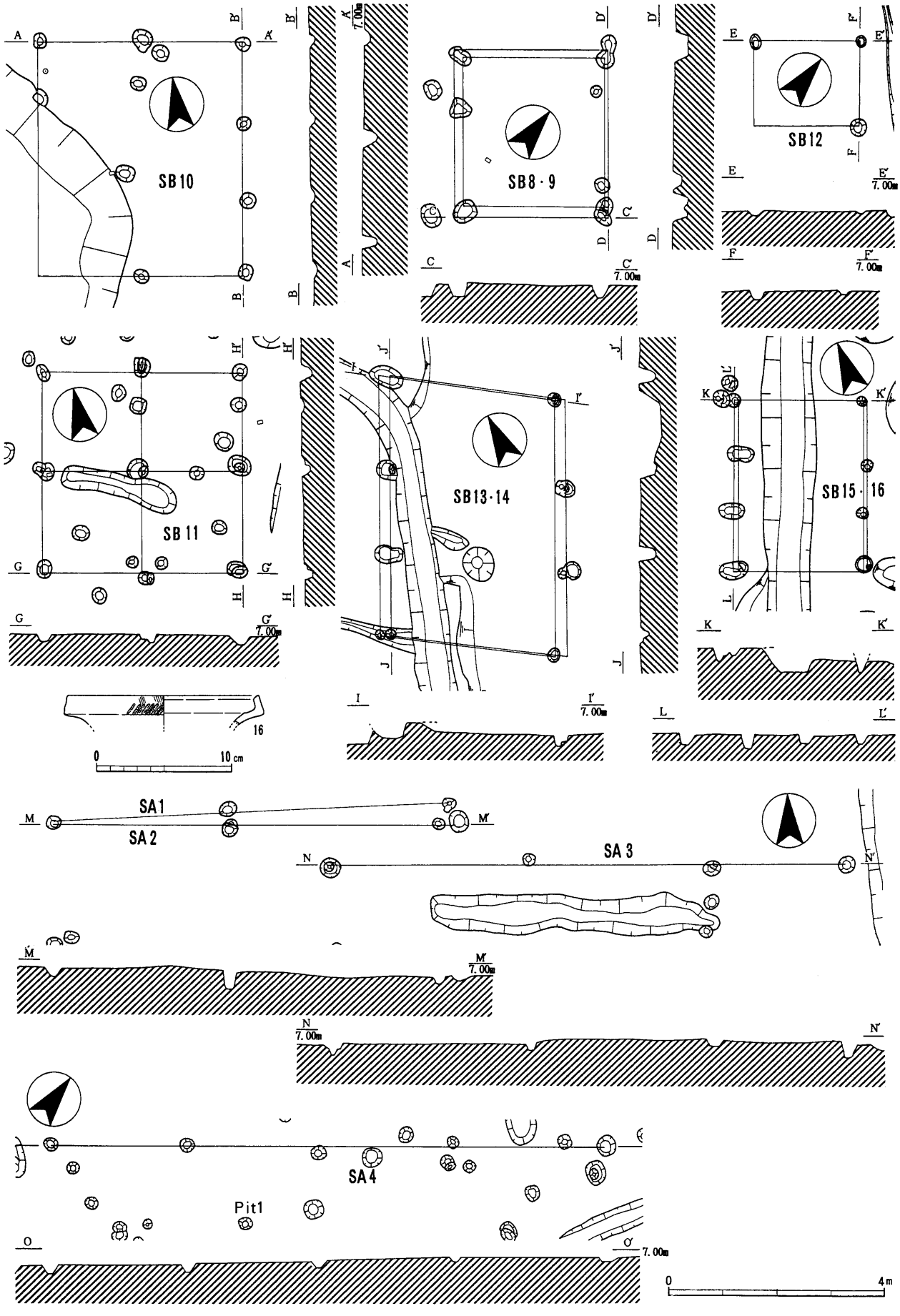
ＳＢ６の南側で検出された。桁行４間、梁行１間の東西棟（Ｅ22° Ｎ）の建物で、東西に近接棟持柱を伴う。桁行は5.6ｍで柱間は1.4ｍの等間である。梁行は3.6ｍである。柱掘形は径20～50cm、深さ６～45cmで、径10cmほどの柱痕跡が確認されたものもある。

柱穴出土遺物はないが棟方向・形態からこの時期と考えた。

**ＳＢ８・９**（第18図・ＰＬ－11）

いずれもＣ地区南部で検出された１×１間、南北棟（Ｎ37° Ｗ）の建物で、ほぼ同一地点・同一規模で建替えられている。竪穴住居の主柱穴の可能性もあるが、周溝などが全く検出されなかったため、他の建物と同様に掘立柱建物と考えた。規模は、桁行2.7ｍ、梁行2.6ｍから桁行3.1ｍ、梁行2.7ｍのものに拡張されている。柱掘形は径30cm、深さ23～28cmで柱痕跡の確認されたものはない。

柱穴出土遺物はないが、棟方向からこの時期と考




第18図　ＳＢ８～16・ＳＡ１～４実測図（１：100）

えた。

**ＳＢ10**（第18図・ＰＬ－10）

Ｃ地区の中央部で検出された。南西部の柱穴はＳＲ４によって消失しているが、桁行３間、梁行２間の南北棟（Ｎ９°Ｅ）の側柱建物と考えられる。桁行は4.2ｍで柱間1.4ｍの等間、梁行は3.8ｍで柱間1.9ｍの等間である。柱掘形は径20～30㎝、深さ７～26㎝で柱痕跡は確認されていない。

柱穴出土遺物は細片のみで時期は不明であるが、ＳＢ11と棟方向が近く同時期の建物と考えられる。

**ＳＢ11**（第18図・ＰＬ－11）

ＳＢ10の東側で検出された桁行２間、梁行２間の総柱建物である。その形態から倉庫と考えられる。棟方向は南北辺で表せばＮ13°Ｅである。桁行・梁行とも3.6ｍで柱間1.8ｍ等間である。柱掘形は径30～40㎝、深さ６～25㎝で径20㎝ほどの柱痕跡が確認されたものもある。

**出土遺物**　16は受口状口縁の甕で、端部外面にはハケ原体による刺突文が施されている。中期後葉ないし後期初頭のものと考えられ、建物もこの時期と考えられる。

**ＳＢ12**（第18図・ＰＬ－11）

Ｄ地区南東部で検出された。南東隅柱穴を欠くが、１×１間・東西棟（Ｅ36°Ｎ）の建物と考えられる。建物北東の溝は古墳時代の河道の末端であり、ＳＢ12とは無関係である。竪穴住居の可能性もあるが、ＳＢ８・９と同様の理由で掘立柱建物と考えた。桁行2.0ｍ、梁行1.6ｍである。柱掘形は径20～30㎝、深さ２～18㎝で柱痕跡は確認されていない。

柱穴出土遺物はないが、南側にあるＳＢ13～16との関連からこの時期と考えた。

**ＳＢ13・14**（第18図・ＰＬ－12）

ＳＢ12の南側で検出された。東半は撹乱により削平されていて、柱穴の確認できない部分もあるが、ほぼ同一地点・同一規模での建替えと考えられる。いずれも桁行３間、梁行１間の南北棟（Ｎ29°Ｅ）の建物であり、平面形はいずれも平行四辺形状にやや歪む。桁行は6.0ｍで柱間は2.0ｍ等間、梁行は3.2ｍである。柱掘形は径30㎝前後、深さ22～29㎝で径10～20㎝ほどの柱痕跡が確認されたものもある。

柱穴から出土遺物はなく時期は不明であるが、形態から弥生時代のものと考えられる。

**ＳＢ15・16**（第18図・ＰＬ－12）

ＳＢ13・14の南側で検出された。東半部は撹乱により削平され、柱穴の確認できない部分もあるが、同一地点・同一規模で建替えと考えられる。いずれも桁行３間、梁行１間の南北棟（Ｎ18°Ｅ）の側柱建物である。桁行は3.0ｍで柱間1.0ｍ等間、梁行は2.3ｍである。柱掘形は径30㎝前後、深さ13～18㎝で柱痕跡は確認されていない。

柱穴出土遺物はなく、時期は不明であるが、形態から弥生時代のものと考えられる。

### ２　柱列

**ＳＡ１・２**（第18図）

いずれもＣ地区の北部で検出された東西方向に２間分の柱列である。全長7.3ｍで、柱間は4.0＋3.3ｍと不等間である。柱穴は径20～30㎝、深さ18～34㎝で、柱痕跡は確認されなかった。これらは建替えと考えられるが、前後関係は不明である。方向はＳＡ１がほぼ真東西、ＳＡ２がＥ３°Ｓである。

いずれも柱穴から遺物は出土していないが、ＳＫ１の方向に近いことからこの時期と考えた。

**ＳＡ３**（第18図）

ＳＡ１・２の東で、東西方向（Ｅ２°Ｓ）に３間分検出された。全長9.4ｍで柱間は西から3.6＋3.4＋2.4ｍと不等間である。柱穴は径20～40㎝、深さ15～29㎝で、一部で径10～15㎝の柱痕跡を確認した。

柱穴からは遺物は出土していないが、ＳＡ１・２と同様の理由からこの時期と考えた。

**ＳＡ４**（第18図・ＰＬ－11）

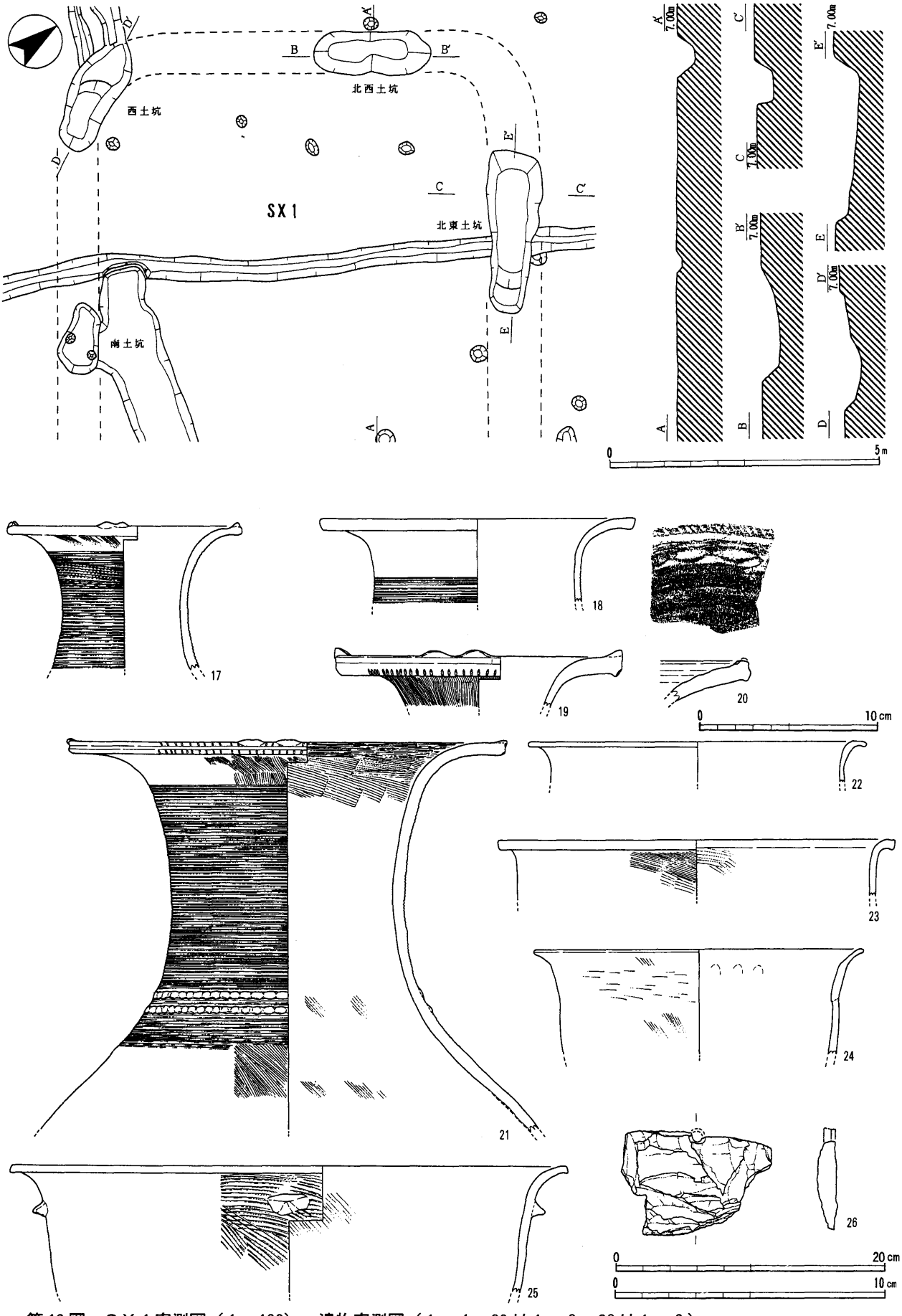
Ｃ地区の中央部、ＳＢ８・９の東側で東西方向（Ｅ41°Ｎ）に４間分検出された。全長10.3ｍで、柱間は東側１間分が2.8ｍとなる以外は2.5ｍの等間である。柱穴は径20～30㎝、深さ４～21㎝で、柱痕跡は確認されていない。

柱穴からは遺物は出土していないが、ＳＢ８・９の方向に近く、この時期と考えた。

### ３　方形周溝墓

**ＳＸ１**（第19図・ＰＬ－13・37）

Ｃ地区の南東部で検出された。大小４基の土坑が断続的ながらコの字状になること、西土坑と北西土坑の出土遺物（21）が接合したことから、４基の土




第19図　ＳＸ１実測図（１：100）・遺物実測図（１：４、20は１：３、26は１：２）

坑は1基の方形周溝墓の周溝内の落ち込みが削平されずに残ったものと考えられる。平面形態は明らかでないが、西隅は周溝が繋がる可能性が高く、少なくとも4隅の切れるタイプではないであろう。

東西長は不明であるが、南北長7.5m（溝内側面で計測）、周溝最大幅1.0m、深さ0.15～0.45mである。方位は北東辺でおよそN 46° Wで、北側の区画溝ＳＤ2とほぼ揃う。周溝埋土は上層が灰褐色粘質土、下層が黒褐色粘質土で炭化物が混じる。遺物の多くは下層から出土した。なお、埋葬主体は全く遺存していない。

方形周溝墓・土坑から出土した中期前葉の壺・甕に関しては、以下の分類基準によって記述する。なお、鉢は量的に少なく敢えて分類は行わず、高杯・蓋は出土が確認されていない。

壺Ａ類　口縁部が大きく開き、端部が無文または、波状文などを施すもの。

Ｂ類　器壁が厚く、口縁の外反が弱いもの。

Ｃ類　口縁が大きく開き、端面下端に刻目または押圧を施すもの。大小2種に細分できる。

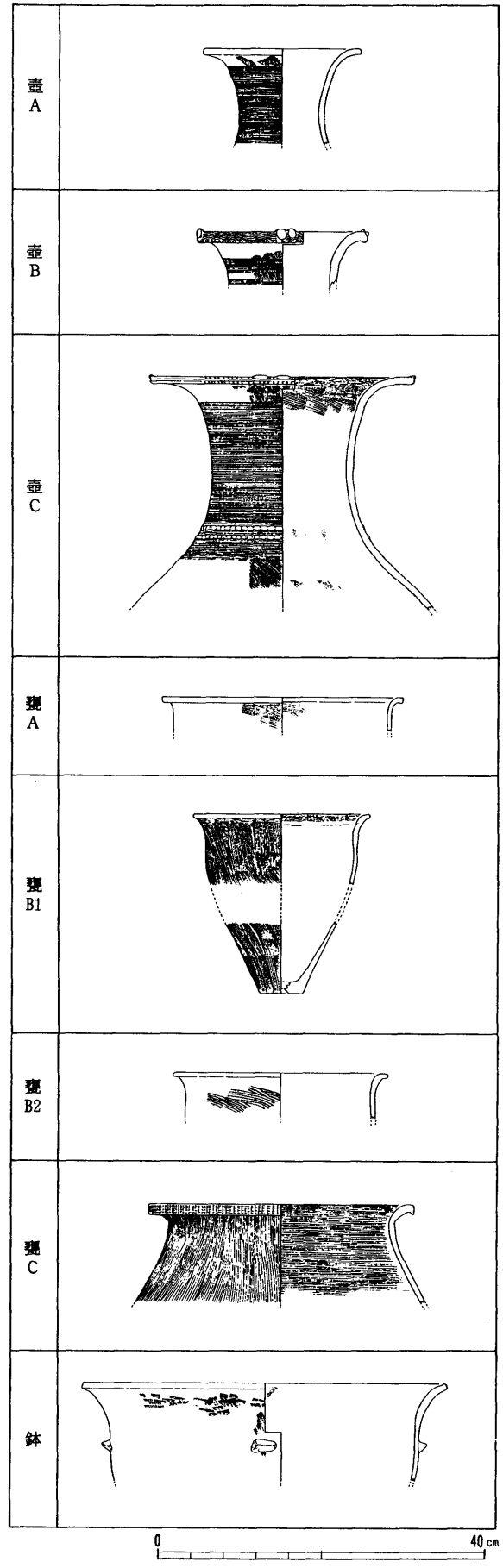
甕Ａ類　口縁部が強く屈曲するもの

Ｂ類　口縁部が緩やかに外反するもの

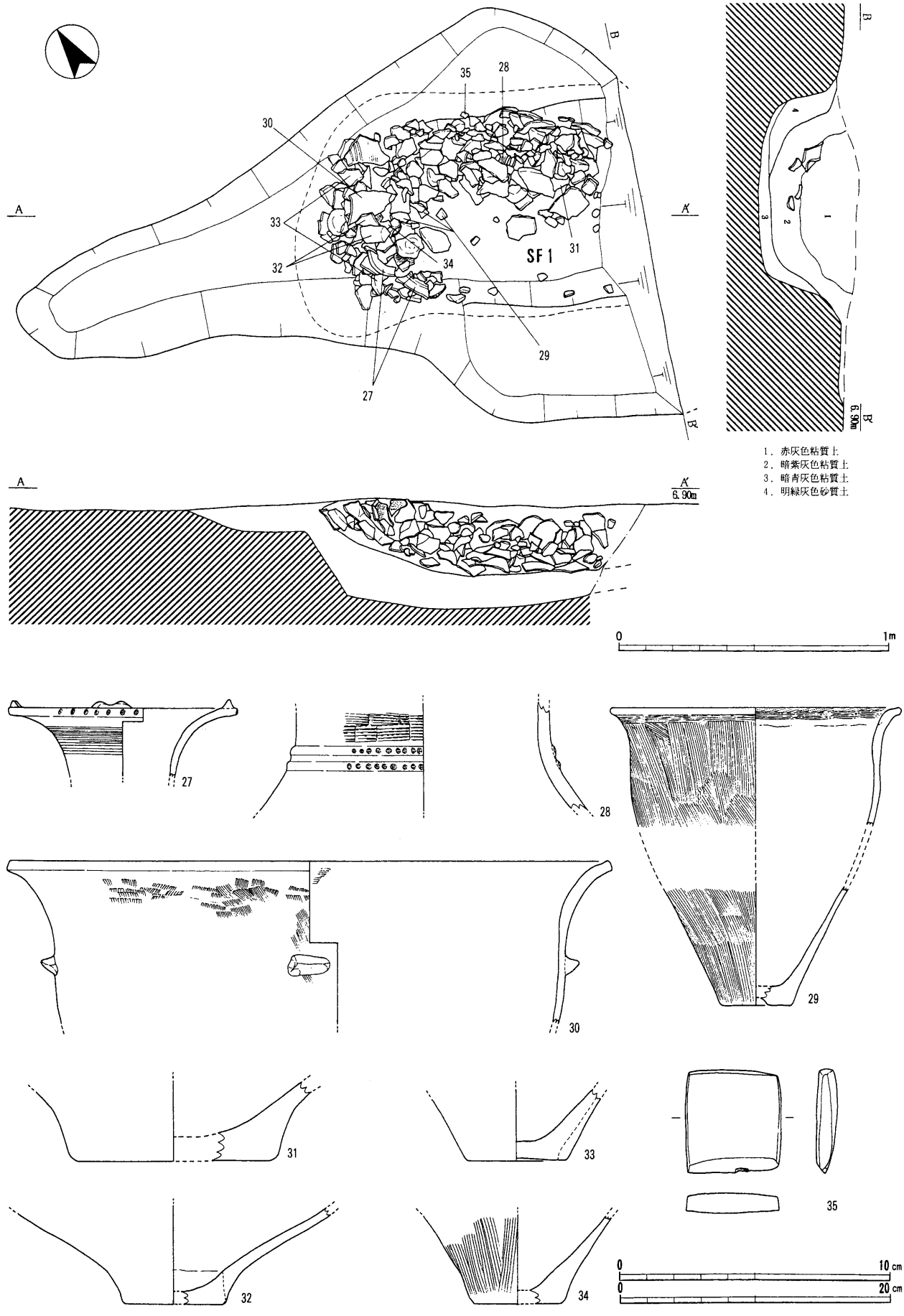
Ｃ類　口縁部が強く屈曲し体部が大きく張るもの

さらに体部外面の調整技法から1類（ハケ調整）、2類（条痕調整）とした。

**出土遺物**　17・18は、いずれも壺Ａ類である。17は口唇部は無文で、口縁端部内面に2個一対の瘤状突起を4方向に貼り付ている。頸部はタテハケ調整の後、二枚貝腹縁による直線文を施す。18は瘤状突起の有無は小片のため不明である。頸部は直立気味で、原体は不明だが直線文がみられる。壺Ｃ類の19は、口縁端面の下端と口縁端部内面に刻目列があり、内面には2個一対の瘤状突起が4方向に貼り付けられている。20は口縁部内面に指頭による凹線が見られる。21は同一個体と思われる破片を図上復元したものである。口縁端面には沈線と上下端に刻目列があり、内面には2個一対の低い瘤状突起が4方向に貼り付けられている。頸部はタテハケ調整の後、二枚貝腹縁による直線文がある。頸部下位




**第20図　弥生時代中期前葉土器分類図（1：8）**




第21図　ＳＦ１実測図（１：20）・出土遺物実測図（１：４、35は１：２）

には貼り付け突帯が2条あり、押圧されている。体部以下と口縁部内面はハケ調整である。

甕にはA類（23）、B類（22・24）がある。24の頸部には擦痕が残る。

鉢（25）は口縁部が緩やかに外反し、体部上位に把手が付く。外面は条痕調整である。

26は石包丁の破片で、表面は全て剥落しているが、穿孔が1カ所確認できる。

### 4　焼土坑

**ＳＦ１**（第21図・ＰＬ—13・37）

Ｃ地区の中央部で検出された焼土坑である。東側が撹乱で不明であるが、東西2.3m以上、南北1.5mの不整二等辺三角形状の落ち込みがあり、その東側寄りの床面を更に約20cm掘り込み、暗灰色系土の上に土器片利用した壁体を構成している。壁体の土器は2次焼成を受け脆くなっている。壁体は内法で東西1.1m以上、南北0.6m、深さ0.25mで、断面逆台形状である。壁体は北から西側の残りは良いが、南側は悪い。底部にはほとんど土器片はなく、本来存在しなかったのか否かは不明である。

**出土遺物**　27は壺Ａ類である。口唇部には刺突文が、内面には2個一対の瘤状突起が4方向にある。頸部には二枚貝腹縁による直線文を施す。28は壺Ｃ類の頸部から体部片である。頸部下位には2条の貼付け突帯があり、刺突文を施す。突帯より上位を二枚貝腹縁による断続的な直線文を施す。31・32はいずれも壺の底部と考えられ、ナデ調整である。

29はＢ1類の甕で、同一個体と考えられる。外面をタテハケ、口縁部内面をヨコハケ調整する。33・34はいずれも甕の底部と考えられ、外面をタテハケ調整している。

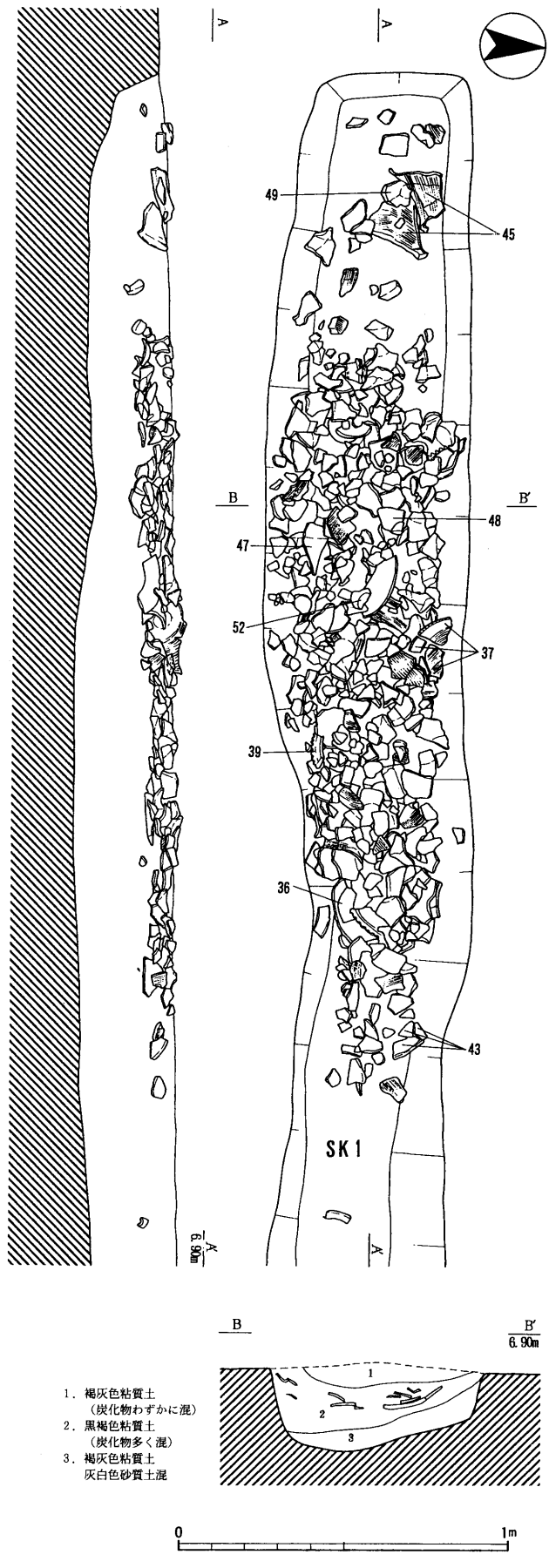
鉢（30）は、体部上位に把手を貼り付けている。体部外面はタテハケ調整である。

35は小型の扁平片刃石斧で、砂岩製である。

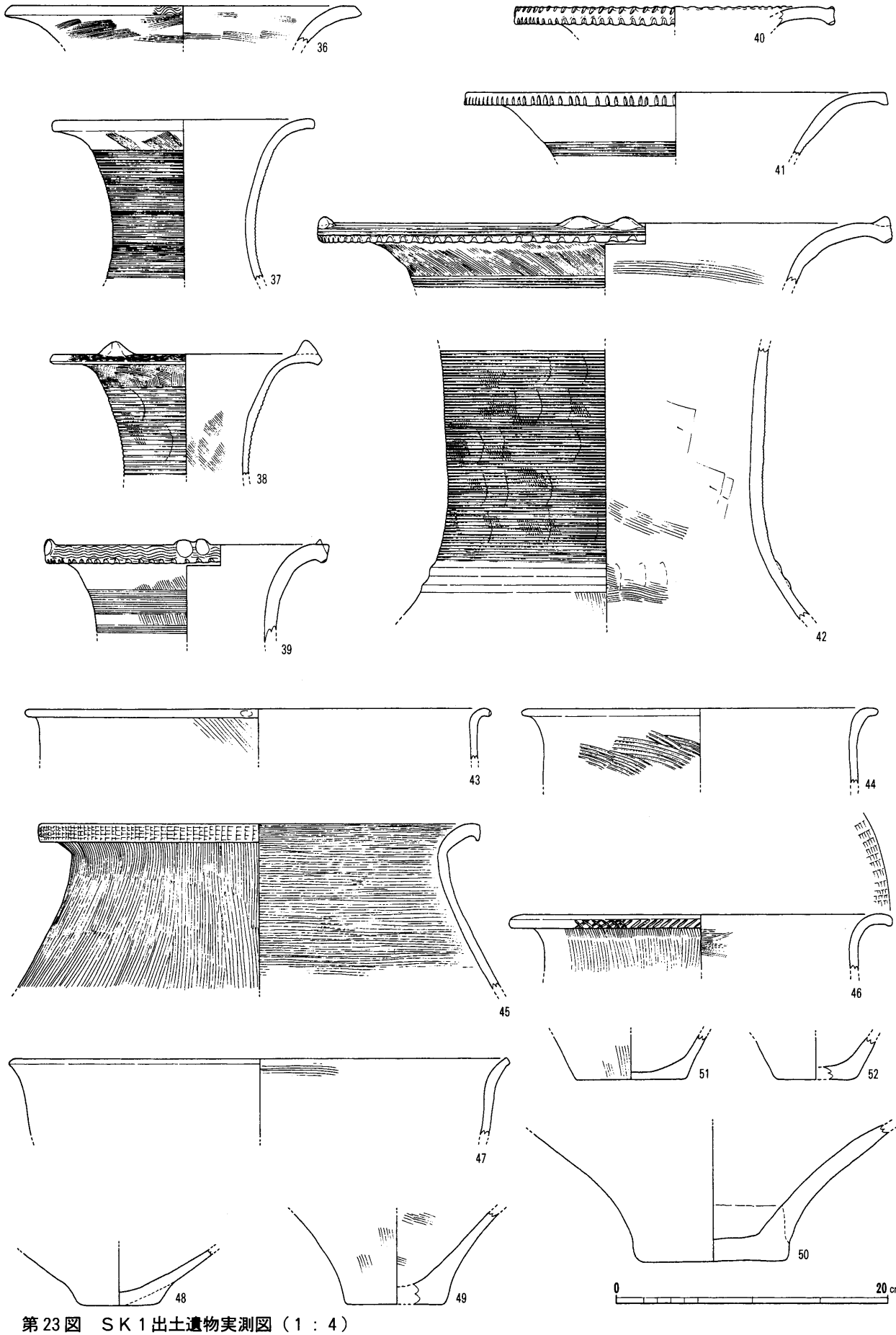
### 5　土坑

**ＳＫ１**（第22・23図・ＰＬ—14・38）

Ｃ地区北部で検出された細長い土坑で、全長5.2m、幅0.45～ 0.6m、深さ0.25～0.3mである。埋土は3層に分けられ、中層の黒褐色粘質土からは比較的多くの炭化物と大量の土器片が西側を中心に出土した。土器は完形に復元できるものはなく、廃棄




第22図　ＳＫ１遺物出土状況図（１：20）




第23図　ＳＫ１出土遺物実測図（１：４）

土坑と考えられる。

**出土遺物**　36～38は壺A類である。36の口唇部には波状文があり、他はハケ調整している。37の口唇部は無文で、頸部にはタテハケ調整の後、二枚貝腹縁による直線文が施されているの。38の口唇部には波状文が、口縁端部内面には瘤状突起が3方向に各1個ある。頸部はハケ調整の後、二枚貝腹縁による直線文が施されている。

39は壺B類である。口縁端面には波状文を施し、さらに下端に刻目、上端に指頭による押圧が2個一対で4方向にある。頸部はタテハケ調整の後、櫛描直線文が2帯以上施されている。

40～42は壺C類である。40は口縁端面の上下端にヘラ状工具による押圧がある。41は口縁端面にはヘラ状工具による刺突文が、頸部には二枚貝腹縁による直線文が施されている。42は接点はないが同一個体と考えられる。口縁端面には二枚貝腹縁による直線文と下端には棒状工具による押圧が施される。口縁端部内面には2個一対の瘤状突起が4方向にある。頸部はタテハケ調整の後、下位に無文の突帯を2条貼り付ける。突帯より上位を二枚貝腹縁による直線文を施す。二枚貝の圧痕が明瞭に残り、7段以上ある。48～50は壺底部と考えられる。

46はB1類の甕である。口唇部にはハケ状工具による斜め方向の刺突が、内面には同一原体による押引き状の刺突文が施されている。内外面はハケ調整である。43はA類の甕である。外面は風化し明確でないが、ハケ調整と思われる。口縁端部外面には指頭による押圧が1カ所確認できる。44は体部外面を斜位ないし横位の条痕調整する甕B2類である。甕C類の（45）は、体部が口径を凌駕する径をもつ甕である。口縁部は強く屈曲し、垂下する口縁端面には、ハケ状工具による浅い角度からの刺突文がある。体部外面がタテ方向、内面が横方向のハケ調整である。51・52は甕の底部と考えられる。

47は鉢で、内面にヨコハケ目が若干残る。

**ＳＫ2**（第24・26図）

B地区の南東部で検出された。円形の土坑で、直径2.8m、深さ0.3mである。埋土は暗茶褐色砂質土である。

**出土遺物**　壺B類の63は、口縁端部上端に2個1対の低い瘤状突起があり、下端には刻目文を施す。頸部はタテハケ調整の後、二枚貝腹縁による直線文を施す。

**ＳＫ3**（第24・25図・ＰＬ－38）

B地区の南東隅部で検出された片側が幅広の略楕円形の土坑である。全長2.5m、最大幅0.8m、深さ0.25mで、主軸は北西～南東方向を向く。埋土は炭化物の混じった暗茶褐色砂質土ある。

**出土遺物**　54は壺A類である。口縁部は無文で、端部内面には4方向に瘤状突起がある。頸部はタテハケ調整後、二枚貝腹縁による直線文が施されている。53は壺C類で、口縁端部下端には押圧列がある55はB1類の甕で、ハケ調整する。56は鉢の小片で把手が付く。57は凹基無茎式の石鏃でサヌカイト製である。

**ＳＫ4**（第24・25図）

C地区の北東隅部で検出された。全長2.2m、最大幅0.95m、深さ0.4mで、主軸は南北方向を向く。埋土は灰黒色粘質土である。

**出土遺物**　壺C類（58）は、口縁端面の上下にヘラ状工具による刻目があり、内面には2個一対の瘤状突起が3ないし4方向に貼り付けられている。頸部外面はタテハケ調整の後、二枚貝腹縁による直線文が施される。甕（59・60）はいずれもB1類で、ハケ調整が主体である。61には底部中央に焼成前の穿孔がある。

**ＳＫ5**（第24図・ＰＬ－14）

C地区の南西部で検出された。平面形は、片側が幅広の楕円形状で、その主軸は方形周溝墓ＳＸ1とほぼ一致することや区画溝と考えられるＳＤ2とほぼ平行することから土壙墓の可能性がある。全長は西側が後世の撹乱で消失しているため正確ではないが約2.2mと推定でき、最大幅0.85m、深さ0.35mである。埋土は灰黒色粘質土で、下部に地山の黄灰色シルトが混じる。

遺物は少なく、壺・甕の小片のみである。

**ＳＫ6**（第24・26図）

方形周溝墓ＳＸ1の東、ほぼ接するような位置で検出された。全長1.35m、最大幅0.9m、深さ0.25mで、底面に径30cm程の小穴があるが、この土坑に伴うものか不明である。埋土は灰黒色粘質土で下

部に地山の黄灰色シルトを含む。

**出土遺物**　64は壺B類で、口縁端面には上下に刺突列文がある。頸部には直線文があるが、原体は不明である。

**ＳＫ７**（第24・26図）

Ｃ地区の南部で検出された不整形の土坑で、南北1.1m、東西1.6m、深さ0.2mである。埋土は、地山の黄灰色シルトと炭化物が混じる灰黒色粘質土である。

**出土遺物**　62は壺A類で、口唇部は無文であるが、口縁端部内面には瘤状突起が4方向に各1個貼り付けられている。頸部外面は二枚貝腹縁による直線文を施す。

**ＳＫ８**（第24・26図・ＰＬ—38）

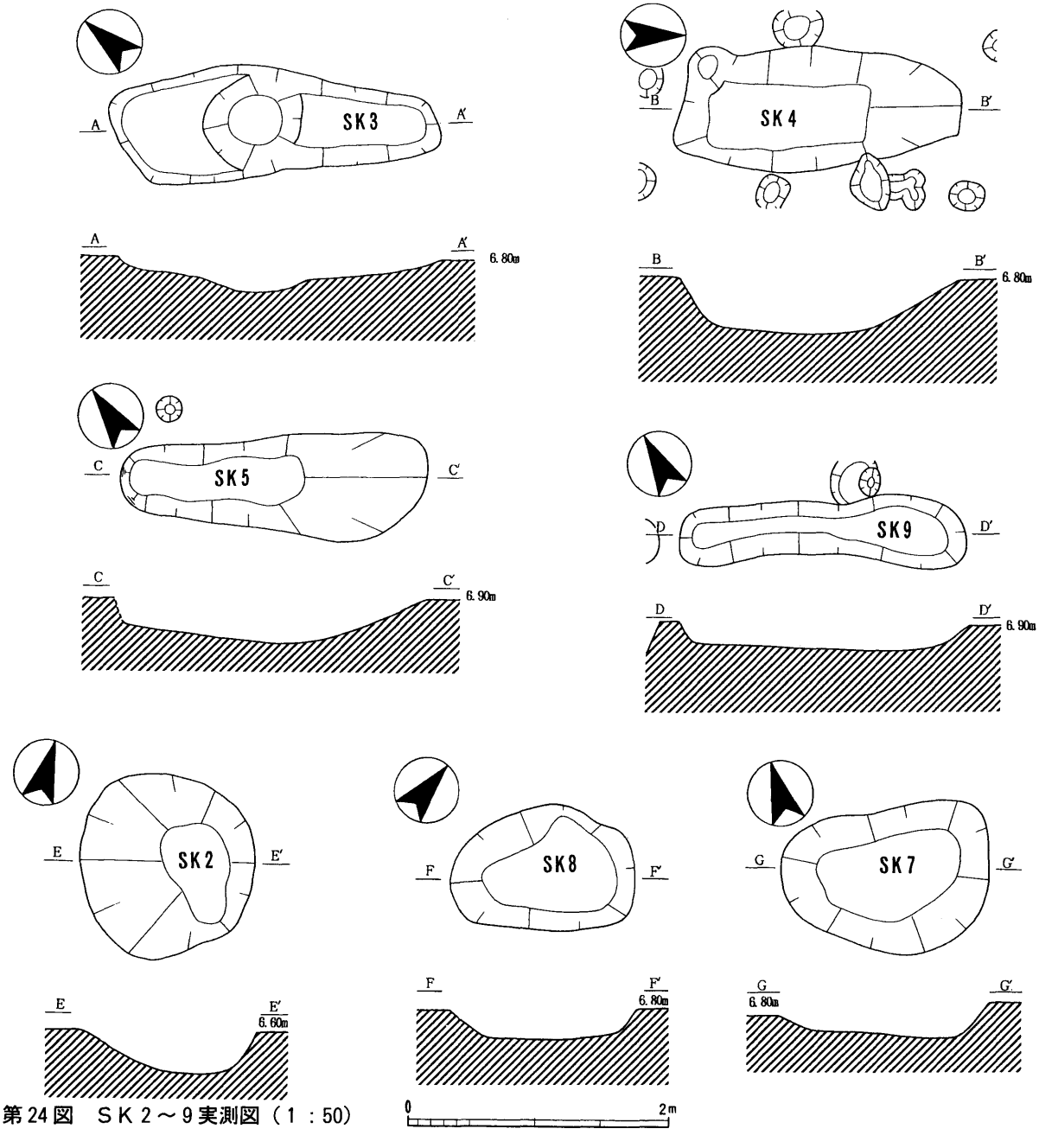
ＳＫ７の南側で検出された不整形な土坑で、南北1.4m、東西0.95m、深さ0.3mである。埋土は灰黒色粘質土で下部ほど地山の黄灰色シルトを含む。

**出土遺物**　66は甕B1類で、頸部外面には櫛描波状文が、口縁部内面には櫛描波状文が2段以上認められる。

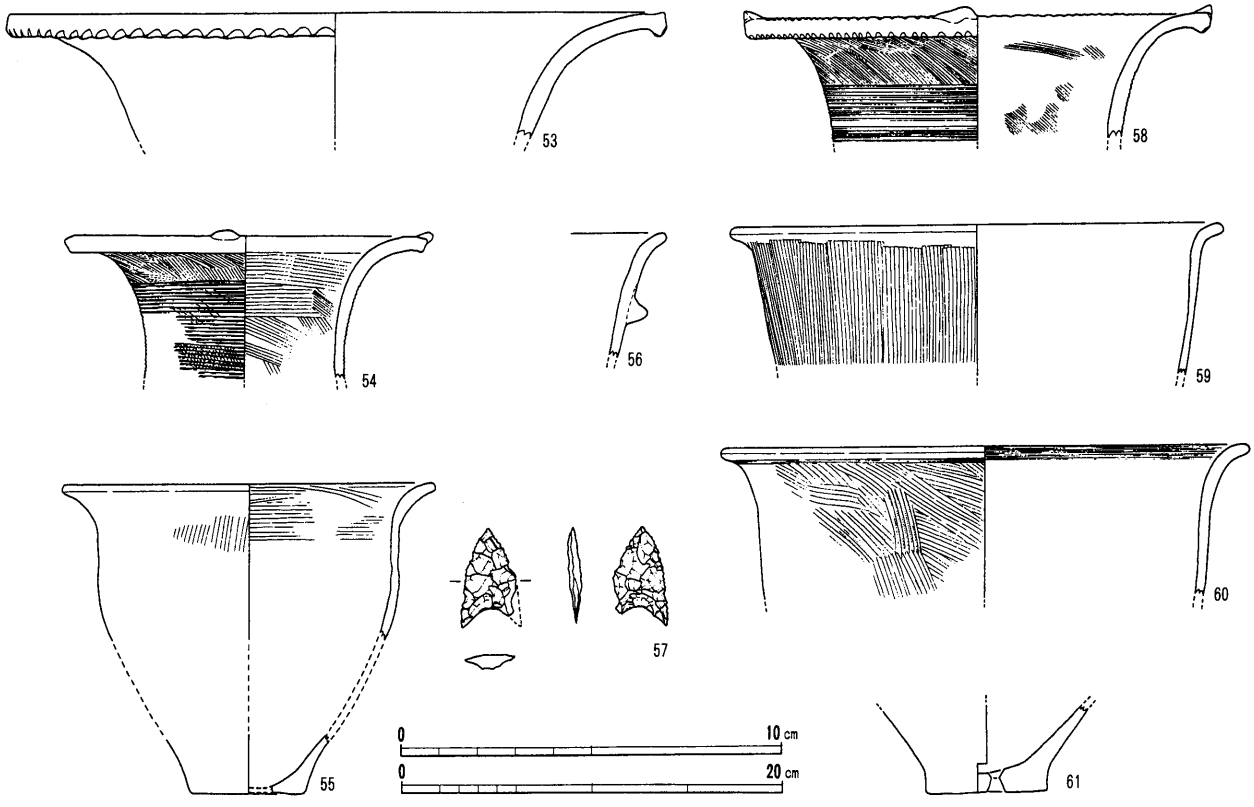
**ＳＫ９**（図24・26・ＰＬ—14）

Ｃ地区の中央部で検出された細長い土坑である。全長4.4m、幅1.1m、深さ0.15mである。

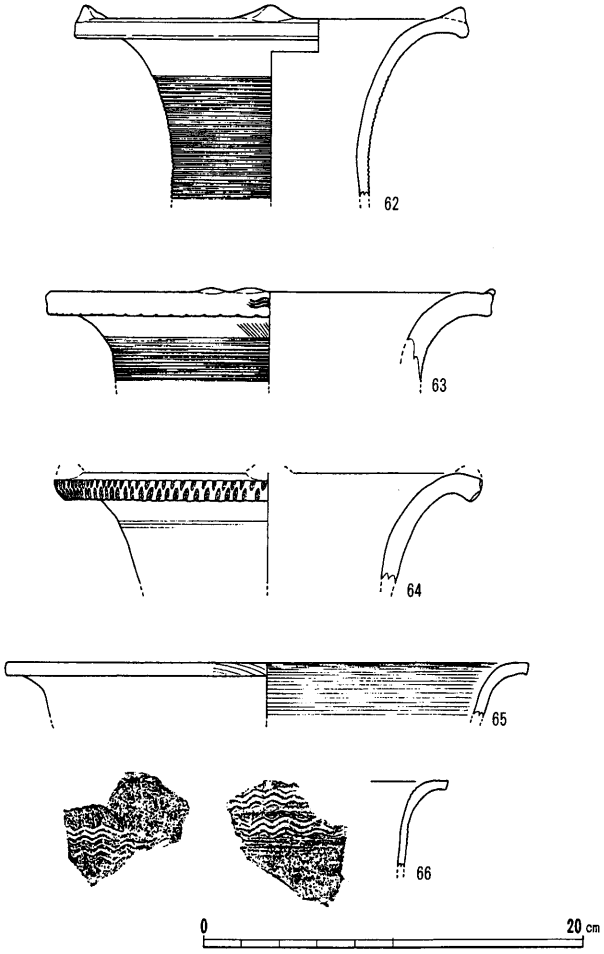
**出土遺物**　65はハケ調整が主体のものである。



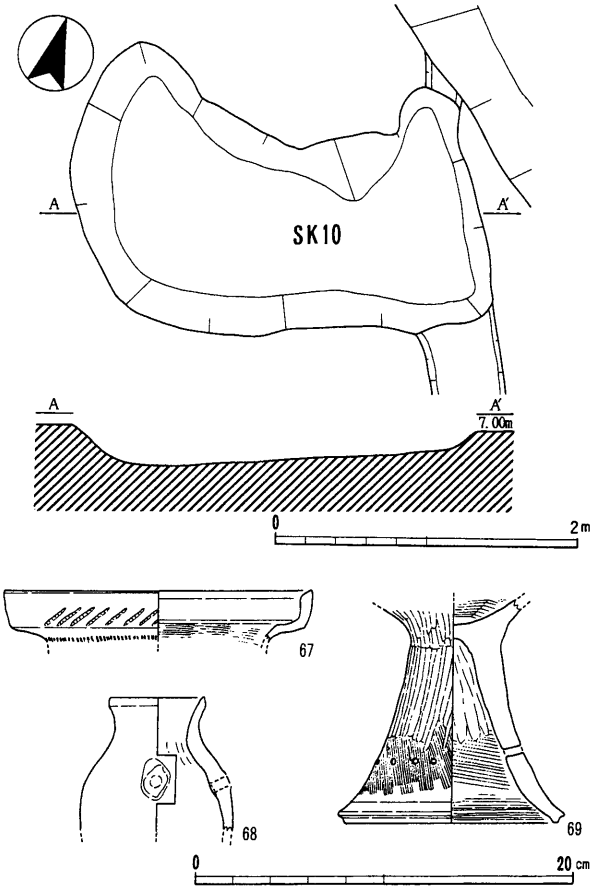

**第24図　ＳＫ２～９実測図（１：50）**




第25図　ＳＫ３・４出土遺物実測図（１：４、57は１：２）




第26図　ＳＫ２・６～９出土遺物実測図（１：４）




第27図　ＳＫ10実測図（１：50）・出土遺物実測図（１：４）

ＳＫ10（第27図）

Ｂ地区の南西部で検出された不整形な土坑である。東西2.7m、深さ0.2mである。

**出土遺物**　67は受口状口縁甕で、口縁部外面には刺突列文が施される。高杯（69）の脚部中位には2個1対の小孔が8方向にある。小型壺（68）の体部には焼成前に約径3㎝程の小孔が粘土で充填されている。

**6　溝・自然流路・杭列**

ＳＤ1・2

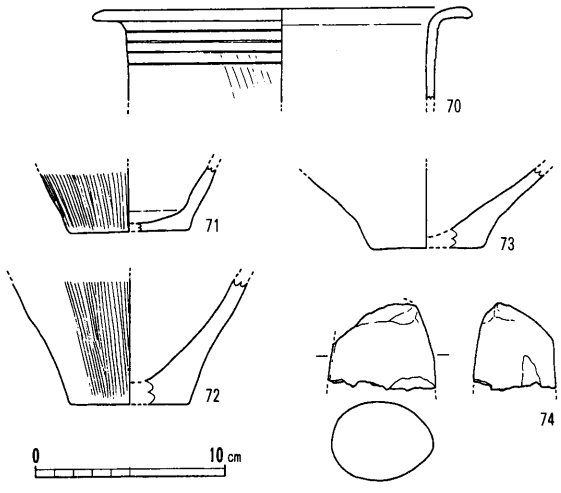
いずれもＣ地区の南部で検出された。直線的に北西から南東に延び、部分的に後世の遺構や削平によって消失しているが、本来同一の溝と考えられる。最大幅1.2m、深さ0.15m前後である。

南側の方形周溝墓と方向が近く、またＳＲ1の付近の落ち込みから東に広がる微高地縁辺部を南北に区切るように掘られていることから北側の集落域と南側の墓域を区画する溝と考えられる。

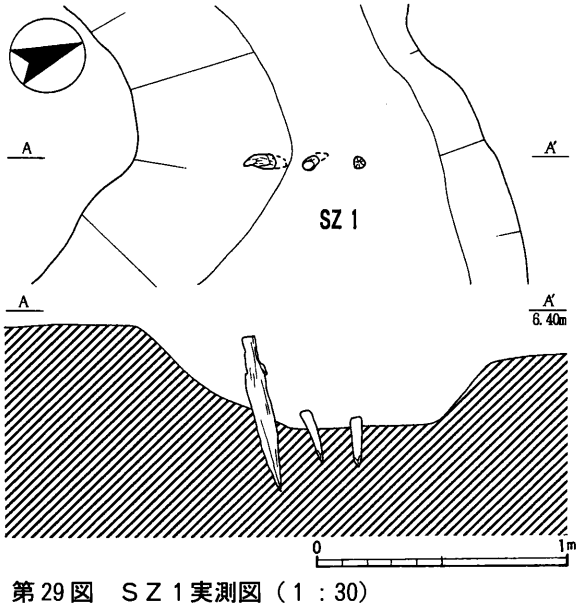
遺物は小片のみで図示できるものはないが、中期のものと思われる。

ＳＲ1（第28図・ＰＬ－15）

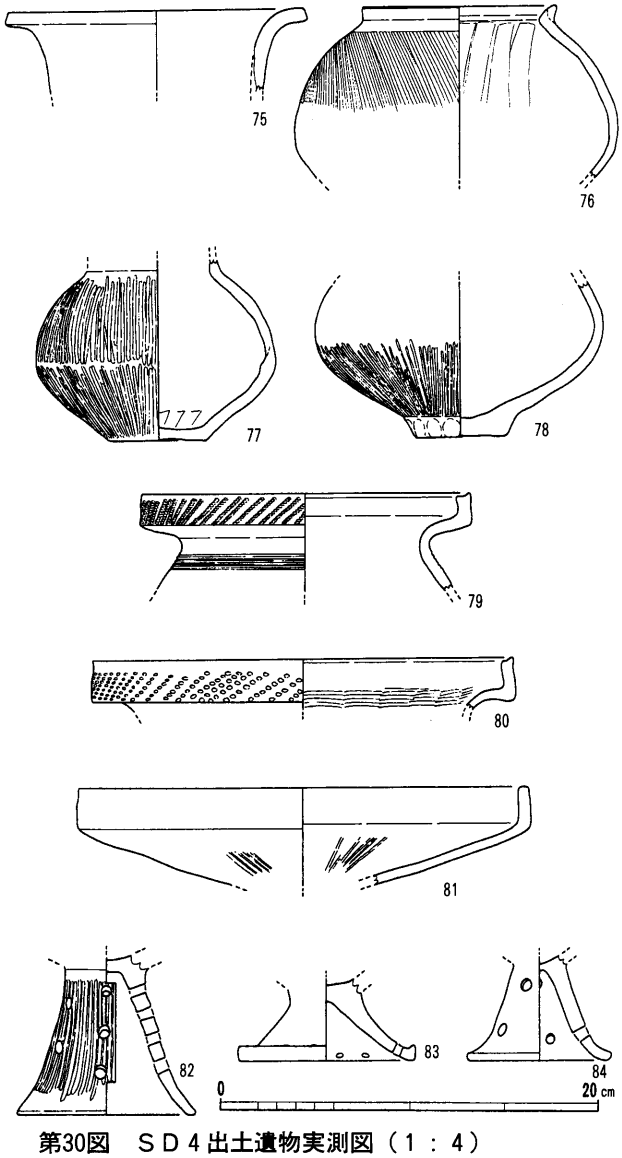
Ｃ地区の西端部で検出した。Ｃ地区南西部は周囲より若干低く、遺構検出面以下には黒色粘質土が厚く堆積しており、湿地であったと考えられる。ＳＲ1はその縁辺を北から南に流れていた自然流路である。幅1.2～3.6m、深さ0.2～0.5m、南北両端での底の比高差0.2mで、全体に緩やかに蛇行し約47mほど検出した。埋土は黒褐色砂質土のほぼ単層である。その下流は、河道ＳＲ7付近の谷部に流れ込んでいたと考えられる。




第28図　ＳＲ1出土遺物実測図（1：4）




第29図　ＳＺ1実測図（1：30）




第30図　ＳＤ4出土遺物実測図（1：4）

**出土遺物**　遺物は比較的少ない。70は、直立する体部から強く屈曲する口縁部をもつ。口唇部は無文である。外面をハケ調整の後、頸部にヘラ描沈線を4条施す。前期のものであろう。71・72はいずれも甕の底部と思われ、外面はタテハケ調整である。73はナデ調整する壺の底部である。

74は小型の太型蛤刃石斧と考えられ、全面敲打した後研磨している。

**ＳＤ３**

ＳＲ１の東側で、それとほぼ平行して延びる南北方向の溝である。幅0.2～0.5m、深さ0.1m前後で約22mに渡って確認された。図示できる遺物はないが、中期のものと思われる。

**ＳＤ４・ＳＺ１**（第29・30・33図・ＰＬ－15・39）

Ｃ地区南東部からＤ地区北部にかけて検出された溝である。わずかに蛇行しながら東西方向に流れており、幅1.6～4.3m、深さ0.3～0.9ｍで、73ｍほど検出された。埋土は褐灰色系の粘質土が中心で流れは弱かったと思われる。

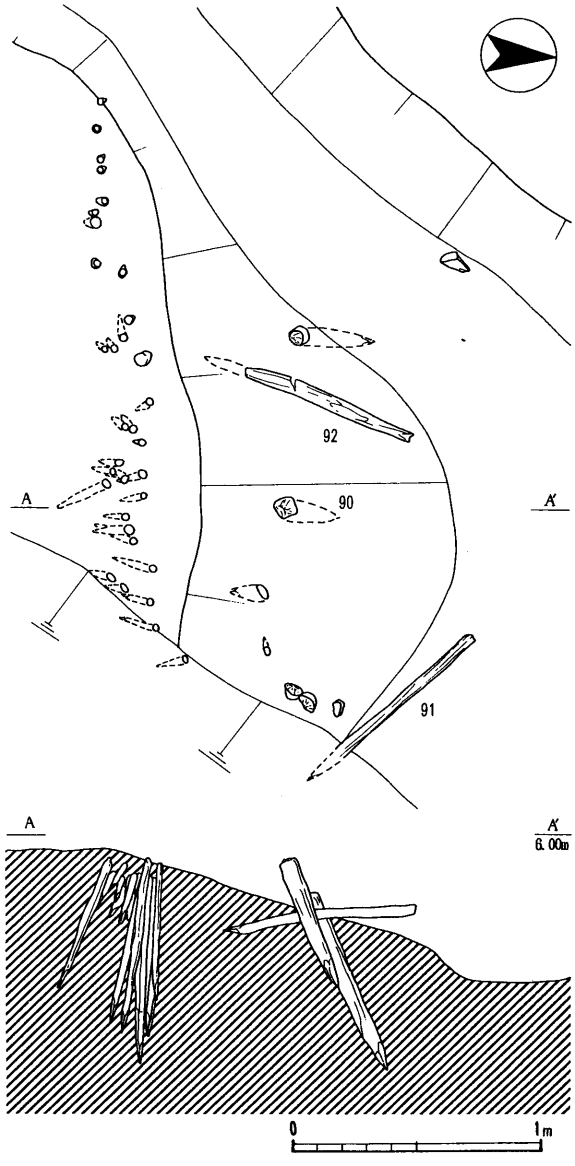
ＳＺ１はＳＤ４のＣ地区北端部で検出された杭列である。溝のほぼ中央で、流水方向に直交して3本の杭が、約20cm間隔で打ち込まれていた。しかし、杭の残りが悪く、構造は不明である。

**出土遺物**　Ｃ地区で後期初頭のものが比較的まとまって出土しているが、Ｄ地区では遺物は少ない。

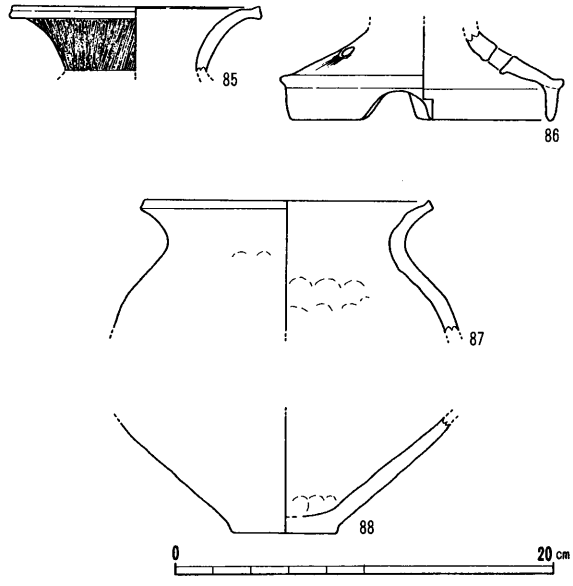
75は広口壺の口縁部であるが、表面が荒れ調整・文様は不明である。76は短頸壺で体部をハケ調整する。77・78は小型壺の体部で丁寧なヘラミガキを施す。79・80は受口状口縁の甕で端部は内傾する。81は高杯で口縁部は短く直立している。82は高杯脚部、孔列が5方向に開けられている。83は壺の脚台部と考えられ、端部に2孔一対の小孔が8方向にある。84も壺の脚台部と考えられ、上下2段各5方向の透孔が千鳥状に穿たれている。

**ＳＲ２・ＳＺ２**（第31・33図・ＰＬ－15・39・53）

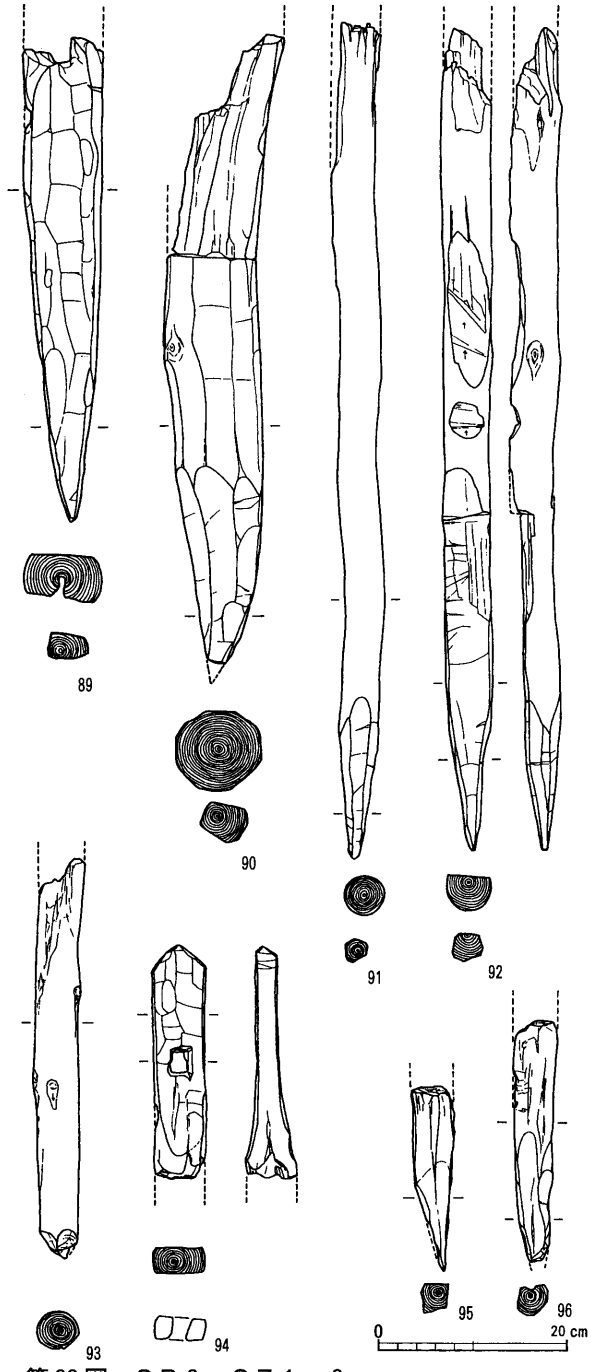
Ｄ地区の南東で検出された自然流路である。ほとんどが調査区外あるいは古墳時代の自然流路に切られているため明らかでない部分が多いが、下流は位置関係・出土遺物から東に隣接する平成3年度の津市教育委員会調査区で検出された自然流路・井堰に至ると考えられる。




第31図　ＳＺ２実測図（１：30）




第32図　ＳＲ２出土遺物実測図（１：４）




第33図　ＳＲ２・ＳＺ１・２
出土木製品実測図（１：８）

規模は幅3.0～ 4.5m、深さ１ｍ前後で、主流は北東方向に流れているが、一部は東方向に分流する。また、東岸部分では杭列ＳＺ２が検出された。

ＳＺ２は約３ｍに渡って確認された杭列で、更に東側に延びると思われる。杭列は、杭頭をやや流路中央に傾けた34本の細杭と反対方向に傾けた２本の太杭からなるが、いずれも杭先端部が残っているに過ぎない。

**出土遺物**　遺物には後期初頭の壺・甕・器台などがある。85は広口壺の口縁部で、頸部はヘラミガキ調整である。86は器台脚部で、外面は朱塗りされている。裾部には円孔が４方向、端部には半円形の抉りが４方向にある。木製の高杯を模倣したものであろうか、松阪市阿形遺跡に類例がある。

89・90・92～94はＳＺ２に利用された太杭と細杭である。92は一部に欠き込みがみられ、94には枘穴が残る。いずれも建築部材の転用であろう。

### 7　小穴

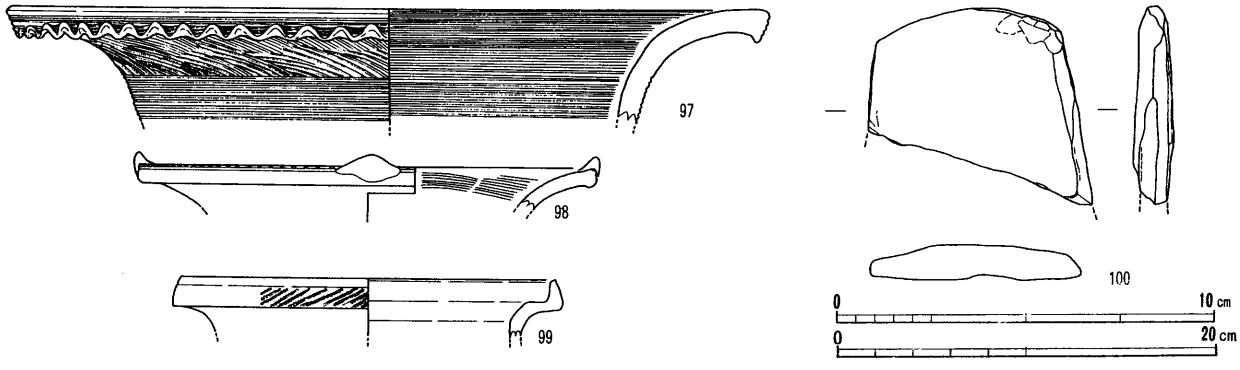
Pit 1（第18図）　ＳＡ４の東側で検出された径30cm、深さ20cmの小穴である。

**出土遺物**　97は壺Ｃで、口縁端部は二枚貝腹縁による直線文を施し、下端を押圧する。頸部はハケ調整後、二枚貝腹縁による直線文を施す。内面はヨコハケ調整である。

### 8　包含層出土遺物（第34図）

98は壺Ｃ類の口縁部で、端部に３方向ないし４方向の瘤状の突起が貼り付けられている。99は受口状口縁の甕で、口縁部外面に刺突列文が施されている。中期後葉ないし後期初頭と思われる。

100は扁平片刃石斧の破片である。基部は丸味を帯び、側辺は開き気味である。　（米山）




第34図　弥生時代小穴・包含層出土遺物実測図（１：４、100は１：２）

# VI. 古墳時代

この時代の主な遺構としては掘立柱建物10棟、井戸1基、土坑5基、溝・自然流路等20条などがある。

前期の遺構・遺物はE地区に集中し、調査区の西側に集落域が想定される。中期ではB・C地区に掘立柱建物のみからなる集落があり、D地区では同時期の河道があり、大量の土器や木製品が出土している。後期ではC・D地区に自然流路が流れ、E地区の遺物の出土状況から調査区の西側に集落域が想定される。

### 1　掘立柱建物

古墳時代の掘立柱建物は10棟確認され、C地区の中央部に集中する。棟方向は南北棟のものが大半で、北を指向するまとまりがある。柱穴出土遺物は少ないが、S字甕片が散見され、須恵器は含まないことから古墳時代でも中期前半以前に属するものと考えられる。

**SB 17**（第36図・PL－16）

C地区中央部で南北2間、東西1間分を検出した。西側は撹乱や古墳時代後期の自然流路で消失している。検出した柱穴の配置や未検出の柱穴の存在を考慮すれば、西側にのびる東西棟（棟方向はE5°S）の側柱建物の可能性が高い。桁行1.8m以上、梁行は4.6mで柱間2.3mの等間である。

柱掘形は径30cm前後、深さ15～21cmで、柱痕跡は確認されていない。柱穴からはS字甕などが出土し、古墳時代の建物と考えられる。

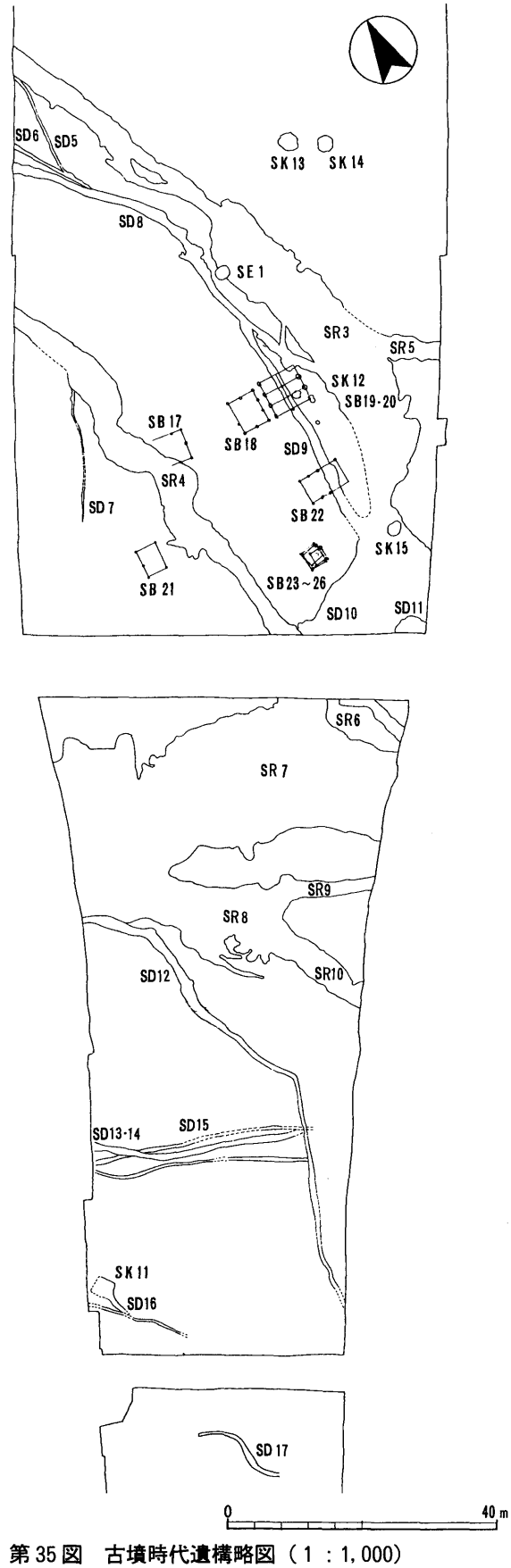
**SB 18**（第36図・PL－16）

C地区中央部で検出された。西側柱の一部を欠くが南北棟（棟方向はN1°W）の桁行3間、梁行2間の側柱建物である。桁行は5.1mで、柱間は1.7mの等間、梁行は4.2mで柱間は2.1mの等間である。

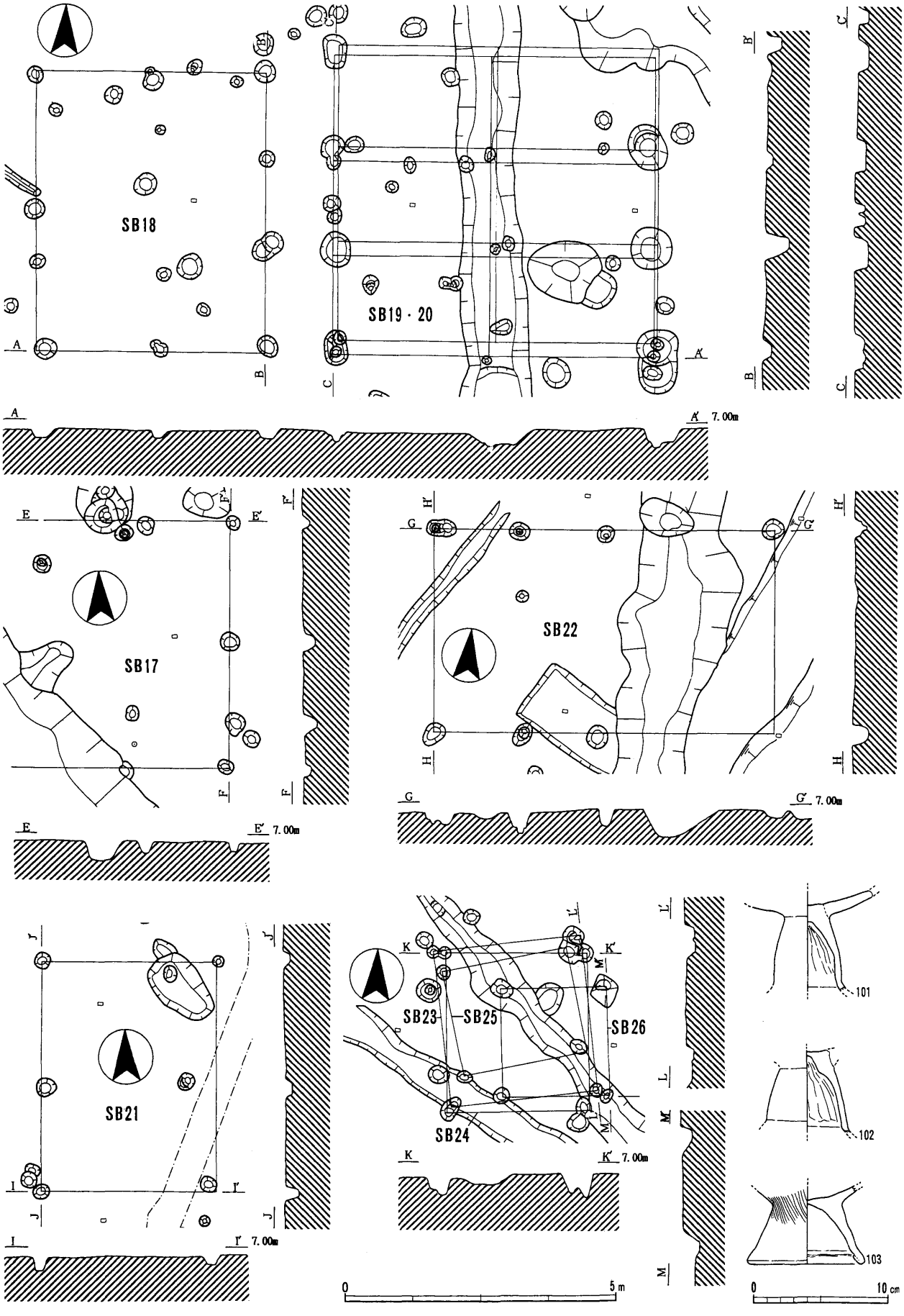
柱掘形は径30～40、深さ10～19cmで、柱痕跡は確認できなかった。柱穴出土遺物はないが、隣接するSB 19と南妻側の柱筋を揃えることから同時期のものと考えた。

**SB 19・20**（第36図・PL－17）

SB 18の東側で検出された。いずれも南北棟（棟方向はN1°W）の桁行3間、梁行2間の建物で北にわずかにずらした位置でほぼ同一規模で建替




**第35図　古墳時代遺構略図（1：1,000）**




第36図　ＳＢ17～26実測図（１：100）・ＳＢ23・26出土遺物実測図（１：４）

えられている。妻柱列はＳＤ９で削平され残存状態は悪いが、各側柱と対応する柱痕跡が確認されていることから総柱建物と考えられる。桁行は5.4ｍで1.8ｍの等間、梁行は5.8ｍで、2.9ｍの等間である。桁行より梁行の方が長いやや異質な建物である。

柱掘形は径40～70㎝、深さ10～28㎝と他の掘立柱建物に比べて大型で、径20㎝程度の柱痕跡を確認した柱穴もある。

柱穴からはＳ字甕などが出土しており、いずれも古墳時代中期の建物と考えられる。

**ＳＢ21**（第36図・ＰＬ－17）

Ｃ地区南西部で検出された。東側柱の一部は撹乱で欠くが、南北棟（棟方向はＮ０°Ｓ）の桁行２間、梁行１間の側柱建物である。桁行は4.2ｍで柱間は北から2.3ｍ＋1.9ｍと不等間であり、梁間は3.2ｍである。

柱掘形は径20～30㎝、深さ11～24㎝で、柱痕跡は確認されていない。柱穴出土遺物にはＳ字甕片があり、古墳時代の建物と考えられる。

**ＳＢ22**（第36図・ＰＬ－18）

Ｃ地区の中央部で検出された。南側柱の一部を欠くが、東西棟（棟方向はＥ４°Ｓ）の桁行４間、梁行１間の側柱建物と考えられる。桁行は6.4ｍで、柱間は1.6ｍの等間で、梁行は2.7ｍである。

柱掘形は径30～50㎝、深さ12～29㎝で、10～15㎝の柱痕跡を一部で確認された。柱穴からは土師器高杯・Ｓ字甕などが出土し、古墳時代の建物と考えられる。

**ＳＢ23～26**（第36図・ＰＬ－18・39）

Ｃ地区の南部でほぼ同一地点で建替えられた建物である。いずれも１×１間であるが、規模・棟方向には、若干ばらつきがある。ＳＢ23が2.8ｍ×2.7ｍ、ＳＢ24は2.9×2.6ｍ、ＳＢ25が2.3×1.9ｍ、ＳＢ26が2.0×2.0ｍである。棟方向は南北辺で表すと、Ｎ３°～16°Ｗを示す。切り合い関係からはＳＢ23がＳＢ24・25より新しい以外は不明である。連続して建替えられており、恒久的な建物と考えられる。

柱掘形はいずれも径20～40㎝、深さ10～44㎝で径15㎝の柱痕跡を確認したものもある。

**出土遺物**　ＳＢ23の柱穴からはＳ字甕脚台部（103）が、ＳＢ26の柱穴からは高杯（101・102）が出土しており、古墳時代中期の建物と考えられる。

**２　井戸**

**ＳＥ１**（第37図・ＰＬ－19・39・52）

Ｃ地区の北部で検出された。掘形は楕円形で長径2.3ｍ、短径1.9ｍ、深さ0.9ｍの断面擂鉢状である。掘形の中央やや東側寄りに内法　0.6ｍのくり抜きの井戸枠があり、その周囲には大小14枚の板材が打ち込まれていた。板材は特に加工したものではなく転用材と思われ、井戸枠上部の補強用に用いられたと思われる。井戸枠は高さ50㎝ほどしか残っていないが、その上部にはほぼ同径の井戸枠痕跡が土層断面で確認できた。なお、切り合い関係からＳＲ３より古い。

**出土遺物**　井戸枠（104）は、底径65.1㎝、厚さ5.0㎝で最大52.3㎝遺存していた。底部内側には、高さ4.4㎝、厚さ0.8㎝を帯状に削り出しており、桶の転用と考えられる。腐食が進んでいない底部には、工具痕が残る。樹種はクスノキである。

Ｓ字甕（105）は口縁部の屈曲は鈍い。Ｓ字甕脚台部（106）は裾の開きは弱く、端部を折り返す。土師器高杯脚部（108）は、柱状部はやや膨らみ気味で屈曲して大きく開く裾部となる。107の口縁部は直線的にのび、脚柱状部はやや膨らむ。

109～113は井戸枠周囲から出土したものである。農具などの転用と考えられ、109・110・113には方孔がみられる。

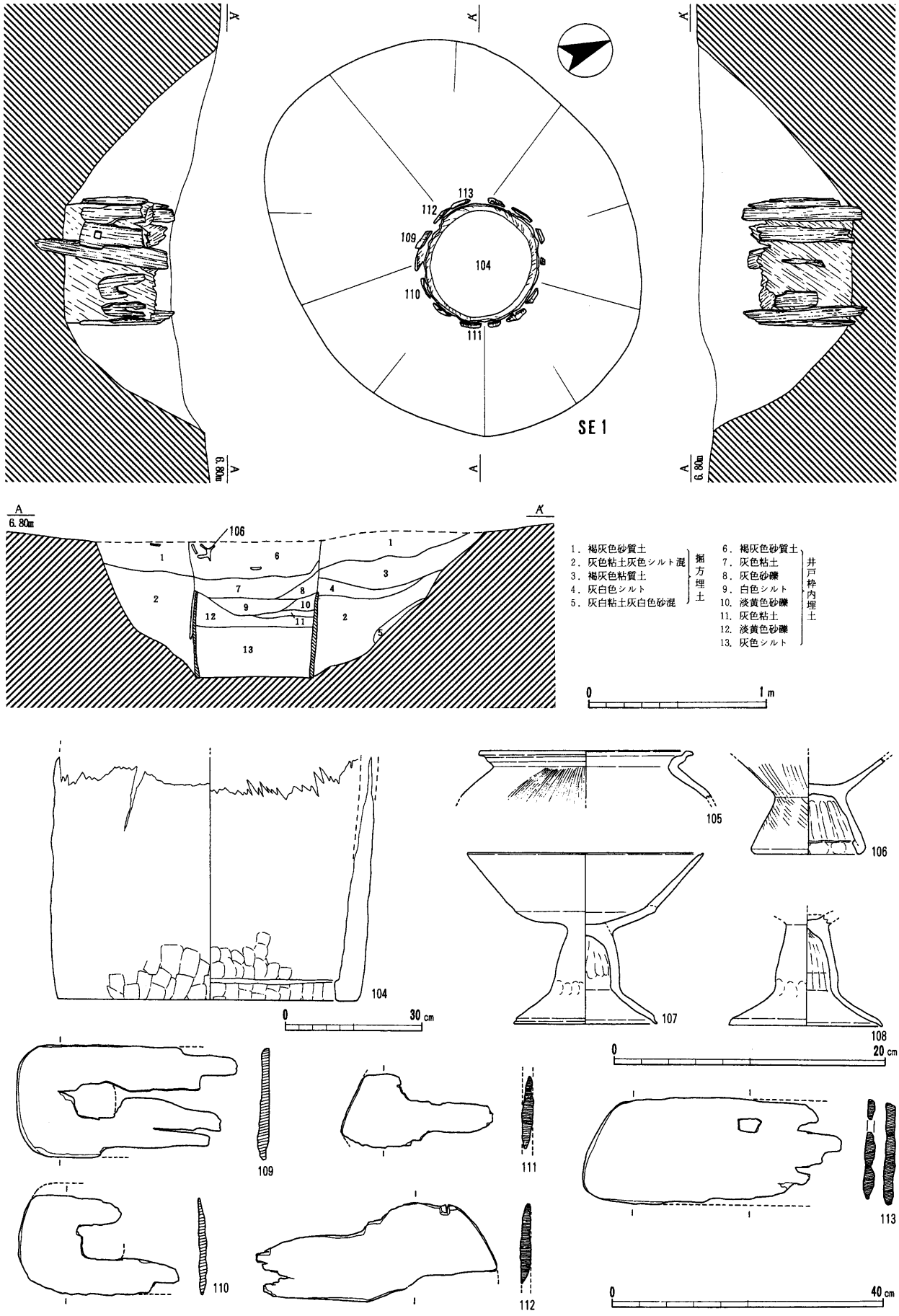
**３　土坑**

**ＳＫ11**（第38図・ＰＬ－19・39）

Ｅ地区の南西部で検出された。一辺2.7～3.0ｍ、深さ0.2ｍの方形の土坑で、ほぼ中央には径1.0ｍ前後、深さ0.3ｍの小穴があるが、ＳＫ11に伴うものかは不明である。また、南側に幅0.7ｍ、深さ0.2ｍの溝が2.5ｍに続き、一連のものと考えられる。

遺物は中央部から、土師器高杯・器台・小型壺が比較的まとまって出土した。

**出土遺物**　116は椀状の杯部をもつ高杯で外面横位の、内面縦位のヘラ磨きが施されている。115はハの字状に開く杯部をもつ高杯で、杯底部は狭く、口縁端部は丸く収める。小型壺（118）は口縁部を欠くが、球形の体部をもつ。117は小型器台で、屈




第37図　ＳＥ１実測図（１：30）・出土遺物実測図（104は１：12、105～108は１：４、109～113は１：８）

曲して短く立ち上がる口縁部をもつ。

**ＳＫ 12**（第 39 図・ＰＬ－39）

ＳＢ 19・20 と重複して検出された。東西 1.4ｍ、南北 1.1ｍ、深さ 0.35ｍの楕円形の土坑である。埋土は暗褐砂色質土である。

**出土遺物**　114 は砂岩製の砥石で、両端を欠くが幅 11㎝厚さ 3 ㎝で一面のみに研磨痕がある。

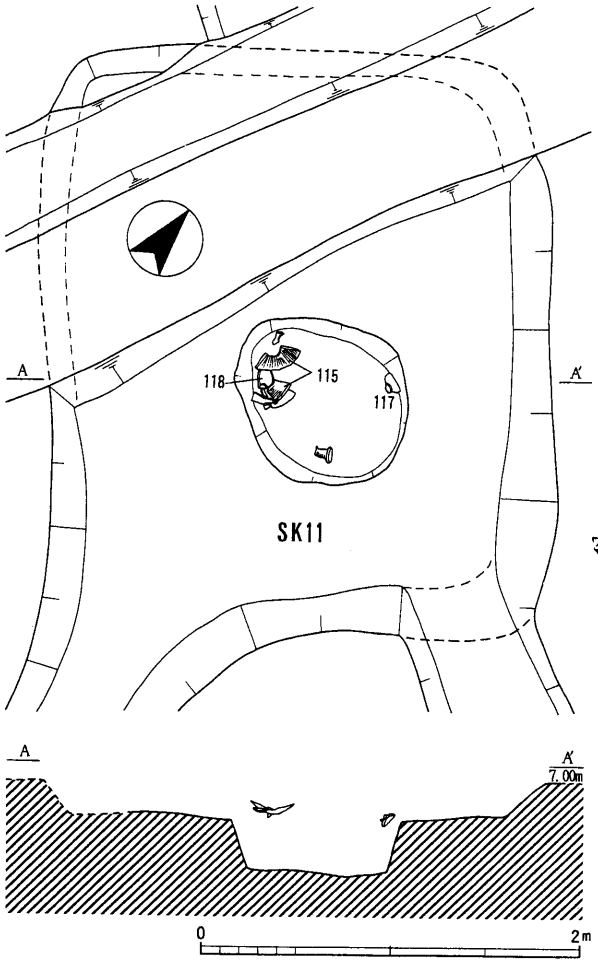
**ＳＫ 13**（第 40・41 図・ＰＬ 20・40）

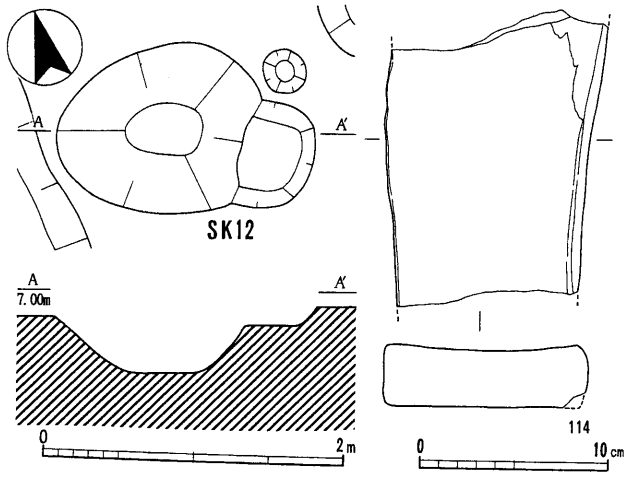
Ｂ地区の南東部で検出された。径 2.7ｍ前後、深さ 0.6ｍの不整円形で、底部に深さ 0.1ｍほどの落ち込みがある。埋土は大きく 3 層に分かれ、下層の青灰色粘質土から棒状木片が、上・中層の暗茶褐色砂質土ないし暗褐灰色粘質土から土師器が大量に出土した。土器は完形に復元できるものはなく、廃棄土坑と考えられる。

**出土遺物**　遺物には大量の土師器と勾玉が 1 点ある。133～135 は直口壺で、口縁部は外上方に直線的にのびる。厚手の口縁部のもの133と薄手のもの132・134・135がある。132 はヒサゴ形壺で、下膨れの体部外面をヘラ磨き調整する。130・131 は小型丸底壺で、いずれも底部外面はヘラ削りするが 130 は形態的には若干時期の遡るものである。

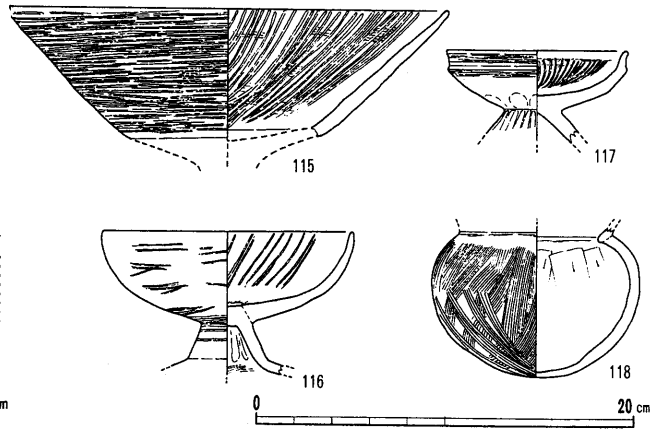
136 は布留系の甕である。口縁端部は弱い面をもつ。体部外面は斜位あるいは横位のハケ調整で、内面中位はヘラ削り調整する。138 はミニチュアのＳ字甕である。口縁部は省略され単純であるが、他の調整などは通有のものとほぼ同一である。139～142 は通有のＳ字甕で、口縁部の形態は若干の差異はあるが、いずれも強いヨコナデによる稜は下位にあり、体部は粗いハケ調整である。脚台部（137）は端部を内面に折り返している。

高杯には、丸い杯底部と口縁部の境に段をもつもの（143・144）と平らな杯底部から口縁部が大きく開くもの（145・146）がある。後者の脚部（147～150）の柱状部はやや膨らみ気味のものが多い。151 は基部から緩やかに大きく開くもので、器壁は厚い。

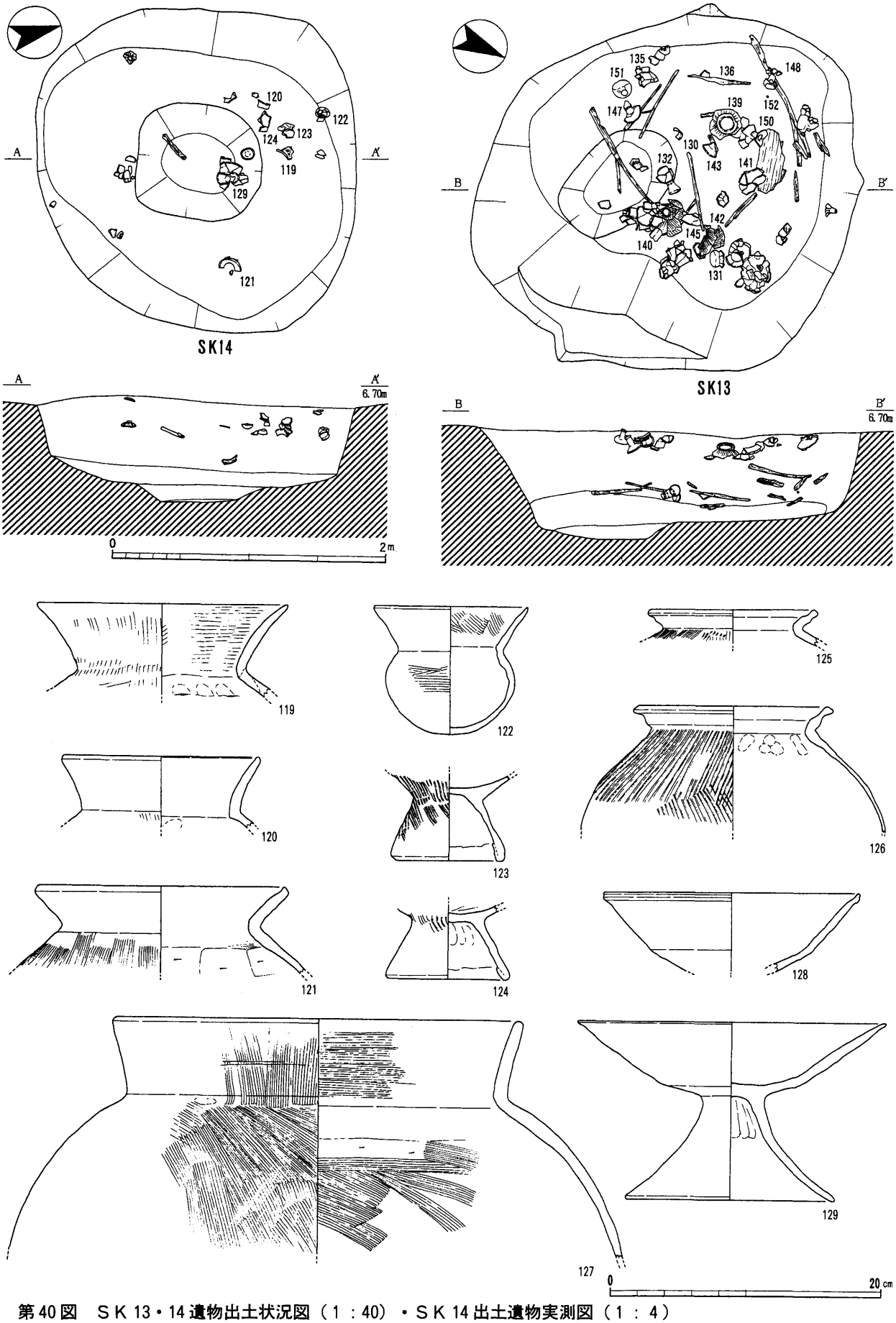


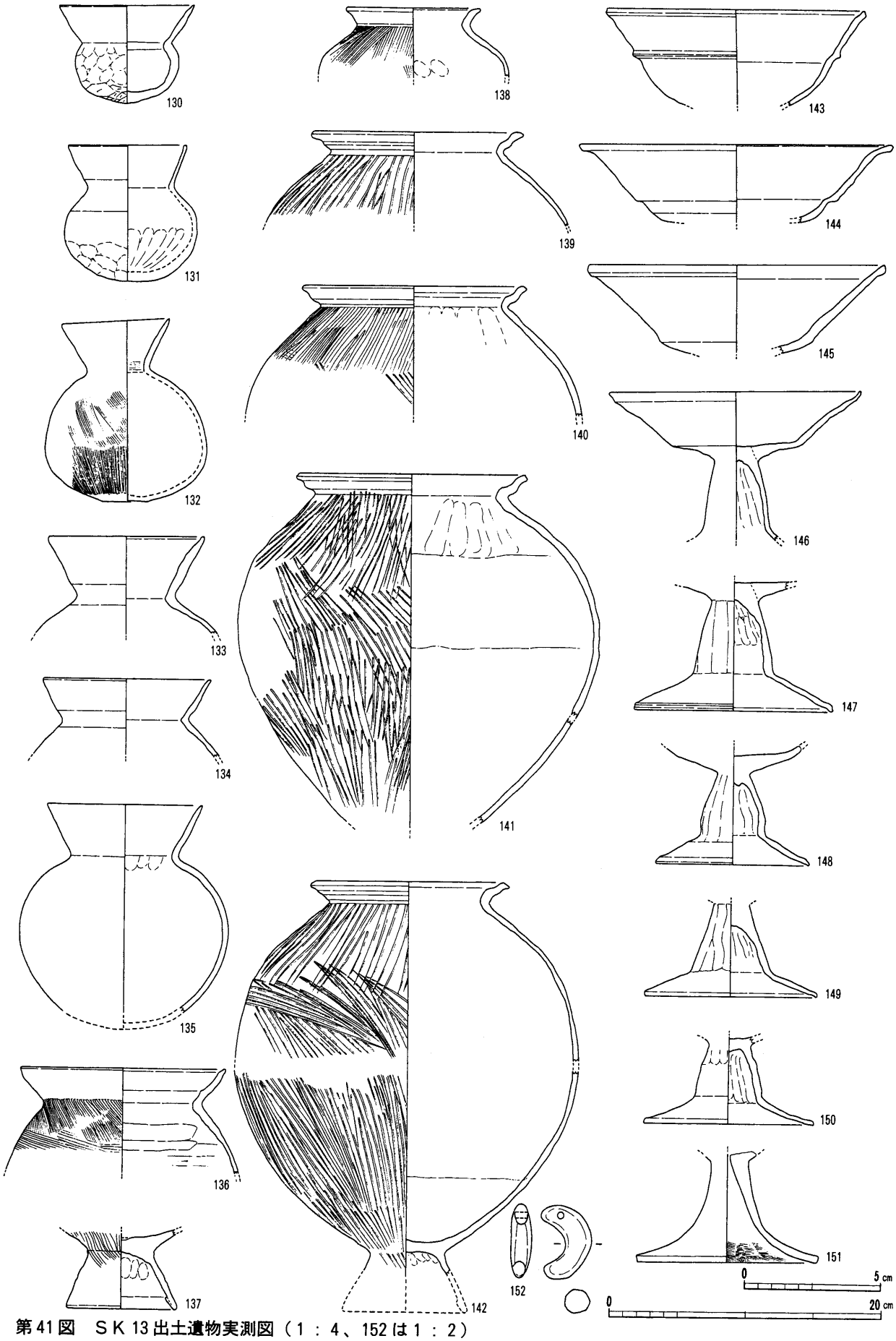

**第 39 図　ＳＫ 12 実測図（1：50）・出土遺物実測図（1：4）**




**第 38 図　ＳＫ 11 実測図（1：40）・出土遺物実測図（1：4）**




第40図　ＳＫ13・14遺物出土状況図（１：40）・ＳＫ14出土遺物実測図（１：４）




第41図　ＳＫ13出土遺物実測図（１：４、152は１：２）

152は滑石製の勾玉である。

**ＳＫ14**（第40図・ＰＬ－40）

ＳＫ13の東側で検出された。径2.3m前後、深さ0.6mの円形の土坑で、底部中央には 深さ0.1mほどの落ち込みがある。埋土はＳＫ13とほぼ同じで、遺物のほとんどは上・中層から出土している。

**出土遺物**　広口壺（119）は、やや外反する長い口縁部をもつ。直口壺（127）は、推定口径30.1cmの大型のもので、内外面ともハケ調整している。小型丸底壺（122）は、ハケ調整が主体の粗製品である。

123～126はＳ字甕である。口縁部は強いヨコナデで稜を有するが、全体に肥厚し屈曲も弱い。脚台部（123・124）は外面をハケ調整、端部内面を折り返すものである。120・121はく字形で、121の体部内面はヘラ削り調整である。

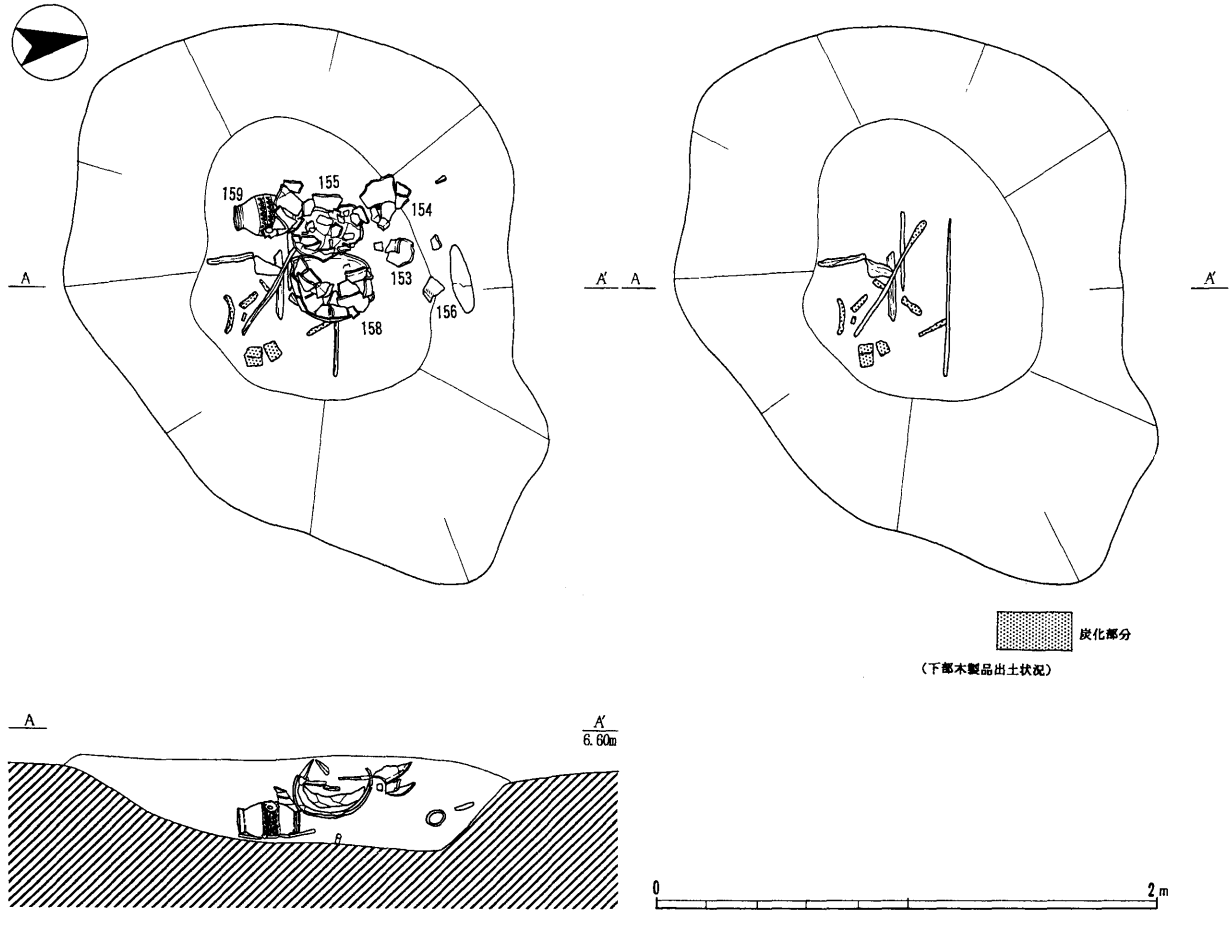
高杯（128・129）には、口縁端部をつまみ上げ気味に仕上げる通有のもの（128）のほかに、直線的にのびる口縁部と柱状部をもたず太い基部から緩やかに大きく広がる裾部をもつ異形のもの（129）がある。

**ＳＫ15**（第42・43図・ＰＬ－20・41）

Ｃ地区の南東部で検出された長径2.3m、短径1.7m、深さ0.5mの楕円形の土坑である。埋土は暗灰色粘質土の単層であるが、上部には礫が混じる。土坑底部には一部炭化した棒状の木片がなど散在し、直上からは須恵器樽形瓶、土師器Ｓ字甕・鉢（韓式系土器模倣）・短頸壺・直口壺の他、臼玉が1点出土した。土器はほぼ完形に復元できるものが多く、一括廃棄と考えられる。

**出土遺物**　短頸壺（153）の体部は球形で、下半はヘラ削り調整する。直口壺（154）の肩部には、Ｓ字甕のそれとよく似た粗いハケ目が横位と縦位に施され、体部下半はヘラ削り調整する。

155～157はＳ字甕である。155の口縁端部は強いヨコナデでわずかにＳ字状の痕跡をとどめる程度である。157は口縁端部が肥厚し頸部も丸くなってい



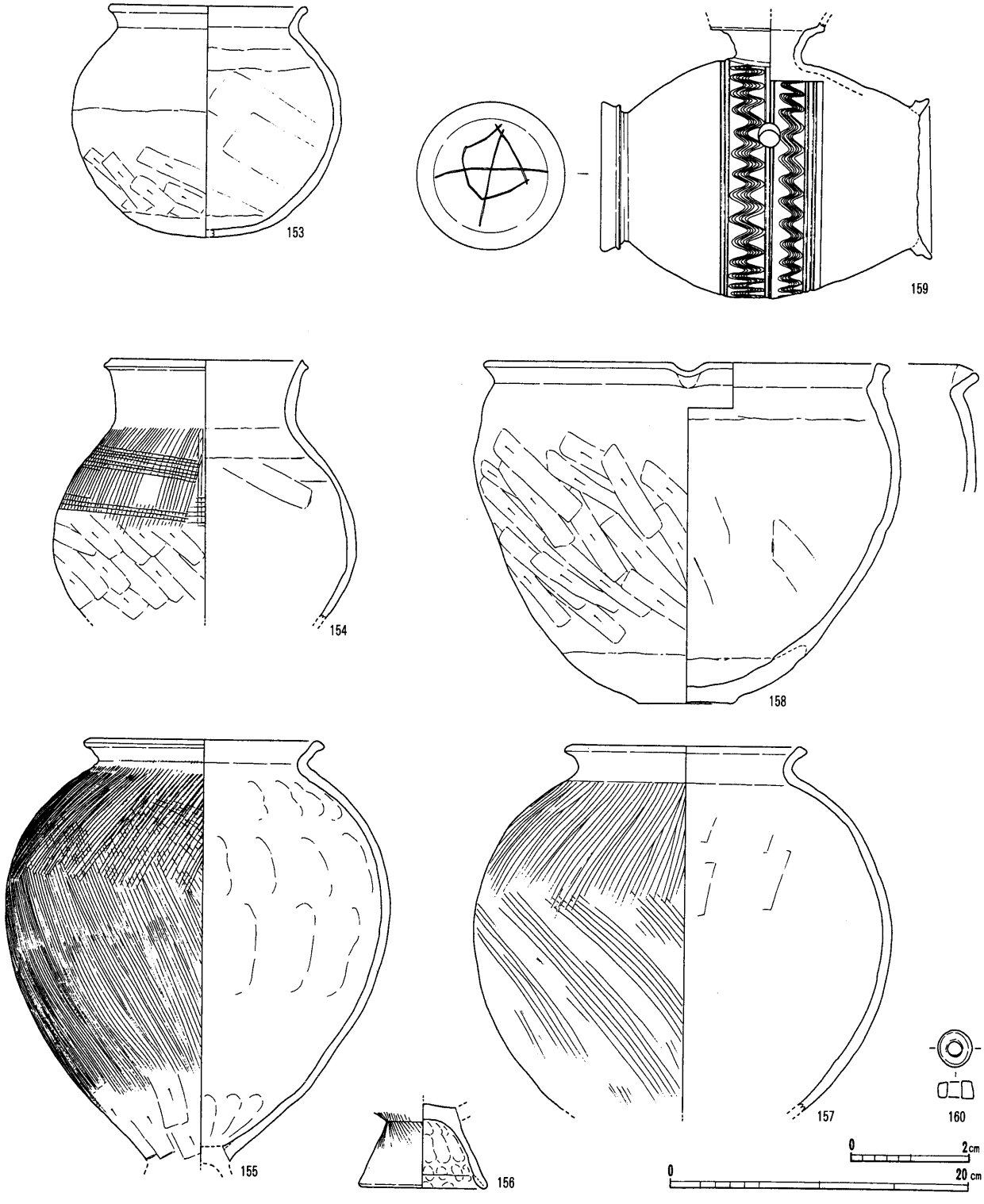

**第42図　ＳＫ15遺物出土状況図**（1：30）

る。脚台部（156）は155とは別個体である。

158は土師器の片口鉢である。器形は韓式系土器の鍋と類似するが、底部が平底であること外面の調整が板ナデである点が異なる。また、口縁端部はS字甕に近いものであることからも、韓式系土器を模倣した在地産と思われる。

須恵器樽形瓶（159）は口縁端部を欠く以外、ほぼ完形である。体部中央は、2条一対3組の沈線によって区切られた中に2条の波状文が施されている。また、図の向かって左側の側面には多角形と×を組み合わせたようなヘラ記号がある。

160は滑石製の臼玉である。（米山）




**第43図　ＳＫ15出土遺物実測図（１：４、160は１：１）**

### 4　溝、河道・自然流路

この時期の遺構には、溝12条、河道4条・自然流路4条、およびそれに伴う護岸施設・堰・杭列などの施設10基がある。また遺物の中で、河道から出土したS字甕および高杯については、第51図および第52図の分類表によって述べることにする。

**ＳＤ５**

Ｂ地区中央の西壁から南に湾曲して、南東方向に流れＳＤ６と合流する南北溝である。幅40cm、深さ６～13cmで、溝幅および深さがほぼ一定している。南側でＳＤ６に繋がる。

遺物はないが、埋土がＳＤ８と同じでこの時代と考える。

**ＳＤ６**

Ｂ地区中央で検出した北西から直線状に南東方向に流れる南北溝である。幅50cm、深さは10～13cm程でほぼ一定している。近・現代のＳＤ22に切られる。

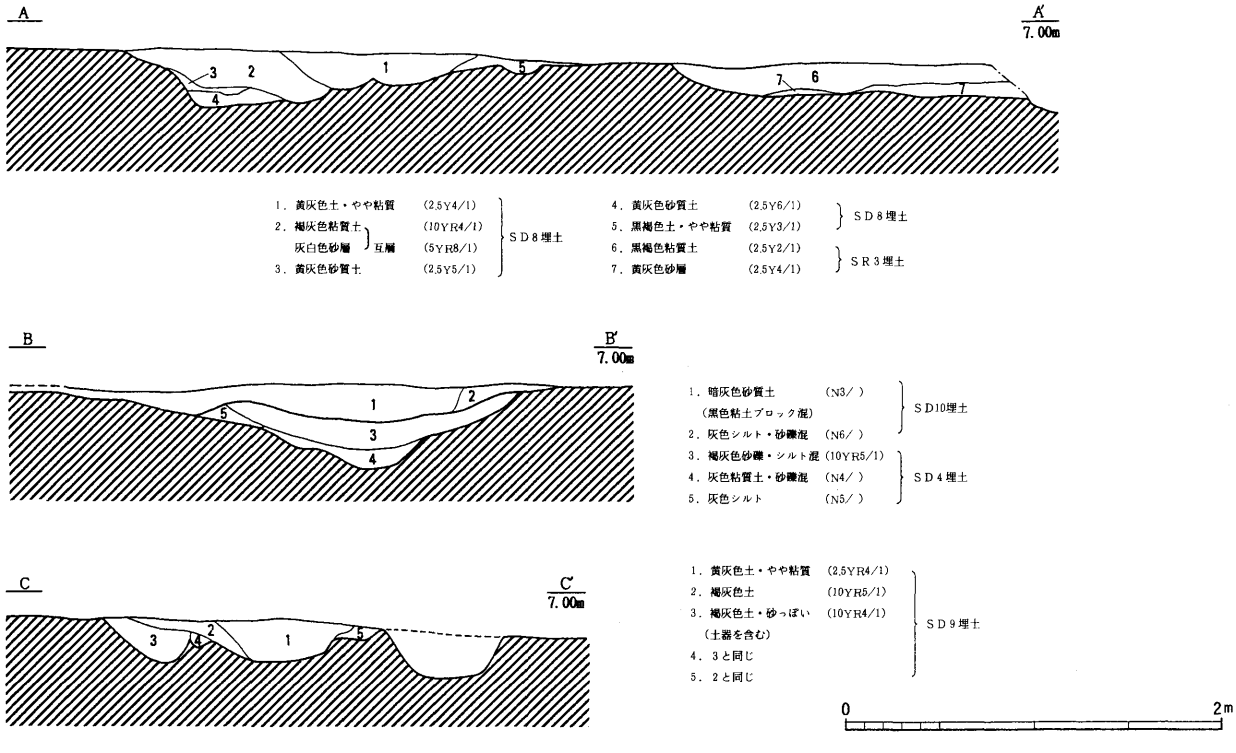
遺物は土師器細片しかないが、ＳＤ８と埋土が同じでこの時期と考える。

**ＳＲ３**（第44～49図・ＰＬ－26・42・43・54）

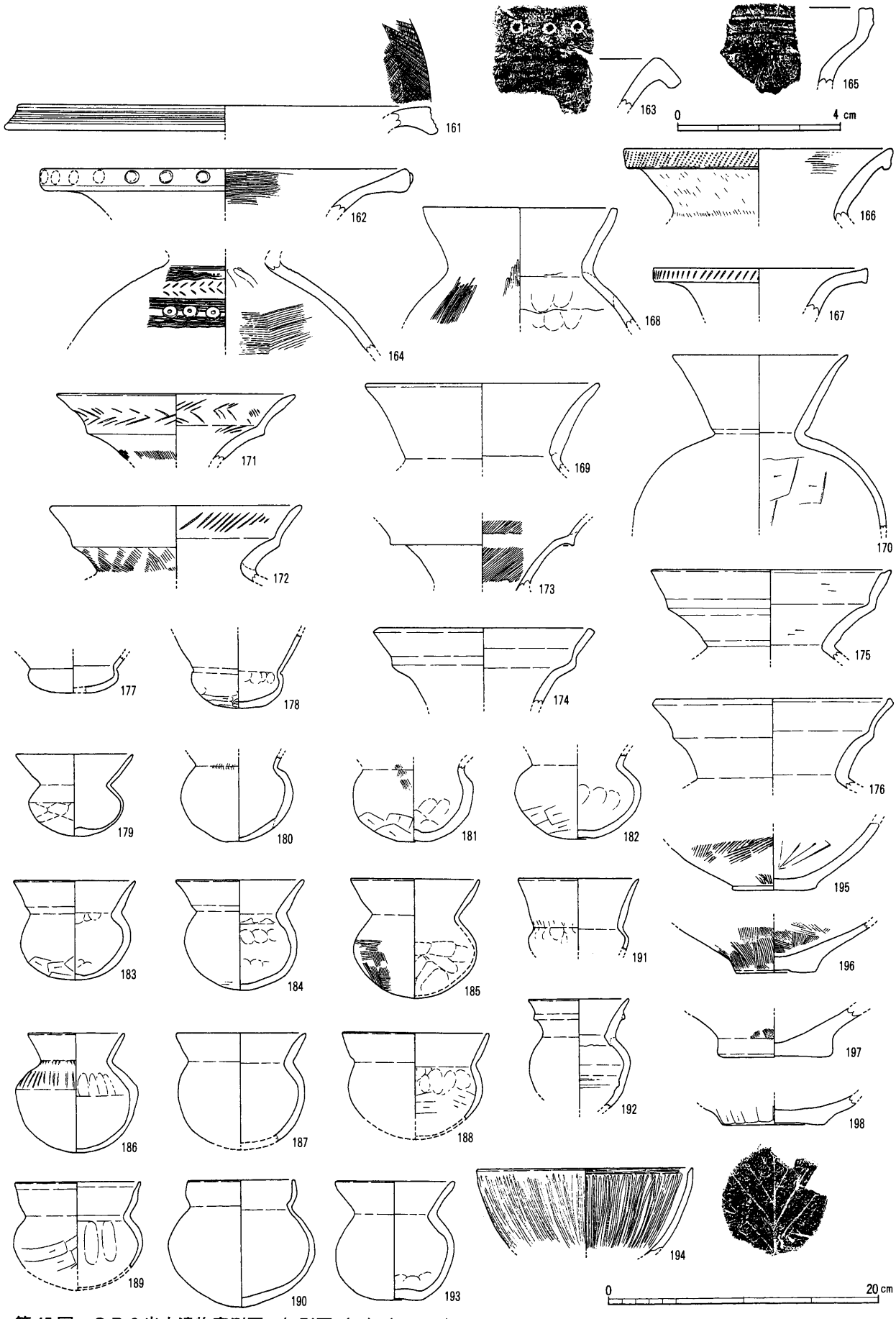
Ｂ地区からＣ地区にかけて検出した北西から湾曲して南東方向に流れる自然流路である。幅3.4～11.0m程である。深さは２～93cm程である。流路内には杭列ＳＺ３およびその下流にＳＺ３が流れたものと考えられる杭の集積を検出した。またＳＲ３にＳＤ８が流れ込んでおり、一時は同じ時期に流れていたと考える。

遺物は、コンテナバット48箱で、遺構の中では量的に最も多い。弥生時代後期から古墳時代後期まで出土しているが、古墳時代の中期前半の遺物を中心とする。

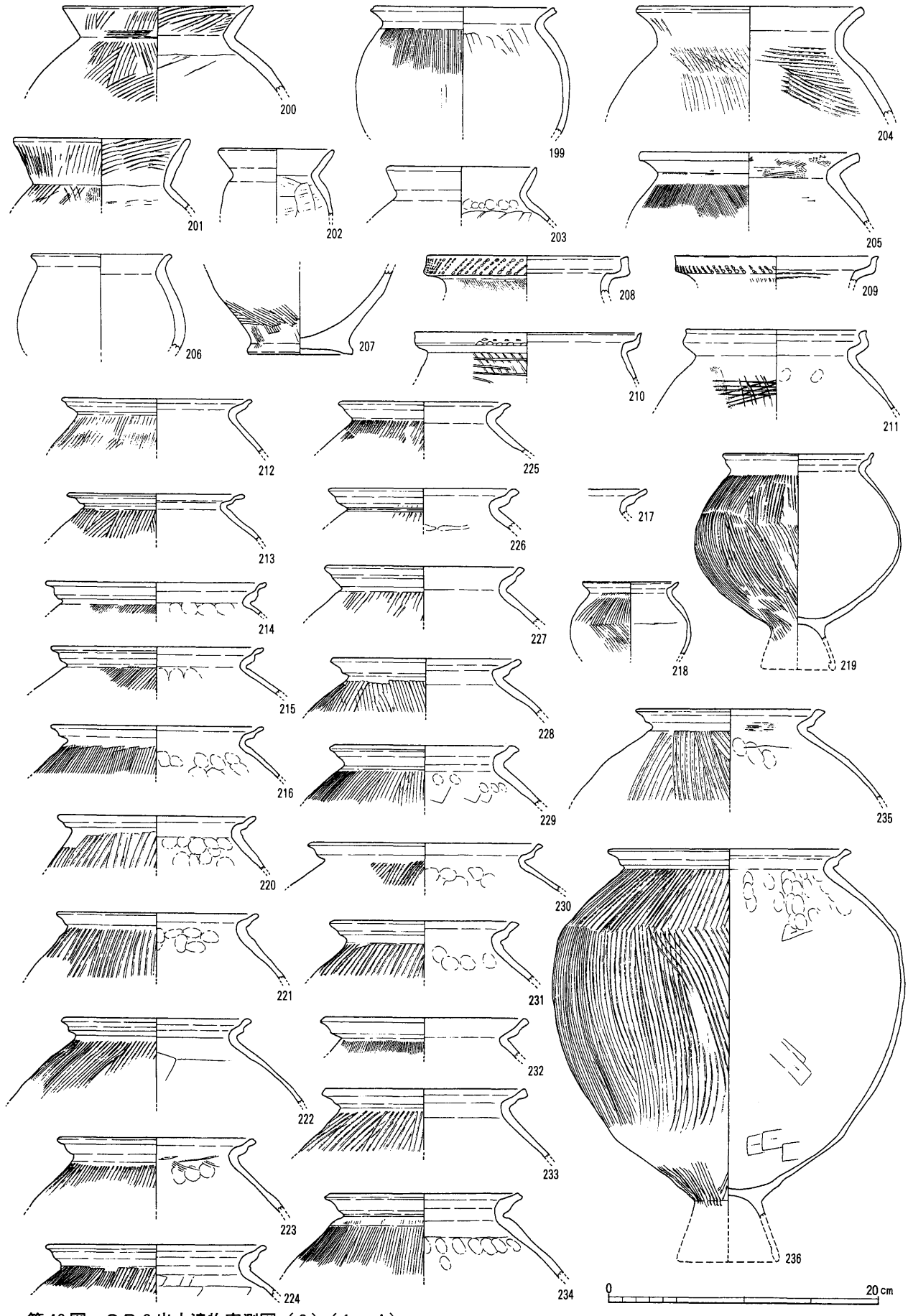
**出土遺物**　壺には、161～198がある。広口壺（161～164、166・167）には、口縁部が外反して開き端部が外下方にのびる161、外反する口縁部から端部が肥厚する162や口縁部が屈曲する163がある。164は壺の体部で、外面に櫛状工具による文様を施した後に、竹管による押圧を加えた円形浮文を３個貼り付ける。166・167は口縁部外面に面をもち刺突文を施す。受口壺（165）は、内湾する口縁上面には面をもつ。直口壺（168～170）は、口縁端部に面をもつ168と尖らせる169・170がある。二重口縁壺（171～176）には、口縁部の内外面を羽状の刺突文で飾る柳ヶ坪型壺（171・172）がある。173は口縁部を二段につくり、段がやや垂下する。また口縁部を平坦にする174、つまみあげる175や外面に面をもつ176がある。小型丸底壺（177～193）は、口径に比



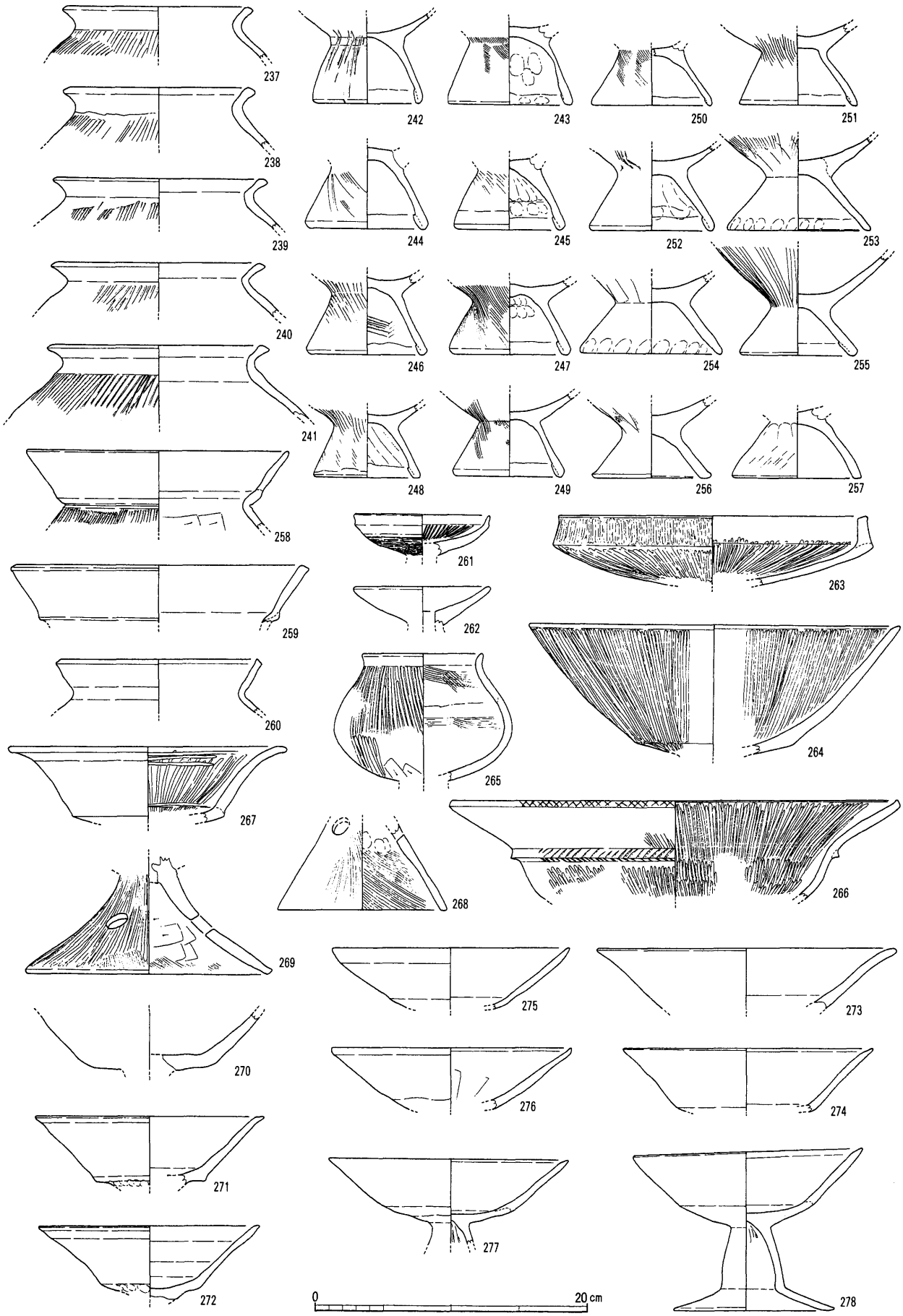

**第44図　ＳＲ３、ＳＤ４・８・９・10土層断面図（１：80）**




第45図　ＳＲ３出土遺物実測図・拓影図（１）（１：４）

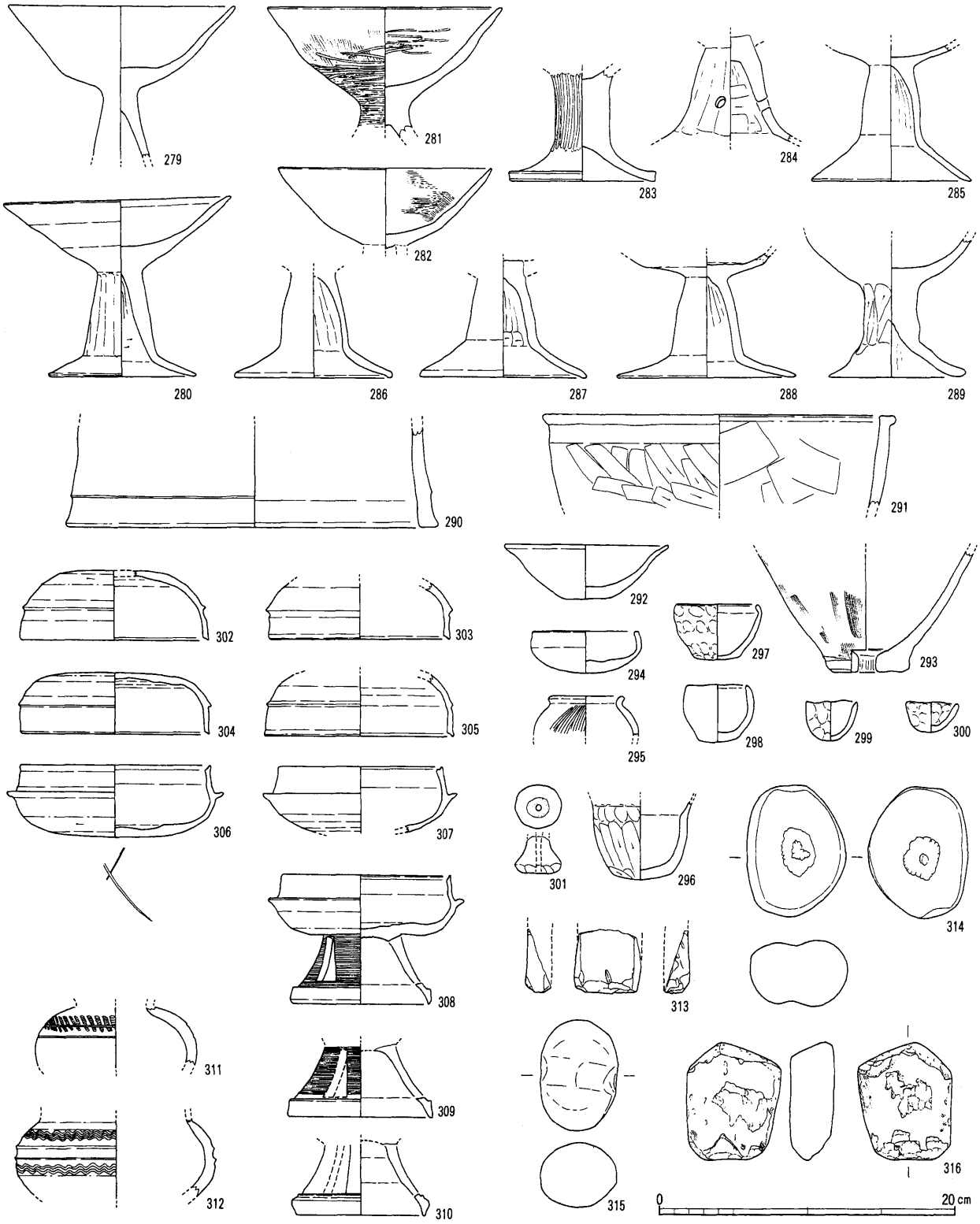



第46図　ＳＲ３出土遺物実測図（２）（１：４）

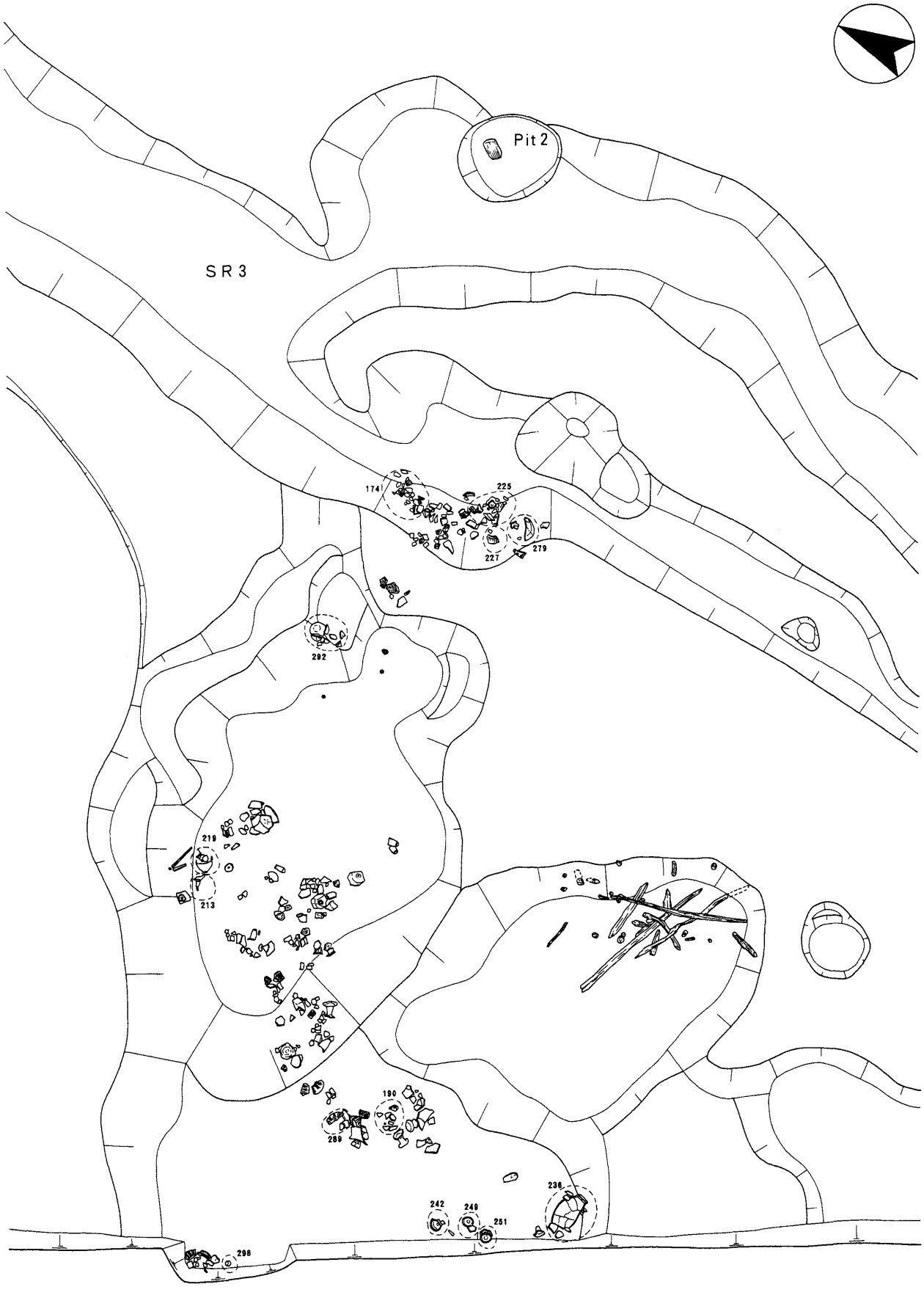



第47図　ＳＲ３出土遺物実測図（３）（１：４）

べ体部径が小さく体部が扁平な177～179、口径に比べ体部径が小さく体部が球形な180～185や体部径より口径が小さい186がある。また、187～190は、前述したものより口縁部が短く器形がひとまわり大きい。これらの小型丸底壺に対して191や192は、体部上半の肩が張るもので、時期的には口径より体部径が小さいものと同じであろう。192には、口縁部に突帯がめぐる。これらは平底の可能性がある。193は小型平底壺である。194は瓢形壺の口縁部で、内外面をヘラミガキする。195～198は壺の底部で、




**第48図　ＳＲ３出土遺物実測図（４）（１：４）**




第49図　ＳＲ３、Pit２遺物出土状況図（１：40）

198には底部に木葉痕がみられる。

甕には、199～260がある。199は弥生時代後期の所産と考えられる。200～206はく字甕である。200・201は、口縁部の内面を横位に体部の外面を縦位にハケ調整する。202は内面をヘラケズリする小型甕である。203は口縁端部が尖り気味におわる。204・205は口縁部外面に面をもつ器壁が厚い甕である。206は外面をナデで調整する小型の甕である。207は甕の底部である。受口甕（208・209）は、近江系甕で口縁部の下に明瞭な稜をもち、口縁部外面には櫛状工具による刺突文を施す。

S字甕については第51図のように分類①する。

A類：口縁部の屈曲部に稜がみられ、直立気味に立ち上がり、口縁端部に櫛状工具による刺突文がみられる。

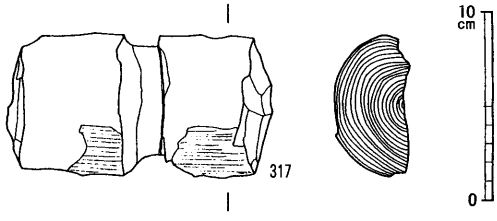
B類：口縁部の屈曲部が弱まり、端部の刺突文や内面のハケメもみられなくなる。

C類：口縁部・体部とも器壁が厚くなり口縁端部が外傾する面をもつ。また体部外面のハケメが粗くなる。

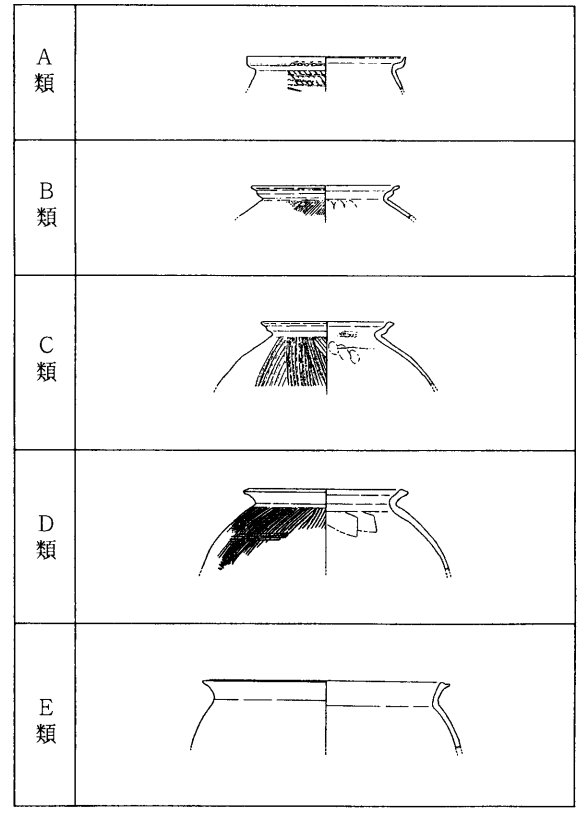
D類：口縁部の屈曲がなくなり、器壁がさらに厚くなる。口縁端部は肥厚し水平方向にのびる傾向をみせる。口径や頸部径が大きくなる。（D類以下は宇田型甕と称されるもの。）

E類：口縁端部が水平にのびて頸部の屈曲が強まる。口径や頸部径はさらに大きくなる。

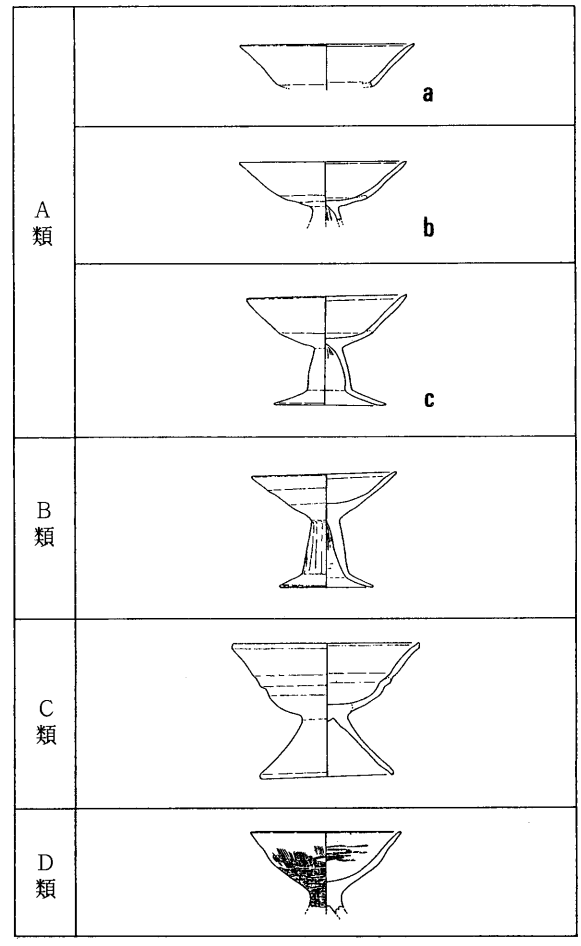
S字甕（210～255・257）には、細片ではあるが口縁部に刺突文がみられるA類（210）や体部に僅かにハケメがのこり、口縁部が内傾する211がある。また口縁端部が外上方にのびるB類（212～219）がある。口縁部がS字状から退化し、器壁も厚い220～236はC類に、口縁部の屈曲がなくなった237～241はD類にあたる。242～255・257はS字甕の脚台部である。256は台付甕の脚台部である。258は山陰系の影響を受けた甕である。259・260は山陰系の



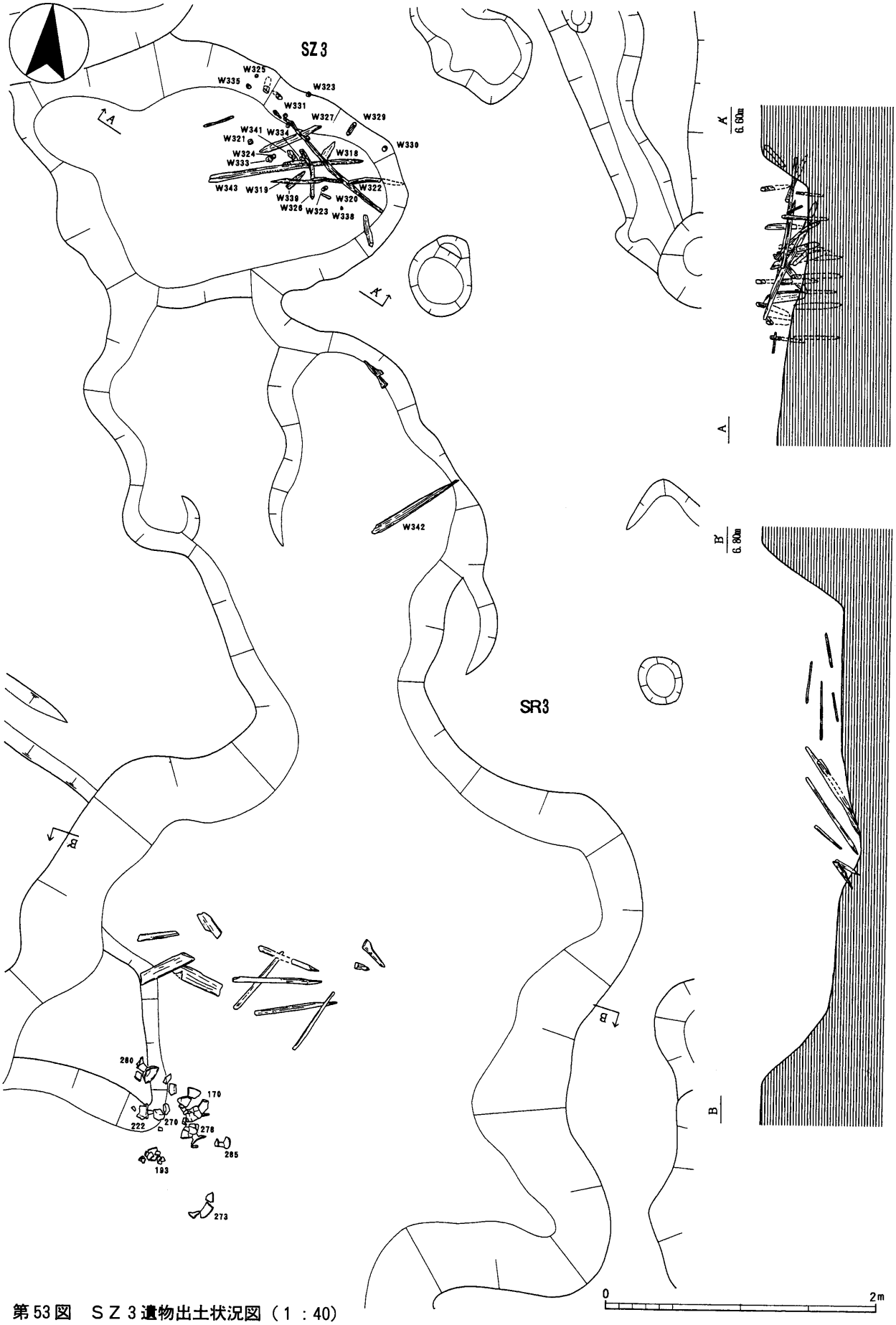

第50図　Pit 2出土木製品実測図（1：4）



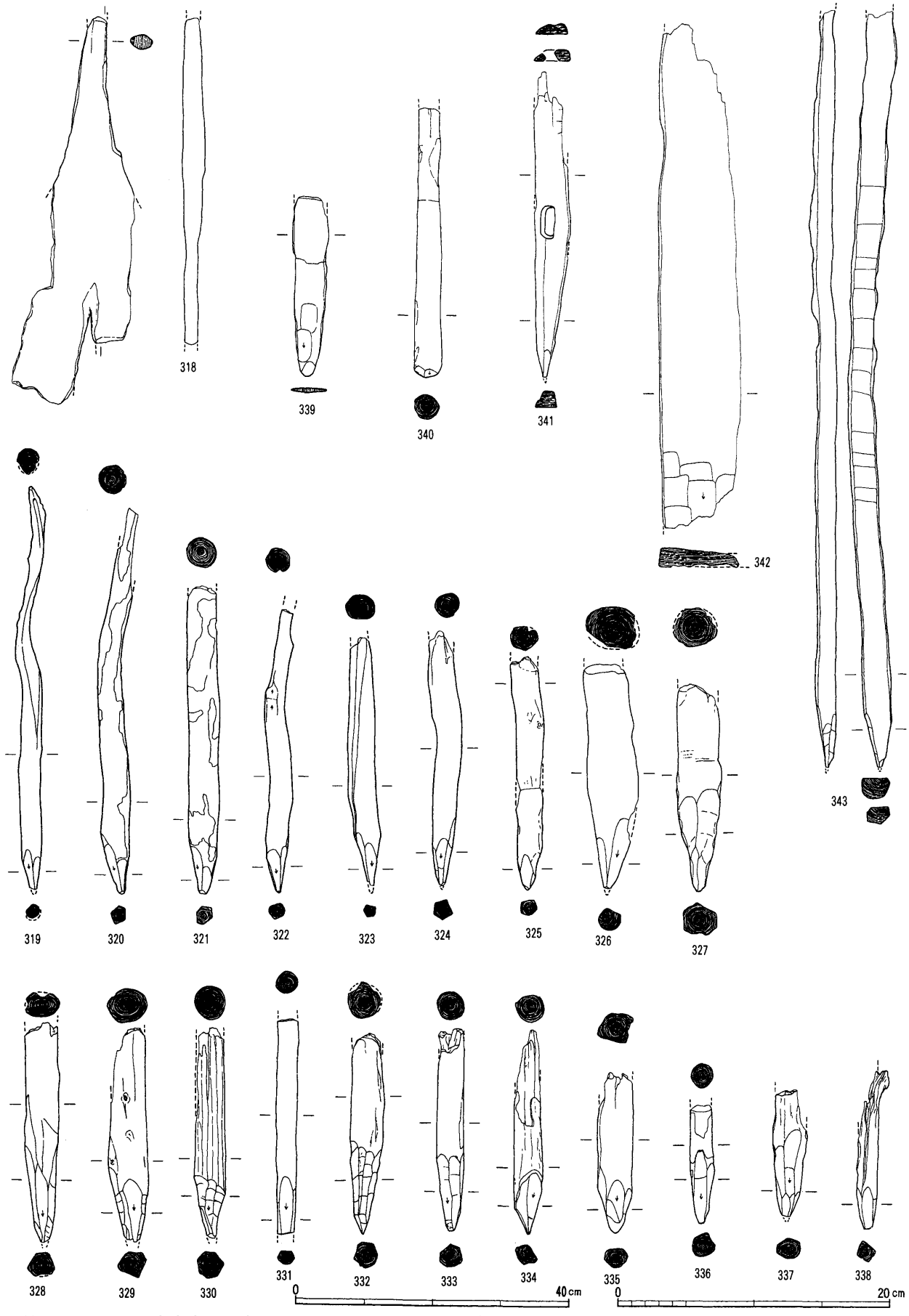

第51図　河道出土S字甕分類図




第52図　河道出土高杯分類図




第53図　ＳＺ３遺物出土状況図（１：40）




第54図　ＳＺ３出土木製品実測図（１：８、318は１：４）

甕である。

小型器台（261・262）は、口縁部のヨコナデが強く稜をもち内外面をヘラミガキする261と口縁部が直線的にのびる中空の262がある。

高杯については、第52図のように分類する。

A類：口縁部が外方にのび、杯底部から屈曲して杯部にいたる古墳時代通有の高杯。

a類：口縁部から端部が外反する。口径に比べ杯部が浅い。

b類：杯底部から直線的にのびる口縁部をもち、口径に比べ杯部が浅く、端部が尖り気味におわる。

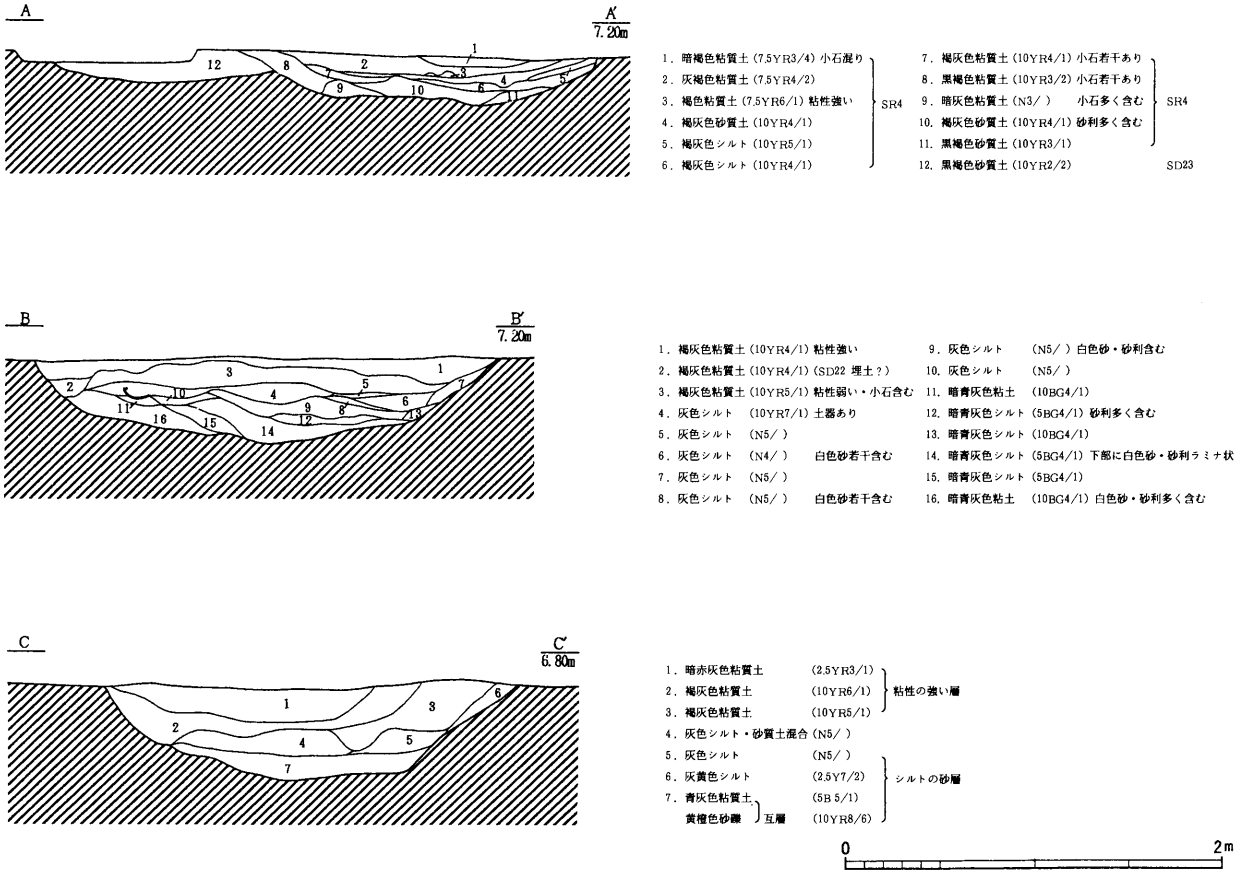
c類：杯底部と杯部の稜が不明瞭になり直線的に口縁部にいたる。

B類：杯底部から口縁部は直線的に開く。

C類：椀状の杯底部から段をもって立ち上がり、脚部はハ字状に直線的に開く。

D類：丸みをおびた杯底部から段をもたず、緩やかに立ち上がる。内面にミガキが見られるものもある。

高杯（263～289）には、口縁端部が受口状に立ち外面にヘラミガキで調整する弥生時代後期の山中式[2]の263がある。264は、杯底部と口縁部との境の稜が下位にあり欠山式でも新段階である。265は口縁部が内湾する杯部をもつ。266は杯底部が球形を呈し口縁部が外反する杯部に断面三角形の突帯がめぐる。また口縁部のクロスする刻目や突帯にみられる刻目から東海地方の影響を受け、北陸系土器をイメージした土器と考えられる[3]。267は杯部が外反する元屋敷式である。脚部（268）は円孔をもち裾部が直線的に開く欠山式に、269は裾部が広がり元屋敷式に属そう。270は平らな底部から直線的にのびる杯部を有する。271は平らな杯底部から口縁部が直線状にのびて端部が水平になる。口縁部と杯底部の境には稜が見られる。272は平らな杯底部から口縁部がややくびれる。273・274は、口縁部が外反する高杯でＡａ類に、275～277はおおむねＡｂ類に、278はＡｃ類に属する。279は口径が小さく杯部が深い高杯である。280は口縁部が真っ直ぐのびるＢ類に属する。281・282は杯部に稜がなくＤ類である。




**第55図　ＳＲ４、ＳＲ１土層断面図（１：80）**

283はハの字に開く脚部から裾部が肥厚し端部が凹面になる。284は脚部に円孔がみられる。285～288は脚部が膨れる。289は手捏ねによる高杯である。

鉢（291～293）は、口縁端部が逆Ｌ字状に水平に折れる291、丸い底部から口縁部が外反する小型鉢の292、外面にハケメがある有孔鉢の293がある。

ミニチュア土器（294・295）は、口縁部が内湾する椀を形取った294と体部に細かいハケメを施した甕の体部上半の295がある。

手捏ね土器（296～300）は、口縁端部が外反する大型品で、表面には指による調整がみられる296がある。また口縁端部が内傾してユビオサエの痕跡をとどめる297や内湾気味に立ち上がる298がある。299・300は体部が丸い小型の手捏ね土器である。

紡錘車（301）は、土製品である。側面が緩やかに反り円錐形を呈する。径2.9～3.1cmである。

290は図示したが、その上下は確かでない。

須恵器（302～312）には、杯蓋（302～305）、杯身（306・307）、有蓋高杯（308～310）、甕（311）、壺（312）がある。杯身（306）の外面には「×」のヘラ記号が見られる。これら須恵器の時期は田辺編年[4]のＴＫ23からＴＫ10型式に比定され、５世紀末から６世紀前半と考えられよう。

石製品（313～316）は、313の扁平片刃石斧片、314の凹石、315の石錘、石斧を転用したと考えられる敲石または磨石の316がある。314は表面に敲打痕がみられる。313・314は砂岩製である。315は楕円形の礫を使い側縁部をつくる磨製の石錘である。石英斑岩製である。316は礫岩製である。

**ＳＺ３**（第53・54図）

Ｂ地区の自然流路ＳＲ３の中央で検出した杭列である。杭列は流れに直交するように東西方向に２ないし３列に打ち込まれていた。ＳＺ３のためにその南側が流れにより土坑状に掘り込んでいる。掘り込みの大きさは東西3.0m×南北1.92mで、東西に長い楕円形を呈している。深さはＳＲ３の底面から60cm程である。ＳＺ３の影響によると考えられる凹地がＳＺ３の南側に検出された。長さ11.1m×幅5.1m、深さはＳＲ３の底面から54cm程である。

**出土遺物**　曲柄又鍬（318）は、いわゆる「ナスビ形鍬先」の身部である。着柄部は断面が楕円形を呈している。刃部は内外面とも削り出さず、柄頭部に柄と身を緊縛するための段や突起はみられない。

杭（319～338）は、自然木の先端を尖らせた丸杭である。丸杭の現存長23～56cmで、径2.6～7.0cmである。

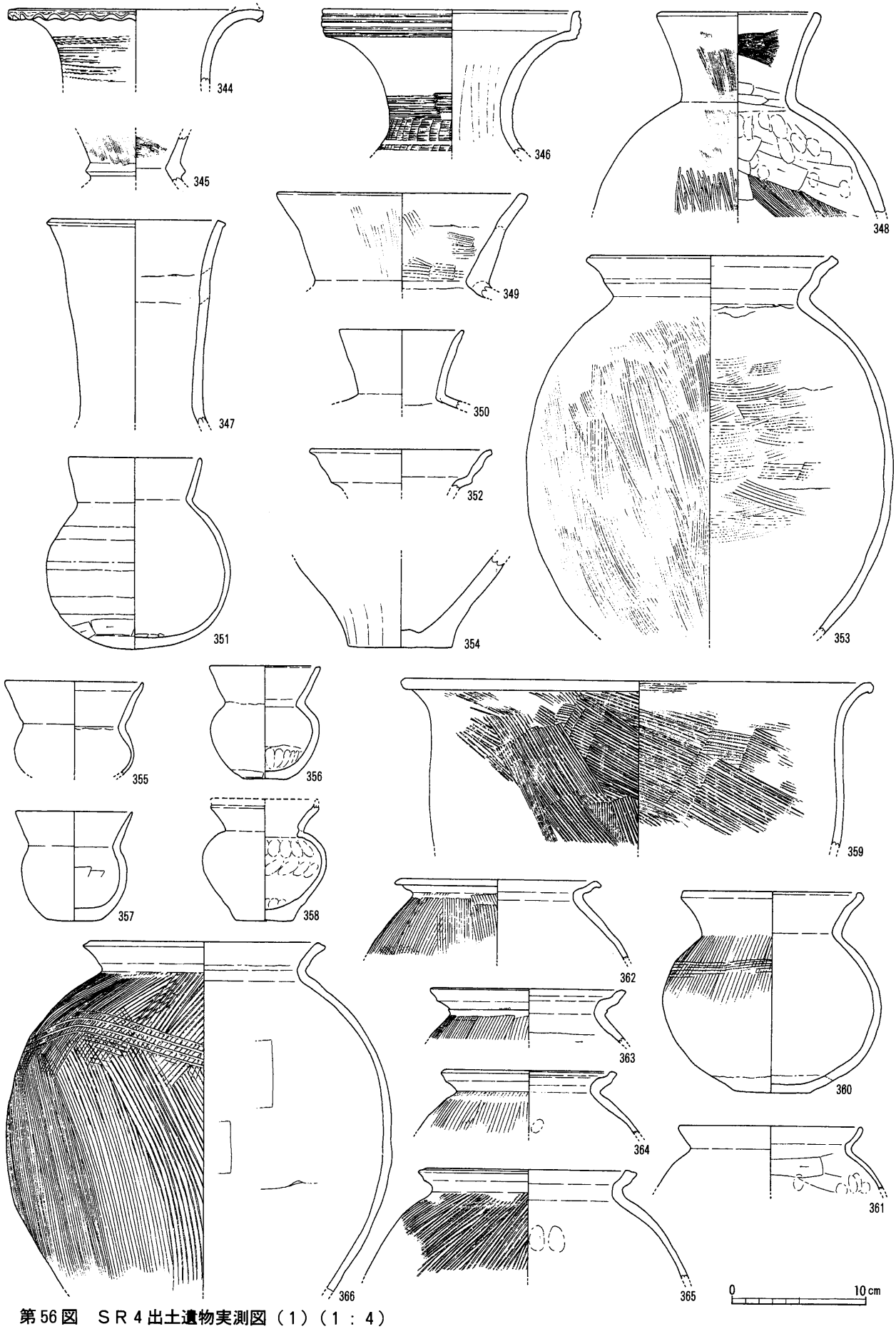
用途不明品（339～343）は、削りを入れた板材の339がある。円孔がみられる341は転用杭と考えられる。また先端を円形に削る340や板材にそって削りをいれた342、角材の先端を削る343がある。

**ＳＲ４**（第55～60図・ＰＬ－26・44・45・54）

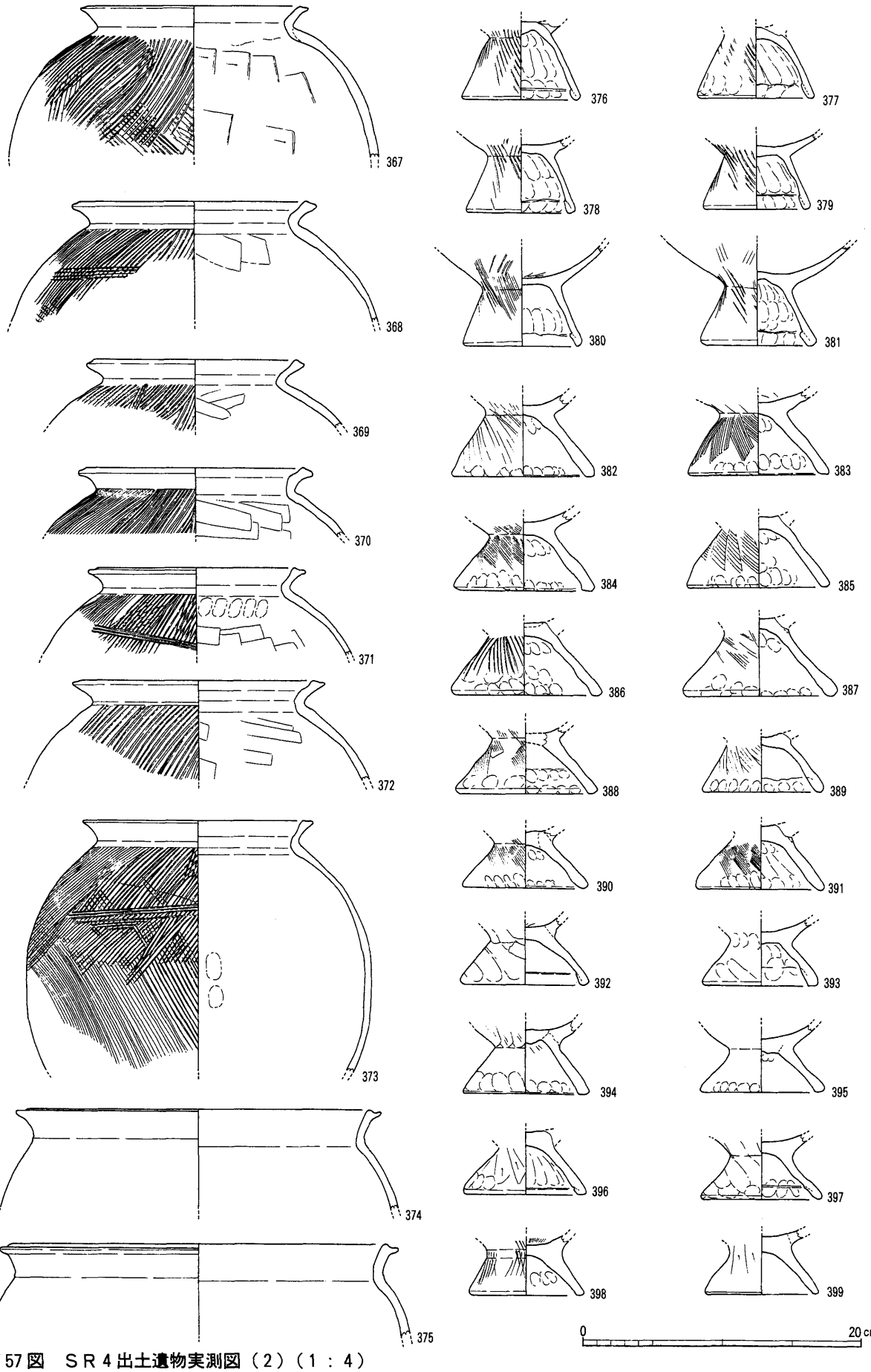
Ｃ地区で検出した北西から中央でＳ字状に蛇行しながら南東に流れる自然流路である。幅2.0～5.0m、深さ35～91cm程である。その北西端は弥生時代のＳＲ１を切る。埋土は調査時に褐灰色粘質土の上層と灰色シルトの中層、青灰色粘質土に粗砂が混入する下層に分層したが、下層からはＳ字甕や土師器椀とともに須恵器杯蓋・杯身が完形で出土している。各層の遺物の時期差は少ないと思われる。

遺物は、出土量は遺構の中でもＳＲ３に次いで多く、コンテナバット37箱になる。土器の中では土師器に対して須恵器の出土量が多い。土師器や須恵器などのほか、管玉や砥石の石製品や流路底の粗砂層から１点であるが木製品の風呂鍬（452）が出土している。時期は下層出土の須恵器やＳ字甕などから古墳時代後期と考える。

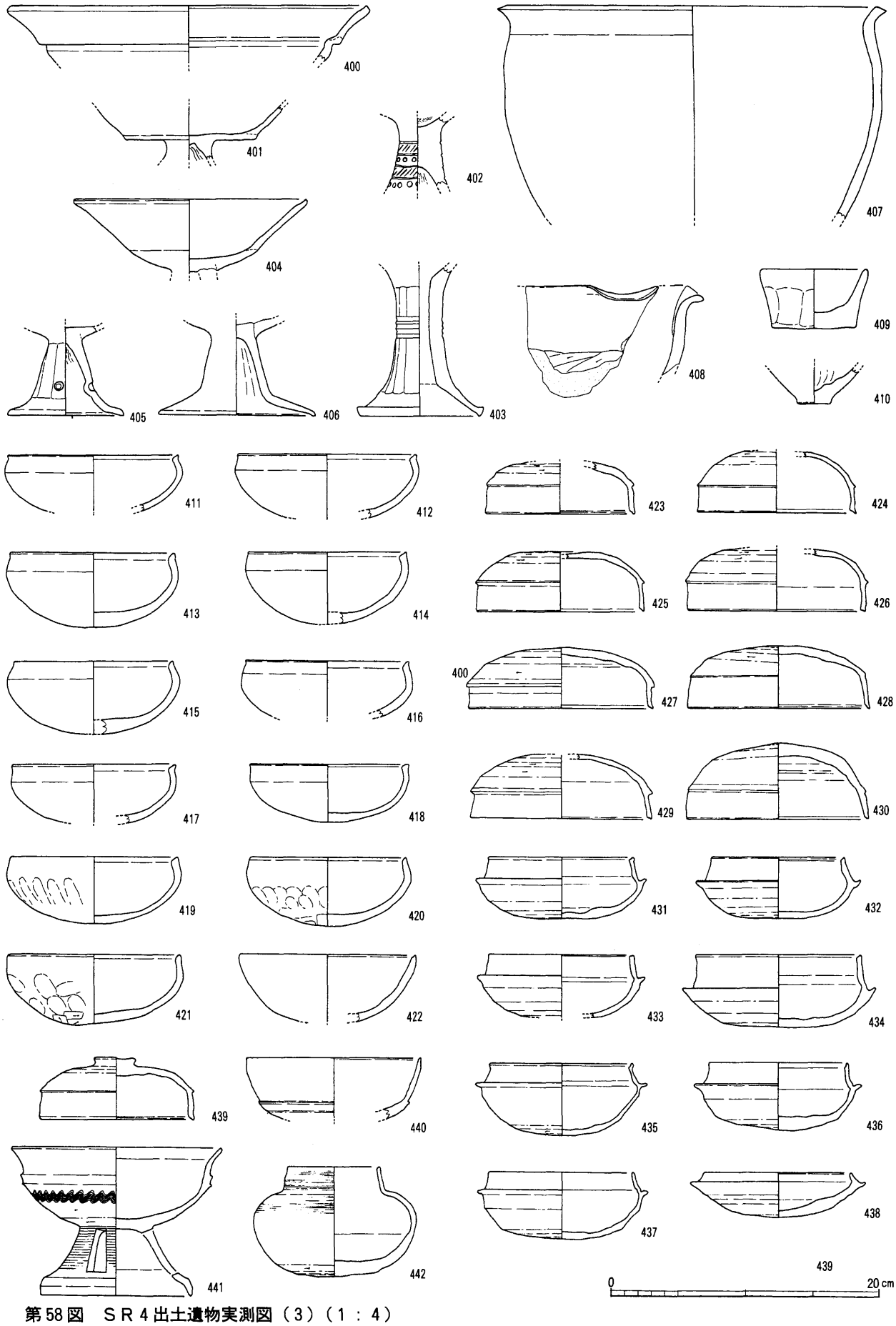
**出土遺物**　壺（344～358）は、口縁部が緩やかに外反して端部が垂下し、その端部に指による押圧が見られる広口壺（344）がある。時期は弥生時代の中期前葉である。また頸部に突帯がめぐる345は、広口壺であろう。受口壺（346）は、緩やかに外反する頸部から受口状に屈折する口縁部をもち、端部には凹線文がめぐる。長頸壺（347）は口縁部が直線的にのび、端部外面に面をつくる。直口壺（348～351）は口縁部から体部にかけてハケメがのこる348、口縁端部に面をもつ大型の349、端部が尖る小型の350や球形の体部をもつ351がある。二重口縁壺（352・353）は、体部内外面をハケ調整する353がある。354は壺の底部である。小型丸底壺には小片であるが、355がある。小型平底壺（356～358）には、口径が体部径より大きい356や357がある。これらは358に比べてやや古い傾向を示す。



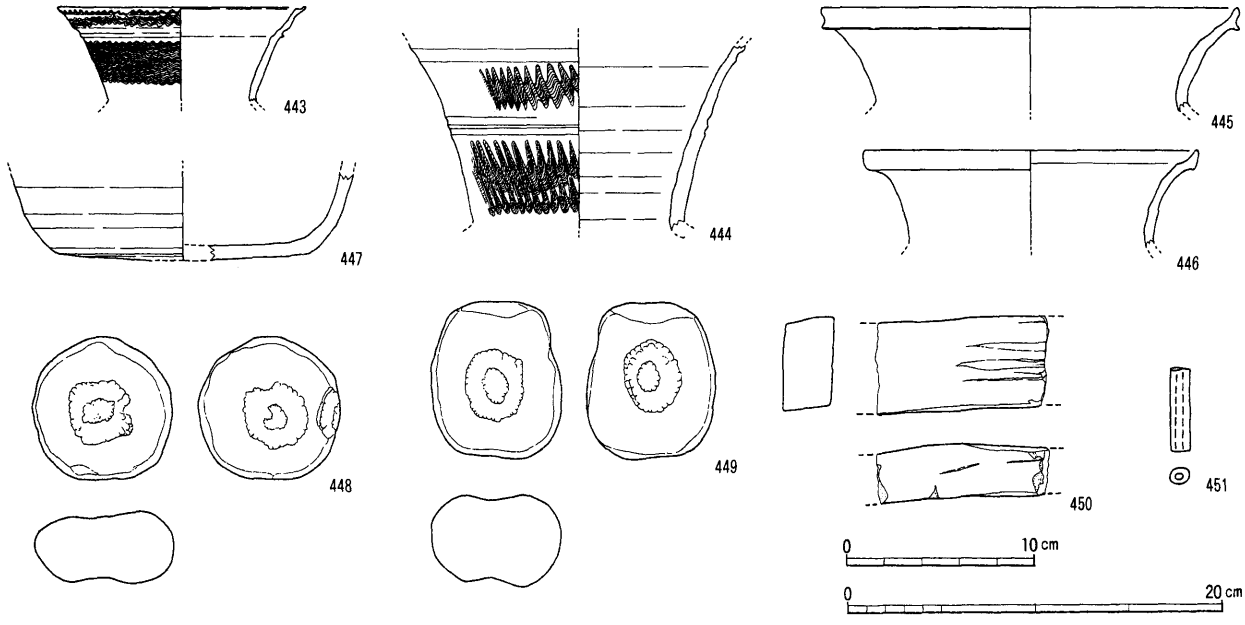

第56図　ＳＲ４出土遺物実測図（１）（１：４）




第57図　ＳＲ４出土遺物実測図（２）（１：４）

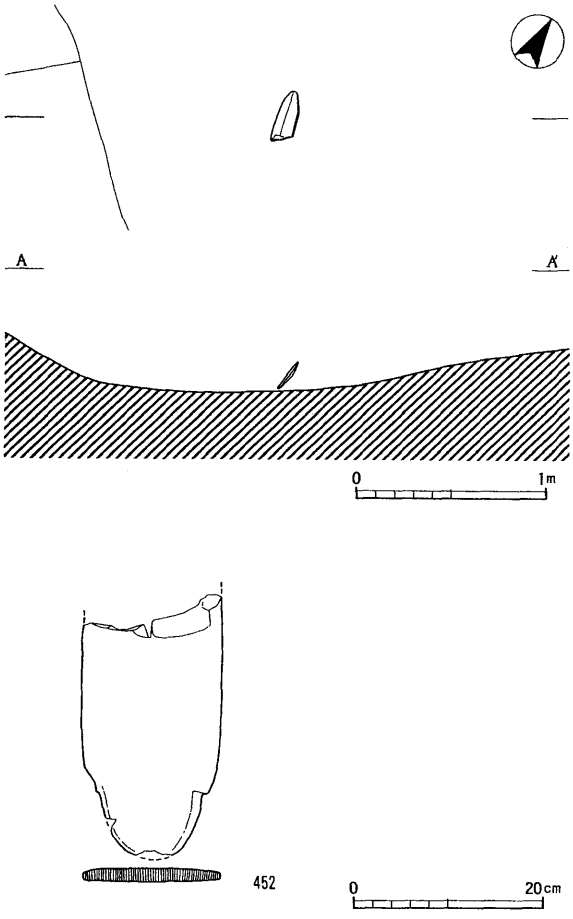



**第58図　ＳＲ４出土遺物実測図（３）（１：４）**




**第59図　ＳＲ４出土石製品実測図（１：４、451は１：２）**

甕（359～399）は、口縁部が外反して体部内外面に櫛状工具よるハケメを施す弥生時代の甕（359）は、混入によるものである。く字甕には、口縁端部を内傾させ、体部の調整技法もＳ字甕の技法を用いる360や内湾する口縁部をもち内面は横位に削る361がある。398・399はく字甕の脚台部である。Ｓ字甕（362～397）は、口縁端部が外上方にのびる362はＢ類に、端部が外傾する面をもつ363～365はＣ類に、器壁が厚くなり口縁端部が肥厚する366～373はＤ類に、口縁部が水平にのびる374・375はＥ類に属する。376～397はＳ字甕の脚台部である。




**第60図　ＳＲ４木製品出土状況図（１：40）**
**・出土木製品実測図（１：８）**

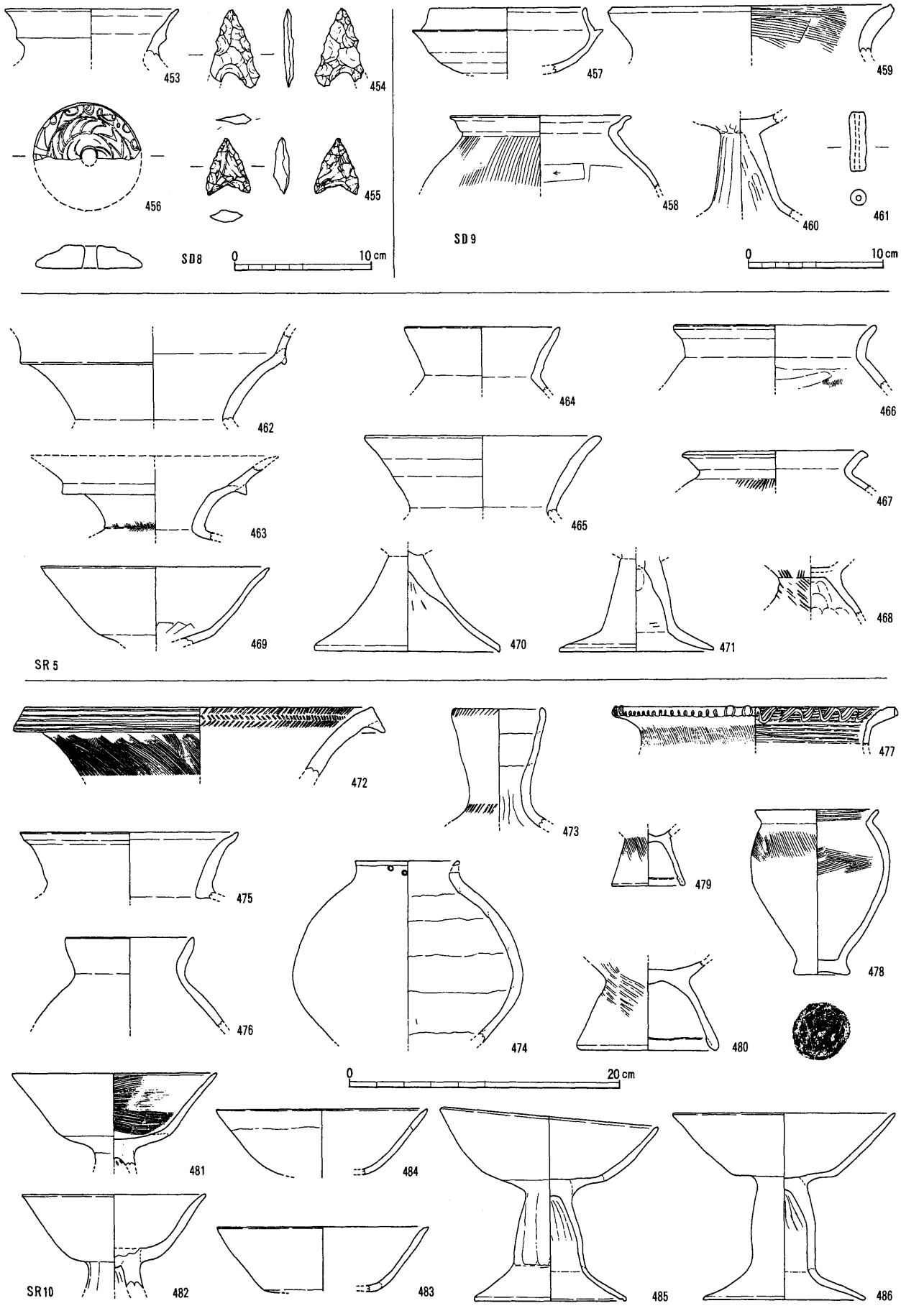
高杯（400～406）には、椀状の杯底部から段をもって外反する大型の高杯（400）は、本分類のＣ類にあたる。401は平らな杯底部から稜をもって口縁部がのびる高杯で、脚部が開くと考えられる。また脚部に沈線を施し沈線間に刺突文と円形浮文がみられる402や脚部の裾が上に尖り気味におわる403は、弥生時代後期の所産である。404は杯部でＡｂ類に属す。405は脚部の中央に棒状工具により押圧痕をとどめる。406は脚部が屈折して裾部にいたる。

鉢（407・408）は片口鉢である。407の体部はナデ調整をおこなう。408の体部外面下半はヘラケズリで調整する。

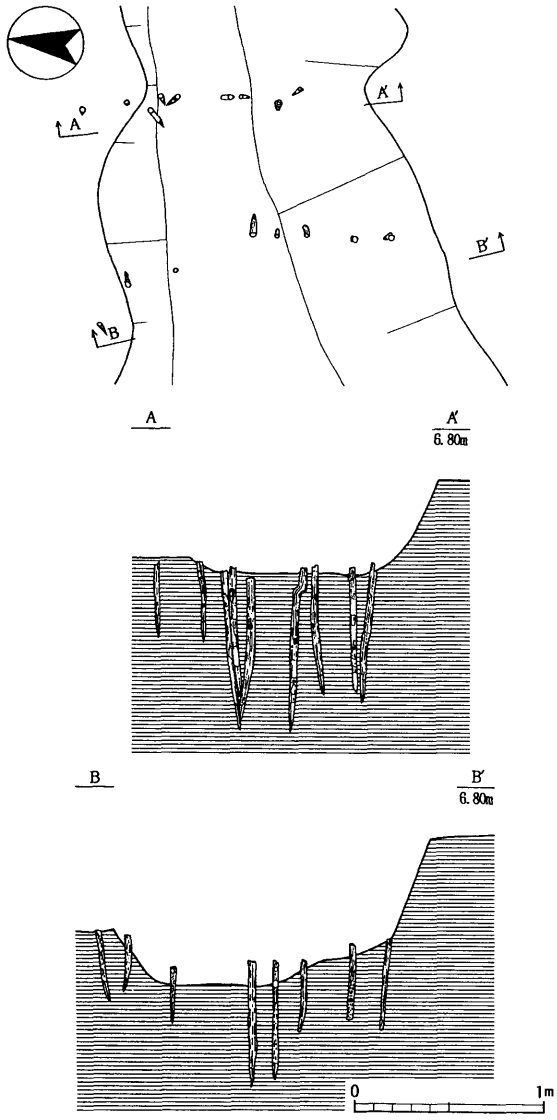
手捏ね土器（409）は、体部下半を縦位に指で調整する。内面はナデである。

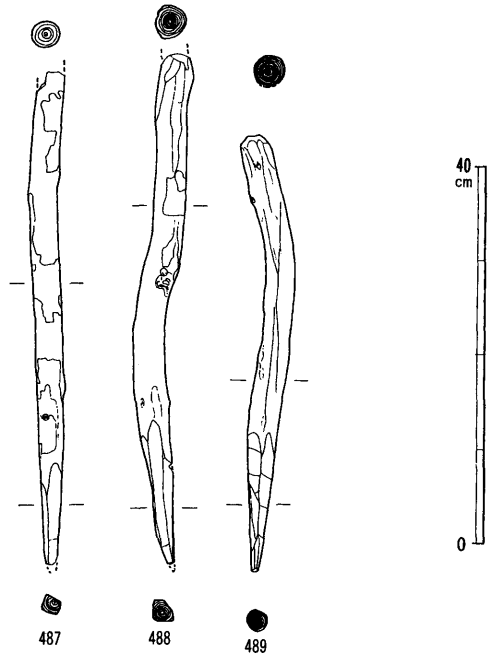
ミニチュア土器（410）は、壺の体部下半である。体部外面はナデ、内面はユビオサエの後ナデである。

椀（411～422）は、口縁部のヨコナデにより内傾する面をもち口縁部外面が凹面状になり、外上方に尖り気味におわるもの411～418とヨコナデが弱く




第61図　ＳＲ５、ＳＤ８・９・10出土遺物実測図・拓影図（１：４、454～456・461は１：２）




**第62図　ＳＺ４実測図（１：40）**
**・出土木製品実測図（１：８）**

口縁部に内傾する面をもつだけの419～421がある。422のように口縁部内面が沈線状になるものもある。

須恵器（423～447）は、杯蓋（423～430）、杯身（431～438）、有蓋高杯蓋（439）、無蓋高杯（440・441）、短頸壺（442）、広口壺（443～447）などが出土している。これらは田辺編年のＴＫ23型式からＴＫ48型式に併行し、杯身の446はＴＫ209型式に併行する。５世紀末から７世紀初めの所産である。

石製品（448～451）がある。448・449は凹石である。448は円形を呈し偏平な礫を使用する。花崗岩製である。449は楕円形を呈した448よりも厚みのある礫を使用する。閃緑岩製である。ともに表面および裏面ともよく使用され、中央部に敲打による窪みがみられる。450は砥石で、表面および裏面と両側面には使用痕がみられる。砂岩製である。451は管玉で、碧玉製である。

木製品には、風呂鋤の鋤身の下半部（452）がある。河道底の粗砂直上から出土したものである。先端に鉄製のＵ字形刃先を装着する。

ＳＤ７

Ｃ地区の西側で検出したＳＲ４から流れる南北溝である。幅50cm、深さ７～34cm程である。

遺物は土師器甕細片が出土している。

ＳＤ８（第61図・ＰＬ－46）

Ｂ地区およびＣ地区で検出した北西からやや東に湾曲して南東に流れる溝である。幅1.2～2.7ｍである。深さは13～30cm程である。東に向きを変えてＳＲ３に流れていたと考える。

**出土遺物**　壺（453）は、短く外反する退化した口縁部をもつ二重口縁壺の口縁部である。

石製品（454～456）には、無茎凹基式の石鏃（454・455）や紡錘車（456）がある。石鏃はともにサヌカイト製である。また紡錘車（456）は、滑石製で外面に幾何学的な文様を線刻する。

ＳＤ９（第61図・ＰＬ－46）

Ｃ地区で検出したＳＤ８から南東にほぼ直線的にのびる溝である。幅1.3ｍでほぼ平均した溝幅である。深さは23～30cm程である。南でＳＲ３と切り合うが、ＳＤ９の方が新しい。

**出土遺物**　須恵器（457）は、田辺編年のＴＫ47型式に併行する杯身である。６世紀初頭頃である。

甕（458・459）のうち、S字甕（458）は、口縁端部が外にのびる。また459は口縁部が肥厚し端部を上方につまみ上げる長胴甕である。

高杯（460）は直線的な脚柱部をもつ高杯である。

**石製品**には、滑石製の管玉（461）がある。

**ＳＲ５**（第61図・ＰＬ－46）

Ｃ地区東中央で検出したＳＲ３から東に流れる自然流路で、流路幅はほぼ平均しており約3.0ｍ前後で、深さ10㎝程で幅が広く浅い流路である。

**出土遺物**　二重口縁壺（462・463）は、口縁部が立つ462と外反するパレススタイルの壺（463）がある。直口壺（464・465）は、直線的にのびる464と口径が外反気味に開く465がある。

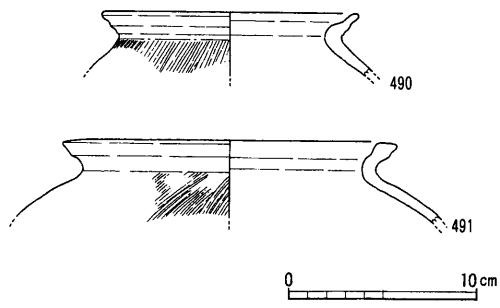
く字甕（466）は、頸部から口縁部にかけて緩やかに外反し口縁端部を丸くおさめる。S字甕（467）は、口縁部の屈曲がなくなりＤ類に属する。また脚台部（467）は、外面に粗いハケメがみられる。

高杯（469～471）は、口縁部が外反気味にのびる469がある。470は直線的に開き、Ｃ類の脚部であろう。471は裾部がく字状に屈折する。

**ＳＤ10**（第61図）

Ｃ地区で検出した北東から南西に直線的にのびる溝で、上層の古墳時代と下層の弥生時代に分かれる。弥生時代のＳＤ４にＳＲ３から流れ込んだと考える。幅2.7～4.3ｍ、深さは29～96㎝程である。

**出土遺物**　広口壺（472）は、パレススタイルの壺である。口縁部には端部下に粘土を貼付して下方にのばし外面に擬凹線をめぐらす。内面には羽状の刺突文が見られる。細頸壺（473）は、口縁部が体




**第63図　ＳＲ６出土遺物実測図（１：４）**

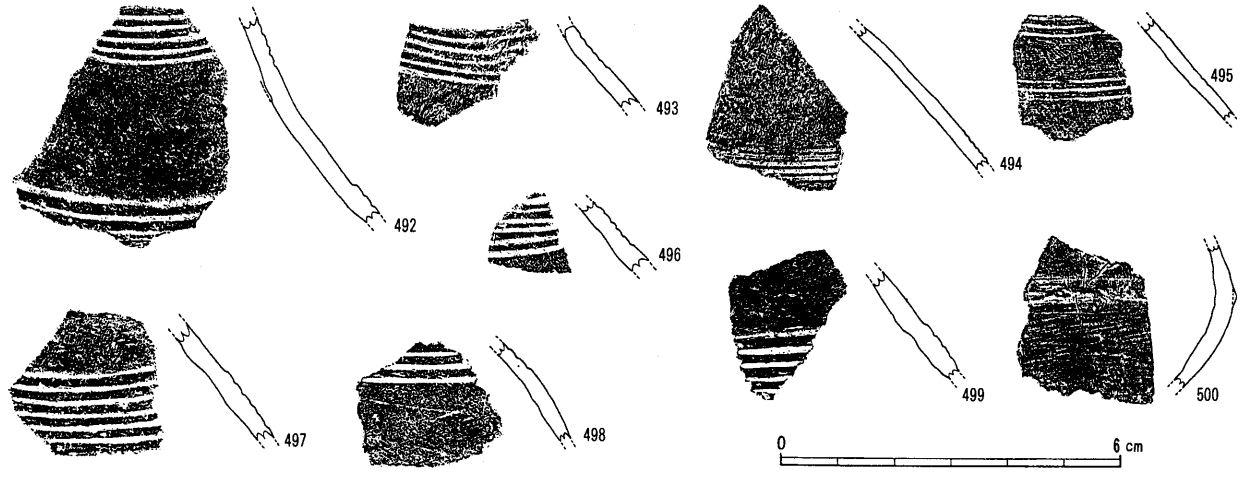
部から緩やかに外上方にのびて、端部は内湾気味におわる。口縁端部と頸部に刺突文がめぐる。内面には粘土紐の接合痕がのこる。無頸壺（474）は、口縁部が尖り気味におわる。口縁部には2孔一対の円孔が2方向にみられる。直口壺（475・476）は、外反して開く475と短く立ち上がる476がある。

甕（477）は、口縁部が緩やかに外反して端部が肥厚する弥生時代中期の甕で、内外面をハケ調整する。く字甕（478）は、口縁部が短く直線的で、底部に木葉痕がみられる。S字甕の脚台部（479・480）には、通有の大きさの479と小型の480がある。

高杯（481～486）は、口縁部が杯底部から直線的にのびるものである。481・482は口径15㎝前後で器高に対して杯部がやや小さい高杯である。483～486は口径16㎝前後とやや大きく、調整は481・482と同じである。

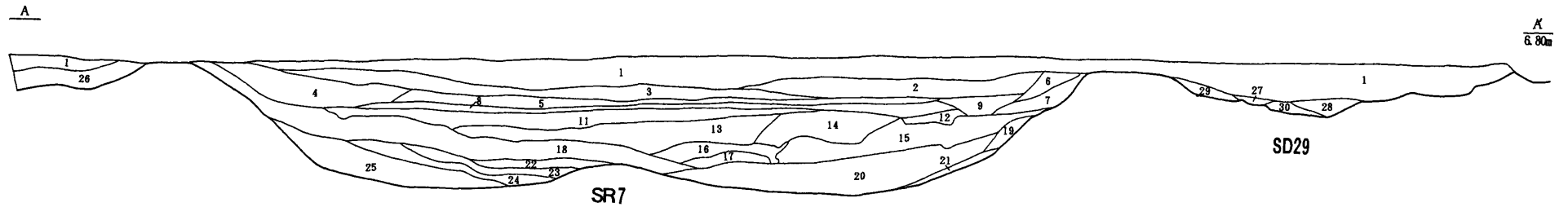
**ＳＤ11**

Ｃ地区南東隅で検出した南西から逆Ｕ字形に湾曲する溝で、幅1.5～3.5ｍ、深さ27～75㎝である。Ｄ地区の河道ＳＲ７に繋がる溝と考える。溝の中央部で杭列ＳＺ４を検出した。調査区東壁の土層断面か

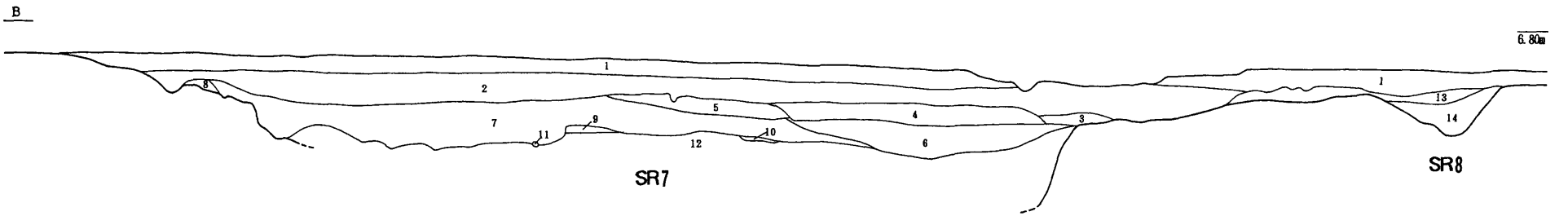


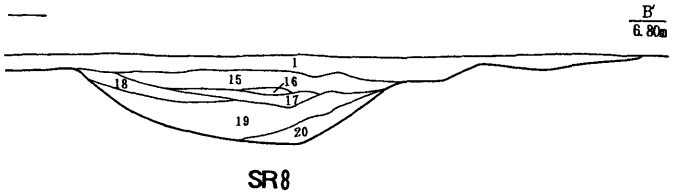

**第64図　ＳＲ７出土弥生時代遺物拓影図（１：３）**

第65図　SR7土層断面図（1：80）

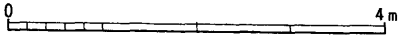


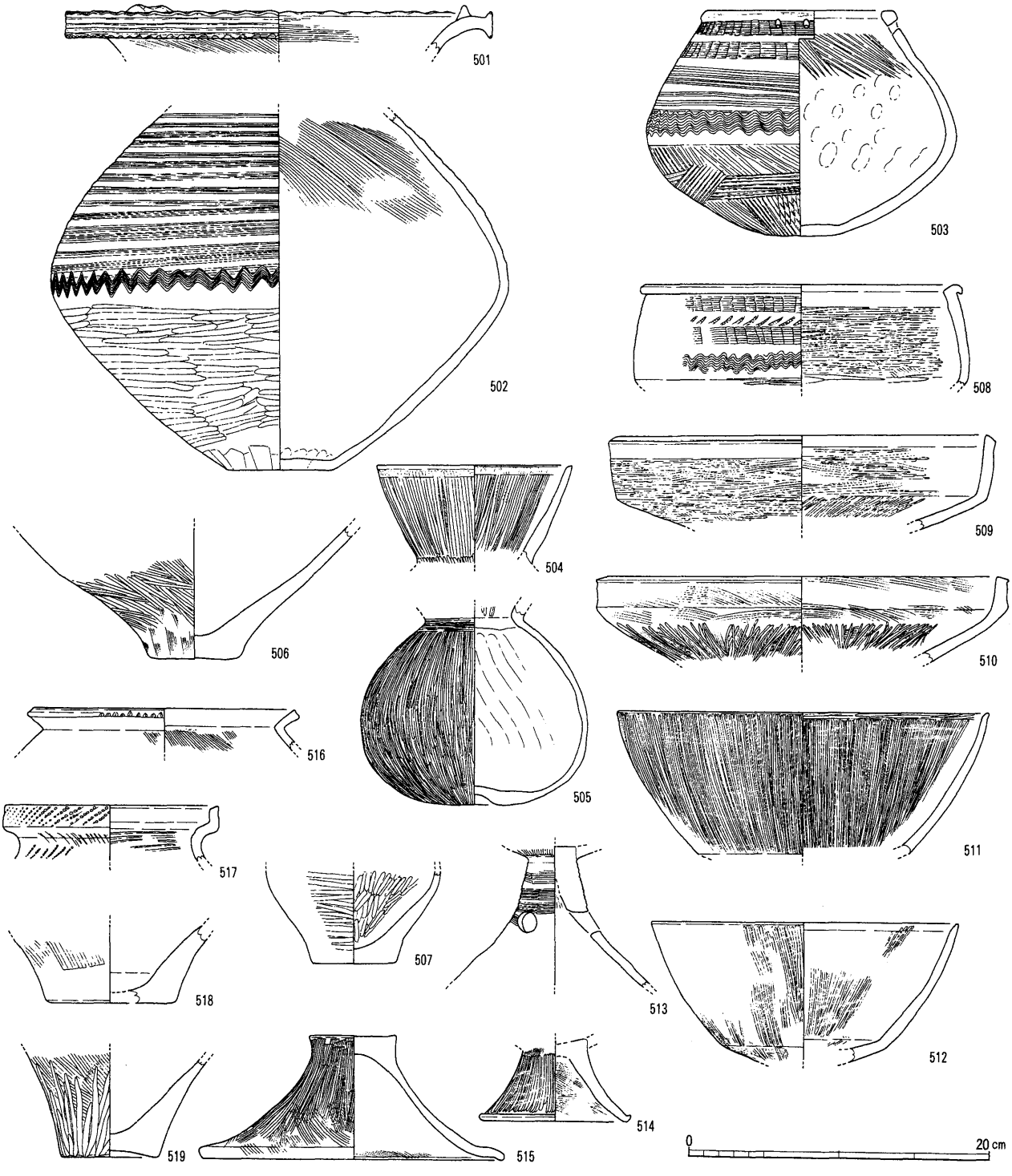

1．明黄褐色シルト（10YR 6/8）　混　明青灰シルト（5B 7/1）
2．暗青灰色シルト（5BG 4/1）
3．褐灰色粘質土　（10YR 5/1）
4．暗青灰色粘質土（5B 3/1）
5．8と同じ
6．暗青灰色砂質土（5BG 4/1）
7．褐灰色粘質土　（10YR 5/1）　混　にぶい黄橙色粘質土（10YR 7/4）
8．黒褐色シルト　（2.5Y 3/1）［木質含む］
9．黒褐色シルト　（5Y 3/1）　混　黄褐色粗砂（10YR 6/8）
10．8と同じ
11．3と同じ
12．黄灰色シルト（2.5Y 5/1）
13．褐灰色シルト（10YR 5/1）
14．黄灰色シルト（2.5YR 5/1）　混　黄褐色細砂（10YR 6/8）　混　灰白色細砂（10YR 8/1）
15．褐灰色粘質土（10YR 5/1）
16．灰白色粗砂　（10YR 8/1）　混　浅黄橙色粗砂（10YR 8/3）
17．15と同じ
18．褐灰色粘質土（10YR 4/1）
19．灰色シルト　（N 7/）　混　明黄褐色粗砂（10YR 6/8）　混　青灰色粗砂（5BG 7/1）
20．褐灰色粘質土（10YR 6/1）
21．褐灰色粘質土　（10YR 6/1）　混　灰白色砂（10YR 8/1）
22．灰色粗砂　（10YR 8/1）
23．褐灰色粘質土　（7.5YR 4/1）
24．22と同じ
25．褐灰色粘質土　（10YR 5/1）
26．暗青灰色砂質土（5B 4/1）
27．黒褐色シルト　（2.5Y 3/1）
28．黒褐色砂質土　（2.5Y 3/1）　混　灰白色粗砂（10YR 8/1）
29．黒褐色シルト　（2.5Y 3/1）　混　明黄褐色シルト（10YR 6/8）
30．28と同じ




1．黄褐色シルト　（10YR 6/8）　混　明黄褐色シルト（10YR 6/8）
2．暗青灰色粘質土（5B 4/1）
3．褐灰色シルト　（7.5YR 5/1）　混　黄褐色粗砂（10YR 6/8）
4．褐灰色粘質土　（7.5YR 5/1）
5．青灰色粘質土　（5B 5/1）　混　黄褐色粗砂（10YR 6/8）
6．灰色粘質土　（5Y 5/1）　混　黄褐色粗砂（10YR 6/8）
7．灰色粘質土　（5Y 5/1）
8．6と同じ
9．灰白色シルト　（10Y 7/2）
10．灰色粘質土　（7.5YR 6/1）　混　灰白色砂（5Y 8/1）
11．黄褐色粗砂　（10YR 6/8）
12．灰色粘質土　（7.5YR 6/1）
13．2と同じ
14．青灰色シルト　（5B 5/1）　混　明黄褐色砂（10YR 6/8）　混　灰白色砂（10YR 8/1）
15．褐灰色シルト　（10YR 6/1）　混　明黄褐色粘質土（10YR 6/8）
16．灰白色砂　（5Y 8/1）
17．灰白色砂質土　（N 7/）
18．青灰色粘質土　（5B 8/1）
19．暗青灰色粘質土（5B 4/1）
20．黒褐色粗砂　（7.5YR 3/1）　混　暗青灰色粘質土（5B 4/1）






**第66図　ＳＲ７出土弥生時代遺物実測図（１：４）**

らＳＲ３より古い溝である。

**ＳＺ４**（第62図）

Ｃ地区南東隅に位置するＳＤ11に伴う杭列である。杭列は流れに直交するように東西２列に打ち込まれていた。杭数は東西あわせて17本である。

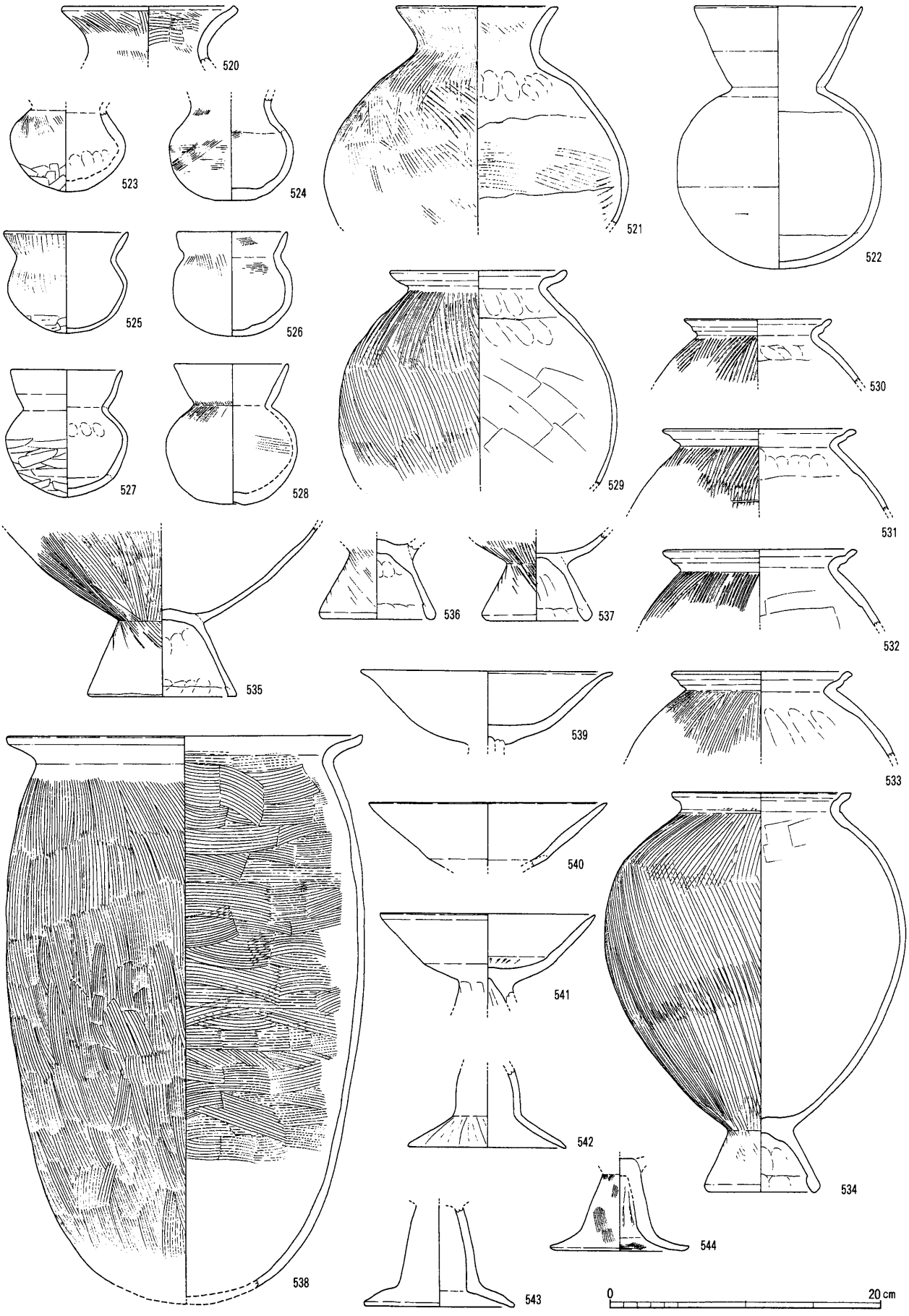
**出土遺物**　杭（487～489）は、自然木を利用した丸杭である。現存長46～54cm、径2.6～3.4cm。

**ＳＲ６**（第63図）

Ｄ地区北東隅で検出した北西から南東に流れる自然流路である。幅1.9m、深さ35～36cm程ある。ＳＲ６はＣ地区の自然流路ＳＲ４から続くと考える。

遺物には、古墳時代中期のＳ字甕がある。

**出土遺物**　Ｓ字甕（490・491）は、口縁部の屈曲が弱まる490はＢ類に、口縁端部が肥厚する491はＣ




第67図　ＳＲ７出土古墳時代遺物実測図（１：４）

類にあたる。

ＳＲ７（第64～69図・ＰＬ－21・26・46～49・54）

Ｄ地区北中央で検出した東西方向に流れる河道である。幅5.0～12.4ｍ、深さ1.27～1.80ｍ程で、やや北東に流れて向きを南に変え、さらに東にとる。河道内には北岸に貯水施設ＳＺ５、その東の北岸中央には護岸施設ＳＺ６、さらにＳＺ６の東側に護岸施設ＳＺ７が作られている。またＳＺ７からは、河道内にのびる杭列ＳＺ８が作られている。

遺物には、北岸のＳＺ５～７やその周辺から出土した弥生時代前期の細片（492～500）、ＳＺ６から出土した弥生時代中期の壺（506）や北岸際で出土した同じ中期の無頸壺（503）があるが、これらは河道ＳＲ７の流れに取り残されたものと考える。また古墳時代後期の長胴甕（548）も出土しているが、上層からで、ＳＲ７の中心となる遺物は、小型丸底壺やＳ字甕など古墳時代中期の土器である。また木製品には曲物底板、鋤先、鍬柄などが出土している。

**出土遺物**　弥生土器には壺（492～507）、鉢（508）、高杯（509～514）、蓋（515）、甕（516～519）がある。

壺（492～507）には、前期から中期前葉の弥生土器壺の細片（490～500）がある。492・493、495～499には削り出し凸帯や沈線が３条以上みられる。494は貝殻腹縁による条痕が、500には体部に貼り付け凸帯がみられ、凸帯以下をミガキで調整する。広口壺（501）は口縁端部が上下に肥厚するものである。口縁部内面に瘤状突起が貼り付けられ、口縁端部には凹線文を施している。502は体部外面を櫛状工具による文様で飾る。無頸壺（503）は、完形品で口縁部に２孔一対の円孔が２方向にみられる。瓢形壺（504・505）は口縁部と体部である。506は壺底部、507は小型壺の体部下半である。

鉢（508）は、内湾気味に立ち上がる体部から口縁部が外側に折り返す。内面にミガキを施す。弥生時代中期の所産である。

高杯（509～514）は、杯部が浅く口縁部が直立気味に立ち上がる509・510は山中式。杯部が深く稜が下位にある511・512は欠山式。脚部（513）は、ラッパ状に開き３方に透孔をもち欠山式の所産である。514は脚裾端部が上方に屈曲する。

蓋（515）は、笠状で外面を縦位にハケメを施す。大きさから甕の蓋と考える。

甕（516～519）は、く字甕（516）や受口甕（517）がある。516は体部内外面にハケメを施す。517は器壁が厚い。518・519は底部である。

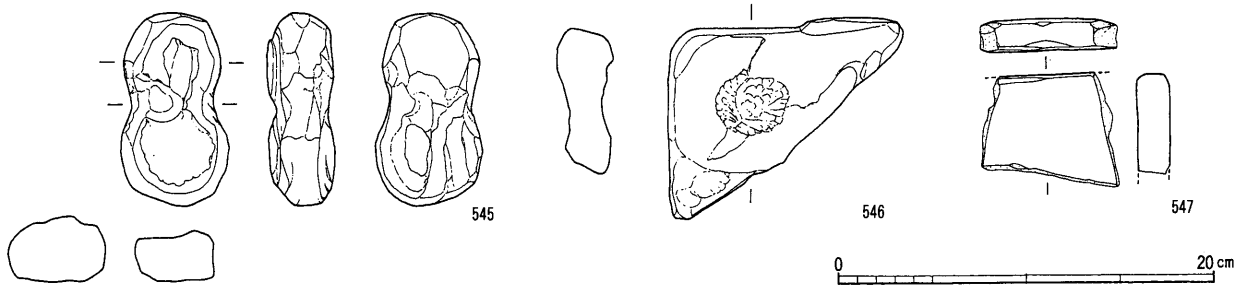
古墳時代の土器には、壺（520～528）、甕（529～538）、高杯（538～543）がある。

壺（520～528）には、口縁部が頸部から緩やかに開き、口縁部の外面を縦位に内面を横位にハケ調整する広口壺（520・521）がある。直口壺（522）は、球形の体部に口縁部が直線的に開く。小型丸底壺（523～528）は、体部から口縁部が緩やかに開く523・524や口縁部が短く口径と体部径がほぼ同じ525・526がある。527・528は、口径が体部径より小さいものである。

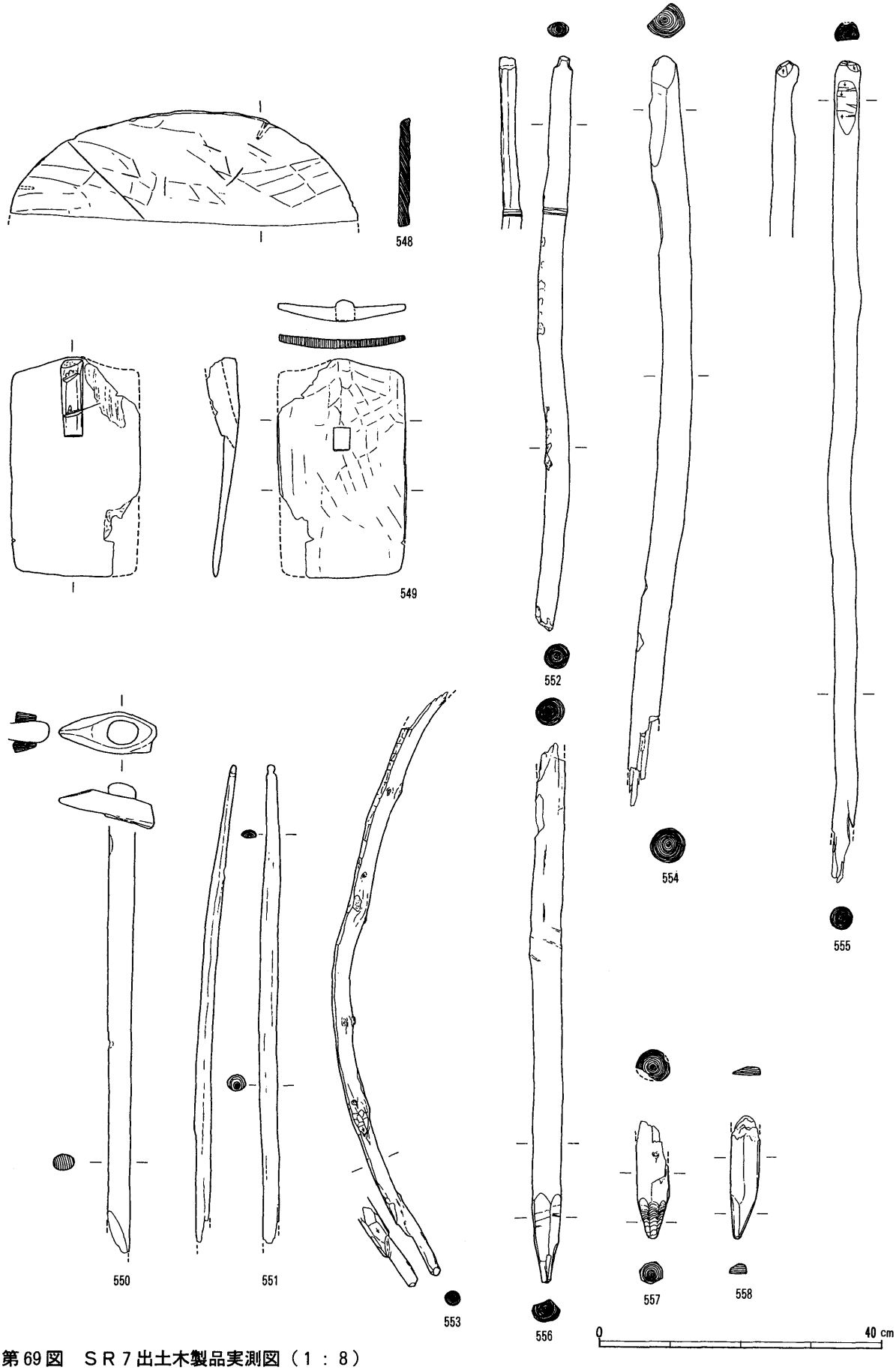
甕（529～538）には、口縁部が上方に内湾気味にのびる529と口縁端部が丸みをおびる530、口縁部が肥厚する531～534がある。いずれもＣ類に属すＳ字甕である。535～537は脚裾部を折り返す脚台部である。長胴甕（538）は、く字状に強く屈曲する頸部から口縁端部を外上方にのばす。

高杯（539～544）は、杯部が内湾気味にのびて口縁端部が外反する539はＡａ類に、口縁部が直線的にのびる540はＡｂ類に属する。541は口径が小さい高杯である。542～544は高杯の脚部である。

石製品には、（545～547）がある。545は石錘で、




**第68図　ＳＲ７出土石製品実測図（１：４）**




第69図　ＳＲ７出土木製品実測図（１：８）

第70図　ＳＺ５実測図（１：40）

長楕円形の礫を使用したものである。中央部の周囲に打ち欠きにより窪んでいる。表面の片側には敲打による痕跡がみられ、敲石に使われた可能性がある。砂岩製である。546は凹石で、方形の礫を打ち欠き、表面および裏面に敲打による窪みが見られる。547は砥石で、両面が使用されて平滑である。砂岩製である。

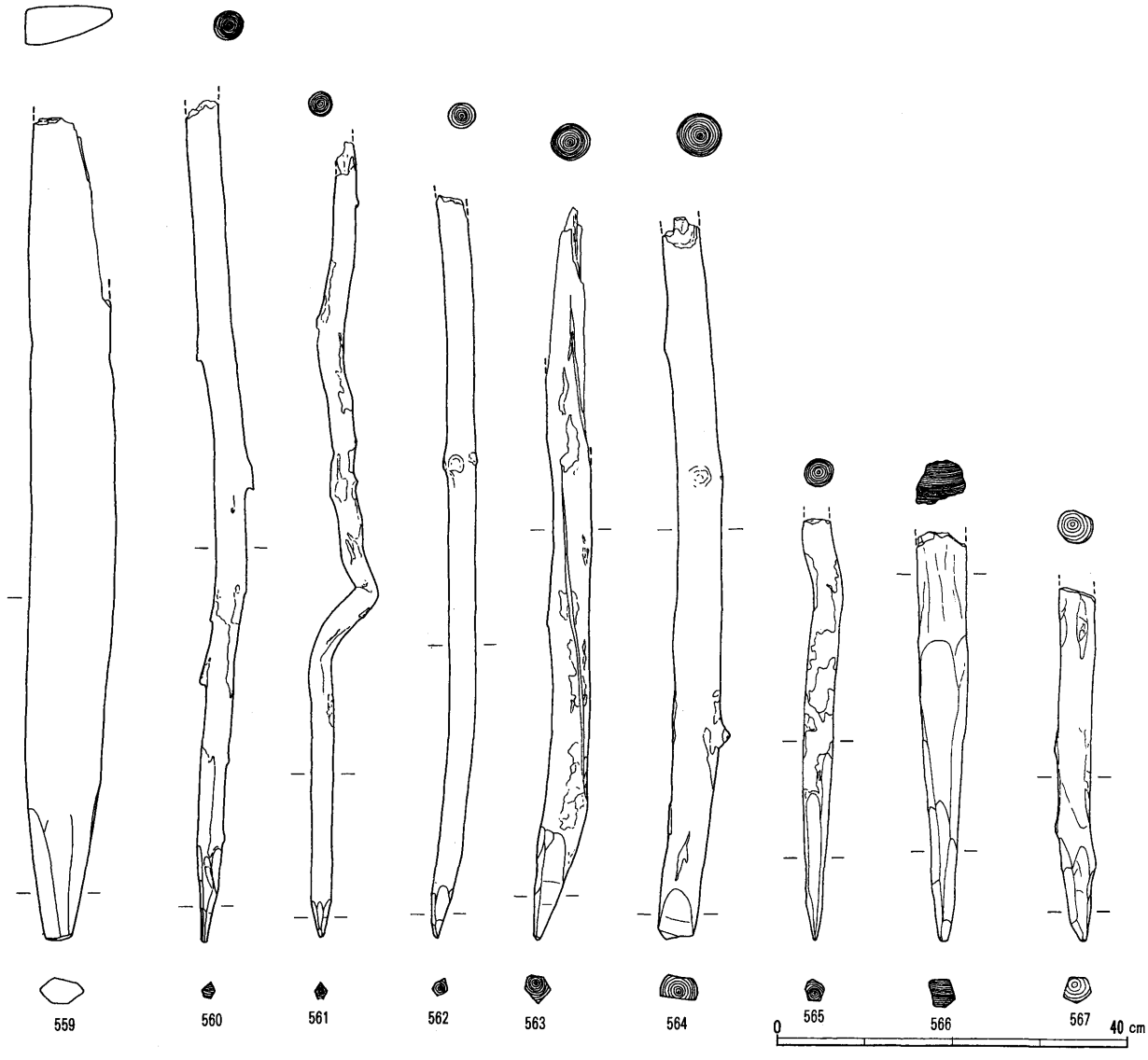
木製品には、548～558がある。548は曲物底板で、縁辺には2か所に木釘の痕跡がみられる。表面には不定方向にケズリ痕がみられる。549は組合せ鋤の鋤身の部分で、柄の一部を装着したままで出土した。身には方形の枘孔が穿たれている。柄と身の着柄角度は鈍角をなしている。550は直柄鍬の柄で、柄には鍬身の隆起部をともなって出土した。鍬身自体は欠落している。551は破損した丸木弓である。先端部の両側を削り弓ハズを作る。554・555は建築部材である。554は先端を削る垂木である。555はともに垂木である。

杭（556～558）は、自然木を利用した丸杭である。

用途不明品（552・553）は、先端部の両側を削り出す552は、弓の弓ハズかと思われるが、断定できない。また553は先端部を削る弓状の木製品である。

**ＳＺ５**（第70・71図・ＰＬ－22）

河道ＳＲ７の北岸側に作られた貯水施設である。この施設の北側が袋状に窪んでおり、施設を作ることによって一定の水量を溜めていたと考える。窪みの規模は東西3.65ｍ×南北3.3ｍ程である。施設は北側の草木質の敷物状遺構と、それを保護するようにアーチ状に構築された北側の杭列と南側の杭列か




**第71図　ＳＺ５出土木製品実測図（１：８）**

らなる。敷物状遺構の残存規模は、東西2.2m×南北1.4m程である。敷物状遺構を固定するために径約2cm、長さ29～65cmの細い縦杭を北辺部に打ち込み、同径の細い横木で止めている。北側の杭列は、東西の長さ2.5m程で、縦杭を打った後に北側に斜杭を打っている。杭径2～3cm、長さ0.8～0.9m程でほぼ揃っている。南側の杭列は東西の長さ2.8m程で、縦杭を打った後に北と南に斜杭を打って補強している。杭径2～4cm、長さ1.0～1.2m程で、南側の杭列は、河道の深さに応じた長い杭を打ち込んでいる。この2つの杭列間は、約1.1m程で平行しており、東辺部を緩やかに北側に曲げている。

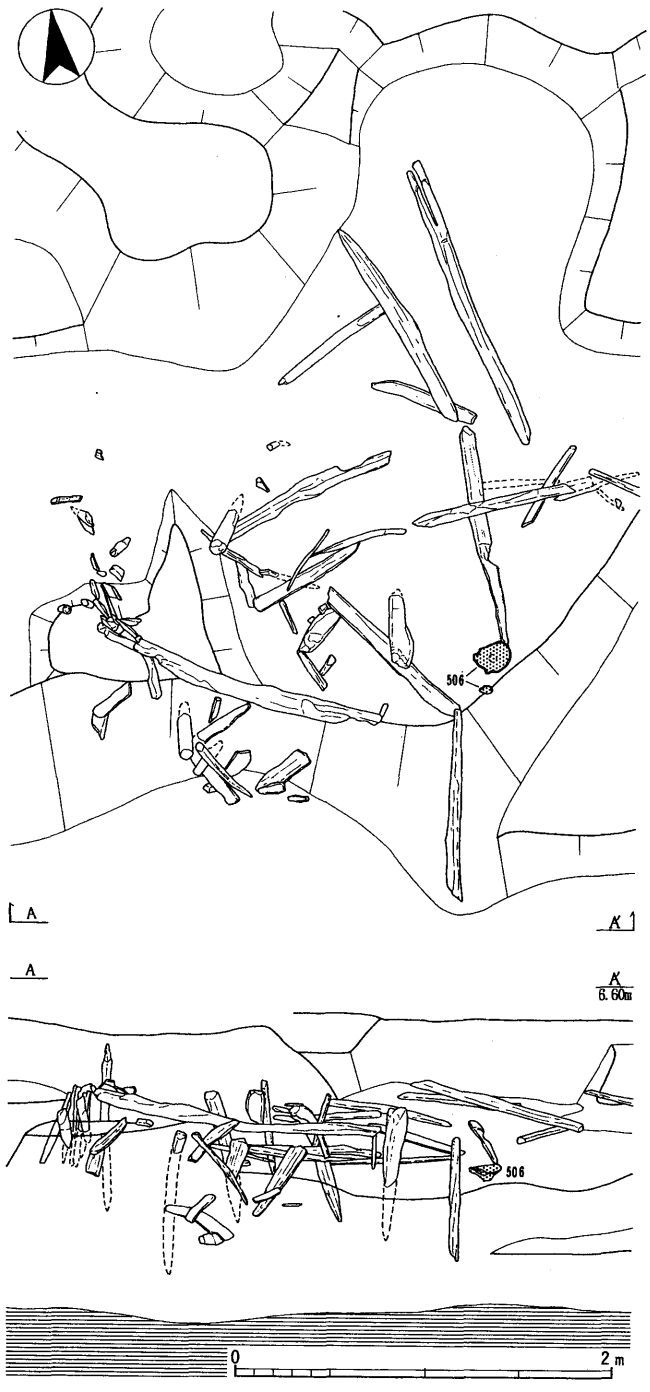
**出土遺物**　杭（559～567）は、板材を加工した転用杭（559）や自然木を利用した丸杭（560～567）である。

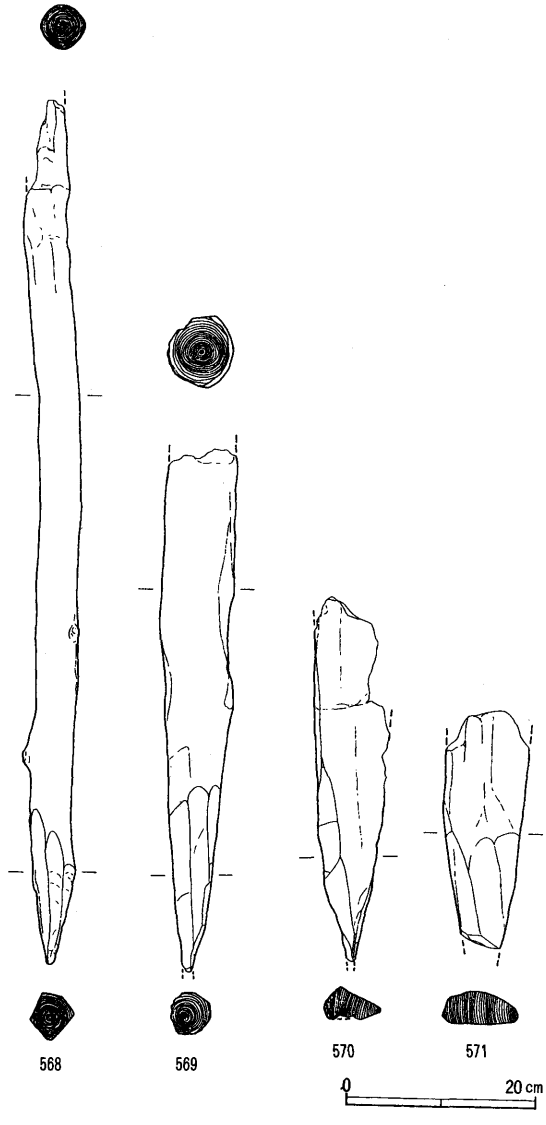
**ＳＺ６**（第72図・ＰＬ－23）

河道ＳＲ７の北岸側で、貯水施設ＳＺ５の東側に位置する。杭径5～10cm、長さ70～90cm程の杭が打ち込まれていた。杭の間に横材が置かれていたと考えられる。杭周辺に板材が見られ護岸施設と思われる。

**出土遺物**　杭（568～571）は、自然木を加工した丸杭（568・569）と板材を加工した転用杭（570・571）がある。

**ＳＺ７**（第73～75図・ＰＬ－23）



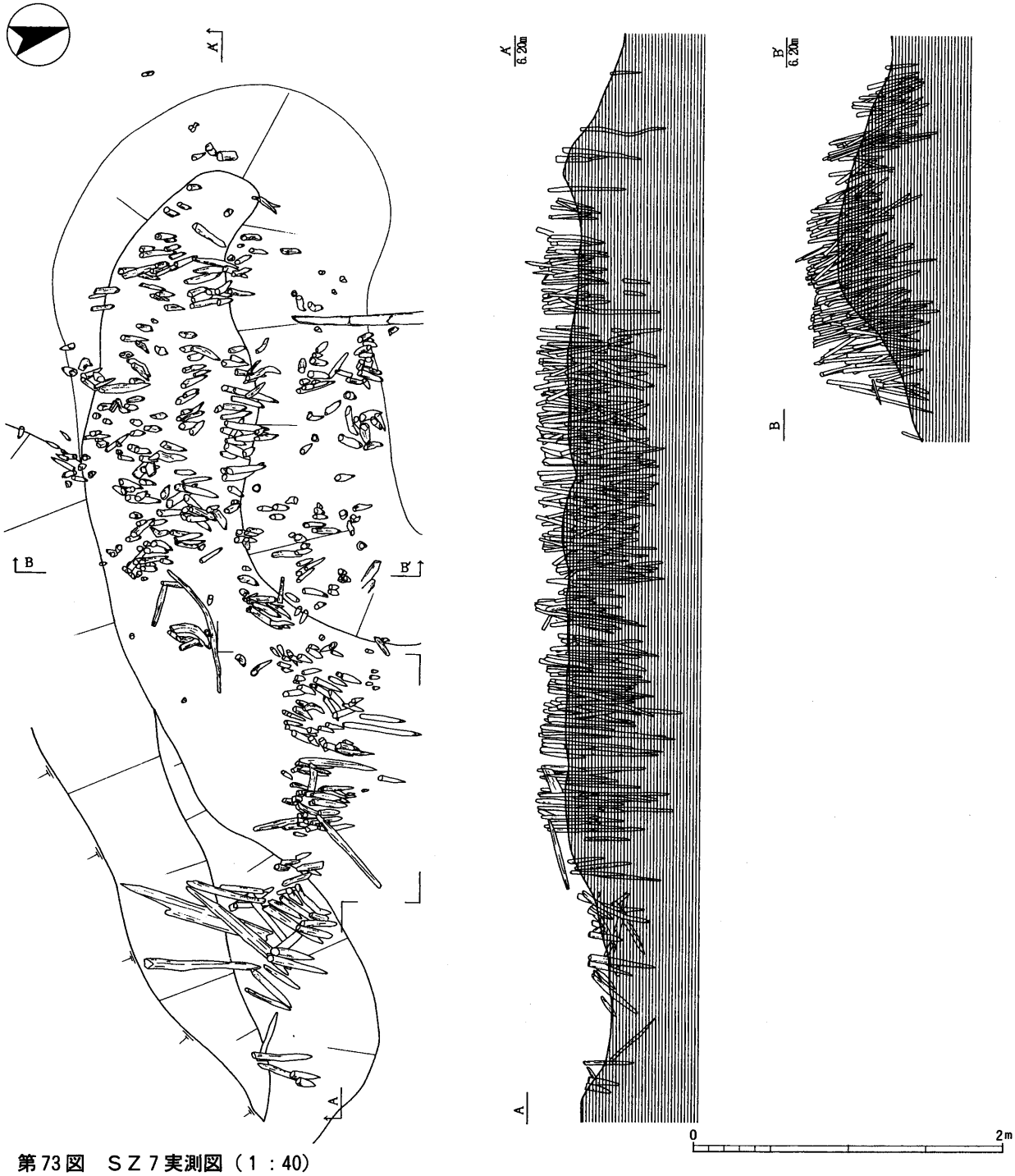

**第72図　ＳＺ６実測図（１：40）・出土木製品実測図（１：８）**

河道ＳＲ７の北岸側で、ＳＺ６の東側に位置する護岸施設である。400本以上を数える夥しい杭が打ち込まれていた。杭が打ち込まれた範囲は東西6.5ｍ×南北2.2ｍである。杭径４～６㎝で、残存長0.6～0.8ｍ程のほぼ均質な杭を使用している。ＳＲ７から水を引き込むために基盤が粗砂層であるため集中的に打たれたようである。

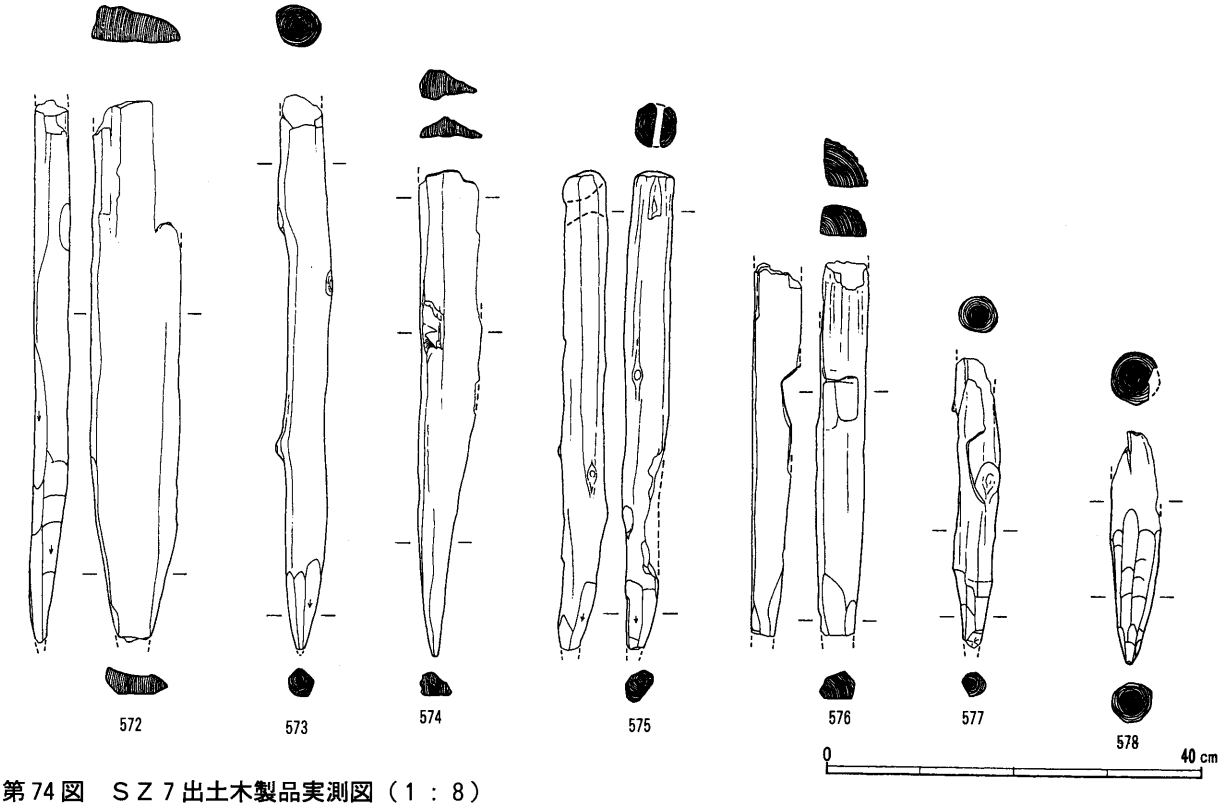
**出土遺物**　杭（572～578）は、板材を加工した転用杭（572・574）や自然木の先端を削った丸杭（573・575・577・578）のほか、576は自然木を四分割した面に抉り込みがみられる。

**ＳＺ８**（第75・76図・ＰＬ－24）

河道ＳＲ７の中央部に河道に直交するように打たれた杭列である。護岸施設ＳＺ７の西から続く河道内に作れた一連の施設で、河道ＳＲ７から水を取り入れるために河道内に打たれた堰ような施設であったと考える。杭列は河道内に一列のみであった。その検出した高さは河床から１ｍ程浮いた状態（標高




**第73図　ＳＺ７実測図（１：40）**

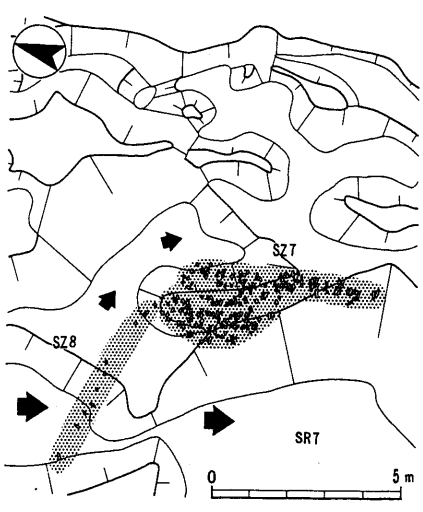



第74図　ＳＺ７出土木製品実測図（１：８）

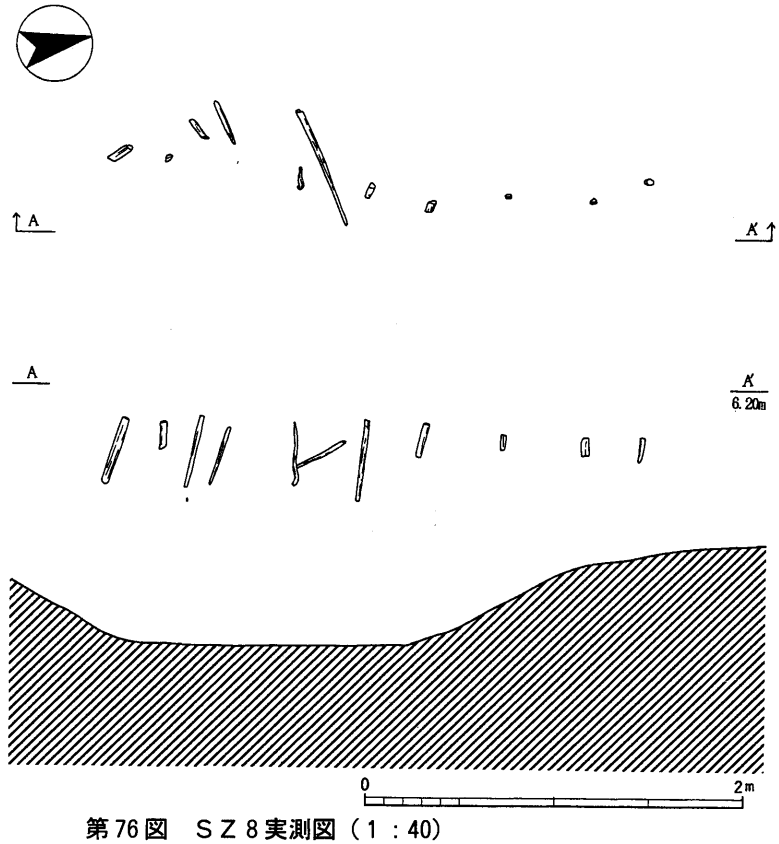
6.0ｍ程）であった。杭径３～８㎝、残存長0.2～0.9ｍ程である。

ＳＲ８（第77～83図・ＰＬ－21・54）

Ｄ地区中央で検出した河道である。河道幅7.0～14.0ｍ、深さ27～130㎝程である。東側でＳＲ８とＳＲ９に分流する。分流するところに南北12.0ｍ




第75図　ＳＺ７・８位置図（１：200）




第76図　ＳＺ８実測図（１：40）

×東西13.6m程の広さをもつ部分がある。この部分を以後、「溜り」と呼ぶ。この「溜り」で古墳時代中期前半を中心とする多量の古式土師器と木製品が出土した。また「溜り」には、東側に杭列ＳＺ９が作られ、南西側には溝肩を補強する施設と考えるＳＺ10が作られている。

遺物には、二重口縁壺や直口壺などの壺やく字甕、Ｓ字甕のほか高杯などが出土しており、その中でも高杯の出土が際立って多い。また一木鋤、堅杵、曲柄又鍬などの木製品なども出土している。

**出土遺物**　壺（579～585）は、球形な体部をもって口縁部が直線的に開く直口壺（579）や小型の壺（580）がある。二重口縁壺（581～583）は、口縁部の上段が下段より短い581・582と上段が長い583がある。583は外面をナデ調整して内面は横位に削る。小型丸底壺（584・585）は、ともに扁平な体部をもち、585は口縁部が上方にのびる。

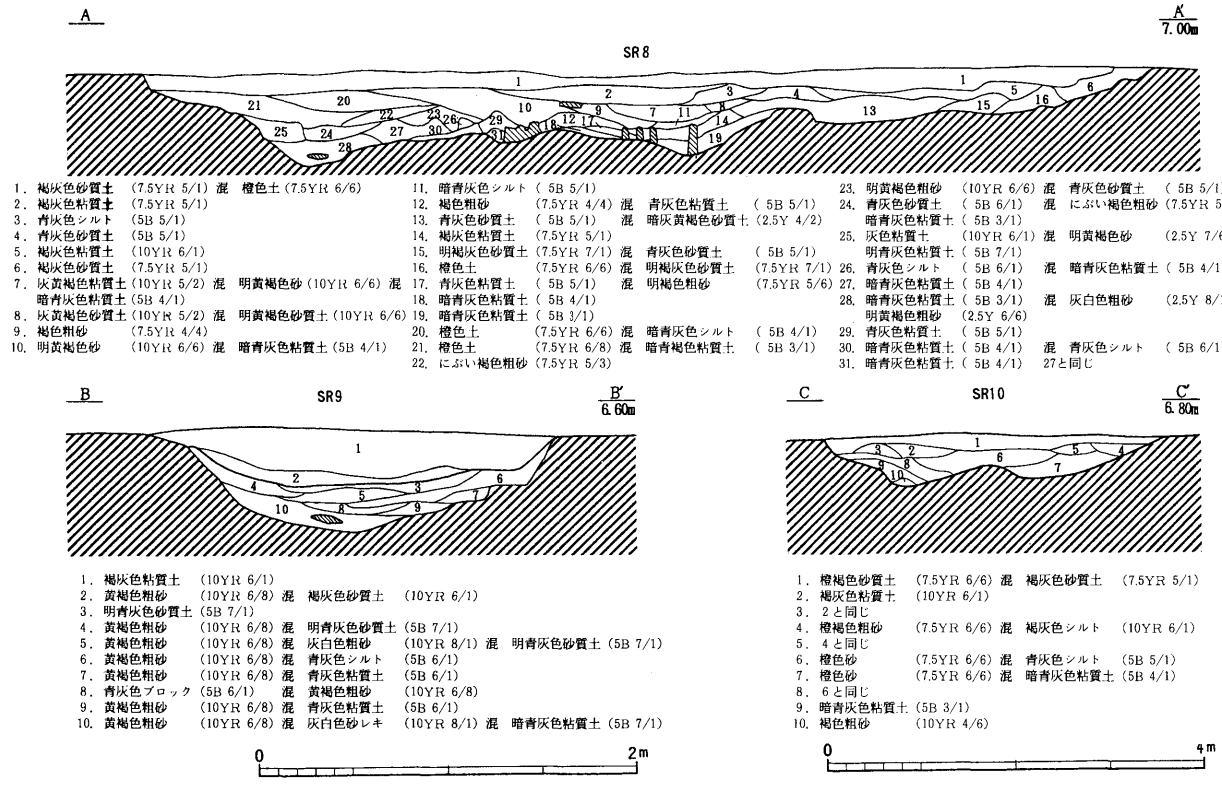
甕（586～597）は、頸部を屈折させ口縁部を丸くおさめるく字甕（586）や山陰系の影響と思われる甕（587）がある。Ｓ字甕（588～597）は、口縁部が肥厚する588～592・594・595はＣ類に属す。593はＣ類ないしＤ類であろう。596・597は脚台部で、脚端部を折り返して、粗いハケメをほどこす。

高杯（598～610）では、脚部の裾端部を上方にまげ円孔がみられる598や直線的に開き外面はヘラミガキ、内面はハケ調整をおこなう599がある。600～604は杯底部と口縁部の稜が明瞭で、脚部が屈折する高杯である。また605～607は杯底部と口縁部の境は不明瞭で緩やかに口縁部にいたり、脚部も緩やかに開く。609・610は丸い杯底部から段をもって口縁部が外反気味にのび、脚部はハの字に開きＣ類に属する。

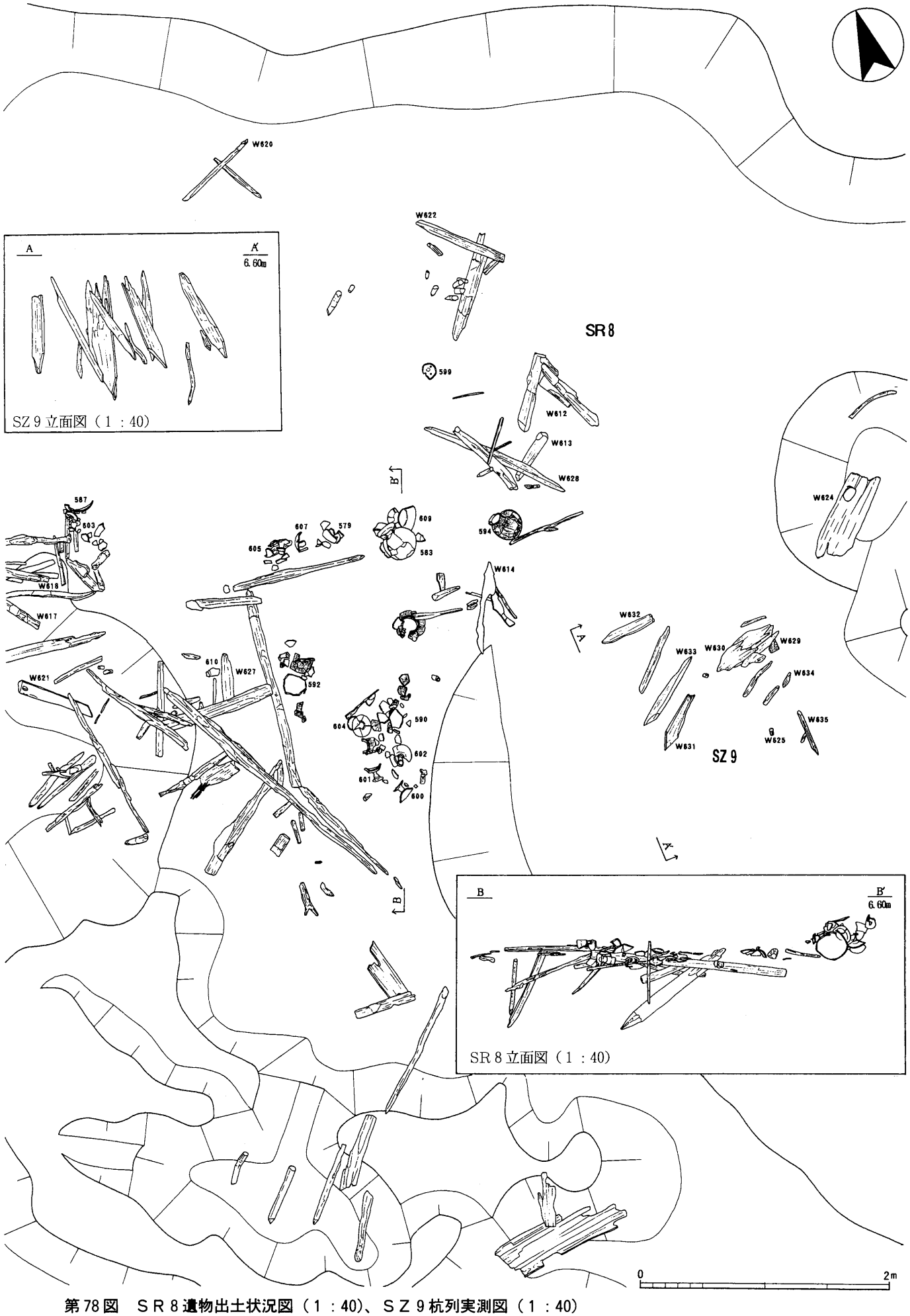
手捏ね土器（611）は、内外面にユビオサエの痕跡をのこす。口径4.3cm、器高3.6cmである。

木製品には（612～614・617・618、620～624、627・628）がある。612は一木鋤で、鋤身のみで柄部を欠く。身の肩は方形につくり、刃先はU字形をなすと思われる。613は竪杵で、一方の搗部と握部のみである。搗部と握部とは段をなさず、搗部の断面形は楕円形を呈している。杵に伴う臼は出土していない。614は曲柄又鍬で、着柄部は断面半月状を呈している。着柄部の頭部には柄を緊縛するための段がみられる。617・618は、建築部材である。617は先端に抉り欠きを2か所つくる。618は垂木である。

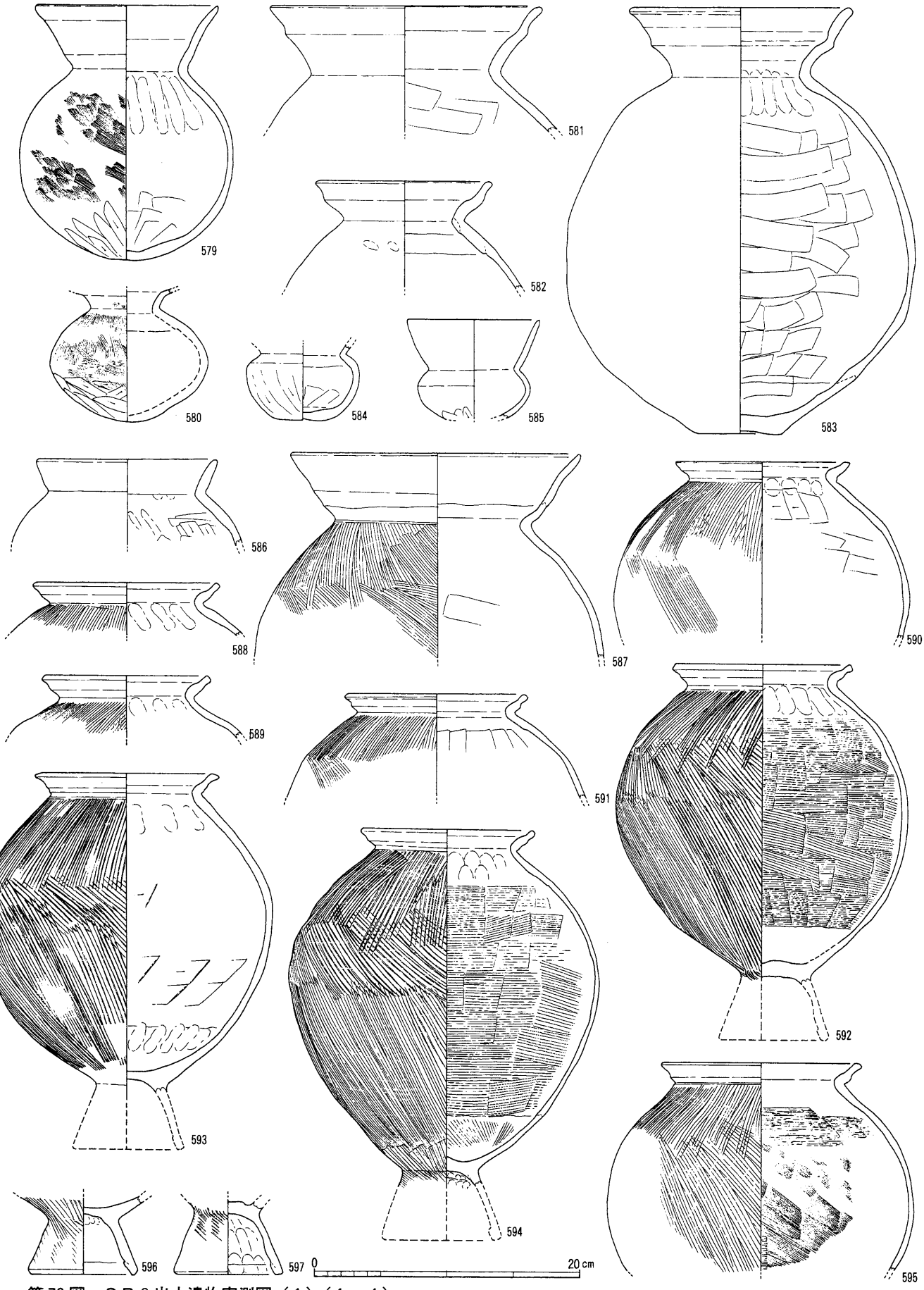
杭（627・628）は、板材を杭に加工した転用杭




**第77図　ＳＲ８・９・10土層断面図（１：80）**




第78図　ＳＲ８遺物出土状況図（１：40）、ＳＺ９杭列実測図（１：40）




第79図　ＳＲ８出土遺物実測図（１）（１：４）

(627・627) がある。

用途不明品 (620～624) には、全面に削りをほどこす620や円孔をもつ板材 (621・623・624) がある。621は建築部材であろうか。622は頭部を削り出したもので、天秤棒であろうか。

**ＳＺ９** (第78・82・83図・ＰＬ－24)

河道ＳＲ８のＳＲ20側に２列に作られた杭列である。長さ1.4m程、幅0.8m程である。杭列は前後８本程がのこる。ＳＲ10への流れを保護するための護岸施設と考えられる。

**出土遺物**　杭 (625・629～635) は、625は自然木を加工した杭で、629～635は角材の先端を加工して転用杭として利用したものである。

**ＳＺ10** (第81・82・84図)

河道ＳＲ８中央「溜り」の南西で検出したものである。草木質の敷物状遺構で、この敷物状遺構を４～５本の杭で敷物の下に打ち込んで固定している。敷物状遺構の残存する範囲は1.6m×1.1～0.6mである。この遺構の河道側で杭や板材などが多く出土したが、敷物状遺構を保護するためにこれらの杭あるいは板材を利用していたとも考えられる。ＳＲ８の南から流れていた溝に伴うと考えられ、その「溜り」側に作られた溝肩を補強する施設と考える。

**出土遺物**　杭 (615・616・619・626) は、先端部に出ホゾをつくる615がある。616は、先端部とその下位に抉り欠きをつくる。626は、自然木を加工した丸杭である。

用途不明品 (619) は、木口の隅に出ホゾをつくり扉板とみられるが、厚く円孔があるべき箇所を欠損し確かでない。

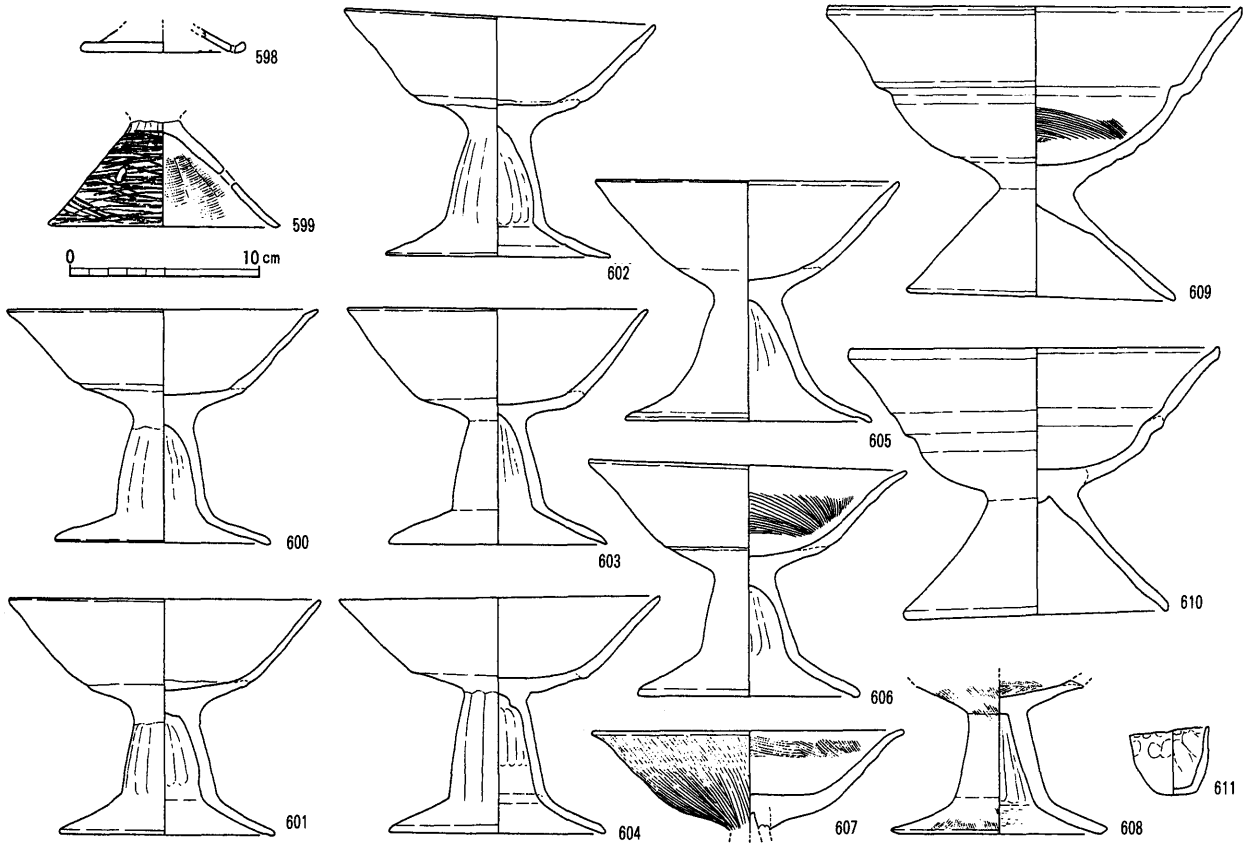
**ＳＲ９** (第77・85図・ＰＬ－21・50)

Ｄ地区の中央東よりで検出したＳＲ８の「溜り」から分流する河道である。幅2.2m、深さ54～68cm程である。幅および深さはほぼ平均している。

遺物には古墳時代中期の小型丸底壺などの土器や図示していないが杭もある。

**出土遺物**　小型丸底壺 (636) は、口径が体部径より大きいもので体部下半をヘラケズリする。637は小型平底壺で、扁平な体部から口縁部は直線的にのび端部外面に面をもつ。

高杯 (638・639) は、杯部の外面をヘラケズリして内面を板ナデで調整する638や脚柱部が膨らみ裾




**第80図　ＳＲ８出土遺物実測図 (２) (１：４)**

部との屈折が弱い脚部（639）がある。

甕（640～644）には、口縁部が水平近く屈曲する小型のく字甕（640）がある。また口縁部が退化して器壁が厚く粗いハケメを施すＳ字甕（641・642）はＣ類に属する。脚台部（643・644）は、脚端部を折り返し、外面に粗いハケメがみられる。

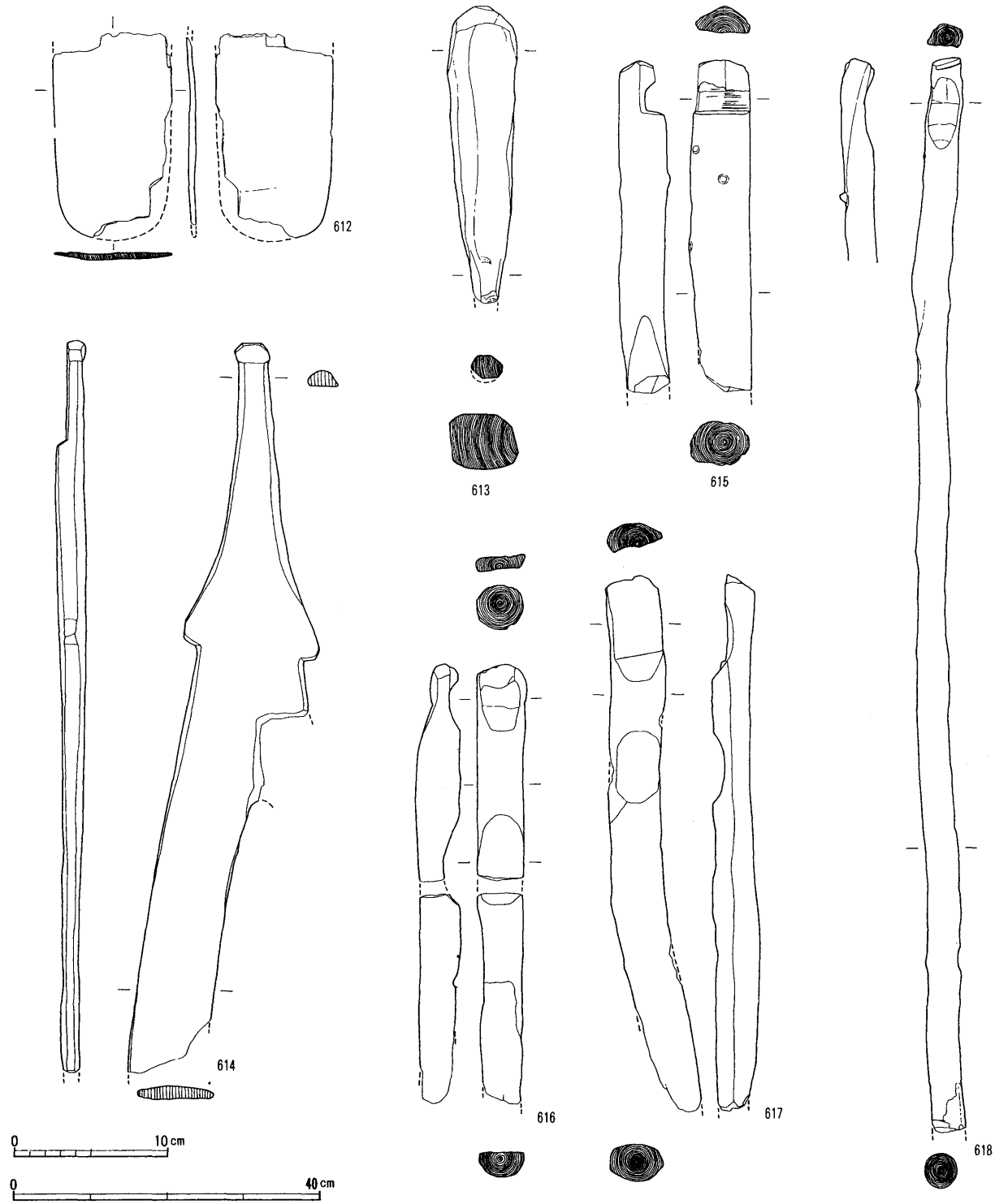
**ＳＲ10**（第77図・ＰＬ－21）

Ｄ地区の中央東よりで検出した河道で、ＳＲ８の「溜り」からＳＲ９とともに分流する。幅90cm程でほぼ平均している。深さは38～98cm程である。

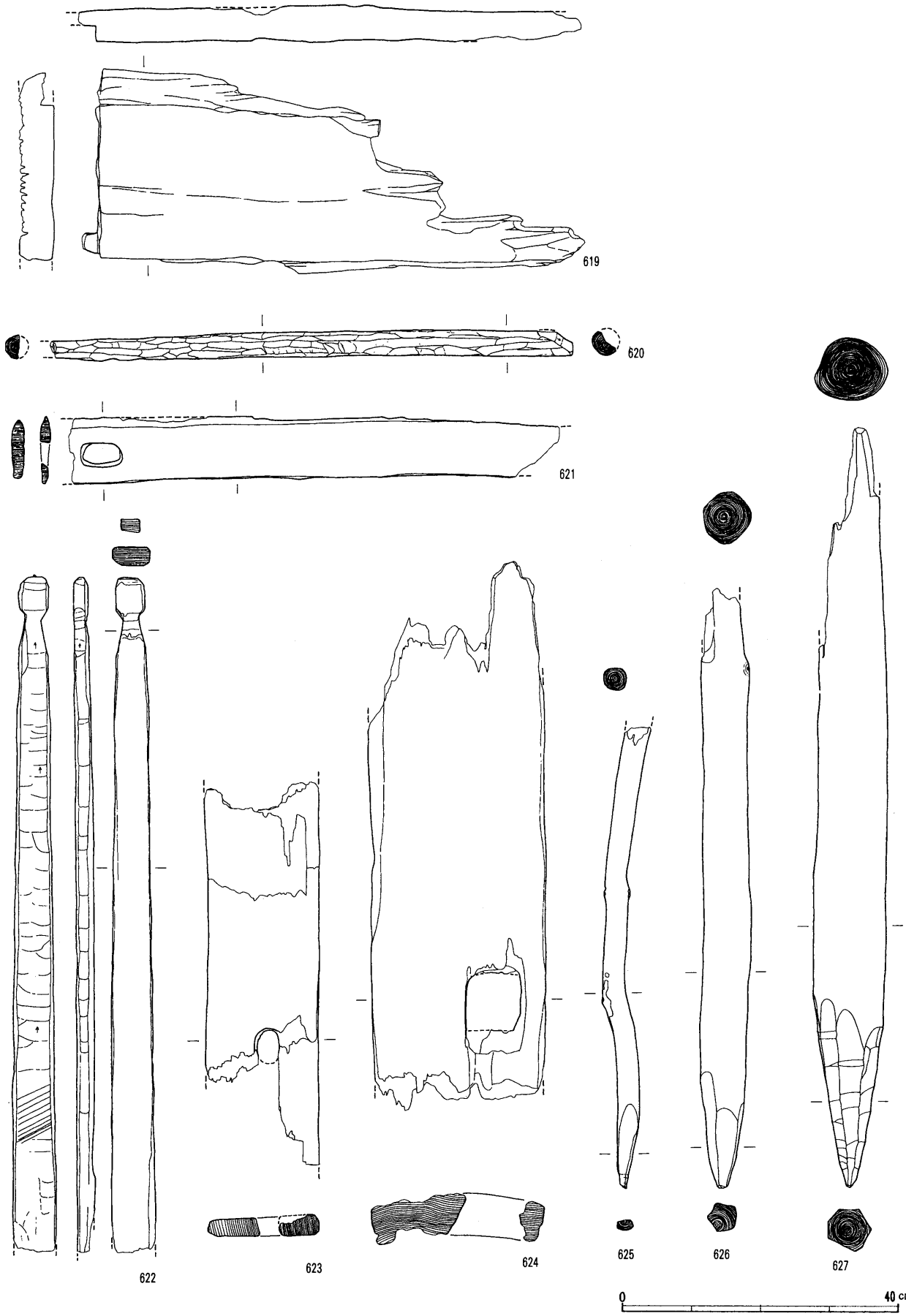
遺物には古墳時代の土師器壺や甕がある。

**ＳＤ12**

Ｄ地区からＥ地区にかけて検出した南北溝である。北西から東に湾曲して流れ、南端は飛鳥・奈良時代




**第81図　ＳＲ８、ＳＺ10出土木製品実測図**（１：８、614は１：４、618は１：16、615・616はＳＺ10、その他はＳＲ８）




第82図　ＳＲ８、ＳＺ９・10出土木製品実測図（１：８、625はＳＺ９、619・626はＳＺ10、その他はＳＲ８）

の河道ＳＲ11に切られる。幅0.5～1.9ｍ、深さ4～59㎝程である。

遺物には古墳時代後期の土師器高杯や須恵器片などが出土している。

**ＳＤ13・14**（第86図）

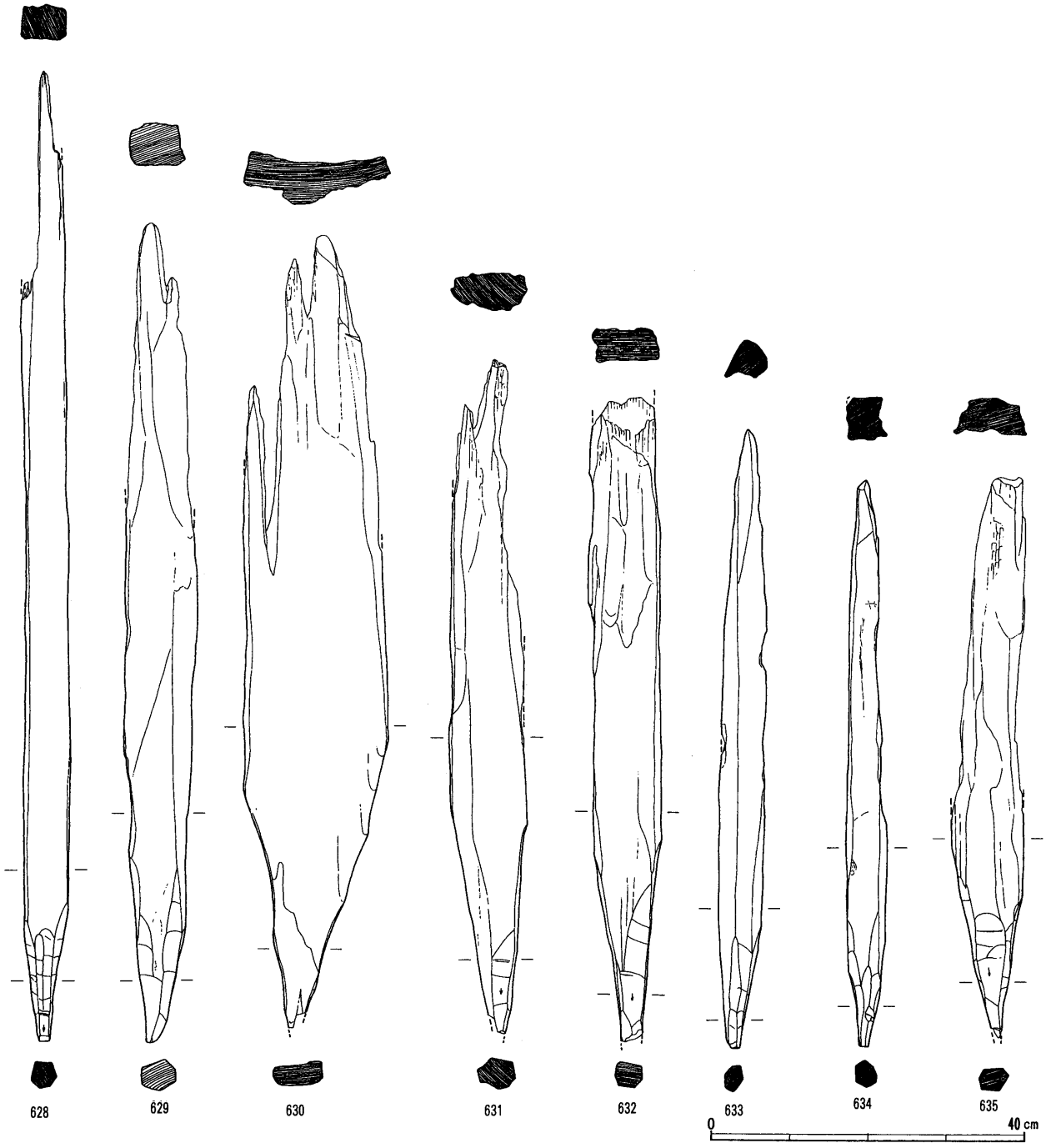
Ｅ地区北で検出した東西溝である。ＳＤ13・14は重複する溝で、切り合い関係からＳＤ13の方が新しい溝と考えられる。ともに西壁から10ｍ程で流れを南東から東に変える。ＳＤ13は溝幅90㎝のほぼ平均した溝幅である。深さは16～29㎝程である。またＳＤ14は溝幅40㎝、深さ30㎝程である。

遺物にはＳＤ13から土師器甕などが出土している。

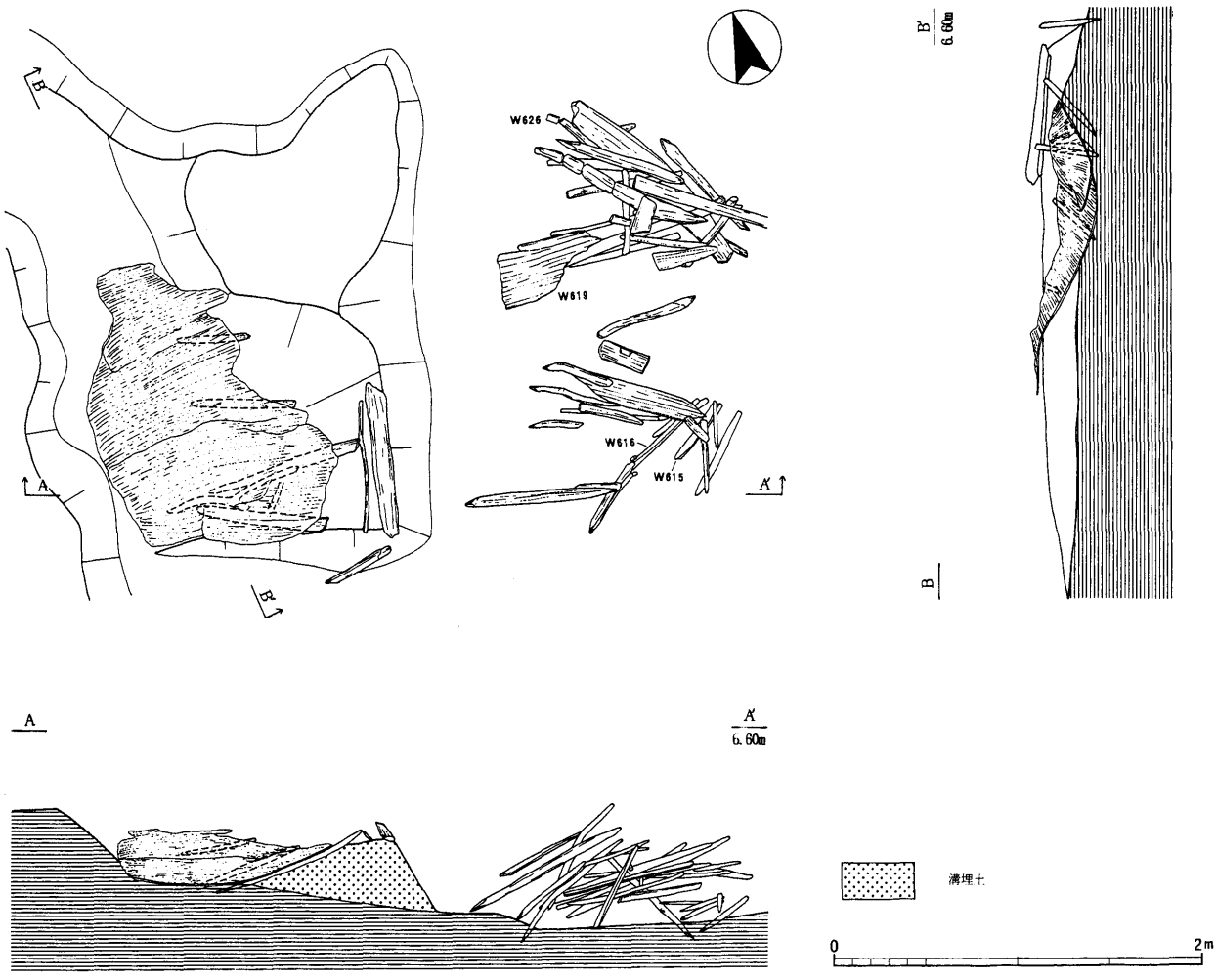
**ＳＤ15**（第86図）

Ｅ地区北で検出した東西溝で、幅40～50㎝、深さ13～27㎝程である。ＳＤ13・14と切り合い関係をもちＳＤ15の方が古い溝である。

遺物には古墳時代後期の土師器壺や高杯などが出土している。




**第83図　ＳＲ8、ＳＺ9出土木製品実測図（1：8、628はＳＲ8、その他はＳＺ9）**




**第84図　ＳＺ10遺物出土状況図（１：40）**

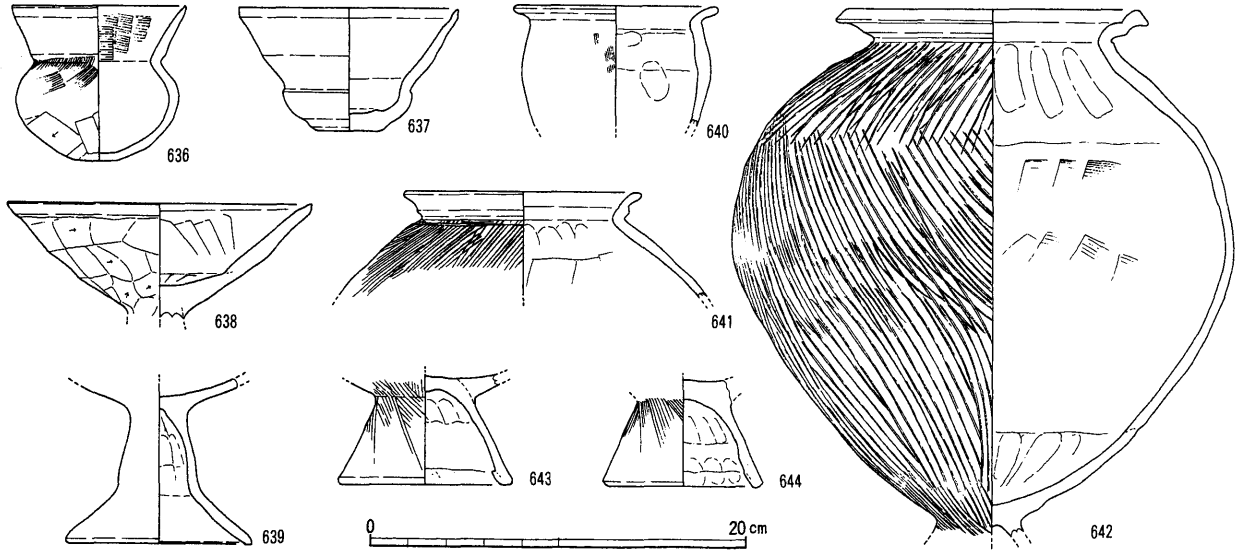
ＳＤ16

Ｅ地区南西で検出した弥生時代の土坑ＳＫ11と切り合い関係をもつ東西溝で、幅30cmの平均した溝である。深さは16～23cm程である。

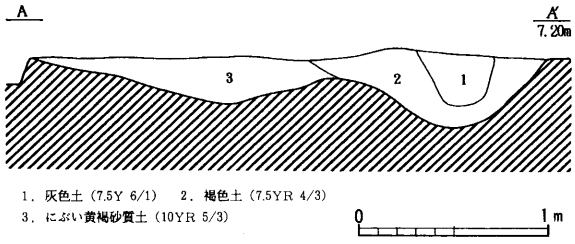
遺物には土師器甕や須恵器甕などがある。

ＳＤ17

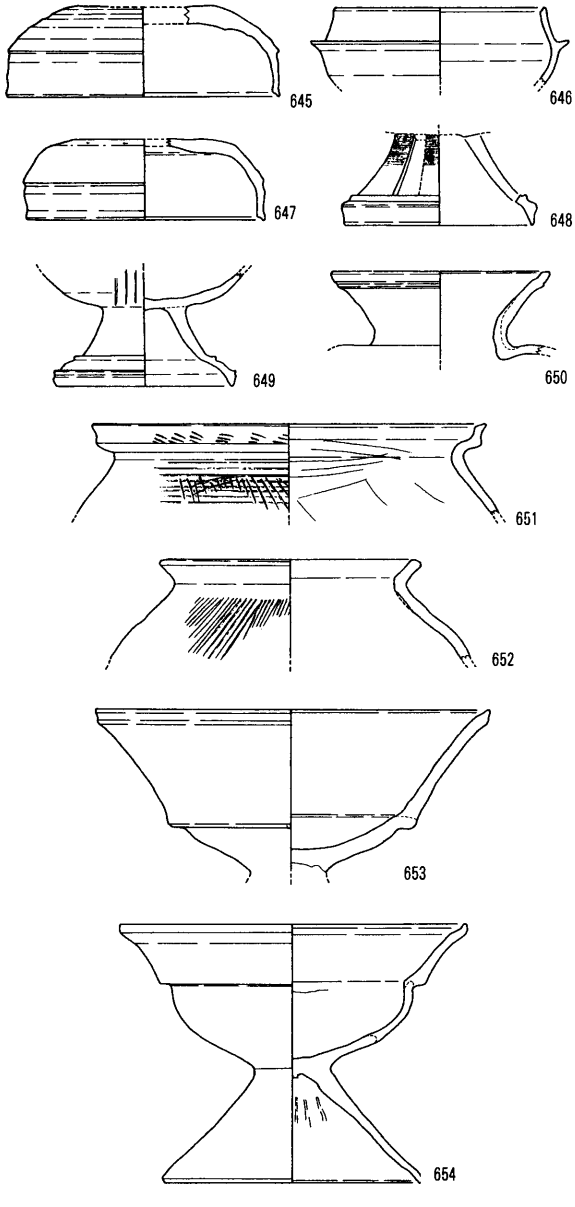
Ｆ地区中央で検出した湾曲する東西溝で、幅60～90cm、深さは７～11cm前後である。




**第85図　ＳＲ9出土遺物実測図（１：４）**




第86図　ＳＤ13・14・15土層断面図（１：40）




第87図　古墳時代包含層出土遺物実測図
（１：４、658・659は１：２）

遺物には土師器高杯などがある。

**5　小穴**（第49・50図・ＰＬ－54）

Pit 2　Ｂ地区ＳＲ３の北辺で検出した径70㎝、深さ51㎝の小穴である。小穴からは底から浮いた状態で木錘（317）が出土した。また小穴の上からはほぼ完形の小型丸底壺（185）が出土しており、祭祀に関係するものと思われる。

**出土遺物**　木錘（317）は、防織具で縦に半裁されているが、丸太材の中央部を削り鼓状にして両端部を削ぎ落としている。

**6　包含層出土遺物**（第87図・ＰＬ－50）

須恵器（645～650）には、杯蓋（645）、杯身（646）、短頸壺蓋（647）、高杯（648・649）、甕（650）がある。これらは田辺編年のＴＫ47型式からＭＴ15ないしＴＫ10型式併行期に相当しよう。

土師器には、（651～658）がある。

Ｓ字甕（651・652）は、口縁端部に刺突文がみられ、体部に斜めハケメで調整した後に横線をほどこす651は、Ａ類である。652は口縁部が退化して体部外面を粗いハケメで調整する。

高杯（653・654）は、丸みをもつ杯底部から段をもって立ち上がり、外反して端部外面に凹面をつくる653、丸みが大きい杯底部から段をもって外反する654がある。ともにＣ類に属する。

椀（655）は、内湾する体部から口縁端部の内面に面をもつものである。底部には木葉痕がみられる。

手捏ね土器（656）は、内外面にユビオサエの痕跡をとどめる。また底部に黒斑がみられる。

ミニチュア土器（657）は、壺を型取ったもので、壺の体部下半である。

石製品には、瑪瑙製の勾玉（658）や滑石製の勾玉（659）がある。659には線刻が施されている。

（宮田）

［註］

① Ｓ字甕の分類については、山田猛『山城遺跡・北瀬古遺跡』三重県埋蔵文化財センター　1994をもとにして、赤塚次郎「土器・土器群の形成」『廻間遺跡』㈶愛知県埋蔵文化財センター　1994および同氏赤塚次郎「松河戸様式の設定」『松河戸遺跡』㈶愛知県埋蔵文化財センター　1994を参考にした。

② 「欠山式」「元屋敷式」などの時期区分については、山田猛『山城遺跡・北瀬古遺跡』三重県埋蔵文化財センター　1994による。

③ 三重県埋蔵文化財センター技師　伊藤偉裕氏の御教示による。

④ 須恵器については、次の文献による。
田辺昭三『須恵器大成』角川書店　1981

# Ⅶ. 飛鳥・奈良時代

この時期の遺構はＥ地区に集中し、主な遺構としては掘立柱建物２棟、井戸１基、溝１条がある。遺構および遺物の出土状況は中央より西部に遍在し、この時期の集落は調査区の西側にその中心があると考えられる。

### １　掘立柱建物

**ＳＢ 27**（第89図・ＰＬ－27）

Ｅ地区の南東部で検出された建物である。西側は部分的に撹乱や後世の遺構に切られているが、桁行３間、梁行２間で南北棟（Ｎ 22° Ｗ）の側柱建物と考えられる。内部には束柱と思われる小穴があり、床張りであった可能性がある。桁行は3.6ｍで柱間は1.2ｍの等間、梁行は3.0ｍで柱間は1.5ｍの等間である。柱掘形は径40～60㎝、深さ９～36㎝で径20㎝の柱痕跡を確認したものもある。

切り合いからＳＲ11より古く、柱穴からは７世紀代の杯身が出土していることから飛鳥時代の建物と考えられる。

**ＳＢ 28**（第89図・ＰＬ－27）

ＳＢ27の南側で南北２間、東西１間分が検出された。柱穴の配置から東西棟（Ｅ 34° Ｓ）の建物の可能性が高いが、東側妻柱は検出できなかった。桁行は2.1ｍ以上、梁行は4.2ｍで柱間は2.1ｍの等間である。柱穴は径50㎝、深さ21～42㎝ほどで、径15～20㎝の柱痕跡がほとんどの柱穴で確認できた。

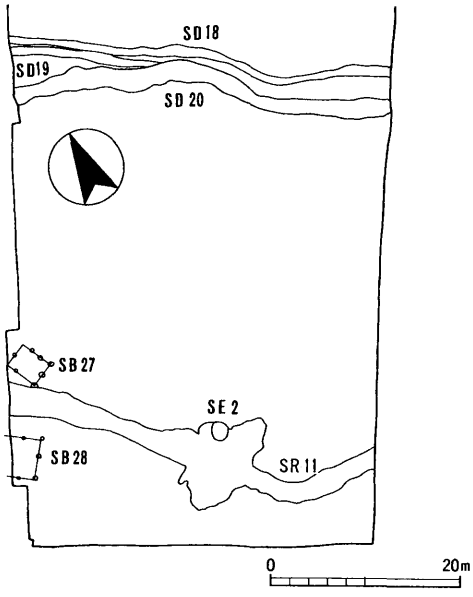
柱穴出土遺物は少なく、土師器・須恵器の細片のみで時期決定根拠を欠くが、ＳＲ11との位置関係や柱穴の形態などからこの時期と考えた。

### ２　井戸

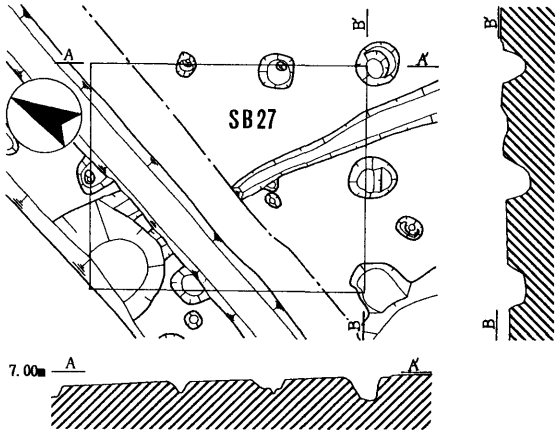
**ＳＥ２**（第90図・ＰＬ－28・51・55）

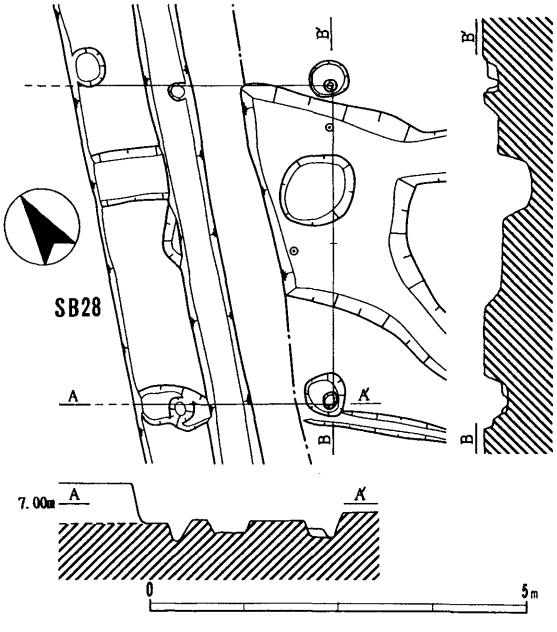
Ｅ地区の南部、ＳＲ11の北岸で検出された。掘形は、長径2.1ｍ、短径1.7ｍ、検出面からの深さ0.7ｍである。断面は逆台形で、中央には内法で一辺0.6ｍの井桁組の井戸枠が１段遺存していた。

井戸枠は腐蝕が進んで不明な部分もあるが、南・北材は両端近くの上端のみを切り込み、東・西材は上下端を切り込んでいると思われる。南北材・東西材の順で組み上げていて、掘形の深さからして本来は更に２、３段はあったと考えられる。

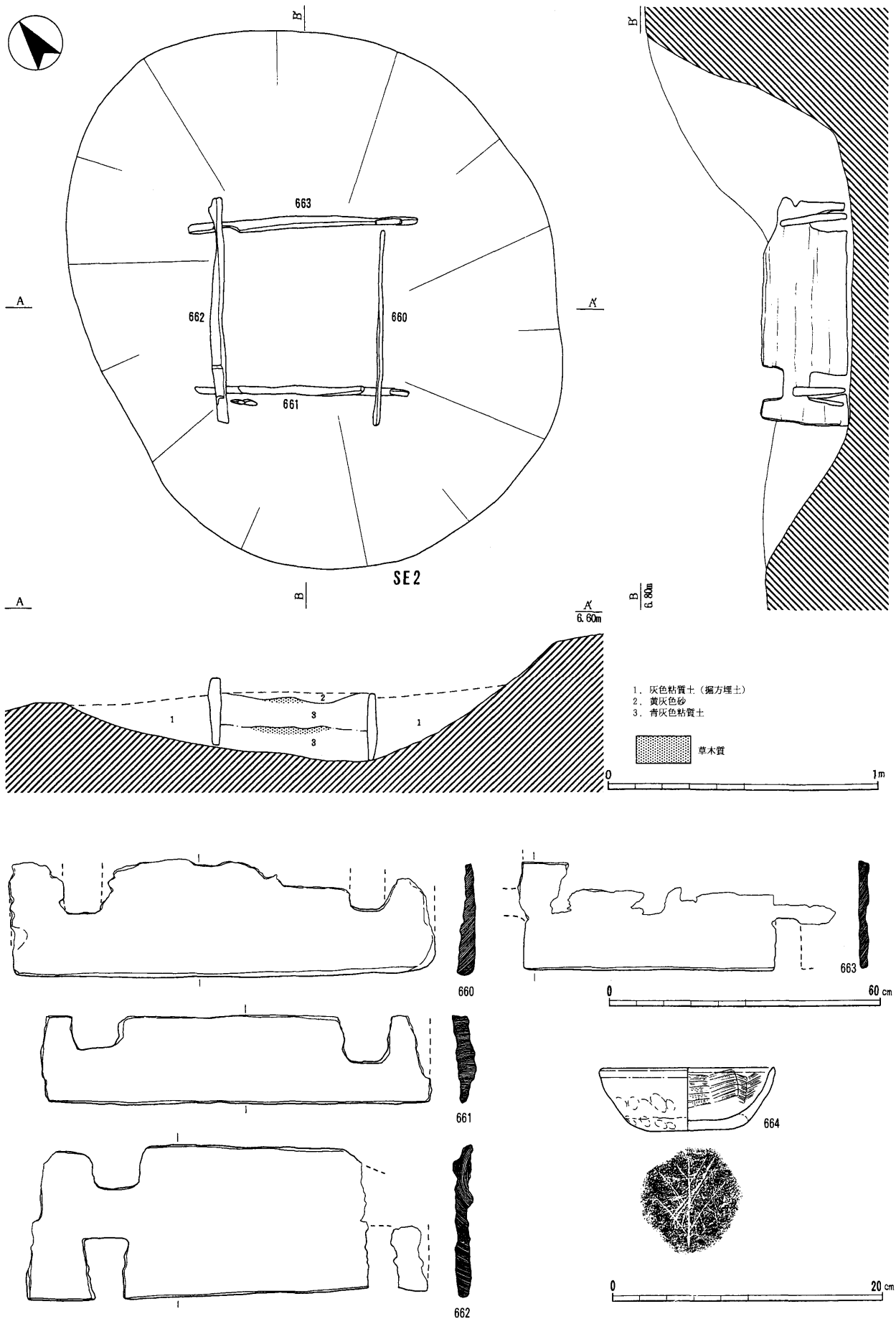



第88図　飛鳥・奈良時代遺構略図（１：800）




第89図　ＳＢ 27・28 実測図（１：100）




第90図　ＳＥ２実測図（１：20）・出土遺物実測図（660～663は１：12、664は１：４）

井戸枠内埋土中には草木質が面的にあったが、自然の堆積と思われる。また、切り合いからＳＲ11中央部北岸の窪地より新しい。

**出土遺物**　遺物には土師器椀・須恵器などがあるが、量は少なく、図示できたのは土師器椀1点だけである。664は茶褐色の粗製の椀で、底部には木葉痕が残り、内面はヨコハケ調整されている。

**井戸枠**（660～663）は全長85～93cm、幅19～34と大きさは一定しない。厚さは最大で4cmである。切り込みの心々距離は61～63cmとほぼ揃っているが、その深さは一定せず、切断面は粗さが目立つ。いずれも腐蝕が進み、表面の加工痕は確認できない。なお、樹種は662がヒノキ科以外は全てスギである。

### 3　自然流路

**ＳＲ11**（第91・92図・ＰＬ－29・51）

Ｅ地区の南部で検出された。緩やかに蛇行し、西から東に流れる自然流路である。幅2.1～ 3.5m、深さ0.5～ 0.9mで約41m確認され、東西端の比高差は0.4mである。中央部は基盤層が軟弱な砂層のため、雨水などの流入により浅い窪地状をとなっている。

切り合い関係からはＳＢ27・ＳＤ12より新しい。ＳＥ2との関係は微妙で、ＳＥ2は北岸の窪地の埋土を切って作っているものの、その存続時期は出土遺物からはかなり重複するものと思われる。

遺物は、飛鳥時代から奈良時代の土師器・須恵器が中心であり、西側ほど多く出土して東側ではほとんどみられない。また、古墳時代後期の須恵器も散見され、古墳時代前期の土師器・弥生時代の石鏃も混入している。

**出土遺物**　665は、打製の凹基無茎式の三角形鏃で、重さは5ｇ、サヌカイト製である。666は、断面三角形の中空の不明品である。一面に剥離痕があり、何かの付属品と考えられる。667は、土師器Ｓ字甕である。口縁部は鋭く屈曲し、肩部外面にはヨコハケが残るが、頸部内面のヨコハケはない。668は、精製の小型丸底壺をもとにした注口土器である。体部下方に円孔を開け、円筒を貼り付け注口部としている。基部の直径は2.8cmである。注口部はその多くを欠くが、大きく反り上がるものと考えられる。体部外面にタテハケ調整の後ヘラ磨きを施す精製品である。669は須恵器杯蓋で天井部と口縁部の境の稜は弱く、口縁端部は丸く仕上げる。また、図示できなかったが、他にも6世紀代と考えられる須恵器が散見される。

土師器椀（670～674）には、内湾する口縁部をもつもの（670・671）と直立する口縁部のもの（672・673）がある。後者はＴＫ217型式期の須恵器杯蓋と形が類似する。胎土は全体的に粗く、底部には木葉痕が残るものが多い。土師器杯（676・677）は精良な胎土のものである。口縁部は底部から緩やかに立ち上がり、端部が内側に丸く肥厚する。外面は底部をヘラ削りし、内面には螺旋状暗文や1段の放射状暗文が施されている。

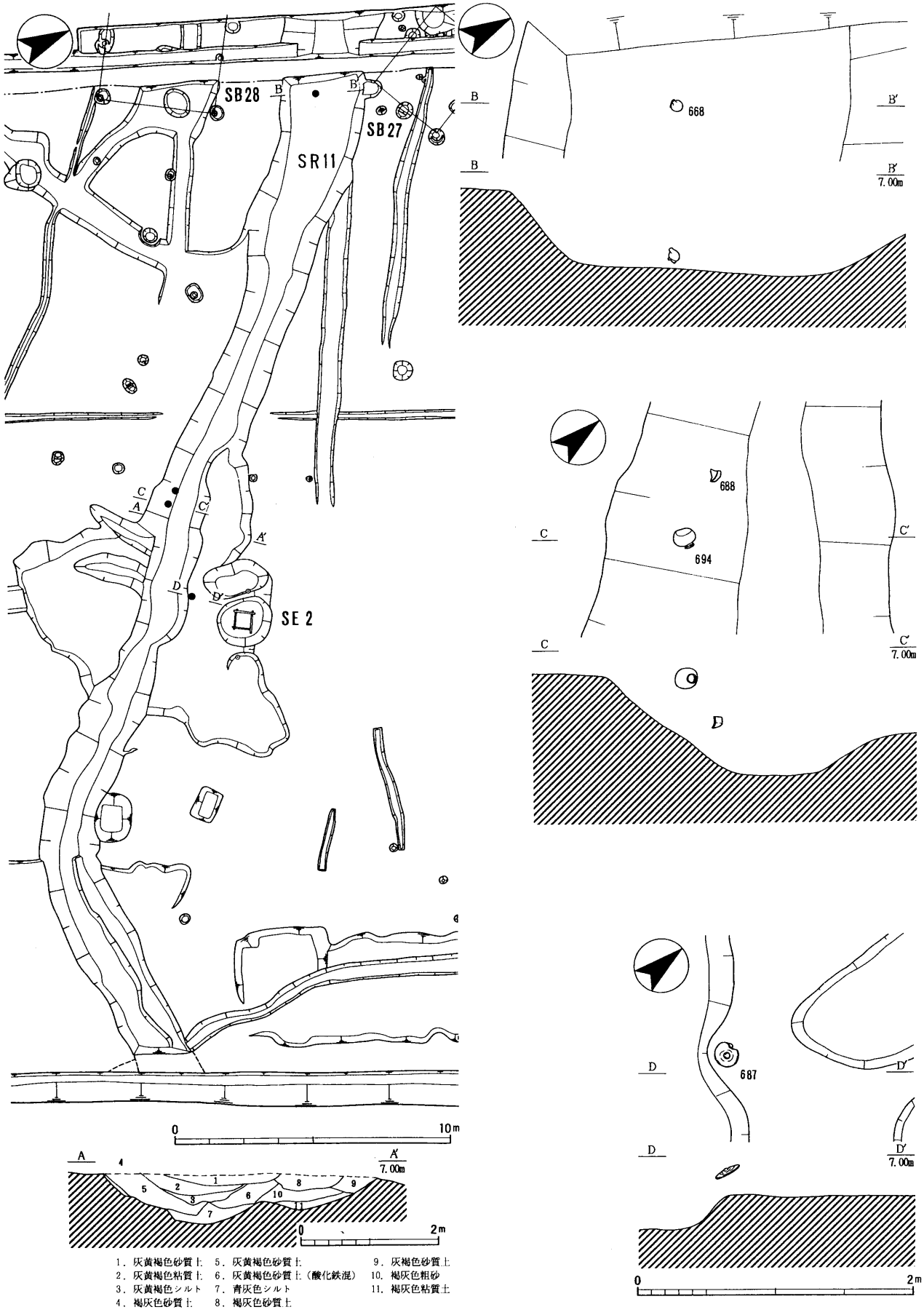
土師器甕は小型のもの（679・680）、と大型のもの（681～683）がある。口縁端部をつまみ上げて面をもつものがほとんどで、口縁部内面の肥厚するもの（681）もある。684は県内では類例の少ない平底の甕である。底部外面をヘラ削り、他はハケ調整である。胎土などが在地のものとは異なり、濃尾方面からの搬入品の可能性がある。土師器高杯（678）の浅い杯部外面には粘土巻き上げ痕が残る。脚部は筒状でタテ方向のヘラ削りを施しているが、面取りは明確でない。土師器甑（675）は底部の小片であるが、径約2cmの円孔が認められる。

須恵器杯蓋（685～687）は、いずれも口縁端部は屈曲し端部に面をもつものであるが、685は口縁端部の屈曲が弱い。685・687のつまみは、断面逆台形状を呈する。687の口縁部内面には「井」と墨書されている。須恵器杯身のうち無高台の688は、直線的に開く口縁部と回転ヘラ削り調整の底部からなる。高台の付く689～691の底部は、いずれも回転ヘラ削り調整している。

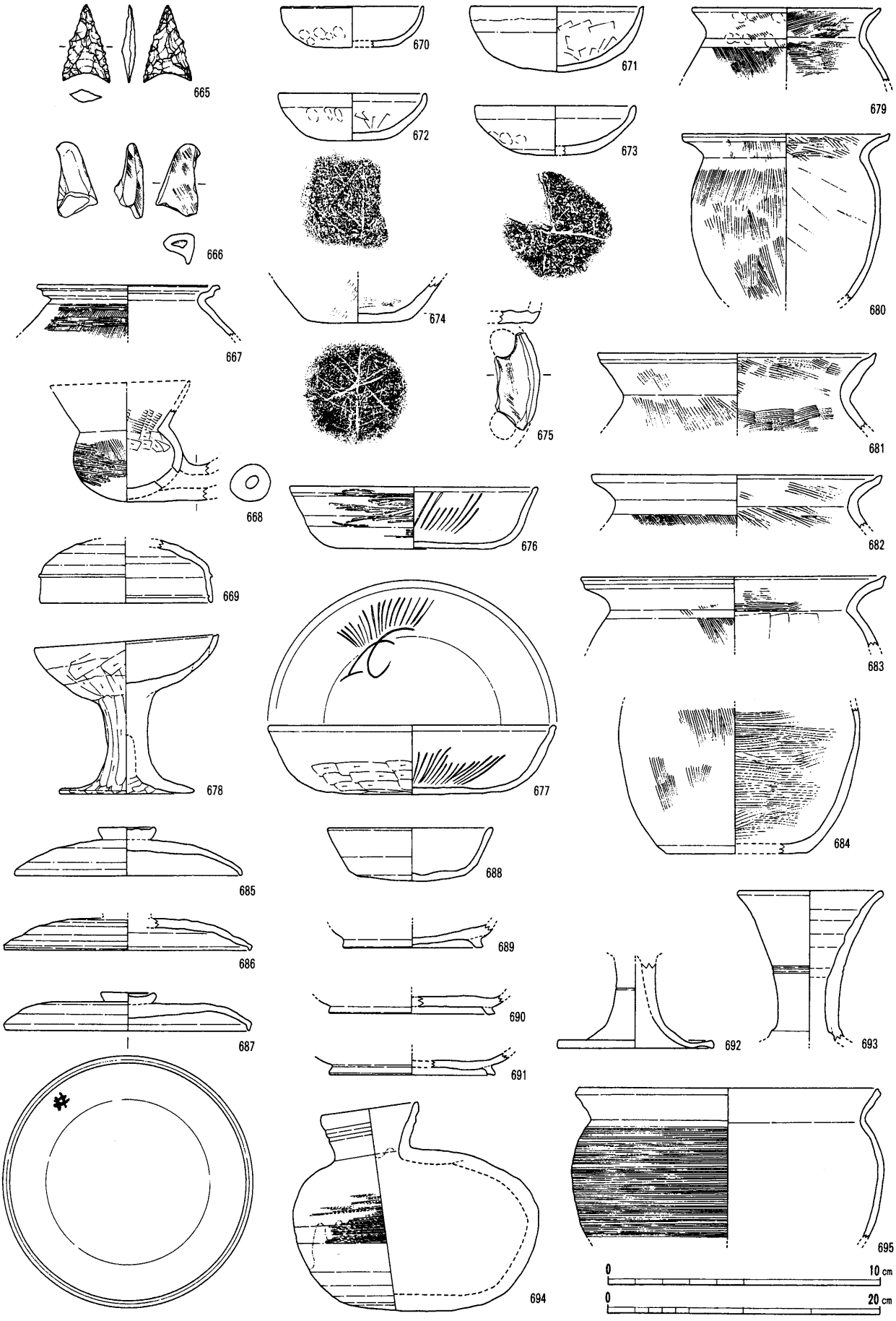
須恵器高杯（692）の脚部は、細い基部から端部が大きく広がり、中位に浅い沈線が巡る。須恵器長頸壺（693）は、頸部中位に浅い沈線が2条巡り、口縁端部はわずかに面をもつ。須恵器平瓶（694）は完形である。短い口縁部には外面に浅い沈線が2条巡る。底部は回転ヘラ削り調整・体部は自然釉が掛かり不明瞭であるが、カキ目調整している。須恵器鉢（695）は短く屈曲する口頸部からなり、体部外面はカキ目調整している。

**ＳＤ18～20**（第93・94図）

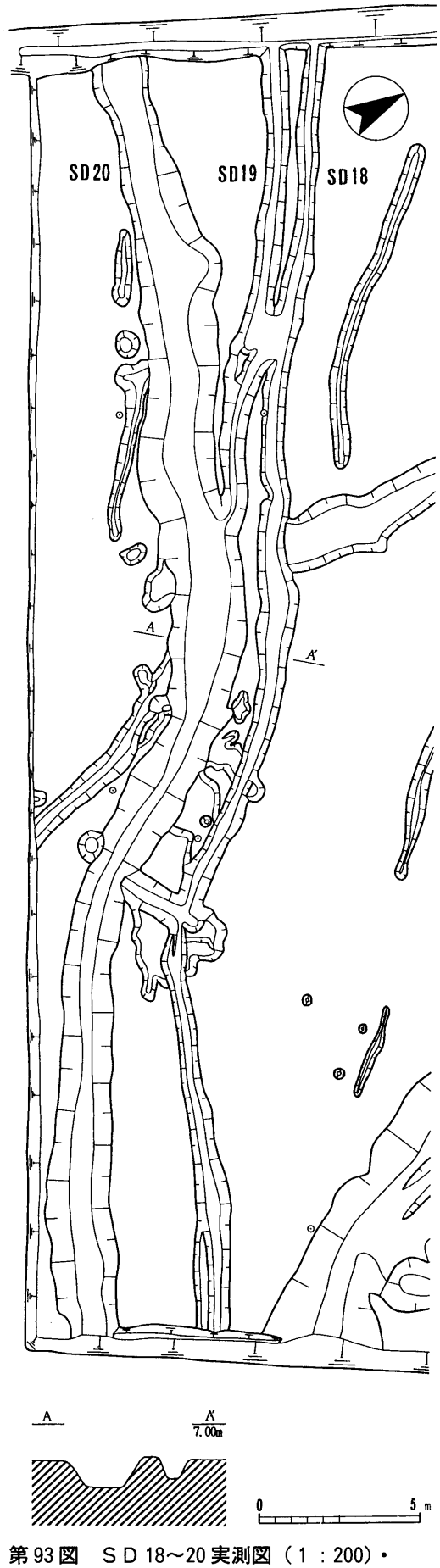
いずれもＤ地区の南部で検出した溝で、緩やかに




**第91図　ＳＲ11実測図（１：200）・遺物出土状況図（１：40）**




第92図　ＳＲ11出土遺物実測図（１：４）、665は（１：２）



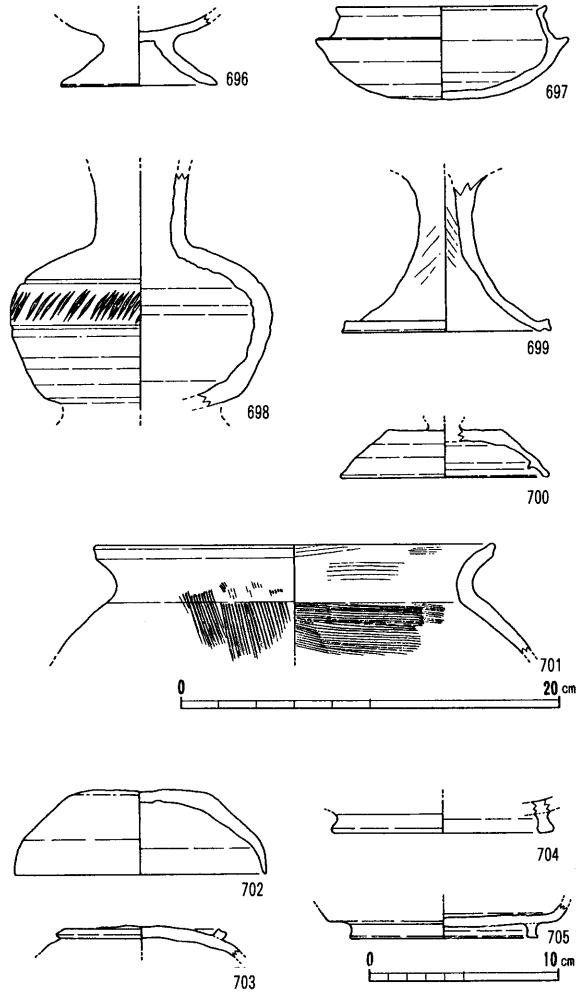

第93図　ＳＤ18～20実測図（１：200）・
出土遺物実測図（１：４）（696～701）

蛇行し、東方向に流下すると思われる。ＳＤ18・20の延長は、その規模などから隣接する津市教育委員会の調査区で検出されている溝23・24と考えられる。いずれもその規模がほぼ一定であることから地形に合わせて掘削された人工の溝と思われ、水路などの用途が推定される。

**出土遺物**　ＳＤ18からは696～699が、ＳＤ20からは700・701が出土している。697はＭＴ15型式に比定でき、長頸壺（698）は肩部に刺突列文がある。須恵器高杯（699）には、透孔はない。須恵器杯蓋（700）は内面の返りは短い。土師器甕（701）は頸部の肥厚は顕著でない。

**4　包含層出土遺物**

702は須恵器杯蓋で、天井部はヘラ切り未調整である。703は底部外面に墨痕が残り、転用硯と考えられる。704の高台は分厚く、703の底部はヘラ削り調整される。　（米山）




第94図　飛鳥・奈良時代包含層出土遺物実測図（１：４）

# Ⅷ. 平安時代以降

この時代の遺構には、掘立柱建物5棟、井戸2基土坑1基、溝19条がある。そのうち掘立柱建物4棟、井戸2基および土坑1基は平安時代末期から鎌倉時代初頭頃で、掘立柱建物1棟は鎌倉時代である。このほかに近・現代の溝1条がある。

建物は、安濃川流域に施行された条里地割の方向にほぼ沿っている。またこの時代の溝も条里の方向やそれに直交するように流れている。

### 1　掘立柱建物

**ＳＢ29**（第96図・ＰＬ－30）

Ｂ・Ｃ地区にまたがって検出された東西棟の建物である。桁行3間（6.45ｍ）×梁行2間（2.1ｍ）の身舎と考え①、北面に3間（6.45ｍ）×1間（2.25ｍ）の北庇と東面に2間（3.75ｍ）×1間（2.25ｍ）の東庇をもつと考える。身舎および庇の梁行・桁行ともに不等間である。棟方向はＮ66°Ｗである。柱掘形は円形を呈しており、径20～70㎝、深さ11～50㎝程でともに不揃いである。柱穴には根石はない。

遺物は土師器細片にとどまるが、棟方向からこの時代とした。

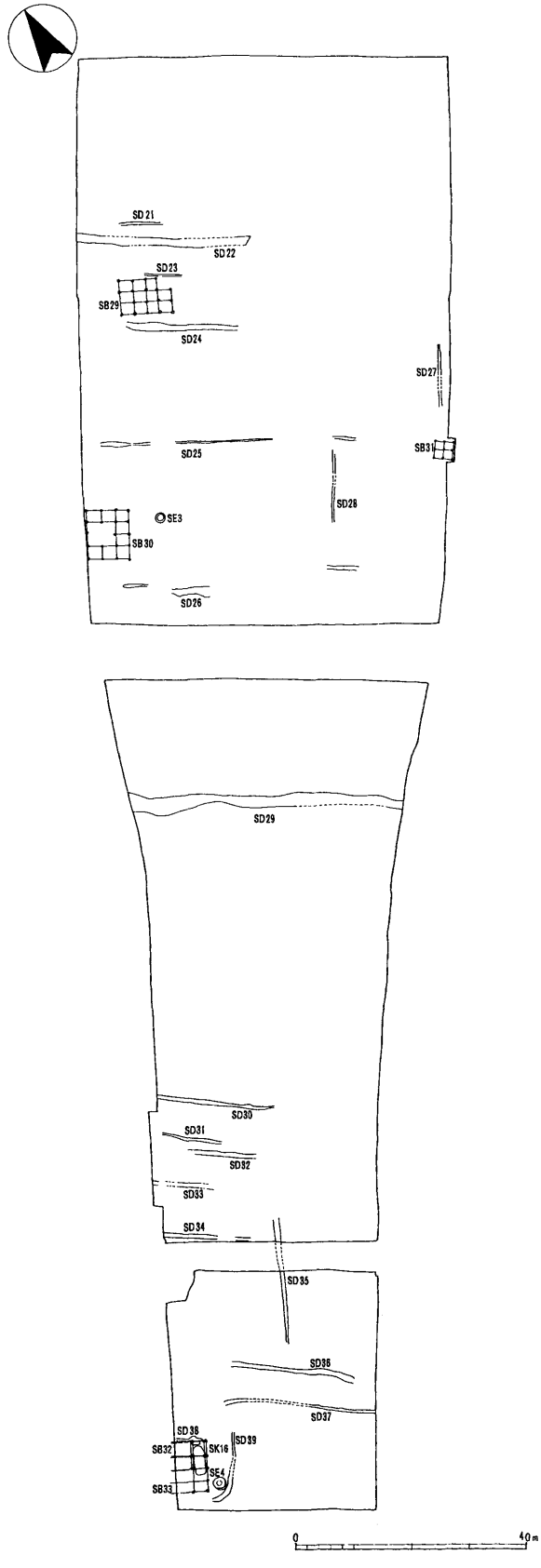
**ＳＢ30**（第97・100図・ＰＬ－30）

Ｃ地区の西壁際で検出した南北棟の建物である。桁行4間（8.35ｍ）×梁行3間（7.17ｍ）で梁行・桁行ともに不等間である。梁行きの東から3列目、桁行きの北から3列目の束柱はみられない。棟方向はＥ26.5°Ｓである。柱掘形は円形を呈しており、径20～30㎝、深さ10～38㎝程で不揃いである。柱穴には検出した19か所のうち8か所に根石が認められた。根石の大きさは、9㎝×23㎝、6㎝×11㎝、12㎝×20㎝ほどで、根石には1～2個の礫が使用されていた。

遺物は土師器細片のほかに陶器椀片がある。

**ＳＢ31**（第98図・ＰＬ－31）

Ｃ地区の東壁際で検出した建物である。桁行2間（3.3ｍ）×梁行2間（3.0ｍ）で、桁行（1.65ｍ）・梁行（1.5ｍ）ともに等間である。しかし桁行と桁行の柱筋は直交せず86°の鋭角である。棟方向は桁行を基準にするとＮ62°Ｗである。柱掘形は円形が中心であるが方形を呈するものもあり、径15




**第95図　平安時代以降遺構略図（1：1,200）**

～30cm、深さ15～61cm程である。根石はない。中央と西の柱列には重複する柱穴もあり、西側が調査区外であるが建替えの可能性がある。

重複する柱穴からは、鎌倉時代前期と考えられる土師器小皿や山茶椀が出土しているため、ＳＢ31は他の建物より新しいと考える。

**ＳＢ32**（第99図・ＰＬ－31）

Ｆ地区の南西壁際で検出した東西棟の建物である。西側は調査区外であるため建物の東部分を検出した。桁行1間（2.4m）以上×梁行2間（4.65m）で梁行は不等間である。東側2間×1間に拡げる前の土坑ＳＫ16を伴う。土坑は建物の東側に位置するもののいわゆる南東隅土坑と考えられる。棟方向はＮ66°Ｗである。柱掘形は円形を呈しており、径25～50cm、深さ19～48cm程である。柱穴には根石はない。

遺物はないが、ＳＫ16からの出土遺物から平安時代末期から鎌倉時代初頭とした。

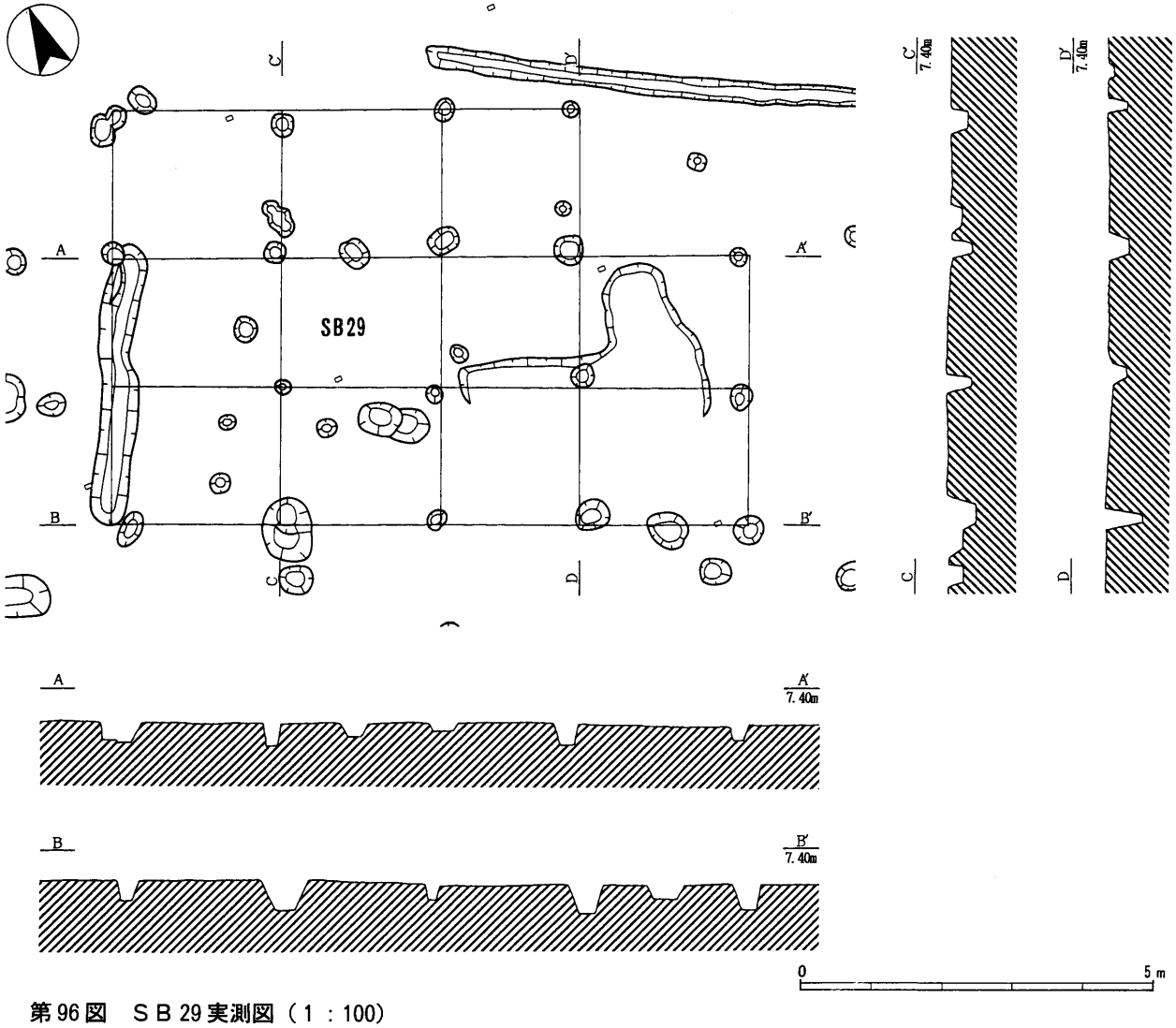
**ＳＢ33**（第99図・ＰＬ－31）

Ｆ地区の西壁際で検出したＳＢ32を2間分を南側に拡げて建替えた東西棟の建物である。西側は調査区外であるため未掘部分である。桁行1間（2.4m）以上×梁行4間（8.7m）で梁行は不等間である。梁行は北から2.4m＋2.4m＋2.1m＋1.8mと考えられ、最も南の1間は柱間が狭く、また、柱掘形も小さいため庇と考える。東側1間分に建物に合わせて南に1間分拡げた3間×1間に土坑ＳＫ16を伴う。棟方向はＮ65.5°Ｗである。柱掘形は円形で径20～45cm、深さ2～51cmを測る。柱穴には根石はない。

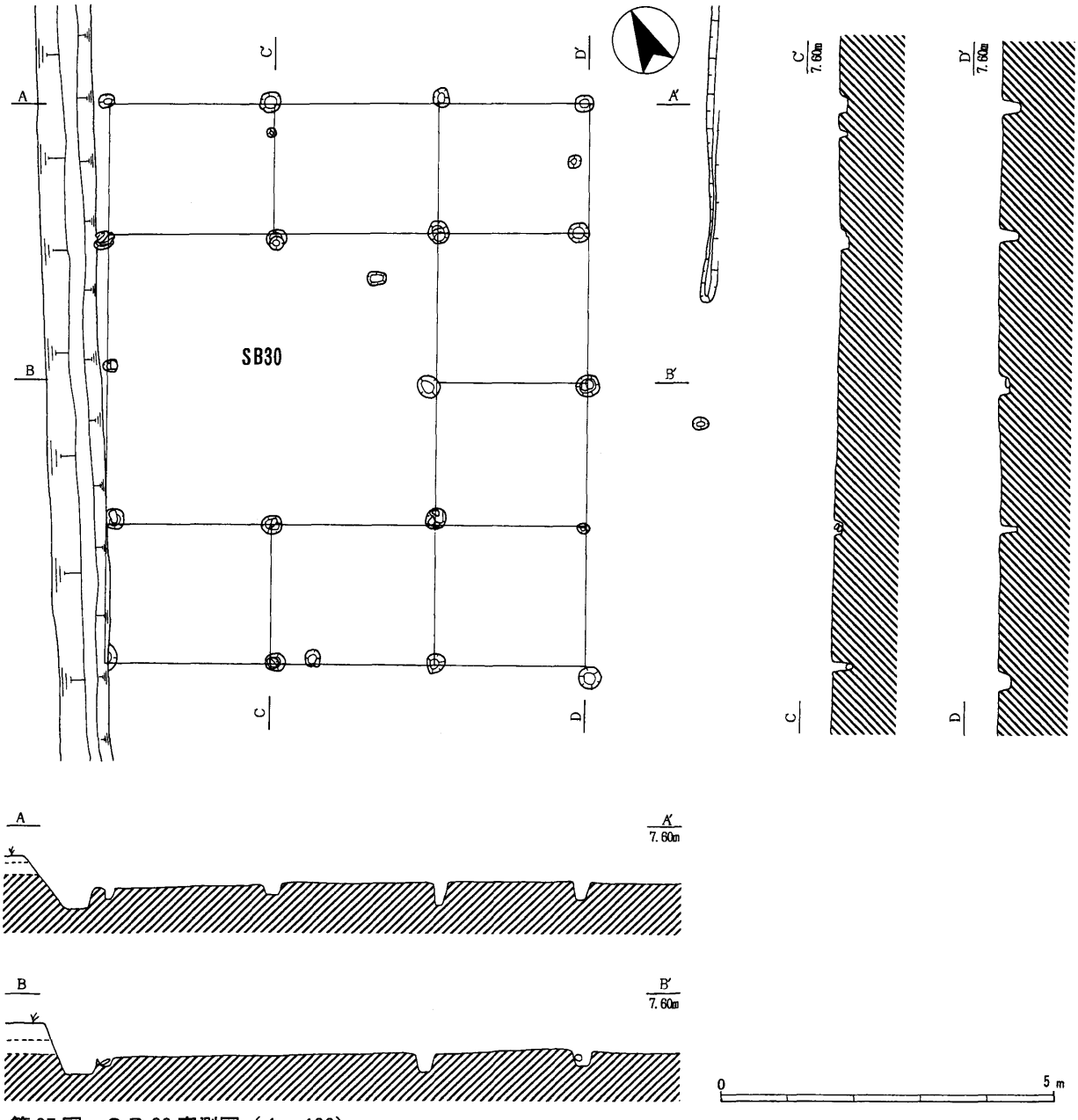
遺物はないが、土坑からの出土遺物には時期幅が少なく平安時代末期から鎌倉時代初頭と考える。

## 2　井戸

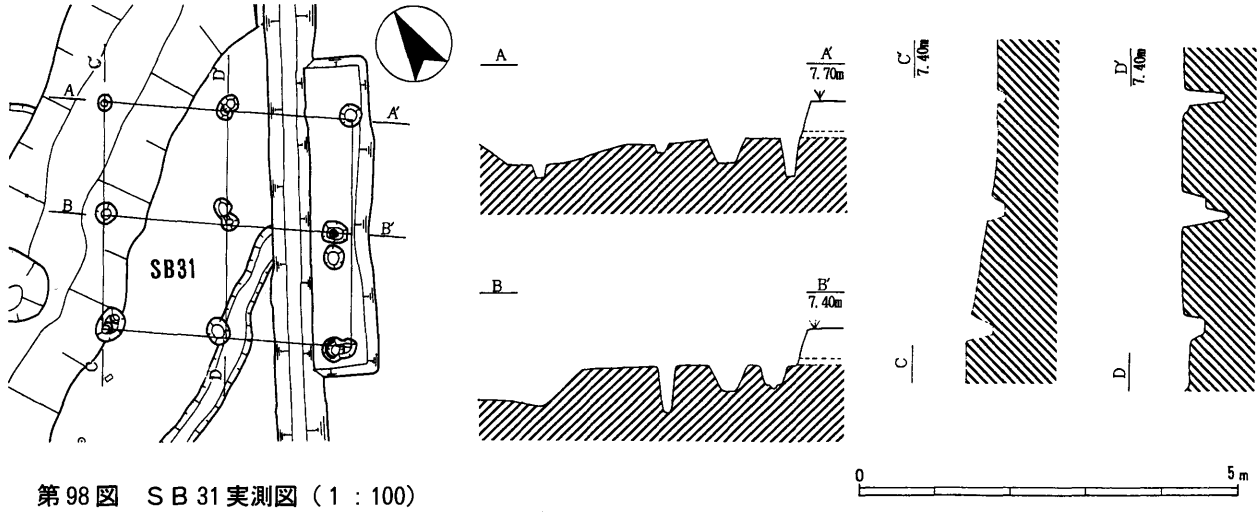
**ＳＥ3**（第101・102図・ＰＬ－32・51・54）




**第96図　ＳＢ29実測図（1：100）**




第97図　ＳＢ30実測図（１：100）



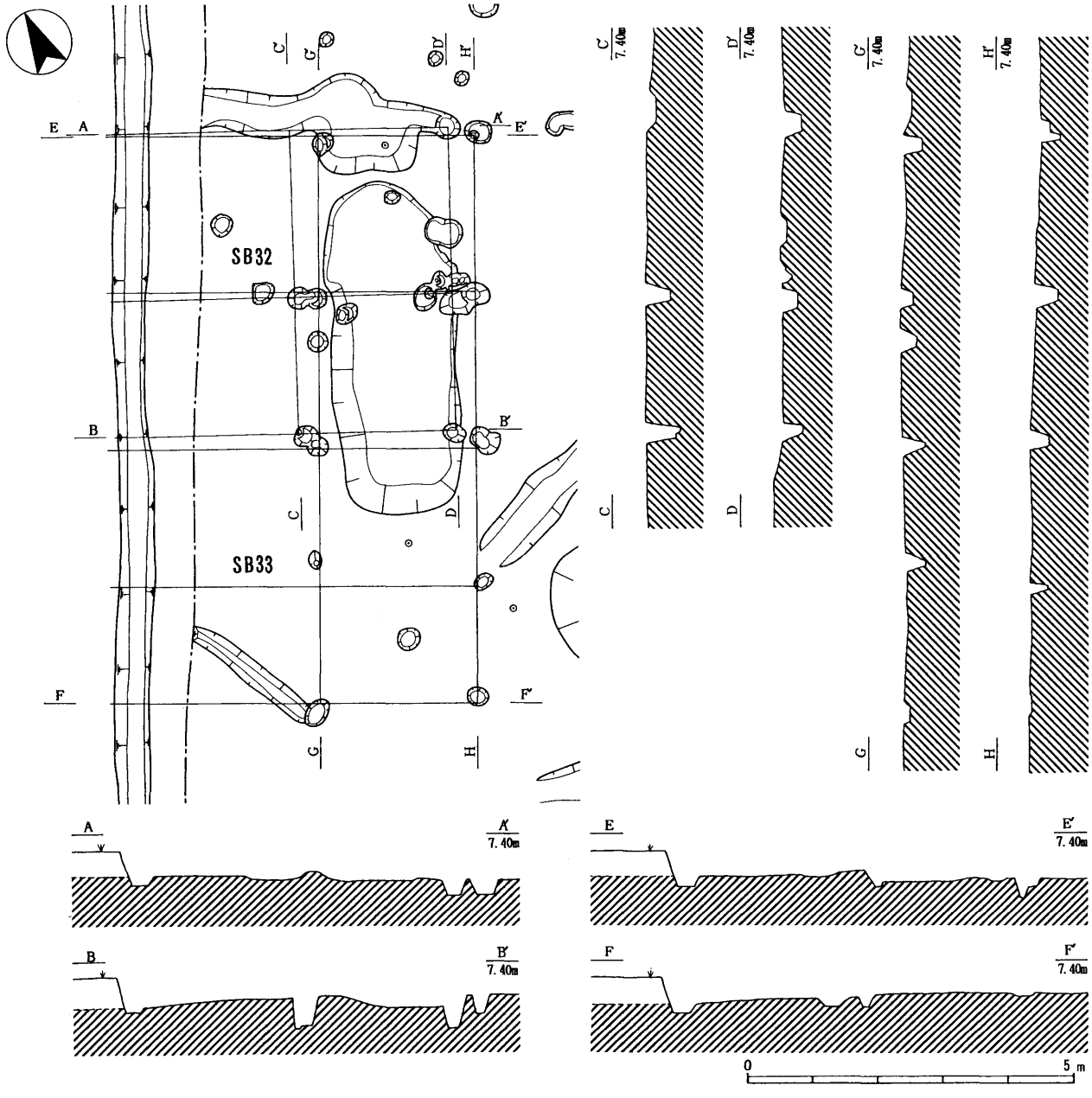

第98図　ＳＢ31実測図（１：100）

C地区の南西で検出した素掘りの井戸である。SB 30に伴う井戸と考える。平面形態はやや楕円形である。規模は1.7m×1.6m、深さは1.1mを測る。井戸底中央は径65cm、深さ40cm程の窪みになっていた。井戸内には曲物が3段に組まれていた。上段の曲物はその上部が腐食が著しいくかなり歪んでいた。径は92～98cm、幅50cm程であった。曲物の間には11cm×11cm、21cm×11cm、9cm×7cm等のヘギ板[2]が縦に数枚挟まれていた。また曲物には厚さ0.5cm程のタガが3段に巡っていた。タガの幅は上位は腐食のため不明。中位の幅が13.5cm、下位が10.0cmであった。

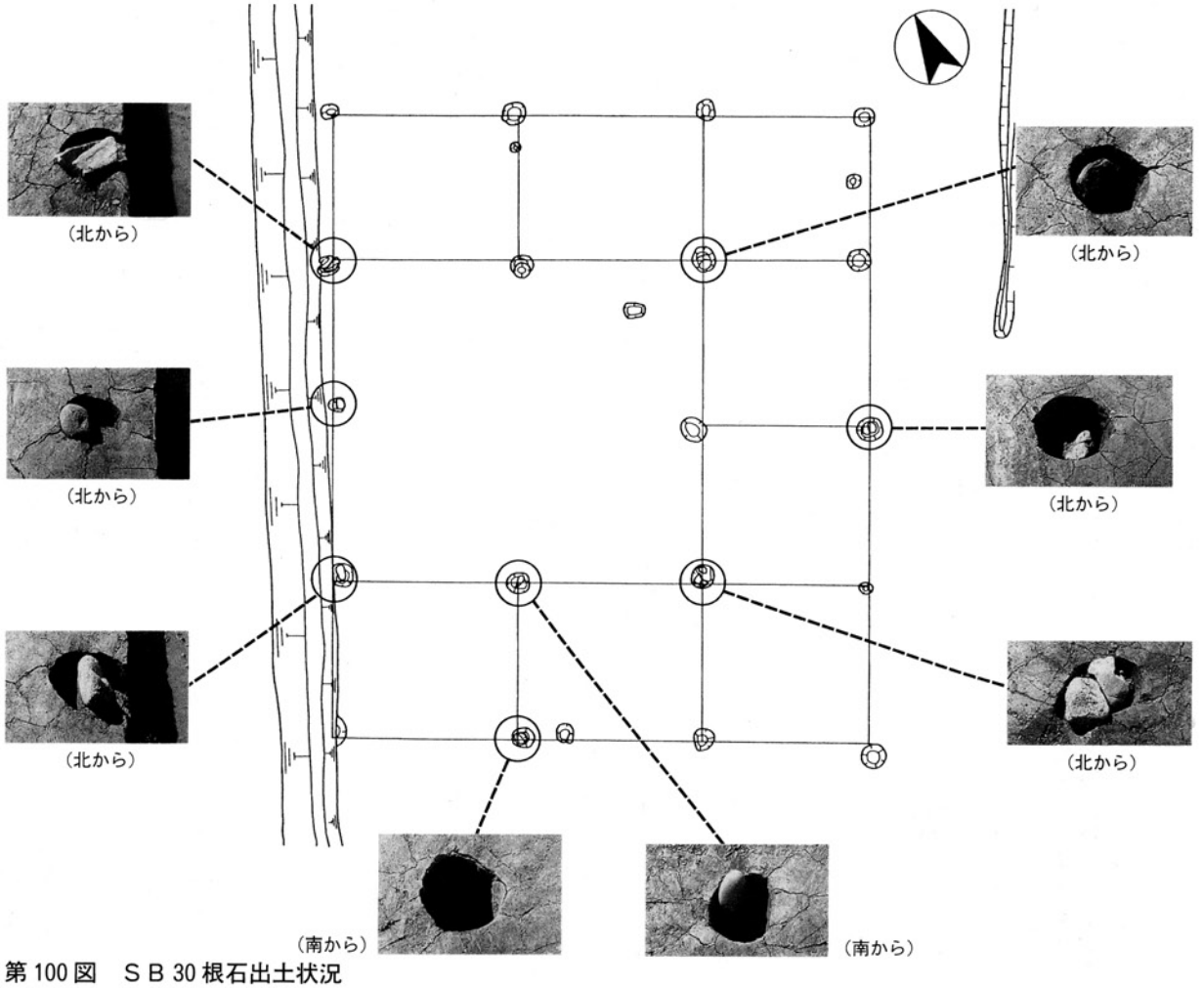
遺物には、掘形から底より60cm程浮いた状態で陶器椀（708）、いわゆる山茶椀がほぼ完形で出土した。椀は転倒した状態で出土しており、井戸祭祀の際に投げ込まれた可能性がある。また曲物内からは土師器小皿や陶器椀片などが出土している。平安時代末期から鎌倉時代初頭と考える。

土師器小皿（706）は、口径7.5cm、器高1.5cmで、口縁部はヨコナデ、内面はナデ、底部外面はユビオサエのみである。

陶器椀（707・708）は、口径15cm程で、口縁部のヨコナデが弱い707がある。708は口径17cm程で底部は回転糸切りの後に断面逆台形の高台を貼り付ける。口縁部は強いヨコナデにより外反する。ともに渥美・




第99図　SB 32・33実測図（1：100）




**第100図　ＳＢ30根石出土状況**

湖西型の第5型式[3]に相当しよう。

曲物（709・710）は曲物の側板である。709が中段、710が下段出土の曲物である。ともに下半部を欠いているために釘痕跡は不明である。709は径47.5cm、710の径は40.4cmである。709の上部には高さ8.7cm、厚さ0.3～0.4cmのタガをめぐらせ、タガと側板をそれぞれを樺紐で閉じた後に二つを合わせて1カ所で閉じる。

**ＳＥ4**（第103・104図・ＰＬ－33・52）

Ｆ地区の南西で検出した素掘りの井戸である。平面形態はほぼ円形で、規模は2.1m×2.4m、検出面から0.8m程下で湧水が激しくなり調査をやめざるをえなかったが、断割りの結果、検出面から1.1m程下で底になることが判明した。井戸中央には円形を呈する径約0.9m、深さ80cm程の枠痕跡が認められた。

遺物には、掘形からロクロ土師器小皿（711）、井戸枠内から土師器鍋（715）・陶器椀（712）などが出土している。平安時代末期から鎌倉時代初頭と考える。

ロクロ土師器小皿（711）は、口径9.2cm、器高1.8cm、無高台で底部には回転糸切り痕がみられる。ほぼ完形で平安時代末期頃の所産である。

土師器鍋（715）は、口縁部を内側に折り返し端部上面に面をもつ。体部外面はナデで調整し、体部内面には粗いハケメをほどこす。

陶器椀（712～714）は、外反する口縁部をもち器高に対して口径が大きく渥美・湖西型の第4型式から第5型式に相当する。

### 3　土坑

**ＳＫ16**（第105・106図）

建物ＳＢ32・33に伴ういわゆる南東隅土坑である。建物ＳＢ32の建替えとともに土坑も南へ1間分拡張されている。平面形は北辺は楕円形状、南辺は隅丸方形状を呈しており、規模は長軸5.1m×短軸1.9m、深さ4～18cm程である。旧・新土坑ともに中央部がやや窪む。旧土坑には炭化物を含む層が

見られ、新土坑には中央やや北側に焼土が見られた。

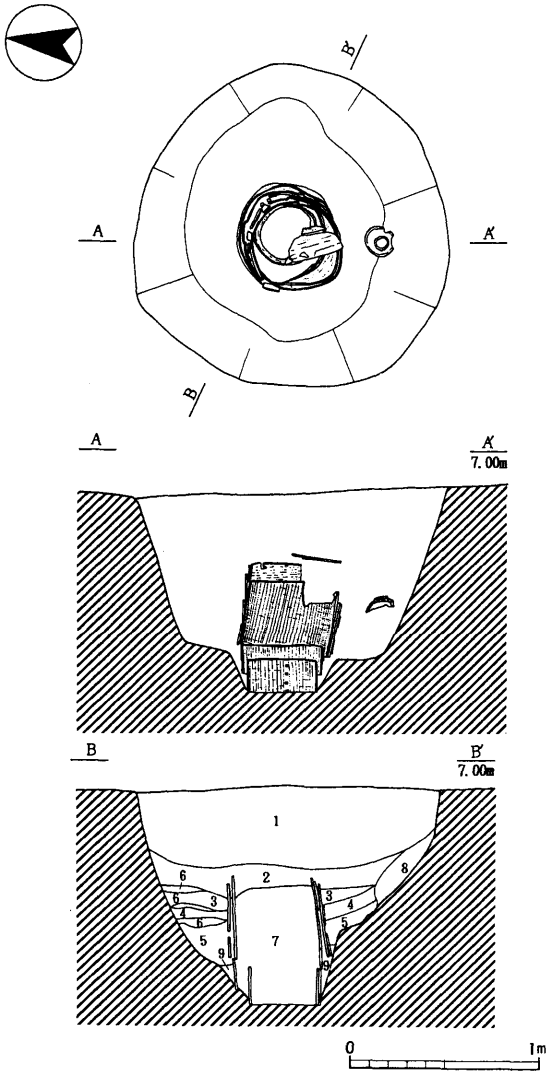
遺物には土師器小皿・鍋、陶器椀などがある。これらから平安時代末期から鎌倉時代初頭と考える。

土師器小皿（716）は、口径10.0cm、器高1.9cmで、底部はユビオサエでのみである。外面に煤が付着する。ほぼ完形で井戸掘形から出土した。

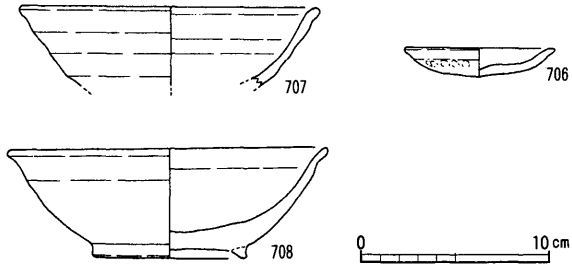
土師器鍋（717）は、口縁部の細片であるが、口縁端部を折り返して内傾する面をもつ。

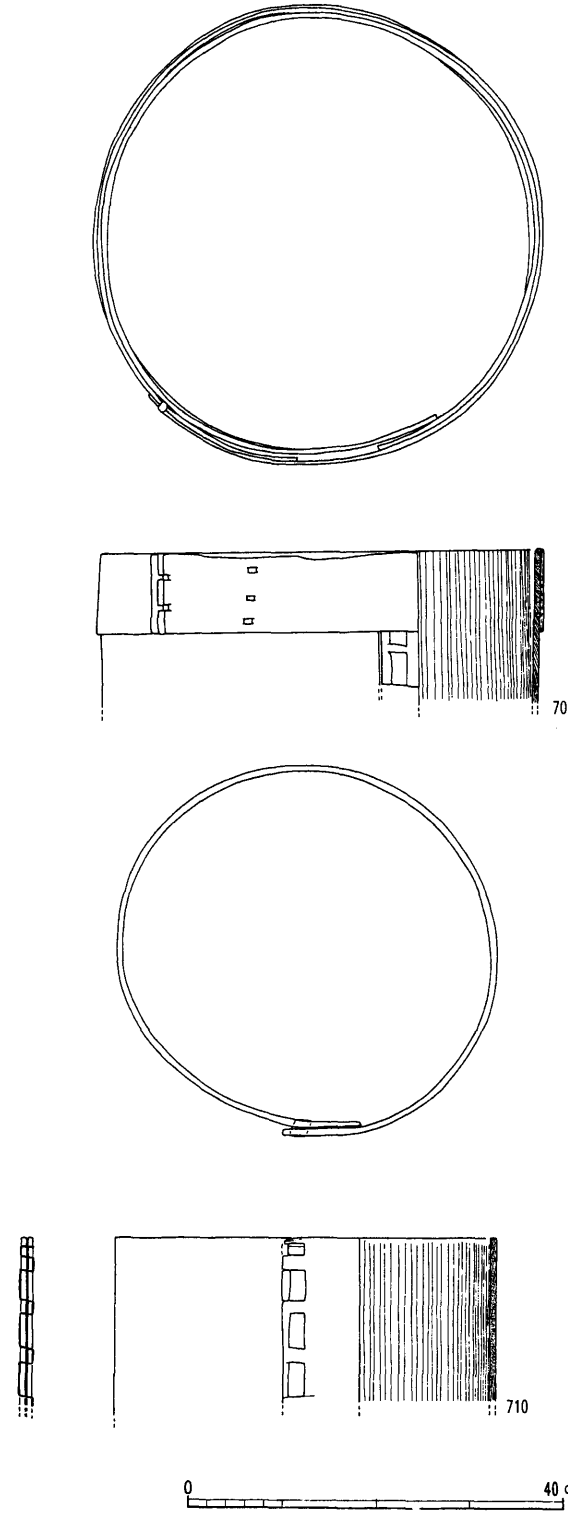
陶器椀（718～720）は、口縁部が緩く外反して丸くおさめる720がある。これらは渥美・湖西型の第4型式から第5型式に相当する。

**4　溝**




**第101図　ＳＥ３実測図・土層断面図（１：40）**




**第102図　ＳＥ３出土遺物実測図（１：４、709・710は１：８）**

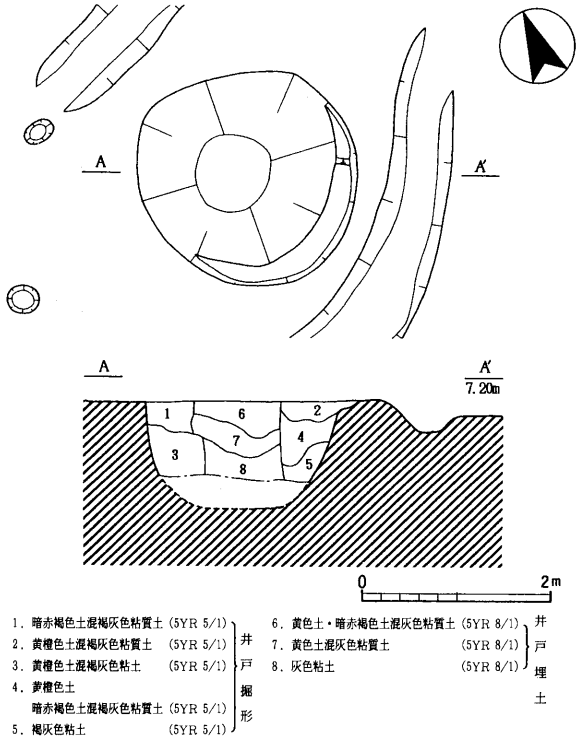
ＳＤ29・36の２条の溝は、条里の坪界溝と考える。これらの溝からは平安時代末期から鎌倉時代初頭頃の遺物が多く出土しているが、中には時代を遡る遺物も出土している。ＳＤ22は近・現代の溝である。

ＳＤ21

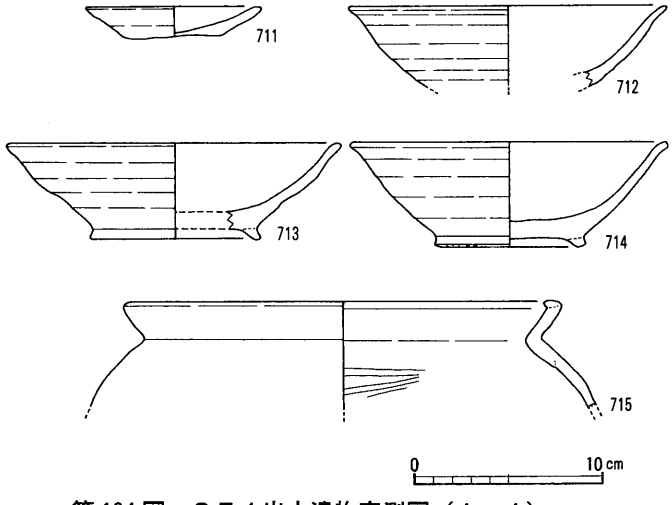
Ｂ地区南西で検出した東西溝で、幅0.5m、深さ8～10cm程である。溝方向はＮ64°Ｗである。

遺物は土師器細片のみであるが、溝方向からこの時期とした。

ＳＤ22




**第103図　ＳＥ４実測図・土層断面図（１：40）**




**第104図　ＳＥ４出土遺物実測図（１：４）**

Ｂ地区中央で検出した東西溝で、幅1.2m、溝の深さ１～31cm程である。直線的に東西にのびほぼ溝幅が均一な溝である。溝方向はＮ63°Ｗ前後を測り、現在の畦畔の方向に合う。

遺物には天目茶碗、陶器練鉢、瀬戸・美濃産丸碗・皿、近世末の徳利などがあるが、細片のみで図示できるものはない。出土遺物は中世末から近世以降のもので、近・現代の溝と考える。

ＳＤ23

Ｂ地区ＳＤ１の北で検出した東西溝で、幅0.3m、深さ５～10cm程である。溝方向はＮ62°Ｗである。

遺物はないが、溝方向からこの時期とした。

ＳＤ24

Ｃ地区の北で検出した東西溝である。幅1.0～1.6m、深さ９～21cm程である。調査区を直線的に東西にのびる。溝方向はＮ65°Ｗである。

遺物は当該時期のものはないが、埋土からこの時期とした。

ＳＤ25

Ｃ地区の中央で検出した東西溝である。幅0.3m程でほぼ同じ溝幅である。深さ４～15cm程である。ほぼ直線的に東西方向にのびる。溝方向はＮ65°Ｗ前後である。

遺物には土師器小皿、陶器椀などがある。

ＳＤ26

Ｃ地区の南で検出した東西溝である。幅0.3～1.9m、深さ２～48cm程である。溝方向はＮ63°Ｗ前後である。

遺物には土師器細片のみであるが、埋土からこの時期と判断した。

ＳＤ27

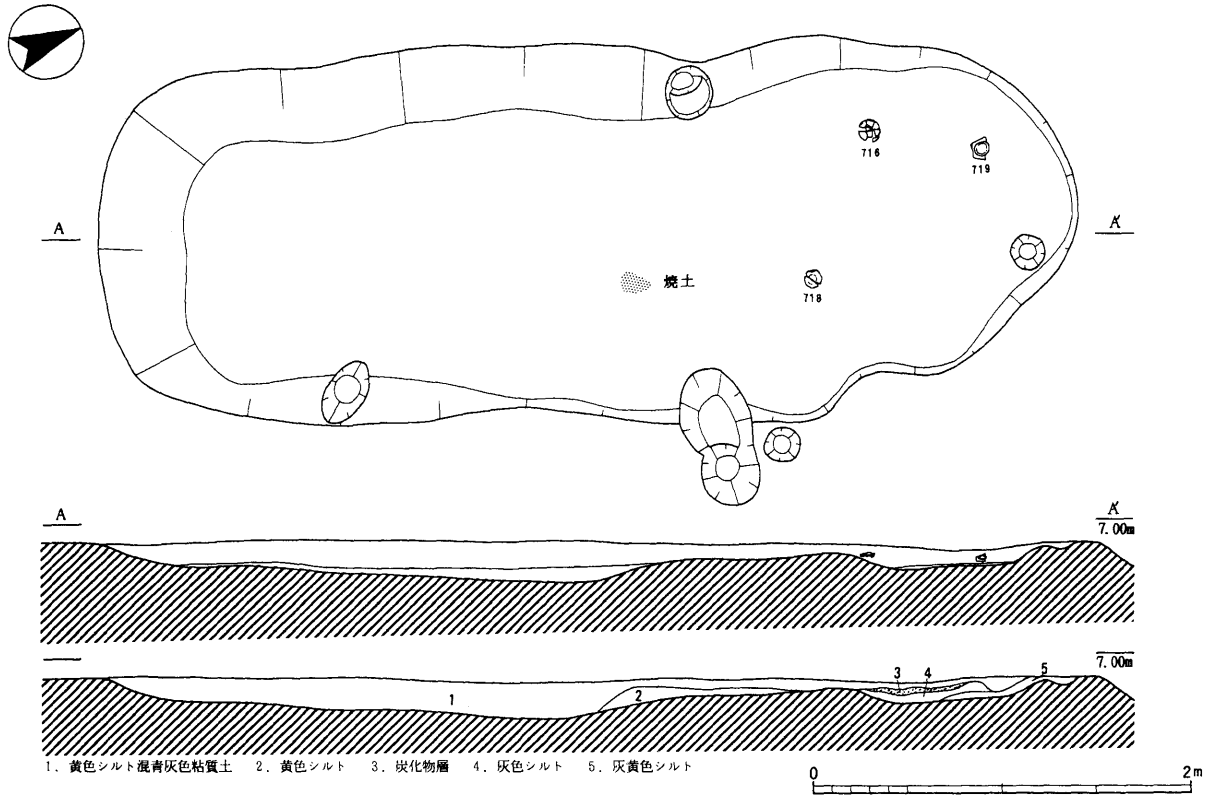
Ｃ地区の北東で検出した南北溝である。幅0.3～1.9m、深さ５～９cm程である。溝方向はＥ27°Ｓ前後である。

遺物はないが、溝の方向からこの時期とした。

ＳＤ28

Ｃ地区の中央で検出した南北溝である。幅0.4m、深さ２～28cm程である。溝方向はＥ28.5°Ｓ前後である。

遺物は土師器細片のみで時期をきめることは困難であるが、東西溝ＳＤ25とほぼ直交することから




**第105図　ＳＫ16遺物出土状況図・土層断面図（１：20）**

この時期とした。

**ＳＤ29**（第107図・ＰＬ－52）

Ｄ地区中央で検出した東西溝である。東西方向の条里の坪境溝である。調査区で検出した溝幅は1.0～2.4ｍで、深さ９～17㎝程である。溝方向はＮ63°Ｗ前後である。検出したのは下層の溝であるが、東壁土層断面には検出したＳＤ29の左上に溝の重なりがみられ、また右上の溝はほ場整備前に使われていた水路である（第９図）。ＳＤ29の断面は逆台形を呈している。溝底の幅1.92ｍ程で、溝の上幅は2.28ｍ程になる。深さは盛土下から52㎝である。

遺物には灰釉陶器椀、陶器椀、青磁碗、銭貨などがある。このほか図示していないが奈良時代の須恵器無台杯・甕が出土している。遺物の中では特に陶器椀や皿、いわゆる山皿の出土量が多い。

灰釉陶器椀（721）は、椀底部で断面三角形の高台を貼り付ける。

陶器椀・皿（722～732）は、底部回転糸切りの後に断面逆台形または三角形の高台を貼り付ける。732の底部には「の」の墨書がみられる。渥美・湖西型の第５型式ないし第６型式に相当しよう。730・731はやや偏平で口縁端部は方形に近い。731の底部外面には墨書が認められる。

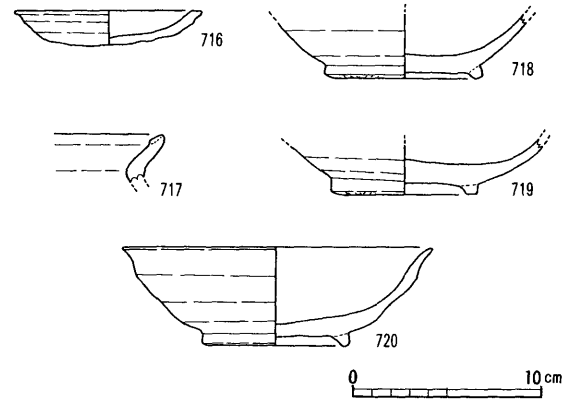
青磁碗（733）は、龍泉窯系で口縁部のみであるが蓮弁文が施されている。太宰府編年のⅠ－５ａ類[4]に相当しよう。

銭貨（734）は、左半部を欠くものの行書体で「元祐通□」と読める。元祐通寶は初鋳年1086年。

**ＳＤ30**

Ｅ地区の北やや西側で検出した東西溝である。幅60～80㎝、深さ11～17㎝程である。南東に流れて調査区中央で向きをやや東に変える。溝方向はＮ56°Ｗ前後である。

遺物には土師器小皿・鍋、陶器椀などがある。




**第106図　ＳＫ16出土遺物実測図（１：４）**

ＳＤ 31

Ｅ地区のＳＤ 30 の南で検出した東西溝である。幅 30～70cm、深さ 9 ～12cm 程である。ＳＤ 30 とほぼ同じ方向に流れ、溝方向はＮ 54° Ｗ前後である。

遺物には陶器椀などがある。

ＳＤ 32（第 108 図）

Ｅ地区の飛鳥・奈良時代のＳＲ 11 の北で検出した東西溝である。幅 0.8m で平均しており、深さ 8 ～20cm 程である。ＳＤ 30 よりやや向きは北に流れる。溝方向はＮ 60° Ｗ前後である。

遺物は陶器椀・皿などがある。

陶器椀（735）は、底部片であるが回転糸切りの底部に断面逆台形の高台が付く。内面には煤が付着している。渥美・湖西型の第 5 型式に相当しよう。

ＳＤ 33

Ｅ地区の南西で検出した東西溝である。幅 0.8m、深さ 7 ～16cm 程である。溝方向はＮ 58° Ｗ前後である。

遺物は陶器椀などがある。

ＳＤ 34

Ｅ地区の南西隅で検出した東西溝である。幅 0.8 m、深さ 3 ～24cm 程である。溝方向はＮ 60° Ｗ前後である。

遺物は土師器細片があるのみであるが、溝方向からこの時期とした。

ＳＤ 35

Ｅ地区からＦ地区にかけて調査区の中央で検出した南北溝である。幅 1.0m、深さ 8 ～20cm 程である。溝方向はＥ 24° Ｓ前後である。

遺物は土師器小皿、陶器椀などがある。

ＳＤ 36（第 109 図・ＰＬ－52）

Ｆ地区中央で検出した東西溝である。条里の坪境溝と考える。幅 0.6～0.8m、深さ 10～15cm 程である。溝方向はＮ 57.5° Ｗ前後である。東壁土層には 3 条ほどの溝の重なりがみられ、最も新しい溝はほ場整備前に使用されていた水路である（第 10 図）。

遺物は須恵器甕のほか、陶器椀・皿、天目茶碗、陶磁器類、瓦などがある。ＳＤ 5 と同様に陶器椀・皿の出土量が多い。

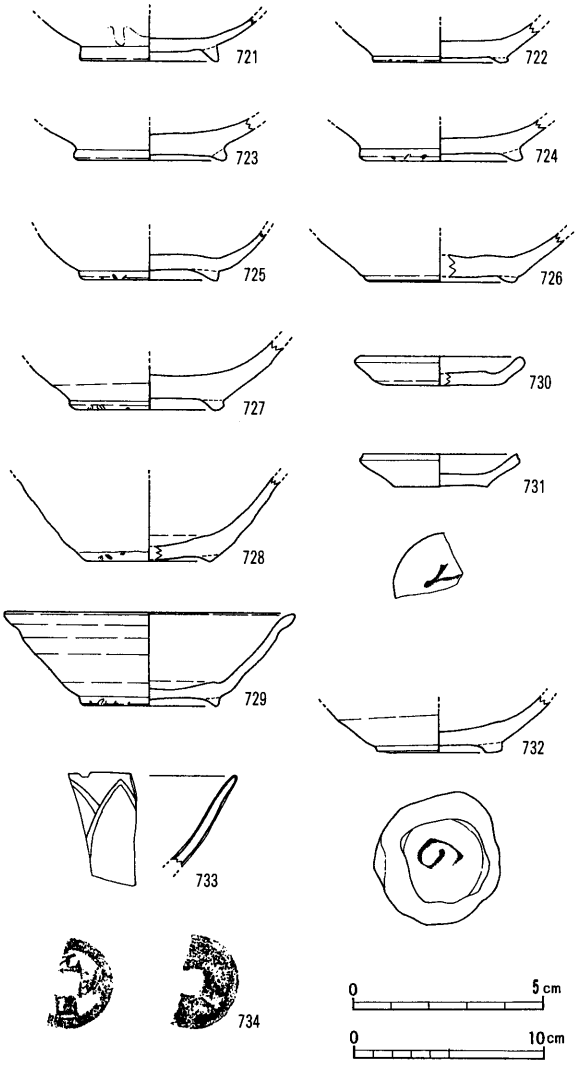
須恵器甕（736）は、頸部外面の沈線間に波状文を巡らす。

陶器椀・皿（737～740）は、回転糸切りの後に断面逆台形の高台を貼り付ける 737 がある。740 は皿で高台がなく方形の口縁端部がつく。

天目茶碗（745・746）は、口縁部のみであるが、745は瀬戸・美濃産で 17 世紀後半頃の所産であろう。746は瀬戸・美濃産の天目茶碗の底部を円形に打ち欠いた円形加工陶磁製品である。

そのほかの陶器類（741～744）は、741 が灯明皿、742 は釜と考えられる。743 は壺であろう。744 は行平の底部である。

磁器類（747～750）は、747 は瀬戸・美濃産碗の口縁部。748 は肥前産の所謂「くらわんか手」の碗である。749 は肥前産の皿である。750 は瀬戸・美




第 107 図　ＳＤ 29 出土遺物実測図（1 : 4、734 は 1 : 2）

第 108 図　ＳＤ 32 出土遺物実測図（1 : 4）

濃産の仏飯具である。

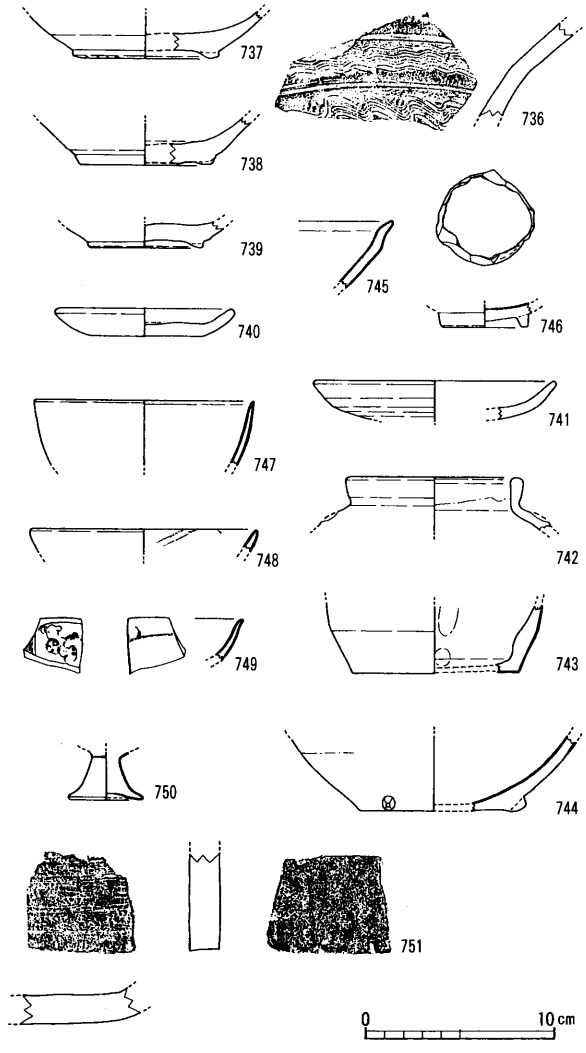
瓦（751）は燻焼き平瓦である。

**ＳＤ 37**

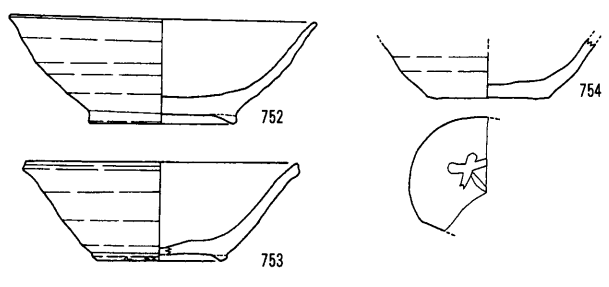
Ｅ地区中央で検出した東西溝である。幅 0.7ｍ前後、深さ 1 ～14cm程である。溝方向はＮ 55° ～72° Ｗ前後である。

遺物はないが、溝方向からこの時代とした。

**ＳＤ 38**




**第 109 図　ＳＤ 36 出土遺物実測図（１：４）**




**第 110 図　平安時代以降包含層出土遺物実測図（１：４）**

Ｅ地区南西で検出した東西溝である。ＳＢ 32 およびＳＢ 33 の雨落ち溝と考える。幅 0.7～1.6ｍ程、深さ 11～57cm程である。溝方向はＮ 61.5° Ｗ前後である。

遺物には土師器鍋、陶器椀などがある。

**ＳＤ 39**

Ｆ地区の南西隅で検出した溝である。南北から東西に曲がる。ＳＢ 32・33 およびＳＥ 4 に伴う屋敷地を区画する溝と考えられる。幅 0.4～0.8ｍ、深さ 7 ～21cm程である。溝方向は南北方向がＮ 25° ～30° Ｓ前後、東西方向がＥ 9° Ｓ前後である。

遺物には土師器細片がある。

**5　包含層出土遺物**

陶器椀（752～755）は、内湾する体部から口縁部が外反気味におわり、貼り付け高台はハの字状にひらく 752 がある。753 は体部が直線的にひらき、低い逆台形状の高台を貼り付ける。754・755 の底部は回転糸切りのままで、底部外面には墨書が見られる。754 は「大」で、755 は「来」であろうか。750 は渥美・湖西型の第 5 型式、753 は尾張型の第 6 型式、754・755 は尾張型の第 8 型式に相当しよう。

青磁碗（756）は、口縁部の細片で確実でないが外面に蓮弁文をほどこす。

白磁碗（757）は、体部がやや内湾気味にたち上がり玉縁の口縁部を有する。

磁器碗（758）は体部下半から高台部である。

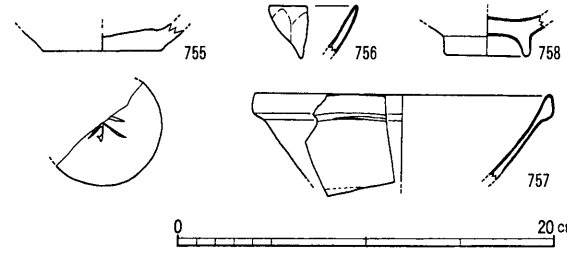
［註］

① 小坂宜広「掘立柱建物に関する一考察」『Mie　history』vol. 5　三重歴史文化研究会　1993 を参考にした。

② 渡辺誠「長岡宮跡の曲物井戸」『古代文化』第 30 巻第 8 号　古代学協会　1979

③ 藤澤良祐「瀬戸古窯址群Ⅰ」『瀬戸市民俗資料館研究紀要Ⅰ』瀬戸市民俗資料館　1982
藤澤良祐「山茶椀の現状と課題」『研究紀要　第 3 号』三重県埋蔵文化財センター　1994

④ 横田賢二郎・森田勉「太宰府出土の中国輸入陶磁器について」『九州歴史資料館研究紀要 4』九州歴史資料館　1987



# Ⅸ. そ の 他

その他の遺構には、A地区で検出した畦畔状遺構、A地区およびD地区で検出した牛の足跡とB地区で検出した噴砂がある。

**1　畦畔状遺構**（第112図）

A地区東壁トレンチの土層断面から耕作土上面より約80cm程下で厚さ約5cm前後の橙色土混り暗灰色粘土層を検出した。平面掘削をおこなったが、畦畔は検出されなかった。この層はA地区の東半、北微高地の北東部に広がりをみせていることが判明した。

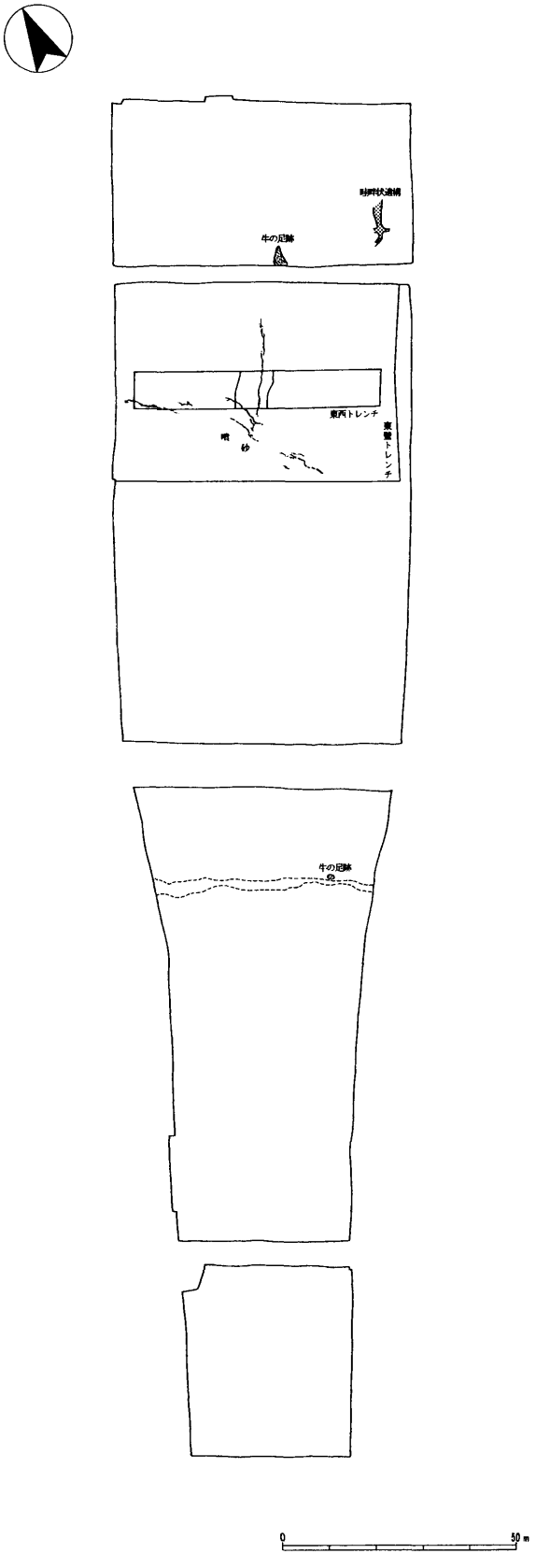
畦畔状遺構は、A地区東壁面の層序の中で緑灰色粘土を基盤とする畦畔らしき立ち上がりが認められたため、高まり上面まで掘削した。検出した遺構の標高は約6.2m程である。畦畔と考えられる遺構の両側はマンガン粒を含みアシやヨシ科の暈管状斑文がはいる暗青灰色シルト層である。検出した範囲は東西約2m×南北約4mで、畦畔との比高差は6cm程である。畦畔状遺構に伴う遺物はなく時期不明であるが、おそらく中世であろう。

**2　牛の足跡**（第113・114図）

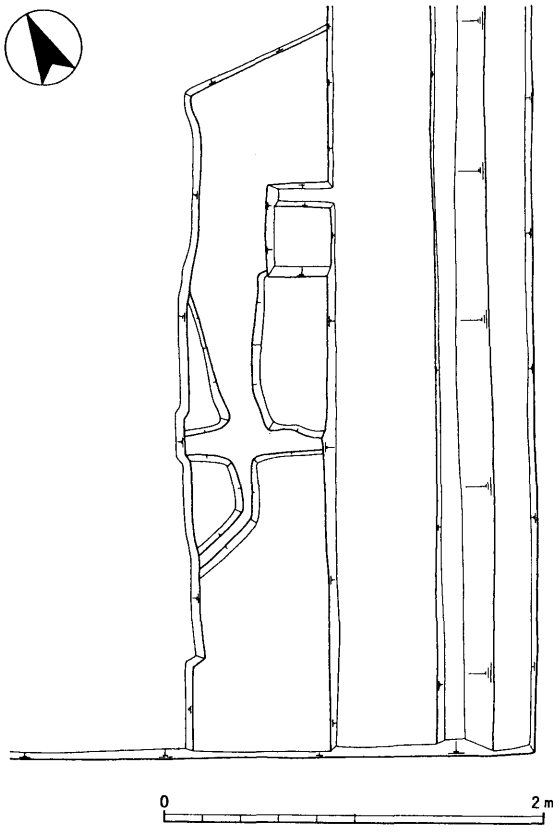
A地区中央の南で検出した牛の足跡は、ヒズメ形やそれ以外ものまで含めると44個になる①。検出した高さは標高約6.2m程で、畦畔状遺構とほぼ同じレベルである。層位的には東壁土層断面の暗灰色粘土上面で検出した。足跡の大きさは大小あるように考えられ、大きいもので13.5cm×12.0cm前後、小さいもので10.0×9.0cm前後である。検出面からの深さは2.0cm前後である。ヒトの足跡らしき痕跡は検出されなかった。

D地区で検出した牛の足跡は2個である。足跡を検出した面は、同地区の遺構基盤層の上層である褐灰色粘質土層で、遺構検出面より13～15cm程高い。足跡の標高は約6.5m程である。足跡の埋土はともに黄橙色粗砂であった。大きさは東側が10cm×7cm、西側が10cm×8cm、深さは東側が1.8cm、西側が2cmである。A地区で検出した足跡に比べると数値的には小さいものに近い。

A・D地区の足跡ともに伴う遺物がなく時期不明である。D地区の足跡を検出した層は古墳・飛鳥時代の遺構基盤層の上層であり、中世以降であろう。




**第111図　その他遺構配置図**（1：1、500）

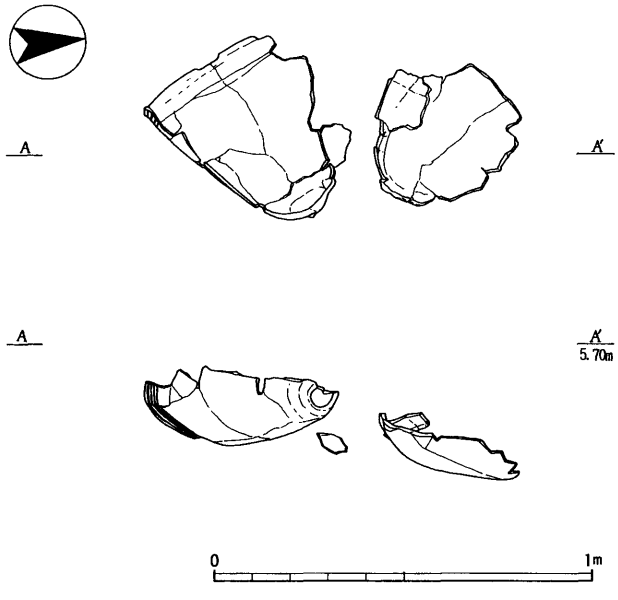



**第112図　畦畔状遺構実測図（1：40）**

3　**噴砂**（第116・117図・ＰＬ－34）

噴砂を検出したのは、遺構基盤層である灰褐色砂質土（便宜的にこの層を下層第1層とし、以下を下層第何層と呼ぶ。）を掘削した下層第2層の暗青灰色粘質土の上面である。

噴砂は、Ｂ地区南中央から北方向に直線状にのびる噴砂と南東から湾曲しながら北西にむかう2方向の噴砂を検出した。



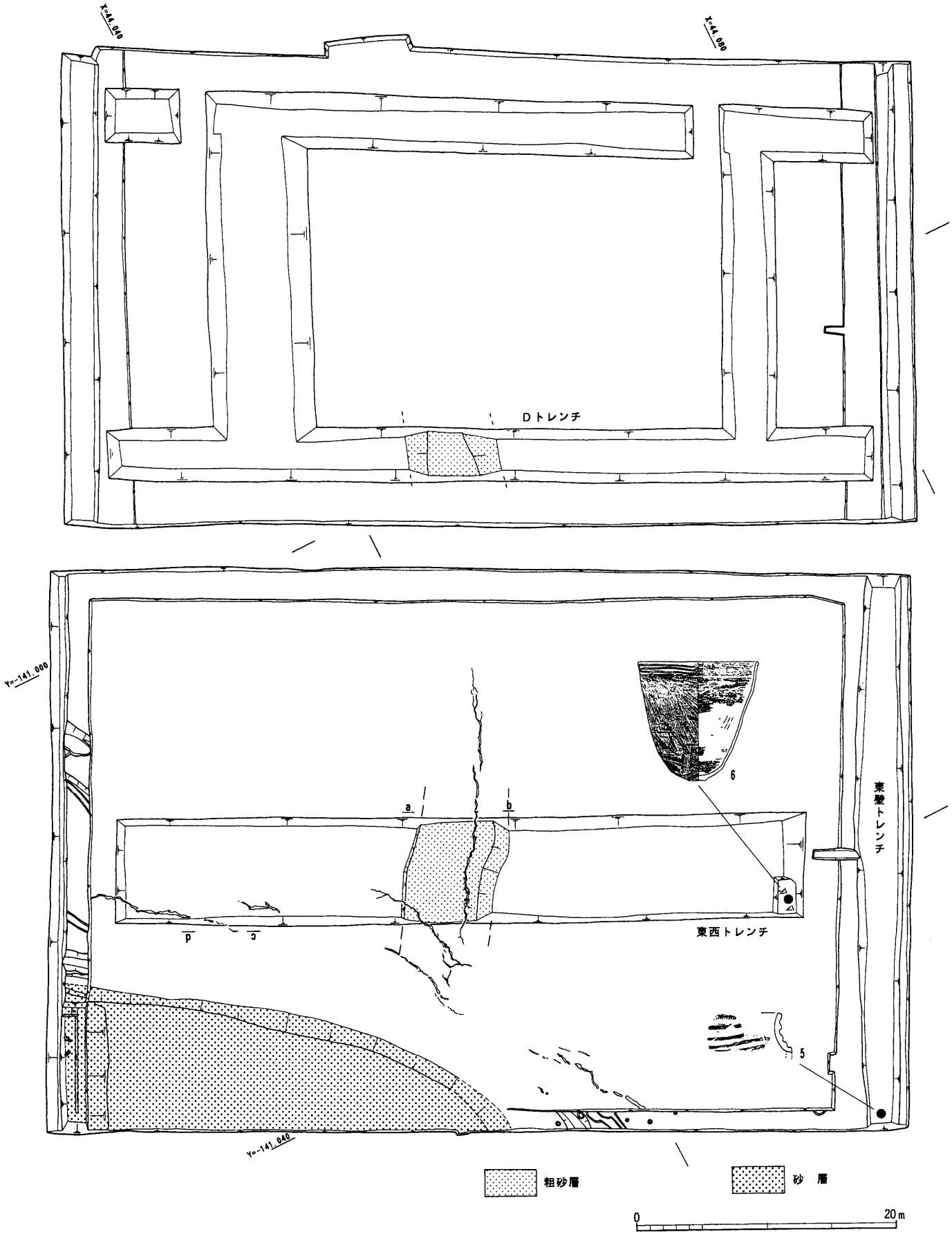

**第115図　縄文土器出土状況図（1：20）**

**第113図　Ａ地区牛の足跡実測図（1：40）**

**第114図　Ｄ地区牛の足跡実測図（1：40）**

北方向にのびる噴砂は、検出した長さ21.1ｍ、幅3㎝から20㎝程でほぼ直線的であり、方向はＮ28°Ｅ前後である。南東から湾曲しながら北西方向に向かう噴砂は、5条から6条ほどを単位として大きく3つの群に分かれ、雁行状に走っている。検出した長さは、3.4ｍから12.1ｍ程、噴砂の幅は2㎝から20㎝で、方向はＮ14°ＷからＮ54°Ｗ前後である。

北にのびる噴砂に直交するように、また下層確認のために長さ53ｍ、幅8ｍの東西トレンチを設定した。その結果、東西トレンチ北壁面の土層観察から、噴砂は検出した暗青灰色粘質土の上面から4㎝下で幅約3.8ｍ、高さ約1.4ｍの丘状の砂層から上昇していることが判明した。丘状の砂層は概報Ⅶで




第116図　噴砂実測図（1：400、上図：A地区、下図：B地区）

「粗砂丘」としたが[2]、自然に水平堆積した層が削られたと考えた方がより妥当性があるとされ[3]、以後この語をもちいる。このトレンチ調査では東南隅で下層第3層の青灰色シルトから縄文時代後期末の宮滝式の深鉢（6）が縦に半壊した状態で1個体出土した。また同地区の東壁トレンチで同じ青灰色シルト層から出土したと考えられる後期末の宮滝式の口縁部片（5）が出土しており、青灰色シルト層が形成されたのは縄文時代後期頃と考えられる。また丘状の砂層は、北にのびておりA地区のDトレンチで見つかった幅約8.9m、高さ約1.7m程の丘状の砂層に続くものと考えられる。丘状の砂層ののびる方向に北に向かう噴砂は走っているが、A地区では噴砂は検出していない。

南東から北西方向の噴砂は、B地区の南西部にみられる灰褐色粗砂層に沿うように湾曲する。この粗砂層は、「Ⅲ．縄文時代」および「Ⅺ．遺構・遺物のまとめと考察」で記したように縄文時代晩期頃に河川の氾濫により形成されたと考えられる。

噴砂は、下層第3層の青灰色シルト層および下層第2層の暗青灰色粘質土層を破って噴出しているが、上層で検出した旧河道や溝の底からは噴砂を検出しておらず、上層の遺構には影響されていない。

検出した噴砂は、丘状の砂層およびその下の砂礫・粗砂層が地震により液状化現象を起こして噴出したものである。

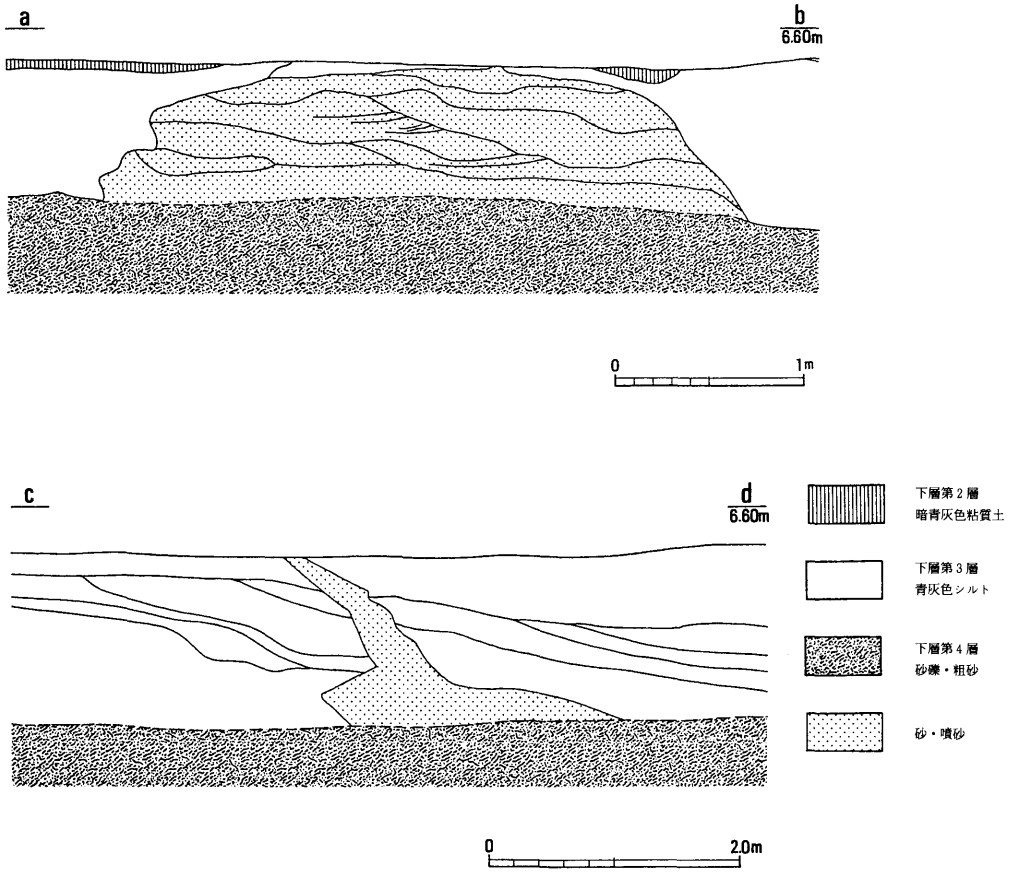
（宮田）

［註］

① A地区の足跡については、13個の足跡を足型を取っている。足型を三重県農業技術センターに見ていただいたところ、牛の足跡または馬の足跡とも考えられ、その基本的な差異は、牛は偶蹄目に属し、2本の指が発達した2蹄で、馬は奇蹄目ウマ科に属し、1本の指が発達した1蹄である。つまり、U字形の足型は馬の足跡のようであり、二字形の足型は牛の足跡と考えられるということであった。（加藤嘉太郎・山内昭二共著『家畜比較解剖図説』養賢堂　1996）の御教示を得た。

② 三重県埋蔵文化財センター『一般国道23号中勢道路埋蔵文化財発掘調査概報Ⅶ』1995

③ 通産省工業技術院地質調査所　寒川　旭氏の御教示による。




**第117図　B地区東西トレンチ土層断面図（上図は北壁面1：80、下図は南壁面1：60）**

# X. 自然科学分析

## 1. 放射性炭素$^{14}$C年代測定

パリノ・サーヴェイ株式会社

### はじめに

蔵田遺跡は、安濃川左岸の微高地～谷状の低地部に立地し、微高地からは弥生時代から古墳時代の集落、鎌倉時代の屋敷地、低地部からは同時代の自然流路、溝などが検出されている。また、縄文時代、弥生時代、古墳時代、鎌倉時代の遺物が検出されている。

今回の自然科学分析では、遺跡の土層の堆積年代および遺跡周辺の地形変遷を検討する資料とするために、自然堆積層から検出された材を対象として、放射性炭素年代測定を行う。

### 1. 試料

蔵田遺跡D地区は、2つの微高地に挟まれた谷状低地部にあたる。試料はいずれも自然木と考えられる材で、南北トレンチから検出された試料番号1・2・3の合計3点である。試料が検出された層はいずれも洪水堆積物と考えられ、試料番号1は淡灰褐色粗～中砂の6層、試料番号2は淡灰褐色粗～中砂の21層、試料番号3は淡褐灰色砂礫の26層から検出されたものである。

### 2. 分析方法

測定は、学習院大学放射性炭素年代測定研究室の協力を得た。なお、年代値の算出には、半減期としてLIBBYの半減期5,570を使用している。

### 3. 結果

結果を第4表に示す。

### 4. 考察

今回得られた年代値は、これまでのデータからみて、試料番号1は、縄文時代中期後半、試料番号2は縄文時代後期初頭、試料番号3は縄文時代後期後半頃にあたると考えられている（日本第四紀学会ほか、1992)。各試料が検出された土層の上下関係は、試料番号2が検出された南北トレンチの21層が最上位で、試料番号1が検出された6層が下位にあたる。また、試料番号3が検出された26層は、6層よりさらに下位にあたる。一方、今回の分析結果では、試料番号3の年代値が最も新しい。したがって、試料番号1・2は安濃川の洪水などにより古い年代の材が堆積物中に混入した可能性がある。試料番号3で得られた年代から、洪水は古くとも縄文時代後期後半頃以降に起こった可能性がある。ただし、下位の26層から上位の21層までが、同時期の堆積物であるか、異なった年代の堆積物であるか現時点ではわからない。今後は、各層の分布や堆積構造、堆積環境の調査などのデータを併せ、遺跡周辺の微地形および地形変遷を検討することが望まれる。

引用文献

日本第四紀学会・小野　昭・春成秀爾・小田静夫（1992）図解・日本の人類遺跡. 242p., 東京大学出版会.

## 2. 土壌分析および種実同定

パリノ・サーヴェイ株式会社

### はじめに

蔵田遺跡は、安濃川左岸の沖積地に位置する。今回の調査により、縄文時代・弥生時代・古墳時代・鎌倉時代の遺構・遺物が検出されている。

今回の分析では、鎌倉時代の掘立柱建物に東南隅で検出された土坑について、覆土中に残留している成分を測定し、遺構用途に関する情報を得る。発掘調査所見等から、この土坑は家畜小屋の排泄物をためる場所

であることが指摘されている。したがって、今回はトイレ遺構などの排泄物が存在した場所に富化される可能性がある成分のうち、土壌中で濃集状況が比較的確認しやすい有機炭素、リン酸、及び重金属類（銅・亜鉛）を測定することにした。そのほか、E地区の溝SD15から出土した種実遺体について、その種類を明らかにする。

## Ⅰ．用途不明遺構の成分分析

### 1．試料

試料は、F地区の土坑SK16埋土サンプルA～Dの4点と、対照試料であるE地区の井戸SE2の井桁内草木質土壌1点である。

### 2．分析方法

有機炭素はチューリン法、リン酸、亜鉛、銅は共に硝酸・過塩素酸で分解し、リン酸はバナドモリブデン酸比色法、亜鉛、銅は原子吸光光度法（土壌標準分析・測定法委員会、1986；渋谷ほか、1978）でそれぞれ行った。以下に各項目の分析方法を示す。

（1）有機炭素（Org-C）

微粉砕試料0.100～0.500gを100ml三角フラスコに確認に秤りとり、0.4Nクロム酸・硫酸混液10mlを正確に加え、約200℃の砂浴上で正確に5分間煮沸する。冷却後、0.2%フェニルアントラニル酸液を指示薬に、0.2N硫酸第1鉄アンモニウム液で滴定値および加熱減量法で求めた水分量から、乾土あたりの有機炭素量（Org-C乾土%）を求めた。

（2）全リン酸（T-$P_2O_5$）

風乾細土試料5.00gをケルダールフラスコに秤りとり、はじめに硝酸（$HNO_3$）10mlを加えて加熱分解した。放冷後、過塩素酸（$HClO_4$）20mlを加えて加熱分解を行った。分解終了後、蒸留水で100mlに定容し、ろ過した。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液（バナドモリブデン酸・硝酸液）を加えて分光光度計によりリン酸（$P_2O_5$）濃度を測定した。この測定値と加熱減量法で求めた水分量から、乾土あたりのリン酸含量（$P_2O_5$mg／g）を求めた。

（3）亜鉛（Zn）、銅（Cu）

リン酸測定用分解液について、原子吸光光度計により亜鉛（Zn）、銅（Cu）の濃度を測定した。これら測定値と加熱減量法で求めた水分量から、乾土あたりの亜鉛、銅（mg／kg）含量を求めた。

### 3．分析結果

分析結果を第5表に示す。以下、各成分別に結果を記す。

（1）有機炭素（Org-C）

F地区のSK16の埋土サンプルは全体的に腐植含量が低く、1.0%前後である。また、対照試料のE地区のSE2の井桁内草本質土壌では腐植含量7.96%と高い値をしめす。

（2）全リン酸（T-$P_2O_5$）

リン酸含量は、F地区のSK16埋土サンプルAの2.35mg／gが最も高いが、他は2.0mg／g以下である。また、E地区のSE2の井桁内草本質土壌では、比較的高い腐植含量を示しているのに対し、リン酸含有量は1.37$P_2O_5$mg／gと最も低い値が得られた。

（3）銅・亜鉛（Cu・Zn）

銅・亜鉛とも対照試料が最も高い値を示す。F地区のSK16埋土では、サンプルCで銅の含有量が対照試料に近い値が得られたが、他は対照試料よりも8.0mg／kg程低い。また亜鉛の含有量は、対照試料に比較していずれも60mg／kg前後の低い値となっている。

### 4．考察

排泄物は食物として摂取された動植物遺体に由来すると考えられるので、かつて排泄物の存在した場所には有機物が濃集していると考えられる。一般に有機物の主成分は有機成分であり、その他に無機成分が少量含まれる。有機成分の中でも炭素は多量に含まれる成分であるが、有機物が土壌中に埋設されるとその殆どは微生物によって分解され、やがて炭酸ガスとして系外に放出される。しかし、トイレ遺構などのように有機物が局所的に多量に蓄積された場所には、有機成分由来の炭素が腐植として濃集すると考えられる。また有機物中の少量な無機成分も局所的な供給によって濃集することもあるが、有機成分に比べて元々含量が少なく、しかもこれら無機成分は土壌中に多く存在する。したがって、濃集後の経年変化によって拡散移動してしまうと、濃集の判断がしにくい。

その中でリン酸は生物にとって主要な構成元素であ

り、特に人や動物の骨や歯には多量に含まれている。生物体内に蓄積されたリンはやがて土壌中に還元され、土壌有機物や土壌中の鉄やアルミニウムと難溶性の化合物を形成することから、無機成分の中でも土壌中を比較的移動しにくい成分である。特に活性アルミニウムの多い火山灰土壌ではリンの保持能力が高い。現在の耕地のリン含量に関する調査例（Bowen, 1983；Bolt・Bruggenwert, 1980；川崎ほか、1991；天野ほか、1991）等から推定される天然賦存量の上限は0.3%程度であるが、動物遺体起源の残留物があれば、それを上回る含有量が確認できる可能性がある。実際に、竹迫ほか（1980）、竹迫（1981）、坂上（1984）、竹迫（1985）等で、リン酸含量から動物遺体の痕跡が確認されている。

この他の無機成分としては重金属があるが、これら元素の土壌中における自然含有量、いわゆる天然賦存量はきわめて微量である。銅、亜鉛の土壌中における天然賦存量は、銅で中央値30mg／kg、亜鉛で中央値90mg／kg（Bowen, 1983）との報告がある。しかし重金属類を含む廃棄物などを土壌に投棄すると、その重金属は濃集してなかなか拡散移動しないことは、わが国の土壌汚染問題などからも明らかである。すなわち、人間の生活行為によって自然界に微量であった重金属類元素が土壌中に蓄積し、濃集している現象は、人間の生活行為によって起こったものと解釈できる。これら重金属類元素の中で、亜鉛は現在の下水汚泥や家畜糞などの排泄物に多量に含まれており、汚染指標元素にもなっている。また銅なども昔から人間がよく使用した元素と言われており、これら元素はリン酸とともに人の生活行為の痕跡指標となる可能性が高い。

このような観点で有機炭素、リン酸および重金属の含量をみてみると、F地区のSK16の埋土サンプルはいずれの項目においても天然賦存量を下回る値である。また、リン酸含有量については、対照試料であるE地区のSE2の井桁内草本質土壌より若干高い値を示すものの、有意な差があるとは考えにくい。これらの点を考慮すると、今回の分析結果は各成分が富化した状態とはいえず、家畜などの排泄物の蓄積があった場所とは考えにくい。一方、対照試料であるE地区のSE2の井桁内草本質土壌では、リン酸含量は低いものの、腐植、亜鉛含量が高い値であり、井戸内へ生活残渣が流入あるいは投入された可能性もある。

## II．種実の種類

### 1．試料

試料はE地区の溝SD15から検出された1点である。

### 2．方法

双眼実体顕微鏡下で観察し、種実遺体の同定を行った。

### 3．結果

同定の結果、種実はモモであった。以下に形態的特徴を記す。

・モモ（Prunus parsica Batsch）バラ科サクラ属

核（内果皮）が検出された。褐色～黒褐色で大きさは2cm程度。核の形は球形に近い。基部は丸く大きな臍点がありへこんでおり、先端部は丸く、あまり尖らない。一方の側面にのみ、縫合線が顕著にみられる。表面は、不規則な洗浄のくぼみがあり、全体としてあらいしわ状に見える。

### 4．考察

モモは、栽培植物として大陸から渡来した種族とされる。その渡来時期の詳細は明らかではないが、長崎伊木力遺跡の調査例（南木・粉川、1990）等から、縄文時代にはすでに渡来していたと考えられている（粉川、1988）。弥生時代以降は各地で種実が出土しており広く栽培されていたことが推定される。


引用文献

天野洋司・太田健・草場敬・中井信（1991）中部日本以北の土壌型別蓄積リンの形態別計量・農林水産省農林水産技術会議事務局編「土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発」, p. 28－36.

Bolt, G. H.・Bruggenwert, M. G. M.（1980）土壌の化学. 岩田進午・三輪睿太郎・井上隆弘・陽捷行訳, 309p., 学会出版センター［Bolt, G. H. and Bruggenwert, M. G. M.（1976）SOIL CHEMISTRY］, p. 235－236.

Bowen, H. J. M.（1983）環境無機化学－元素の循環と生化学－. 浅見輝男・茅野充男訳, 369p., 博友社［Bowen, H. J. M.（1979）Environmental Chemistry of Elements］.

土壌標準分析・測定法委員改編（1986）土壌標準分析・測定法. 354p., 博友社.

土壌養分測定法委員会編（1986）土壌養分分析法. 440p., 養賢堂.

南木睦彦・粉川昭平（1990）伊木力遺跡の大型植物化石群集.「伊木

力遺跡　長崎県大村湾沿岸における縄文時代低湿地遺跡の調査」，p.642－659，多良見町教育委員会・同志社大学考古学研究室.
農林省農林水産技術会議事務局監修（1967）新版標準土色帖.
川崎弘・吉田澪・井上恒久（1991）九州地域の土壌型別蓄積リンの形態別計量．農林水産省農林水産技術会議事務局編「土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発」，p.23－27.
粉川昭平（1988）穀物以外の植物食．金関　恕・佐原　眞「弥生文化の研究2　生業」，p.112－115，雄山閣.
熊田恭一（1981）腐食酸の科学的性質（2）.「土壌有機物の科学　第2版」，p43－79，学会出版センター.

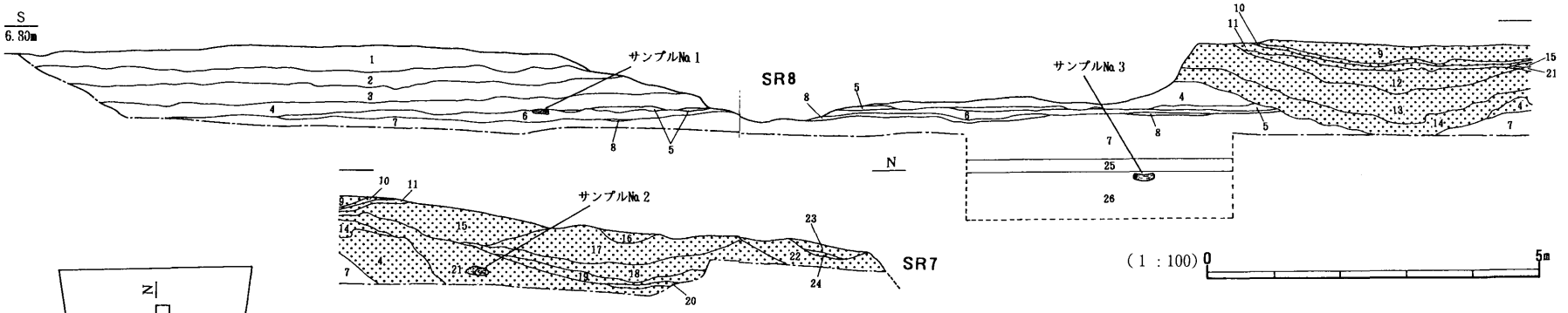
| 試　料　名 | 採取層準 | 試料 | 年代値（1950年よりの年数） | Code No. |
|---|---|---|---|---|
| 南北トレンチNo.1 | 6層 | 材 | 4,240±70y. B. P.（2,290 B. C.） | Gak-19830 |
| 南北トレンチNo.2 | 21層 | 材 | 3,920±70y. B. P.（1,970 B. C.） | Gak-19829 |
| 南北トレンチNo.3 | 26層 | 材 | 3,290±90y. B. P.（1,340 B. C.） | Gak-19828 |

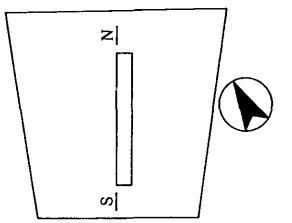
**第4表　蔵田遺跡D地区放射性炭素年代測定結果**

| 試　　料　　名 | 土性 | 土　　色 | P205 (mg／g) | Cu (mg／g) | Zn (mg／g) | 腐　植 (%) |
|---|---|---|---|---|---|---|
| F地区　SK16　埋土サンプルA | LiC | 2.5Y 4／2　暗灰黄 | 2.35 | 16.7 | 112.5 | 1.11 |
| F地区　SK16　埋土サンプルB | LiC | 2.5Y 4／2　暗灰黄 | 1.91 | 16.2 | 115.1 | 1.01 |
| F地区　SK16　埋土サンプルC | HC | 2.5Y 3／3　暗オリーブ褐 | 1.76 | 23.9 | 106.3 | 1.19 |
| F地区　SK16　埋土サンプルD | LiC | 2.5Y 4／2　暗灰黄 | 1.67 | 16.1 | 115.3 | 0.71 |
| E地区　SE2　井桁内草本質 | HC | 2.5Y 3／1　黒褐 | 1.37 | 24.8 | 173.7 | 7.96 |

注.（1）土色：マンセル表色系に準じた新版標準土色帖（農林省農林水産技術会議監修、1967）による。
（2）土性：土壌調査ハンドブック（ペドロジスト懇談会編、1984）の野外土性による。
LiC …… 軽埴土（粘土25～45%、シルト0～45%、砂10～55%）
HC …… 重埴土（粘土45～100%、シルト0～55%、砂0～55%）

**第5表　土壌理科学分析結果**

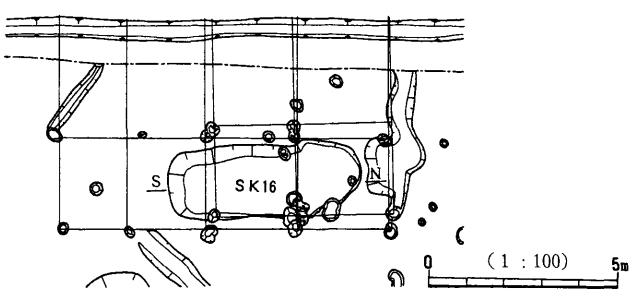


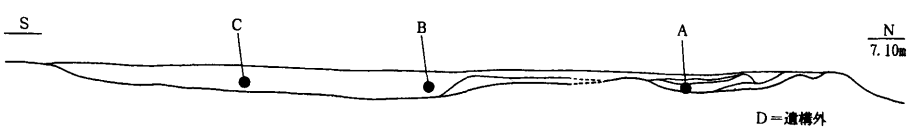




(1 : 1,000)　0　25m

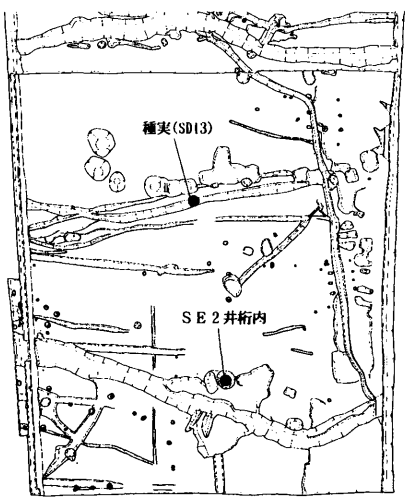
D地区南北トレンチ

1. 褐灰色細砂　10YR5/1
2. 暗青灰色シルトまじり細砂　5B5/1
3. 灰色砂（粗砂と中砂の互層）、木片混入　5B5/1
4. 淡灰褐色粗砂（シルト質細砂のレンズ混入）、木片混入　2.5Y6/1
5. 灰色細砂、木片混入　5B5/1
6. 淡灰褐色粗砂・中砂　2.5Y6/1
7. 灰色礫まじり粗砂（礫は径0.5～1.5cmの亜角～亜円礫）7.5Y6/1
8. 灰色シルト質細砂、木片混入　5B5/1
9. 褐灰色シルト質細砂　10YR5/1
10. 褐灰色シルト　10YR5/1
11. 褐灰色シルト質細砂　10YR5/1
12. 淡灰褐色粗砂（極粗砂まじり）2.5Y6/1
13. 淡灰褐色粗～細砂　2.5Y6/1、南と北側で暗灰色の細砂まじりシルト（腐植物・木片混入）7.5Y4/1に層相変化
14. 暗灰色細砂質シルト（木片・腐植物混入）7.5Y4/1
15. 淡灰褐色粗～細砂　2.5Y6/1
16. 灰褐色極粗砂～細砂
17. 淡灰褐色極粗砂～細砂　} ラミナの入り方が異なる。2.5Y5/4
18. 暗灰色シルトまじり細砂（木片・腐植物混入）10YR5/1
19. 灰色粗～細砂（木片・腐植物混入）2.5Y5/4
20. 暗灰色シルトまじり細砂（腐植物混入）10YR5/1
21. 淡灰褐色粗～細砂（木片混入）2.5Y5/4 南半分では、暗灰色のシルト質細砂（腐植物混入）に変化。
22. 淡灰褐色粗砂　10YR6/8
23. 淡灰褐色粗砂　10YR6/8
24. 暗灰色細砂質シルト（腐植物混入）7.5Y4/1
25. 褐灰色粗砂（木片混入）7.5Y4/1
26. 淡褐灰色砂礫（径1.0～2.0cmの亜円礫主体・マトリックスは粗砂、木片混入）2.5Y6/1




F地区SK16埋土サンプル（1 : 50）　0　2.5m




(1 : 800)　0　20m

E地区SE2井桁内草木質および種実（SD13）

| 遺構 | 規模（間） | 棟方向 | 床面積（㎡） | 桁行（m） | 梁行（m） | 柱間寸法 桁行（m） | 柱間寸法 梁行（m） | 柱堀形 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SB1 | 2×1 | 側柱建物 N15°W 南北棟 | 5.44 | 3.2 | 1.7 | 1.6等間 | 1.7 | 円形 径20～40cm 深さ7～30cm | 柱痕跡（径10cm） |
| SB2 | 3×2 | 側柱建物 E25°N 東西棟 | 16.96 | 5.3 | 3.2 | 西から 1.6+1.6+2.1 | 1.6等間 | 円形 径30～60cm 深さ15～60cm | 西面庇 庇の出は60cm 柱根（14・15）遺存 |
| SB3 | 3×1 | 側柱建物 N19°W 南北棟 | 10.44 | 3.6 | 2.9 | 1.2等間 | 2.9 | 円形 径20～30cm 深さ40cm前後 | 南側に独立棟持柱 棟持柱の出は50cm、深さ20cm |
| SB4 | 3×2 | 側柱建物 N42°W 南北棟 | 24.57 | 6.3 | 3.9 | 2.1等間 | 1.95 等間 | 円形 径20～30cm 深さ20cm前後 | 切り合い関係はSB2より新しい |
| SB5 | 4×1 | 側柱建物 E12°N 東西棟 | 15.84 | 4.8 | 3.3 | 1.2等間 | 3.3 | 円形 径20～40cm 深さ6～20cm | 西側に独立棟持柱 棟持柱の径60cm |
| SB6 | 3×1 | 側柱建物 E16°N 東西棟 | 13.44 | 4.8 | 2.8 | 西から 1.5+1.5+1.8 | 2.8 | 円形 径20～40cm 深さ7～24cm | 西側にある2つの小穴も建物にともなう可能性あり 柱痕跡（径10～15cm） |
| SB7 | 4×1 | 側柱建物 E22°N 東西棟 | 20.16 | 5.6 | 3.6 | 1.4等間 | 3.6 | 円形 径20～50cm 深さ6～45cm | 近接棟持柱 柱痕跡（径10cm） |
| SB8 | 1×1 | 側柱建物 N37°W 南北棟 | 7.02 | 2.7 | 2.6 | 2.7 | 2.6 | 円形 径25～40cm 深さ23～27cm | ほぼ同一地点、同一規模での建替え |
| SB9 | 1×1 | 側柱建物 N37°W 南北棟 | 8.37 | 3.1 | 2.7 | 3.1 | 2.7 | 円形 径25～40cm 深さ23～28cm | |
| SB10 | 3×2 | 側柱建物 N9°E 南北棟 | 15.96 | 4.2 | 3.8 | 1.4等間 | 1.9等間 | 円形 径20～30cm 深さ7～26cm | |
| SB11 | 2×2 | 総柱建物 N13°E | 3.20 | 3.6 | 3.6 | 1.8等間 | 1.8等間 | 円形 径20～40cm 深さ6～25cm | 柱痕跡（径20cm） |
| SB12 | 1×1 | 側柱建物 E36°N 東西棟 | 19.20 | 2.0 | 1.6 | 2.0 | 1.6 | 円形 径20～30cm 深さ2～18cm | |
| SB13 | 3×1 | 側柱建物 N29°E 南北棟 | 19.20 | 6.0 | 3.2 | 2.0等間 | 3.2 | 円形 径30cm 深さ22～29cm | 同一地点、同一規模の建替え 平面形は平行四辺形状 柱痕跡（径10～20cm） |
| SB14 | 3×1 | 側柱建物 N29°E 南北棟 | 6.90 | 6.0 | 3.2 | 2.0等間 | 3.2 | 円形 径30cm 深さ22～29cm | |
| SB15 | 3×1 | 側柱建物 N18°E 南北棟 | 6.90 | 3.0 | 2.3 | 1.0等間 | 2.3 | 円形 径25～30cm 深さ13～18cm | 同一地点、同一規模の建替え |
| SB16 | 3×1 | 側柱建物 N18°E 南北棟 | 6.90 | 3.0 | 2.3 | 1.0等間 | 2.3 | 円形 径25～30cm 深さ13～18cm | |
| SA1 | 1 間 | EW0° | 全長 7.3 | | | 西から 4.0+3.3 | | 円形 径20～30cm 深さ18～34cm | |
| SA2 | 2 間 | E3°S | 全長 7.2 | | | 西から 4.0+3.3 | | 円形 径25～40cm 深さ22～34cm | |
| SA3 | 3 間 | E2°S | 全長 9.4 | | | 西から 3.6+3.4+2.4 | | 円形 径20～40cm 深さ15～19cm | 柱痕跡（径10～15cm） |
| SA4 | 3 間 | E41°N | 全長10.3 | | | 西から 2.5+2.5+2.5+2.8 | | 円形 径20～30cm 深さ4～21cm | |

**第6表　弥生時代掘立柱建物・柱列一覧表**

| 遺構 | 規模（間） | 棟方向 | 床面積（㎡） | 桁行（m） | 梁行（m） | 柱間寸法 | | 柱堀形 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 桁行（m） | 梁行（m） | | |
| SB 17 | 2×1以上 | 側柱建物 E 5° S 東西棟 | (8.28) | 1.8以上 | 4.6 | 1.8以上 | 2.3等間 | 円形 径30cm 深さ15～21cm | |
| SB 18 | 3×2 | 側柱建物 N 1° W 南北棟 | 21.42 | 5.1 | 4.2 | 1.7等間 | 2.1等間 | 円形 径30～40cm 深さ10～19cm | |
| SB 19 | 3×2 | 総柱建物 N 1° W 南北棟 | 31.32 | 5.4 | 5.8 | 1.8等間 | 2.9等間 | 円形 径30～70cm 深さ10～28cm | ほぼ同一地点、同一規模の建替え |
| SB 20 | 3×2 | 総柱建物 N 1° W 南北棟 | 31.32 | 5.4 | 5.8 | 1.8等間 | 2.9等間 | 円形 径40～70cm 深さ10～28cm | |
| SB 21 | 2×1 | 側柱建物 N S 0° 南北棟 | 13.44 | 4.2 | 3.2 | 北から 2.3+1.9 | 3.2 | 円形 径20～30cm 深さ11～24cm | |
| SB 22 | 4×1 | 側柱建物 E 4° S 東西棟 | 17.28 | 6.4 | 2.7 | 1.6等間 | 2.7 | 円形 径30～50cm 深さ12～29cm | 柱痕跡（径10～15cm） |
| SB 23 | 1×1 | 側柱建物 N 10° W 南北棟 | 7.56 | 2.8 | 2.7 | 2.8 | 2.7 | 円形 径20～40cm 深さ13～20cm | 切り合い関係よりSB 23がSB 24・25より新しい |
| SB 24 | 1×1 | 側柱建物 N 3° W 南北棟 | 7.54 | 2.9 | 2.6 | 2.9 | 2.6 | 円形 径20～40cm 深さ30～44cm | |
| SB 25 | 1×1 | 側柱建物 N 16° W 東西棟 | 4.37 | 2.3 | 1.9 | 2.3 | 1.9 | 円形 径25～35cm 深さ20～35cm | |
| SB 26 | 1×1 | 側柱建物 N 5° W | 4.00 | 2.0 | 2.0 | 2.1 | 2.0 | 円形 径25～40cm 深さ10～30cm | |

**第7表　古墳時代掘立柱建物一覧表**

| 遺構 | 規模（間） | 棟方向 | 床面積（㎡） | 桁行（m） | 梁行（m） | 柱間寸法 | | 柱堀形 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 桁行（m） | 梁行（m） | | |
| SB 27 | 3×2 | 側柱建物 N 22° W 南北棟 | 10.80 | 3.6 | 3.0 | 1.2等間 | 1.5等間 | 円形 径40～60cm 深さ9～36cm | 束柱あり、床張りか |
| SB 28 | 2×1以上 | 側柱建物 E 34° S 東西棟 | (8.82) | 2.1以上 | 4.2 | 2.1以上 | 2.1等間 | 円形 径50cm 深さ21～42cm | 柱痕跡（径15～20cm） |

**第8表　飛鳥・奈良時代掘立柱建物一覧表**

| 遺構 | 規模（間） | 棟方向 | 床面積（㎡） | 桁行（m） | 梁行（m） | 柱間寸法 | | 柱堀形 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 桁行（m） | 梁行（m） | | |
| SB 29 | 4×3 | 総柱建物 N 66° E 南北棟 | 46.85 | 8.7 | 5.85 | 西から 2.4+2.25+1.8+2.25 2.1+2.25+2.1+2.25 | 北から 2.1+1.8+1.95 | 円形 径20～70cm深さ11～50cm | 身舎3間×2間 北庇3間×1間 東庇2間×1間 |
| SB 30 | 4×3 | 総柱建物 E26.5° S 南北棟 | 59.87 | 8.35 | 7.17 | 北から 1.95+2.15+2.15+2.1 | 西から 2.46+2.46+2.25 | 円形 径20～30cm 深さ10～38cm | 一部の柱穴に根石あり 束柱なし |
| SB 31 | 2×2 | 総柱建物 N 62° E 南北棟 | 9.88 | 3.3 | 3.0 | 1.65 等間 | 1.5等間 | 円形、方形 径15～30cm 深さ11～50cm | 桁行と梁行が直交しない 倉庫と考えられる 他の建物よりもやや新しい |
| SB 32 | 1以上×2 | 総柱建物 N 66° E 南北棟 | (11.16) | 2.4 | 4.65 | 2.4以上 | 北から 2.55+2.1 | 円形 径25～50cm 深さ19～48cm | 東側2間×1間に土坑 |
| SB 33 | 1以上×3 | 総柱建物 N65.5° E 南北棟 | (16.56) | 2.4 | 8.7 | 2.4以上 | 北から 2.4+2.4+2.1+1.8 | 円形 径20～45cm 深さ2～51cm | SB 32の建替え 東側3間×1間に土坑 南側1間は庇か |

**第9表　平安・鎌倉時代掘立柱建物一覧表**

| 遺構 | 規模 | | 溝方向 | 時期 | 出土遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 幅（m） | 深さ（cm） | | | | |
| SD 21 | 0.5 | 8～10 | N 64° W | | 土師器細片 | |
| SD 22 | 1.2 | 1～31 | N 63° W | 中世末・近世以降 | 天目茶碗、丸碗、徳利 | |
| SD 23 | 0.3 | 5～10 | N 62° W | | | |
| SD 24 | 1.0～1.6 | 9～21 | N 65° W | | | |
| SD 25 | 0.3 | 4～15 | N 65° W | 平安末～鎌倉初 | 土師器小皿、陶器椀 | |
| SD 26 | 0.3～1.9 | 2～48 | N 63° W | 平安末～鎌倉初 | 土師器細片 | |
| SD 27 | 0.5 | 5～9 | E 27° S | | | |
| SD 28 | 0.4 | 2～28 | E 28.5° S | | 土師器細片 | |
| SD 29 | 1.0～2.4 | 9～17 | N 63° W | 平安末以降 | 灰釉陶器碗、陶器椀・皿、青磁碗、須恵器杯・甕 | 条里坪界溝 |
| SD 30 | 0.6～0.8 | 11～17 | N 56° W | 平安末～鎌倉初 | 土師器小皿・鍋、陶器椀 | |
| SD 31 | 0.3～0.7 | 9～12 | N 54° W | 平安末～鎌倉初 | 陶器椀 | |
| SD 32 | 0.8 | 8～20 | N 60° W | 平安末～鎌倉初 | 陶器椀・皿 | |
| SD 33 | 0.8 | 7～16 | N 58° W | 平安末～鎌倉初 | 陶器椀 | |
| SD 34 | 0.8 | 3～24 | N 60° W | | 土師器細片 | |
| SD 35 | 1.0 | 8～20 | E 24° S | 平安末～鎌倉初 | 土師器小皿、陶器椀 | |
| SD 36 | 0.6～0.8 | 10～15 | N 57.5° W | 平安末以降 | 陶器椀・皿、天目茶碗陶磁器類、須恵器甕 | 条里坪界溝 |
| SD 37 | 0.7 | 1～14 | N 55° ～72° W | | | |
| SD 38 | 0.7～1.6 | 11～57 | N 61.5° W | 平安末～鎌倉初 | 土師器鍋、陶器椀 | |
| SD 39 | 0.4～0.8 | 7～21 | E 25° ～30° S<br>E 9° S | 平安末～鎌倉初 | 土師器細片 | SB 32・33の区画溝 |

**第10表　平安時代以降　溝一覧表**

| 報告番号 | 整理番号 | 種類 | 器種 | 出土遺構 | 法量(cm) | | | 調整・技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 残存度 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | | | |
| 1 | 205-03 | 縄文土器 | 深鉢 | C地区<br>東西トレンチ | — | — | — | 磨滅が著しい 外面に沈線 | 粗<br>～3㎜砂粒含 | 良 | 灰白色 | 細片 | 中期 |
| 2 | 055-01 | 縄文土器 | 深鉢 | A地区<br>Aトレンチ | — | — | — | 磨滅が著しい 外面に沈線 | やや粗<br>～1㎜砂粒含 | 良 | 灰黄色 | 口縁部細片 | 中期～後期 |
| 3 | 055-02 | 縄文土器 | 深鉢 | A地区<br>Aトレンチ | (30.2) | — | — | 外面に条痕調整 | やや粗<br>～1㎜砂粒含 | 良 | にぶい黄橙色 | 口縁部～体部1/5 | 後期 |
| 4 | 052-04 | 縄文土器 | 深鉢 | B地区<br>包含層 | — | — | — | 外面に条痕調整 | 密 | 良 | 淡黄色 | 口縁部1/5 | 後期 |
| 5 | 053-01 | 縄文土器 | 深鉢 | B地区<br>東壁トレンチ | — | — | — | 口縁部に巻貝による4本の凹線 | 密<br>～1㎜砂粒含 | 良 | にぶい褐色 | 口縁部1/5 | 後期 |
| 6 | 001-01 | 縄文土器 | 深鉢 | B地区<br>東西トレンチ | 45.0 | — | 45.5 | 口縁部に巻貝による4本の凹線<br>2個の扇状圧痕<br>外面条痕調整 内面条痕調整後ﾅｽﾞﾘ | 密<br>～3㎜砂粒含 | 良 | 黒褐色 | ほぼ完形 | 外面にスス付着<br>後期 |
| 7 | 205-02 | 縄文土器 | 小型壺 | C地区<br>東西トレンチ | — | (5.4) | — | 磨滅が著しい | 粗<br>～3㎜砂粒含 | 不良 | 褐灰色 | 底部1/2 | 底部に木葉痕 |
| 8 | 187-10 | 縄文土器 | 深鉢 | SR3 | — | — | — | 口縁部に貼付突帯後押圧<br>外面に条痕調整 | 密<br>～1㎜砂粒含 | 良 | にぶい黄橙色 | 口縁部1/5 | 晩期 |
| 9 | 210-01 | 縄文土器 | 深鉢 | C地区<br>包含層 | — | — | — | 口縁部に貼付突帯後押圧 | 粗 | 良 | 灰白色 | 口縁部1/5 | 晩期 |
| 10 | 227-05 | 縄文土器 | 深鉢 | E地区<br>包含層 | — | — | — | 口縁部に貼付突帯後押圧 | 粗 | 良 | にぶい黄橙色 | 口縁部1/5 | 晩期 |
| 11 | 069-04 | 縄文土器 | 浅鉢 | SR7 | — | — | — | 口縁部を折り曲げる 外面ケズリ | 粗 | 良 | 灰黄褐色 | 口縁部1/5 | 晩期 |
| 12 | 064-02 | 縄文土器 | 深鉢 | SD4 | 23.0 | — | — | 口縁部に3本1組棒状工具による沈線<br>外面に条痕調整 | 密 | 良 | 灰褐色 | 口縁部1/3 | 晩期 |
| 13 | 205-01 | 縄文土器 | 深鉢 | C地区<br>褐灰色粘質土 | 23.6 | — | — | 口縁部ナデ 体部ナデ | 粗<br>～2㎜砂粒含 | 良 | 灰色 | 口縁部1/4 | 晩期 |
| 14 | w029-01 | 木製品 | 杭 | SB2 | 長さ<br>(45.1) | 径<br>12.7 | — | 四つ割材 | — | — | — | 上部腐食 | 樹種未同定 |
| 15 | w029-02 | 木製品 | 杭 | SB2 | 長さ<br>(36.2) | 径<br>12.3 | — | 四つ割材 | — | — | — | 上部腐食 | 樹種未同定 |
| 16 | 201-05 | 弥生土器 | 受口甕 | SB11 | (14.0) | — | — | 口縁部外面ハケ後刺突列文<br>頸部ヨコナデ | 密<br>～1㎜砂粒含 | 良 | 茶灰色 | 口縁部約5cm<br>小片 | |
| 17 | 121-05 | 弥生土器 | 壺 A | SX1 | (17.2) | — | — | 頸部外面タテハケ後二枚貝腹縁による<br>直線文<br>口縁部に2個一対瘤状突起 | やや粗<br>～2㎜砂粒含 | 良 | 黒灰色<br>明褐灰色 | 口縁部1/4 | 風化大 |
| 18 | 119-02 | 弥生土器 | 壺 A | SX1 | (23.0) | — | — | 頸部外面に二枚貝腹縁による直線文 | やや粗<br>～3㎜砂粒多含 | 良 | 黄橙色 | 口縁部1/5 | 風化大 |
| 19 | 119-03 | 弥生土器 | 壺 C | SX1 | (20.8) | — | — | 口縁端面上下に刺突列文<br>2個一対瘤状突起<br>頸部外面タテハケ | 密<br>若干砂粒含 | 良 | 黄橙色 | 口縁部1/5 | 風化大 |
| 20 | 122-01 | 弥生土器 | 壺 C | SX1 | — | — | — | 口縁部内面に指頭による沈線3条以上<br>端面上部押圧文 下部刺突列文 | 密 | 良 | 赤褐色 | 口縁部約6cm<br>小片 | |
| 21 | 120-01 | 弥生土器 | 壺 C | SX1 | — | — | — | 頸部外面に二枚貝腹縁による直線文 | 密 | 良 | 赤褐色 | 口縁部約7cm<br>小片 | |
| 22 | 123-01 | 弥生土器 | 甕 B1 | SX1 | (25.0) | — | — | 外面ハケ？ | 粗<br>～3㎜砂粒多含 | 良 | 暗赤色 | 口縁部1/6 | |
| 23 | 119-01 | 弥生土器 | 甕 A | SX1 | (29.1) | — | — | 外面ヨコハケ<br>内面ヨコからナナメハケ | やや粗<br>～3㎜砂粒多含 | 良 | 黄橙色 | 口縁部1/5 | |
| 24 | 121-04 | 弥生土器 | 甕 B1 | SX1 | (24.4) | — | — | 口縁部ナデ 頸部オサエ<br>体部内外面ケズリ | 密<br>～3㎜砂粒含 | 良 | 褐色 | 口縁部1/6 | |
| 25 | 119-06 | 弥生土器 | 鉢 | SX1 | (40.6) | — | — | 外面条痕調整 内面ナナメハケ | 粗<br>白色砂粒多含 | 良 | 浅黄橙色 | 口縁部1/10 | 風化大 |
| 26 | 121-01 | 石製品 | 石包丁 | SX1 | — | — | — | 表面全て剥離 円孔1カ所残る | — | — | — | — | 珪質石ぼく千枚岩 |
| 27 | 126-02 | 弥生土器 | 壺 A | SF1 | (16.7) | — | — | 口縁端面に刺突列文<br>内面に2個一対の瘤状突起が4方向<br>頸部外面直線文 | やや粗<br>～2㎜砂粒多含 | 良 | 暗黄橙色 | 口縁部ほぼ完存 | |
| 28 | 126-03 | 弥生土器 | 壺 C | SF1 | — | — | — | 頸部外面二枚貝腹縁による直線文<br>2条の貼付け突帯に刺突列文<br>体部ナデ | 密 | 良 | 赤褐色 | 8×8cm小片 | |
| 29 | 125-01 | 弥生土器 | 甕 A | SF1 | 20.6 | 5.3 | — | 口縁部ヨコナデ 内面ヨコハケ<br>口縁部外面ヨコハケ 体部タテハケ<br>内面ナデ | やや粗<br>～1㎜砂粒含 | 良 | 褐色 | 全体1/2 | 外面にスス付着 |
| 30 | 126-01 | 弥生土器 | 鉢 | SF1 | (43.7) | — | — | 外面タテハケ 内面ハケ？ | 粗<br>～4㎜砂粒多含 | 良 | 黄灰色 | 口縁部1/8 | |
| 31 | 124-09 | 弥生土器 | 壺 | SF1 | — | (14.0) | — | 外面被熱のため黒化<br>内面剥離多く調整不明 | 密 | 良 | 淡橙色 | 底部1/10 | |
| 32 | 124-05 | 弥生土器 | 壺 | SF1 | — | (7.1) | — | 内外面ナデ | 密<br>～2㎜砂粒含 | 良 | 橙色 | 底部1/3 | |
| 33 | 124-01 | 弥生土器 | 甕 | SF1 | — | (7.4) | — | 内外面調整不明 | 密<br>～2㎜砂粒含 | 良 | 灰色<br>橙色 | 底部3/4 | |
| 34 | 124-04 | 弥生土器 | 甕 | SF1 | — | (5.3) | — | 外面タテハケ 内面被熱で赤変 | 密<br>～2㎜砂粒含 | 良 | 赤褐色 | 底部1/3 | |
| 35 | 125-02 | 石製品 | 扁平片刃石斧 | SF1 | 長さ<br>3.7 | 幅<br>3.5 | 厚さ<br>0.7 | — | — | — | — | ほぼ完存 | 重量20.2g<br>砂岩 |

**第11表 遺物観察表（1）**

| 報告番号 | 整理番号 | 種類 | 器種 | 出土遺構 | 法量(cm) | | | 調整・技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 残存度 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | | | |
| 36 | 128-01 | 弥生土器 | 壺 A | SK1 | (26.1) | — | — | 口縁部ヨコナデ 端面に波状文<br>内外面ヨコハケ | 密<br>～2㎜砂粒含 | 良 | 赤色 | 口縁部1/6 | |
| 37 | 128-03 | 弥生土器 | 壺 A | SK1 | (19.0) | — | — | 口縁部ヨコナデ 頸部外面タテハケ後二枚貝腹縁による直線文<br>内面ナデ・オサエ | 密<br>～3㎜砂粒含 | 良 | 橙灰色 | 口縁部1/3 | |
| 38 | 131-03 | 弥生土器 | 壺 A | SK1 | 19.2 | — | — | 口縁端面波状文 内面瘤状突起3方向<br>頸部外面ハケ後二枚貝腹縁による直線文内面ハケ | 密<br>～2㎜砂粒含 | 良 | 灰褐色 | 口縁部2/3 | |
| 39 | 130-01 | 弥生土器 | 壺 B | SK1 | (20.8) | — | — | 口縁端面に波状文<br>2個一対の指頭押圧文4方向<br>頸部外面タテハケ後直線文 | 密<br>砂粒含 | 良 | 褐色 | 口縁部1/4 | |
| 40 | 130-04 | 弥生土器 | 壺 C | SK1 | (23.2) | — | — | 口縁端面上下端にヘラ状工具による押圧文<br>口縁部ヨコナデ | 密 | 良 | (内) 暗褐色<br>(外) 赤色 | 口縁部1/5 | |
| 41 | 131-01 | 弥生土器 | 壺 C | SK1 | (30.6) | — | — | 口縁端面下部にヘラ状工具による刺突列文 頸部外面ナデ後二枚貝腹縁による直線文 | やや粗<br>～2㎜砂粒含 | 良 | 黄灰色 | 口縁部1/7 | |
| 42 | 129-01 | 弥生土器 | 壺 C | SK1 | (42.0) | — | — | 口縁端面直線文 内面瘤状突起4方向<br>頸部外面ハケ後二枚貝腹縁による直線文 2条貼付け突帯 | 密<br>～1㎜砂粒含 | 良 | 橙灰色 | 口縁部1/4<br>体部3/4 | |
| 43 | 130-02 | 弥生土器 | 甕 A | SK1 | (34.0) | — | — | 口縁部ヨコナデ 指頭押圧文1カ所<br>体部外面タテハケ 内面ナデ | 密<br>～1㎜砂粒含 | 良 | 灰褐色 | 口縁部1/12 | 口縁部内面にスス付着 |
| 44 | 131-02 | 弥生土器 | 甕 B2 | SK1 | (26.0) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面条痕調整 内面ナデ | やや粗<br>砂粒多含 | 良 | 赤色 | 口縁部1/7 | |
| 45 | 128-02 | 弥生土器 | 甕 C | SK1 | (32.1) | — | — | 口縁端面ハケ状工具による刺突列文<br>体部外面タテハケ 内面ヨコハケ | 密<br>～1㎜砂粒含 | 良 | 乳茶色 | 口縁部1/2 | |
| 46 | 132-02 | 弥生土器 | 甕 B1 | SK1 | (28.0) | — | — | 口縁部内面に刺突列文 口縁端面にハケ状工具による刺突列文 体部外面タテハケ 内面ヨコハケ | やや粗<br>～1㎜砂粒含 | 良 | 赤褐色 | 口縁部1/8 | |
| 47 | 130-03 | 弥生土器 | 鉢 | SK1 | (36.0) | — | — | 口縁部ナデ<br>体部外面ナデ 内面ヨコハケ | 密<br>～1㎜砂粒含 | 良 | 灰褐色 | 口縁部1/7 | |
| 48 | 130-07 | 弥生土器 | 壺 | SK1 | — | (6.6) | — | 内外面調整不明 | 粗<br>～5㎜砂粒多含 | 良 | 赤色 | 底部1/4 | |
| 49 | 130-05 | 弥生土器 | 壺 | SK1 | — | (7.2) | — | 外面タテハケ後ナデ<br>内面ヨコハケ後ナデ | 密<br>～5㎜砂粒含 | 良 | 橙褐色 | 底部1/2 | |
| 50 | 132-01 | 弥生土器 | 壺 | SK1 | — | 10.4 | — | 外面ナデ 内面剥離多く調整不明 | やや粗<br>～4㎜砂粒含 | 良 | 赤褐色 | 底部1/2 | |
| 51 | 131-04 | 弥生土器 | 甕 | SK1 | — | 8.0 | — | 外面タテハケ 内面不明 | 粗<br>～2㎜砂粒多含 | 良 | 赤色 | 底部1/2 | |
| 52 | 130-06 | 弥生土器 | 甕 | SK1 | — | (6.0) | — | 内外面調整不明 | 密<br>～2㎜砂粒含 | 良 | 褐色 | 底部1/2 | |
| 53 | 034-01 | 弥生土器 | 壺 C | SK3 | (33.9) | — | — | 口縁部ヨコナデ 端面下部押圧文<br>頸部内外面ナデ | 密<br>～5㎜砂粒多含 | やや不良 | (内) 浅黄橙色<br>(外) 浅黄色 | 口縁部1/8 | |
| 54 | 033-02 | 弥生土器 | 壺 A | SK3 | (18.4) | — | — | 口縁部ヨコナデ 内面瘤状突起<br>頸部外面タテハケ後二枚貝腹縁による直線文 内面ヨコハケ | 並<br>細砂粒含 | 良 | にぶい橙色 | 口縁部1/6 | |
| 55 | 039-01 | 弥生土器 | 甕 B1 | SK3 | (19.1) | (5.7) | — | 口縁部外面タテハケ 内面ヨコハケ<br>底部ナデ | 密<br>～3㎜砂粒多含 | やや不良 | にぶい橙色 | 底部1/3 | |
| 56 | 039-03 | 弥生土器 | 鉢 | SK3 | — | — | — | 口縁部ナデ<br>体部に把手貼付け | 粗<br>砂粒含 | 良 | 赤色<br>橙色 | 口縁部約6cm<br>小片 | |
| 57 | 056-04 | 石製品 | 石鏃 | SK3 | 長さ<br>2.6 | 幅<br>1.6 | 厚さ<br>0.4 | 側縁はギザギザを狙った作り | — | — | — | 一部欠 | 重量 (0.9g)<br>サヌカイト |
| 58 | 133-01 | 弥生土器 | 壺 C | SK4 | (24.0) | — | — | 口縁部ヨコナデ 端面上下部に刻目列文 内面に瘤状突起<br>頸部外面タテハケ後直線文 内面ハケ | 密<br>～2㎜砂粒含 | 良 | 明褐色 | 口縁部1/4 | |
| 59 | 133-02 | 弥生土器 | 甕 B1 | SK4 | 26.0 | — | — | 口縁部ヨコナデ 体部外面タテハケ<br>内面ナデ | やや粗<br>～2㎜砂粒含 | 良 | 橙褐色 | 口縁部完存 | |
| 60 | 133-03 | 弥生土器 | 甕 B1 | SK4 | (27.8) | — | — | 口縁部内面ヨコハケ<br>体部外面タテハケ 内面ナデ | 密 | 良 | 褐色 | 口縁部1/2 | |
| 61 | 133-04 | 弥生土器 | 甕 | SK4 | — | (6.4) | — | 内外面ナデ<br>底部中央に上下方向からの穿孔 | 密<br>～2㎜砂粒含 | 良 | 赤褐色 | 底部1/2 | |
| 62 | 127-04 | 弥生土器 | 壺 A | SK9 | 20.6 | — | — | 口縁部ナデ 内面に瘤状突起4方向<br>頸部外面二枚貝腹縁による直線文<br>内面ナデ? | 密<br>～1㎜砂粒含 | 不良 | 褐色 | 口縁部完存 | |
| 63 | 034-02 | 弥生土器 | 壺 B | SK2 | (23.6) | — | — | 口縁端面に波状文 内面に2個一対瘤状突起 頸部外面タテハケ後二枚貝腹縁による直線文 | 粗<br>～3㎜砂粒多含 | 良 | 浅黄橙色<br>灰白色 | 口縁部1/6 | |
| 64 | 123-05 | 弥生土器 | 壺 B | SK6 | (20.0) | — | — | 口縁端面2段刺突列文<br>内面に瘤状突起の剥離痕<br>頸部内外面剥離のため不明 | やや粗<br>～5㎜砂粒多含 | 良 | 浅黄橙色 | 口縁部1/4 | |
| 65 | 127-03 | 弥生土器 | 甕 B1 | SK9 | (27.4) | — | — | 口縁部内面ヨコハケ 外面不明 | 密 | 良 | 赤色 | 口縁部1/4 | |
| 66 | 127-02 | 弥生土器 | 甕 B1 | SK8 | — | — | — | 口縁部内面2条波状文<br>体部外面波状文 | 密<br>～1㎜砂粒含 | 良 | 暗褐色 | 口縁部4cm<br>小片 | |
| 67 | 042-04 | 弥生土器 | 受口甕 | SK10 | (16.3) | — | — | 口縁部外面櫛状工具による刺突列文<br>ヨコナデ<br>体部外面タテハケ 内面ヨコハケ | 密<br>～2㎜砂粒含 | 良 | 灰黄色 | 口縁部1/6 | |
| 68 | 041-01 | 弥生土器 | 小型壺 | SK10 | (5.0) | — | — | 口縁部ヨコナデ 体部の円孔を焼成前粘土で充填<br>体部内外面ナデ | 密 | 良 | 灰白色 | 体部1/3 | |
| 69 | 040-01 | 弥生土器 | 高杯 | SK10 | — | (12.0) | — | 脚部外面タテハケ・ヘラケズリ・ヘラミガキ<br>内面ヨコハケ・ナデ | 密<br>～3㎜砂粒含 | 良 | 明赤褐色 | 脚部完存 | |
| 70 | 134-04 | 弥生土器 | 甕 | SR1 | (20.0) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面タテハケ後ヘラ描沈線4条<br>内面不明 | 密<br>砂粒多含 | 良 | 赤褐色 | 口縁部1/6 | |

**第12表 遺物観察表（2）**

| 報告番号 | 整理番号 | 種類 | 器種 | 出土遺構 | 法量(cm) | | | 調整・技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 残存度 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | | | |
| 71 | 134-06 | 弥生土器 | 甕 | SR1 | — | (6.4) | — | 外面タテハケ　内面ナデ | やや粗<br>～1㎜砂粒多含 | 良 | 灰褐色 | 底部1/2 | |
| 72 | 134-05 | 弥生土器 | 甕 | SR1 | — | (6.2) | — | 外面タテハケ　内面ナデ | やや粗<br>～2㎜砂粒含 | 良 | 赤褐色 | 底部1/3 | |
| 73 | 134-02 | 弥生土器 | 壺 | SR1 | — | (5.6) | — | 内外面調整不明 | やや粗<br>～1㎜砂粒多含 | 良 | 赤色 | 底部1/3 | 風化大 |
| 74 | 134-01 | 石製品 | 太型蛤刃石斧 | SR1 | 長さ<br>(4.6) | 幅<br>5.7 | 厚さ<br>4.3 | 全面敲打後研磨 | — | — | — | 基部・刃部欠 | |
| 75 | 064-01 | 弥生土器 | 広口壺 | SD4 | (15.6) | — | — | 調整不明 | やや粗 | 良 | 赤色 | 口縁部1/4 | 風化大 |
| 76 | 134-07 | 弥生土器 | 無頸壺 | SD4 | 10.4 | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面タテハケ　内面板ナデ | 並 | 良 | 浅黄橙色 | 口縁部2/5 | |
| 77 | 137-02 | 弥生土器 | 壺 | SD4 | — | 5.0 | — | 体部外面ヘラミガキ　内面ナデ | 並 | 良 | 橙色 | 体部完存 | |
| 78 | 137-01 | 弥生土器 | 壺 | SD4 | — | 4.6 | — | 体部外面ヘラミガキ　内面ナデ | 並 | 良 | 橙色 | 体部2/5 | |
| 79 | 135-03 | 弥生土器 | 受口甕 | SD4 | (17.2) | — | — | 口縁部ヨコナデ　外面刺突列文<br>体部外面ナデ　櫛描直線文<br>体部内面ナデ | 粗 | 良 | 灰白色 | 口縁部1/2 | |
| 80 | 137-03 | 弥生土器 | 受口甕 | SD4 | (22.2) | — | — | 口縁部ヨコナデ　外面刺突列文<br>頸部外面ナデ　内面ヨコハケ | 並 | 良 | 浅黄色 | 口縁部2/5 | |
| 81 | 135-02 | 弥生土器 | 高杯 | SD4 | (23.8) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>杯底部内外面ヘラミガキ | 並 | 良 | にぶい橙色 | 口縁部1/5 | |
| 82 | 135-04 | 弥生土器 | 高杯 | SD4 | — | 9.4 | — | 外面ヨコナデ後ヘラミガキ　内面ナデ<br>5方向穿孔列（3列4孔　1列3孔　1列2孔） | 並 | 良 | 橙色 | 脚部ほぼ完存 | |
| 83 | 135-05 | 弥生土器 | 台付壺 | SD4 | — | 9.2 | — | 調整不明<br>2個一対円孔が4方向 | 並 | 良 | 橙色 | 脚部完存 | 風化大 |
| 84 | 135-06 | 弥生土器 | 台付壺 | SD4 | — | (7.1) | — | 脚端部ヨコナデ以外調整不明<br>上位・下位とも5方向　千鳥状に穿孔 | 並 | 良 | にぶい橙色 | 脚部2/5 | 風化大 |
| 85 | 063-02 | 弥生土器 | 広口壺 | SR2 | 13.0 | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>頸部外面ヘラミガキ<br>頸部内面ヨコハケ？後ナデ | 密 | 良 | 褐色 | 口縁部2/3 | |
| 86 | 063-05 | 弥生土器 | 高杯 | SR2 | — | 14.0 | — | 外面タテハケ後ナデ　内面ナデ<br>4方向透孔・端部に半円形切り込み | 密 | 良 | 灰白色 | ほぼ完形 | 朱塗り |
| 87 | 063-03 | 弥生土器 | 広口壺 | SR2 | (14.9) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面不明　内面ナデ・オサエ | 密<br>～3㎜砂粒含 | 良 | 灰褐色 | 頸部1/4 | 外面にスス付着 |
| 88 | 063-04 | 弥生土器 | 壺 | SR2 | — | 5.4 | — | 外面ナデ　内面ナデ・オサエ | やや粗<br>～5㎜砂粒多含 | 良 | (内) 淡黒色<br>(外) 灰橙色 | 底部完存 | |
| 89 | w024-04 | 木製品 | 太杭 | SZ2 | 長さ<br>(51.3) | 幅<br>8.3 | 厚さ<br>4.9 | 杭先端部を方形状に加工<br>芯持ち材 | — | — | — | — | |
| 90 | w024-05 | 木製品 | 太杭 | SZ2 | 長さ<br>(66.4) | 径<br>8.3～8.9 | — | 芯持ち材 | — | — | — | — | 頭部乾燥により収縮 |
| 91 | w024-01 | 木製品 | 杭 | SR2 | 長さ<br>(88.2) | 径<br>4.0～4.2 | — | 芯持ち材 | — | — | — | — | |
| 92 | w024-03 | 木製品 | 杭 | SZ2 | 長さ<br>(86.5) | 径<br>5.0～5.1 | — | 先端部半　材<br>芯持ち材 | — | — | — | — | |
| 93 | w028-01 | 木製品 | 杭 | SZ2 | 長さ<br>(41.9) | 径<br>4.3 | — | 芯持ち材 | — | — | — | — | |
| 94 | w028-02 | 木製品 | 杭 | SZ2 | 長さ<br>(24.5) | 幅<br>5.7 | 厚さ<br>2.6～5.4 | 端部断面方形状に加工<br>約2cmの方孔穿つ<br>芯持ち材 | — | — | — | — | 建築部材転用？<br>側面一部に樹皮残 |
| 95 | w028-04 | 木製品 | 杭 | SZ1 | 長さ<br>(19.4) | 径<br>4.3 | — | 芯持ち材 | — | — | — | — | |
| 96 | w028-03 | 木製品 | 杭 | SZ1 | 長さ<br>(25.2) | 径<br>3.9～5.0 | — | 芯持ち材 | — | — | — | — | |
| 97 | 202-05 | 弥生土器 | 壺　C | P1 | (40.0) | — | — | 口縁端面直線文　下部指頭押圧列文<br>頸部外面ハケ後条痕　二枚貝腹縁による直線文　内面ヨコハケ | やや粗<br>～3㎜砂粒含 | 良 | 灰褐色 | 口縁部1/4 | |
| 98 | 052-06 | 弥生土器 | 壺　A | D地区<br>包含層 | (23.5) | — | — | 口縁端面上部に刻目列文<br>内面に瘤状突起<br>頸部外面ナデ　内面ヨコハケ | 密 | 良 | 浅黄橙色 | 口縁部1/6 | |
| 99 | 058-12 | 弥生土器 | 受口甕 | D地区<br>包含層 | (19.6) | — | — | 口縁部外面に刺突列文<br>頸部内外面ナデ | 密 | 良 | にぶい黄橙色 | 口縁部1/6 | |
| 100 | 205-04 | 石製品 | 扁平片刃石斧 | C地区<br>包含層 | 長さ<br>(5.2) | 幅<br>(6.0) | 厚さ<br>1.0 | — | — | — | — | 先端部欠 | 凝灰質砂岩 |
| 101 | 201-01 | 土師器 | 高杯 | SB26 | — | — | — | 外面ナデ　内面ナデアゲ・ヨコナデ | 密 | 良 | 灰茶色 | 脚部上半完存 | |
| 102 | 201-03 | 土師器 | 高杯 | SB26 | — | — | — | 外面ナデ　内面ナデアゲ・ヨコナデ | 密 | 良 | 乳茶色 | 杯部1/2<br>脚部上半完存 | |
| 103 | 201-02 | 土師器 | 高杯 | SB23 | — | 8.4 | — | 外面タテハケ　端部ヨコナデ<br>脚端部折り返し | 密 | やや不良 | 淡橙色 | 脚台部完存 | |
| 104 | w011-01 | 木製品 | 井戸枠 | SE1 | — | 65.1 | (52.3) | 底部に段を削り出す<br>底部ケズリ | — | — | — | 上部腐食 | 桶転用<br>クスノキ |
| 105 | 122-02 | 土師器 | S字甕 | SE1 | (15.4) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面タテハケ　内面ナデ | やや粗 | 良 | 灰白色 | 口縁部1/6 | |

**第13表　遺物観察表（3）**

| 報告番号 | 整理番号 | 種類 | 器種 | 出土遺構 | 法量(cm) | | | 調整・技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 残存度 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | | | |
| 106 | 138-02 | 土師器 | S字甕 | SE1 | — | 7.6 | — | 外面タテ～ナナメハケ　内面ナデ<br>脚端部折り返し | 密 | 良 | 乳茶色 | 脚台部完存 | |
| 107 | 138-03 | 土師器 | 高杯 | SE1 | (17.2) | 10.4 | 12.4 | 杯部ヨコナデ<br>脚部外面ヨコナデ・オサエ<br>内面ナデアゲ・ヨコナデ | 密 | やや不良 | 灰褐色 | 脚部1/5 | |
| 108 | 138-01 | 土師器 | 高杯 | SE1 | — | (11.2) | — | 外面ヨコナデ・オサエ<br>内面ナデアゲ・ヨコナデ | 密 | 良 | 灰赤色 | 柱状部完存<br>端部1/3 | |
| 109 | w026-01 | 木製品 | 補強材 | SE1 | 長さ<br>(31.6) | 幅<br>16.5 | 厚さ<br>1.0～1.7 | 柾目材<br>方孔 | — | — | — | — | |
| 110 | w023-04 | 木製品 | 補強材 | SE1 | 長さ<br>(23.0) | 幅<br>14.0 | 厚さ<br>0.3～1.0 | 柾目材<br>方孔 | — | — | — | — | |
| 111 | w023-03 | 木製品 | 補強材 | SE1 | 長さ<br>(22.0) | 幅<br>(10.7) | 厚さ<br>1.5 | 柾目材 | — | — | — | — | |
| 112 | w023-02 | 木製品 | 補強材 | SE1 | 長さ<br>(35.0) | 幅<br>(14.5) | 厚さ<br>1.7 | 柾目材 | — | — | — | — | |
| 113 | w023-01 | 木製品 | 補強材 | SE1 | 長さ<br>(38.0) | 幅<br>15.0 | 厚さ<br>1.6 | 柾目材<br>方孔 | — | — | — | — | |
| 114 | 202-04 | 石製品 | 砥石 | SK12 | 長さ<br>(12.7) | 幅<br>11.4 | 厚さ<br>3.3 | 一面のみ使用 | — | — | — | — | 砂岩 |
| 115 | 215-01 | 土師器 | 高杯 | SK11 | 23.3 | — | — | 杯部外面横方向ヘラミガキ<br>杯部内面縦方向ヘラミガキ | 密 | 良 | 橙色 | 口縁部完存 | |
| 116 | 216-03 | 土師器 | 高杯 | SK11 | (13.1) | — | — | 杯部外面ナデ後横方向ヘラミガキ<br>内面縦方向ヘラミガキ　脚部外面ナデ<br>後ヘラミガキ？　内面ヨコハケ | 密 | 良 | 浅黄橙色 | 口縁部1/6 | |
| 117 | 215-03 | 土師器 | 器台 | SK11 | 9.6 | — | — | 口縁部外面～内面ヘラミガキ<br>杯底部オサエ<br>脚部外面ヘラミガキ　内面オサエ | 密 | 良 | 橙色 | 口縁部完存 | |
| 118 | 215-04 | 土師器 | 小型壺 | SK11 | — | — | — | 体部外面ハケ　内面板ナデ・ナデ | 密 | 良 | 橙色 | 体部3/4 | |
| 119 | 037-02 | 土師器 | 広口壺 | SK14 | (18.4) | — | — | 口縁部外面タテハケ<br>口縁部内面ヨコハケ・ナデ | 密<br>～3㎜砂粒含 | 良 | (内) 黒色<br>(外) 灰黄色 | 頸部1/3 | |
| 120 | 037-04 | 土師器 | く字甕 | SK14 | (14.6) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面タテハケ<br>内面オサエ後ナデ | 粗<br>～5㎜砂粒多含 | 良 | 灰白色 | 口縁部1/7 | |
| 121 | 031-01 | 土師器 | く字甕 | SK14 | (18.0) | — | — | 口縁部ヨコナデ　頸部ナデ<br>体部外面タテハケ　内面ヘラケズリ | 密<br>～2㎜砂粒含 | 良 | 明褐灰色 | 口縁部1/6 | |
| 122 | 036-04 | 土師器 | 小型丸底壺 | SK14 | (11.2) | — | 9.4 | 口縁部外面ヨコナデ　内面ナナメハケ<br>体部外面ナデ・ヨコハケ・ナデ | 密<br>～4㎜砂粒多含 | 良 | 橙色<br>にぶい黄橙色 | 口縁部～体部1/2 | |
| 123 | 021-03 | 土師器 | S字甕 | SK14 | — | (7.8) | — | 外面ナナメハケ　内面オサエ・ナデ<br>脚端部折り返し | 密<br>砂粒多含 | 良 | 浅黄橙色 | 脚台部完存 | |
| 124 | 037-05 | 土師器 | S字甕 | SK14 | — | 9.2 | — | 外面タテハケ・ナデ<br>内面オサエ後ナデ<br>脚端部折り返し | やや粗<br>～6㎜砂粒多含 | 良 | 淡黄色 | 脚台部1/2 | |
| 125 | 037-03 | 土師器 | S字甕 | SK14 | (12.0) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面タテハケ | 粗<br>～5㎜の砂粒多含 | 良 | 淡黄色<br>浅黄色 | 口縁部1/4 | |
| 126 | 036-02 | 土師器 | S字甕 | SK14 | (13.8) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面タテハケ　内面ナデ・オサエ | 密<br>砂粒多含 | 良 | にぶい黄橙色 | 口縁部～体部1/4 | |
| 127 | 038-01 | 土師器 | 直口壺 | SK14 | (30.1) | — | — | 口縁部外面タテハケ　内面ヨコハケ<br>体部外面ナナメハケ　内面ヨコハケ | 粗<br>～7㎜砂粒多含 | 良 | 橙色<br>にぶい黄橙色 | 口縁部1/8 | |
| 128 | 036-01 | 土師器 | 高杯 | SK14 | (18.7) | — | — | 口縁部ヨコナデ　杯部内外面ナデ | 密<br>～3㎜砂粒含 | 良 | 橙色<br>にぶい褐色 | 口縁部1/3 | |
| 129 | 037-01 | 土師器 | 高杯 | SK14 | 22.6 | 15.4 | 13.0 | 口縁部ヨコナデ<br>杯部ナデ<br>脚部外面ナデ　内面ナデ・オサエ | 密<br>～3㎜砂粒含 | 良 | 橙色<br>にぶい橙色 | 全体1/2 | |
| 130 | 032-02 | 土師器 | 小型丸底壺 | SK13 | (9.7) | — | 8.3 | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面オサエ後ナデ底部ヘラケズリ<br>内面ナデ | 密<br>細砂粒含 | 良 | にぶい黄褐色 | 全体1/2 | |
| 131 | 023-01 | 土師器 | 小型丸底壺 | SK13 | (8.5) | — | 9.8 | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面オサエ　内面ナデ<br>底部ヘラケズリ | 密<br>細砂粒多含 | 良 | 浅黄橙色 | 完形 | |
| 132 | 024-05 | 土師器 | 鉢形壺 | SK13 | 12.7 | — | 11.7 | 口縁部外面ヨコナデ<br>口縁部内面ヨコハケ後ヨコナデ<br>体部外面ハケ後ヘラミガキ　内面不明 | 密 | 良 | 浅黄橙色 | 口縁部部一部欠<br>以外完存 | |
| 133 | 022-02 | 土師器 | 直口壺 | SK13 | (11.2) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部内外面ナデ | 密<br>砂粒多含 | 良 | にぶい黄橙色 | 口縁部1/3 | |
| 134 | 022-05 | 土師器 | 直口壺 | SK13 | (12.1) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部内外面ナデ | 密<br>砂粒多含 | 良 | 明黄橙色 | 口縁部1/3 | 口縁部外面にスス付着 |
| 135 | 029-01 | 土師器 | 直口壺 | SK13 | (11.2) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ナデ　内面ナデ・オサエ | 密 | 良 | にぶい黄橙色 | 全体1/2 | 口縁部～体部にスス付着 |
| 136 | 021-02 | 土師器 | く字甕 | SK13 | (14.7) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ナナメハケ後ヨコハケ<br>内面ヘラケズリ・オサエ | 密<br>～3㎜砂粒多含 | 良 | 灰黄橙色 | 口縁部1/4 | 外面にスス付着 |
| 137 | 027-02 | 土師器 | S字甕 | SK13 | — | (7.8) | — | 外面タテハケ　内面ナデ<br>脚端部折り返し | 密<br>～3㎜砂粒含 | 良 | 褐灰色 | 脚台部1/3 | |
| 138 | 026-02 | 土師器 | S字甕 | SK13 | (9.6) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面タテハケ<br>内面オサエ後ナデ | やや粗 | 良 | 明褐灰色 | 口縁部1/5 | |
| 139 | 021-01 | 土師器 | S字甕 | SK13 | (14.6) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ハケ<br>内面ナデ | 密<br>砂粒多含 | 良 | 浅黄橙色 | 口縁部～体部完存 | |
| 140 | 035-01 | 土師器 | S字甕 | SK13 | (14.9) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ハケ　内面オサエ後ナデ | 密<br>～4㎜砂粒含 | 良 | 灰白色 | 口縁部1/3 | |

**第14表　遺物観察表（4）**

| 報告番号 | 整理番号 | 種類 | 器種 | 出土遺構 | 法量(cm) | | | 調整・技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 残存度 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | | | |
| 141 | 030-01 | 土師器 | S字甕 | SK13 | 16.4 | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ハケ　内面オサエ・ナデ | 密<br>砂粒含 | 良 | 黄灰色<br>浅黄色 | 全体3/4 | 外面にスス付着 |
| 142 | 028-01 | 土師器 | S字甕 | SK13 | (13.7) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ハケ　内面ナデ<br>脚台部内面オサエ | 密<br>～3㎜砂粒含 | 良 | にぶい橙色 | 口縁部1/4<br>体部2/3 | |
| 143 | 025-01 | 土師器 | 高杯 | SK13 | (18.8) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>杯部内外面ナデ | 密<br>～1㎜砂粒含 | 良 | 橙色 | 口縁部1/4 | |
| 144 | 027-01 | 土師器 | 高杯 | SK13 | (23.2) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>杯部内外面ナデ | 密 | 良 | にぶい橙色 | 口縁部1/4 | |
| 145 | 022-01 | 土師器 | 高杯 | SK13 | (21.5) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>杯部内外面ナデ | 密<br>～2㎜砂粒含 | 良 | 浅黄橙色 | 口縁部1/2 | |
| 146 | 023-02 | 土師器 | 高杯 | SK13 | (18.4) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>杯部内外面ナデ<br>脚部ナデ・ヨコナデ | 密<br>細砂粒多含 | 良 | 灰白色 | 口縁部1/2 | |
| 147 | 021-05 | 土師器 | 高杯 | SK13 | — | (14.4) | — | 杯部ナデ<br>柱状部外面板状工具によるナデ<br>柱状部内面ナデ | 密<br>細砂粒含 | 良 | 橙色 | 脚部1/2 | |
| 148 | 024-04 | 土師器 | 高杯 | SK13 | — | (11.0) | — | 杯部ナデ<br>柱状部外面板状工具によるナデ<br>柱状部内面ナデ | 密<br>～4㎜砂粒含 | 良 | 灰白色 | 脚部完存 | |
| 149 | 024-01 | 土師器 | 高杯 | SK13 | — | (12.6) | — | 外面板状工具によるナデ<br>端部ヨコナデ<br>内面シボリ | 密 | 良 | 橙色 | 柱状部完存<br>脚端部1/6 | |
| 150 | 025-02 | 土師器 | 高杯 | SK13 | — | (11.6) | — | 杯部接合部オサエ<br>脚部外面ナデ　内面オサエ・ナデ | 密<br>～1㎜砂粒含 | 良 | 橙色 | 柱状部完存<br>脚端部1/4 | |
| 151 | 032-03 | 土師器 | 高杯 | SK13 | — | (13.1) | — | 外面ナデ　内面ヨコハケ・ナデ | 密<br>～7㎜砂粒含 | 良 | 橙色 | 脚部完存 | |
| 152 | 032-01 | 石製品 | 勾玉 | SK13 | 長さ<br>1.4 | 幅<br>0.4 | — | — | — | — | — | 完形 | 重量0.7g<br>滑石 |
| 153 | 139-01 | 土師器 | 短頸壺 | SK15 | 12.4 | — | 15.3 | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ナデ　底部ヘラケズリ<br>内面板状工具によるナデ | やや粗<br>～2㎜砂粒含 | 良 | 灰白色 | 全体2/3 | |
| 154 | 140-05 | 土師器 | 直口壺 | SK15 | (12.6) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面タテハケ後ヨコハケ<br>底部ヘラケズリ　内面ナデ | 粗<br>砂粒多含 | やや不良 | 灰白色 | 体部1/3<br>口縁部一部 | |
| 155 | 142-01 | 土師器 | S字甕 | SK15 | 15.0 | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ハケ　内面オサエ後ナデ | 密<br>～4㎜砂粒含 | 良 | 淡黄色 | 口縁部2/3<br>体部4/5 | |
| 156 | 140-04 | 土師器 | S字甕 | SK15 | — | 8.0 | — | 外面ハケ　内面オサエ<br>脚端部折り返し | 密<br>～3㎜砂粒含 | 良 | にぶい黄橙色 | 脚台部7/8 | |
| 157 | 143-01 | 土師器 | S字甕 | SK15 | (15.0) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ハケ　内面板ナデ | 密 | 良 | 乳茶色 | 全体1/4 | 外面にスス付着 |
| 158 | 141-01 | 土師器 | 鉢 | SK15 | 27.0 | 6.5 | 22.5 | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ナデ後ヘラケズリ<br>内面ナデ後板ナデ？片口有 | やや粗<br>～2㎜砂粒含 | 良 | にぶい黄橙色 | ほぼ完形 | |
| 159 | 144-01 | 須恵器 | 横形瓶 | SK15 | — | 端部<br>9.8 | 体部<br>16.0 | 頸部回転ナデ　端部突帯貼付<br>体部中央3組沈線帯間に波状文<br>円孔　側面にヘラ記号 | 密<br>～2㎜砂粒含 | 良 | 灰色 | 口縁部以外完存 | |
| 160 | 140-01 | 石製品 | 臼玉 | SK15 | 径<br>0.6 | 孔径<br>0.2 | — | — | — | — | — | 完形 | 重量0.1g<br>滑石 |
| 161 | 178-01 | 弥生土器 | 広口壺 | SR3 | (30.0) | — | — | 口縁端部内面に櫛状工具による綾杉文<br>外面に擬凹線 | やや粗 | 良 | にぶい黄橙色 | 口縁部1/6 | |
| 162 | 008-04 | 弥生土器 | 広口壺 | SR3 | (26.6) | — | — | 口縁端部外面に円形浮文<br>内面ハケ | 密<br>～1㎜砂粒含 | やや不良 | 灰白色 | 口縁部片 | |
| 163 | 007-03 | 弥生土器 | 広口壺 | SR3 | — | — | — | 口縁端部外面に竹管文 | 粗<br>～5㎜砂粒含 | 良 | 灰黄色 | 口縁部片 | |
| 164 | 014-01 | 弥生土器 | 壺 | SR3 | — | — | — | 体部外面に櫛状工具による直線文・波状文・綾杉文・円形浮文　内面ハケ | 密 | 良 | 浅黄橙色 | 体部片 | |
| 165 | 007-05 | 弥生土器 | 細頸壺 | SR3 | — | — | — | 外面に沈線 | 密<br>～3㎜砂粒含 | 良 | 褐灰色 | 口縁部片 | |
| 166 | 005-05 | 土師器 | 広口壺 | SR3 | (19.8) | — | — | 口縁部外面に櫛状工具による刺突文<br>内外面ハケ | 密<br>～1㎜砂粒含 | やや不良 | 浅黄橙色 | 口縁部1/2 | |
| 167 | 007-04 | 土師器 | 広口壺 | SR3 | (15.8) | — | — | 口縁部外面に櫛状工具による刺突文<br>内外面ナデ | 密 | 良 | 浅黄橙色 | 口縁部1/8 | |
| 168 | 177-02 | 土師器 | 直口壺 | SR3 | (14.2) | — | — | 口縁部ヨコナデ　外面ハケ<br>内面ユビオサエ | 密 | 良 | 浅黄橙色 | 口縁部1/4 | 接合痕 |
| 169 | 190-06 | 土師器 | 直口壺 | SR3 | (17.0) | — | — | 口縁部ヨコナデ | 密 | 良 | にぶい黄橙色 | 口縁部1/4 | |
| 170 | 177-03 | 土師器 | 直口壺 | SR3 | 12.8 | — | — | 口縁部ヨコナデ　外面ナデ<br>内面板ナデ | やや粗<br>～4㎜砂粒含 | 良 | 浅黄橙色 | 口縁部～頸部1/5 | スス付着　風化大 |
| 171 | 018-02 | 土師器 | 二重口縁壺 | SR3 | (17.4) | — | — | 口縁部内外面に羽状文　外面ハケ<br>内面ナデ | 密<br>～3㎜砂粒含 | 良 | 橙色 | 口縁部1/4 | |
| 172 | 002-03 | 土師器 | 二重口縁壺 | SR3 | (18.2) | — | — | 口縁部内外面に刺突文　外面ハケ | 密<br>細砂粒含 | 良 | 橙色 | 口縁部1/6 | 外面に黒斑 |
| 173 | 016-01 | 土師器 | 二重口縁壺 | SR3 | — | — | — | 内面ナナメミガキ | 密<br>細砂粒含 | 良 | 浅黄橙色 | 口縁部1/5 | 摩滅が著しい |
| 174 | 011-02 | 土師器 | 二重口縁壺 | SR3 | 15.4 | — | — | 口縁部ヨコナデ　内外面ナデ | 密<br>～2㎜砂粒含 | 良 | にぶい黄橙色 | 口縁部1/3 | |
| 175 | 179-02 | 土師器 | 二重口縁壺 | SR3 | (17.8) | — | — | 口縁部ヨコナデ　内外面ナデ | 密<br>砂粒含 | 良 | にぶい黄橙色 | 口縁部1/6 | |

**第15表　遺物観察表（5）**

| 報告番号 | 整理番号 | 種類 | 器種 | 出土遺構 | 法量(cm) | | | 調整・技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 残存度 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | | | |
| 176 | 013-05 | 土師器 | 二重口縁壺 | SR3 | (17.8) | — | — | 口縁部ヨコナデ　内外面ナデ | 密 | やや不良 | 浅黄橙色 | 口縁部1/3 | |
| 177 | 007-02 | 土師器 | 小型丸底壺 | SR3 | — | — | — | 内外面ナデ? | 密 | 良 | 灰白色 | 体部1/3 | |
| 178 | 019-06 | 土師器 | 小型丸底壺 | SR3 | — | — | — | 内面ユビオサエ・ナデ<br>体部外面ナデ・ヘラケズリ | 密 | 良 | 灰白色 | 口縁部・体部1/5 | |
| 179 | 018-05 | 土師器 | 小型丸底壺 | SR3 | 8.6 | — | 6.0 | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ケズリ　内面ナデ | 密<br>砂粒含 | 良 | 橙色 | ほぼ完形 | |
| 180 | 019-05 | 土師器 | 小型丸底壺 | SR3 | — | — | — | 頸部ハケ | 密<br>～6㎜砂粒含 | 良 | 灰白色 | 口縁部欠 | 風化大　外面に黒斑 |
| 181 | 181-06 | 土師器 | 小型丸底壺 | SR3 | — | — | — | 体部外面ハケ後ナデ<br>内面ユビオサエ・ナデ<br>底部ヘラケズリ | 密<br>砂粒含 | 良 | 灰白色 | 口縁部欠 | |
| 182 | 181-05 | 土師器 | 小型丸底壺 | SR3 | — | — | — | 体部外面ナデ・ヘラケズリ<br>内面ユビオサエ・ナデ | 密 | 良 | 灰白色 | 口縁部欠<br>体部一部欠 | |
| 183 | 181-02 | 土師器 | 小型丸底壺 | SR3 | 9.0 | — | 7.3 | 口縁部ヨコナデ<br>外面ナデ・ヘラケズリ<br>内面ユビオサエ・ナデ | 密<br>～6㎜砂粒含 | 良 | 灰黄色 | ほぼ完形 | |
| 184 | 181-01 | 土師器 | 小型丸底壺 | SR3 | 9.4 | — | 8.1 | 口縁部ヨコナデ<br>外面ナデ・ヘラケズリ<br>内面ユビオサエ・ナデ | 密<br>砂粒含 | 良 | 灰白色 | ほぼ完形 | |
| 185 | 002-01 | 土師器 | 小型丸底壺 | SR3 | 9.4 | — | 8.8 | 口縁部ヨコナデ　外面ナデ・ハケ<br>内面ユビオサエ | 密<br>砂粒含 | 良 | 橙色 | 完形 | |
| 186 | 004-03 | 土師器 | 小型丸底壺 | SR3 | (7.0) | — | 8.7 | 口縁部ヨコナデ　外面ナデ・ハケ<br>内面ユビオサエ・ナデ | やや粗 | 良 | 灰白色 | 口縁部3/4欠 | |
| 187 | 013-03 | 土師器 | 小型丸底壺 | SR3 | 9.6 | — | 8.3 | 口縁部ヨコナデ | 密 | 良 | にぶい橙色 | ほぼ完形 | |
| 188 | 019-02 | 土師器 | 小型丸底壺 | SR3 | (10.8) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>外面ナデ<br>内面ヘラケズリ | 密 | 良 | 灰白色 | 口縁部～体部1/2 | |
| 189 | 019-01 | 土師器 | 小型丸底壺 | SR3 | 9.3 | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>外面ナデ・ヘラケズリ<br>内面ユビオサエ・ナデ | 密 | 良 | 浅黄橙色 | 口縁部～体部2/3 | |
| 190 | 011-01 | 土師器 | 小型丸底壺 | SR3 | (7.8) | — | 9.3 | 口縁部ヨコナデ　内面ナデ | 密 | 良 | 橙色 | ほぼ完形 | 風化大 |
| 191 | 019-03 | 土師器 | 小型丸底壺 | SR3 | (8.9) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>外面ユビオサエ・ナデ<br>内面ユビオサエ・ナデ | 密 | 良 | 灰白色 | 口縁部～体部2/5 | 平底? |
| 192 | 181-03 | 土師器 | 小型丸底壺 | SR3 | 7.4 | — | — | 口縁部ヨコナデ　口縁部外面に突帯<br>内外面ナデ | 密 | 良 | 灰黄褐色 | 口縁部～体部2/3 | 平底? |
| 193 | 181-04 | 土師器 | 小型平底壺 | SR3 | 8.8 | — | 8.7 | 口縁部ヨコナデ<br>外面ナデ　内面ナデ・ユビオサエ | 密 | 良 | 灰白色 | 全体2/3 | 風化大 |
| 194 | 185-03 | 土師器 | 甕形壺 | SR3 | 15.8 | — | — | 口縁部内外面ヘラミガキ | 密 | 良 | 灰白色 | 口縁部1/6 | |
| 195 | 180-02 | 弥生土器 | 壺 | SR3 | — | — | 6.2 | 体部外面下半ハケ・ナデ<br>内面板ナデ | 密<br>～4㎜砂粒含 | 良 | 褐灰色 | 底部のみ | 外面にスス付着 |
| 196 | 179-03 | 弥生土器 | 壺 | SR3 | — | — | 5.8 | 内外面ハケ | 密 | 良 | にぶい黄橙色<br>黒色 | 底部のみ | |
| 197 | 181-07 | 弥生土器 | 壺 | SR3 | — | — | 8.0 | 内外面ハケ後ナデ | 密<br>砂粒含 | 良 | にぶい赤橙色 | 底部のみ | 風化大 |
| 198 | 191-05 | 弥生土器 | 壺 | SR3 | — | — | 7.5 | 外面ヘラケズリ　内面ナデ | やや粗<br>～3砂粒含 | 良 | 浅黄橙色 | 底部のみ | 底部外面に木葉痕 |
| 199 | 190-02 | 弥生土器 | 甕 | SR3 | (13.2) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ハケ　内面板ナデ | やや密<br>～3㎜砂粒含 | 良 | にぶい橙色 | 口縁部～体部1/4 | スス付着 |
| 200 | 008-02 | 土師器 | 甕 | SR3 | (13.8) | — | — | 口縁部から体部外面ハケ<br>口縁部内面ハケ・ナデ | 密<br>～1㎜砂粒含 | 良 | 浅黄橙色 | 口縁部1/3 | スス付着 |
| 201 | 013-02 | 土師器 | 甕 | SR3 | (12.6) | — | — | 口縁部から体部外面ハケ<br>口縁部内面ハケ<br>体部内面ナデ | 密<br>～1㎜砂粒含 | 良 | にぶい赤褐色 | 口縁部1/5 | 黒斑 |
| 202 | 017-05 | 土師器 | 甕 | SR3 | (8.2) | — | — | 口縁部ヨコナデ　体部外面ナデ<br>内面ヘラケズリ | 密 | 良 | 灰白色 | 口縁部～体部小片 | |
| 203 | 017-04 | 土師器 | 甕 | SR3 | (10.9) | — | — | 口縁部ヨコナデ　体部外面ナデ<br>内面ユビオサエ・ヘラケズリ | 密 | 良 | 浅黄橙色 | 口縁部1/3 | |
| 204 | 177-04 | 土師器 | 甕 | SR3 | (16.4) | — | — | 口縁部ヨコナデ　体部内外面ハケ | 密<br>～3㎜砂粒含 | 良 | にぶい橙色 | 口縁部1/2 | 風化大　スス付着 |
| 205 | 188-06 | 土師器 | 甕 | SR3 | (16.0) | — | — | 口縁部ヨコナデ　口縁部内面ハケ<br>体部外面ハケ　体部内面ヘラケズリ | 粗 | 良 | 浅黄橙色 | 口縁部1/4 | |
| 206 | 190-04 | 土師器 | 甕 | SR3 | (9.8) | — | — | 口縁部ヨコナデ　体部内面ナデ | 密<br>～4㎜砂粒含 | 良 | 黄灰色 | 口縁部～体上部<br>1/4 | 風化大 |
| 207 | 191-01 | 土師器 | 甕 | SR3 | — | 7.6 | — | 体部外面ハケ　体部内面ナデ | やや粗<br>～2㎜砂粒含 | 良 | 灰白色 | 底部のみ | |
| 208 | 178-02 | 弥生土器 | 受口甕 | SR3 | 14.8 | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>端部外面に櫛状工具による刺突列文<br>頸部外面ハケ | やや粗 | 良 | にぶい黄橙色 | 口縁部1/3 | |
| 209 | 018-04 | 弥生土器 | 受口甕 | SR3 | 15.0 | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>端部外面に櫛状工具による刺突列文<br>頸部外面ハケ | 密<br>～5㎜砂粒含 | 良 | にぶい黄橙色 | 口縁部1/5 | |
| 210 | 015-03 | 土師器 | S字甕　A | SR3 | 16.8 | — | — | 口縁部ヨコナデ口縁端部外面に櫛状工具による押引文<br>頸部外面ハケ | やや粗 | 不良 | 灰白色 | 口縁部1/7 | |

**第16表　遺物観察表（6）**

| 報告番号 | 整理番号 | 種類 | 器種 | 出土遺構 | 法量(cm) | | | 調整・技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 残存度 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | | | |
| 211 | 190-03 | 土師器 | S字甕 | SR3 | 13.3 | — | — | 口縁部ヨコナデ　体部外面ハケ<br>内面ユビオサエ後ナデ | やや粗<br>～3㎜砂粒含 | 良 | 浅黄橙色 | 口縁部1/4 | |
| 212 | 012-03 | 土師器 | S字甕　B | SR3 | (13.8) | — | — | 口縁部ヨコナデ　体部外面ハケ<br>内面ナデ | 密 | 不良 | 淡黄色 | 口縁部1/3 | 口縁部にスス付着 |
| 213 | 005-04 | 土師器 | S字甕　B | SR3 | (13.0) | — | — | 口縁部ヨコナデ　体部外面ハケ<br>内面ナデ | 密 | 良 | 明褐色 | 口縁部1/3 | |
| 214 | 017-01 | 土師器 | S字甕　B | SR3 | (16.0) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ハケ　内面ユビオサエ | 密<br>細砂粒含 | 良 | にぶい黄橙色 | 口縁部1/5 | |
| 215 | 020-01 | 土師器 | S字甕　B | SR3 | (15.4) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ハケ　内面ユビオサエ | 密<br>～1㎜砂粒含 | 良 | 灰白色 | 口縁部1/4 | |
| 216 | 015-02 | 土師器 | S字甕　B | SR3 | (15.4) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ハケ　内面ユビオサエ | 密<br>～5㎜砂粒含 | 良 | 浅黄橙色 | 口縁部1/5 | |
| 217 | 016-03 | 土師器 | S字甕　B | SR3 | — | — | — | 口縁部ヨコナデ | 密<br>細砂粒含 | やや不良 | 浅黄橙色 | 口縁部小片 | |
| 218 | 187-07 | 土師器 | S字甕　B | SR3 | 7.0 | — | — | 口縁部ヨコナデ　体部外面ハケ<br>内面ナデ | 密 | 良 | 淡黄色 | 口縁部～体部1/6 | |
| 219 | 010-01 | 土師器 | S字甕　B | SR3 | (11.2) | — | — | 口縁部ヨコナデ　体部外面ハケ<br>内面ナデ | 密<br>～2㎜砂粒含 | 良 | にぶい黄橙色 | 口縁部1/3<br>体部1/4 | 外面にスス付着 |
| 220 | 017-03 | 土師器 | S字甕　C | SR3 | (14.3) | — | — | 口縁部ヨコナデ　体部外面ハケ<br>内面ユビオサエ | 密<br>細砂粒含 | 良 | にぶい褐色 | 口縁部1/5 | |
| 221 | 018-03 | 土師器 | S字甕　C | SR3 | (14.6) | — | — | 口縁部ヨコナデ　体部外面ハケ<br>内面ナデ | やや粗<br>～4㎜砂粒多含 | 良 | 暗褐色 | 口縁部～体部1/4 | |
| 222 | 188-07 | 土師器 | S字甕　C | SR3 | (13.4) | — | — | 口縁部ヨコナデ　体部外面ハケ<br>内面板ナデ | 粗<br>砂粒含 | 不良 | にぶい黄橙色 | 口縁部1/4 | 内面磨耗 |
| 223 | 006-02 | 土師器 | S字甕　C | SR3 | (14.5) | — | — | 口縁部ヨコナデ　体部外面ナナメハケ<br>内面ユビオサエ・ナデ | 密 | 良 | にぶい黄橙色 | 口縁部1/2 | 外面にスス付着 |
| 224 | 188-04 | 土師器 | S字甕　C | SR3 | (15.7) | — | — | 口縁部ヨコナデ　体部外面ナナメハケ<br>内面板ナデ | 粗<br>砂粒含 | 良 | にぶい黄橙色 | 口縁部1/2 | |
| 225 | 009-07 | 土師器 | S字甕　C | SR3 | (12.8) | — | — | 口縁部ヨコナデ　体部外面ナナメハケ<br>内面ナデ | 密<br>～2㎜砂粒含 | 良 | 浅黄橙色 | 口縁部1/3 | |
| 226 | 005-03 | 土師器 | S字甕　C | SR3 | (14.0) | — | — | 口縁部ヨコナデ　体部外面ナナメハケ<br>内面ユビオサエ・ナデ | 密<br>～1㎜砂粒含 | やや不良 | にぶい黄橙色 | 口縁部1/3 | 口縁部外面にスス付着 |
| 227 | 009-06 | 土師器 | S字甕　C | SR3 | (14.8) | — | — | 口縁部ヨコナデ　体部外面ナナメハケ<br>内面ユビオサエ・ナデ | 密<br>～3㎜砂粒含 | 良 | にぶい黄橙色 | 口縁部1/4 | |
| 228 | 012-02 | 土師器 | S字甕　C | SR3 | (13.7) | — | — | 口縁部ヨコナデ　体部外面ナナメハケ<br>内面ユビオサエ・ナデ | やや粗<br>砂粒多含 | 良 | にぶい黄橙色 | 口縁部1/3 | 外面にスス付着 |
| 229 | 188-02 | 土師器 | S字甕　C | SR3 | (13.0) | — | — | 口縁部ヨコナデ　体部外面ナナメハケ<br>内面ユビオサエ・板ナデ | 粗 | 不良 | 灰褐色 | 口縁部3/4 | |
| 230 | 016-04 | 土師器 | S字甕　C | SR3 | (16.6) | — | — | 口縁部ヨコナデ　体部外面ナナメハケ<br>内面ユビオサエ・ナデ | 密<br>細砂粒含 | 良 | 灰褐色 | 口縁部1/6 | |
| 231 | 006-03 | 土師器 | S字甕　C | SR3 | (14.0) | — | — | 口縁部ヨコナデ　体部外面ナナメハケ<br>内面ユビオサエ | 密<br>～1㎜砂粒多含 | 良 | 淡黄色 | 口縁部1/2 | 外面にスス付着 |
| 232 | 003-03 | 土師器 | S字甕　C | SR3 | (14.6) | — | — | 口縁部ヨコナデ　体部外面ナナメハケ<br>内面ナデ | やや密 | 良 | 灰白色 | 口縁部のみ | |
| 233 | 012-01 | 土師器 | S字甕　C | SR3 | (14.8) | — | — | 口縁部ヨコナデ　体部外面ナナメハケ<br>内面ユビオサエ・ナデ | 密<br>～1㎜砂粒多含 | 良 | 灰白色 | 口縁部1/4 | |
| 234 | 188-01 | 土師器 | S字甕　C | SR3 | (13.8) | — | — | 口縁部ヨコナデ　体部外面ナナメハケ<br>内面ユビオサエ・ナデ | やや粗 | 良 | 浅黄色 | 口縁部1/2 | 外面にスス付着 |
| 235 | 006-01 | 土師器 | S字甕　C | SR3 | (14.0) | — | — | 口縁部ヨコナデ　体部外面ナナメハケ<br>内面ユビオサエ | 密<br>～1㎜砂粒多含 | 良 | 淡黄色 | 口縁部～体部1/4 | 外面にスス付着 |
| 236 | 010-02 | 土師器 | S字甕　C | SR3 | (17.6) | — | — | 口縁部ヨコナデ　体部外面ナナメハケ<br>内面ユビオサエ・ナデ・板ナデ | 密<br>～3㎜砂粒含 | 良 | にぶい黄橙色 | 口縁部1/3<br>体部1/3 | 外面にスス付着 |
| 237 | 008-01 | 土師器 | S字甕　D | SR3 | (14.0) | — | — | 口縁部ヨコナデ　体部外面ナナメハケ<br>内面ナデ | 密 | 良 | にぶい橙色 | 口縁部1/4 | 内面にスス付着 |
| 238 | 008-03 | 土師器 | S字甕　D | SR3 | (14.0) | — | — | 口縁部ヨコナデ　体部外面ナナメハケ<br>内面ナデ | 密 | やや不良 | 灰白色 | 口縁部小片 | |
| 239 | 012-04 | 土師器 | S字甕　D | SR3 | (15.6) | — | — | 口縁部ヨコナデ　体部外面ナナメハケ<br>内面ナデ | 密<br>～1㎜砂粒多含 | やや不良 | 灰白色 | 口縁部1/4 | 内外面にスス付着 |
| 240 | 003-02 | 土師器 | S字甕　D | SR3 | (14.4) | — | — | 口縁部ヨコナデ　体部外面ナナメハケ<br>内面ナデ | 密 | 良 | 灰白色 | 口縁部のみ | |
| 241 | 188-05 | 土師器 | S字甕　D | SR3 | (14.9) | — | — | 口縁部ヨコナデ　体部外面ナナメハケ<br>内面ナデ | 粗<br>～5㎜砂粒含 | 良 | 淡黄色 | 口縁部3/8 | |
| 242 | 009-02 | 土師器 | S字甕 | SR3 | — | 8.0 | — | 脚端部ヨコナデ　端部内面折り返し<br>脚外面ナナメハケ　内面ナデ | 密<br>～1㎜砂粒含 | 良 | 灰黄色 | 脚台部完存 | |
| 243 | 003-01 | 土師器 | S字甕 | SR3 | — | (8.8) | — | 脚端部内面折り返し後ユビオサエ<br>脚外面ナナメハケ<br>内面ユビオサエ・ナデ | やや密<br>～1㎜砂粒含 | 良 | 灰白色 | 脚台部完存 | |
| 244 | 189-07 | 土師器 | S字甕 | SR3 | — | 8.4 | — | 脚端部内面折り返し<br>脚外面ナナメハケ | 粗<br>砂粒多含 | 良 | 浅黄橙色 | 底部1/2 | |
| 245 | 189-06 | 土師器 | S字甕 | SR3 | — | (7.5) | — | 脚端部内面折り返し　脚外面ナナメハケ<br>内面ユビオサエ・ナデ | やや粗 | 良 | 灰白色 | 底部1/2 | |

## 第17表　遺物観察表（7）

| 報告番号 | 整理番号 | 種類 | 器種 | 出土遺構 | 法量(cm) | | | 調整・技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 残存度 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | | | |
| 246 | 012-05 | 土師器 | S字甕 | SR3 | — | 8.9 | — | 脚端部内面折り返し　脚外面ナナメハケ<br>内面ユビオサエ・ハケ | 密<br>白色砂粒多含 | 良 | 灰黄色 | 脚台部完存 | 内面にスス付着 |
| 247 | 189-08 | 土師器 | S字甕 | SR3 | — | 8.3 | — | 脚端部内面折り返し　脚外面ナナメハケ<br>内面ユビオサエ・ナデ | 密 | 良 | 浅黄橙色 | 脚台部完存 | |
| 248 | 189-04 | 土師器 | S字甕 | SR3 | — | 7.6 | — | 脚端部内面折り返し　脚外面ナナメハケ<br>内面ナデ | 密 | 良 | 灰白色 | 脚台部完存 | |
| 249 | 009-03 | 土師器 | S字甕 | SR3 | — | 4.2 | — | 脚端部ヨコナデ　脚端部内面折り返し<br>脚外面ナナメハケ　内面ナデ | 密<br>～4㎜砂粒含 | 良 | 灰黄色 | 脚台部完存 | |
| 250 | 016-02 | 土師器 | S字甕 | SR3 | — | (8.5) | — | 脚端部内面折り返し<br>脚外面ナナメハケ | 密<br>細砂粒含 | 良 | にぶい橙色 | 脚台部1/2 | |
| 251 | 011-03 | 土師器 | S字甕 | SR3 | — | 8.6 | — | 脚端部内面折り返し<br>脚外面ナナメハケ | 密<br>～2㎜砂粒含 | 良 | 浅黄色 | 脚台部ほぼ完存 | |
| 252 | 019-04 | 土師器 | S字甕 | SR3 | — | 8.9 | — | 脚端部内面折り返し<br>ユビオサエ後ナデ<br>内面ユビオサエ | 密<br>～3㎜砂粒含 | 良 | 浅黄橙色 | 脚台部完存 | |
| 253 | 189-02 | 土師器 | S字甕 | SR3 | — | (10.4) | — | 脚端部内面折り返し<br>脚端部内外面ユビオサエ　内面ナデ | やや粗 | 良 | 灰白色 | 脚台部1/4 | |
| 254 | 189-01 | 土師器 | S字甕 | SR3 | — | 10.2 | — | 脚端部内面折り返し<br>脚端部内外面ユビオサエ　内面ナデ | 粗 | 不良 | 灰白色 | 脚台部完存 | |
| 255 | 189-03 | 土師器 | S字甕 | SR3 | — | 8.2 | — | 脚端部内面折り返し　脚内外面ナデ | やや粗 | 不良 | 灰白色 | 脚台部完存 | |
| 256 | 189-05 | 土師器 | 台付甕 | SR3 | — | (8.3) | — | 脚内外面ナデ | 粗 | 良 | 灰白色 | 脚台部1/4 | 風化大 |
| 257 | 012-07 | 土師器 | S字甕 | SR3 | — | 9.5 | — | 脚外面ハケ後ユビオサエ・ナデ<br>脚内面ナデ | 密<br>～1㎜砂粒多含 | 良 | 浅橙色 | 脚台部完存 | |
| 258 | 177-01 | 土師器 | 台付甕 | SR3 | (19.0) | — | — | 口縁部ヨコナデ　体部外面ナナメハケ<br>内面板ナデ | 密<br>砂粒少含 | 良 | 灰白色 | 口縁部1/4 | |
| 259 | 020-02 | 土師器 | 台付甕 | SR3 | (22.0) | — | — | 口縁部ヨコナデ | 密<br>～2㎜砂粒含 | 良 | 灰色 | 口縁部小片 | |
| 260 | 017-02 | 土師器 | 台付甕 | SR3 | (14.2) | — | — | 口縁部ヨコナデ | 密<br>砂粒多含 | 良 | にぶい橙色 | 口縁部1/2 | |
| 261 | 191-02 | 土師器 | 小型器台 | SR3 | (9.8) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>杯部内外面ヘラミガキ | 密 | 良 | 浅黄橙色 | 杯部1/3 | スス付着 |
| 262 | 191-04 | 土師器 | 小型器台 | SR3 | 9.7 | — | — | 内外面ナデ | 密 | 良 | 橙色 | 杯部3/4 | |
| 263 | 185-01 | 弥生土器 | 高杯 | SR3 | 11.3 | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>杯部内外面ヘラミガキ | 密 | 良 | にぶい黄橙色 | 杯部2/3 | |
| 264 | 005-01 | 弥生土器 | 高杯 | SR3 | (27.0) | — | — | 杯部内外面ヘラミガキ | 密 | 良 | 浅黄橙色 | 杯部1/4 | |
| 265 | 190-05 | 土師器 | 高杯 | SR3 | (8.6) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>杯部外面ヘラミガキ・板ナデ<br>内面ハケ・板ナデ | 密<br>～1.5㎜砂粒含 | 良 | 橙色<br>褐灰色 | 全体1/3 | |
| 266 | 179-01 | 土師器 | 高杯 | SR3 | (32.4) | — | — | 口縁部ヨコナデ端部外面に格子状刺突文　杯部外面に突帯　突帯に綾杉状刺突文　杯部内外面ヘラミガキ | 密 | 良 | 灰黄色 | 口縁部1/6 | 風化大 |
| 267 | 185-02 | 土師器 | 高杯 | SR3 | (20.4) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>杯部内面ヘラミガキ | 密 | 良 | にぶい橙色 | 杯上部1/6 | 粘土接合痕 |
| 268 | 186-02 | 土師器 | 高杯 | SR3 | — | (12.2) | — | 脚部外面タテハケ　内面ナナメハケ | やや密 | 良 | 明黄褐色<br>灰色 | 脚下部1/2 | 透孔 |
| 269 | 186-01 | 土師器 | 高杯 | SR3 | — | 17.6 | — | 脚部外面ヘラミガキ　内面ヘラケズリ | 密 | 良 | 灰白色 | 脚部1/2 | 3方透孔 |
| 270 | 183-04 | 土師器 | 高杯 | SR3 | — | — | — | 脚端部ヨコナデ　杯部内面ナデ<br>脚部外面ナデ　内面シボリ・ケズリ | 粗<br>～2㎜砂粒含 | 良 | 淡黄色 | 杯底部1/2 | 風化大 |
| 271 | 182-04 | 土師器 | 高杯 | SR3 | (16.8) | — | — | 杯部内外面ナデ<br>杯部と脚部の接合部にユビオサエ | 粗<br>～1㎜砂粒多含 | 良 | にぶい橙色 | 杯部1/3 | |
| 272 | 184-01 | 土師器 | 高杯 | SR3 | 16.2 | — | — | 口縁部ヨコナデ　杯部内面ナデ<br>杯部と脚部の接合部にユビオサエ | 粗<br>～2㎜砂粒多含 | 良 | にぶい黄橙色 | 杯部2/3 | 歪み有 |
| 273 | 183-03 | 土師器 | 高杯　Aa | SR3 | (22.0) | — | — | 口縁部ヨコナデ　杯部内外面ナデ | 粗<br>～2㎜砂粒含 | 良 | 浅黄橙色 | 杯上部1/2 | 風化大 |
| 274 | 184-03 | 土師器 | 高杯　Aa | SR3 | (18.4) | — | — | 口縁部ヨコナデ　杯部内外面ナデ | 密<br>～1㎜砂粒含 | 良 | 淡黄色 | 杯上部1/6 | |
| 275 | 184-02 | 土師器 | 高杯　Ab | SR3 | (17.6) | — | — | 口縁部ヨコナデ　杯部内外面ナデ | やや粗<br>～3㎜砂粒含 | 良 | 淡黄色 | 杯上部1/3 | |
| 276 | 182-01 | 土師器 | 高杯　Ab | SR3 | (17.6) | — | — | 口縁部ヨコナデ　杯部内外面板ナデ | 密<br>～1㎜砂粒含 | 良 | にぶい黄橙色 | 杯上部1/4 | スス付着 |
| 277 | 182-03 | 土師器 | 高杯　Ab | SR3 | (17.5) | — | — | 口縁部ヨコナデ　杯部内外面板ナデ | 密 | 良 | にぶい黄橙色 | 杯部1/3 | 外面にスス付着<br>粘土接合痕 |
| 278 | 183-01 | 土師器 | 高杯　Ac | SR3 | 16.7 | 11.4 | 11.5 | 口縁部ヨコナデ　脚裾部ヨコナデ | やや粗<br>～2㎜砂粒含 | 良 | 淡黄色 | 全体4/5 | 風化大 |
| 279 | 008-05 | 土師器 | 高杯 | SR3 | 15.4 | — | — | 口縁部ヨコナデ　脚裾部ヨコナデ | 密 | 良 | 明赤褐色 | 杯部4/5<br>柱状部完存 | 風化大 |
| 280 | 183-02 | 土師器 | 高杯　B | SR3 | 15.0 | 9.6 | 11.8 | 口縁部ヨコナデ　杯部内外面ナデ<br>脚裾部ヨコナデ　脚部内面ケズリ | 密<br>～2㎜砂粒含 | 良 | 淡黄色 | 全体2/3 | 歪み大 |

**第18表　遺物観察表（8）**

| 報告番号 | 整理番号 | 種類 | 器種 | 出土遺構 | 法量(cm) | | | 調整・技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 残存度 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | | | |
| 281 | 182-05 | 土師器 | 高杯 D | SR3 | (15.6) | — | — | 口縁部ヨコナデ 杯部内外面ミガキ | やや粗 ～2㎜砂粒含 | 良 | にぶい黄橙色 | 杯部1/5 | |
| 282 | 019-07 | 土師器 | 高杯 D | SR3 | (14.8) | — | — | 口縁部ヨコナデ 杯部内面ハケ | 密 ～3㎜砂粒含 | 良 | 淡黄橙色 | 杯部2/5 | |
| 283 | 186-03 | 土師器 | 高杯 | SR3 | — | (9.6) | — | 脚部外面ミガキ 脚裾部ヨコナデ | やや密 | 良 | 淡黄橙色 | 脚部1/2 | |
| 284 | 184-05 | 土師器 | 高杯 | SR3 | — | — | — | 脚部内面ケズリ | 密 | 良 | 灰白色 | 脚部のみ ただし裾部欠 | 1方透孔 |
| 285 | 187-01 | 土師器 | 高杯 | SR3 | — | 10.8 | — | 脚柱部内面シボリ | 粗 ～4㎜砂粒含 | 良 | 浅黄橙色 | 脚部2/3 | 風化大 |
| 286 | 013-01 | 土師器 | 高杯 | SR3 | — | 10.6 | — | 脚裾部ヨコナデ 脚柱部内面シボリ | やや粗 ～1㎜砂粒多含 | 良 | 浅黄橙色 | 脚部完存 | |
| 287 | 182-02 | 土師器 | 高杯 | SR3 | — | 11.2 | — | 口縁部ヨコナデ 杯部内外面ナデ | 密 ～1㎜砂粒含 | 良 | にぶい黄橙色 | 脚部1/2 | |
| 288 | 184-04 | 土師器 | 高杯 | SR3 | — | (12.0) | — | 脚裾部ヨコナデ 脚柱部外面ナデ 内面ケズリ | 密 ～2㎜砂粒含 | 良 | にぶい黄橙色 | 脚部1/4 | |
| 289 | 009-01 | 土師器 | 高杯 | SR3 | — | 9.2 | — | 脚裾部ヨコナデ 脚柱部外面ヘラ工具によるケズリ | 密 | 良 | にぶい黄橙色 | 脚部1/2 | |
| 290 | 007-01 | 土師器 | 不明 | SR3 | — | (25.0) | — | 端部ヨコナデ 外面ユビオサエ・ナデ 内面ナデ | 密 ～1㎜砂粒含 | 良 | 浅黄橙色 | 小片のみ | 上下不明 |
| 291 | 179-04 | 土師器 | 鉢 | SR3 | (23.4) | — | — | 口縁部ヨコナデ 体部外面ケズリ 内面板ナデ | 密 ～2㎜砂粒含 | 良 | 淡黄色 | 口縁部1/3 | |
| 292 | 011-04 | 土師器 | 小型鉢 | SR3 | 10.8 | — | 4.2 | 口縁部ヨコナデ 外面ユビオサエ後ナデ 内面板ナデ | 密 ～1㎜砂粒含 | 良 | 灰黄色 | 全体2/3 | |
| 293 | 191-06 | 土師器 | 有孔鉢 | SR3 | — | 5.1 | — | 体部外面ハケ 内面ナデ 底部に円孔 | 密 | 良 | 淡黄色 | 底部完存 | |
| 294 | 004-01 | 土師器 | 椀 | SR3 | (3.9) | — | 2.8 | 口縁部ヨコナデ 体部外面ユビオサエ後ナデ 内面ナデ | 密 | やや不良 | 淡黄色 | 全体2/3 | |
| 295 | 187-09 | 土師器 | ミニチュア甕 | SR3 | (4.6) | — | — | 口縁部ヨコナデ 体部外面ハケ 内面ナデ | 密 | 良 | 灰白色 | 体上部1/6 | |
| 296 | 187-04 | 土師器 | 手捏土器 | SR3 | — | — | — | 外面ユビオサエ・下半ケズリ 内面ナデ | やや粗 ～2㎜砂粒含 | 良 | 褐灰色 | 全体1/3 口縁部欠 | |
| 297 | 187-08 | 土師器 | 手捏土器 | SR3 | 5.5 | — | 3.4 | 外面ユビオサエ 内面ナデ | やや密 | 良 | 淡黄色 | 全体1/3 | |
| 298 | 009-04 | 土師器 | 手捏土器 | SR3 | 4.3 | 3.8 | — | 外面ナデ 内面ユビオサエ後ナデ | 密 ～1㎜砂粒含 | 良 | 浅黄橙色 | 完形 | |
| 299 | 003-06 | 土師器 | 手捏土器 | SR3 | 3.5 | 2.6 | — | 外面ユビオサエ 内面ナデ | 密 | 良 | 灰白色 | ほぼ完形 | |
| 300 | 187-06 | 土師器 | 手捏土器 | SR3 | 3.5 | 2.2 | — | 内外面ユビオサエ | やや粗 | 良 | 灰黄色 | ほぼ完形 | |
| 301 | 187-05 | 土師質 | 紡錘車 | SR3 | 径 3.1 | — | — | 外面ナデ・ユビオサエ | 密 | 良 | 浅黄色 | ほぼ完形 | 上部欠 |
| 302 | 192-03 | 須恵器 | 杯蓋 | SR3 | 12.5 | — | 4.6 | 口縁部回転ナデ 天井部外面回転ケズリ 内面回転ナデ | 密 ～3㎜砂粒含 | 良 | 灰色 | 全体1/4 | |
| 303 | 016-06 | 須恵器 | 杯蓋 | SR3 | (12.0) | — | — | 口縁部回転ナデ 天井部外面回転ケズリ 内面回転ナデ | 密 砂粒含 | 良 | 青灰色 | 口縁部1/6 | |
| 304 | 192-01 | 須恵器 | 杯蓋 | SR3 | 12.8 | — | 4.1 | 口縁部回転ナデ 天井部外面回転ケズリ 内面回転ナデ・一方向ナデ | 密 ～2㎜砂粒含 | 良 | 灰白色 | 全体1/2 | |
| 305 | 013-06 | 須恵器 | 杯蓋 | SR3 | (12.7) | — | — | 口縁部回転ナデ | 密 | 良 | 灰白色 | 口縁部1/5 | |
| 306 | 192-04 | 須恵器 | 杯身 | SR3 | (12.6) | 4.8 | — | 口縁部回転ナデ 体部外面回転ケズリ 内面回転ナデ | 密 ～3㎜砂粒含 | 良 | 灰色 | 全体1/4 | |
| 307 | 016-05 | 須恵器 | 杯身 | SR3 | (10.9) | — | — | 口縁部回転ナデ 体部外面回転ケズリ 内面回転ナデ | 密 ～3㎜砂粒含 | 良 | 灰色 | 口縁部1/3 | |
| 308 | 192-02 | 須恵器 | 高杯 | SR3 | (11.2) | 8.6 | 9.1 | 口縁部回転ナデ 脚部外面カキメ 裾部回転ナデ | 密 ～4㎜砂粒含 | 良 | 灰色 | 全体3/4 | 3方透孔 |
| 309 | 192-07 | 須恵器 | 高杯 | SR3 | — | (9.6) | — | 脚部外面カキメ 裾部回転ナデ | 密 ～1㎜砂粒含 | 良 | 灰色 | 脚部1/4 | 4方透孔 |
| 310 | 192-06 | 須恵器 | 高杯 | SR3 | — | (8.6) | — | 脚裾部回転ナデ | 密 ～4㎜砂粒含 | 良 | 灰色 | 脚部1/4 | 5方透孔 |
| 311 | 003-07 | 須恵器 | 鉢 | SR3 | — | — | — | 体部外面刺突文・沈線 | 密 | 良 | 白色 | 体部のみ | |
| 312 | 014-02 | 須恵器 | 壺 | SR3 | — | — | — | 体部外面波状文・突帯 | 密 ～1㎜砂粒含 | 良 | 灰白色 | 体部1/4 | |
| 313 | 002-02 | 石製品 | 扁平片刃石斧 | SR3 | 長さ (4.2) | 幅 4.1 | 厚さ 1.7 | — | — | — | — | — | 砂岩 |
| 314 | 193-02 | 石製品 | 凹石 | SR3 | 長さ 8.8 | 幅 6.6 | 厚さ 4.4 | 表裏面に敲打痕 | — | — | — | — | 重量361.0g 砂岩 |
| 315 | 187-03 | 石製品 | 石錘 | SR3 | 長さ 7.4 | 幅 5.1 | — | 側縁部を作る | — | — | — | — | 重量240.0g 石英斑岩 |

**第19表 遺物観察表（9）**

| 報告番号 | 整理番号 | 種類 | 器種 | 出土遺構 | 法量(cm) | | | 調整・技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 残存度 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | | | |
| 316 | 193-01 | 石製品 | 敲石か磨石 | SR3 | 長さ 7.9 | 幅 6.3 | 厚さ 3.3 | 線条痕有 | — | — | — | — | 重量282.0g 礫岩 石斧から転用 |
| 317 | w001-01 | 木製品 | 木錘 | SR3 | 長さ 13.8 | 幅 7.6 | 厚さ 3.7 | 丸太材 | — | — | — | — | 樹皮残 サカキ |
| 318 | w005-03 | 木製品 | 曲柄又鍬 | SR3 | 長さ (28.4) | 幅 (5.4) | 厚さ 1.7 | 柾目材 | — | — | — | — | |
| 319 | w006-03 | 木製品 | 杭 | SR3 | 長さ (58.5) | — | 太さ 径3.5 | 丸太材 | — | — | — | — | |
| 320 | w004-02 | 木製品 | 杭 | SR3 | 長さ (55.8) | — | 太さ 径3.2 | 丸太材 | — | — | — | — | 樹皮残 |
| 321 | w004-01 | 木製品 | 杭 | SR3 | 長さ (44.5) | — | 太さ 径4.1 | 丸太材 | — | — | — | — | |
| 322 | w004-03 | 木製品 | 杭 | SR3 | 長さ (41.1) | — | 太さ 径3.3 | 丸太材 | — | — | — | — | |
| 323 | w003-02 | 木製品 | 杭 | SR3 | 長さ (36.0) | — | 太さ 径4.0 | 丸太材 | — | — | — | — | |
| 324 | w003-01 | 木製品 | 杭 | SR3 | 長さ (36.8) | — | 太さ 径4.0 | 丸太材 | — | — | — | — | 樹皮残 |
| 325 | w005-01 | 木製品 | 杭 | SR3 | 長さ (34.1) | — | 太さ 径4.0 | 丸太材 | — | — | — | — | |
| 326 | w003-05 | 木製品 | 杭 | SR3 | 長さ (32.5) | — | 太さ 径7.0 | 丸太材 | — | — | — | — | |
| 327 | w005-02 | 木製品 | 杭 | SR3 | 長さ (30.1) | — | 太さ 径4.8 | 丸太材 | — | — | — | — | |
| 328 | w002-02 | 木製品 | 杭 | SR3 | 長さ (31.7) | — | 太さ 径4.7 | 丸太材 | — | — | — | — | |
| 329 | w002-03 | 木製品 | 杭 | SR3 | 長さ (30.9) | — | 太さ 径5.7 | 丸太材 | — | — | — | — | |
| 330 | w002-01 | 木製品 | 杭 | SR3 | 長さ (30.5) | — | 太さ 径4.8 | 丸太材 | — | — | — | — | |
| 331 | w003-04 | 木製品 | 杭 | SR3 | 長さ (30.8) | — | 太さ 径3.0 | 丸太材 | — | — | — | — | |
| 332 | w007-02 | 木製品 | 杭 | SR3 | 長さ (28.9) | — | 太さ 径4.8 | 丸太材 | — | — | — | — | |
| 333 | w002-05 | 木製品 | 杭 | SR3 | 長さ (29.3) | — | 太さ 径4.0 | 丸太材 | — | — | — | — | |
| 334 | w002-04 | 木製品 | 杭 | SR3 | 長さ (29.5) | — | 太さ 径4.1 | 丸太材 | — | — | — | — | 樹皮残 |
| 335 | w004-04 | 木製品 | 杭 | SR3 | 長さ (22.9) | — | 太さ 径5.2 | 丸太材 | — | — | — | — | |
| 336 | w004-05 | 木製品 | 杭 | SR3 | 長さ (11.9) | — | 太さ 径3.5 | 丸太材 | — | — | — | — | 樹皮残 |
| 337 | w005-04 | 木製品 | 杭 | SR3 | 長さ (18.4) | — | 太さ 径5.0 | 丸太材 | — | — | — | — | |
| 338 | w002-06 | 木製品 | 杭 | SR3 | 長さ (22.9) | — | 太さ 径3.0 | 丸太材 | — | — | — | — | |
| 339 | w004-06 | 木製品 | 農具 | SR3 | 長さ (25.7) | 幅 5.2 | — | 柾目材 | — | — | — | — | |
| 340 | w007-01 | 木製品 | 棒 | SR3 | 長さ (38.9) | — | 太さ 径3.7 | 丸太材 | — | — | — | — | 樹皮残 |
| 341 | w003-03 | 木製品 | 有孔板 | SR3 | 長さ (44.0) | 幅 5.2 | 厚さ 2.5 | 板目材 | — | — | — | — | |
| 342 | w006-02 | 木製品 | 加工板 | SR3 | 長さ (73.0) | 幅 12.0 | 厚さ 2.7 | 板目材 | — | — | — | — | |
| 343 | w006-01 | 木製品 | 杭 | SR3 | 長さ (110.0) | 幅 4.5 | 厚さ 3.0 | 丸太半 材 | — | — | — | — | |
| 344 | 146-02 | 弥生土器 | 壺 | SR4 | (18.8) | — | — | 口縁端部ヨコハケ後指による押圧 頸部外面に貝殻条痕による直線文 | 粗 ～2㎜砂粒含 | 良 | にぶい黄橙色 | 口縁部1/4 | |
| 345 | 153-04 | 弥生土器 | 壺 | SR4 | — | — | — | 頸部貼付による突帯 内外面ハケ | 密 | 良 | 灰白色 | 頸部完存 | |
| 346 | 145-01 | 弥生土器 | 壺 | SR4 | 19.2 | — | — | 口縁部ヨコナデ 体部外面凹線4本 頸部外面擬状工具による直線文・鋸状文 内面シボリ | 粗 ～4㎜砂粒含 | 不良 | 灰黄褐色 | 口縁部1/10欠 | |
| 347 | 146-03 | 土師器 | 長頸壺 | SR4 | 12.2 | — | — | 口縁部ヨコナデ 内外面ナデ | やや粗 ～4㎜砂粒含 | 良 | にぶい褐色 | 口縁部1/2 | 内面に接合痕 |
| 348 | 151-04 | 土師器 | 壺 | SR4 | (11.6) | — | — | 口縁部ヨコナデ 口縁から体部外面ハケ 内面ユビオサエ・板ナデ・ハケ | 密 ～1㎜砂粒含 | 良 | 淡黄色 | 口縁部～体上部1/3 | |
| 349 | 151-05 | 土師器 | 壺 | SR4 | (17.8) | — | — | 口縁部ヨコナデ 内外面ハケ | やや粗 ～4㎜砂粒含 | 良 | 淡黄色 | 口縁部1/4 | 接合痕 |
| 350 | 151-03 | 土師器 | 壺 | SR4 | 9.2 | — | — | 口縁部ヨコナデ 内面ユビオサエ | やや密 ～3㎜砂粒含 | 良 | にぶい橙色 | 口縁部完存 | スス付着 |

**第20表 遺物観察表（10）**

| 報告番号 | 整理番号 | 種類 | 器種 | 出土遺構 | 法量(cm) | | | 調整・技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 残存度 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | | | |
| 351 | 150-03 | 土師器 | 壺 | SR4 | 9.6 | — | 14.2 | 口縁部ヨコナデ<br>体部上半ナデ　底部ヘラケズリ | 密 | 良 | 灰白色 | ほぼ完形 | 接合痕 |
| 352 | 162-04 | 土師器 | 壺 | SR4 | (13.2) | — | — | 口縁部ヨコナデ | やや粗<br>～5㎜砂粒含 | 良 | 灰黄色 | 口縁部1/4 | |
| 353 | 159-01 | 土師器 | 壺 | SR4 | 18.2 | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部内外面ハケ | やや密<br>～2㎜砂粒含 | 良 | 淡黄色<br>黄灰色 | 口縁部～体部1/3 | 接合痕 |
| 354 | 153-02 | 土師器 | 甕 | SR4 | — | 7.6 | — | 底部外面ケズリ　内面ナデ<br>底部未調整 | 密<br>～2㎜砂粒含 | 良 | 灰白色 | 底部完存 | |
| 355 | 152-08 | 土師器 | 小型壺 | SR4 | (10.0) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ナデ　内面ユビオサエ | やや密<br>～1㎜砂粒含 | 良 | 灰白色 | 口縁部～体部1/3 | |
| 356 | 152-01 | 土師器 | 小型平底壺 | SR4 | (8.0) | 2.2 | 8.3 | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ナデ　内面板ナデ | 密 | 良 | 灰白色 | 口縁部1/2欠 | |
| 357 | 152-02 | 土師器 | 小型平底壺 | SR4 | (8.6) | 4.0 | 8.1 | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ナデ　内面板ナデ | 密 | 不良 | 淡黄色 | 全体1/2 | |
| 358 | 150-02 | 土師器 | 小型平底壺 | SR4 | — | 4.0 | — | 体部外面ナデ　内面ユビオサエ | 密<br>～1㎜砂粒含 | 不良 | 灰白色 | 全体3/4 | |
| 359 | 146-01 | 弥生土器 | 甕 | SR4 | (34.6) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部内外面ハケ | 粗<br>～5㎜砂粒含 | 良 | 灰白色 | 口縁部1/4 | |
| 360 | 150-01 | 土師器 | 甕 | SR4 | 13.2 | 5.6 | 14.9 | 口縁部ヨコナデ<br>体部上半ハケ　内面ナデ | やや密<br>～1㎜砂粒含 | 良 | 灰白色 | ほぼ完形 | |
| 361 | 151-02 | 土師器 | 甕 | SR4 | (13.6) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部内面ユビオサエ・ケズリ | やや密<br>～1㎜砂粒含 | 良 | 灰白色 | 口縁部～体上部1/4 | |
| 362 | 161-03 | 土師器 | S字甕　B | SR4 | (14.4) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ハケ　内面ナデ | 粗<br>～5㎜砂粒含 | 良 | 灰白色 | 口縁部1/4 | |
| 363 | 163-03 | 土師器 | S字甕　C | SR4 | 14.4 | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ハケ　内面板ナデ | 粗<br>砂粒多含 | 良 | 褐灰色 | 口縁部5/8 | |
| 364 | 161-04 | 土師器 | S字甕　C | SR4 | (13.0) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ハケ<br>内面ユビオサエ後ナデ | 密<br>～2㎜砂粒含 | 良 | 灰白色 | 口縁部1/2 | |
| 365 | 161-01 | 土師器 | S字甕　C | SR4 | 16.2 | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ハケ<br>内面ユビオサエ後ナデ | やや粗<br>～2砂粒含 | 良 | 灰白色 | 口縁部3/4 | |
| 366 | 160-01 | 土師器 | S字甕　D | SR4 | 16.9 | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ハケ　内面板ナデ | やや密<br>～2㎜砂粒含 | 良 | 浅黄橙色 | 体底部～脚台部欠 | |
| 367 | 145-02 | 土師器 | S字甕　D | SR4 | 14.8 | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ハケ　内面板ナデ | 粗<br>～7㎜砂粒含 | 良 | 灰白色 | 口縁部完存 | |
| 368 | 163-01 | 土師器 | S字甕　D | SR4 | 17.2 | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ハケ<br>内面ユビオサエ後板ナデ | やや粗<br>砂粒含 | 良 | 灰白色 | 口縁部1/2 | |
| 369 | 162-02 | 土師器 | S字甕　D | SR4 | (14.2) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ハケ<br>内面ユビオサエ後板ナデ | やや粗<br>～2㎜砂粒含 | 良 | 灰白色 | 口縁部1/4 | |
| 370 | 163-02 | 土師器 | S字甕　D | SR4 | (16.4) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ハケ<br>内面ユビオサエ後板ナデ | やや粗<br>砂粒含 | 良 | 灰白色 | 口縁部1/2 | |
| 371 | 161-05 | 土師器 | S字甕　D | SR4 | (15.2) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ハケ<br>内面ユビオサエ後板ナデ | 密<br>～2㎜砂粒含 | 良 | 浅橙色 | 口縁部3/8 | |
| 372 | 162-01 | 土師器 | S字甕　D | SR4 | (16.3) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ハケ　内面板ナデ | やや粗<br>～2㎜砂粒含 | 良 | 灰白色 | 口縁部1/3 | |
| 373 | 161-02 | 土師器 | S字甕　D | SR4 | (16.4) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ハケ<br>内面ユビオサエ後ナデ | 粗<br>～3㎜砂粒含 | 良 | にぶい橙色 | 口縁部1/4<br>体部1/5 | |
| 374 | 163-06 | 土師器 | S字甕　E | SR4 | (26.0) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ナデ　内面ナデ | やや粗<br>砂粒含 | 良 | 浅黄橙色 | 口縁部1/6 | |
| 375 | 164-05 | 土師器 | S字甕　E | SR4 | (26.6) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ナデ　内面ナデ | 密<br>～4㎜砂粒含 | 良 | にぶい黄橙色 | 口縁部1/3 | |
| 376 | 167-04 | 土師器 | S字甕 | SR4 | — | 8.2 | — | 脚端部折り返し・ユビオサエ<br>外面ハケ　内面ユビオサエ後ナデ | やや粗<br>～4㎜砂粒含 | 良 | 灰黄色 | 脚台部完存 | |
| 377 | 167-03 | 土師器 | S字甕 | SR4 | — | 8.0 | — | 脚端部折り返し・ユビオサエ<br>外面ハケ　内面ユビオサエ後ナデ | 密<br>～2㎜砂粒含 | 良 | 浅黄色 | 脚台部2/3 | |
| 378 | 167-01 | 土師器 | S字甕 | SR4 | — | 7.6 | — | 脚端部折り返し・ユビオサエ<br>外面ハケ　内面ユビオサエ後ナデ | やや粗<br>～4㎜砂粒含 | 良 | 浅黄色<br>淡黄色 | 脚台部1/2 | |
| 379 | 164-01 | 土師器 | S字甕 | SR4 | — | 7.4 | — | 脚端部折り返し<br>外面ハケ　内面ユビオサエ後ナデ | 密<br>～5㎜砂粒含 | 良 | 灰黄色 | 脚台部完存 | |
| 380 | 164-03 | 土師器 | S字甕 | SR4 | — | 7.8 | — | 脚端部折り返し<br>外面ハケ　内面ユビオサエ後ナデ | 密<br>～3㎜砂粒含 | 良 | 淡黄色 | 脚台部ほぼ完存 | |
| 381 | 164-02 | 土師器 | S字甕 | SR4 | — | 7.6 | — | 脚端部折り返し<br>外面ハケ　内面ユビオサエ後ナデ | 粗<br>～3㎜砂粒含 | 良 | にぶい橙色 | 脚台部ほぼ完存 | |
| 382 | 165-06 | 土師器 | S字甕 | SR4 | — | 9.9 | — | 脚端部ユビオサエ<br>外面ハケ　内面ユビオサエ後ナデ | 密<br>～2㎜砂粒含 | 良 | 淡黄色 | 脚台部完存 | |
| 383 | 166-04 | 土師器 | S字甕 | SR4 | — | (9.7) | — | 脚端部ユビオサエ<br>外面ハケ　内面ユビオサエ後ナデ | 密<br>～1㎜砂粒含 | 良 | 浅黄色 | 脚台部1/2 | |
| 384 | 165-07 | 土師器 | S字甕 | SR4 | — | 8.6 | — | 脚端部ユビオサエ<br>外面ハケ　内面ユビオサエ後ナデ | 密<br>～3㎜砂粒含 | 良 | 灰白色 | 脚台部完存 | |
| 385 | 165-05 | 土師器 | S字甕 | SR4 | — | 9.9 | — | 脚端部ユビオサエ<br>外面ハケ　内面ユビオサエ後ナデ | 密<br>～2㎜砂粒含 | 良 | にぶい黄橙色 | 脚台部完存 | |

**第21表　遺物観察表（11）**

| 報告番号 | 整理番号 | 種類 | 器種 | 出土遺構 | 法量(cm) | | | 調整・技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 残存度 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | | | |
| 386 | 165-03 | 土師器 | S字甕 | SR4 | — | 10.1 | — | 脚端部ユビオサエ<br>外面ハケ　内面ユビオサエ後ナデ | 密<br>～7㎜砂粒含 | 良 | にぶい黄橙色 | 脚台部完存 | |
| 387 | 165-02 | 土師器 | S字甕 | SR4 | — | 10.3 | — | 脚端部ユビオサエ<br>外面ハケ　内面ユビオサエ後ナデ | 密<br>～2㎜砂粒含 | 良 | にぶい黄橙色 | 脚台部完存 | |
| 388 | 166-08 | 土師器 | S字甕 | SR4 | — | (9.4) | — | 脚端部ユビオサエ<br>外面ハケ　内面ユビオサエ後ナデ | やや密<br>～1㎜砂粒含 | 良 | 灰黄色 | 脚台部1/3 | |
| 389 | 166-07 | 土師器 | S字甕 | SR4 | — | 8.4 | — | 脚端部折り返し<br>外面ハケ　内面ユビオサエ・ナデ | 密<br>～1㎜砂粒含 | 良 | にぶい黄橙色 | 脚台部ほぼ完存 | |
| 390 | 166-01 | 土師器 | S字甕 | SR4 | — | 8.5 | — | 脚端部ユビオサエ<br>外面ハケ　内面ユビオサエ・ナデ | やや密 | 良 | にぶい黄橙色 | 脚台部ほぼ完存 | |
| 391 | 166-02 | 土師器 | S字甕 | SR4 | — | 8.8 | — | 脚端部ユビオサエ<br>外面ハケ　内面ユビオサエ・ナデ | 密<br>～1㎜砂粒含 | 良 | にぶい橙色 | 脚台部完存 | |
| 392 | 167-08 | 土師器 | S字甕 | SR4 | — | 8.1 | — | 脚端部折り返し<br>外面ナデ　内面ナデ | 密<br>～2㎜砂粒含 | 良 | 灰黄色 | 脚台部完存 | |
| 393 | 167-06 | 土師器 | S字甕 | SR4 | — | 8.0 | — | 脚端部折り返し<br>外面ナデ　内面ユビオサエ・ナデ | やや粗<br>～2㎜砂粒含 | 良 | にぶい黄橙色 | 脚台部完存 | |
| 394 | 166-03 | 土師器 | S字甕 | SR4 | — | 8.6 | — | 脚端部ユビオサエ<br>外面ナデ　内面ユビオサエ・ナデ | やや密<br>～5㎜砂粒含 | 良 | 灰白色 | 脚台部ほぼ完存 | |
| 395 | 166-05 | 土師器 | S字甕 | SR4 | — | 8.1 | — | 脚端部ユビオサエ<br>外面ナデ　内面ナデ | 密<br>～3㎜砂粒含 | 良 | 灰黄色 | 脚台部完存 | |
| 396 | 167-05 | 土師器 | S字甕 | SR4 | — | 9.9 | — | 脚端部折り返し<br>外面ケズリ　内面ユビオサエ | 密<br>～2㎜砂粒含 | 良 | にぶい黄橙色 | 脚台部完存 | |
| 397 | 167-07 | 土師器 | S字甕 | SR4 | — | 8.3 | — | 脚端部折り返し<br>外面ナデ　内面ユビオサエ・ナデ | 密<br>～1㎜砂粒含 | 良 | 灰黄褐色 | 脚台部完存 | |
| 398 | 165-04 | 土師器 | 台付甕 | SR4 | — | 7.4 | — | 脚端部ナデ<br>外面ハケ　内面ユビオサエ・ナデ | 密<br>～2㎜砂粒含 | 良 | 灰白色 | 脚台部3/4 | |
| 399 | 163-04 | 土師器 | 台付甕 | SR4 | — | 8.2 | — | 脚端部ナデ<br>外面ケズリ　内面ユビオサエ・ナデ | やや粗<br>砂粒含 | 良 | にぶい黄橙色 | 脚台部完存 | |
| 400 | 158-02 | 土師器 | 高杯　C | SR4 | (26.4) | — | — | 口縁部ヨコナデ　杯部内外面ナデ | 密 | 良 | 浅黄橙色 | 口縁部1/10 | |
| 401 | 156-02 | 土師器 | 高杯 | SR4 | — | — | — | 杯部内外面ナデ | やや粗 | 不良 | 橙色 | 杯下部2/3 | |
| 402 | 146-04 | 土師器 | 高杯 | SR4 | — | — | — | 外面に刺突文・竹管文・沈線<br>内面にシボリ | 密 | 良 | 灰黄色 | 脚柱部 | |
| 403 | 155-03 | 土師器 | 高杯 | SR4 | — | 9.0 | — | 脚柱部に沈線　外面ケズリ<br>内面ナデ | 密<br>～3㎜砂粒含 | 良 | 黒色 | 脚部1/2 | |
| 404 | 154-01 | 土師器 | 高杯　Ab | SR4 | (17.0) | — | — | 口縁部ヨコナデ　杯部内外面ナデ | 密<br>～3㎜砂粒含 | 良 | にぶい橙色 | 口縁端部1/2欠 | |
| 405 | 156-01 | 土師器 | 高杯 | SR4 | — | 8.6 | — | 脚端部ヨコナデ | 密 | 不良 | 橙色 | 脚部1/2 | 不通過の円孔 |
| 406 | 154-03 | 土師器 | 高杯 | SR4 | — | (11.4) | — | 脚端部ヨコナデ<br>外面ナデ　内面シボリ | 密 | 良 | 黄灰色 | 脚部2/3 | |
| 407 | 158-01 | 土師器 | 片口鉢 | SR4 | (27.8) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ユビオサエ後ナデ | 密 | 良 | 淡黄色 | 口縁部1/5 | |
| 408 | 157-04 | 土師器 | 片口鉢 | SR4 | — | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面下半ケズリ　内面ナデ | 密 | 良 | 淡黄色 | 口縁部1/5 | |
| 409 | 149-03 | 土師器 | 手捏土器 | SR4 | 7.7 | 6.2 | 4.4 | 口縁部ヨコナデ<br>外面ユビオサエ　内面ナデ | やや粗<br>～3㎜砂粒含 | 良 | 灰白色 | ほぼ完形 | |
| 410 | 158-04 | 土師器 | ミニチュア壺 | SR4 | — | 2.3 | — | 体部外面ナデ<br>内面ユビオサエ後ナデ | 密 | 良 | にぶい赤褐色 | 底部完存 | |
| 411 | 147-01 | 土師器 | 椀 | SR4 | 12.6 | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ユビオサエ後ナデ<br>内面ナデ | 密<br>～2㎜砂粒含 | 良 | 橙色 | 口縁部1/3 | |
| 412 | 147-06 | 土師器 | 椀 | SR4 | (13.2) | — | — | 口縁部ヨコナデ　体部内外面ナデ | 密 | 良 | 橙色 | 口縁部1/3 | |
| 413 | 148-03 | 土師器 | 椀 | SR4 | (12.0) | — | (5.5) | 口縁部ヨコナデ　体部内外面ナデ | 密 | 良 | 橙色 | 全体1/2 | |
| 414 | 148-04 | 土師器 | 椀 | SR4 | (11.6) | — | — | 口縁部ヨコナデ　体部内外面ナデ | 密<br>～2㎜砂粒含 | 不良 | 橙色 | 全体1/2 | |
| 415 | 147-03 | 土師器 | 椀 | SR4 | (10.8) | — | (5.4) | 口縁部ヨコナデ　体部内外面ナデ | 密 | 良 | 橙色 | 全体1/2 | |
| 416 | 148-02 | 土師器 | 椀 | SR4 | (13.8) | — | — | 口縁部ヨコナデ　体部内外面ナデ | 密<br>～4㎜砂粒含 | 良 | 橙色 | 口縁部1/5 | |
| 417 | 147-02 | 土師器 | 椀 | SR4 | (12.0) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ユビオサエ後ナデ<br>内面ナデ | 密 | 良 | 浅黄色 | 全体1/5 | |
| 418 | 147-04 | 土師器 | 椀 | SR4 | 11.4 | — | 4.3 | 口縁部ヨコナデ　体部内外面ナデ | 粗 | 不良 | 橙色 | 完形 | |
| 419 | 174-06 | 土師器 | 椀 | SR4 | (12.2) | — | (5.0) | 口縁部ヨコナデ　体部内外面ナデ | 密<br>～2㎜砂粒含 | 良 | 灰白色 | 全体2/5 | |
| 420 | 149-01 | 土師器 | 椀 | SR4 | 10.5 | — | 5.1 | 口縁部ヨコナデ　体部外面ユビオサエ<br>底部ケズリ | 密<br>～2㎜砂粒含 | 不良 | 橙色 | 完形 | |

**第22表　遺物観察表（12）**

| 報告番号 | 整理番号 | 種類 | 器種 | 出土遺構 | 法量(cm) | | | 調整・技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 残存度 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | | | |
| 421 | 149-02 | 土師器 | 椀 | SR4 | 12.6 | — | 5.2 | 口縁部ヨコナデ　体部外面ユビオサエ<br>底部ケズリ | 密<br>～2㎜砂粒含 | 良 | 橙色 | 完形 | |
| 422 | 147-05 | 土師器 | 椀 | SR4 | (13.0) | — | — | 口縁部ヨコナデ　体部外面ナデ<br>底部外面ケズリ | 密 | 良 | 橙色 | 全体1/6 | |
| 423 | 174-05 | 須恵器 | 杯蓋 | SR4 | (11.0) | — | — | 回転ナデ<br>天井部外面回転ケズリ | 密 | 良 | 暗青灰色 | 口縁部～天井部<br>1/5 | |
| 424 | 169-05 | 須恵器 | 杯蓋 | SR4 | (11.8) | — | — | 回転ナデ　天井部外面回転ケズリ | 密<br>～1㎜砂粒含 | 良 | 暗青灰色 | 口縁部～天井部<br>2/5 | |
| 425 | 174-01 | 須恵器 | 杯蓋 | SR4 | (11.2) | — | (4.4) | 回転ナデ　天井部外面回転ケズリ | 密 | 良 | 暗青灰色 | 全体1/2 | |
| 426 | 169-03 | 須恵器 | 杯蓋 | SR4 | (13.2) | — | — | 回転ナデ　天井部外面回転ケズリ | 密<br>～3㎜砂粒含 | 良 | 暗青灰色 | 口縁部～天井部<br>2/5 | |
| 427 | 168-04 | 須恵器 | 杯蓋 | SR4 | 13.6 | — | 4.5 | 回転ナデ　天井部外面回転ケズリ | 密<br>～3㎜砂粒含 | 良 | 暗青灰色 | ほぼ完形 | |
| 428 | 168-02 | 須恵器 | 杯蓋 | SR4 | 13.4 | — | 4.7 | 回転ナデ　天井部外面回転ケズリ | 密<br>～4㎜砂粒含 | 良 | 灰色 | 完形 | |
| 429 | 169-02 | 須恵器 | 杯蓋 | SR4 | (13.4) | — | (4.7) | 回転ナデ　天井部外面回転ケズリ | 密 | 良 | 灰色 | 口縁部～天井部<br>1/2 | |
| 430 | 168-03 | 須恵器 | 杯蓋 | SR4 | 14.7 | — | 5.6 | 回転ナデ　天井部外面回転ケズリ | 密<br>～3㎜砂粒含 | 良 | 青灰色 | 完形 | 歪み |
| 431 | 170-05 | 須恵器 | 杯身 | SR4 | (10.6) | — | 4.6 | 回転ナデ　底部外面回転ケズリ | 密<br>～2㎜砂粒含 | 良 | 灰白色 | 全体1/2 | |
| 432 | 173-01 | 須恵器 | 杯身 | SR4 | 9.7 | — | 4.6 | 回転ナデ　底部外面回転ケズリ | 密 | 良 | 褐灰色 | 完形 | |
| 433 | 171-06 | 須恵器 | 杯身 | SR4 | (10.6) | — | — | 回転ナデ　底部外面回転ケズリ | 密<br>～1㎜砂粒含 | 良 | 灰色 | 全体1/10 | |
| 434 | 170-03 | 須恵器 | 杯身 | SR4 | 12.1 | — | 5.3 | 回転ナデ　底部外面回転ケズリ | 密<br>～1㎜砂粒含 | 良 | 灰色 | 全体4/5 | |
| 435 | 170-01 | 須恵器 | 杯身 | SR4 | 10.4 | — | 5.3 | 回転ナデ　底部外面回転ケズリ | 密<br>～2㎜砂粒含 | 不良 | 灰白色 | 完形 | |
| 436 | 170-02 | 須恵器 | 杯身 | SR4 | 10.2 | — | 5.0 | 回転ナデ　底部外面回転ケズリ | 密<br>～1㎜砂粒含 | 良 | 灰色 | ほぼ完形 | |
| 437 | 171-04 | 須恵器 | 杯身 | SR4 | 10.6 | — | 4.9 | 回転ナデ　底部外面回転ケズリ | やや密<br>～2㎜砂粒含 | 良 | 灰白色 | ほぼ完形 | |
| 438 | 173-02 | 須恵器 | 杯身 | SR4 | 11.0 | — | 3.3 | 回転ナデ　底部外面回転ケズリ<br>未調整 | 密<br>～1㎜砂粒含 | 良 | 灰色 | ほぼ完形 | |
| 439 | 169-04 | 須恵器 | 杯蓋 | SR4 | (11.4) | — | 4.5 | 回転ナデ<br>天井部外面回転ケズリ<br>内面同心円文 | 密 | 良 | 暗青灰色 | 全体1/2 | |
| 440 | 174-02 | 須恵器 | 杯身 | SR4 | (11.0) | — | — | 回転ナデ　底部外面回転ケズリ | 密<br>～3㎜砂粒含 | 良 | 暗青灰色 | 口縁部1/4 | |
| 441 | 169-01 | 須恵器 | 高杯 | SR4 | (15.6) | 11.0 | 11.0 | 回転ナデ　杯部外面波状文<br>脚部外面カキメ | 密<br>～3㎜砂粒含 | 良 | 暗青灰色 | 全体2/5 | |
| 442 | 173-03 | 須恵器 | 短頸壺 | SR4 | 6.8 | — | 8.1 | 回転ナデ　口縁部～体部外面カキメ<br>底部外面回転ケズリ | 密<br>～3㎜砂粒含 | 良 | 暗青灰色 | 完形 | |
| 443 | 175-01 | 須恵器 | 広口壺 | SR4 | (13.0) | — | — | 回転ナデ<br>口縁部から頸部外面に波状文 | 密<br>～4㎜砂粒含 | 良 | 灰色 | 口縁部1/3 | |
| 444 | 175-02 | 須恵器 | 広口壺 | SR4 | — | — | — | 回転ナデ<br>口縁部から頸部外面に波状文 | 密 | 良 | 灰色 | 口縁部片 | |
| 445 | 171-02 | 須恵器 | 広口壺 | SR4 | (22.0) | — | — | 回転ナデ | 密<br>～1㎜砂粒含 | 良 | 灰色 | 口縁部1/5 | |
| 446 | 171-01 | 須恵器 | 広口壺 | SR4 | (17.6) | — | — | 回転ナデ | やや密<br>～1㎜砂粒含 | 良 | 灰色 | 口縁部1/5 | |
| 447 | 171-03 | 須恵器 | 鉢か壺? | SR4 | — | (13.2) | — | 底部外面回転ケズリ | やや粗<br>～2㎜砂粒含 | 良 | 灰色 | 底部1/3 | |
| 448 | 176-02 | 石製品 | 凹石 | SR4 | 長さ<br>7.55 | 幅<br>7.34 | 厚さ<br>3.82 | 表裏面に敲打痕 | — | — | — | — | 重量319.5g<br>花崗岩 |
| 449 | 176-01 | 石製品 | 凹石 | SR4 | 長さ<br>8.33 | 幅<br>6.88 | 厚さ<br>4.89 | 表裏面に敲打痕 | — | — | — | — | 重量487.6g<br>閃緑岩 |
| 450 | 145-03 | 石製品 | 砥石 | SR4 | 長さ<br>(4.56) | 幅<br>2.55 | 厚さ<br>1.38 | 表裏両側面に使用痕 | — | — | — | — | 重量（27.4g）<br>砂岩 |
| 451 | 149-04 | 石製品 | 管玉 | SR4 | 長さ<br>2.1 | 径<br>0.55 | 円孔径<br>0.2 | — | — | — | — | — | 重量1.0g<br>碧玉 |
| 452 | w015-02 | 木製品 | 風呂鍬 | SR4 | 長さ<br>(27.2) | 幅<br>14.5 | 厚さ<br>1.4 | 柾目材 | — | — | — | — | サカキ |
| 453 | 002-05 | 土師器 | 二重口縁壺 | SD8 | (12.4) | — | — | 口縁部ヨコナデ | やや密<br>細砂粒含 | 良 | にぶい黄橙色 | 口縁部1/3 | 内面に黒斑 |
| 454 | 056-01 | 石製品 | 石鏃 | SD8 | 長さ<br>2.9 | 幅<br>1.75 | 厚さ<br>0.4 | 凹基無茎式 | — | — | — | — | 重量（1.3g）<br>サヌカイト |
| 455 | 056-05 | 石製品 | 石鏃 | SD8 | 長さ<br>2.1 | 幅<br>1.6 | 厚さ<br>0.6 | 凹基無茎式 | — | — | — | — | 重量1.0g<br>サヌカイト |

**第23表　遺物観察表（13）**

| 報告番号 | 整理番号 | 種類 | 器種 | 出土遺構 | 法量(cm) | | | 調整・技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 残存度 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | | | |
| 456 | 056-02 | 石製品 | 紡錘車 | SD8 | 径 3.9 | 円孔径 0.6 | 厚さ 0.8 | 幾何学的文様 | — | — | — | — | 重量（8.3g） 滑石 |
| 457 | 200-04 | 須恵器 | 杯身 | SD9 | (11.3) | — | — | 回転ナデ　底部外面回転ケズリ | やや粗 ～3mm砂粒含 | 良 | 灰白色 | 口縁部～体部1/4 | |
| 458 | 200-01 | 土師器 | S字甕　B | SD9 | (13.1) | — | — | 口縁部ヨコナデ 体部外面ハケ　内面板ナデ | やや粗 ～2mm砂粒含 | 良 | 淡黄色 | 口縁部1/4 | |
| 459 | 200-02 | 土師器 | 甕 | SD9 | (20.6) | — | — | 口縁部ヨコナデ　口縁部内面ハケ | 密 ～2mm砂粒含 | 良 | 浅黄橙色 | 口縁部1/5 | |
| 460 | 200-03 | 土師器 | 高杯 | SD9 | — | — | — | 脚柱部外面ナデ 内面シボリ | 密 ～2mm砂粒含 | 良 | 浅黄色 | 脚柱部1/2 | |
| 461 | 200-05 | 石製品 | 管玉 | SD9 | 長さ 2.2 | 径 0.6 | 円孔径 0.2 | — | — | — | — | — | 重量0.6g 滑石 |
| 462 | 199-04 | 土師器 | 二重口縁壺 | SR5 | — | — | — | 内外面ナデ | 密 | 良 | 灰白色 | 口縁部1/6 | |
| 463 | 199-05 | 土師器 | 二重口縁壺 | SR5 | — | — | — | 外面朱塗り 頸部から体部上半ハケ | 密 ～5mm砂粒含 | 良 | 灰白色 | 口縁端部欠 | |
| 464 | 198-04 | 土師器 | 壺 | SR5 | (11.6) | — | — | 口縁部ヨコナデ 体部外面ハケ 内面ナデ | 密 砂粒含 | 良 | 灰黄褐色 | 口縁部1/6 | |
| 465 | 198-01 | 土師器 | 壺 | SR5 | (17.2) | — | — | 口縁部ヨコナデ 内外面ナデ | やや粗 砂粒含 | 良 | にぶい橙色 | 口縁部1/4 | |
| 466 | 198-02 | 土師器 | 甕 | SR5 | (14.7) | — | — | 口縁部ヨコナデ 体部外面ナデ 内面ナデ・ハケ | 密 | 良 | 黒褐色 | 口縁部1/4 | |
| 467 | 198-03 | 土師器 | S字甕　D | SR5 | (12.8) | — | — | 口縁部ヨコナデ 体部外面ハケ　内面ナデ | 密 | 良 | にぶい黄橙色 | 口縁部1/4 | |
| 468 | 198-05 | 土師器 | S字甕 | SR5 | — | — | — | 脚外面ハケ　内面ユビオサエ | 密 | 良 | 淡赤橙色 | 脚台部4/5欠 | |
| 469 | 199-03 | 土師器 | 高杯 | SR5 | (16.8) | — | — | 口縁部ヨコナデ 杯部外面ナデ　内面ナデ・板ナデ | 密 砂粒含 | 良 | （内）褐灰色 （外）橙色 | 杯部1/6 | |
| 470 | 199-02 | 土師器 | 高杯　C | SR5 | — | 13.6 | — | 脚端部ヨコナデ 脚部内面シボリ | 密 砂粒含 | 良 | 橙色 | 脚部ほぼ完存 | 風化大 |
| 471 | 199-01 | 土師器 | 高杯 | SR5 | — | 11.4 | — | 脚端部ヨコナデ 脚部外面ナデ　内面ケズリ・ナデ | 密 | 良 | 淡橙色 | 脚部ほぼ完存 | |
| 472 | 194-02 | 土師器 | 壺 | SD10 | (25.4) | — | — | 口縁端部外面に擬凹線文 内面櫛状工具による羽状文 頸部外面ハケ | 密 | 良 | 明赤褐色 | 口縁部1/5 | |
| 473 | 196-05 | 土師器 | 細頸壺 | SD10 | (6.6) | — | — | 口縁端部外面および頸部外面に櫛状工具による刺突文 | 密 | 良 | 橙色 | 口縁部1/3 | |
| 474 | 195-01 | 土師器 | 無頸壺 | SD10 | (7.6) | — | — | 口縁部ヨコナデ 体部内面に粘土紐痕 口縁部2孔一対の円孔 | 粗 | 良 | 浅黄橙色 | 口縁部～体部1/2 | 風化 |
| 475 | 195-02 | 土師器 | 壺 | SD10 | (16.0) | — | — | 口縁部ヨコナデ | 密 ～7mm砂粒含 | 良 | にぶい橙色 | 口縁部4/5 | 風化 |
| 476 | 196-02 | 土師器 | 壺 | SD10 | (9.2) | — | — | 口縁部ヨコナデ 体部外面ナデ　内面ユビオサエ・ナデ | 密 | 良 | 淡黄色 | 口縁部1/5 | |
| 477 | 196-06 | 土師器 | 壺 | SD10 | (20.4) | — | — | 口縁端部外面に刻目・2個一対押圧 内面に波状文 体部外面タテハケ　内面ヨコハケ | 粗 | 良 | にぶい赤橙色 | 口縁部1/5 | |
| 478 | 197-01 | 土師器 | 甕 | SD10 | 9.0 | 3.9 | 12.1 | 口縁部ヨコナデ 口縁部内面および体部内面ヨコハケ 体部外面ナナメハケ | やや粗 ～2mm砂粒含 | 良 | 浅黄橙色 | ほぼ完形 | 底部外面に木葉痕 |
| 479 | 196-03 | 土師器 | S字甕 | SD10 | — | 5.3 | — | 脚端部に折り返し 外面ハケ　内面ユビオサエ・ナデ | 密 | 良 | にぶい黄橙色 | 脚台部3/5 | |
| 480 | 196-04 | 土師器 | S字甕 | SD10 | — | (10.0) | — | 脚端部に折り返し 外面ハケ　内面ユビオサエ・ナデ | 密 | 良 | 明黄褐色 | 脚台部1/3 | |
| 481 | 195-03 | 土師器 | 高杯 | SD10 | (15.0) | — | — | 口縁部ヨコナデ 杯部内面ヨコハケ | 密 | 良 | 浅黄橙色 | 杯部2/5 | |
| 482 | 195-05 | 土師器 | 高杯 | SD10 | (13.4) | — | — | 口縁部ヨコナデ 杯部内外面ナデ | 密 | 良 | 灰白色 | 杯部1/2 | |
| 483 | 196-01 | 土師器 | 高杯 | SD10 | (15.6) | — | — | 口縁部ヨコナデ 杯部内外面ナデ | 密 | 良 | 灰白色 灰黄色 | 杯部1/5 | |
| 484 | 195-04 | 土師器 | 高杯 | SD10 | (15.6) | — | — | 口縁部ヨコナデ 杯部内外面ナデ | 密 | 良 | にぶい黄橙色 | 杯部2/5 | |
| 485 | 194-04 | 土師器 | 高杯 | SD10 | (16.0) | 11.0 | 14.2 | 口縁部ヨコナデ　杯部内外面ナデ 脚柱部内面シボリ・ケズリ | 密 | 良 | 灰白色 | 全体2/3 | |
| 486 | 194-03 | 土師器 | 高杯 | SD10 | (16.4) | 11.9 | 13.7 | 口縁部ヨコナデ　杯部内外面ナデ 脚柱部内面シボリ・ケズリ | 密 | 良 | 淡黄色 | 全体3/5 | |
| 487 | w034-02 | 木製品 | 杭 | SZ4 | 長さ (51.5) | — | 太さ 径2.9 | 芯持ち材 | — | — | — | — | |
| 488 | w034-01 | 木製品 | 杭 | SZ4 | 長さ (53.4) | — | 太さ 径3.4 | 芯持ち材 | — | — | — | — | |
| 489 | w019-01 | 木製品 | 杭 | SZ4 | 長さ (45.7) | — | 太さ 径3.2 | 芯持ち材 | — | — | — | — | |
| 490 | 101－01 | 土師器 | S字甕　B | SR6 | 13.2 | — | — | 口縁部ヨコナデ 体部外面ナナメハケ　内面ナデ | 密 | 良 | 淡黄色 | 口縁部1/4 | |

**第24表　遺物観察表（14）**

| 報告番号 | 整理番号 | 種類 | 器種 | 出土遺構 | 法量(cm) | | | 調整・技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 残存度 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | | | |
| 491 | 101－02 | 土師器 | S字甕　C | SR6 | 15.7 | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ナナメハケ　内面ナデ | 密 | 良 | 淡黄色 | 口縁部1/4 | |
| 492 | 065-08 | 弥生土器 | 壺 | SZ5 | — | — | — | ヘラ描沈線5条・削り出し突帯3帯 | 粗<br>～3㎜砂粒含 | 良 | 明褐灰色 | 体部細片 | SZ5から出土 |
| 493 | 065-05 | 弥生土器 | 壺 | SZ5 | — | — | — | ヘラ描沈線5条 | 密<br>～4㎜砂粒含 | 良 | にぶい橙色 | 体部細片 | SZ5から出土 |
| 494 | 065-03 | 弥生土器 | 壺 | SZ7 | — | — | — | 貝殻条痕6条 | 密<br>～5㎜砂粒含 | 良 | 褐灰色 | 体部細片 | SZ7から出土 |
| 495 | 065-02 | 弥生土器 | 壺 | SZ7 | — | — | — | ヘラ描沈線3条・ヘラ描沈線3条 | 密 | 良 | 褐灰色 | 体部細片 | SZ7から出土 |
| 496 | 065-04 | 弥生土器 | 壺 | SZ7 | — | — | — | ヘラ描沈線6条 | 密<br>～2㎜砂粒含 | 良 | にぶい橙色 | 体部細片 | SZ7から出土 |
| 497 | 071-02 | 弥生土器 | 壺 | SR7 | — | — | — | ヘラ描沈線6条 | 粗<br>～2㎜砂粒含 | 良 | 灰黄褐色 | 体部細片 | |
| 498 | 071-01 | 弥生土器 | 壺 | SR7 | — | — | — | ヘラ描沈線3条 | 粗<br>～3㎜砂粒含 | 良 | 灰褐色 | 体部細片 | |
| 499 | 071-03 | 弥生土器 | 壺 | SR7 | — | — | — | 削り出し突帯の上にヘラ描沈線5条 | 粗<br>～3㎜砂粒含 | 良 | 灰黄褐色 | 体部細片 | |
| 500 | 065-07 | 弥生土器 | 壺 | SZ6 | — | — | — | 貼付突帯<br>突帯以下ヘラミガキ | 密<br>～3㎜砂粒含 | 良 | 灰褐色 | 体部細片 | 黒斑<br>SZ6から出土 |
| 501 | 070-07 | 弥生土器 | 壺 | SR7 | (28.2) | — | — | 口縁端部外面に凹線文　上下端に押圧文　口縁部内面に櫛状突起・ヨコハケ<br>頸部外面ナナメハケ | 密<br>～5㎜砂粒含 | 良 | 褐灰色 | 口縁部1/8 | |
| 502 | 067-01 | 弥生土器 | 壺 | SR7 | — | (7.0) | — | 体部外面上端に凹線文・波状文<br>外面下半ヘラミガキ | 密<br>～3㎜砂粒含 | 良 | にぶい黄橙色 | 体部1/2<br>底部1/3 | |
| 503 | 068-02 | 土師器 | 無頸壺 | SR7 | (12.4) | (4.7) | 14.8 | 口縁部に2孔一対の円孔<br>体部外面上半に櫛状工具による簾状文・凹線文　外面下半ハケ | やや密<br>～2㎜砂粒含 | やや不良 | 浅黄橙色 | 口縁部～体部<br>1/4欠 | |
| 504 | 073-04 | 土師器 | 甕壺 | SR7 | (12.3) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>口縁部内外面タテミガキ | 密 | 良 | にぶい黄橙色 | 口縁部1/3 | |
| 505 | 074-02 | 土師器 | 甕壺 | SR7 | — | 3.2 | — | 頸部ヨコミガキ<br>体部外面タテミガキ　内面ナデ | 密 | 良 | 橙色 | 口縁部欠 | |
| 506 | 066-01 | 弥生土器 | 壺 | SZ7 | — | 6.2 | — | 底部外面ナナメハケ　内面ナデ | 粗<br>～4㎜砂粒含 | 良 | 灰褐色 | 底部完存 | SZ7から出土 |
| 507 | 073-02 | 土師器 | 小型壺 | SR7 | — | 5.5 | — | 体部外面ヨコミガキ　内面タテミガキ | 粗<br>砂粒含 | 良 | 褐灰色 | 底部完存 | |
| 508 | 069-03 | 弥生土器 | 鉢 | SR7 | (20.8) | — | — | 体部外面櫛状工具による簾状文・刺突文・波状文　内面ヨコミガキ | 密 | 良 | 褐灰色 | 口縁部1/8 | |
| 509 | 069-02 | 弥生土器 | 高杯 | SR7 | (24.4) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>口縁部内外面ヨコミガキ<br>杯底部内外面ナナメミガキ | 密<br>砂粒含 | 良 | 明褐灰色 | 杯部1/3 | 風化大 |
| 510 | 069-01 | 弥生土器 | 高杯 | SR7 | (25.8) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>口縁部内外面ヨコミガキ<br>杯底部内外面ナナメミガキ | 密<br>砂粒含 | 良 | 褐灰色 | 杯部1/3 | |
| 511 | 076-01 | 弥生土器 | 高杯 | SR7 | (24.4) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>杯部内外面タテミガキ | 密 | 良 | にぶい黄橙色 | 杯部1/3 | |
| 512 | 076-04 | 弥生土器 | 高杯 | SR7 | (20.4) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>杯部内外面タテミガキ | やや粗<br>砂粒含 | 良 | にぶい橙色 | 杯部1/4 | 風化大 |
| 513 | 077-04 | 弥生土器 | 高杯 | SR7 | — | — | — | 脚部外面櫛状工具による凹線文 | やや密 | 良 | 浅黄橙色 | 脚部1/3 | 3方透孔 |
| 514 | 077-02 | 弥生土器 | 高杯 | SR7 | — | 9.5 | — | 脚部外面タテミガキ　内面ナナメハケ | 密 | 良 | 浅黄色 | 脚部3/4 | |
| 515 | 068-01 | 弥生土器 | 蓋 | SR7 | (19.9) | (5.7) | 8.1 | 外面タテハケ<br>縁部内面ヨコハケ | 密 | 良 | 灰褐色 | 全体1/2 | スス付着　歪み |
| 516 | 070-05 | 弥生土器 | 甕 | SR7 | (17.2) | — | — | 口縁部ヨコナデ　口縁端部刻目<br>体部内外面ナナメハケ | 密<br>砂粒含 | 良 | にぶい黄橙色 | 口縁部1/8 | |
| 517 | 070-06 | 弥生土器 | 甕 | SR7 | (14.0) | — | — | 口縁部外面櫛状工具による刺突文<br>頸部外面刺突文　内面ヨコハケ | やや粗<br>～7㎜砂粒含 | 良 | 明灰褐色 | 口縁部1/6 | |
| 518 | 070-02 | 弥生土器 | 壺 | SR7 | — | (8.2) | — | 外面ナナメハケ　内面ナデ<br>底部外面ナデ | やや粗<br>～5㎜砂粒含 | 良 | にぶい赤橙色 | 底部1/4 | 風化大 |
| 519 | 070-01 | 弥生土器 | 壺 | SR7 | — | 6.3 | — | 外面ハケ・タテミガキ<br>内面ナデ | やや密<br>～1㎜砂粒含 | 良 | (内) 黒褐色<br>(外) 灰白色 | 底部完存 | |
| 520 | 075-02 | 土師器 | 壺 | SR7 | 12.4 | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>外面ナナメハケ　内面ヨコハケ | 密 | 良 | 灰黄色 | 口縁部2/3 | |
| 521 | 074-01 | 土師器 | 壺 | SR7 | 11.6 | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>外面タテハケ・ナナメハケ<br>内面ナナメハケ・ユビオサエ | 密 | 良 | にぶい橙色 | 口縁部完存<br>体部1/2 | |
| 522 | 073-05 | 土師器 | 壺 | SR7 | (12.4) | — | 19.4 | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面上半ナデ・下半ケズリ<br>内面ナデ | 密 | 良 | 灰白色 | 口縁部1/4<br>体部1/10欠 | |
| 523 | 072-04 | 土師器 | 小型丸底壺 | SR7 | — | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面上半ナナメハケ・下半ｹｽﾞﾘ<br>内面ナデ・ユビオサエ | 密<br>～2㎜砂粒含 | 良 | にぶい黄橙色 | 口縁部欠 | |
| 524 | 072-05 | 土師器 | 小型丸底壺 | SR7 | — | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面上半ナナメハケ・下半ｹｽﾞﾘ<br>内面ハケ・ナデ | 密<br>～4㎜砂粒含 | 良 | (内) 褐灰色<br>(外) 浅黄橙色 | 体部～底部2/3 | |
| 525 | 083-02 | 土師器 | 小型丸底壺 | SR7 | 10.4 | — | 7.5 | 口縁部ヨコナデ　外面タテハケ<br>体部外面上半タテハケ・下半ケズリ<br>内面ナデ | 粗<br>～1㎜砂粒含 | 不良 | 灰白色 | 完形 | |

## 第25表　遺物観察表（15）

| 報告番号 | 整理番号 | 種類 | 器種 | 出土遺構 | 法量(cm) | | | 調整・技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 残存度 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | | | |
| 526 | 072-03 | 土師器 | 小型丸底壺 | SR7 | 8.0 | — | 7.6 | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面上半ナナメハケ・下半ナデ<br>内面ナデ | 密<br>～2㎜砂粒含 | 良 | 浅黄橙色 | 全体3/4 | |
| 527 | 072-02 | 土師器 | 小型丸底壺 | SR7 | 8.1 | — | 9.3 | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面上半ナデ・下半ケズリ<br>内面ナデ | やや密<br>～1㎜砂粒含 | 良 | にぶい黄橙色 | 口縁部1/4欠 | |
| 528 | 072-01 | 土師器 | 小型丸底壺 | SR7 | 8.2 | — | 10.3 | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面上半ナナメハケ<br>内面上半ハケ・ナデ | 密 | 良 | にぶい橙色 | 口縁部1/4欠 | |
| 529 | 080-01 | 土師器 | S字甕 | SR7 | 12.8 | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ナナメハケ<br>内面ユビオサエ・板ナデ | 密<br>砂粒含 | 良 | 灰黄褐色 | 口縁部完存<br>体部1/3 | |
| 530 | 078-03 | 土師器 | S字甕　C | SR7 | (10.8) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ナナメハケ<br>内面ユビオサエ・ナデ | 密<br>砂粒含 | 良 | 灰黄色 | 口縁部1/2 | |
| 531 | 078-02 | 土師器 | S字甕　C | SR7 | (13.8) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ナナメハケ<br>内面ユビオサエ・ナデ | 密<br>砂粒含 | 良 | 黄灰色 | 口縁部1/2 | |
| 532 | 078-04 | 土師器 | S字甕　C | SR7 | (13.8) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ナナメハケ<br>内面ユビオサエ・板ナデ | やや粗<br>砂粒含 | 良 | にぶい黄橙色 | 口縁部1/4 | |
| 533 | 078-01 | 土師器 | S字甕　C | SR7 | 12.6 | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ナナメハケ<br>内面ユビオサエ | 密<br>砂粒含 | 良 | にぶい黄橙色 | 口縁部一部欠 | |
| 534 | 079-01 | 土師器 | S字甕　C | SR7 | (13.0) | 7.8 | 29.2 | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ナナメハケ<br>内面板ナデ・ナデ | やや粗 | 良 | 灰白色 | 口縁部ほぼ完存<br>体部1/2<br>脚台部完存 | |
| 535 | 080-02 | 土師器 | S字甕 | SR7 | — | 10.7 | — | 脚端部折り返し<br>体部～脚部外面ナナメハケ<br>体部内面ナデ　脚部内面ユビオサエ・ナデ | 密 | 良 | 黄灰色 | 脚台部ほぼ完存 | |
| 536 | 078-07 | 土師器 | S字甕 | SR7 | — | 8.2 | — | 脚端部折り返し<br>外面ナナメハケ<br>内面ユビオサエ・ナデ | 密 | やや不良 | 灰白色 | 脚台部完存 | |
| 537 | 078-06 | 土師器 | S字甕 | SR7 | — | 7.3 | — | 脚端部折り返し<br>外面ナナメハケ<br>内面ユビオサエ・ナデ | 密<br>砂粒含 | 良 | 灰黄褐色 | 脚台部完存 | |
| 538 | 082-01 | 土師器 | 長胴甕 | SR7 | 25.7 | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面タテハケ<br>内面ヨコハケ・ナデ | 密 | 良 | にぶい黄橙色 | 口縁部～体部3/4<br>底部欠 | |
| 539 | 076-02 | 土師器 | 高杯　Aa | SR7 | 18.2 | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>杯部内外面ナデ | 密<br>砂粒含 | 良 | 橙色 | 杯部1/3 | |
| 540 | 073-06 | 土師器 | 高杯　Ab | SR7 | (17.4) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>杯部内外面ナデ | 粗<br>砂粒含 | 不良 | にぶい橙色 | 杯部3/8 | 黒斑 |
| 541 | 076-03 | 土師器 | 高杯 | SR7 | (15.6) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>杯部外面ナデ　内面ナデ・板ナデ<br>脚部外面板ナデ　内面シボリ | やや粗<br>砂粒含 | 良 | にぶい黄橙色 | 杯部1/6 | |
| 542 | 075-04 | 土師器 | 高杯 | SR7 | — | (11.5) | — | 脚裾部ヨコナデ<br>脚部外面ナデ・板ナデ<br>脚部内面ナデ | 密<br>～1㎜砂粒含 | 良 | 灰白色 | 脚部1/3 | |
| 543 | 077-03 | 土師器 | 高杯 | SR7 | — | (11.0) | — | 脚裾部ヨコナデ<br>脚部内面ケズリ | やや密 | 良 | 浅黄橙色 | 脚部1/3 | |
| 544 | 077-01 | 土師器 | 高杯 | SR7 | — | 10.2 | — | 脚裾部ヨコナデ<br>脚部外面ナナメハケ<br>脚部内面シボリ・ハケ | やや密 | 良 | にぶい黄橙色 | 脚部3/4 | |
| 545 | 071-04 | 石製品 | 石錘 | SR7 | 長さ<br>10.1 | 幅<br>5.7 | 厚さ<br>3.5 | 中央部周囲に内欠きによる窪み | — | — | — | — | 重量287.0g<br>砂岩 |
| 546 | 071-05 | 石製品 | 凹石 | SR7 | 長さ<br>12.3 | 幅<br>10.6 | 厚さ<br>3.0 | 表裏面に敲打痕 | — | — | — | — | 重量445.0g<br>砂岩 |
| 547 | 074-03 | 石製品 | 砥石 | SR7 | 長さ<br>(7.3) | 幅<br>(6.0) | 厚さ<br>1.7 | 表裏面に使用痕 | — | — | — | — | 重量103.8g<br>砂岩 |
| 548 | w015-01 | 木製品 | 曲物底板 | SR7 | 長さ<br>(48.1) | 幅<br>(15.6) | 厚さ<br>1.5 | 追柾目材　木釘痕有　キズ有 | — | — | — | — | |
| 549 | w015-03 | 木製品 | 組み合わせ鍬 | SR7 | 長さ<br>31.6 | 幅<br>17.8 | 厚さ<br>4.2 | 柾目材 | — | — | — | — | 材不明　アカガシ亜属<br>（アカガシ・ミラカシ・<br>イチイカシ等） |
| 550 | w008-02 | 木製品 | 組み合わせ鍬 | SR7 | 長さ (13.6)<br>長さ (65.6) | 幅<br>(5.8) | 厚さ (3.2)<br>太さ径3.0 | 柾目材 | — | — | — | — | サカキ |
| 551 | w008-04 | 木製品 | 弓 | SR7 | 長さ<br>(66.7) | — | 太さ<br>径2.4 | 芯持ち材 | — | — | — | — | カヤ |
| 552 | w008-03 | 木製品 | 不明棒 | SR7 | 長さ<br>(80.1) | — | 太さ<br>径3.3 | 芯持ち材<br>樺皮巻きが1ヵ所 | — | — | — | — | 針葉樹（カヤ？）<br>あて材[註] |
| 553 | w022-01 | 木製品 | 弓状木製品 | SR7 | 長さ<br>(79.9) | — | 太さ<br>径2.1 | 芯持ち材 | — | — | — | — | |
| 554 | w008-01 | 木製品 | 垂木？ | SR7 | 長さ<br>(105.0) | — | 太さ径<br>4.6 | 芯持ち材 | — | — | — | — | |
| 555 | w021-02 | 木製品 | 垂木 | SR7 | 長さ<br>(163.2) | — | 太さ径<br>4.3 | 丸太材 | — | — | — | — | |
| 556 | w024-02 | 木製品 | 杭 | SR7 | 長さ<br>(75.4) | — | 太さ径<br>4.0 | 丸太材 | — | — | — | — | |
| 557 | w016-01 | 木製品 | 杭 | SR7 | 長さ<br>(16.5) | — | 太さ径<br>4.5 | 丸太材 | — | — | — | — | |
| 558 | w016-02 | 木製品 | 不明品 | SR7 | 長さ<br>18.2 | 幅<br>3.9 | 厚さ<br>1.1 | 板目材 | — | — | — | — | |
| 559 | w009-06 | 木製品 | 板杭 | SZ5 | 長さ<br>(92.1) | 幅<br>9.5 | 厚さ<br>4.1 | 不明 | — | — | — | — | |
| 560 | w009-01 | 木製品 | 杭 | SZ5 | 長さ<br>(94.1) | — | 太さ径<br>3.5 | 丸太材 | — | — | — | — | 樹皮残 |

**第26表　遺物観察表（16）**

| 報告番号 | 整理番号 | 種類 | 器種 | 出土遺構 | 法量(cm) | | | 調整・技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 残存度 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | | | |
| 561 | w009-03 | 木製品 | 杭 | SZ5 | 長さ (89.0) | — | 太さ径 2.7 | 丸太材 | — | — | — | — | 樹皮残 |
| 562 | w009-02 | 木製品 | 杭 | SZ5 | 長さ (83.0) | — | 太さ径 3.0 | 丸太材 | — | — | — | — | |
| 563 | w009-04 | 木製品 | 杭 | SZ5 | 長さ (81.9) | — | 太さ径 4.3 | 丸太材 | — | — | — | — | 樹皮残<br>焼有 |
| 564 | w009-05 | 木製品 | 杭 | SZ5 | 長さ (80.2) | — | 太さ径 5.0 | 丸太材 | — | — | — | — | 樹皮残 |
| 565 | w017-01 | 木製品 | 杭 | SZ5 | 長さ (47.0) | — | 太さ径 3.3 | 丸太材 | — | — | — | — | 樹皮残 |
| 566 | w017-03 | 木製品 | 杭 | SZ5 | 長さ (45.5) | — | 太さ径 5.5 | 辺材 | — | — | — | — | |
| 567 | w017-02 | 木製品 | 杭 | SZ5 | 長さ (39.3) | — | 太さ径 3.8 | 丸太材 | — | — | — | — | 樹皮残 |
| 568 | w010-01 | 木製品 | 杭 | SZ6 | 長さ (90.7) | — | 太さ径 4.6 | 丸太材 | — | — | — | — | 樹皮残 |
| 569 | w010-02 | 木製品 | 杭 | SZ6 | 長さ (54.6) | — | 太さ径 7.5 | 丸太材 | — | — | — | — | 樹皮残 |
| 570 | w020-03 | 木製品 | 杭 | SZ6 | 長さ (38.3) | 幅 7.6 | 厚さ 3.0 | 辺材 | — | — | — | — | |
| 571 | w020-02 | 木製品 | 杭 | SZ6 | 長さ (25.0) | 幅 8.8 | 厚さ 3.4 | 辺材 | — | — | — | — | |
| 572 | w033-04 | 木製品 | 杭 | SZ7 | 長さ (56.0) | 幅 9.5 | 厚さ 3.7 | 辺材 | — | — | — | — | |
| 573 | w033-02 | 木製品 | 杭 | SZ7 | 長さ (57.5) | — | 太さ径 5.0 | 丸太材 | — | — | — | — | 樹皮残 |
| 574 | w026-03 | 木製品 | 杭 | SZ7 | 長さ (50.8) | 幅 6.4 | 厚さ 3.0 | 辺材 | — | — | — | — | |
| 575 | w033-01 | 木製品 | 杭 | SZ7 | 長さ (50.0) | — | 太さ径 5.0 | 丸太材 | — | — | — | — | 樹皮残<br>孔1ヵ所有 |
| 576 | w026-04 | 木製品 | 杭 | SZ7 | 長さ (39.0) | 幅 5.0 | 厚さ 5.0 | 辺材 | — | — | — | — | 転用か |
| 577 | w033-03 | 木製品 | 杭 | SZ7 | 長さ (30.2) | — | 太さ径 4.0 | 丸太材 | — | — | — | — | 樹皮残 |
| 578 | w026-02 | 木製品 | 杭 | SZ7 | 長さ (24.3) | — | 太さ径 5.5 | 丸太材 | — | — | — | — | 樹皮残 |
| 579 | 089-01 | 土師器 | 壺 | SR8 | 13.4 | — | 19.1 | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面上半ナナメハケ・下半ケズリ<br>内面ユビオサエ・板ナデ | 密<br>砂粒含 | 良 | にぶい黄橙色 | 全体4/5 | |
| 580 | 089-02 | 土師器 | 壺 | SR8 | — | — | — | 体部外面上半ナナメハケ・下半ケズリ | やや密<br>砂粒含 | 良 | 橙色 | 口縁部欠 | |
| 581 | 089-03 | 土師器 | 二重口縁壺 | SR8 | 20.0 | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ナデ 内面板ナデ | やや粗 | 良 | にぶい橙色 | 口縁部～体上部 | |
| 582 | 098-05 | 土師器 | 二重口縁壺 | SR8 | (12.6) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ナデ 内面ユビオサ・ナデ | やや粗<br>～4㎜砂粒含 | 良 | 灰黄色 | 口縁部1/4 | |
| 583 | 088-01 | 土師器 | 二重口縁壺 | SR8 | 16.1 | 6.2 | 32.0 | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ナデ 内面ユビオサエ・板ナデ | やや粗 | 良 | 淡黄色 | ほぼ完形 | |
| 584 | 090-06 | 土師器 | 小型丸底壺 | SR8 | — | — | — | 体部外面ケズリ・ナデ<br>内面ナデ・板ナデ | 密 | 良 | にぶい黄橙色 | 口縁部欠 | |
| 585 | 090-07 | 土師器 | 小型丸底壺 | SR8 | (10.0) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ナデ・ケズリ 内面ナデ | 密 | 良 | にぶい黄橙色 | 全体1/4 | |
| 586 | 095-01 | 土師器 | 甕 | SR8 | (13.2) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ナデ 内面板ナデ | 密 | 良 | にぶい黄橙色 | 口縁部1/4 | |
| 587 | 100-01 | 土師器 | 甕 | SR8 | 21.6 | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ナナメハケ 内面ナデ・板ナデ | 密 | 良 | 灰黄色 | 口縁部ほぼ完存<br>体部1/3 | 山陰系？ |
| 588 | 098-02 | 土師器 | S字甕 C | SR8 | (13.5) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ナナメハケ 内面ユビオサエ | やや粗 | 良 | 淡黄色 | 口縁部1/4 | |
| 589 | 098-04 | 土師器 | S字甕 C | SR8 | (12.2) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ナナメハケ 内面ユビオサエ | やや粗 | 良 | 灰白色 | 口縁部1/4 | |
| 590 | 096-01 | 土師器 | S字甕 C | SR8 | 13.0 | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ナナメハケ<br>内面ユビオサエ・板ナデ | 密 | 良 | 浅黄橙色 | 口縁部完存 | |
| 591 | 098-03 | 土師器 | S字甕 C | SR8 | (13.2) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ナナメハケ<br>内面ユビオサエ・板ナデ | やや粗 | 良 | にぶい黄橙色 | 口縁部1/4 | |
| 592 | 097-01 | 土師器 | S字甕 C | SR8 | 13.1 | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ナナメハケ<br>内面ユビオサエ・ヨコハケ | やや粗<br>～4㎜砂粒含 | 良 | 浅黄色 | 脚台部欠 | |
| 593 | 099-01 | 土師器 | S字甕 C・D | SR8 | 12.7 | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ナナメハケ<br>内面ユビオサエ・板ナデ | 密<br>～2㎜砂粒含 | 良 | 灰黄色 | 脚台部欠 | |
| 594 | 096-02 | 土師器 | S字甕 C | SR8 | 12.7 | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ナナメハケ<br>内面ユビオサエ・ヨコハケ | 密<br>～3㎜砂粒含 | 良 | 浅黄橙色 | 脚台部欠 | |
| 595 | 098-01 | 土師器 | S字甕 C | SR8 | (14.8) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ナナメハケ<br>内面ナデ・ハケ | やや粗 | 良 | 灰褐色 | 口縁部1/4 | |

**第27表 遺物観察表（17）**

| 報告番号 | 整理番号 | 種類 | 器種 | 出土遺構 | 法量(cm) | | | 調整・技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 残存度 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | | | |
| 596 | 095-04 | 土師器 | S字甕 | SR8 | — | 8.2 | — | 脚裾部折り返し<br>外面ナナメハケ<br>内面ユビオサエ・ナデ | やや粗 | 良 | にぶい黄橙色 | 脚台部完存 | |
| 597 | 095-02 | 土師器 | S字甕 | SR8 | — | 7.8 | — | 脚裾部折り返し<br>外面ナナメハケ<br>内面ユビオサエ | 密 | 良 | 灰黄色<br>浅黄色 | 脚台部完存 | |
| 598 | 090-03 | 土師器 | 高杯 | SR8 | — | (8.2) | — | 脚裾部ヨコナデ<br>2個一対の透孔6ヵ所 | 密 | 良 | にぶい橙色 | 脚裾部1/6 | |
| 599 | 093-02 | 土師器 | 高杯 | SR8 | — | 11.8 | — | 脚裾部ヨコナデ<br>外面ヨコミガキ　内面ヨコハケ | 密 | 良 | にぶい黄橙色 | 脚部3/4 | 3方透孔 |
| 600 | 091-03 | 土師器 | 高杯 | SR8 | 16.3 | 11.2 | 12.3 | 口縁部ヨコナデ　杯部内外面ナデ<br>脚柱部内外面ケズリ後ナデ<br>内面シボリ | 密<br>～1mm砂粒含 | 不良 | 灰白色 | 口縁部1/10欠 | |
| 601 | 091-01 | 土師器 | 高杯 | SR8 | 16.4 | 7.2 | 12.4 | 口縁部ヨコナデ　杯部内外面ナデ<br>脚柱部内外面ケズリ後ナデ<br>内面シボリ | 密 | 良 | 灰白色 | 口縁部1/3欠 | |
| 602 | 091-02 | 土師器 | 高杯 | SR8 | 16.3 | 11.8 | 12.6 | 口縁部ヨコナデ　杯部内外面ナデ<br>脚柱部内外面ケズリ後ナデ<br>内面シボリ | 密<br>～2mm砂粒含 | 良 | 浅黄色 | 口縁部1/10欠 | |
| 603 | 093-04 | 土師器 | 高杯 | SR8 | 15.8 | 11.6 | 12.4 | 口縁部ヨコナデ<br>杯部内外面ナデ<br>脚部内面シボリ | やや密 | 良 | 黄橙色 | 全体2/3 | |
| 604 | 094-02 | 土師器 | 高杯 | SR8 | 17.0 | 11.4 | 12.5 | 口縁部ヨコナデ<br>杯部内外面ナデ<br>脚部内面シボリ | やや粗<br>～2mm砂粒含 | 良 | 灰白色 | 完形 | |
| 605 | 092-01 | 土師器 | 高杯 | SR8 | 16.0 | 12.8 | 12.7 | 口縁部ヨコナデ<br>杯部内外面ナデ<br>脚柱部内面シボリ | 密 | 不良 | にぶい橙色 | 全体1/2 | |
| 606 | 091-04 | 土師器 | 高杯 | SR8 | 16.7 | 11.4 | 12.1 | 口縁部ヨコナデ<br>杯部外面ナデ　内面ハケ<br>脚柱部外面ｶｽﾞﾘ後ナデ　内面シボリ | 粗<br>～2mm砂粒含 | 良 | 淡黄色 | 全体1/2 | 黒斑 |
| 607 | 092-02 | 土師器 | 高杯 | SR8 | (16.4) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>杯部外面タテハケ　内面ヨコハケ | やや粗<br>～1mm砂粒含 | やや良 | にぶい橙色 | 杯部1/2 | |
| 608 | 090-01 | 土師器 | 高杯 | SR8 | — | 10.7 | — | 杯部内外面ハケ<br>脚裾部ヨコナデ　外面ハケ<br>脚柱部内面ケズリ | 密 | 良 | にぶい橙色 | 脚部1/2 | |
| 609 | 094-01 | 土師器 | 高杯　C | SR8 | 22.0 | 14.1 | 15.3 | 口縁部ヨコナデ<br>杯部外面ナデ　内面ハケ<br>脚部内外面ナデ | 粗<br>～7mm砂粒含 | 不良 | 橙色 | ほぼ完形 | |
| 610 | 093-01 | 土師器 | 高杯　C | SR8 | 19.3 | 13.7 | 14.1 | 口縁部ヨコナデ<br>杯部内外面ナデ<br>脚部内外面ナデ | 密<br>砂粒含 | 良 | 灰黄色 | 全体2/3 | |
| 611 | 090-04 | 土師器 | 手捏土器 | SR8 | 4.3 | — | 3.6 | 脚部ユビオサエ<br>体部内外面ユビオサエ | やや密 | 良 | 黄灰色 | ほぼ完形 | |
| 612 | w012-03 | 木製品 | 一木鋤 | SR8 | 長さ<br>(26.5) | 幅<br>15.0 | 厚さ<br>1.0 | 柾目材 | — | — | — | — | アカガシ亜属（アカガシ・ミラカシ・アラカシ・イチイカシ等） |
| 613 | w012-02 | 木製品 | 竪杵 | SR8 | 長さ<br>(38.2) | — | 太さ<br>径9.2 | 辺材 | — | — | — | — | 樹皮残 |
| 614 | w030-01 | 木製品 | 曲柄又鍬 | SR8 | 長さ<br>(47.6) | 刃部幅<br>5.0 | 厚さ<br>0.9 | 柾目材 | — | — | — | — | |
| 615 | w025-03 | 木製品 | 建築部材 | SZ10 | 長さ<br>(42.6) | — | 太さ<br>径7.6 | 芯持ち材 | — | — | — | — | 焼有 |
| 616 | w025-04 | 木製品 | 建築部材 | SZ10 | 長さ<br>(54.7) | — | 太さ径<br>6.0 | 芯持ち材 | — | — | — | — | |
| 617 | w025-01 | 木製品 | 建築部材 | SR8 | 長さ<br>(69.0) | — | 太さ<br>5.9 | 芯持ち材 | — | — | — | — | |
| 618 | w021-01 | 木製品 | 垂木 | SR8 | 長さ<br>(197.0) | — | 太さ径<br>6.2 | 丸太材 | — | — | — | — | |
| 619 | w022-02 | 木製品 | 板材 | SZ10 | 長さ<br>(71.6) | 幅<br>(27.0) | 厚さ<br>4.7 | 材不明 | — | — | — | — | |
| 620 | w031-05 | 木製品 | 棒状木製品 | SR8 | 長さ<br>(75.1) | — | 太さ径<br>3.5 | 芯持ち材 | — | — | — | — | |
| 621 | w025-02 | 木製品 | 建築部材？ | SR8 | 長さ<br>(69.9) | 幅9.5 | 厚さ<br>1.6 | 柾目材 | — | — | — | — | |
| 622 | w012-01 | 木製品 | 有頭板 | SR8 | 長さ<br>(96.7) | 幅6.0 | 厚さ<br>2.7 | 柾目材 | — | — | — | — | 天秤棒？ |
| 623 | w035-03 | 木製品 | 不明板 | SR8 | 長さ<br>(54.9) | 幅16.0 | 厚さ<br>3.0 | 柾目材 | — | — | — | — | 孔有 |
| 624 | w035-02 | 木製品 | 不明板 | SR8 | 長さ<br>(78.4) | 幅<br>(25.2) | 厚さ<br>(6.0) | 柾目材 | — | — | — | — | |
| 625 | w027-03 | 木製品 | 杭 | SZ9 | 長さ<br>(66.2) | — | 太さ径<br>3.4 | 丸太材 | — | — | — | — | 樹皮残 |
| 626 | w027-01 | 木製品 | 杭 | SZ10 | 長さ<br>(86.0) | — | 太さ径<br>7.4 | 丸太材 | — | — | — | — | |
| 627 | w035-01 | 木製品 | 杭 | SR8 | 長さ<br>(108.7) | — | 太さ径<br>10.5 | 丸太材 | — | — | — | — | |
| 628 | w032-01 | 木製品 | 杭 | SR8 | 長さ<br>(121.8) | — | 太さ<br>5.5 | 辺材 | — | — | — | — | 角材<br>転用か |
| 629 | w032-03 | 木製品 | 杭 | SZ9 | 長さ<br>(103.3) | — | 太さ<br>6.5 | 辺材 | — | — | — | — | |
| 630 | w031-04 | 木製品 | 杭 | SZ9 | 長さ<br>(98.8) | 幅<br>18.3 | 厚さ<br>6.1 | 板目材 | — | — | — | — | 矢板？ |

**第28表　遺物観察表（18）**

| 報告番号 | 整理番号 | 種類 | 器種 | 出土遺構 | 法量(cm) | | | 調整・技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 残存度 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | | | |
| 631 | w031-01 | 木製品 | 杭 | SZ9 | 長さ (85.0) | 幅 9.5 | 厚さ 4.7 | 追柾目材 | — | — | — | — | 板材使用 |
| 632 | w031-02 | 木製品 | 杭 | SZ9 | 長さ (81.3) | 幅 8.6 | 厚さ 3.9 | 板目材 | — | — | — | — | 板材使用 |
| 633 | w032-04 | 木製品 | 杭 | SZ9 | 長さ (78.8) | — | 太さ 4.9 | 辺材 | — | — | — | — | |
| 634 | w032-05 | 木製品 | 杭 | SZ9 | 長さ (71.3) | — | 太さ 4.9 | 辺材 | — | — | — | — | |
| 635 | w031-03 | 木製品 | 杭 | SZ9 | 長さ (70.5) | 幅 9.2 | 厚さ 4.5 | 辺材 | — | — | — | — | 板材使用 |
| 636 | 085-03 | 土師器 | 小型丸底壺 | SR9 | 9.2 | 2.1 | 8.2 | 口縁部ヨコナデ 内面ヨコハケ<br>体部外面上半ハケ・下半ケズリ<br>内面ユビオサエ・ナデ | 密<br>砂粒含 | 良 | 灰白色 | ほぼ完形 | |
| 637 | 085-02 | 土師器 | 小型平底壺 | SR9 | 11.5 | 3.4 | 6.5 | 口縁部ヨコナデ 内面ヨコハケ<br>体部内外面ナデ | 密<br>砂粒含 | 良 | 黄灰色 | 口縁部1/2<br>体部ほぼ完存 | |
| 638 | 085-01 | 土師器 | 高杯 | SR9 | 16.2 | — | — | 口縁部ヨコナデ 内面ヨコハケ<br>杯部外面ケズリ 内面板ナデ | 密<br>～5.5mm砂粒含 | 良 | 灰白色 | 杯部3/4 | |
| 639 | 085-04 | 土師器 | 高杯 | SR9 | — | (9.8) | — | 脚裾部ヨコナデ<br>脚柱部外面ナデ 内面ユビオサエ | 密 | 良 | にぶい黄橙色 | 脚端部一部 | |
| 640 | 086-02 | 土師器 | 甕 | SR9 | (11.5) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ハケ 内面ユビオサエ・ナデ<br>粘土紐接合痕 | やや粗<br>～3mm砂粒含 | 良 | 灰黄褐色 | 口縁部～体部1/4 | 風化大 |
| 641 | 087-02 | 土師器 | S字甕 C | SR9 | (12.4) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ナナメハケ<br>内面ユビオサエ・板ナデ | 密 | 良 | にぶい黄橙色 | 口縁部1/4 | |
| 642 | 087-01 | 土師器 | S字甕 C | SR9 | 15.6 | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ナナメハケ<br>内面ユビオサエ・ハケ | 密 | 良 | 灰黄褐色 | 脚台部欠 | |
| 643 | 087-03 | 土師器 | S字甕 | SR9 | — | (9.0) | — | 脚裾部折り返し<br>外面ナナメハケ<br>内面ユビオサエ・ナデ | 密<br>砂粒含 | 良 | 灰白色 | 脚台部1/2 | |
| 644 | 086-01 | 土師器 | S字甕 | SR9 | — | 7.9 | — | 脚裾部折り返し<br>外面ナナメハケ 内面ユビオサエ | やや粗<br>～2mm砂粒含 | 良 | 黄灰色 | 脚台部完存 | |
| 645 | 044-10 | 須恵器 | 杯蓋 | B地区<br>包含層 | (14.2) | — | — | 口縁部回転ナデ<br>天井部外面回転ケズリ<br>内面回転ナデ | 密<br>～3mm砂粒含 | 良 | 明オリーブ灰色 | 口縁部～天井部<br>1/4 | |
| 646 | 208-06 | 須恵器 | 杯身 | C地区<br>包含層 | 11.0 | — | 3.6 | 口縁部回転ナデ<br>底部外面回転ケズリ<br>内面回転ナデ | 密 | 良 | 青灰色 | ほぼ完存 | |
| 647 | 206-02 | 須恵器 | 杯蓋 | C地区<br>包含層 | 12.3 | — | 4.3 | 口縁部回転ナデ<br>天井部外面回転ケズリ<br>内面回転ナデ | 密 | 良 | 灰白色 | 口縁部～天井部<br>1/2 | |
| 648 | 208-06 | 須恵器 | 高杯 | D地区<br>包含層 | — | 9.8 | — | 脚部外面回転ナデ後カキメ<br>内面回転ナデ | 密 | 良 | 暗灰色 | 脚部1/3 | 内外面に多く灰を被っている<br>3方透孔 |
| 649 | 207-04 | 須恵器 | 高杯 | C地区<br>包含層 | — | (9.2) | — | 脚部回転ナデ<br>杯部外面回転ケズリ<br>内面回転ナデ | 密<br>～2mm砂粒含 | 良 | 灰色 | 脚部2/5 | ヘラ記号「川」 |
| 650 | 208-02 | 須恵器 | 壺 | D地区<br>包含層 | (11.4) | — | — | 口縁部回転ナデ<br>頸部に歪み | 密 | 良 | 明紫灰色 | 口縁部2/5 | |
| 651 | 206-01 | 土師器 | S字甕 A | C地区<br>包含層 | (20.8) | — | — | 口縁部ヨコナデ 端部刺突文<br>体部外面ナナメハケ 内面板ナデ | やや粗<br>～2mm砂粒含 | 良 | 灰白色 | 口縁部1/6 | |
| 652 | 208-03 | 土師器 | S字甕 D | C地区<br>包含層 | (12.8) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ナナメハケ 内面ナデ | 密 | 良 | にぶい黄橙色 | 口縁部1/8 | |
| 653 | 206-03 | 土師器 | 高杯 C | C地区<br>包含層 | (20.6) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>杯部内外面ナデ | やや粗 | 良 | 灰黄色 | 杯部1/3 | |
| 654 | 214-05 | 土師器 | 高杯 C | C地区<br>包含層 | (18.2) | 13.4 | 13.6 | 口縁部ヨコナデ<br>杯部内外面ナデ<br>脚部外面ナデ 内面シボリ | 密<br>砂粒含 | 良 | にぶい黄橙色 | 口縁部1/4<br>脚部完存 | 風化大 |
| 655 | 043-02 | 土師器 | 椀 | B地区<br>包含層 | (11.4) | — | 4.1 | 口縁部ヨコナデ<br>体部内外面ナデ | 粗<br>～1mm砂粒含 | やや不良 | 灰白色 | 全体1/3 | 底部に木葉痕 |
| 656 | 227-04 | 土師器 | 手捏土器 | E地区<br>包含層 | 5.8 | — | 3.3 | 口縁部ユビオサエ後ナデ<br>体部内外面ユビオサエ | 密 | 良 | にぶい橙色 | ほぼ完形 | |
| 657 | 206-06 | 土師器 | ミニチュア壺 | C地区<br>包含層 | — | 1.2 | — | 体部内外面ナデ | 密 | 良 | オリーブ黒色 | 底部～体部1/3 | |
| 658 | 118-06 | 石製品 | 勾玉 | E地区<br>包含層 | 長さ 3.7 | 幅 2.2 | 厚さ 1.1 | — | — | — | — | — | 重量11.2g<br>瑪瑙 |
| 659 | 056-03 | 石製品 | 勾玉 | B地区<br>包含層 | 長さ 3.2 | 幅 2.1 | 厚さ 1.1 | — | — | — | — | — | 重量 (8.6g)<br>滑石 |
| 660 | w037-01 | 木製品 | 井戸枠 | SE2 | 長さ 92.8 | 幅 (25.8) | 厚さ 3.5 | 追柾目材<br>上部2カ所に切り込み | — | — | — | 上部腐食 | スギ |
| 661 | w037-02 | 木製品 | 井戸枠 | SE2 | 長さ 85.2 | 幅 (18.9) | 厚さ 3.3 | 追柾目材<br>上部2カ所に切り込み | — | — | — | ほぼ完形 | スギ |
| 662 | w038-01 | 木製品 | 井戸枠 | SE2 | 長さ (87.1) | 幅 33.0 | 厚さ 3.9 | 追柾目材<br>上下4カ所に切り込み | — | — | — | 図上<br>右側部分腐食 | 一部腐食のため取り上げ不可<br>ヒノキ科 |
| 663 | w038-02 | 木製品 | 井戸枠 | SE2 | 長さ (68.3) | 幅 23.3 | 厚さ 2.1 | 追柾目材<br>上下4カ所に切り込み | — | — | — | 腐食著しい | スギ |
| 664 | 224-01 | 土師器 | 椀 | SE2 | 12.6 | — | 5.6 | 口縁部ヨコナデ<br>外面オサエ後ナデ 内面ヨコハケ | 密<br>～1mm砂粒含 | 良 | にぶい橙色 | 全体2/3 | 底部外面に木葉痕 |
| 665 | 217-01 | 石製品 | 石鏃 | SR11 | 長さ 3.8 | 幅 1.7 | 厚さ 0.5 | 凹基無茎式 | — | — | — | 完形 | 重量5.0g<br>サヌカイト |

**第29表　遺物観察表（19）**

| 報告番号 | 整理番号 | 種類 | 器種 | 出土遺構 | 法量(cm) | | | 調整・技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 残存度 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | | | |
| 666 | 218-06 | 土師器 | 不明品 | SR11 | 長さ 5.5 | 幅 2.2 | — | 断面三角形で一面はナデ一面はハケ 面は剥離 中空 | 密 ～1mm砂粒含 | 良 | 浅黄橙色 | 図上下端欠 | 器種不明 付属品か |
| 667 | 220-05 | 土師器 | S字甕 | SR11 | (13.2) | — | — | 口縁部ヨコナデ 体部外面タテハケ後ヨコハケ 体部内面ナデ | やや粗 ～1mm砂粒含 | 良 | 淡黄色 | 口縁部1/5 | 外面にスス付着 |
| 668 | 217-02 | 土師器 | 注口土器 | SR11 | — | — | — | 口縁部外面ヨコナデ 内面ヨコハケ 体部外面ハケ後ヘラミガキ 体部内面ヘラケズリ 注口部貼付 | 密 ～2mm砂粒含 | 良 | 橙褐色 | 体部完形 | ベースは小型丸底 |
| 669 | 221-04 | 須恵器 | 杯蓋 | SR11 | (12.9) | — | — | 口縁部～内面回転ナデ 天井部外面回転ケズリ 口縁端部内面に沈線 | やや粗 ～3mm砂粒含 | 良 | 緑灰色 | 口縁部1/3 | |
| 670 | 218-03 | 土師器 | 椀 | SR11 | (10.4) | — | 2.9 | 口縁部～内面ヨコナデ 底部外面オサエ | 密 ～1mm砂粒含 | 良 | 灰白色 | 口縁部1/3 | |
| 671 | 222-02 | 土師器 | 椀 | SR11 | 12.6 | — | 4.7 | 口縁部ヨコナデ 体部外面ナデ 内面板ナデ | 密 | 良 | 淡黄色 | ほぼ完形 | |
| 672 | 218-02 | 土師器 | 椀 | SR11 | 10.6 | — | 3.4 | 口縁部ヨコナデ 体部外面ナデ 内面板ナデ | 密 ～1mm砂粒含 | 良 | 灰白色 | 口縁部2/3 | 底部外面に木葉痕 |
| 673 | 218-01 | 土師器 | 椀 | SR11 | 11.6 | — | 3.6 | 口縁部ヨコナデ 体部外面オサエ後ナデ 内面ナデ | 密 ～1mm砂粒含 | 良 | 灰白色 | 全体1/2 | 底部外面に木葉痕 |
| 674 | 223-03 | 土師器 | 椀 | SR11 | — | — | — | 外面ナデ 内面ハケ後ナデ | やや粗 ～3mm砂粒含 | 良 | にぶい橙色 | 底部完存 | 底部外面に木葉痕 |
| 675 | 218-05 | 土師器 | 甑 | SR11 | — | — | — | 底部に径2cm程円孔2カ所以上あり 外面ハケ 内面ナデ | 密 ～2mm砂粒含 | 良 | にぶい褐色 | 3×8cmの小片 | |
| 676 | 219-03 | 土師器 | 杯 | SR11 | 18.1 | — | 4.5 | 口縁部ヨコナデ 体部外面ナデ後ヘラミガキ 体部内面放射状暗文 底部外面ヘラケズリ | 密 ～1mm砂粒含 | 良 | 橙色 にぶい黄橙色 | 全体2/3 | |
| 677 | 219-04 | 土師器 | 杯 | SR11 | (20.8) | — | 5.0 | 口縁部ヨコナデ 体部～底部外面ヘラケズリ 内面螺旋状・放射状暗文 | 密 | 良 | 淡黄色 | 全体1/2 | |
| 678 | 219-02 | 土師器 | 高杯 | SR11 | (13.4) | 9.8 | 11.6 | 口縁部～内面ナデ 杯部外面ヘラケズリ 脚部外面面取り風ヘラｹｽﾞﾘ 内面ナデ | 密 ～4mm砂粒含 | 良 | 浅黄橙色 | 全体1/2 | |
| 679 | 220-04 | 土師器 | 甕 | SR11 | (13.8) | — | — | 口縁部オサエ後ヨコナデ 体部外面タテハケ 内面ヨコハケ | 密 ～1mm砂粒含 | 良 | にぶい黄橙色 | 口縁部1/4 | |
| 680 | 219-01 | 土師器 | 甕 | SR11 | (15.2) | — | — | 口縁部ヨコナデ 頸部外面ハケ後ヨコナデ 内面ハケ 体部外面タテハケ 内面板ナデ | 密 ～2mm砂粒含 | 良 | にぶい橙色 灰黄色 | 全体1/4 | 外面下半にスス付着 |
| 681 | 220-01 | 土師器 | 甕 | SR11 | (20.2) | — | — | 口縁部外面ヨコナデ 口縁部内面ナデ後ハケ 体部外面タテハケ 内面ヨコハケ | 密 | 良 | 灰白色 | 口縁部1/4 | |
| 682 | 220-02 | 土師器 | 甕 | SR11 | (21.2) | — | — | 口縁部外面ヨコナデ 内面ナデ後ハケ 体部外面タテハケ 内面ナナメハケ | 密 ～1mm砂粒含 | 良 | にぶい黄橙色 | 口縁部1/4 | 体部外面にスス付着 |
| 683 | 220-03 | 土師器 | 甕 | SR11 | (22.2) | — | — | 口縁部外面ヨコナデ 内面ヨコハケ 体部外面タテハケ 内面板ナデ | 密 ～3mm砂粒含 | 良 | にぶい橙色 | 口縁部1/4 | 体部外面にスス付着 |
| 684 | 218-04 | 土師器 | 甕 | SR11 | — | (10.2) | — | 体部外面タテハケ 内面ヨコハケ 底部外面ヘラケズリ | やや粗 ～1mm砂粒含 | 良 | にぶい橙色 | 底部4/5 | 歪み大 底部外面にスス付着 |
| 685 | 221-02 | 須恵器 | 杯蓋 | SR11 | 16.5 | — | 3.5 | 天井部外面回転ケズリ 内面ナデ 口縁部回転ナデ つまみ貼付 | 密 ～5mm砂粒含 | 良 | 灰色 | 口縁部2/3 | |
| 686 | 221-03 | 須恵器 | 杯蓋 | SR11 | (17.9) | — | — | 天井部外面回転ケズリ 内面ナデ 口縁部回転ナデ | 密 | 良 | 灰白色 | 口縁部1/3 | |
| 687 | 221-01 | 須恵器 | 杯蓋 | SR11 | 17.8 | — | 2.8 | 天井部外面回転ケズリ 内面ナデ 口縁部回転ナデ つまみ貼付 | 密 ～4mm砂粒含 | 良 | 灰白色 | ほぼ完形 | 口縁内面に「井」墨書 |
| 688 | 221-05 | 須恵器 | 杯 | SR11 | 12.1 | — | 4.3 | 口縁部～内面回転ナデ 底部外面回転ケズリ | 密 ～2mm砂粒含 | 良 | 灰白色 | 全体2/3 | |
| 689 | 223-02 | 須恵器 | 杯 | SR11 | — | (10.1) | — | 底部外面回転ケズリ 内面ナデ 貼付高台 | 密 | やや不良 | 灰白色 | 底部1/4 | |
| 690 | 221-06 | 須恵器 | 杯 | SR11 | — | (12.1) | — | 底部外面回転ケズリ 内面ナデ 貼付高台 | 密 ～2mm砂粒含 | 良 | 灰白色 | 底部1/4 | |
| 691 | 220-06 | 須恵器 | 杯 | SR11 | — | (12.2) | — | 底部外面回転ケズリ 内面ナデ 貼付高台 | 密 | 良 | 灰白色 | 底部1/3 | |
| 692 | 222-04 | 須恵器 | 高杯 | SR11 | — | (11.6) | — | 内外面回転ナデ 柱状部に1条沈線 | 密 ～1mm砂粒含 | 不良 | 浅黄橙色 | 柱状部完存 | |
| 693 | 223-04 | 須恵器 | 長頸壺 | SR11 | (10.3) | — | — | 内外面回転ナデ 頸部中位に2条沈線 | 密 ～4mm砂粒含 | 良 | 青灰色 | 口縁部1/3 | |
| 694 | 222-01 | 須恵器 | 平瓶 | SR11 | 7.2 | — | 15.0 | 口縁部回転ナデ 頸部に2条沈線 体部外面カキメ 回転ナデ 底部回転ケズリ | 密 | 良 | 灰白色 黄灰色 | 完形 | 肩部に自然釉 土器片癒着 |
| 695 | 223-01 | 須恵器 | 鉢 | SR11 | (21.9) | — | — | 口縁部～内面回転ナデ 体部外面カキメ | 密 | 良 | 灰色 | 全体1/3 | |
| 696 | 103-02 | 土師器 | 台付椀 | SD18 | — | (8.2) | — | 脚台部ヨコナデ 椀部ナデ | 並 | 良 | 橙色 | 脚台部1/3 | |
| 697 | 103-05 | 須恵器 | 杯 | SD18 | 11.0 | — | 4.9 | 口縁部～内面回転ナデ 外面回転ケズリ | 並 | 良 | 灰色 | 口縁部3/5 | |
| 698 | 102-04 | 須恵器 | 長頸壺 | SD18 | 体部 13.8 | — | — | 頸部～肩部外面・内面回転ナデ 体部外面沈線間に刺突列文 底部回転ケズリ | 密 | 良 | 明青灰色 | 体部1/2 | |
| 699 | 102-03 | 須恵器 | 高杯 | SD18 | — | (11.0) | — | 脚部内外面回転ナデ 内面シボリ | 密 | 良 | 灰白色 | 脚部2/5 | |
| 700 | 102-01 | 須恵器 | 杯蓋 | SD20 | (11.0) | — | — | 口縁部回転ナデ 天井部外面回転ケズリ 天井部内面一方向ナデ | 密 | 良 | 灰白色 | 口縁部1/4 | |

**第30表　遺物観察表（20）**

| 報告番号 | 整理番号 | 種類 | 器種 | 出土遺構 | 法量(cm) | | | 調整・技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 残存度 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | | | |
| 701 | 104-01 | 土師器 | 甕 | SD20 | (20.8) | — | — | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面タテハケ　内面ヨコハケ | 並 | 良 | にぶい橙色 | 口縁部1/7 | |
| 702 | 207-02 | 須恵器 | 杯蓋 | C地区<br>包含層 | 13.4 | — | 4.4 | 天井部外面ヘラ切り未調整<br>天井部内面ナデ<br>口縁部回転ナデ | 密<br>～5㎜砂粒含 | 良 | 青灰色 | 全体1/2 | |
| 703 | 212-05 | 須恵器 | 杯(転用硯) | E地区<br>包含層 | — | 8.2 | — | 底部外面回転ケズリ後ナデ<br>底部内面回転ナデ<br>貼付高台 | 密<br>～3㎜砂粒含 | 良 | 灰白色 | 底部2/3 | 杯底部を硯面として転用 |
| 704 | 207-03 | 須恵器 | 杯 | E地区<br>包含層 | — | (11.6) | — | 回転ナデ<br>貼付高台 | 密 | 良 | 明青灰色 | 高台部1/3 | |
| 705 | 061-03 | 須恵器 | 杯 | D地区<br>包含層 | — | (9.9) | — | 体部内外面回転ナデ<br>底部外面回転ケズリ<br>貼付高台 | 密 | 良 | にぶい黄橙色 | 底部1/4 | |
| 706 | 203-02 | 土師器 | 小皿 | SE3 | (7.5) | — | 1.5 | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ユビオサエ・ナデ<br>内面ナデ | 密<br>～2㎜砂粒含 | 良 | 橙色 | 全体1/4 | |
| 707 | 203-01 | 陶器 | 椀 | SE3 | (15.1) | — | — | ロクロナデ | 密 | 良 | 灰白色 | 口縁部～体部1/4 | |
| 708 | 204-01 | 陶器 | 椀 | SE3 | 16.7 | 7.8 | 5.9 | ロクロナデ<br>底部外面糸切り痕　貼付高台 | 密 | 良 | 灰白色<br>にぶい赤褐色 | ほぼ完形 | |
| 709 | w014-01 | 木製品 | 曲物 | SE3 | 径<br>47.5 | 高さ<br>(16.2) | 厚さ本体0.6<br>タガ0.4 | — | — | — | — | — | |
| 710 | w013-01 | 木製品 | 曲物 | SE3 | 径<br>(39.5) | 高さ<br>(18.4) | 厚さ<br>0.7 | — | — | — | — | 下部欠 | |
| 711 | 226-04 | ロクロ土師器 | 小皿 | SE4 | 9.2 | — | 1.8 | ロクロナデ<br>底部外面糸切痕 | 密 | 良 | にぶい橙色 | ほぼ完形 | |
| 712 | 226-02 | 陶器 | 椀 | SE4 | (16.8) | — | — | ロクロナデ　貼付高台 | やや粗<br>小石含 | 良 | 灰白色<br>にぶい黄橙色 | 口縁部1/2 | |
| 713 | 226-03 | 陶器 | 椀 | SE4 | (17.6) | (9.0) | (5.0) | ロクロナデ　貼付高台 | やや粗<br>～2㎜砂粒含 | 良 | 灰白色 | 口縁部1/4<br>底部1/8 | |
| 714 | 226-01 | 陶器 | 椀 | SE4 | (16.8) | 8.0 | 5.5 | ロクロナデ<br>底部外面糸切痕　貼付高台　籾殻痕 | やや粗<br>～2㎜砂粒含 | 良 | 灰白色 | 口縁部1/8<br>底部3/4 | |
| 715 | 226-05 | 土師器 | 鍋 | SE4 | (23.2) | — | — | 口縁部折り返し・ヨコナデ<br>体部外面ナデ　内面ヨコハケ | 密 | 良 | 橙色<br>淡赤橙色 | 口縁部1/6 | |
| 716 | 225-04 | 土師器 | 小皿 | SK16 | 10.0 | — | 1.9 | 口縁部ヨコナデ<br>体部外面ユビオサエ　内面ナデ | 密 | 良 | 浅黄橙色 | ほぼ完形 | スス付着 |
| 717 | 225-05 | 土師器 | 鍋 | SK16 | — | — | — | 口縁部折り返し・ヨコナデ | 密 | 良 | 灰白色 | 口縁部小片 | |
| 718 | 225-01 | 陶器 | 椀 | SK16 | — | 8.4 | — | ロクロナデ<br>底部外面糸切痕　貼付高台　籾殻痕 | やや粗<br>～3㎜砂粒含 | 良 | 灰白色 | 底部完存 | |
| 719 | 225-02 | 陶器 | 椀 | SK16 | — | 7.8 | — | ロクロナデ<br>底部外面糸切痕　貼付高台　籾殻痕 | やや粗<br>小石含 | 良 | 灰白色 | 底部完存 | |
| 720 | 225-03 | 陶器 | 椀 | SK16 | (16.2) | (7.8) | 5.2 | ロクロナデ<br>底部外面糸切痕　貼付高台　籾殻痕 | 密 | 良 | 灰白色 | 全体1/2 | |
| 721 | 105-03 | 陶器 | 椀 | SD29 | — | 7.2 | — | 灰釉漬掛<br>ロクロナデ　貼付高台 | 密 | 良 | 灰白色 | 底部完存 | |
| 722 | 105-02 | 陶器 | 椀 | SD29 | — | 7.0 | — | ロクロナデ<br>底部外面糸切痕　貼付高台　籾殻痕 | やや粗 | 良 | 灰白色 | 底部完存 | |
| 723 | 106-03 | 陶器 | 椀 | SD29 | — | (7.6) | — | ロクロナデ<br>底部外面糸切痕　貼付高台 | 密 | 良 | 灰白色 | 底部完存 | |
| 724 | 106-05 | 陶器 | 椀 | SD29 | — | (8.0) | — | ロクロナデ<br>底部外面糸切痕　貼付高台　籾殻痕 | 密 | 良 | 灰白色 | 底部1/2 | 転用硯 |
| 725 | 105-04 | 陶器 | 椀 | SD29 | — | 7.0 | — | ロクロナデ<br>底部外面糸切痕　貼付高台 | 密 | 良 | 灰白色 | 底部完存 | |
| 726 | 105-01 | 陶器 | 椀 | SD29 | — | (7.8) | — | ロクロナデ<br>底部外面糸切痕　貼付高台 | 密 | 良 | 灰白色 | 底部1/2 | |
| 727 | 106-02 | 陶器 | 椀 | SD29 | — | 7.5 | — | ロクロナデ<br>底部外面糸切痕　貼付高台　籾殻痕 | 密 | 良 | 灰白色 | 底部完存 | |
| 728 | 106-04 | 陶器 | 椀 | SD29 | — | (6.4) | — | ロクロナデ<br>底部外面糸切痕　貼付高台 | 密<br>砂粒含 | 良 | 灰白色 | 底部1/2 | |
| 729 | 106-01 | 陶器 | 椀 | SD29 | (15.2) | (7.0) | 4.9 | ロクロナデ<br>底部外面糸切痕　貼付高台　籾殻痕 | やや粗<br>砂粒含 | 良 | 灰白色 | 全体3/5 | |
| 730 | 106-08 | 陶器 | 皿 | SD29 | (8.4) | — | 1.5 | ロクロナデ<br>底部外面糸切痕・ナデ・一方向ナデ | 密<br>砂粒含 | 良 | 灰白色 | 全体1/2 | 自然釉 |
| 731 | 106-07 | 陶器 | 皿 | SD29 | (8.1) | (5.0) | 1.7 | ロクロナデ<br>底部外面糸切痕・ナデ | 密<br>砂粒含 | 良 | 灰白色 | 全体1/4 | 自然釉　墨書 |
| 732 | 106-06 | 陶器 | 椀 | SD29 | — | 5.1 | — | ロクロナデ<br>底部外面糸切痕　貼付高台 | 密 | 良 | 灰白色 | 底部完存 | 墨書「の」 |
| 733 | 107-01 | 磁器 | 青磁碗 | SD29 | — | — | — | 口縁部～体部内外面に施釉<br>外面蓮花文 | 密 | 良 | 灰色 | 小片 | |
| 734 | 107-02 | 銭貨 | 北宋銭 | SD29 | — | — | — | — | — | — | — | 全体2/3 | 元祐通宝　行書体<br>初鋳年1086年 |
| 735 | 216-02 | 陶器 | 椀 | SD32 | — | (7.7) | — | ロクロナデ<br>底部外面糸切痕　貼付高台 | やや密 | 良 | (内) 灰色<br>(外) 灰白色 | 底部1/3 | スス付着 |

**第31表　遺物観察表（21）**

| 報告番号 | 整理番号 | 種類 | 器種 | 出土遺構 | 法量(cm) | | | 調整・技法の特徴 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 残存度 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | | | | |
| 736 | 229-06 | 須恵器 | 甕 | S D38 | — | — | — | 沈線　波状文 | 密 | 良 | (内) 灰色<br>(外) 灰白色 | 頸部小片 | |
| 737 | 229-01 | 陶器 | 椀 | S D38 | — | (6.7) | — | ロクロナデ<br>底部外面糸切痕　貼付高台　籾殻痕 | 密 | 良 | 灰白色 | 底部1/4 | |
| 738 | 229-04 | 陶器 | 椀 | S D38 | — | (6.8) | — | ロクロナデ<br>底部外面糸切痕　貼付高台　籾殻痕 | 密 | 良 | 灰白色 | 底部1/4 | |
| 739 | 229-03 | 陶器 | 椀 | S D38 | — | (5.8) | — | ロクロナデ<br>底部外面糸切痕　貼付高台　籾殻痕 | 密 | 良 | 灰白色 | 底部1/3 | |
| 740 | 229-02 | 陶器 | 皿 | S D38 | (8.9) | — | 1.4 | ロクロナデ<br>底部外面糸切痕　貼付高台　籾殻痕 | 密 | 良 | 灰黄色 | 全体1/8 | |
| 741 | 231-05 | 陶器 | 皿 | S D38 | (12.4) | — | — | ロクロナデ<br>口縁部～体部内面施釉 | 密 | 良 | 灰褐色 | 口縁部1/6 | 柿釉 |
| 742 | 231-07 | 陶器 | 釜 | S D38 | (8.8) | — | — | ロクロナデ<br>口縁部～体部内外面施釉 | 密 | 良 | 灰白色<br>にぶい黄橙色 | 口縁部1/6 | |
| 743 | 231-04 | 陶器 | 壺 | S D38 | — | (8.8) | — | 外面施釉<br>内面エピオサエ・ナデ | 粗 | 良 | 灰白色 | 小片 | |
| 744 | 231-03 | 陶器 | 行平 | S D38 | — | — | — | ロクロナデ<br>体部外面上半及び内面施釉<br>三又トチン痕 | 密 | 良 | (素) 褐灰色<br>(釉) ｵﾘｰﾌﾞ黄色 | 底部1/8 | |
| 745 | 231-06 | 陶器 | 天目茶椀 | S D38 | — | — | — | 口縁部～体部内外面に施釉 | 密 | 良 | 灰オリーブ色 | 口縁部小片 | |
| 746 | 231-02 | 陶器 | 天目茶椀 | S D38 | — | 4.2 | — | 底部内面施釉<br>削り出し高台 | 粗 | 良 | (素) 淡黄色<br>(釉) 暗褐色 | 底部完存 | 柿釉<br>円形加工陶器製品 |
| 747 | 230-01 | 磁器 | 碗 | S D38 | (11.4) | — | — | ロクロナデ<br>口縁部～体部内外面に施釉 | 密 | 良 | 白色 | 口縁部1/8 | |
| 748 | 230-02 | 磁器 | 碗 | S D38 | (11.8) | — | — | ロクロナデ<br>内外面施釉　内面染付 | 密 | 良 | 白色<br>淡青色 | 口縁部1/8 | |
| 749 | 230-03 | 磁器 | 皿 | S D38 | — | — | — | ロクロナデ<br>内外面施釉　内外面染付 | 密 | 良 | 白色<br>藍色 | 小片 | |
| 750 | 230-04 | 磁器 | 仏飯具 | S D38 | — | 3.9 | — | ロクロナデ<br>外面施釉 | 密 | 良 | 灰白色<br>藍色 | 脚部完存 | |
| 751 | 230-05 | 瓦 | 平瓦 | S D38 | — | — | — | 内面布目 | 密 | 良 | 暗灰色 | 小片 | |
| 752 | 228-01 | 陶器 | 椀 | F地区<br>包含層 | (16.2) | (7.8) | (5.5) | ロクロナデ<br>底部外面糸切痕　貼付高台 | 並<br>～1㎜砂粒含 | 良 | (内) 灰白色<br>(外) にぶい<br>黄橙色 | 全体1/2 | |
| 753 | 059-01 | 陶器 | 椀 | A地区<br>包含層 | (14.4) | (6.4) | (5.2) | ロクロナデ・一方向ナデ<br>底部外面糸切痕　貼付高台　籾殻痕 | 密 | 良 | 灰白色 | 全体1/6 | |
| 754 | 044-09 | 陶器 | 椀 | B地区<br>包含層 | — | (8.2) | — | ロクロナデ・一方向ナデ<br>底部外面糸切痕　貼付高台　籾殻痕 | 密<br>小石含 | 良 | 灰白色 | 底部2/5 | 墨書「大」 |
| 755 | 214-03 | 陶器 | 椀+D10 | C地区<br>包含層 | — | (6.2) | — | ロクロナデ・一方向ナデ<br>底部外面糸切痕　貼付高台　籾殻痕 | 密 | 良 | 灰白色 | 底部1/2 | 墨書「来」? |
| 756 | 228-03 | 磁器 | 青磁碗 | F地区<br>包含層 | — | — | — | 内外面施釉 | 密 | 良 | (素) 褐灰色<br>(釉) 明緑灰色 | 小片 | |
| 757 | 046-06 | 磁器 | 白磁碗 | B地区<br>包含層 | (17.2) | — | — | 玉縁口縁<br>内外面施釉 | やや粗<br>～2㎜砂粒含 | 良 | にぶい赤褐色 | 体部のみ | 風化大 |
| 758 | 051-05 | 磁器 | 碗 | B地区<br>包含層 | — | 4.2 | — | 内外面施釉 | 密<br>～1㎜砂粒含 | 良 | (素) 灰白色<br>(釉) 淡黄色 | 底部のみ | |

※　樹種同定については、元興寺文化財研究所の分析による。

[註]　あて材とは樹木の日陰の側、または山地斜面のもので根元が湾曲している部分などで、正常材と比べて構造が著しく異なり、あて材での木口面・板目面・柾目面は樹種鑑定の指標にならない。

## 第32表　遺物観察表（22）

# XI. 遺構・遺物のまとめと考察

蔵田遺跡は、安濃川下流域左岸の沖積平野に位置する。今回の調査によって弥生時代から平安・鎌倉時代の集落や河道・自然流路、またそれに伴う護岸施設などの木組み遺構が検出された。この章では、若干の考察を踏まえてまとめとする。

## 1　縄文時代の堆積層について

縄文土器は、出土位置図（第13図）や遺物観察表からわかるようにA～D地区の遺構、A～C地区の下層確認トレンチや包含層から縄文時代中期から晩期の土器が出土している。

縄文時代中期～後期の土器は、包含層からも出土しているが、ほとんどがA～C地区の下層確認トレンチからの出土である。このことから下層確認トレンチの青灰色シルト層が、縄文時代中期から後期以前の堆積により形成されたと考えられる。

また、晩期の土器は、弥生時代後期から古墳時代後期の河道ＳＲ３などの遺構埋土中や弥生時代中期以降の遺構を検出した遺構基盤層および包含層から出土している。これらの土器の出土状況から遺構基盤層より上層は、縄文時代晩期以後に形成されたものと考えられる。（宮田）

## 2　弥生～古墳時代の集落景観

今回の調査の結果、集落は弥生時代中期前葉・同中期末～後期初頭・古墳時代中期と断続的に営まれていることが判明した。その集落を構成する建物は、一部に竪穴住居の可能性があるものの、その他の建物は全て掘立柱建物であり、本遺跡は掘立柱建物のみで構成される集落の可能性が高い。以下、各時期ごとに集落景観を考えてみたい。

**弥生時代中期**　C地区でこの時期と考えられる掘立柱建物が9棟検出された。これらは柱穴出土遺物からは時期決定できないが、事実報告部分で述べたように周辺の状況・棟方向などから中期前葉、第Ⅱ様式に属する可能性が高いと考えられる。

掘立柱建物は、その分布からＳＢ１～４（東群）とＳＢ５～９（西群）の２つのまとまりに分けることができる。東西両群の間は、縄文時代晩期頃と考えられる洪水層が存在する。また、古墳時代の自然流路がほぼ同じ箇所を流下することから、弥生時代には微高地内でも相対的に低い土地であったと推定でき、東西両群を分ける自然境界と考えられる。

掘立柱建物の機能はその平面形などからみて、西群ではＳＢ６・７が住居、ＳＢ５・８・９が倉庫と考えられる。また、東群ではＳＢ２・４が住居、ＳＢ３が倉庫、ＳＢ１が納屋などの副屋と考えられる。これらは重複していたり近接しすぎるものがあり、同時存在したものは住居＋倉庫ないし副屋の２～３棟と思われる。東西両群は世帯に相当する基礎的単位[1]と認識できる。

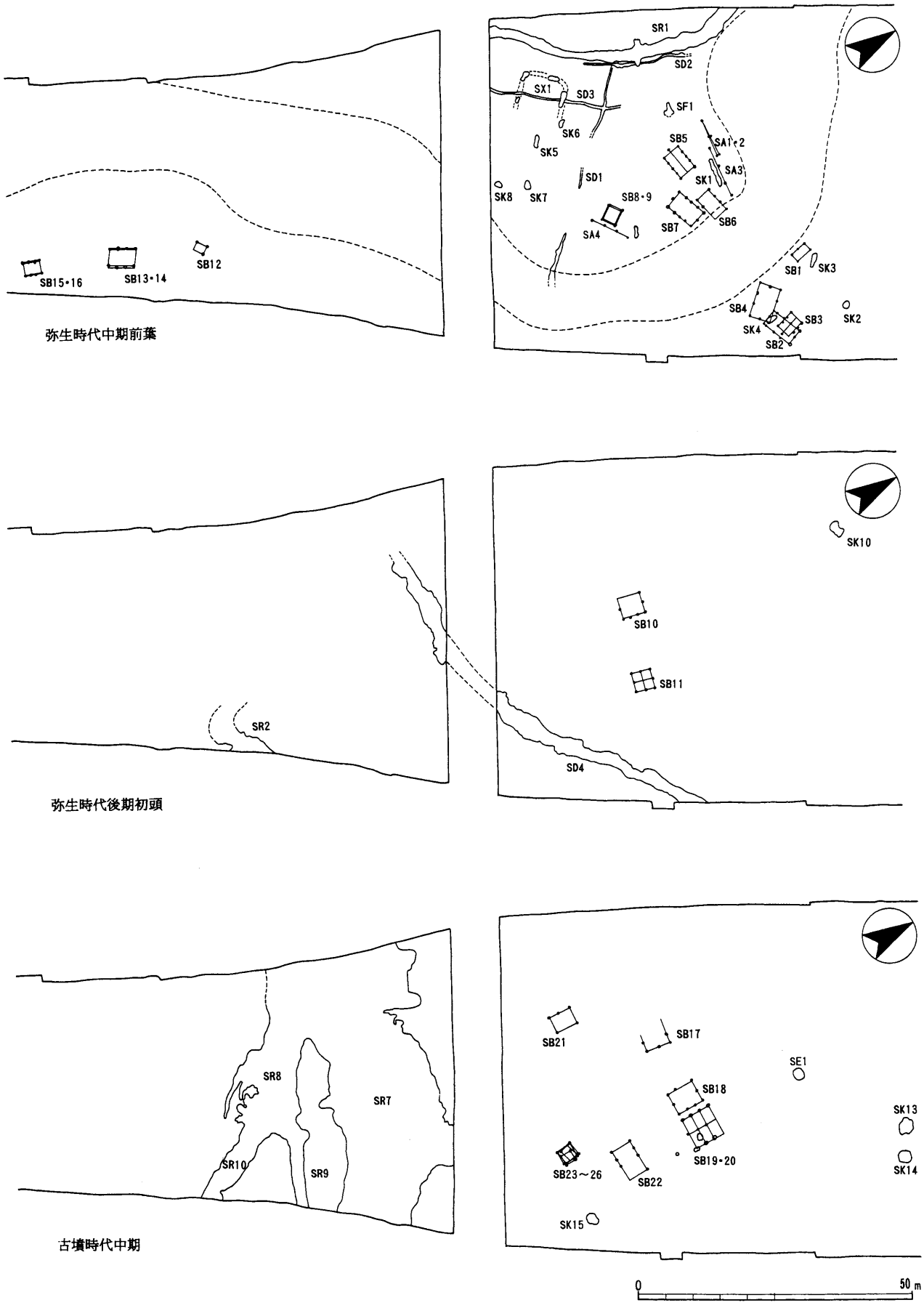
また、集落域の南側には方形周溝墓ＳＸ１があり、集落との間には方形周溝墓と同方向のＳＤ１・２がある。墓域と集落域が溝で区画されていたと考えられ、同域にあるＳＫ５・７・８も土壙墓の可能性がある。集落域は微高地の中央に位置し、墓域は微高地の縁辺部に設定されている。

ところで、河道を挟んで南側のＤ・Ｅ地区では弥生時代と推定される掘立柱建物を３棟確認した。内訳は１×１間が１棟、３×１間が２棟である。柱穴出土遺物がなく、時期決定できないが、いずれも梁間１間の建物であり、形態から弥生時代中期の集落と考えておく。

**弥生時代中期末～後期初頭**　この時期の掘立柱建物はＳＢ10・11が挙げられる。ＳＢ11は２×２間の総柱建物で倉庫とみられ、住居と推定されるＳＢ10に付属する建物と考えられる。この時期の廃棄土坑は少なく、建物の少なさからも最小単位を確認したにとどまると思われる。

また、古墳時代の河道に切られその規模・位置は明らかにできないが、この集落の南側には自然流路が存在する。その一部はＳＲ２として確認でき、隣接する津市教委の調査区では、その下流から幅約６ｍの井堰が検出されている。この井堰の存在からも最小単位のみで稲作などを含めた生業を維持するのは困難と思われ、周辺に複数の基礎的単位が想定できる。

ところで、当遺跡で確認されている自然流路の流




第119図　弥生・古墳時代集落変遷図（1：1,000）

下方向は東ないし南であるが、ＳＤ４はその方向に反して北東～南西方向となる。局地的なものとも考えられるが、その方向性を重視するならば人工的に掘削された溝、すなわち環壕の可能性がある。しかし、地盤が砂質で崩れやすく肩部の凹凸が目立ち、深さが一定しない点、その南部で小規模な杭列が検出されている点など否定的な要素が多い。ここでは、可能性を指摘するだけに止めたい。

**古墳時代中期**　この時期の掘立柱建物はＣ地区で10棟検出された。これらの南北辺の方位は、同一地点の建替えであるＳＢ23・25以外は北から東西に6°以内の振れに収まり、その棟方向も南北棟のものがほとんどである。全体に北を指向する一群であり、同時期のものと考えられる。

この中でＳＢ19・20は、当該期の中で最大規模の建物である。桁行より梁行が長いというやや特異な構造や柱筋を揃えるＳＢ18の存在からも当集落における中心的な建物と考えられる。また、ＳＢ19・20のほぼ真北には丸太くり抜き桶を井戸枠に転用したＳＥ１があり、計画的な配置が窺われる。その他の建物は、南から西側に配置されている。

また、建物群の北側には廃棄土坑ＳＫ13・14、南側に河道ＳＲ７があり、居住域は南北80ｍ程度と推定でき、西側は低地となり広がりは考えにくい。

**小結**　弥生時代の段階では、集落は住居と倉庫の２～３棟からなる基礎的単位の複合からなると考えられる。建物構成では、倉庫とした建物の割合が高い点が注目される。これは未抽出の居住建物が存在した可能性もあるが、本来の様相を示すものとすれば、収穫物を管理・収納できる独立した基礎的単位と認識でき、自立した存在と考えることができる。

一方、古墳時代中期はＳＢ19・20のような求心的な建物が現れ、方位にまとまりをみせ、前代とは本質的に異なる建物構成となる。後述するように古墳以外で出土の極めて少ない樽形甕の存在は、少なくとも古墳築造主体となり得る人物の存在を暗示する。しかし、建物群の周囲には柱列・溝のような区画施設はみられない。さらに、集落の南側で検出された河道からは、護岸施設・貯水施設などの生活に直接関連するような遺構が検出されており、これらは集落が生業と不可分な存在であること示唆する。居住者象としては、首長クラスではなく中小規模の古墳築造主体と考えたい。

ところで、古墳時代中期のＳＢ23～26は、祭祀関連の土坑と考えられるＳＫ15の西約10ｍにあり、１×１間の規模で、ほぼ同一地点で建替えを繰り返している。同時期の建物とは離れ、常に単独で存在しており、恒常的な建物であったと考えられる。そのあり方は、奈良県纒向遺跡[2]で検出されている祭祀土坑とセットになる方形建物を想起させる。

集落の縁辺部にある小規模な建物という観点でみていくと、同様なものがあることに気付く。北微高地の弥生時代中期集落の南端部にあるＳＢ８・９や南微高地の弥生時代集落の北端部に存在するＳＢ12がそれに当たる。いずれも１×１間の単純な形態であるが、床面積の狭小さから住居とは考えられない。一義的には倉庫などと思われるが、祭祀など何らかの特殊目的の建物の可能性も否定できない。

### 3　弥生時代中期前葉の土器について

方形周溝墓ＳＸ１や土坑ＳＫ１、焼土坑ＳＦ１からは、良好な資料が出土している。これらの遺構から出土した土器は、その量の多寡はあるが、ほぼ同様の内容をもつ。器種としては壺・甕・鉢があり、高杯は確認されていない。比率的には壺・甕が各半数近くを占め、少量の鉢が加わる程度である。

これらの土器は、形態から中期前葉のものと考えられる。壺では、後続する中期中葉に繋がる口縁部が受口状あるいは内湾するものはなく、施文原体も二枚貝腹縁が大半で、わずかに櫛状工具の可能性のあるものが若干あるのみである。これらは中期前葉でもその前半の土器群と把握できそうである。愛知県朝日遺跡[3]では、二枚貝施紋を主体としたⅡ期から櫛描施紋を主体とし、単純口縁細頸壺の出現を指標とするⅢ期、従来の「貝田町式古段階」に相当する、Ⅳ期の変遷が明らかになっている。朝日遺跡の編年に対比すればⅡ期に併行する時期と考えられる。

壺Ａ類は一般に「朝日式」と呼ばれる広口壺である。朝日式では、一般的には口縁部は無文が一般的であるが、口縁端部内面に瘤状突起のあるものが半数を占める。後述する壺Ｃ類の影響であろうか。Ｂ類は厚手で口縁部の開きが少ないもので、Ｃ類は口

縁部が大きく開き、端面をもつものである。B・C類は「亜流遠賀川式土器」の系譜を引くものである。いずれも口縁端面は施紋され、口縁端部内面にはほとんどの個体に瘤状突起があると思われる。頸部に押圧突帯を貼り付けるものもあり、装飾性に富む。

甕は大和形と呼ばれる外面をタテハケ調整、口縁部内面をヨコハケ調整する在地系のものが大半を占める。その他には、条痕調整する44、口縁部付近の内外面に波状文を施す66がある。44は尾張・三河方面との関連で、66は近江系と考えられるものである。県内では鈴鹿市東庄内A遺跡[4]・同東庄内B遺跡[5]・同上箕田遺跡[6]・三雲町中ノ庄遺跡[7]に類例があるが、いずれも出土量は少なく客体的な存在である。甕C類45は、体部が口径を大きく上回る特異な形態のもので、上箕田遺跡出土例がその可能性がある以外、県内では類例は見あたらない。今後の類例の増加に期待したい。

### 4　SK15出土遺物について

SK15からは、須恵器樽形𤭯・土師器鉢・土師器壺・S字甕などが出土していて、いづれも完形近くに復元できる。さらに土坑の底部には一方に火を受けた棒状木製品や炭化した木片が数点出土している。火を使った行為と完形土器との組み合わせは、いわゆる「纏向型祭祀[8]」に共通するものがある。纏向遺跡で検出されている土坑とは、規模・内容とも異なるが、特異な土器を含む遺物は祭祀後の一括廃棄と考えられよう。

樽形𤭯は、口縁部を欠くものの体部の形状などから田辺昭三氏の陶邑編年TK208型式[9]に比定でき、いわゆる初期須恵器の範疇に収まる。周辺の初期須恵器資料としては、安濃町平田35号墳[10]でTK208型式（古相）の蓋杯・把手付椀壺・𤭯・広口壺・器台・甕が、宮ノ前遺跡[11]で高杯形器台片が出土している。六大A遺跡[12]では、TK73型式以前の大庭寺段階かその直後型式と考えられる初期須恵器も出土しており、調整の特徴や焼成具合からも在地窯の可能性が指摘されている。本例も在地で制作された可能性を考慮する必要がある。

樽形𤭯は県内で7例の出土がある（第33表）が、その7例中5例は古墳からの出土である。それらの墳形は円墳あるいは方墳で、規模の点からも少なくとも首長層に相当するようなものはない。本例のように祭祀遺構あるいは墳墓にその出土が集中し、儀器としての性格の強い遺物と考えることができる。

土師器鉢160は、形態は韓式系土器鍋に類似するが、底部が平底である点、体部の調整が板ナデである点が異なる。韓式系土器は、当遺跡の周辺では、メクサ3号墳[13]で6世紀前半の須恵質の甕が、六大A遺跡では甕・甑・平底鉢・把手付鍋などが大量に出土しており、当時付近では韓式系土器が一定量流布していたと考えられる。口縁端部の処理などは同時期の在地のS字甕のそれに似る点などから韓式系土器を模倣した土師器と考えられる。　（米山）

### 5　古墳時代の溝、河道・自然流路について

B～D地区で溝や河道・自然流路、またそれに伴う木組み遺構を検出した。

B・C地区の流路SR3は、弥生時代後期の土器も出土しているが、古墳時代中期の小型丸底壺やS

| No. | 遺跡名 | 所在地 | 出土遺構 | 型式 | 備考 | 文献 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 茶臼山1号墳 | 四日市市泊町 | 古墳　径約25.5mの造出し付き円墳 | TK23 | | 註14 |
| 2 | 蔵田遺跡 | 津市北河路町 | 集落跡　径2.3m前後、深さ0.5mの円形土坑 | TK208 | | |
| 3 | （不明） | 一志郡一志町島田地内 | 古墳　古墳から出土と伝わる | — | 詳細不明 | 註15 |
| 4 | 下之庄東方遺跡 | 一志郡嬉野町中川 | 集落跡　総延長380m、幅2.5～4.4m、深さ0.2～1.1mの溝 | — | | 註16 |
| 5 | 朱中古墳 | 多気郡多気町射和町 | 古墳　墳丘規模不明 | — | | 註17 |
| 6 | 落合3号墳 | 伊勢市津村町 | 古墳　一辺約11mの方墳、周溝 | TK208 | | 註18 |
| 7 | （伝）経塚古墳 | 名賀郡大山田村 | 古墳　規模不明　横穴式石室？ | TK216 | | 註19 |

**第33表　樽形𤭯出土遺跡一覧**

字甕などの出土遺物が多く、流路西に位置する古墳時代の集落に関係するものと考えられる。また流路ＳＲ３の中央のＳＺ３は、２列の杭列を流れに直交して打たれたしがらみと考える。

Ｄ地区中央の河道ＳＲ７は、その河幅から安濃川の一支流と考えられる。ＳＲ７は、その左岸に築かれた貯水施設や護岸施設などから河道の流れに取り残されたと考えられる弥生時代前期の土器片が多数出土しており、河道の時期は弥生時代前期に遡ると考えられる。中心時期は出土した古式土師器や鍬柄などの木製品から古墳時代中期前半頃である。また左岸に作られた貯水・護岸施設などの木組み遺構（ＳＺ５～８）もこの時期と考える。

貯水施設ＳＺ５は、調査区北西から河道ＳＲ７に流れ込む溝を河道の出口で堰止めて水を貯めた施設と考えられる。南北２列の杭列を河道側にアーチ状に張り出させ、しかも南側の杭列は縦杭を打ったのち両側に斜杭を打って補強している。これはＳＺ５の水圧に対する強度を高めたと考えられる。またその内側に葦または茅と思われる植物質の敷物を敷くことによって水漏れを防ぐ効果とともに水位を一定に保つように工夫したと考えられる。

護岸施設ＳＺ７は、杭径のほぼ均一な杭を400本以上を打ち込んで、基盤が粗砂のため河道ＳＲ７からの導水溝の河道側の堤を補強している。杭列ＳＺ８は、河道内に１列のみ杭列が残っているだけであるが、護岸施設ＳＺ７と共に水を取水するために設けられた堰が想定される。

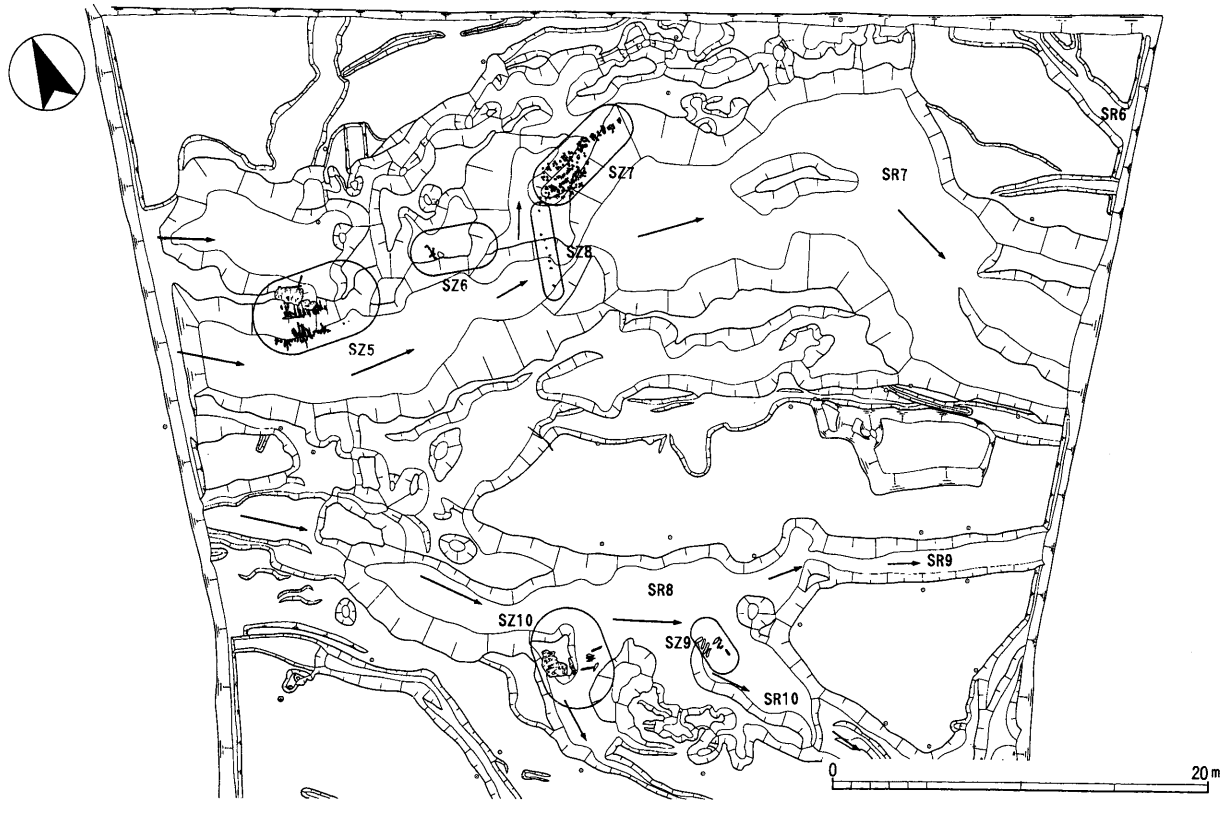
河道ＳＲ８の「溜り」からは、多量の古式土師器や木製品が出土しているが、木製品は廃棄または流れ込みと考えられる。またＳＺ10は「溜り」から南側に流れ出る細い溝に水を引き入れるために「溜り」の内側に作った施設と考えられる。

## 6　ＳＲ８出土土器について

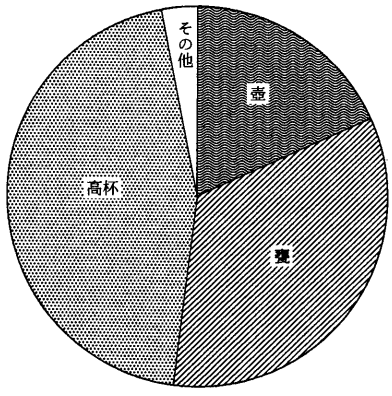
Ｄ地区で検出したＳＲ８がＳＲ９・10と分流するところ、「溜り」から多量の古式土師器や木製品が出土した。

ＳＲ８の「溜り」出土の土器の器種には、壺、甕、高杯などがある。この遺構からは須恵器の出土がみられなかった。これらの土器の器種の割合は、第34表の円グラフに見られるような結果を得た。この表から高杯の割合が大きく占めることが読み取れる。

壺は小型丸底壺や二重口縁壺の割合が多い。




**第120図　護岸施設・貯水施設等配置図（１：400）**



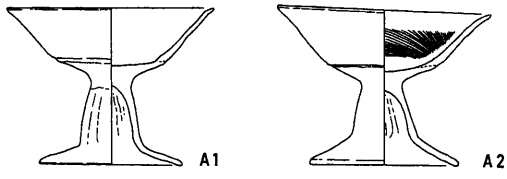

**第34表　ＳＲ８出土土器器種構成**

甕はＳ字甕が約８割程で圧倒的多数を占め、それに対してく字甕は約１割もない。Ｓ字甕は当遺跡分類のＢ類も見られるがＣ類が中心を占める。また東海系のＳ字甕のほかに山陰系土器の影響と考えられる甕も出土している。その他には数量的は少ないがミニチュア土器や手捏ね土器がある。

高杯では、通有の高杯Ａ類や大型の高杯Ｃ類が見られる。高杯Ａ類は、第121図のように杯底部と杯部との境に稜がみられ、脚柱部がやや膨らみ脚部が屈折するＡ１、杯底部からゆるやかに口縁部にいたり脚部の屈折もゆるくなり開き気味に広がるＡ２がみられる。ともに口径16.5cm前後・器高12.5cm前後であるが脚部径はＡ２の方がやや広まる。

またＳＲ８の高杯には、古墳時代通有のＡ類が一般的であるが、丸い杯底部から段をもって立ち上がる大型の高杯Ｃ類が出土している。この種の高杯は、松阪市の粥鍋遺跡[8]や中の坊遺跡[9]、亀山市の地蔵僧遺跡[10]、上野市の城之越遺跡[11]、津市では太田遺跡[12]や雲出島貫遺跡[13]などで出土している。

ＳＲ８出土のＳ字甕は当遺跡分類のＣ類が大半であるが、Ｃ類は概ね山田猛氏の分類Ｄ１およびＤ２類[14]、また赤塚分類ではＤ類後半[15]に相当しよう。




**第121図　ＳＲ８出土土器**

## 7　平安時代以降の条里地割に沿う遺構について

蔵田遺跡付近の安濃川下流域の沖積平野には昭和42年以降に行われたほ場整備以前には広範囲に条里地割の名残りが見られた（ＰＬ－１）。

安濃川流域の条里の復元については野田精一氏[16]や仲見秀雄氏[17]による研究がある。安濃郡の条里復元の基本になる文献史料は、津市四天王寺の「四天王寺文書」や度会郡度会町に所在した法楽寺の「度会郡法楽寺文書」などがある。仲見氏はこれらの文献に見られる条里坪名を基にして野田氏の復元を基本的には踏襲して津市南西の地籍図から条里界線をのばして復元している。この両氏の見解では、ほ場整備以前の道路や畦畔にほぼ条界は一致するが、里界が両氏の間で南北三町程のずれがみられる。

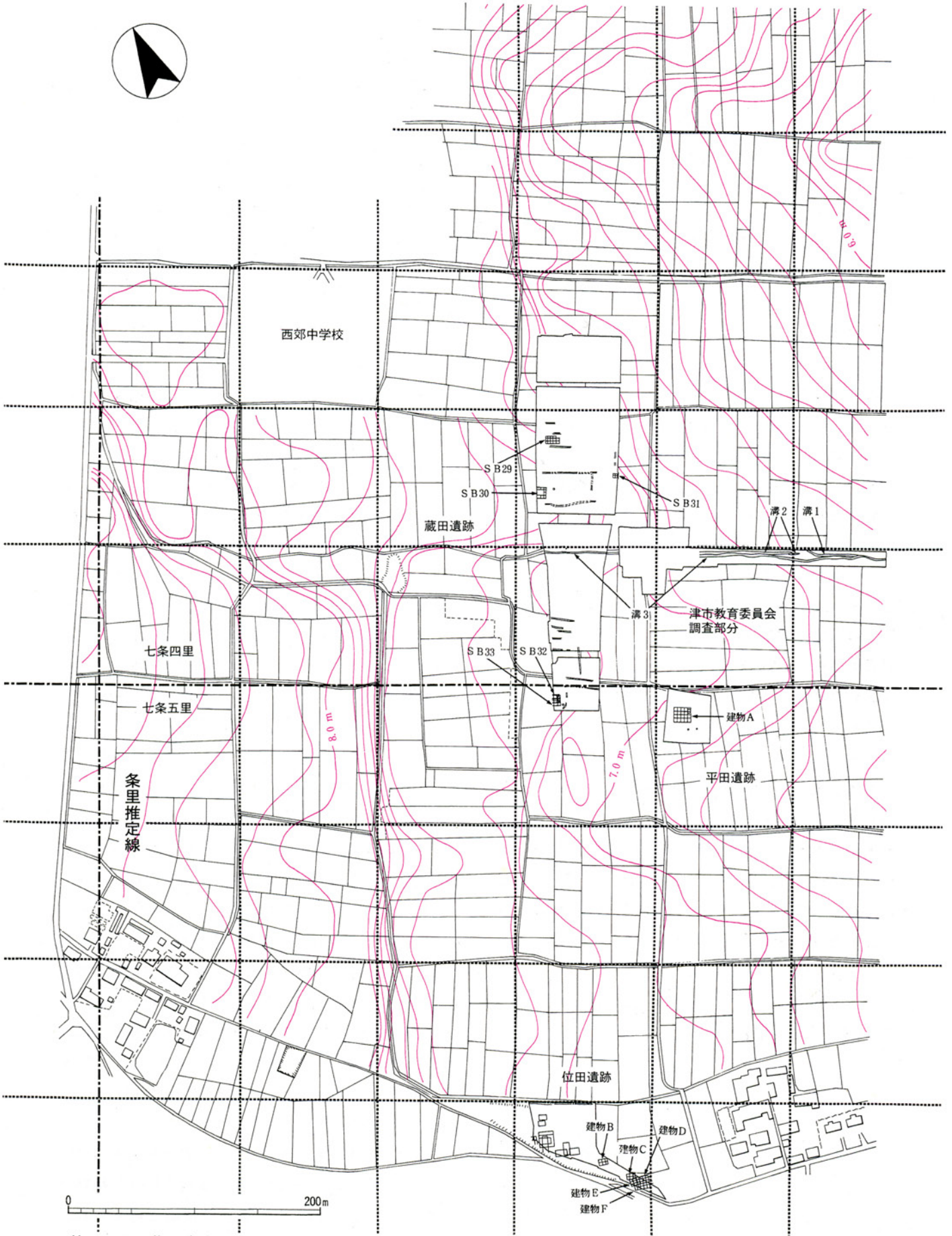
蔵田遺跡で検出した条里地割に沿う遺構には、平安時代末期から鎌倉時代初頭のＳＢ29～33の掘立柱建物５棟と平安時代末期以降のＳＤ21・23～39の溝19条（推定もふくむ）がある。

溝の中でＳＤ29・36は、条里坪境溝と考えられ、ほ場整備以前の用水溝に沿い、位置的にほとんど差がない。また２条の溝とほ場整備以前の用水溝との間に、本文中でふれたように幾つかの溝がみられ関連性が考えられる。ＳＤ29・36からは、陶器椀が数量的には多くを占めるが、若干であるが須恵器杯や甕が出土しており、平安時代末期から鎌倉時代初頭としたが、時期的に逆上ることも考えられる。

これらの建物および溝の方位を表したのが第35表と第36表である。溝については方向に幅があるＳＤ37・39の２条を除く溝17条を表にまとめた。

安濃川流域の条里地割の阡線は、約Ｎ30°Ｅとされる（表の破線）。建物および溝はこの阡線に対して全体的にやや西に偏っていることがわかる。また建物の平均方位は南北棟が約Ｎ26.5°Ｅで、東西棟が約Ｎ64.9°Ｗ、また溝は南北溝が約Ｎ26.5°Ｅ、東西溝が約Ｎ60.9°Ｗである。南北棟と東西棟とはほぼ直交するが、南北溝と東西溝とは直交する割合いが低い。これは東西溝の溝数が17条と多く、平安時代末期以降と考える時期不明の溝も含んでおり、時期幅をもっていることを意味すると思われる。

建物群は北のＳＢ29～31と南のＳＢ32・33の南北の二群に大きく分かれる。この二群は谷地形を挟




第 122 図　蔵田遺跡周辺条里推定図（1 : 4,000）

んで北および南の微高地に立地する（第122図）。北群のＳＢ29～31の3棟は、各々1棟であるが距離的に離れて独立している。ＳＢ31は倉庫と考えられることから、ＳＢ31の周辺（東側）に主屋が想定される。南群のＳＢ32・33は同一地点での拡張による建替え2棟である。ＳＢ30には井戸ＳＥ3を、ＳＢ32・33は井戸ＳＥ4をもち、東および南には区画溝ＳＤ39がめぐる。また蔵田遺跡の南東約60mに位置する平田遺跡[9]からも同じ平安時代末期から鎌倉時代初頭の5間×4間の総柱建物1棟（建物Ａ）が井戸をともなって検出されている。このことから検出した建物は、1棟ないし倉庫をもつ2棟を構成単位とする独立した建物群が考えられる。また検出した建物群は、幾つかの共通点がみられる。

① 建物の棟方向が現状の条里地割の方向にほぼ一致することから、これらの建物は条里地割に規制されて建てられていることが想定される。

② 建物の時期が平安時代末期から鎌倉時代初頭で、建替えがあるものの鎌倉時代前期には消滅し、建物の存続期間が短いことから、建てられた時期がほぼ同じ時期であると考えられる。

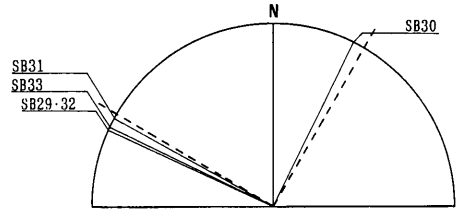
③ 建物群は距離的に散在している。

④ 建物群は1棟または1棟＋倉庫から成り立つと考えられ、建物には井戸や屋敷地を区画溝をもつものがあることから、富裕な農民に隷属する下層農民でなく独立した農民層が考えられる。

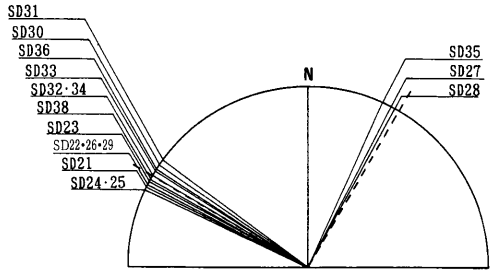
これらのことから散在的に存在する屋敷地とその周囲には検出はできなかったものの生産の場としての条里地割の水田が見られた散村というべき農村景観[9]であったと想定される。また建物の時期がほぼ同じであることから条里地割を意識した耕地の再開発に伴う村落と考えられる。

## 8　地震と噴砂について

蔵田遺跡の噴砂の時期については、明確な遺構との関連がないため、確かな時期は不明であるが、Ｂ地区東壁トレンチや東西トレンチの下層第3層の青灰色シルト層から出土した縄文土器が縄文時代後期末であり、噴砂は、この深鉢が出土した下層第3層の青灰色シルト層を引き裂いて上昇している。このことから噴砂を引き起こした地震が発生したのは縄




**第35表　平安・鎌倉時代掘立柱建物方位**



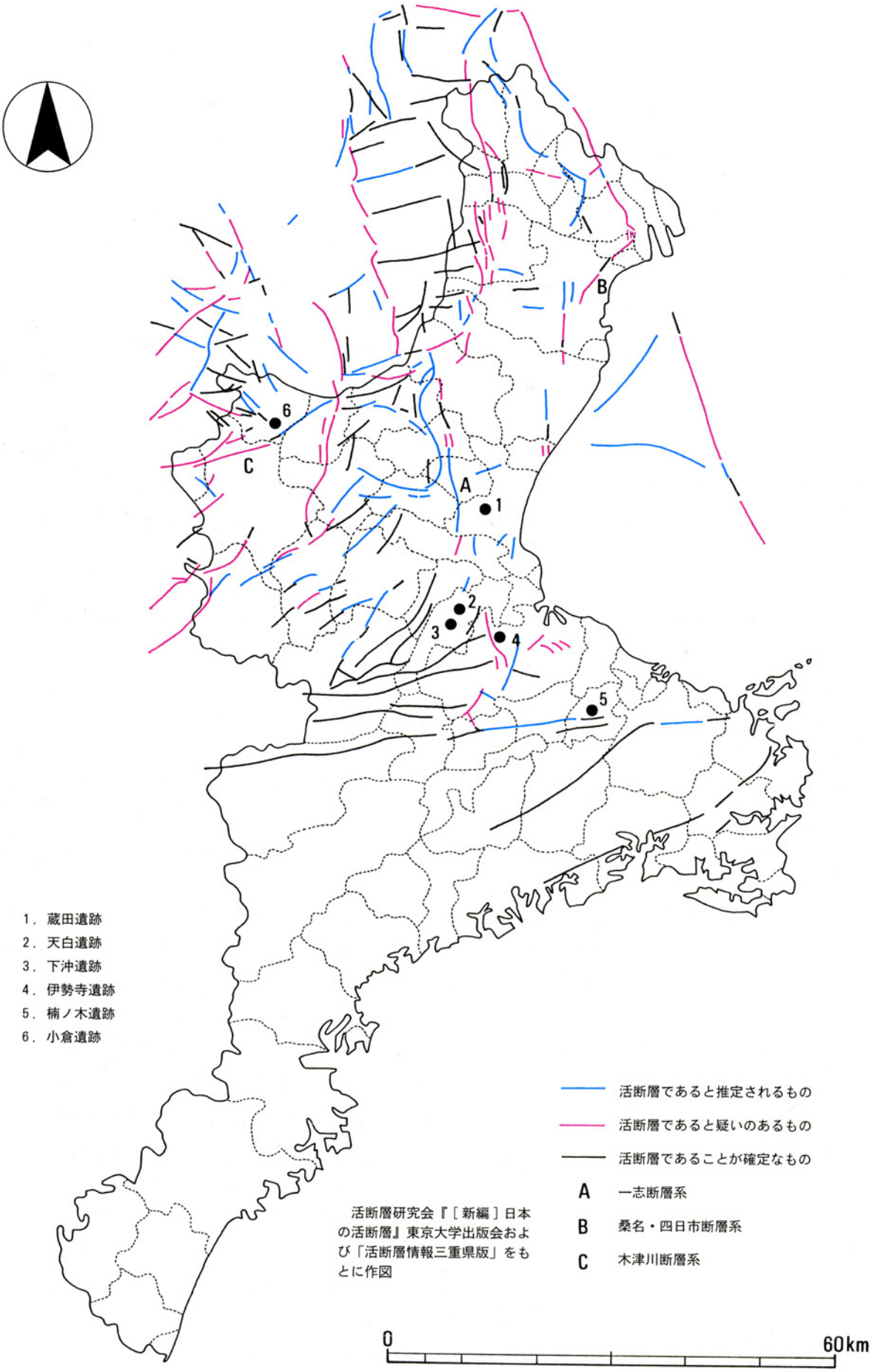

**第36表　平安時代以降溝方位**

文時代後期末を遡ることはないと考えられる。

状況からではあるが、遺構基盤層の上面で検出した最も古い遺構は、Ｂ・Ｃ地区で検出した土坑などの弥生時代中期前葉の遺構である。このことや青灰色シルト層から出土した縄文土器から、少なくとも縄文時代晩期から弥生時代前期の間に下層第2層の暗青灰色粘質土層およびその上層の遺構基盤層が形成されたと考えられ、噴砂もこの時期に起こった地震によるものと考えられる。また、南東から北西に湾曲して向かう噴砂は、上層で検出した湾曲する古墳時代の自然流路ＳＲ3がみられるが、Ｂ地区のＳＲ3の基盤層は灰褐色砂質土で流路の底からは噴砂の噴出は見られず、自然流路と噴砂は関係がないと思われる。このことは青灰色シルト層の上層の暗青灰色粘質土上面が地震当時の地表面であった可能性が考えられる。Ｂ地区南西から南にのびる縄文時代晩期の洪水による堆積層（灰褐色粗砂層）に沿うように走っており、この堆積層が形成された時か時間を経ないうちに起こった地震の可能性も考えられる[9]。

これらのことから縄文時代晩期頃の地震によって起きた可能性が高いとされよう。

Ｄ地区の東壁面で地震による痕跡と思われる波状の層[9]を発見した（ＰＬ－35）。層位的には古墳時代のＳＲ9・10が埋没した後の堆積層と考えられ、時期的には古墳時代以降の地震によるものと考える。




第 123 図　県内活断層分布図（75 万分の 1）

地震を起こす原因は、日本列島を形成している海域でのプレートの歪みによる東海地震や南海地震がある。この海域で起こる東海地震や南海地震は、ほぼ同時期に発生することが解明されており、発生周期は90～150年という規則性がある[35]とされる。もう一つは内陸での活断層の活動によるものである。

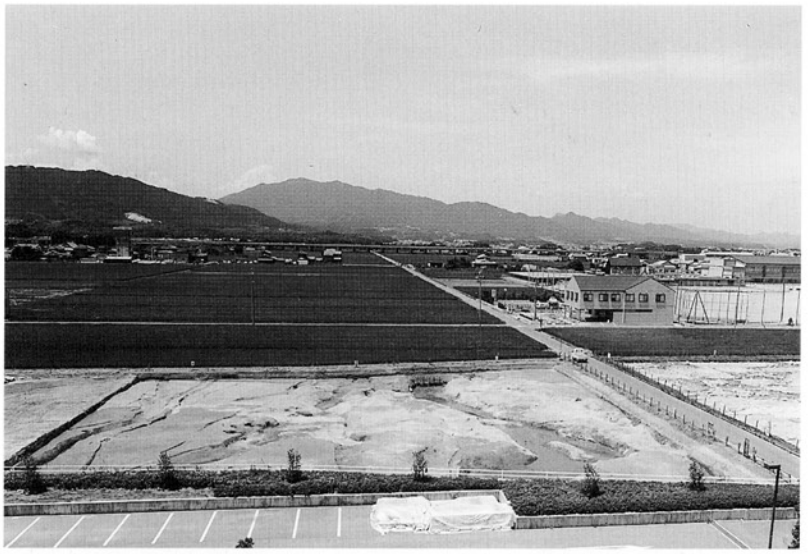
県下には伊勢平野北部に桑名・四日市断層系が、鈴鹿山脈や布引山脈の東には一志断層系などの活断層が走っている（第123図）。B地区で検出した噴砂は、海域で起こった東海地震や内陸での一志断層系の活断層の活動による可能性が高い[36]と考えられる。

1995年1月17日に起こった兵庫県南部地震では、多数の死傷者を出し、地震予知が切に望まれるようになった。考古学の分野からも全国的に地震痕跡の資料を集成した『発掘された地震痕跡[36]』が刊行され、県下でも地震痕跡が集計された。地震痕跡は、活断層、地割れ、地滑り、噴砂など多様であるが、発掘調査で検出されるこれらの地震痕跡の発見から、考古学分野からも地震の予知や被害の予測に貢献をすることが期待されている。（宮田）

［註］

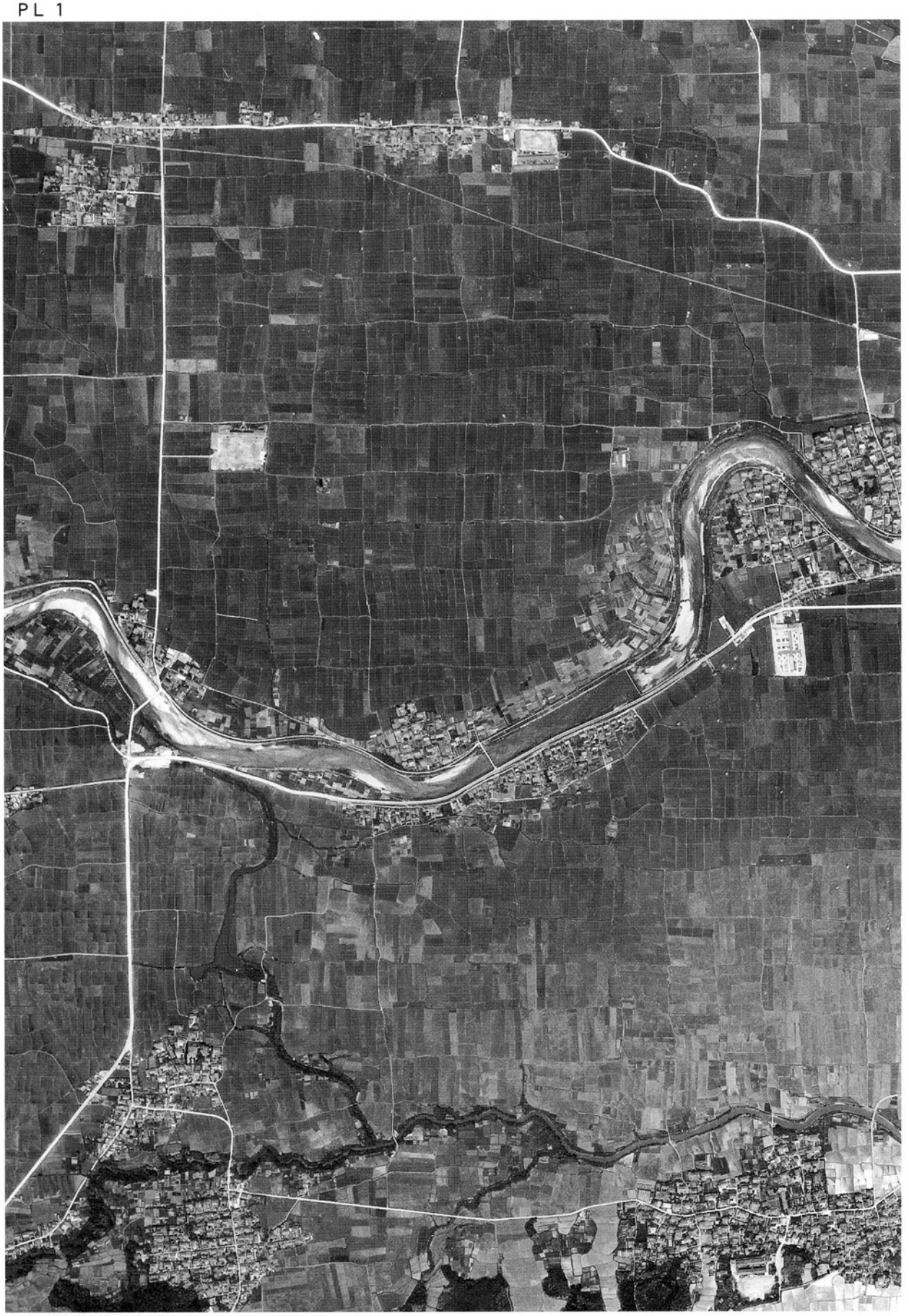
① 岩崎直也「弥生時代の建物」『弥生時代の掘立柱建物』埋蔵文化財研究会 1991
② 石野博信・関川尚功『纒向』奈良県立橿原考古学研究所 1976
③ 石黒立人「時期区分をめぐって」『朝日遺跡Ⅴ』㈶愛知県埋蔵文化財センター 1994
④ 谷本鋭次『東名阪道路埋蔵文化財調査報告』三重県教育委員会 1970
⑤ 小玉道明ほか『東名阪道路埋蔵文化財調査報告』三重県教育委員会 1970
⑥ 真田行成ほか『上箕田弥生遺跡第2次調査報告』上箕田遺跡調査会 1970
⑦ 谷本鋭次『中ノ庄遺跡発掘調査報告』三重県教育委員会 1972
⑧ 前掲註2
⑨ 田辺昭三『陶邑古窯址群Ⅰ』平安学園クラブ 1966
⑩ 伊藤秋男ほか『平田古墳群』安濃町教育委員会 1987
⑪ 倉田直純ほか「宮ノ前遺跡」『大古曽遺跡・山籠遺跡・宮ノ前遺跡発掘調査報告』 1995
⑫ 穂積裕昌「六大A遺跡」『一般国道23号 中勢道路 埋蔵文化財調査概報Ⅶ』1995
⑬ 萱室康光ほか『メクサ3号墳発掘調査』津市教育委員会 1991
⑭ 佐々木裕『茶臼山1号墳』四日市市教育委員会 1998
⑮ 大西源一ほか『一志郡史（下巻）』一志郡町村会 1998
⑯ 吉水康夫ほか『下之庄東方遺跡』三重県教育委員会 1988
三重県埋蔵文化財センター『平成元年 第3回三重県埋蔵文化財担当者会議資料』1989
⑰ 西村修久「朱中古墳」『朱中遺跡・朱中古墳』三重県埋蔵文化財センター 1996
⑱ 伊藤偉裕『落合古墳』三重県教育委員会・三重県埋蔵文化財センター 1992
⑲ 三重県教育委員会『三重考古図録』1954
山本雅靖「伊賀の古式土師器とその周辺」『考古学論集第2集』考古学を学ぶ会 1988
⑳ 前川嘉宏「Ⅶ. 結語」『粥鍋遺跡発掘調査報告書』松阪市教育委員会 1987
㉑ 伊藤裕之『中の坊遺跡』三重県埋蔵文化財センター 1997
㉒ 倉田直純『地蔵僧遺跡発掘調査報告書』亀山市教育委員会 1978
㉓ 穂積裕昌ほか『城之越遺跡』三重県埋蔵文化財センター 1992
㉔ 浅生悦生「太田遺跡」『松ノ木遺跡・森山東遺跡・太田遺跡発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター 1993
㉕ 伊藤裕偉ほか『嶋抜 第1次調査』三重県埋蔵文化財センター 1998
㉖ 山田 猛「結語」『山城遺跡・北瀬古遺跡』三重県埋蔵文化財センター 1994
㉗ 赤塚次郎『第4回東海考古学フォーラム』東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会 1996
㉘ 野田精一「安濃郡の条里制について」『三重の文化』第7号 1979年
㉙ 仲見秀雄「奄芸・安濃・一志郡の条里制」仲見秀雄・谷岡武雄編『伊勢湾岸地域の古代条里制』東京堂出版 1979
㉚ 米山浩之「平田遺跡」『三重産業振興センター埋蔵文化財発掘調査概報』津市教育委員会 1993
㉛ 広瀬和雄「中世への胎動」『岩波講座 日本の歴史6 変化と画期』岩波書店 1986
㉜ 寒川氏によれば、暗青灰色粘質土を引き裂いた噴砂が、その上層の砂質土層を引き裂いておらず、また、上層で検出した遺構の溝などに影響を与えていないことから粘質土と砂質土の間が当時の地表面であった可能性が高いとされる。
㉝ 波状の層は地震による擾乱構造との寒川氏の御教示を得た。
㉞ 寒川 旭『地震考古学』中公新書 1992
同 「考古遺跡にみる地震と液状化の歴史」『科学』vol. 68 1998
㉟ 寒川 旭氏の御教示による。
㊱ 埋文関係救援連絡会議・埋蔵文化財研究会『発掘された地震痕跡』岩波書店 1996

# 図　　版

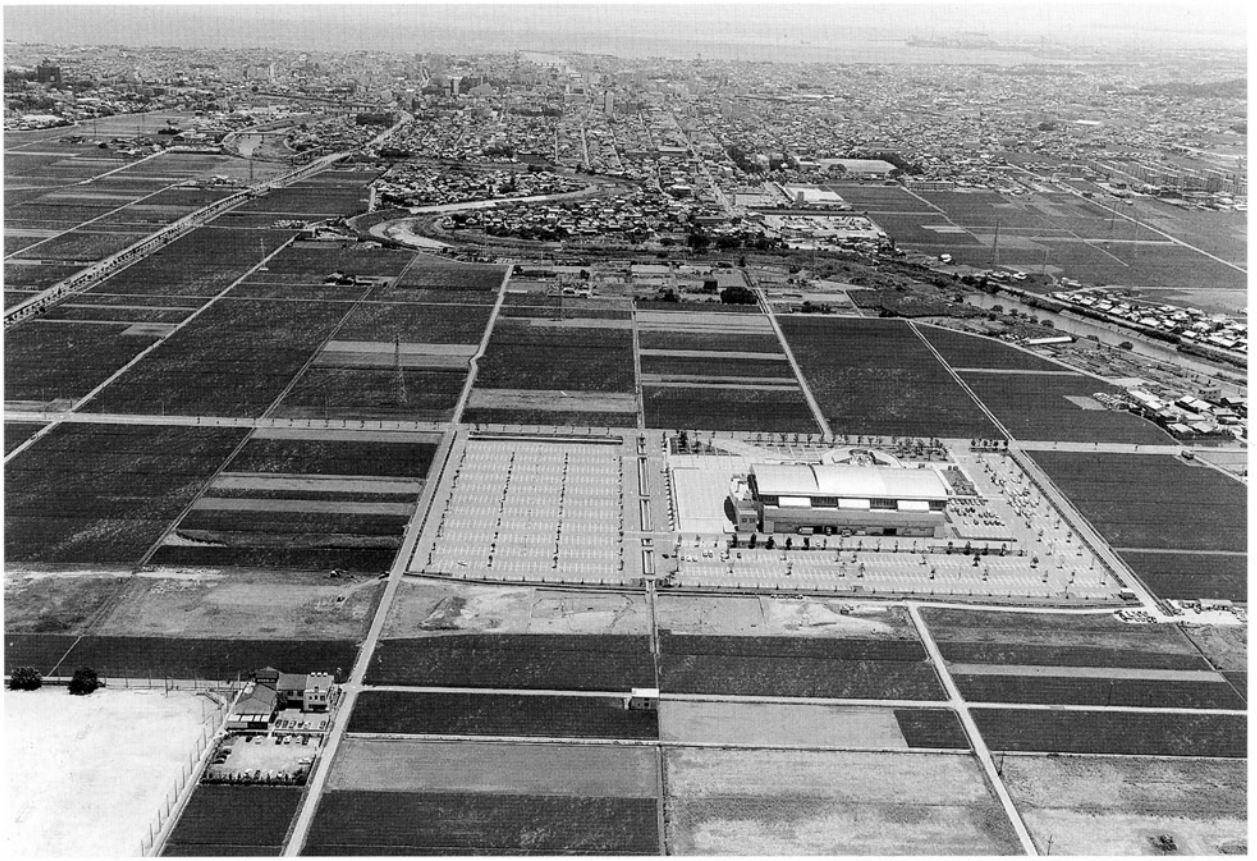


Ｄ地区から西方を眺める

PL 1



ほ場整備前の安東地区（昭和39年、国土地理院撮影）



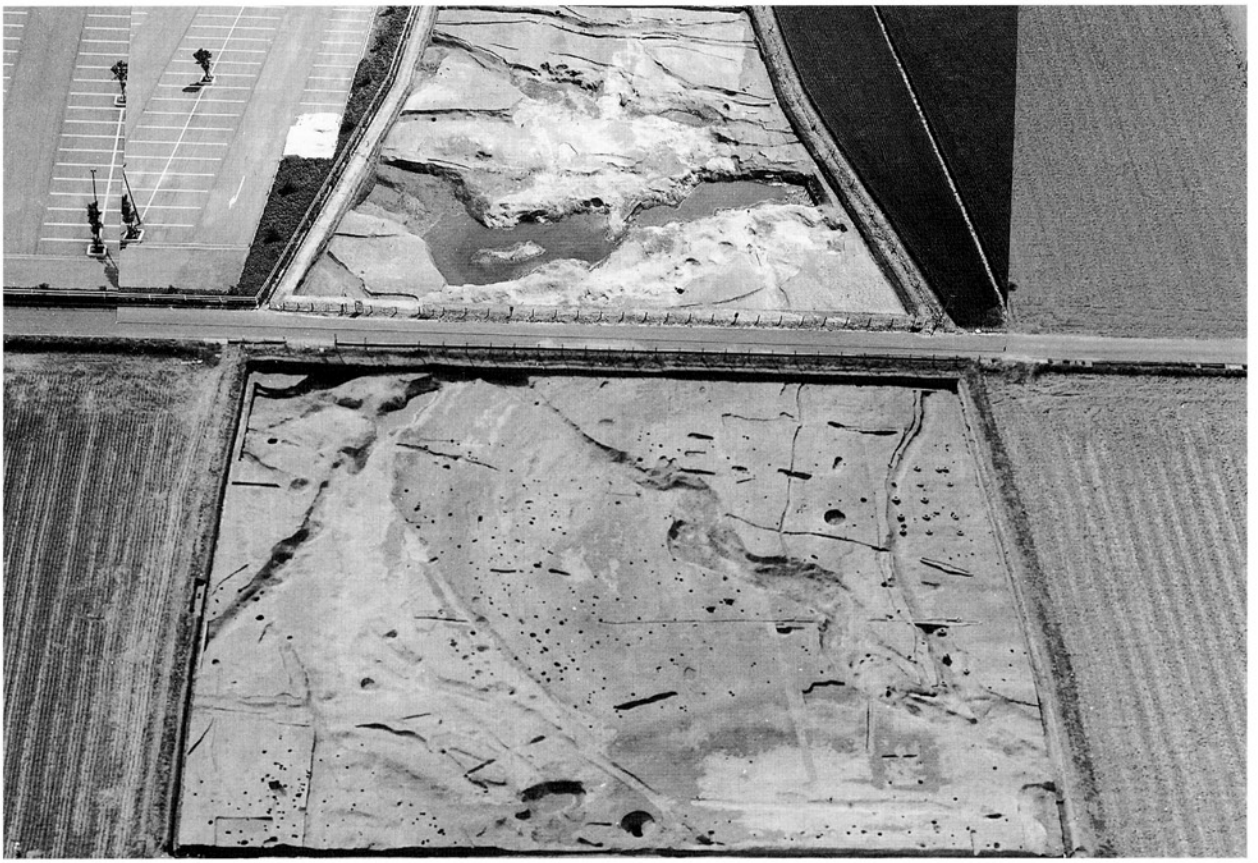
遺跡遠景（西から）

遺跡遠景（北から）

PL 3

調査前（D～F地区、北から）

A・B地区全景（北から）



C・D地区全景（北から・合成）

E・F地区全景（北から）

PL 5

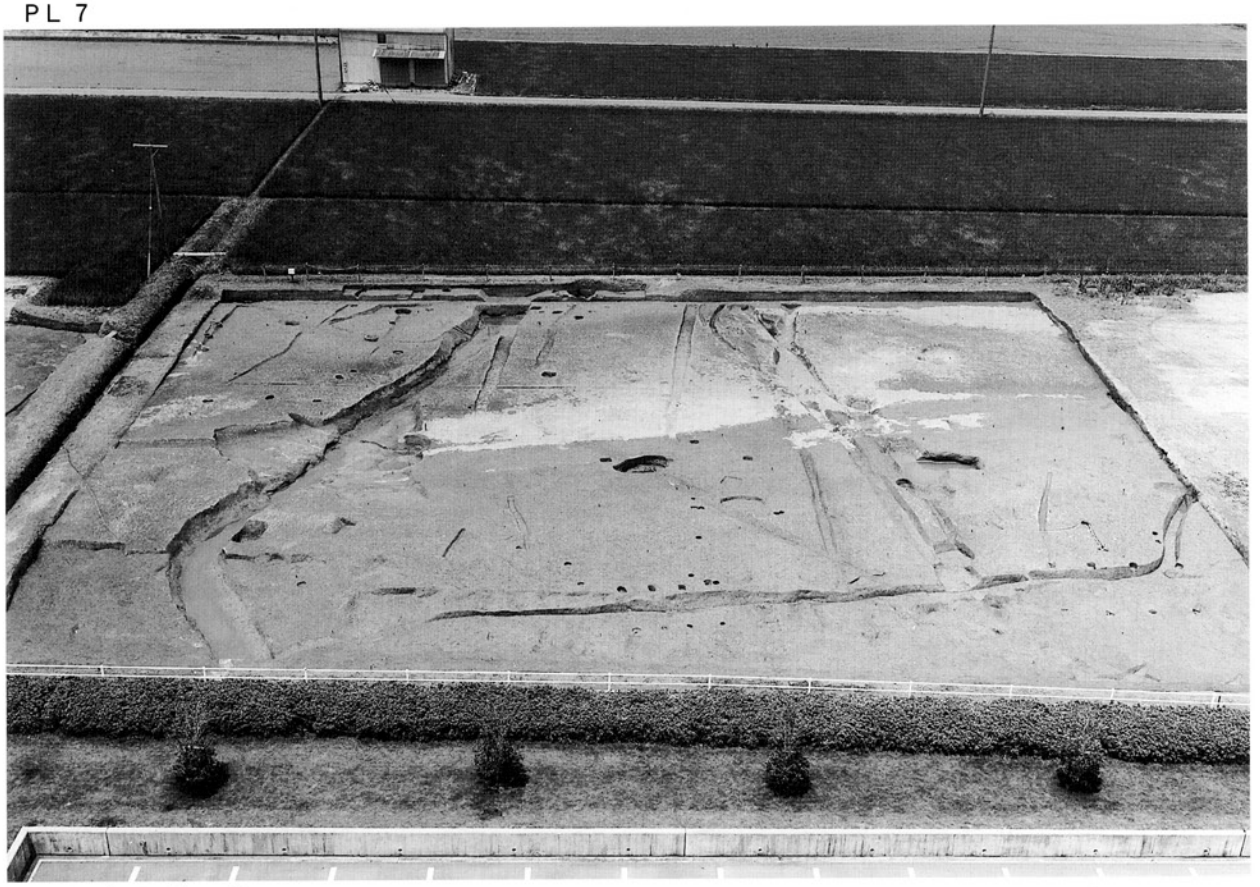
A地区全景（西から）

B地区全景（西から）

C地区全景（西から）

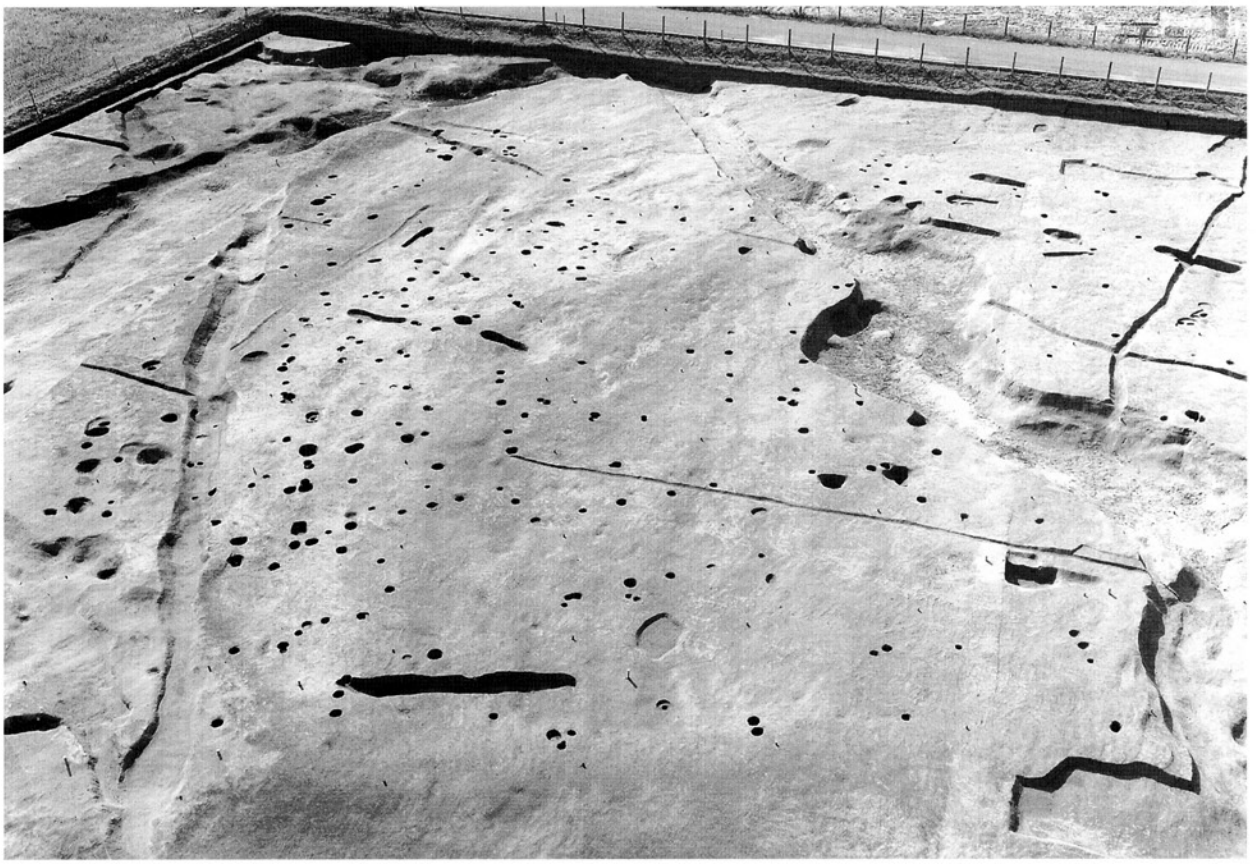
D地区全景（東から）

PL 7

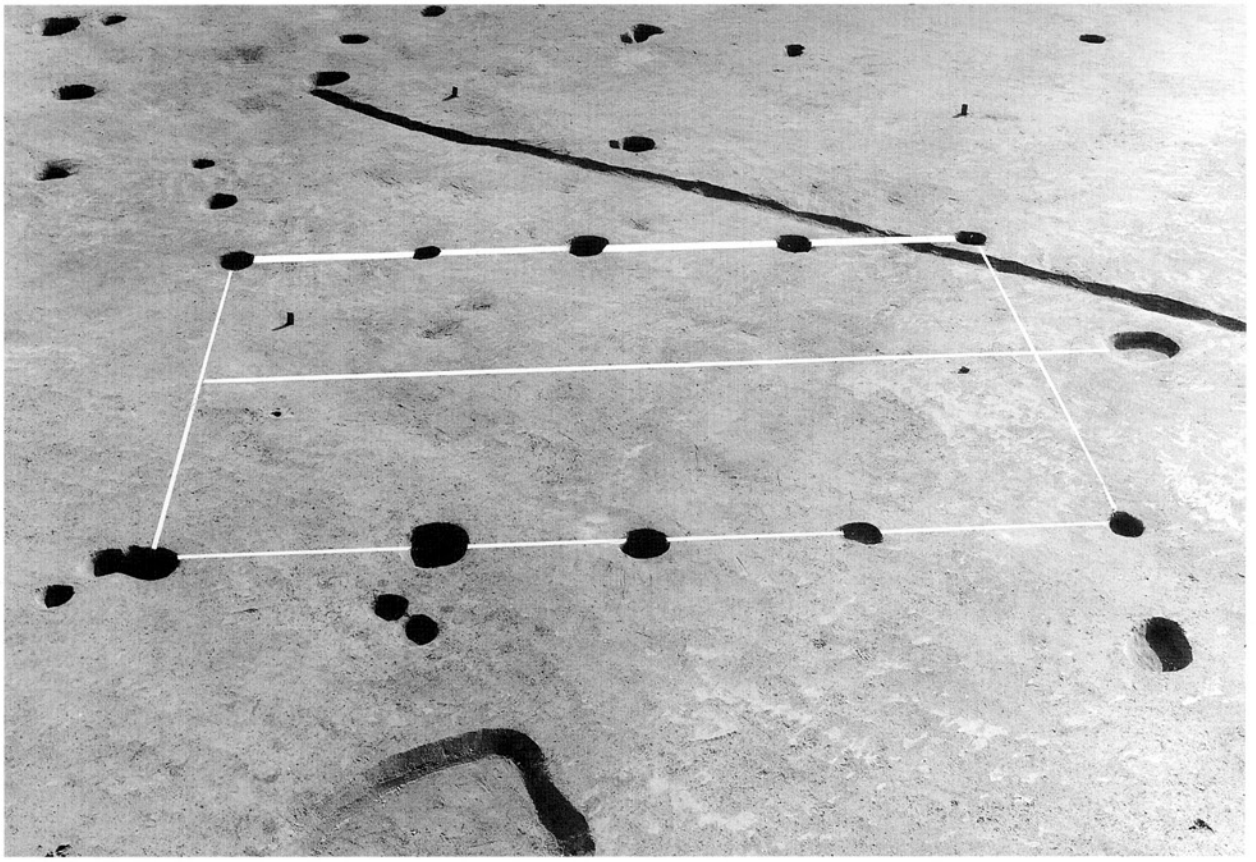


E地区全景（東から）

F地区全景（東から）

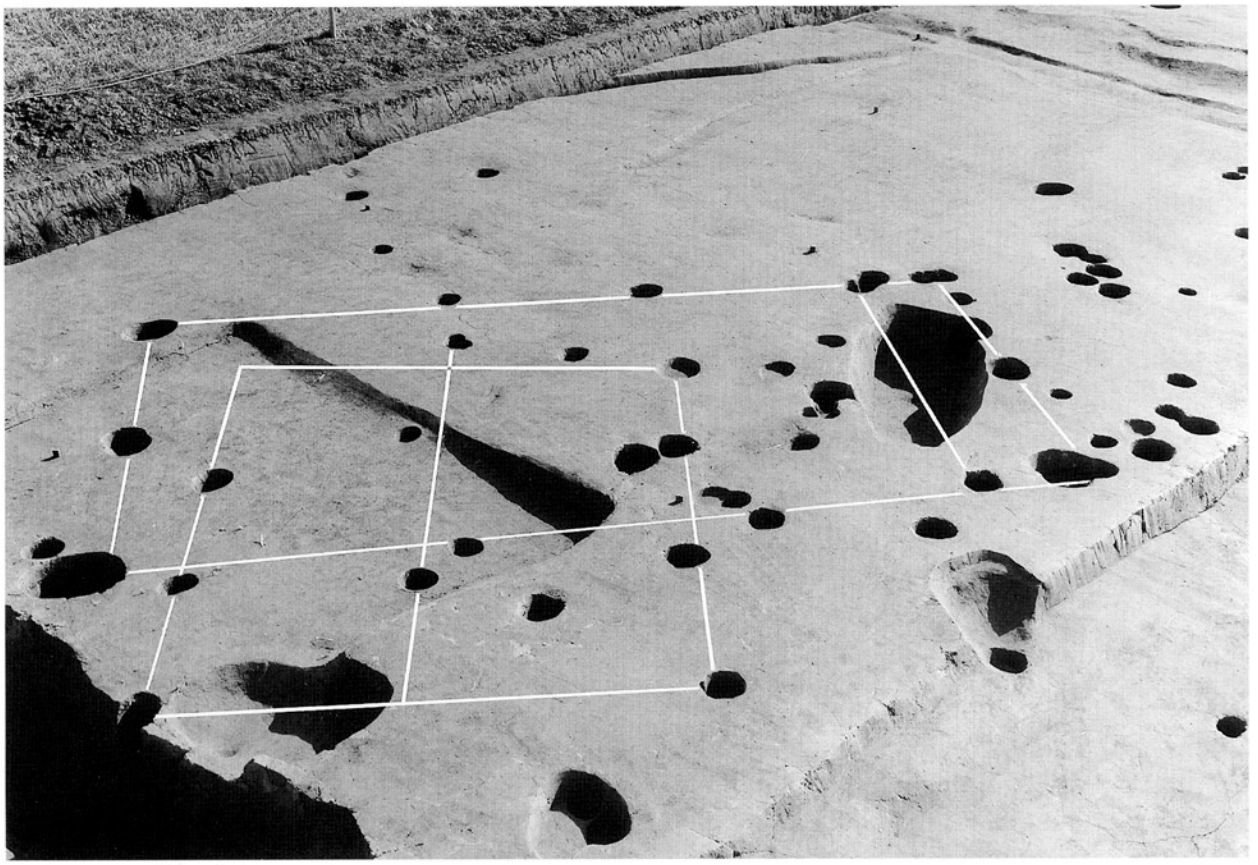


C地区中央部（北から）

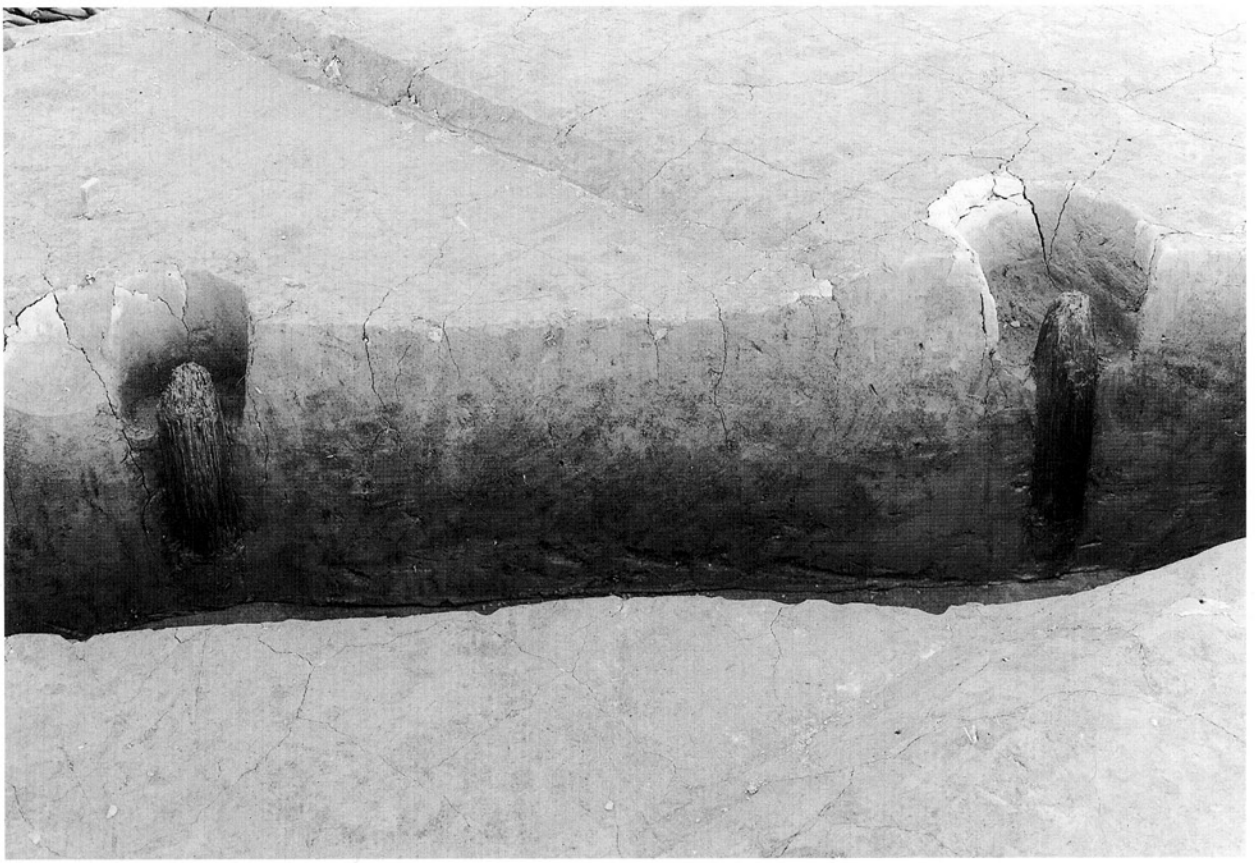


SB5（北から）

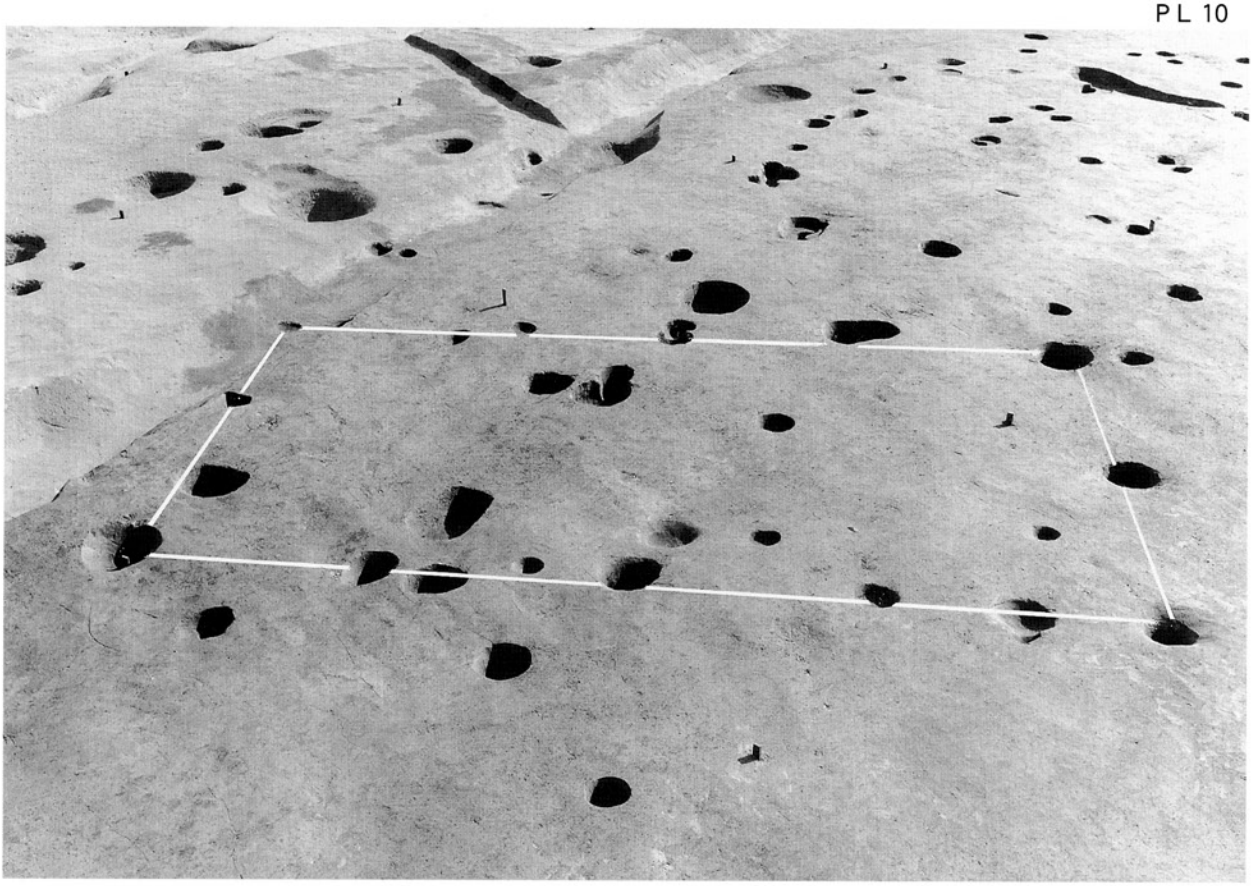
PL 9



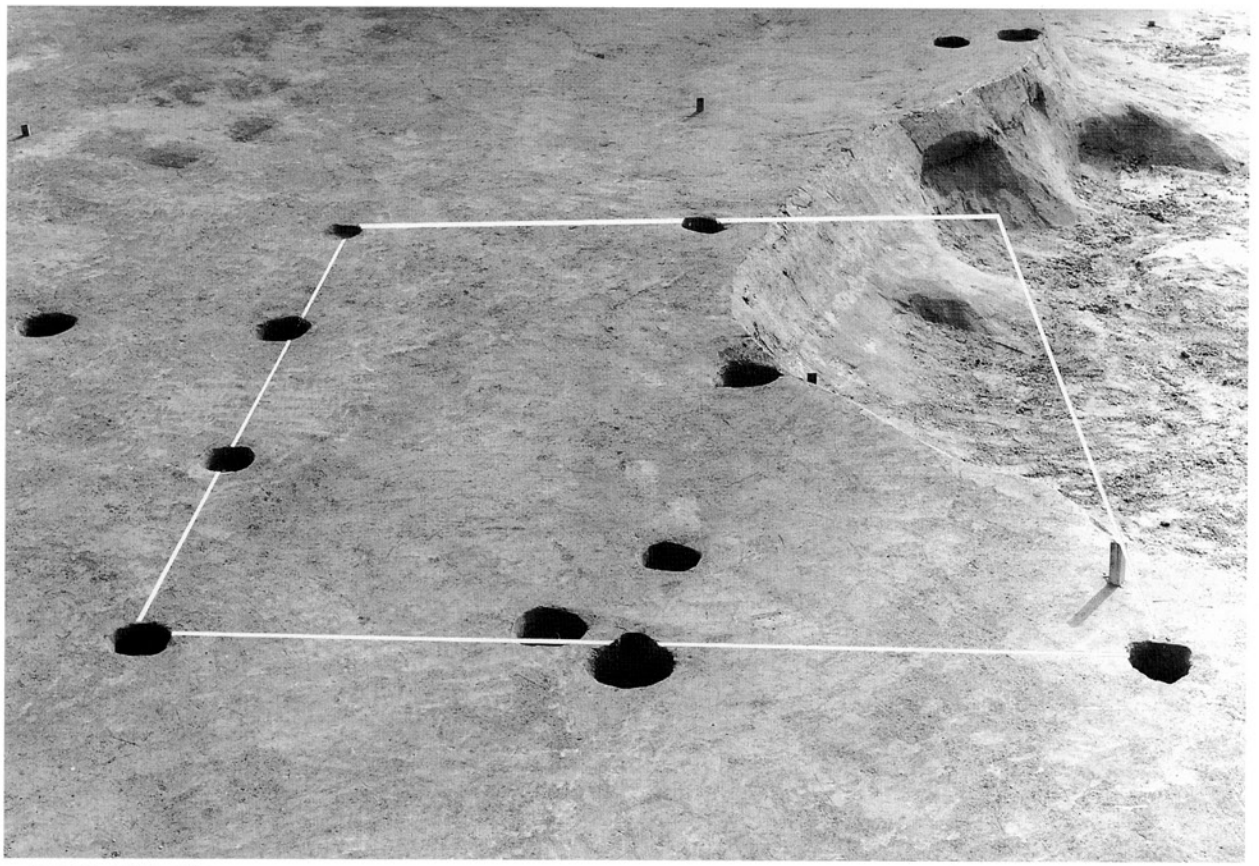
SB 2・3（北から）



SB 2柱根出土状況（西から）

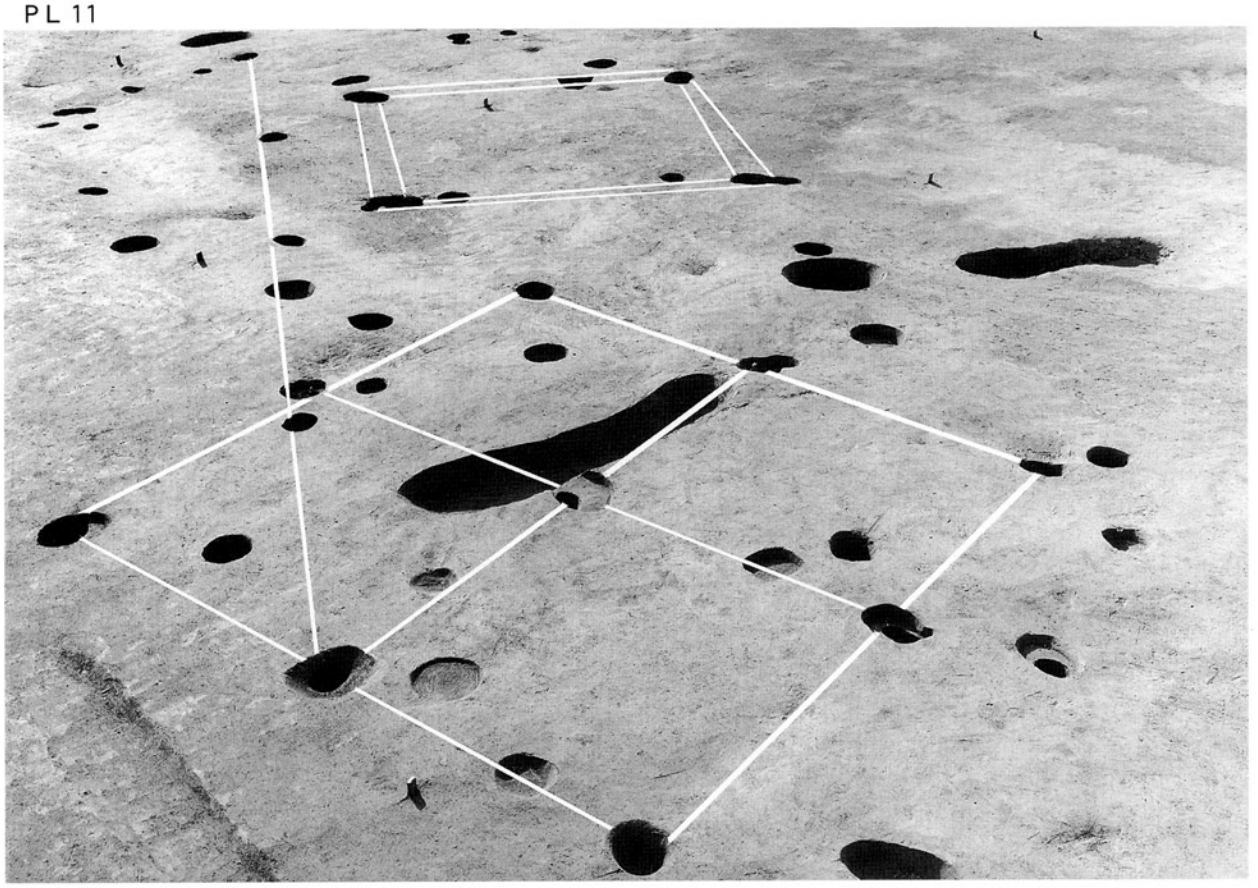


ＳＢ７（北から）



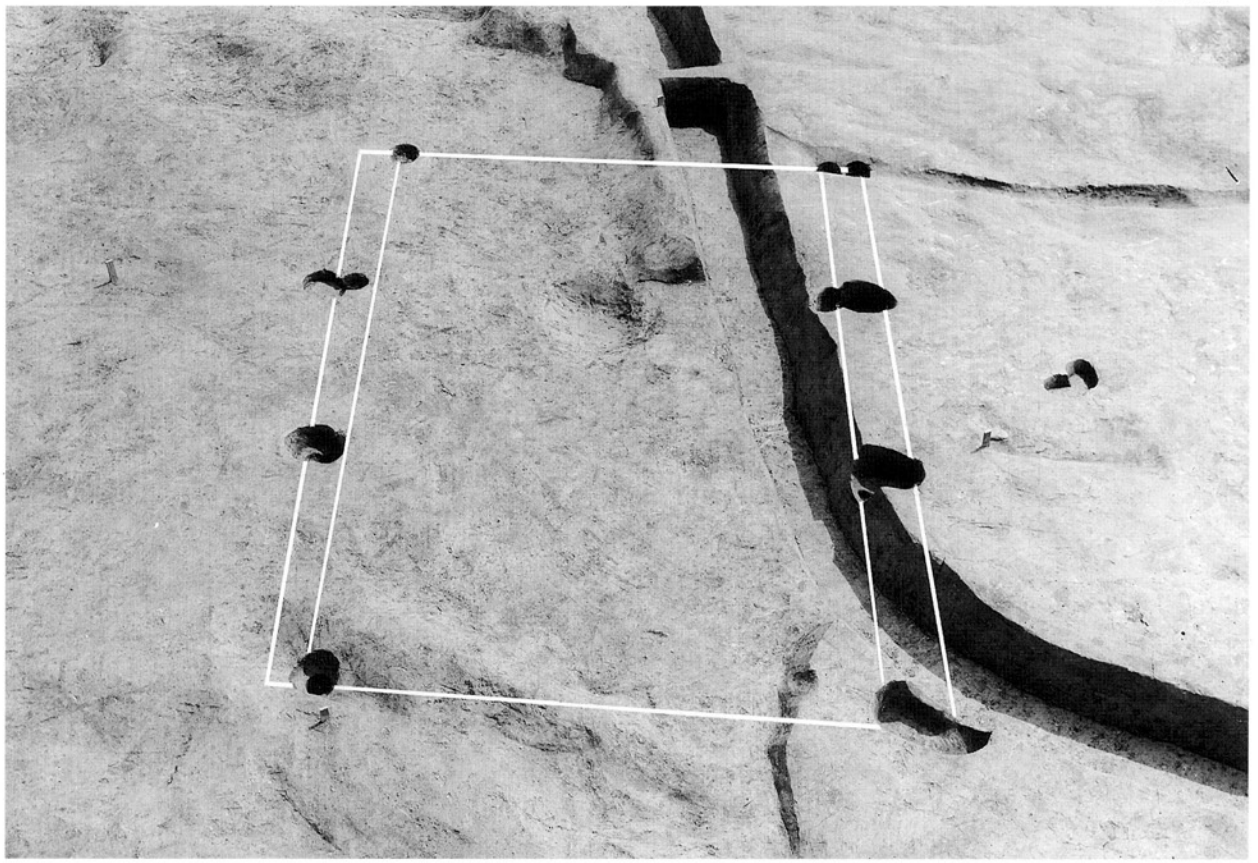
ＳＢ10（北から）

PL 11

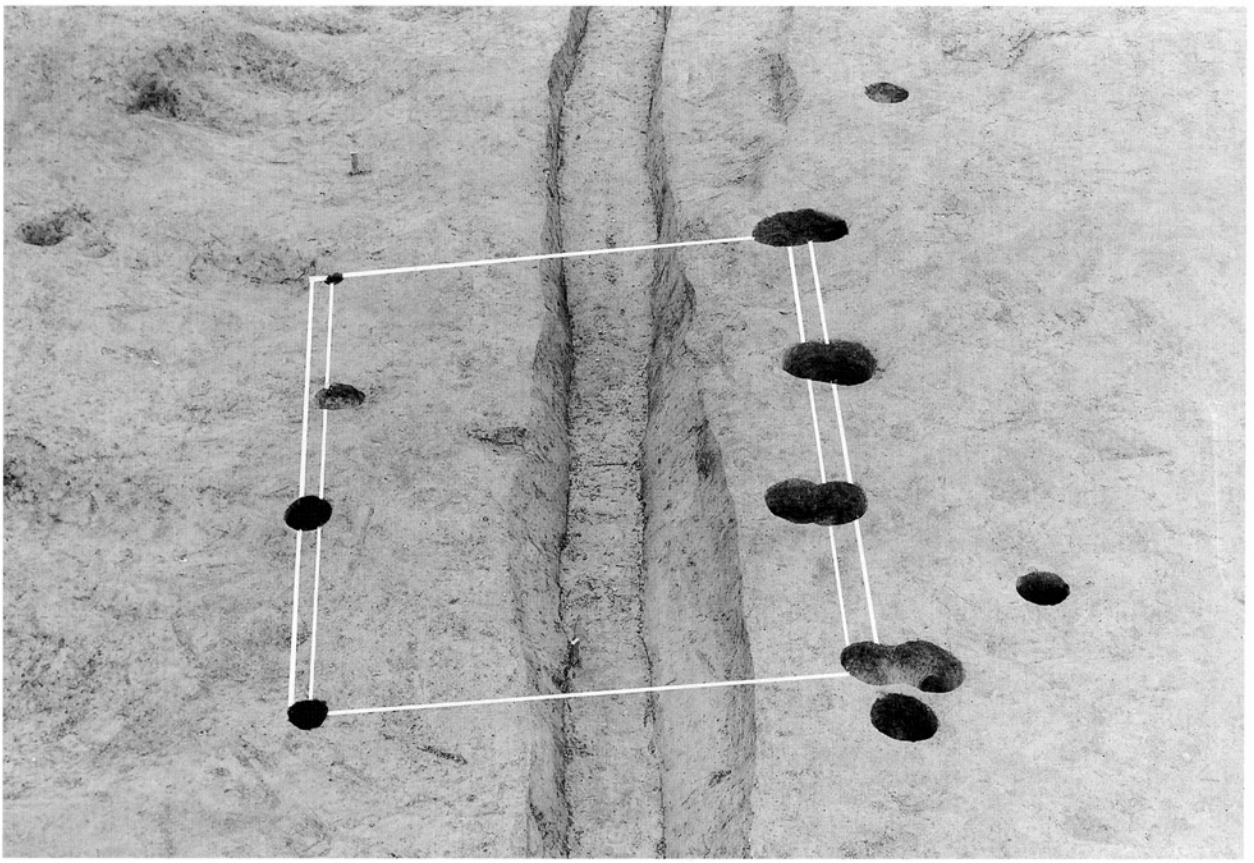


SB 8・9・11、SA 4（東から）

SB 12（西から）



SB 13・14（北から）

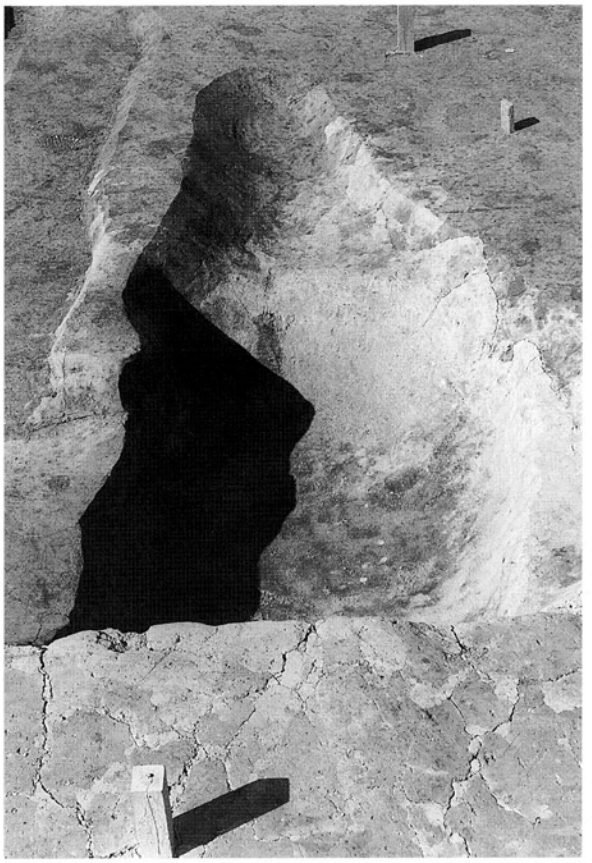


SB 15・16（北から）

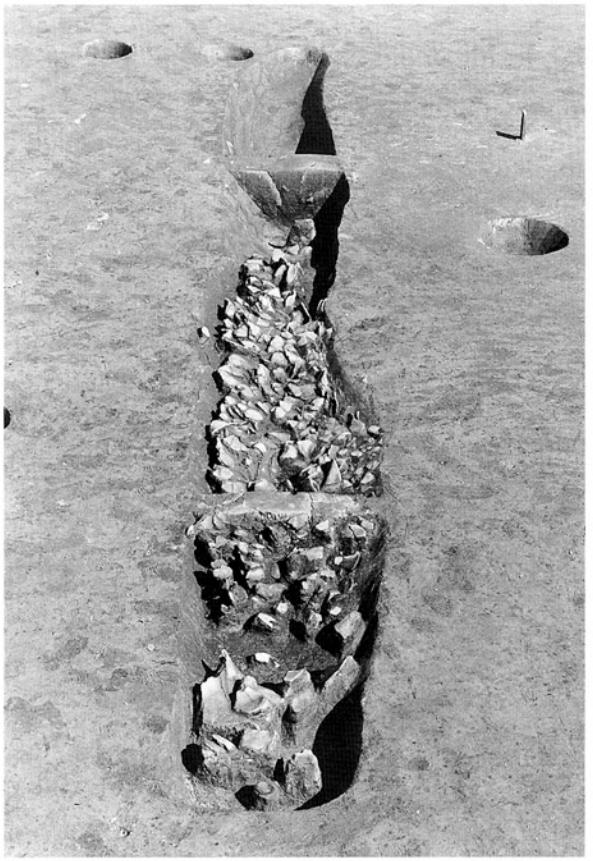
PL 13

S×1、SK5～8（西から）

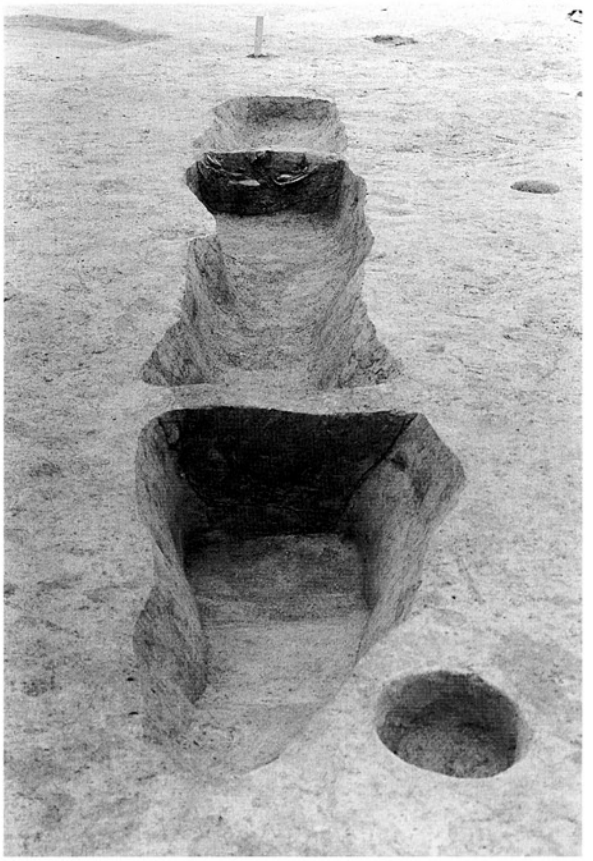
SF 1検出状況（東から）



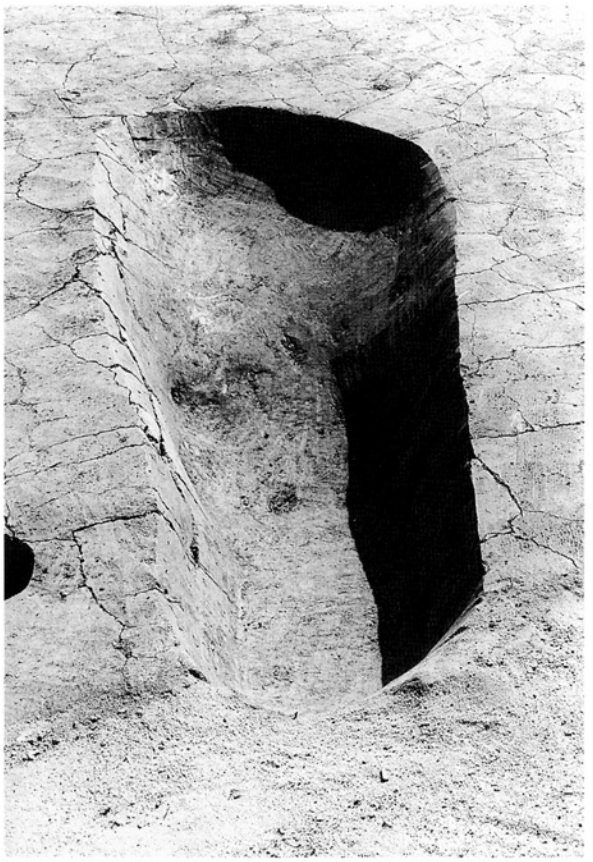
SF 1完掘状況（東から）



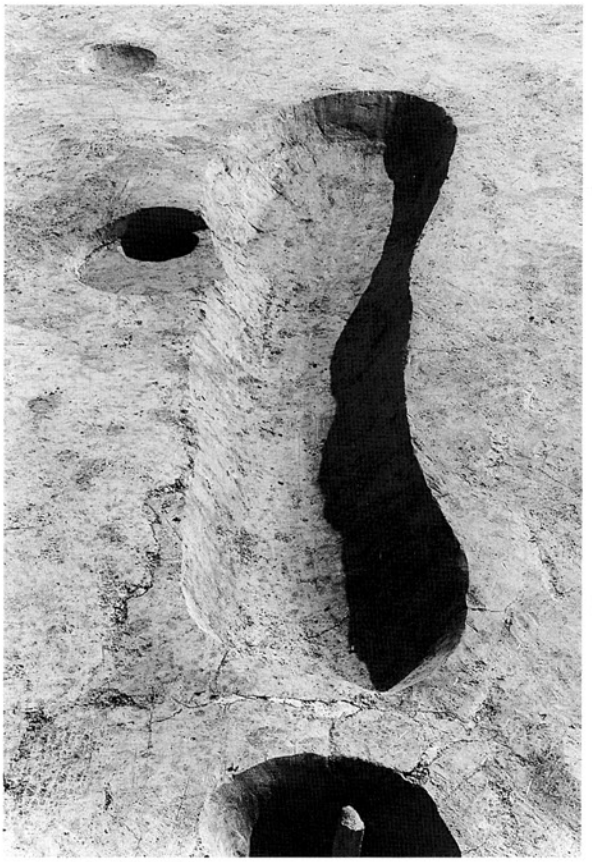
ＳＫ１遺物出土状況（西から）



ＳＫ１完掘状況（東から）



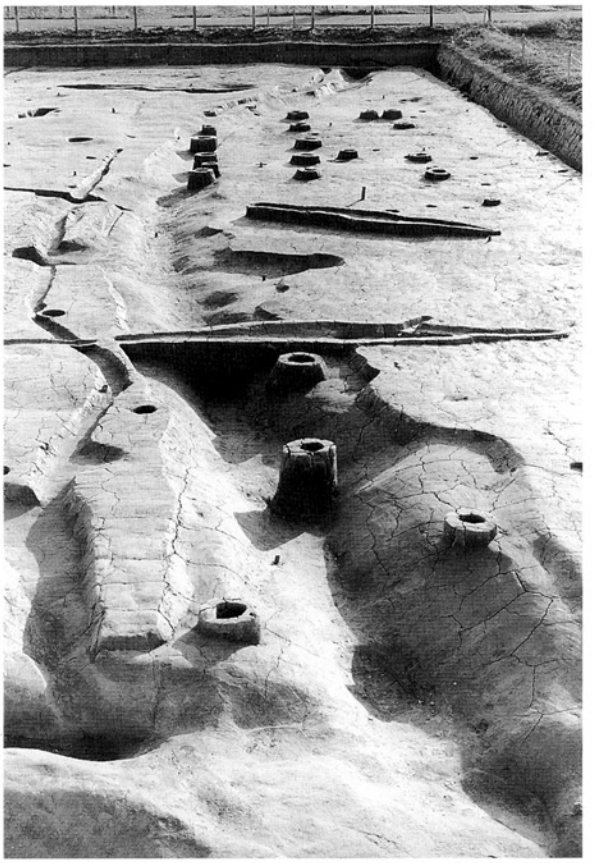
ＳＫ５（西から）



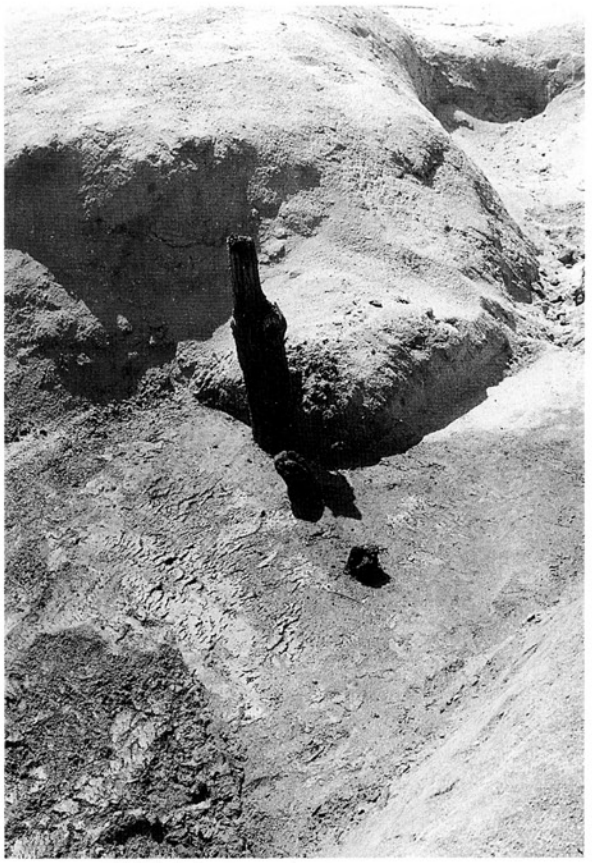
ＳＫ９（西から）

PL 15

SD４（東から）

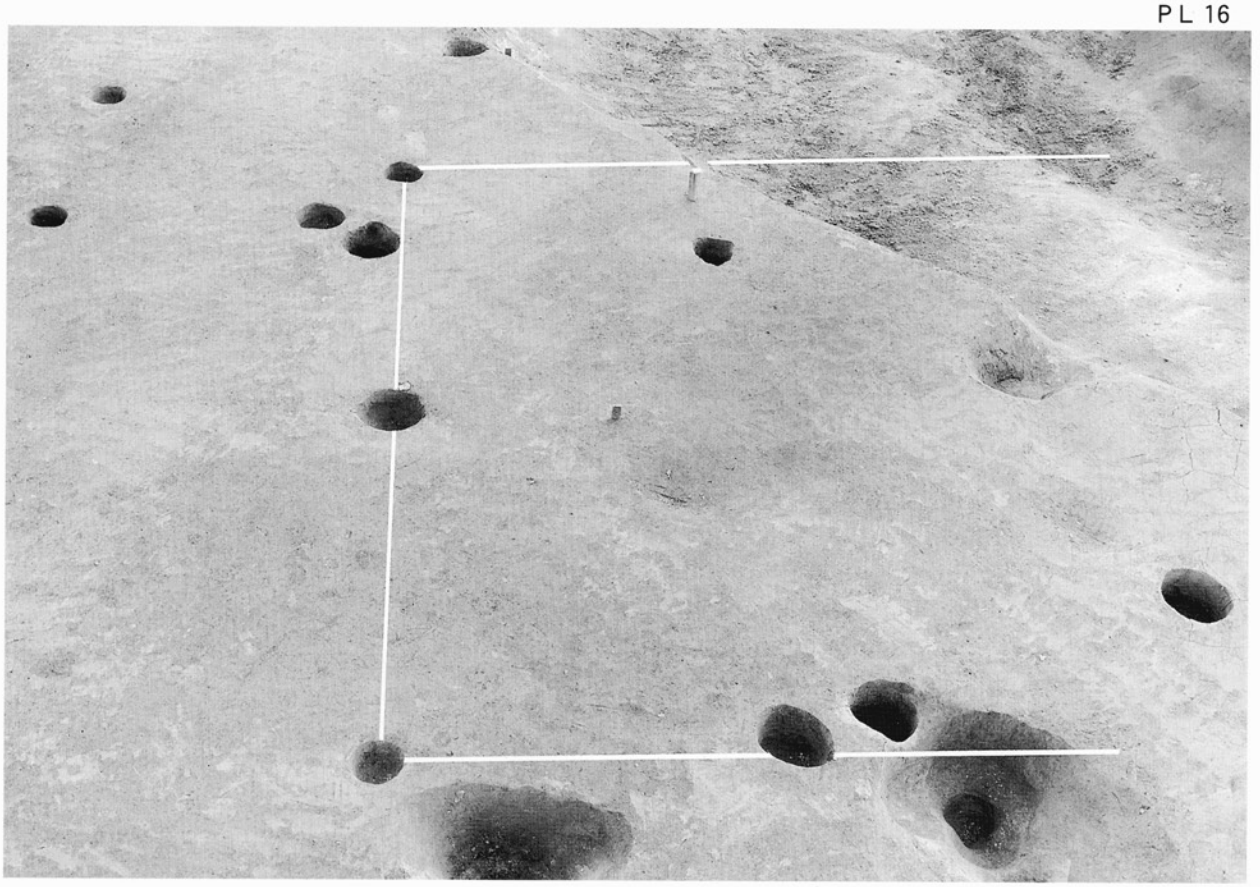


SR１（北から）

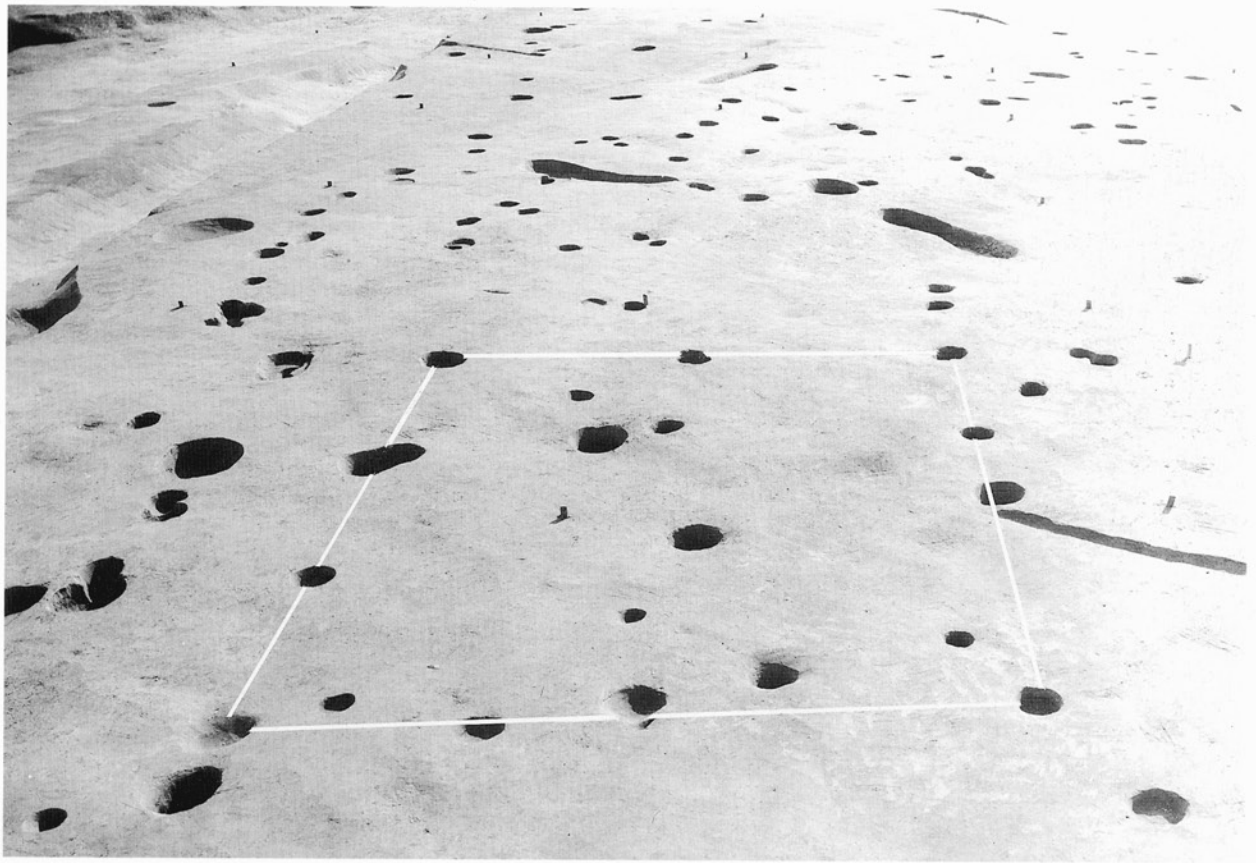


SZ１（北から）

SZ２（西から）

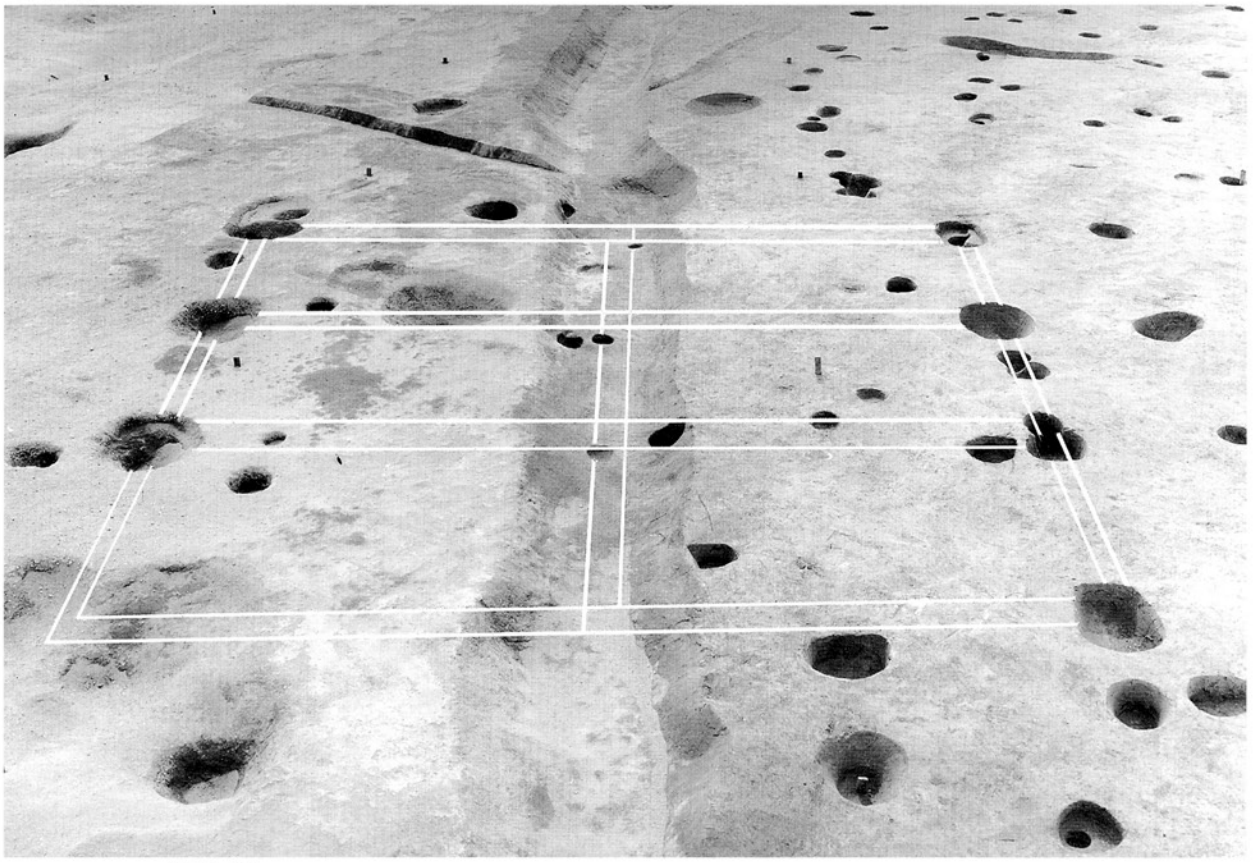


SB17（北から）

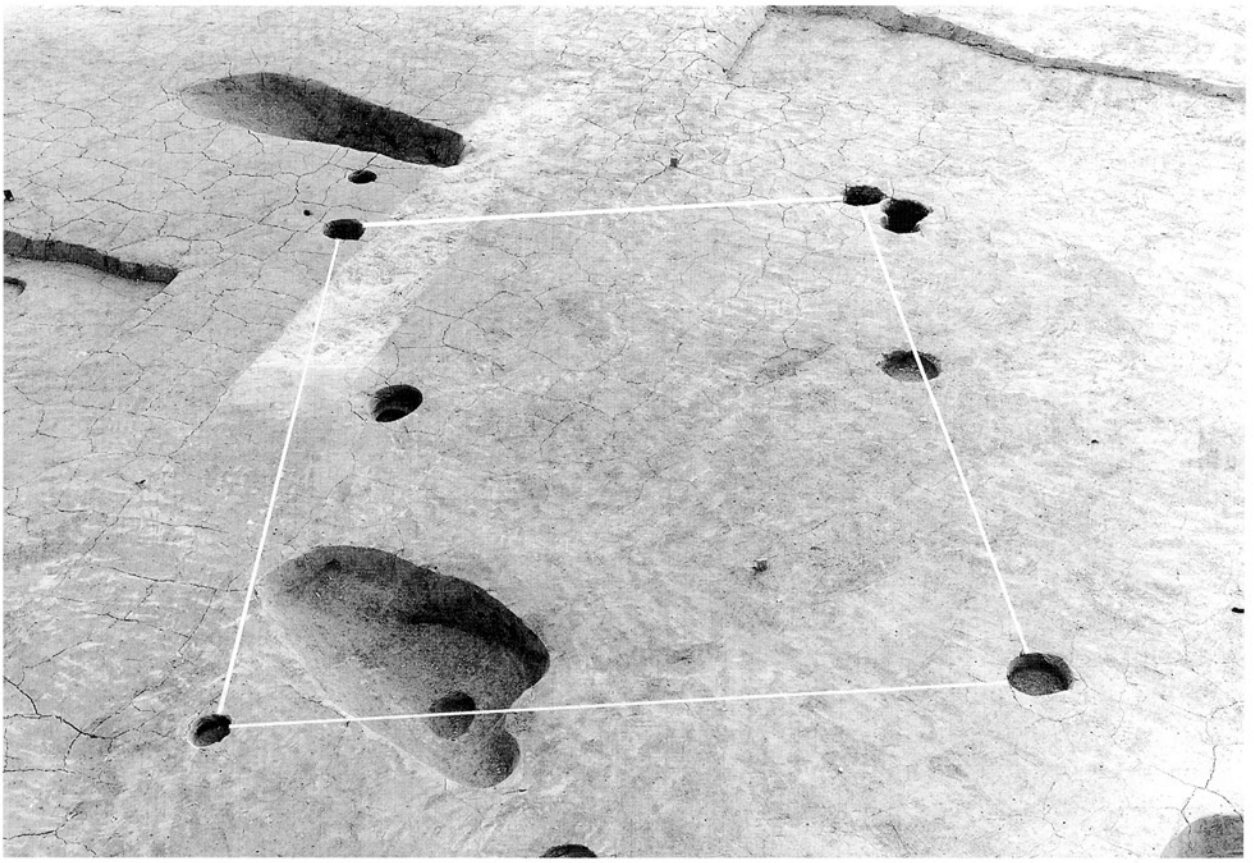


SB18（北から）

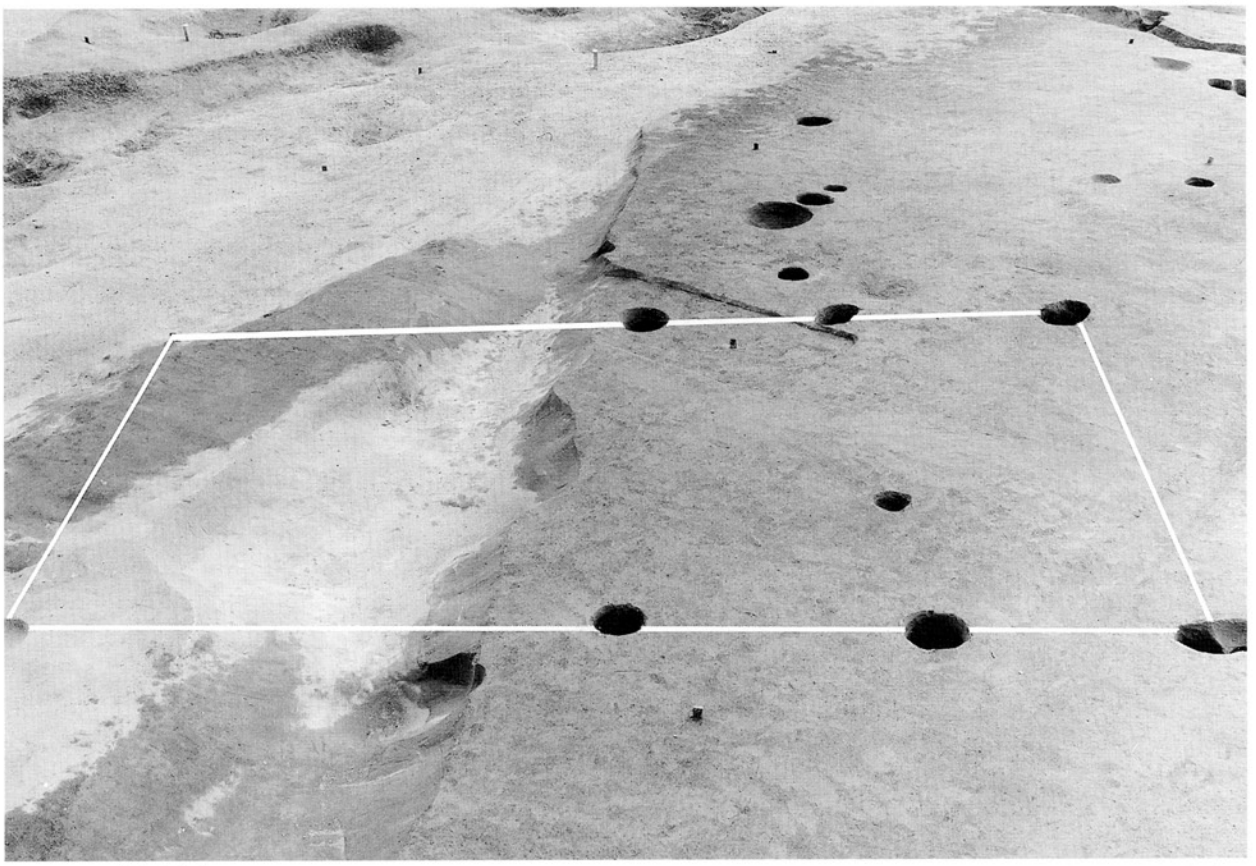
PL 17



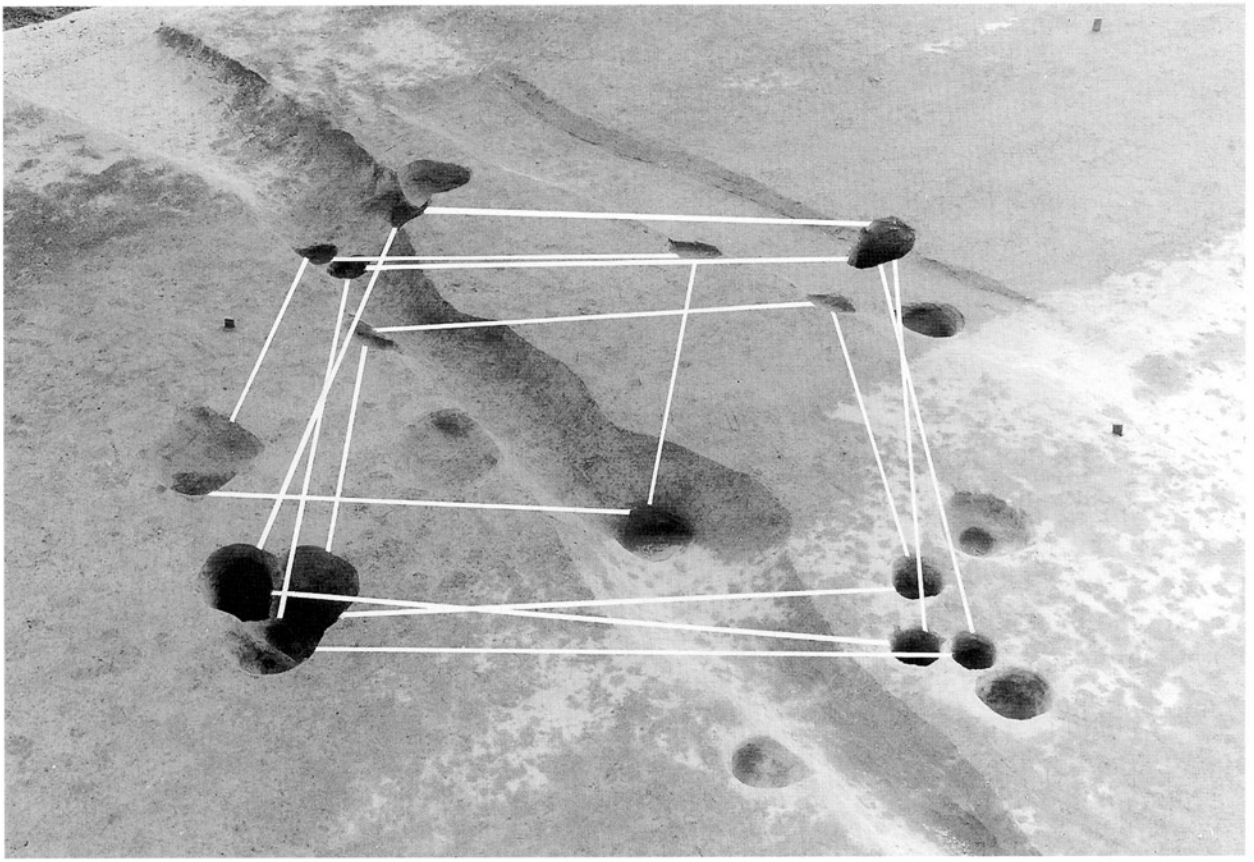
SB19・20（北から）



SB21（北から）



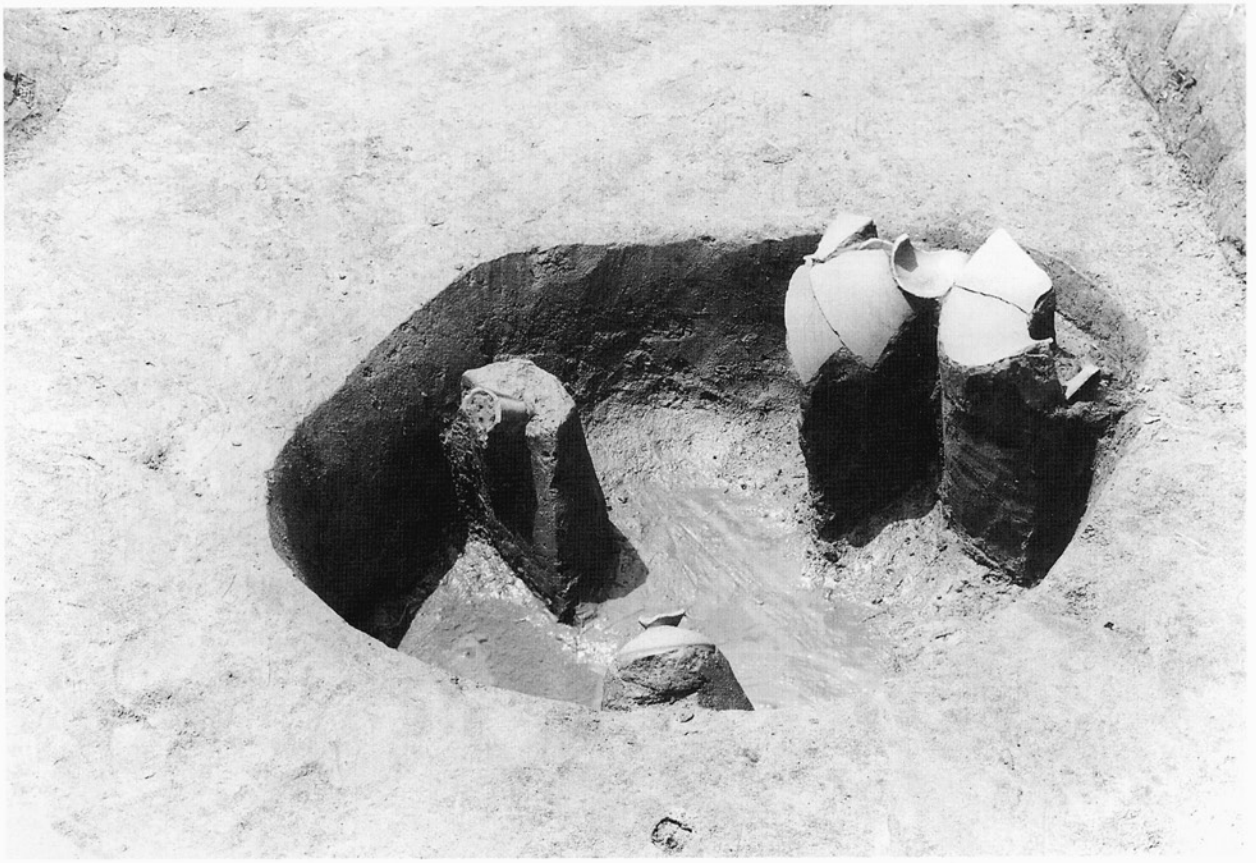
SB22（北から）



SB23～26（北から）

PL 19

ＳＥ１（北から）



ＳＫ11遺物出土状況（北から）

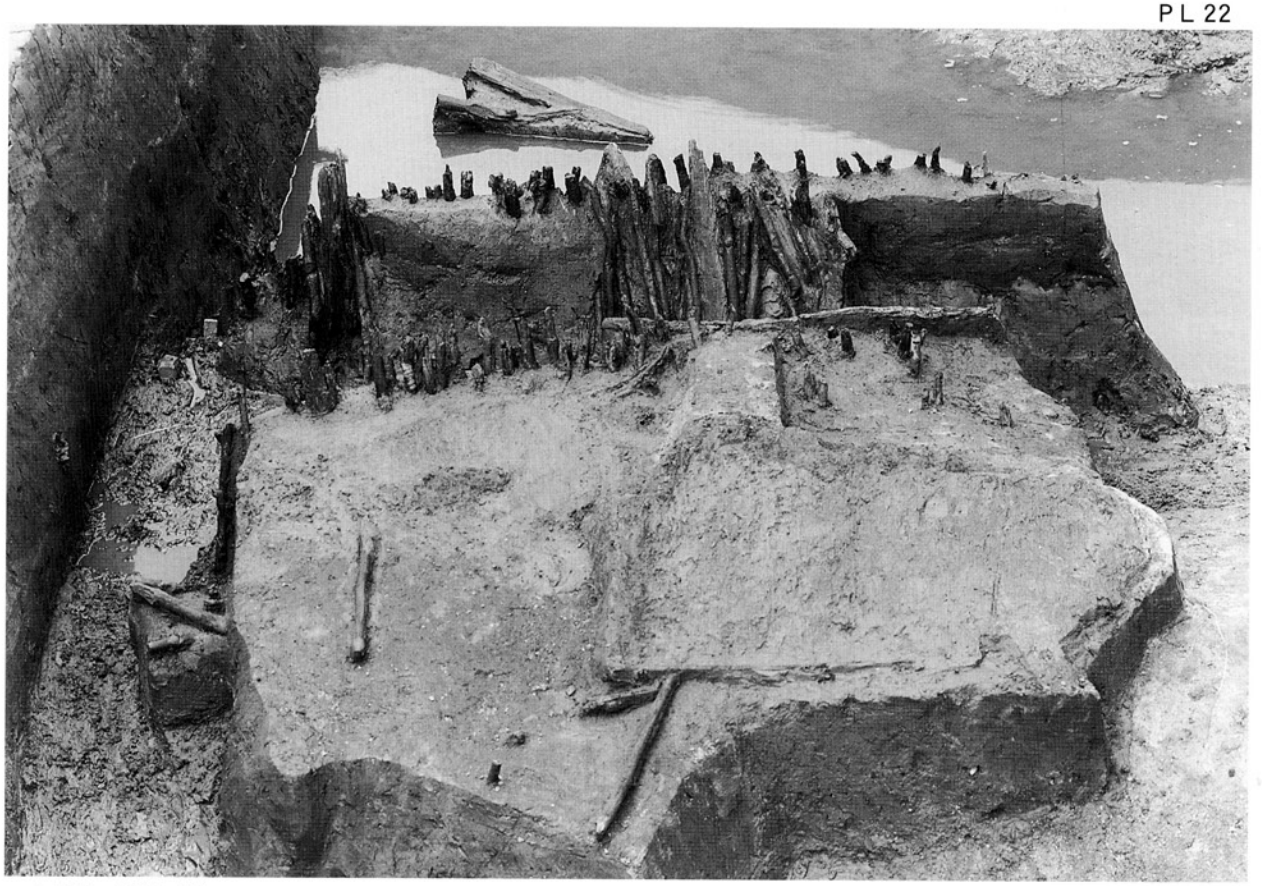
ＳＫ13遺物出土状況（北から）

ＳＫ15遺物出土状況（西から）

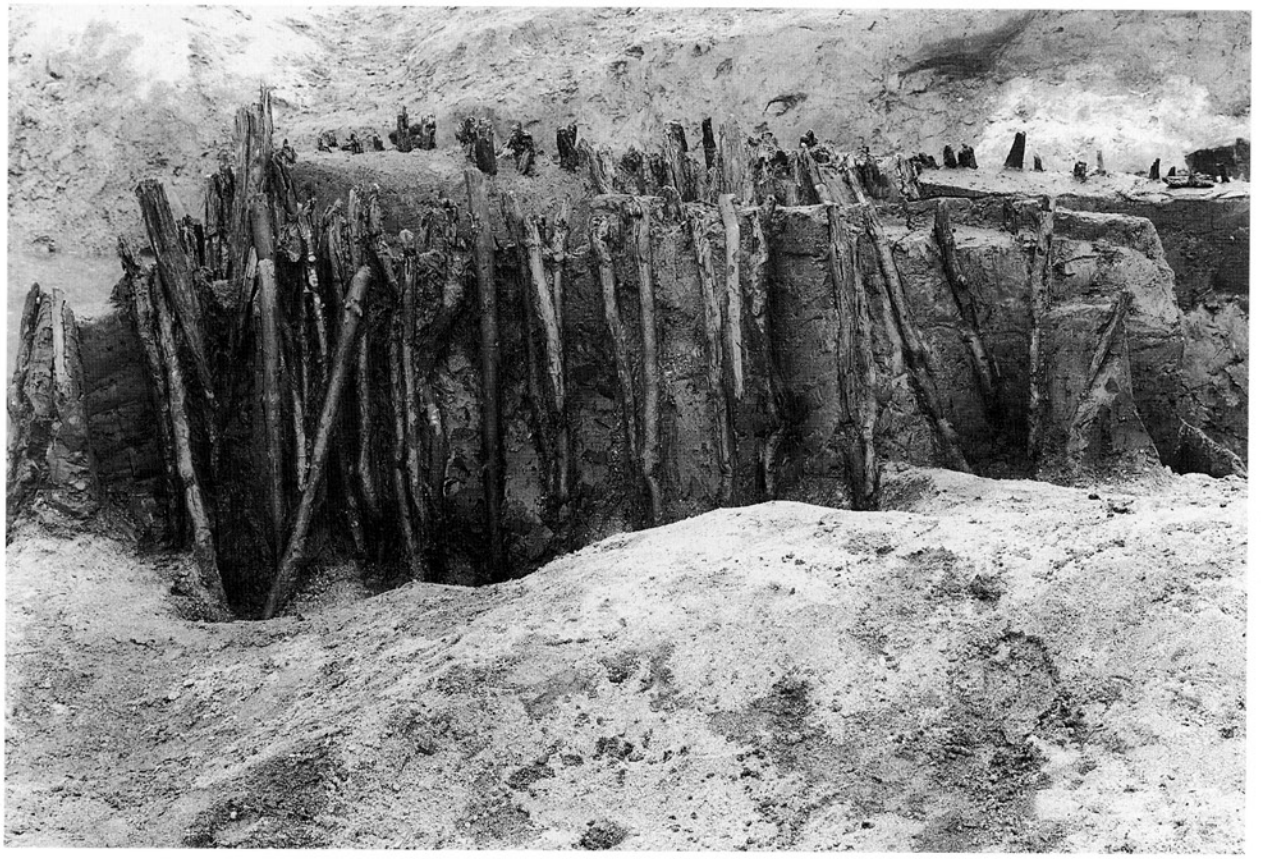
PL 21

SR 7（東から）

SR 8・9・10（東から）



ＳＺ５（北から）

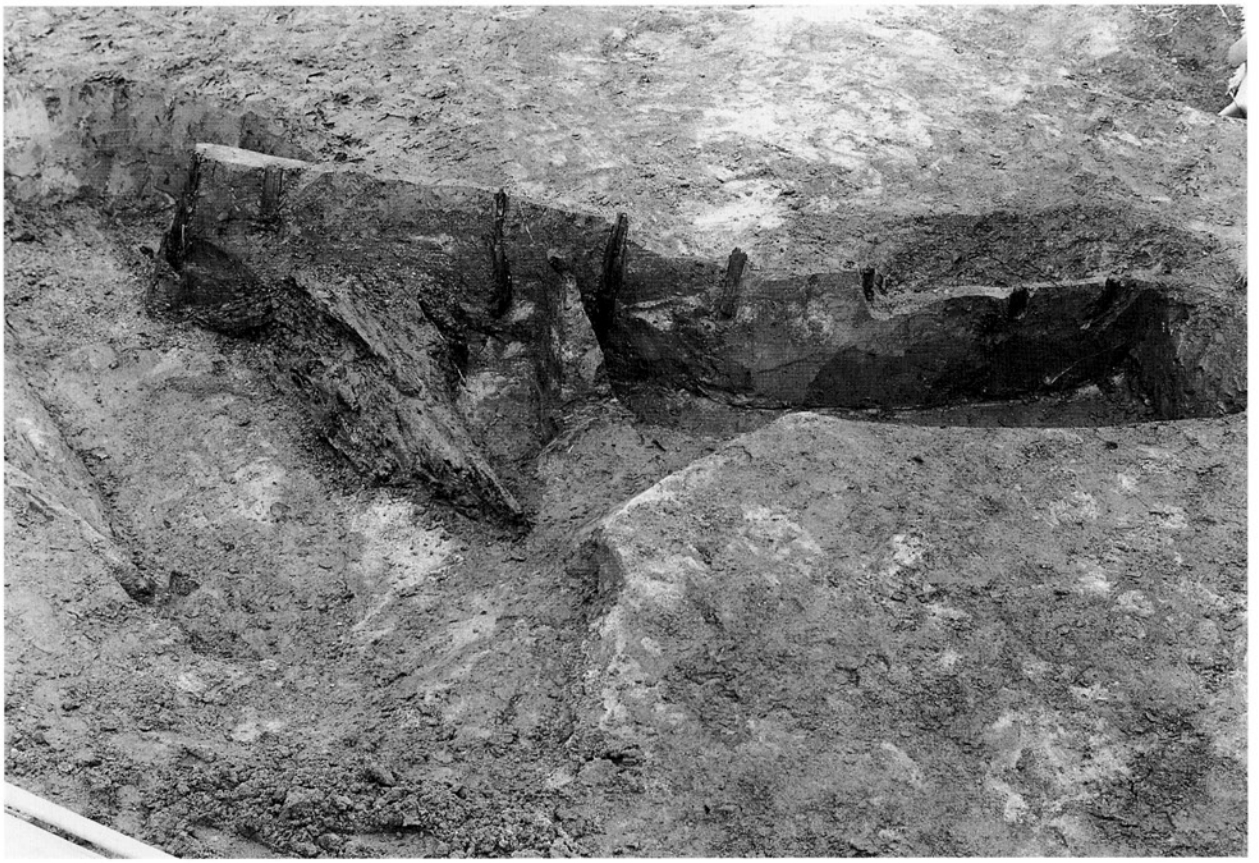


ＳＺ５杭列（北から）

PL 23

SZ 6（北から）

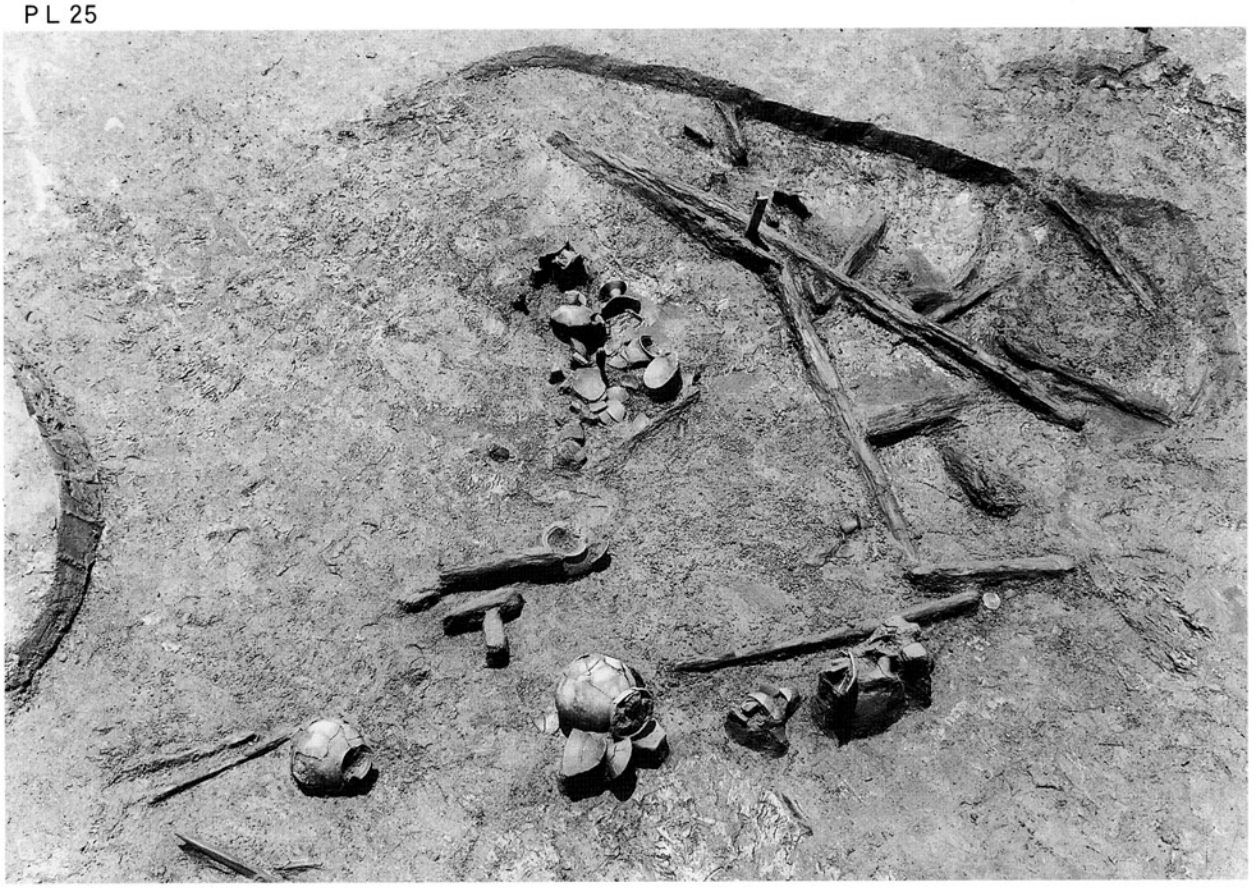
SZ 7（北から）



ＳＺ８（東から）

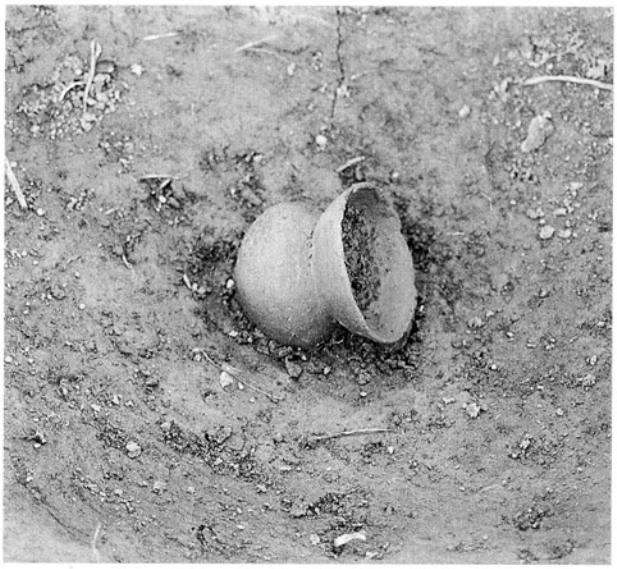
ＳＺ９（東から）

PL 25

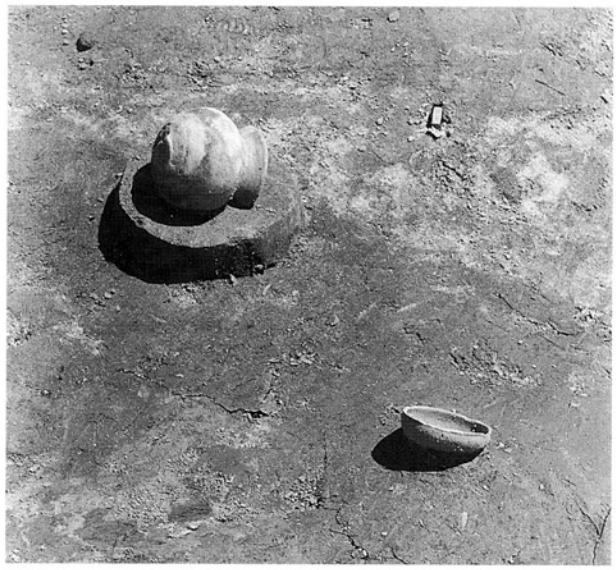


ＳＲ８遺物出土状況（東から）

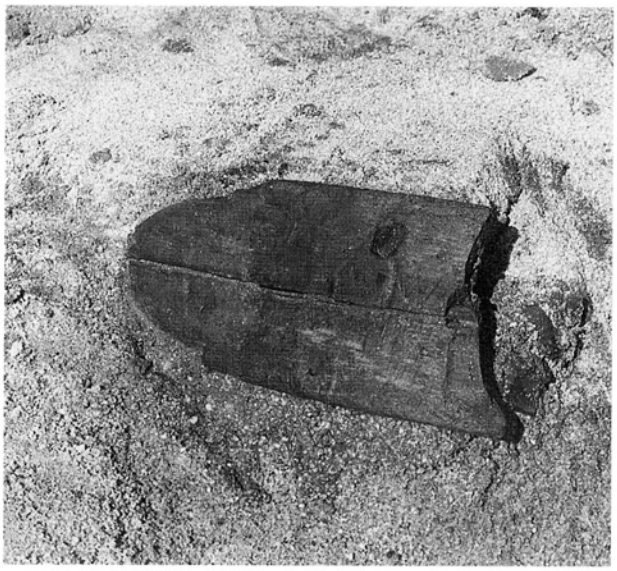
ＳＲ８遺物出土状況拡大（南から）



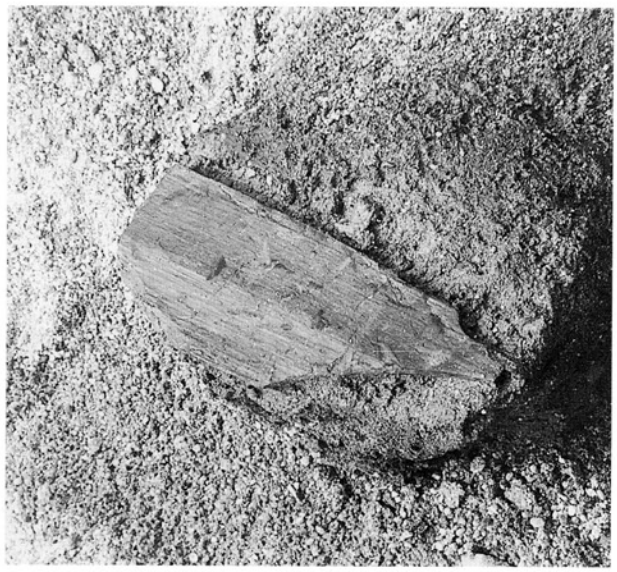
ＳＲ３小型丸底壺出土状況（北から）



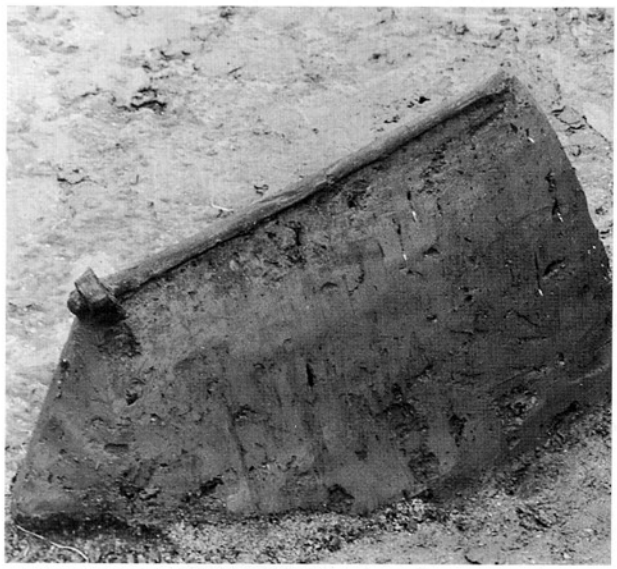
ＳＲ４土師器甕・椀出土状況（西から）



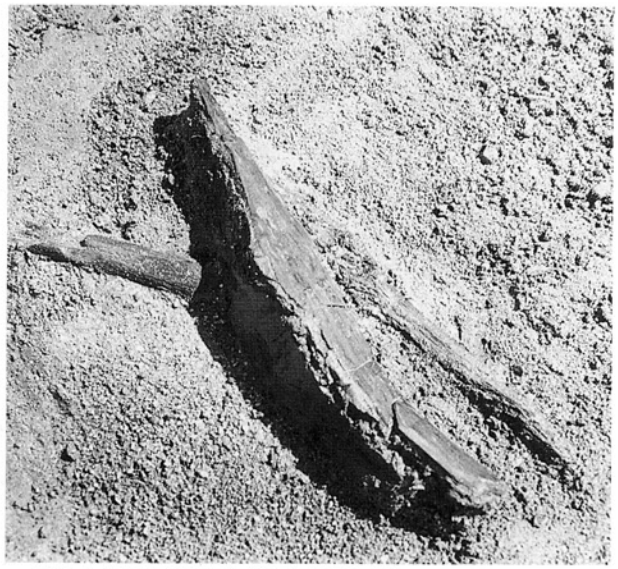
ＳＲ４風呂鍬出土状況（西から）



ＳＲ７曲物底板出土状況（真上）

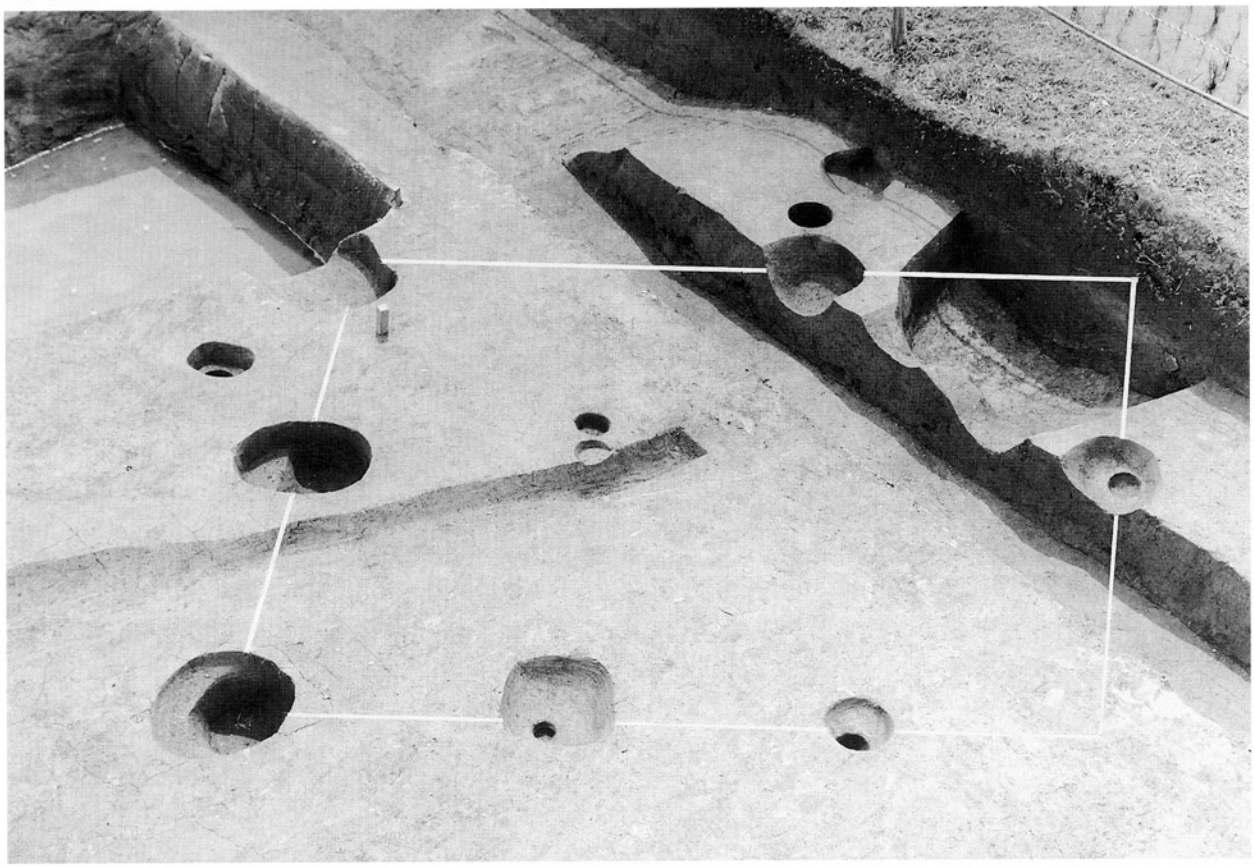


ＳＲ７鍬柄出土状況（東から）

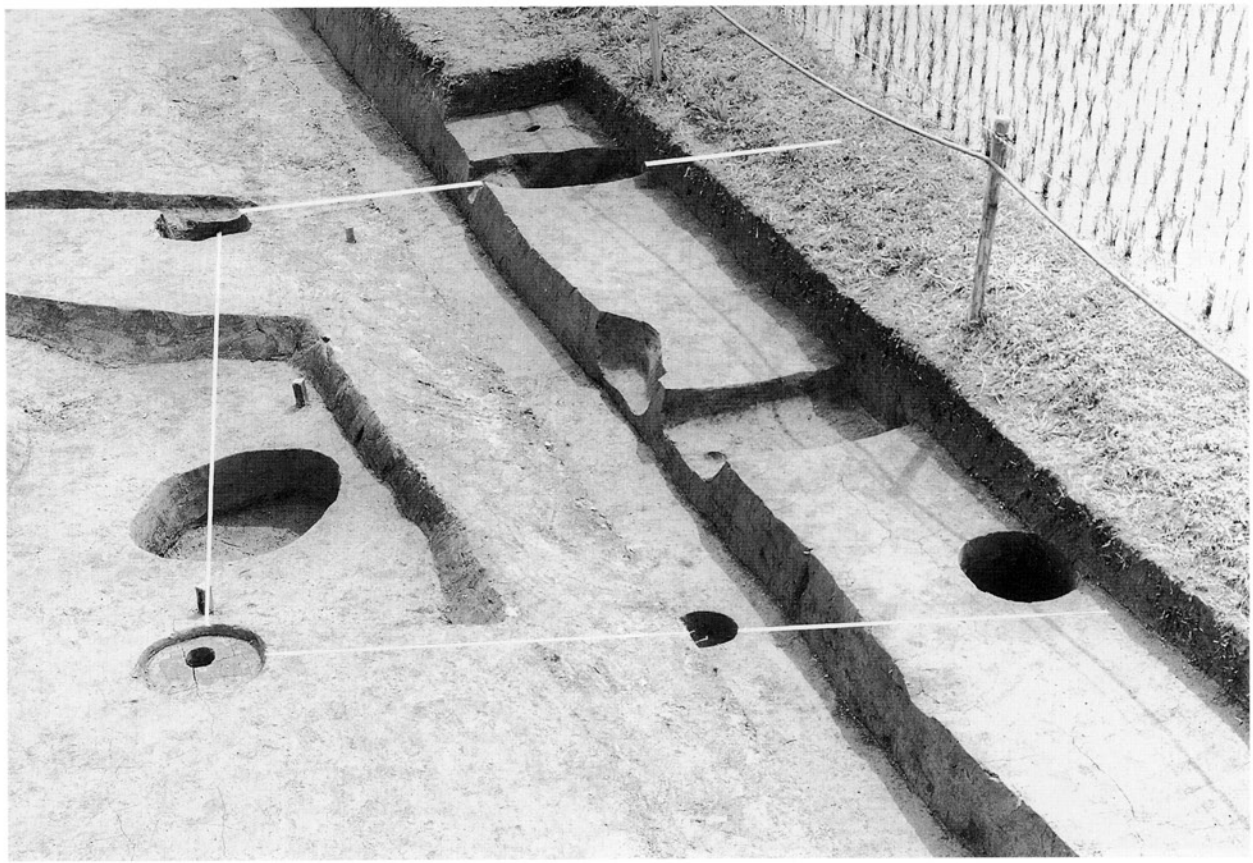


ＳＲ８曲柄又鍬出土状況（南から）

PL 27

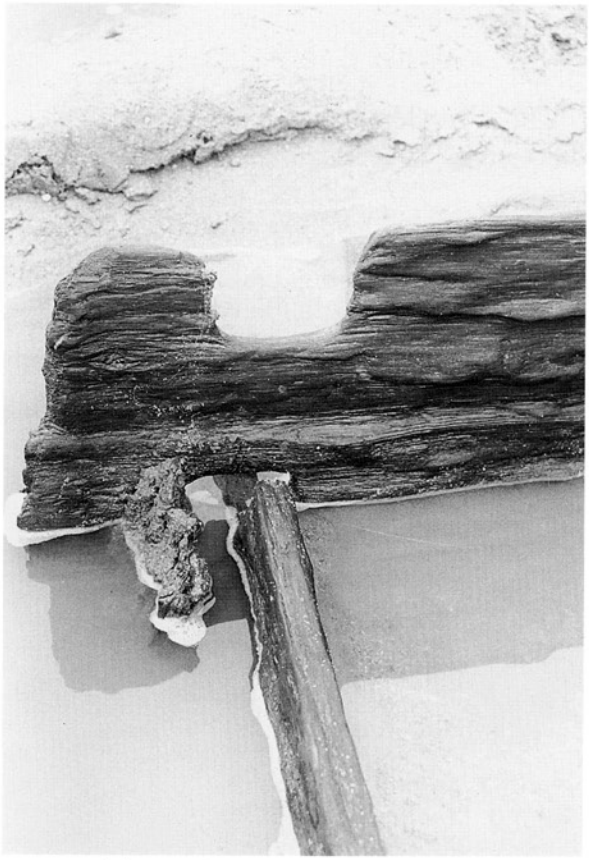


SB27（東から）

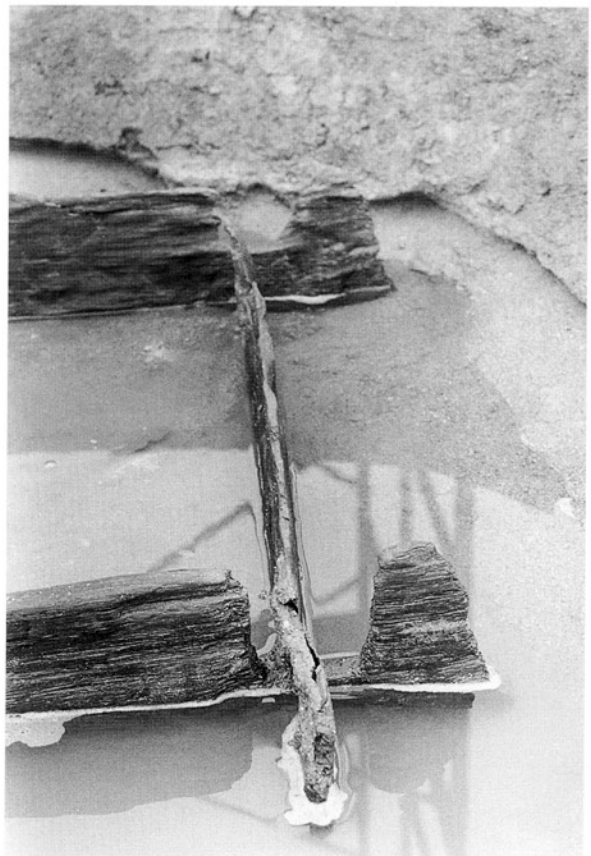


SB28（北から）

ＳＥ２（北から）

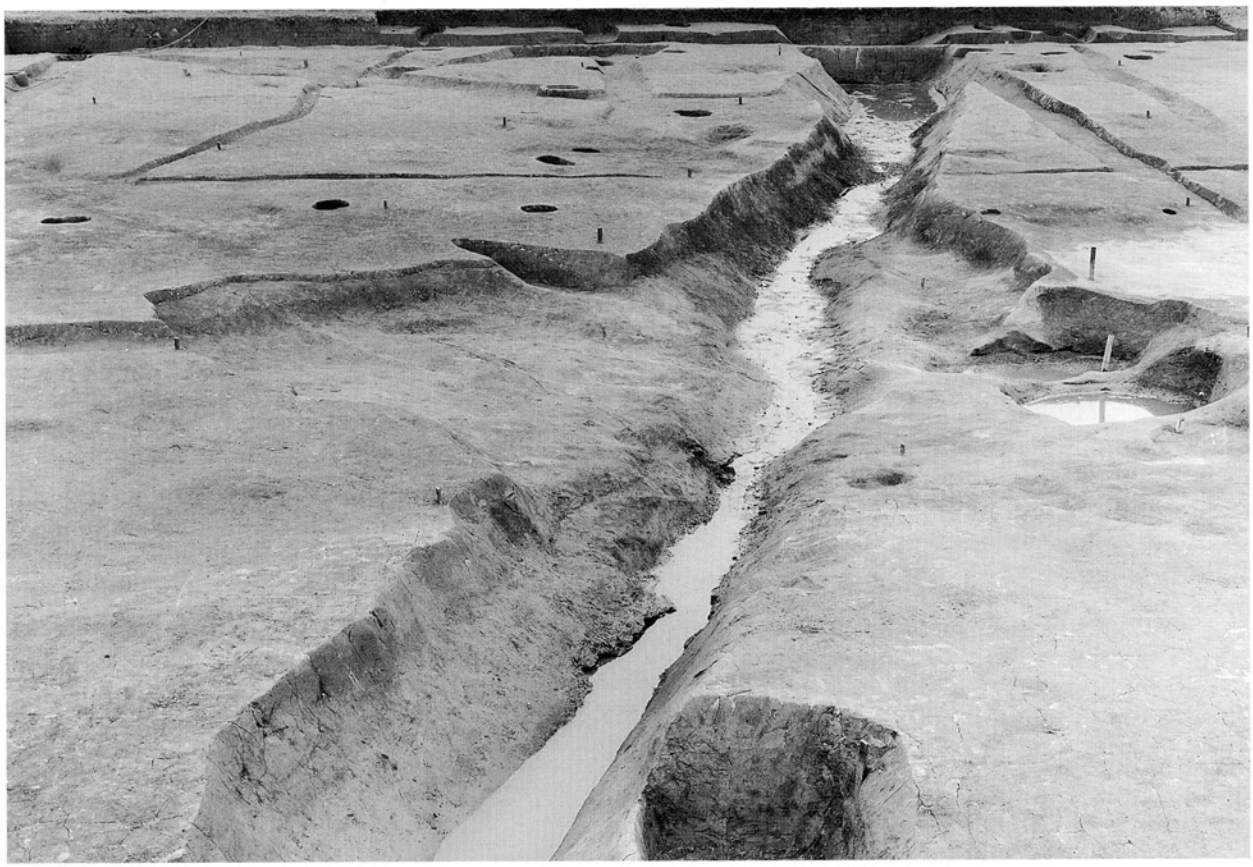


ＳＥ２木組み（東から）

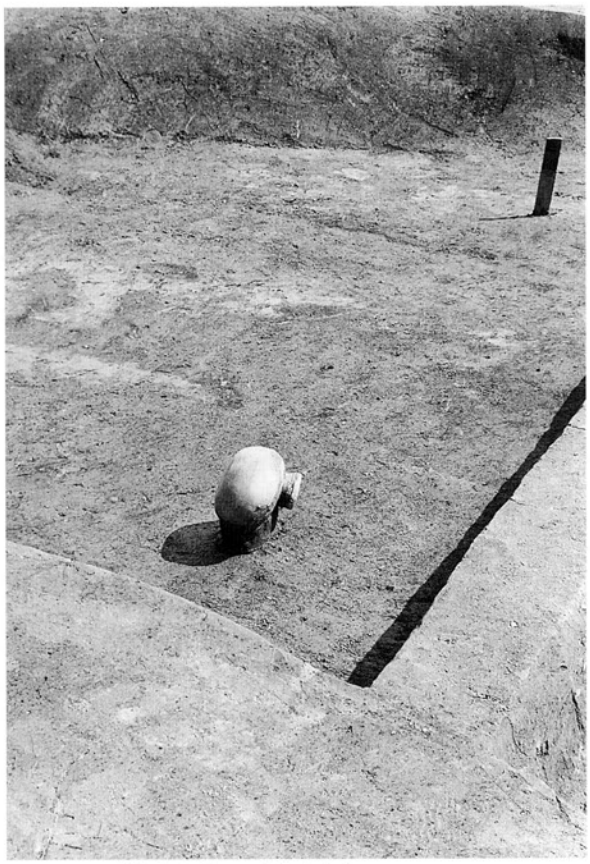


ＳＥ２木組み（南から）

PL 29

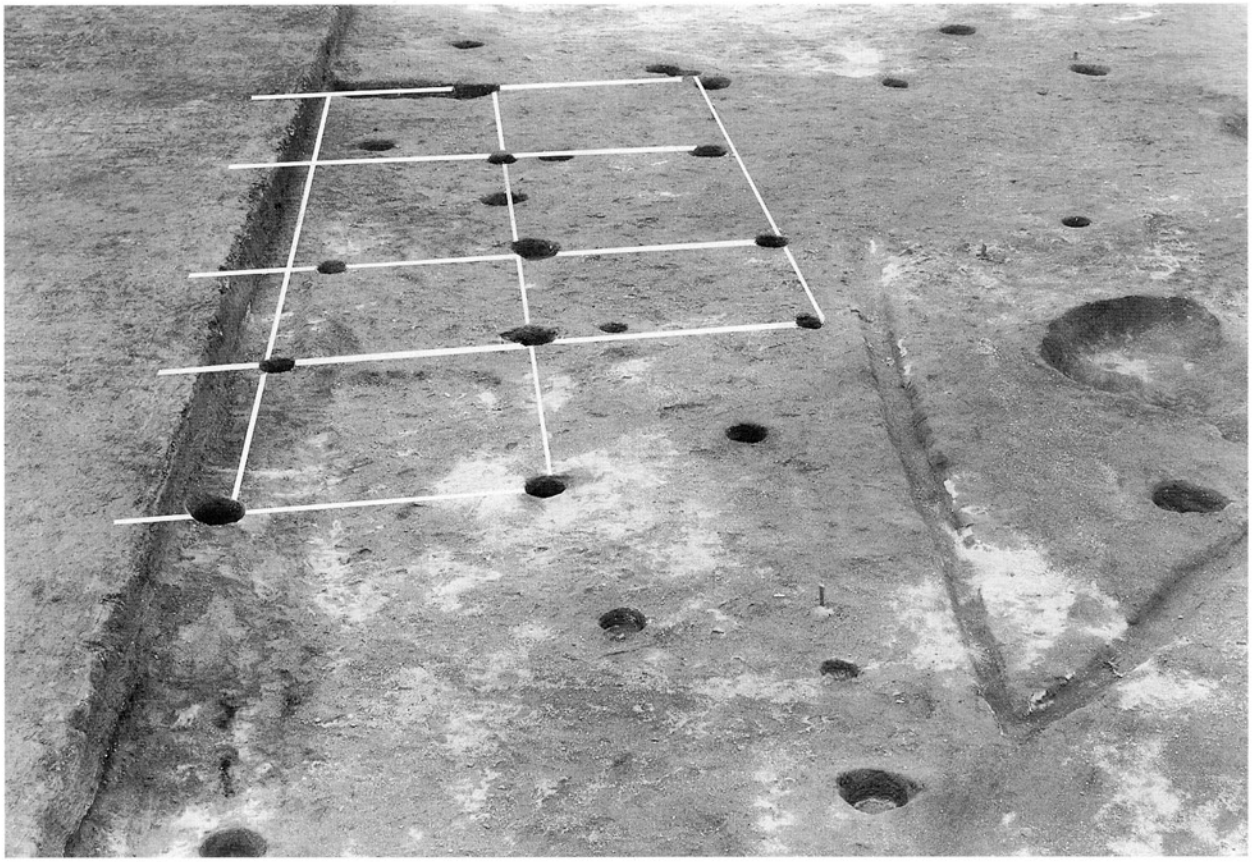


ＳＲ11（東から）

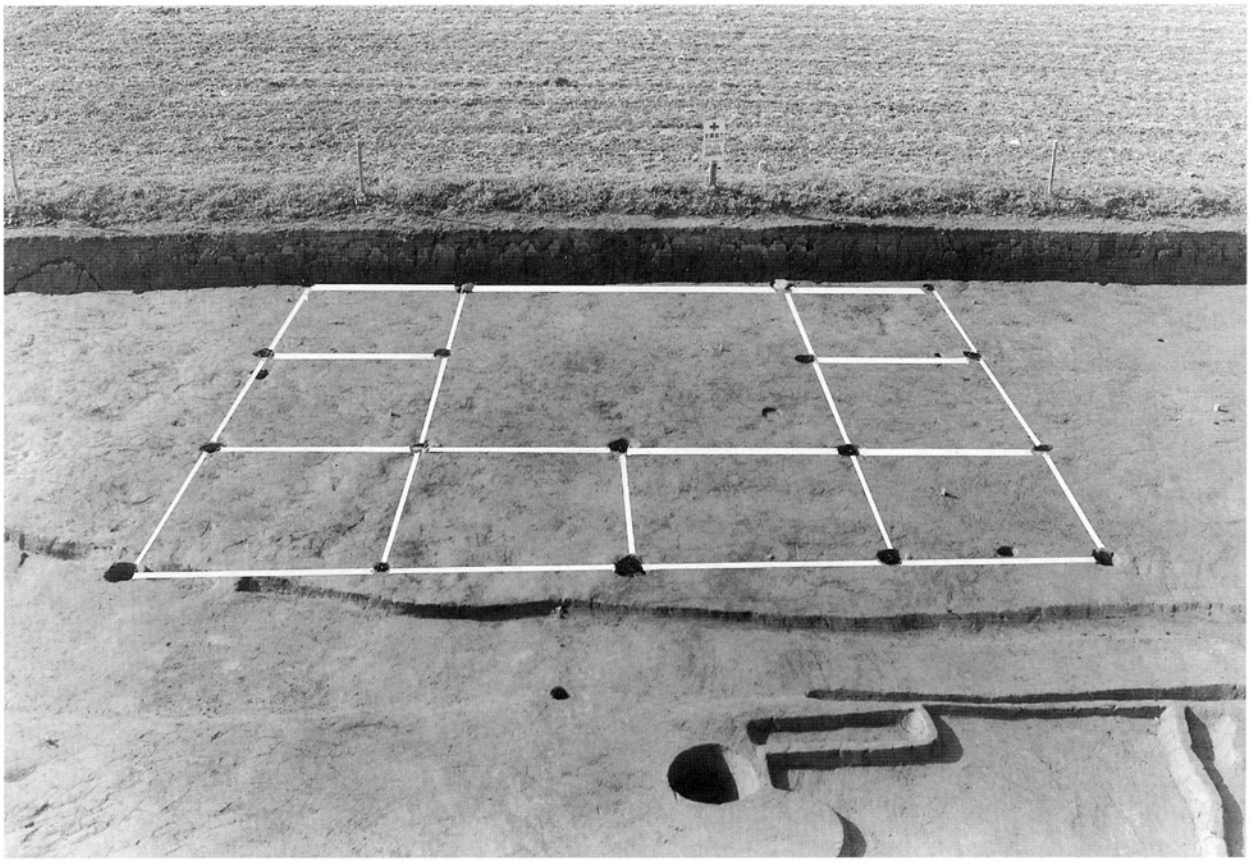


ＳＲ11遺物出土状況（南から）

ＳＲ11遺物出土状況（東から）

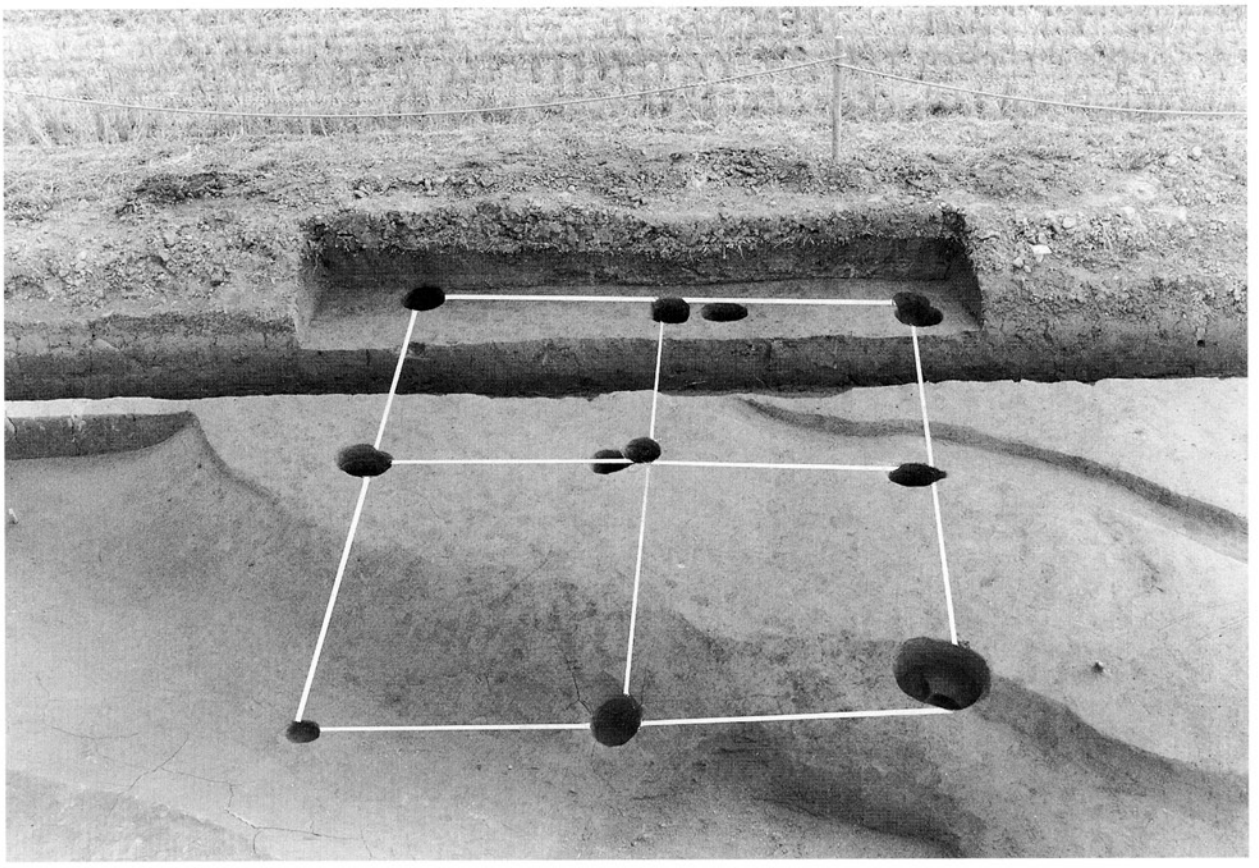


SB29（東から）

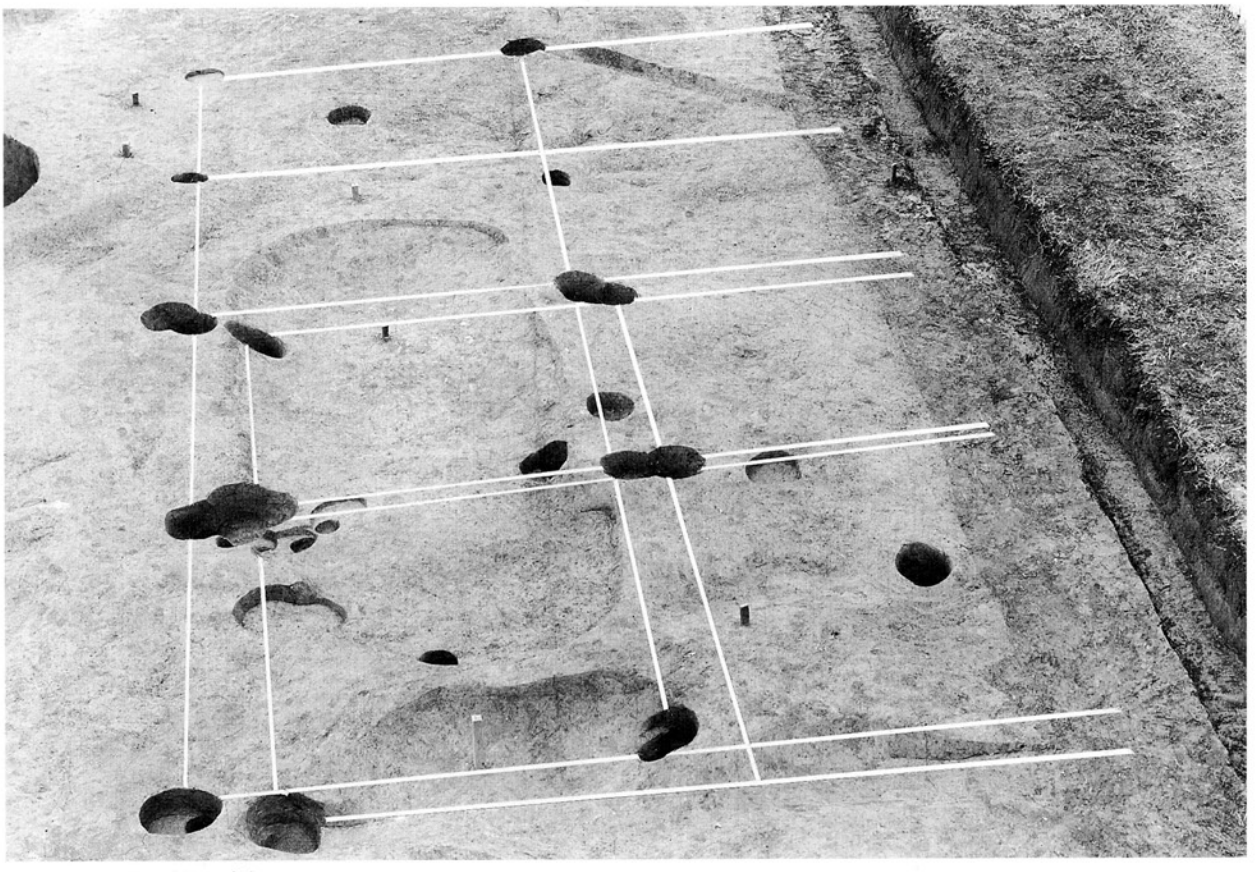


SB30（東から）

PL 31

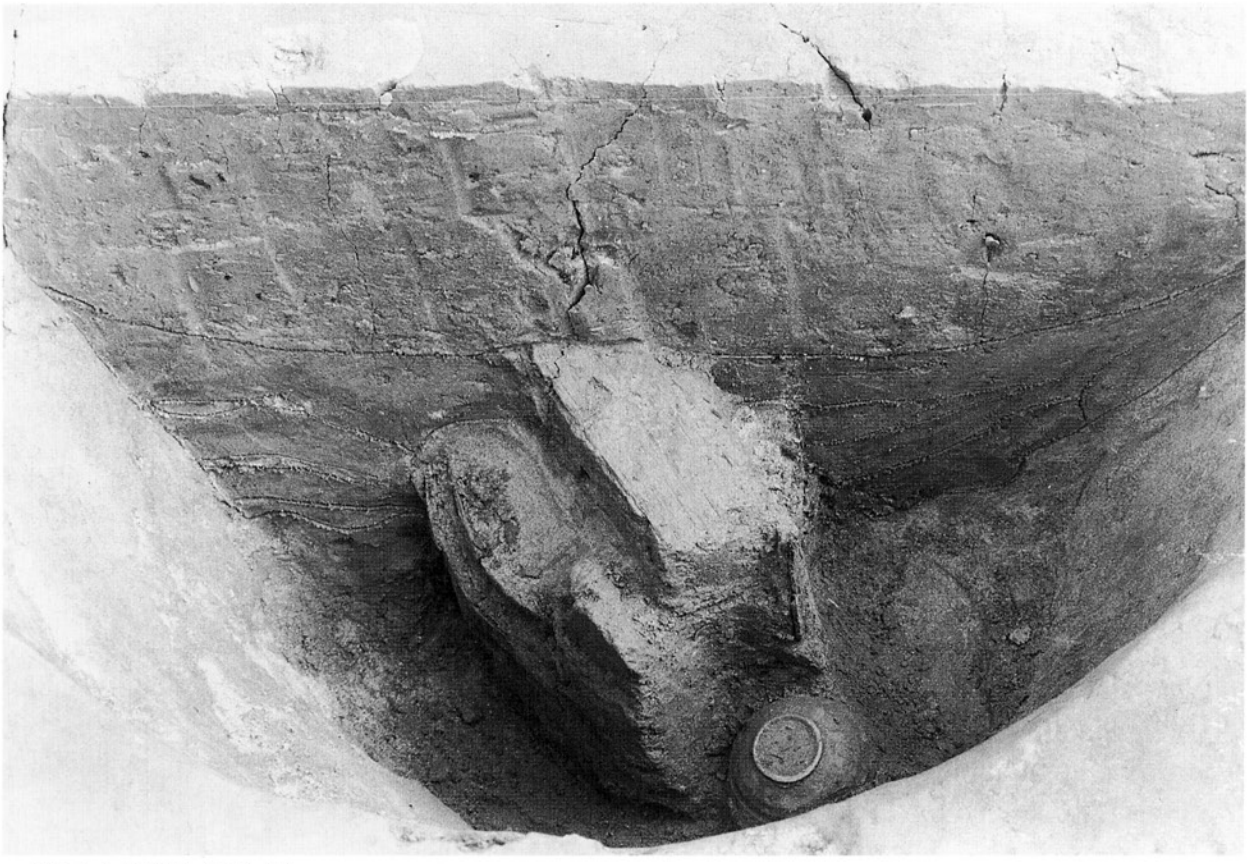


SB31（西から）



SB32・33（北から）

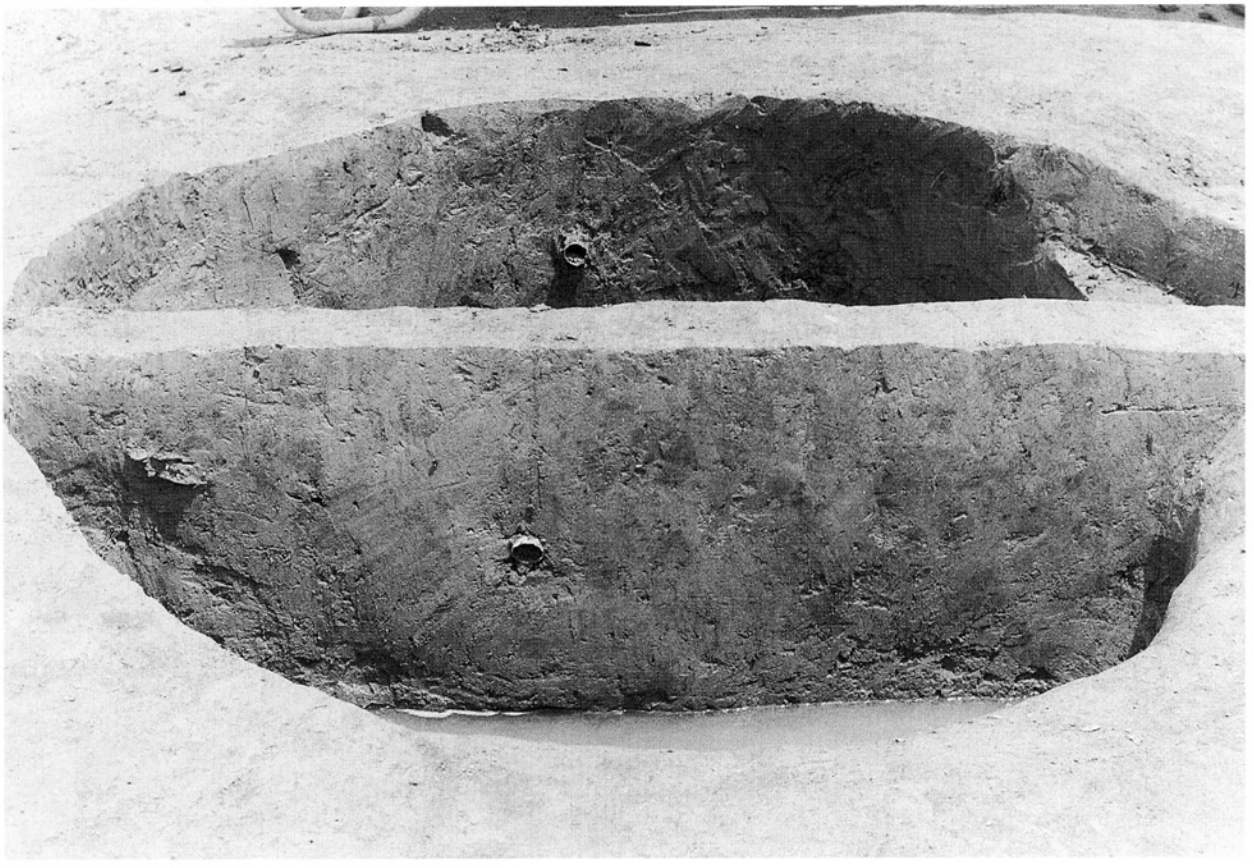
ＳＥ３（北から）



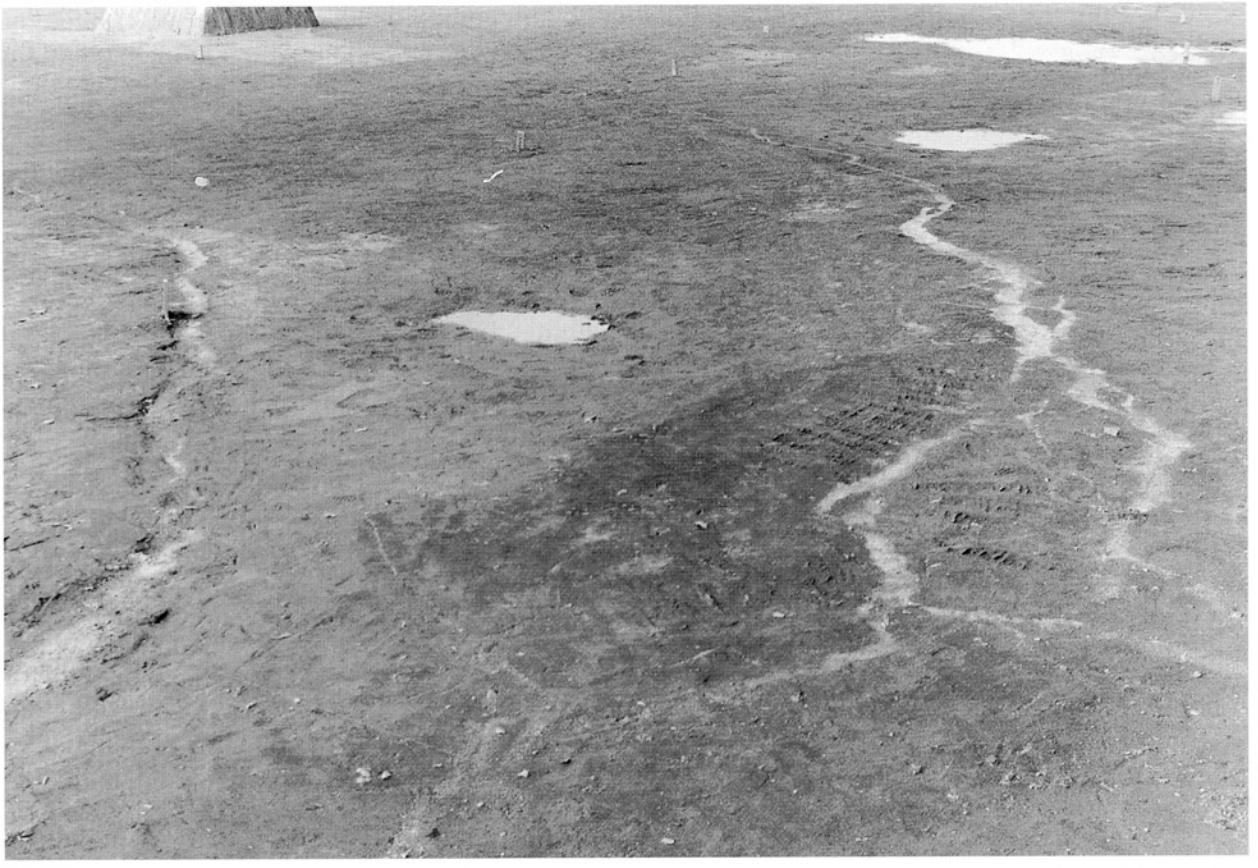
ＳＥ３土層断面（南から）

PL 33

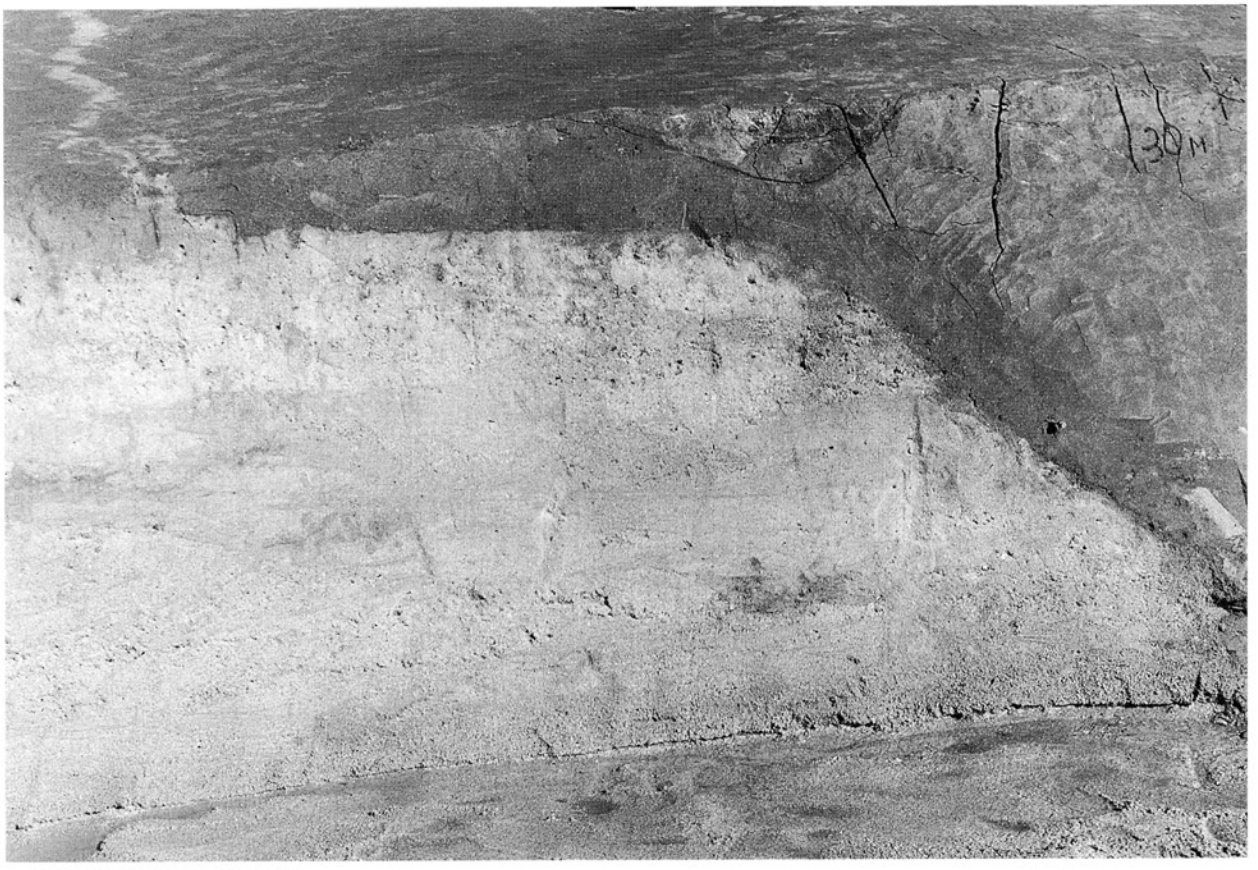
ＳＥ４（北から）



ＳＥ４土層断面（南から）

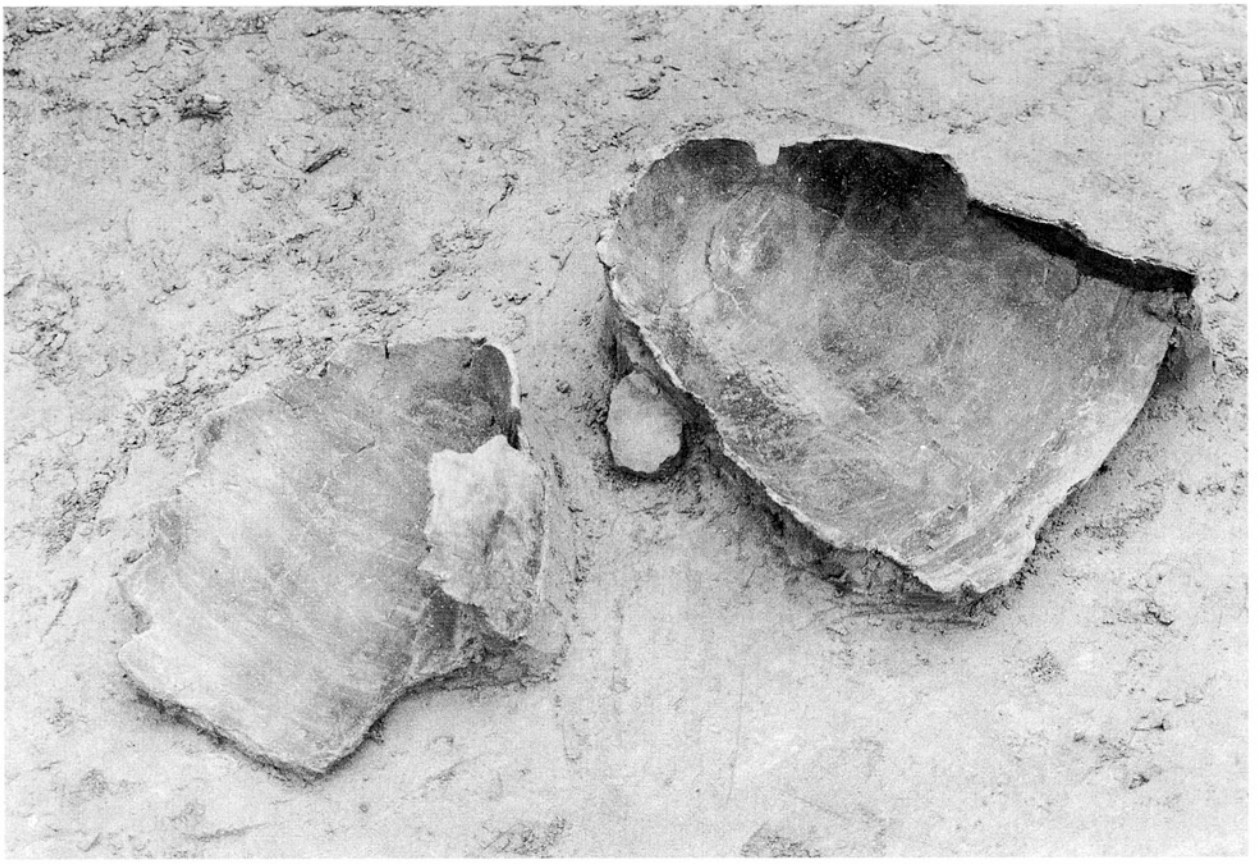


B地区噴砂検出状況（南東から）

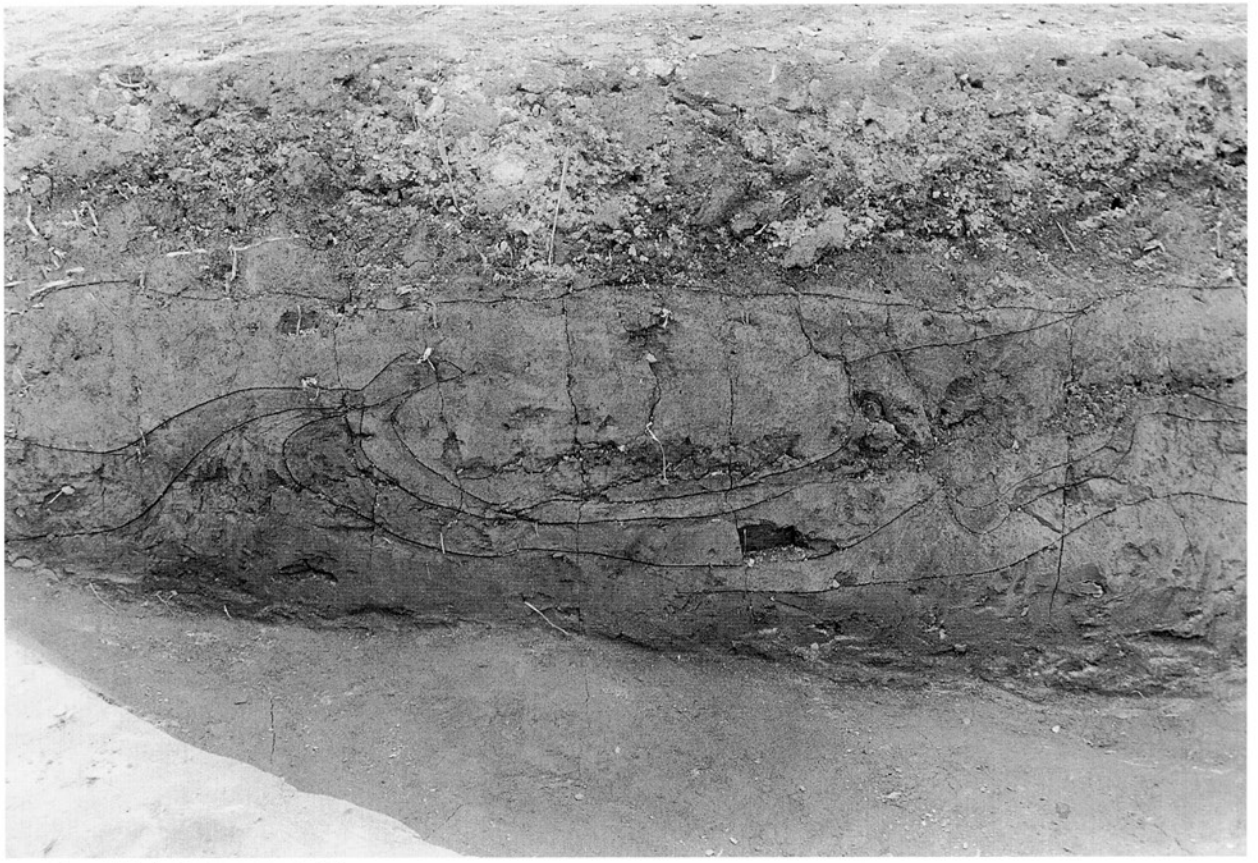



B地区噴砂断面（南から）

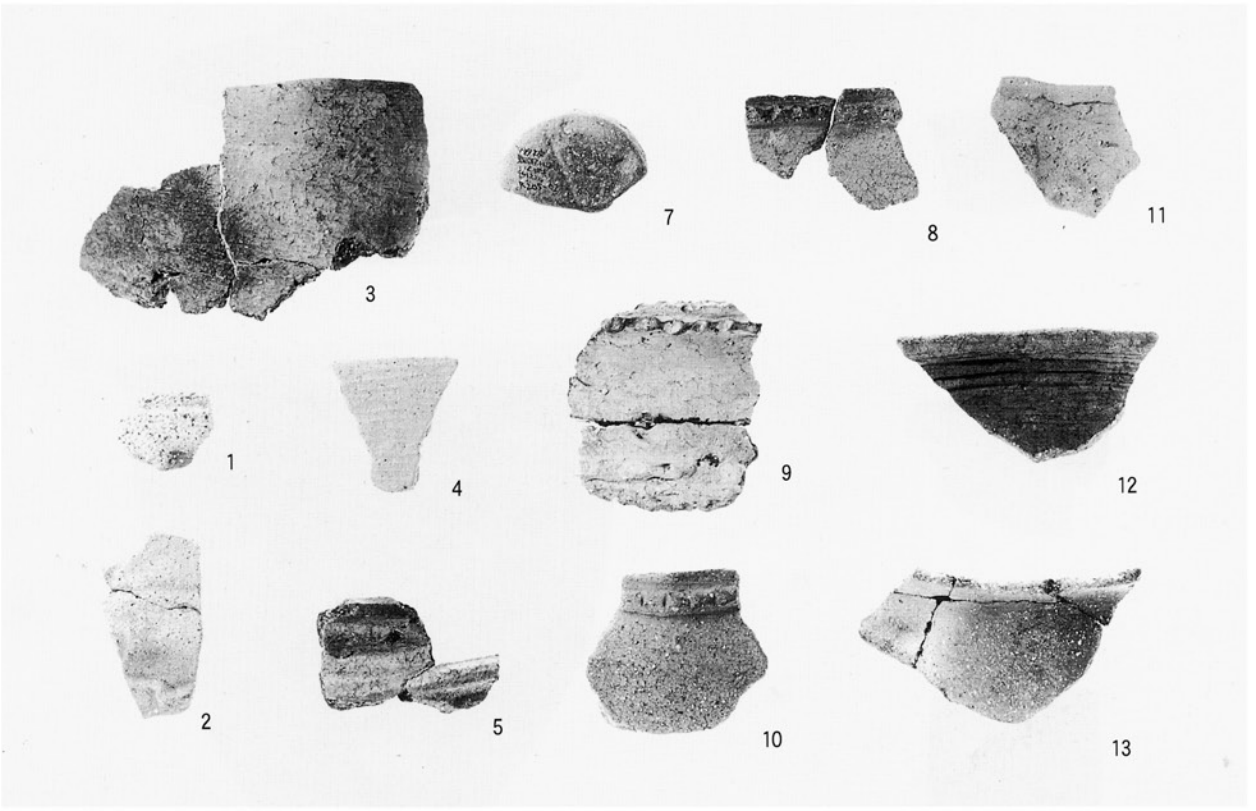
PL 35



B地区縄文土器出土状況（西から）



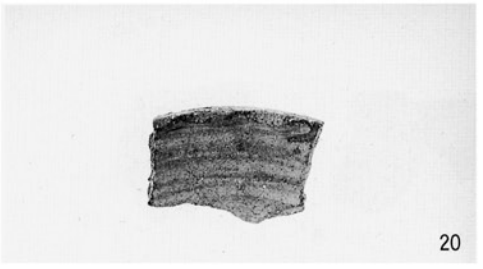
D地区東壁土層断面（西から）



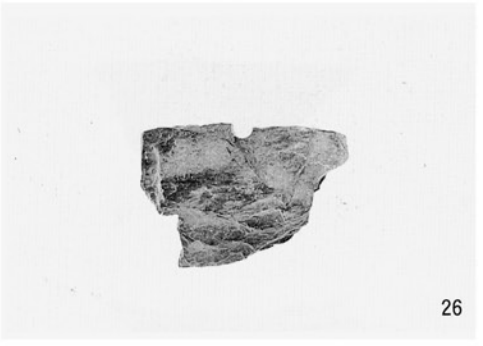

縄文土器1（1：3）

縄文土器2
（1：5）

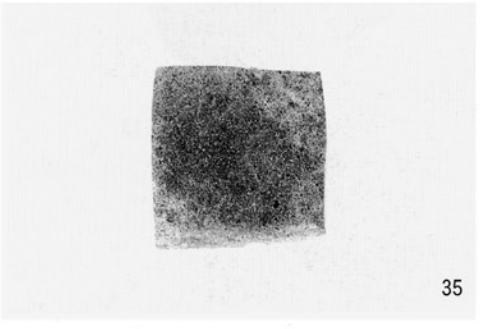
PL 37


20

27


26

29


35

21

S×1・SF1出土遺物（1：3、21は1：4、35は2：3）

37

55

62

38

59

66

45

57

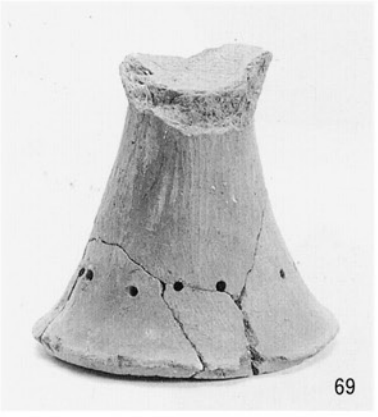
SK１・３・４・７・８出土遺物（１：３、57は１：１）

PL 39

85

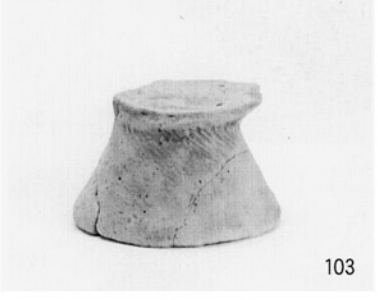
83

76


69

82

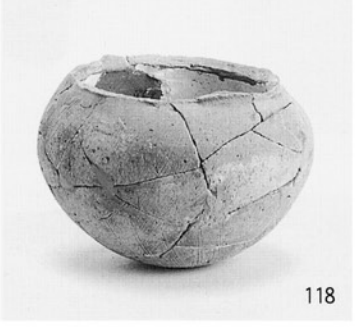
77

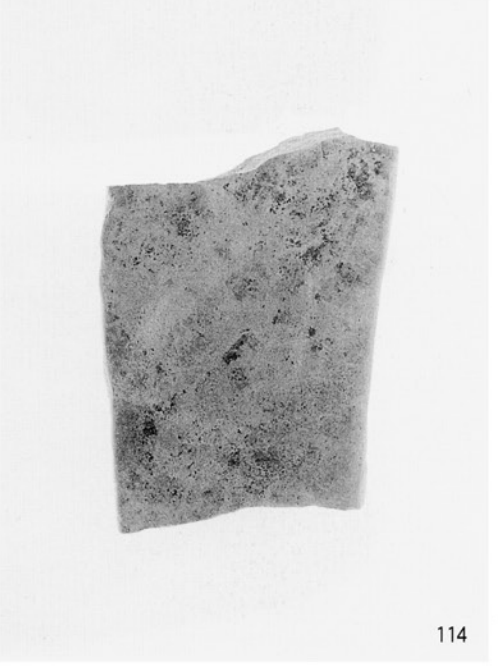

103

106

86

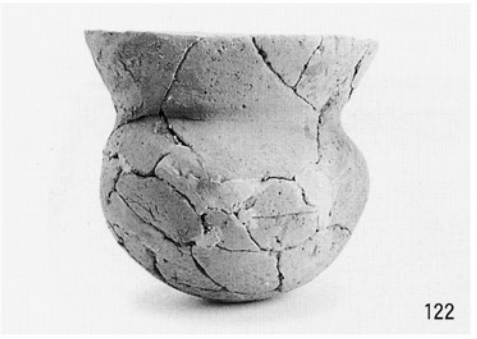
117


118


114

115

SR 2・SD 4・SB23・SE 1・SK10～12出土遺物（1：3）


122

123

130

131

132

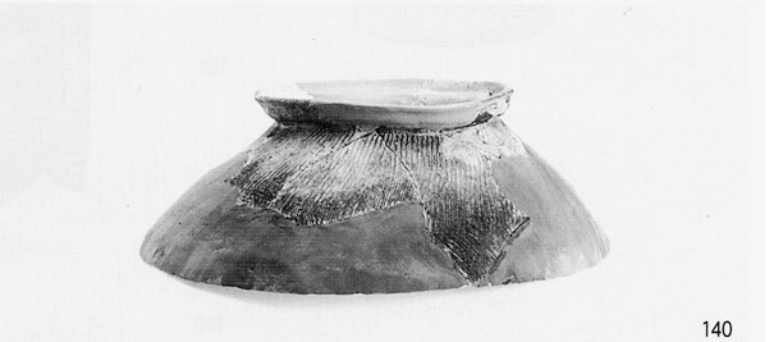
121

129

146

151

152


140

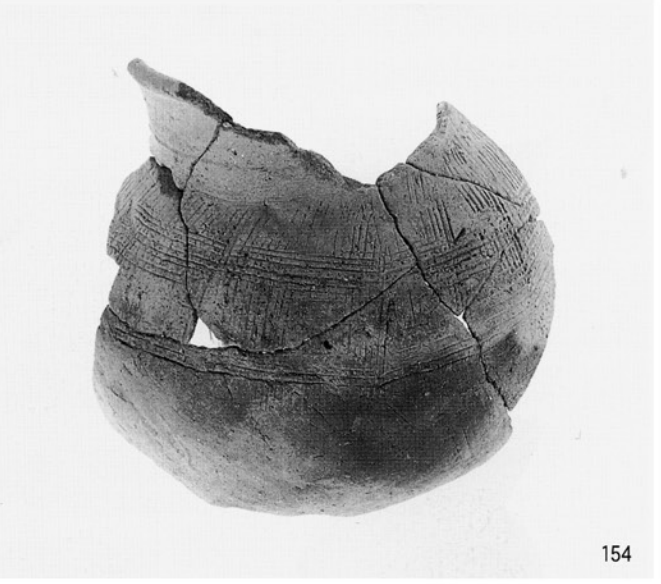
SK13・14出土遺物（1：3、121・129・140は1：4、152は2：1）

PL 41

153

158

155

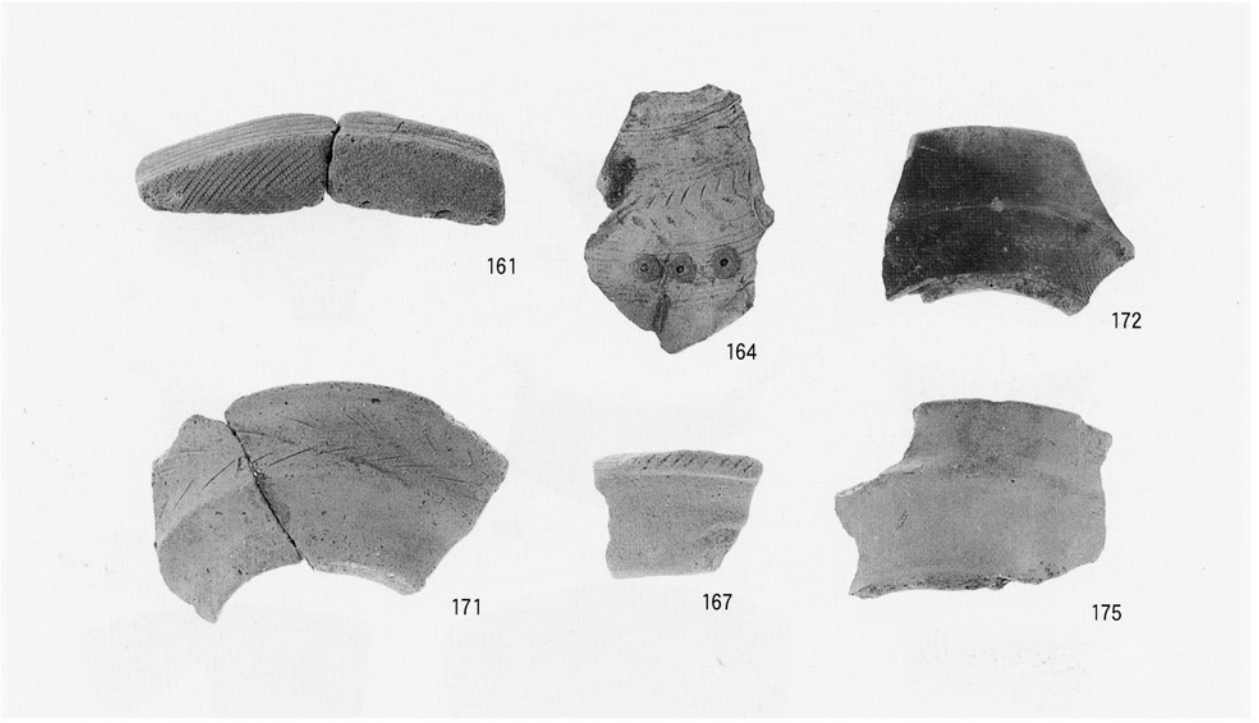

154

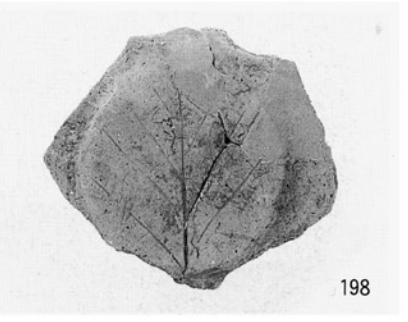
156

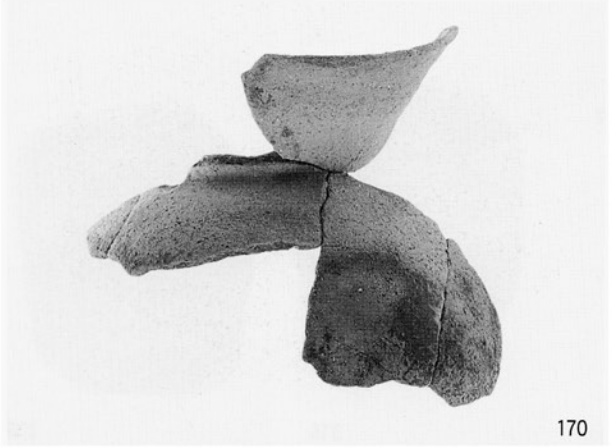
159

160

SK15出土遺物（1：3、155・158は1：4、160は2：1）

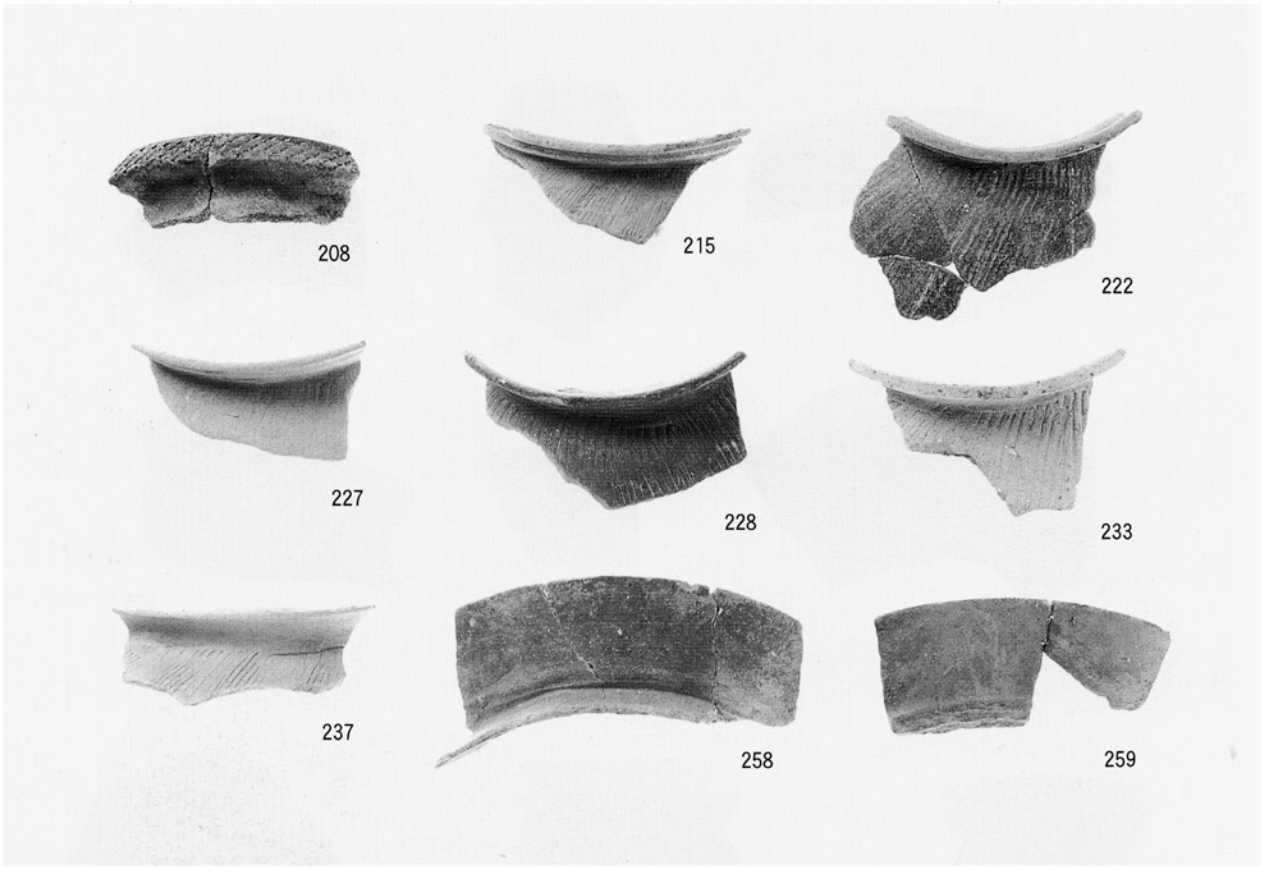


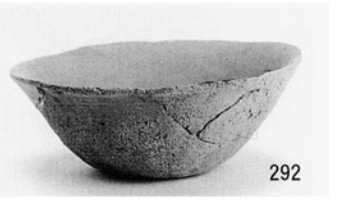


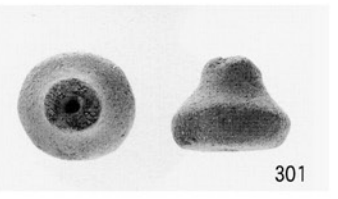


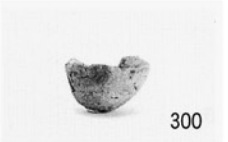
ＳＲ３出土遺物１（１：３、170は１：４）

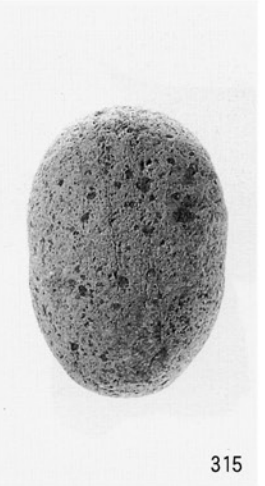
PL 43





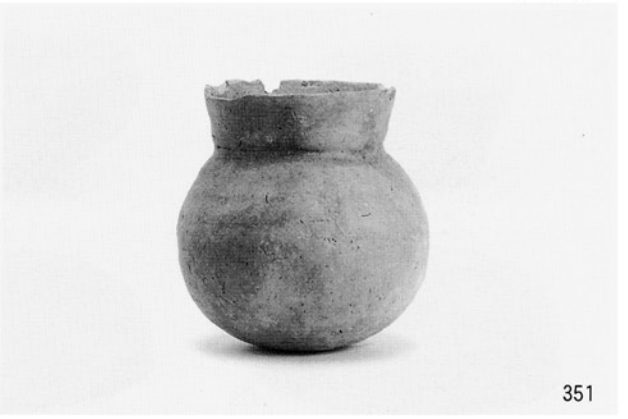





SR 3出土遺物2 （1 : 3、301・315・316は1 : 2）

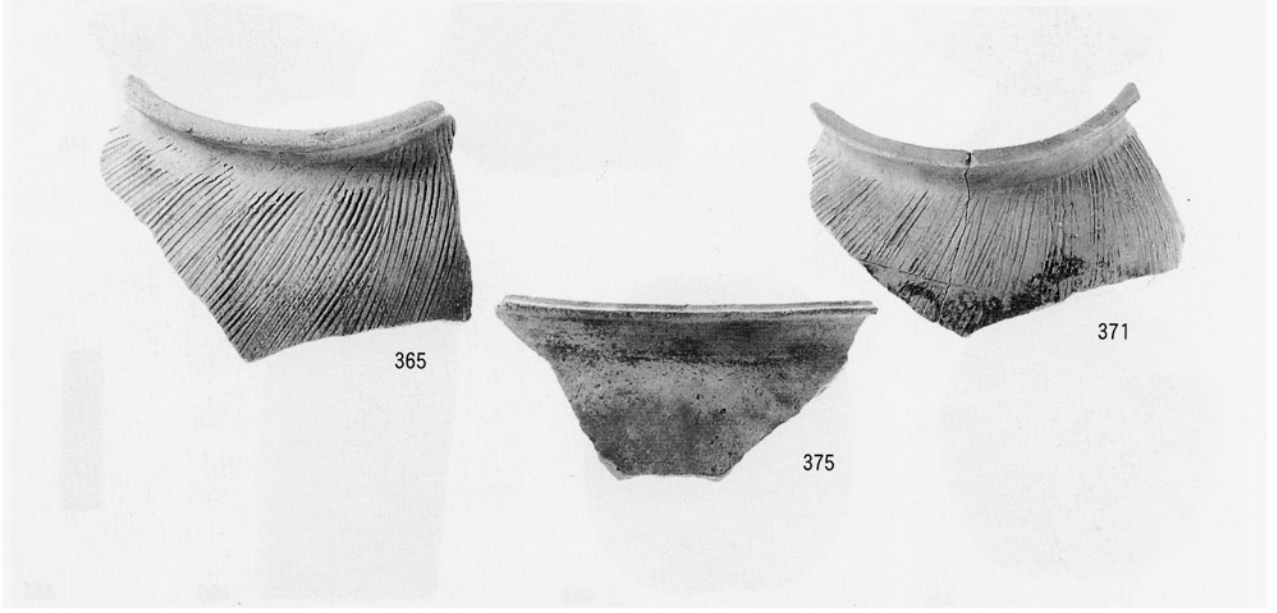
346


351

360

405

366

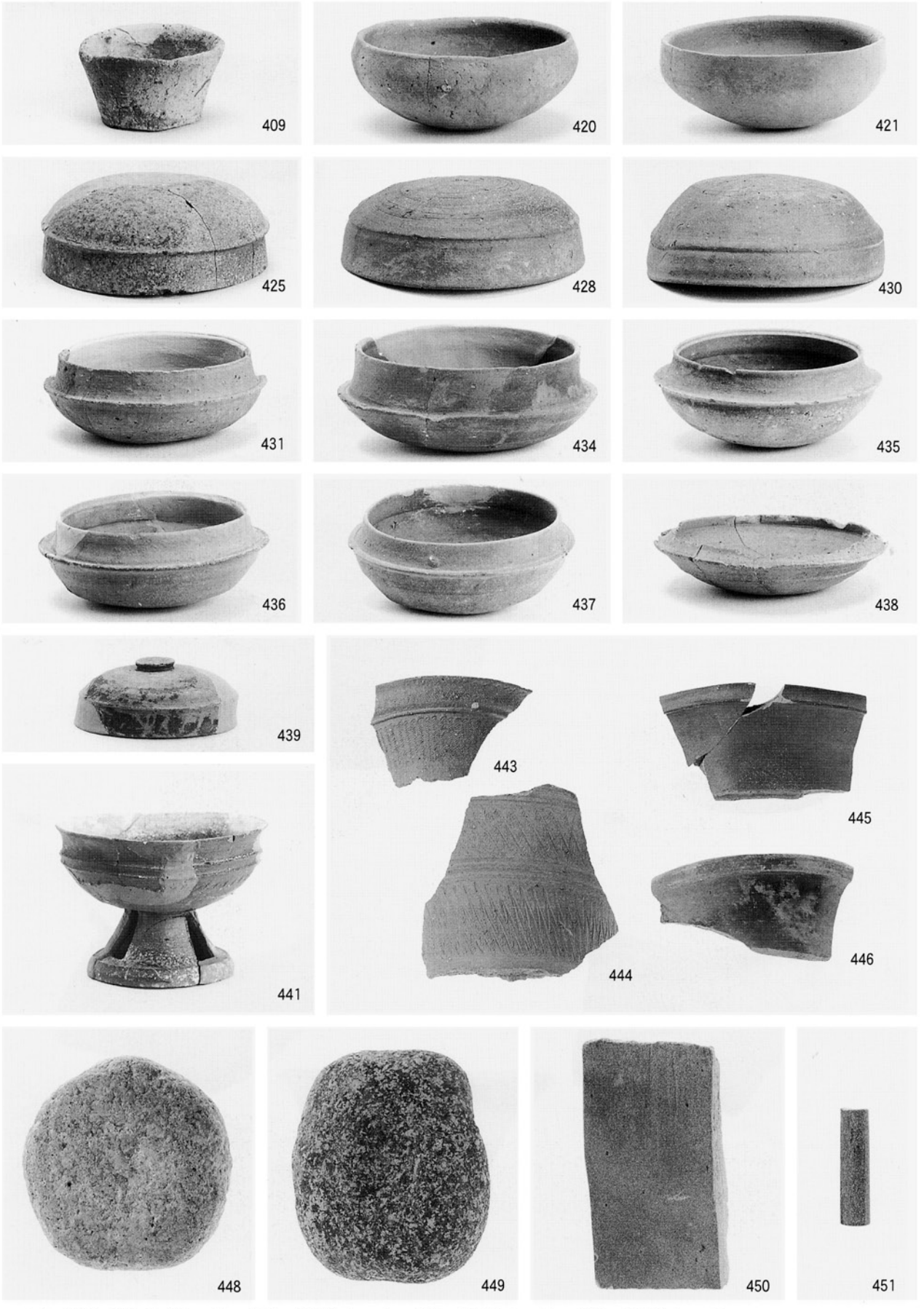

365

371

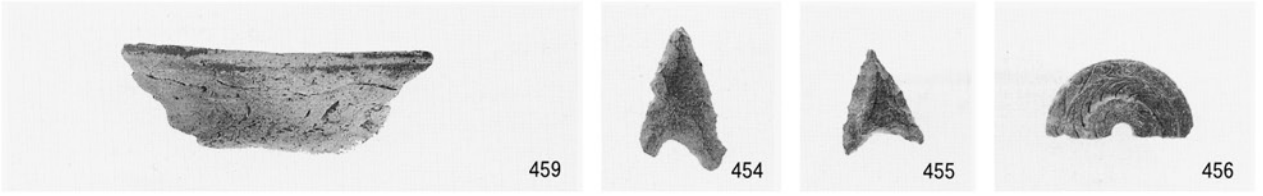
375

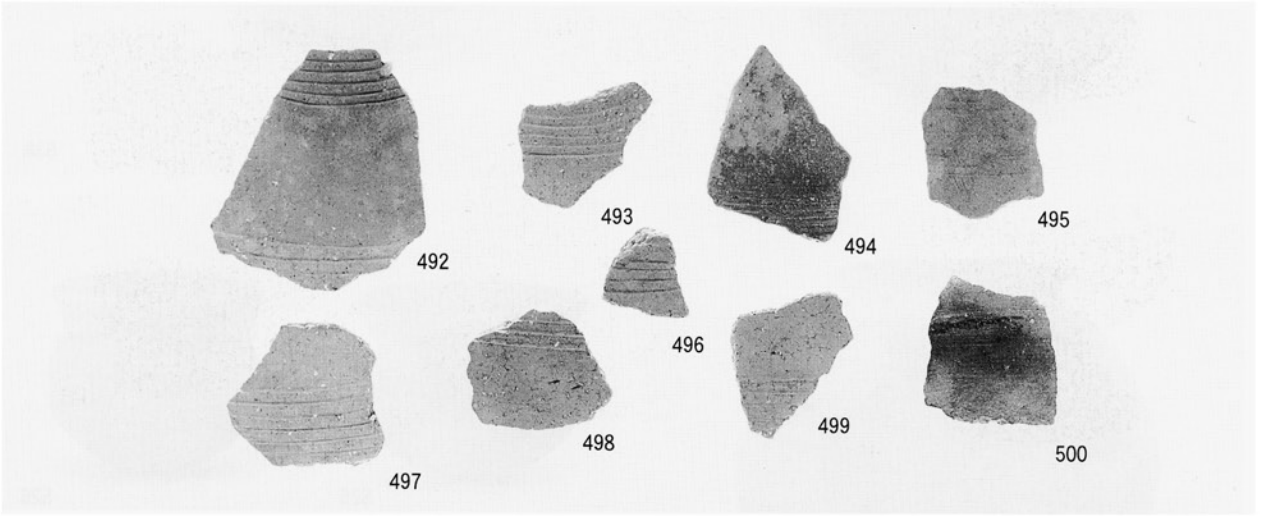
SR4出土遺物1（1：3、346・351・360・366は1：4）

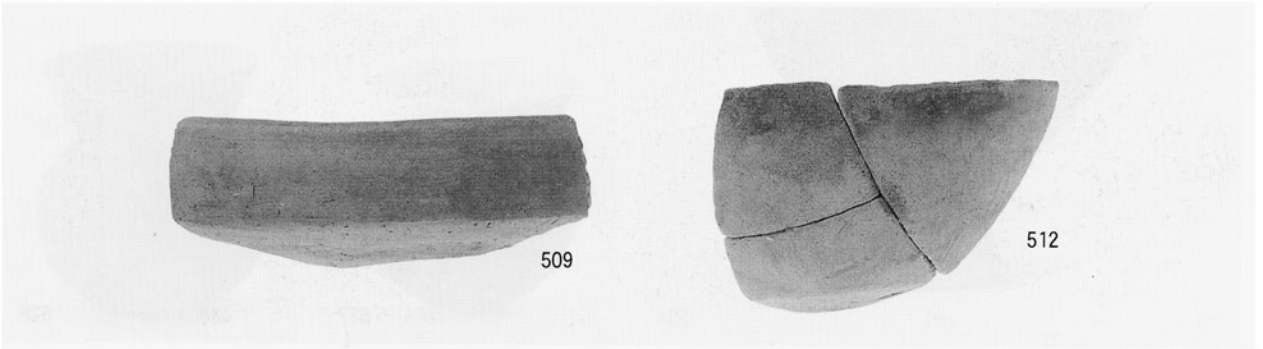
PL 45



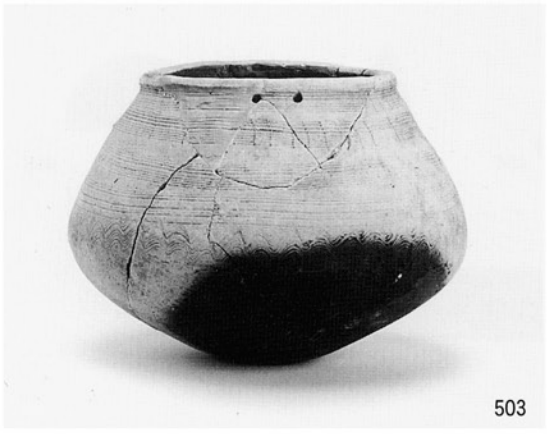

SR 4出土遺物2（1：3、439・441は1：4、440・448は1：2、450・451は1：1）





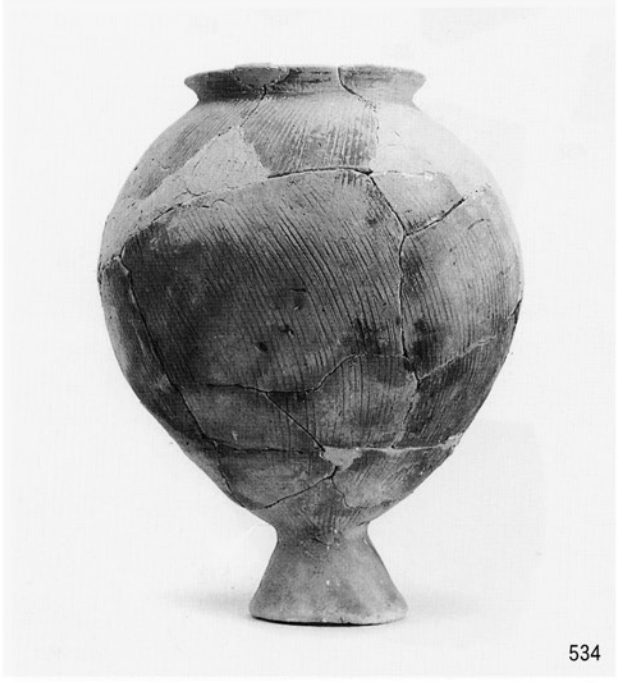




ＳＤ８・９・12、ＳＲ５・７出土遺物（１：３、454・455は２：３、456は１：２）


503

522

538


534

525

526

527

528

SR7出土遺物（1：3、503・534・538は1：4）

579

587

583

593

590

594

596

SR 7出土遺物 1 （1：4、596は1：3）

PL 49

600

601

602

603

604

606

609

610

SR 7出土遺物2 (1:3)

636

637

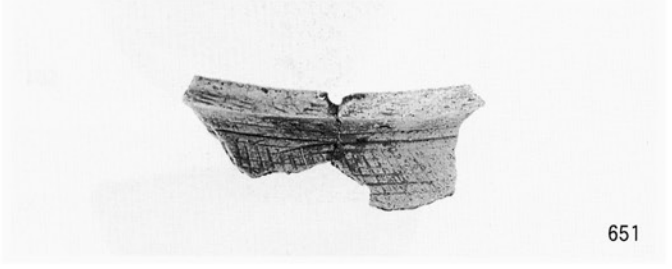
638

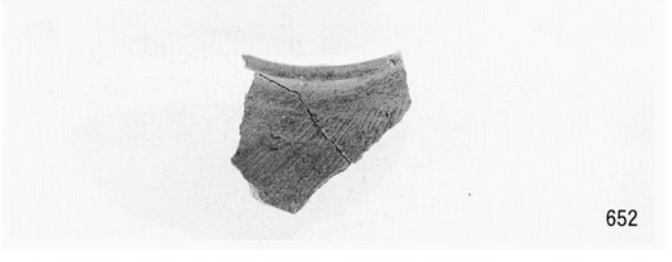
643

644

649

642


651


652

656

659

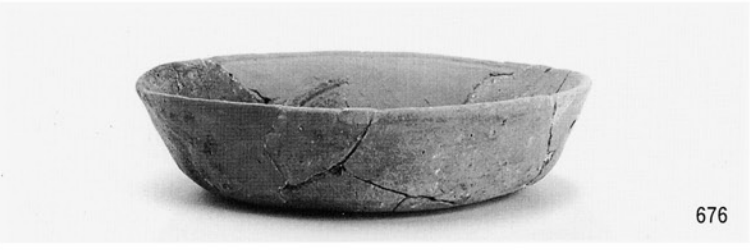
653

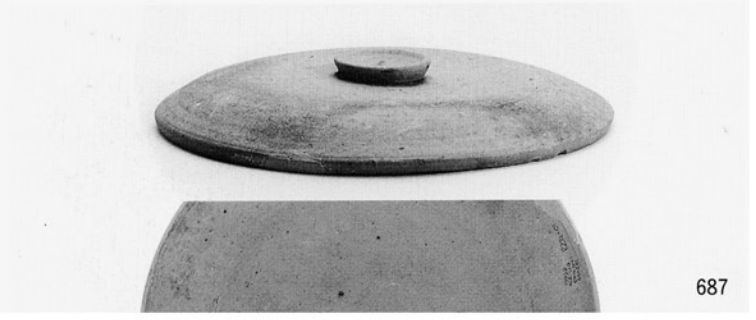
654

S R 9、包含層出土遺物（1：3、659は1：2、642は1：4）

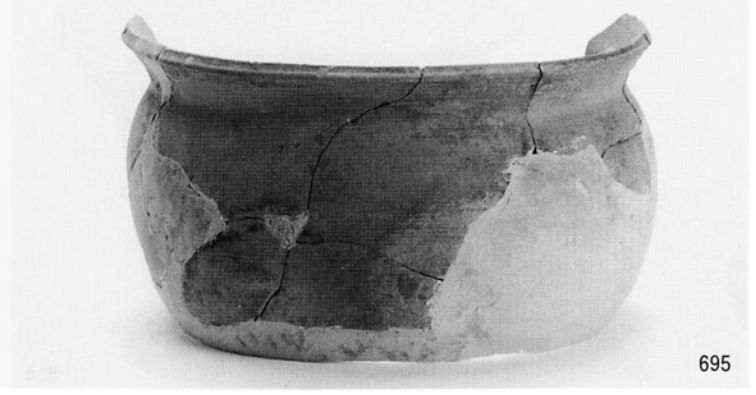
PL51

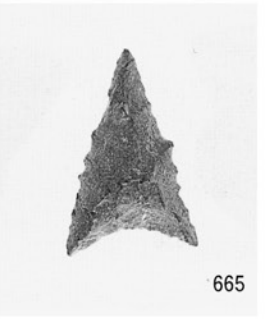
677


676


687

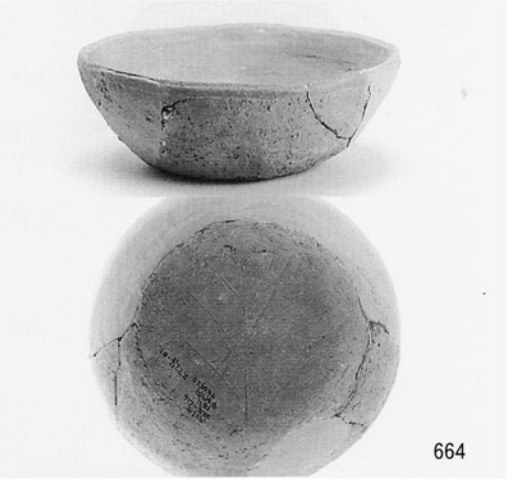
694


695


665

666

668


664

673

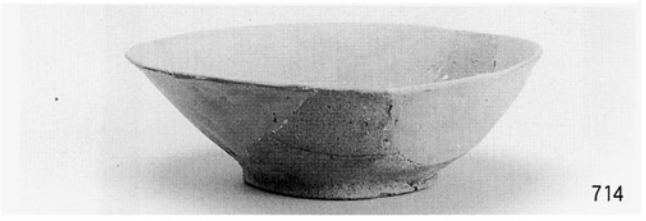
678

SE2・SR11出土遺物（1：3、665は1：1）

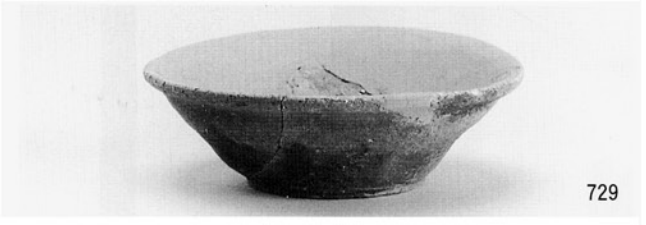
708

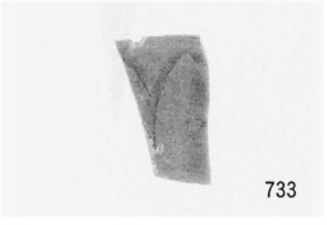
711

716


714

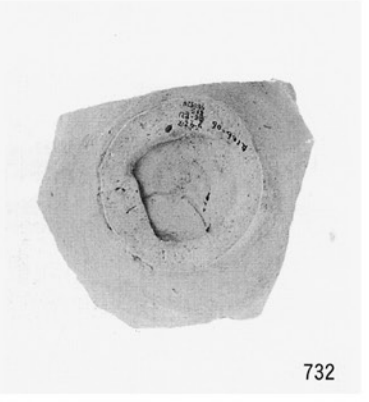
720

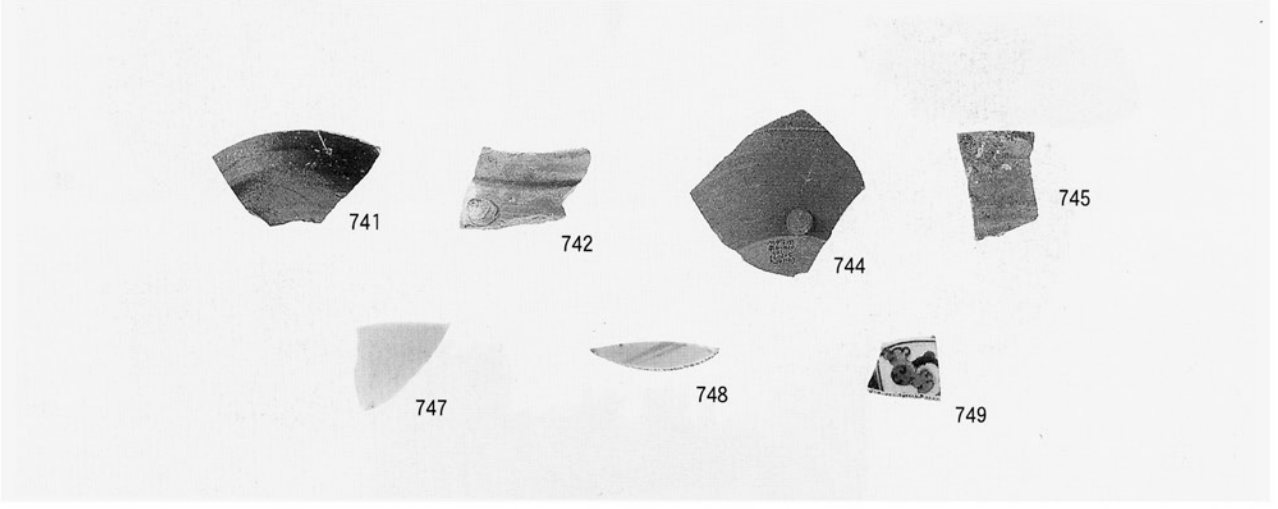

729

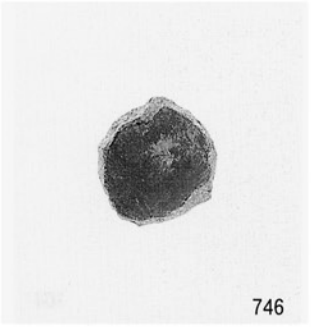

733

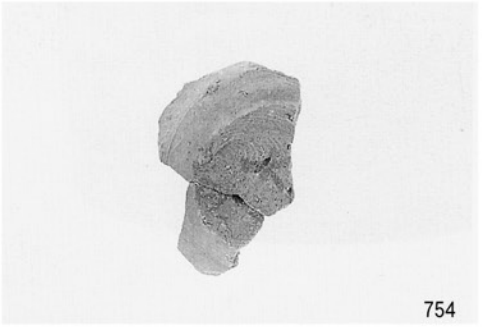
734

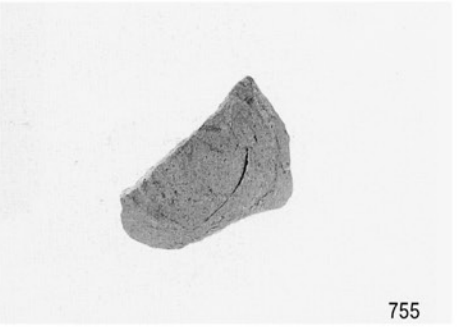
731


732


741
742
744
745
747
748
749


746


754

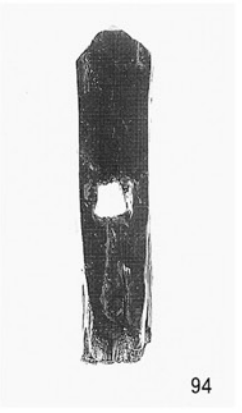

755

ＳＥ３・４、ＳＤ29･36、包含層出土遺物（１：３、733は２：３、734は１：２）

PL 53

15

14


94

90

92

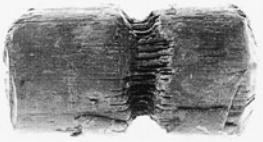
109

89

113

104

SB2・SE1・SZ2出土木製品（1：10、94は1：5）


317

548

452

549

550

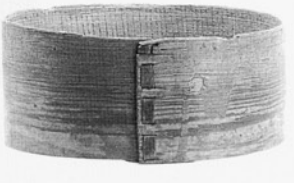
614

613

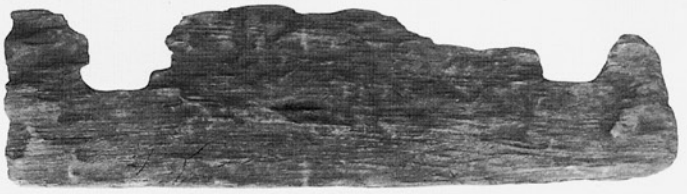
612

551

709


710

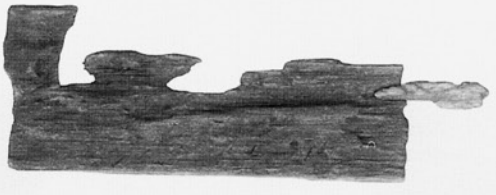
SR4・7・8、SE2、Pit2出土木製品（317・614は1：4、452・548・549・550・551・612・613は1：6、709・710は1：10）



660

662

661



663

ＳＥ２側板（１：10）

種実

1.モモ　(SD13)

# 報告書抄録

| | |
|---|---|
| ふりがな | いっぱんこくどうにじゅうさんごうちゅうせいどうろ（じっこうく）けんせつじぎょうにともなうぞうたいせきはっくつちょうさほうこく |
| 書名 | 一般国道23号中勢道路（10工区）建設事業に伴う蔵田遺跡発掘調査報告 |
| 副書名 | |
| 巻次 | |
| シリーズ名 | 三重県埋蔵文化財調査報告 |
| シリーズ番号 | １１５－１３ |
| 編著者名 | 米山浩之・宮田勝功 |
| 編集機関 | 三重県埋蔵文化財センター |
| 所在地 | 〒515-0325　三重県多気郡明和町竹川503　　ＴＥＬ　0596－52－1732 |
| 発行年月日 | 西暦　1999年10月31日 |

| ふりがな<br>所収遺跡 | ふりがな<br>所在地 | コード<br>市町村 | コード<br>遺跡番号 | 北緯<br>°′″ | 東経<br>°′″ | 調査期間 | 調査面積<br>㎡ | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 蔵田遺跡（ぞうたいせき） | 三重県津市納所町（みえけんつしのうそちょう）<br>字蔵田（あざぞうた）ほか | 24201 | 757 | 34度<br>43分<br>59秒 | 136度<br>28分<br>83秒 | 19891127～<br>19900226<br>19951031～<br>19951117<br>19940822～<br>19950125<br>19950417～<br>19951221<br>19960507～<br>19960802 | 608<br>748<br>5,600<br>6,810<br>3,310 | 一般国道23号中勢道路（10工区）建設事業に伴う事前調査 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 蔵田遺跡 | 集落跡 | 弥生時代<br>弥生時代～古墳時代<br>古墳時代<br>飛鳥時代<br>奈良時代<br>平安時代～鎌倉時代 | 掘立柱建物・土坑・溝<br>自然流路・河道・土坑・溝<br>掘立柱建物・土坑・溝<br>掘立柱建物・溝<br>掘立柱建物・溝<br>掘立柱建物・土坑・溝<br>噴砂・牛の足跡 | 縄文土器・石器<br>弥生土器<br>土師器・須恵器<br>陶磁器<br>木製品 | 弥生時代から鎌倉時代の掘立柱建物、土坑、溝など。古墳時代の自然流路・河道・溝、それに伴う護岸施設・杭列。<br>平安・鎌倉時代の掘立柱建物は条里地割に一致する。 |

平成 11(1999) 年 10 月に刊行されたものをもとに
平成 19(2007) 年 5 月にデジタル化しました。

三重県埋蔵文化財調査報告115－13

一般国道23号中勢道路（10工区）建設事業に伴う

# 蔵田遺跡発掘調査報告

1999年10月

**編集・発行**　三重県埋蔵文化財センター

**印　　刷**　伊藤印刷株式会社